

令和5年度

講義計画書

(シラバス)

鹿児島県立短期大学

総 目 次

1	教養科目（人文，社会，自然，総合）	1
2	教養科目（外国語科目）	12
3	教養科目（スポーツ・健康科目）	42
4	教養科目（情報科目）	47
5	日本語日本文学専攻専門科目	53
6	英語英文学専攻専門科目	78
7	生活科学科共通科目	110
8	食物栄養専攻専門科目	112
9	生活科学専攻専門科目	132
10	第一部商経学科の専攻間で共通する科目（専門基礎科目）	156
11	経済専攻専門科目	169
12	経営情報専攻専門科目	183
13	第二部商経学科教養科目（教養一般）	193
14	第二部商経学科教養科目（外国語科目）	199
15	第二部商経学科教養科目（スポーツ・健康科目）	204
16	第二部商経学科教養科目（情報科目）	205
17	第二部商経学科専門科目	207
18	商経学科の演習・実習科目	237
19	教職に関する科目	240
20	司書教諭に関する科目	276

文学科 日本語日本文学専攻

【教養科目】

(人文)	
日本の歴史	1
こころの科学	2
芸術論	2
(社会)	
日本国憲法	3
法学概論	3
社会学	4
生活と経済	4
キャリアデザイン	5
(自然)	
数学の世界	5
物理の世界	6
生物の科学	6
化学の世界	7
食生活と健康	7
(総合)	
平和論	8
環境問題	8
かごしまと世界	9
社会活動	9
企業研修	10
かごしま教養プログラム	10
かごしまフィールドスクール	11
(外国語科目)	
英語Ⅰ(A)	12
英語Ⅰ(A)	12
英語Ⅱ(A)	17
英語Ⅱ(A)	17
英語Ⅲ(D)	23
英語Ⅲ(E)	24
英語Ⅲ(F)	24
英語Ⅲ(G)	25
英語Ⅲ(H)	25
英語Ⅳ(A)	26
英語Ⅳ(B)	26
英語Ⅳ(F)	28
英語Ⅳ(G)	29
異文化コミュニケーション(英語)	30
異文化コミュニケーション(中国語)	30
中国語Ⅰ(A)	33
中国語Ⅰ(B)	33
中国語Ⅰ(G)	36
中国語Ⅰ(H)	36
中国語Ⅱ(A)	37
中国語Ⅱ(B)	37
中国語Ⅱ(G)	40
中国語Ⅱ(H)	40
中国語Ⅲ	41
中国語Ⅳ	41
(スポーツ・健康科目)	
スポーツ・健康論	42
生涯スポーツ実習Ⅰ(A)	42
生涯スポーツ実習Ⅱ(A)	45
(情報科目)	
情報リテラシーⅠ(A)	47
情報リテラシーⅡ(A)	50
【専門科目】	
(専門基礎科目)	
日本文学概論	53
言語学概論	53
(日本語学科目)	
日本語学概論	54
日本語教育概論	54
日本語史	55
日本文法論	55
日本語学講義	56
日本語学講読Ⅰ	56
日本語学講読Ⅱ	57

日本語学演習Ⅰ・Ⅲ	57
日本語学演習Ⅱ	58
日本語学演習Ⅳ・Ⅵ	58
日本語学演習Ⅴ	59
日本語表現法	59
日本語表現法演習	60
対照言語学	60
(日本文学「古典」科目)	
日本文学講義Ⅰ	61
日本文学講読Ⅰ	61
日本文学講読Ⅱ	62
日本文学講読Ⅲ	62
日本文学演習Ⅰ・Ⅲ	63
日本文学演習Ⅱ	63
(日本文学「近代」科目)	
日本文学近代史・近代Ⅰ	64
日本文学近代史・近代Ⅱ	64
日本文学講義Ⅱ	65
日本文学講読Ⅳ	65
日本文学講読Ⅴ	66
日本文学講読Ⅵ	66
日本文学講読Ⅶ	67
日本文学演習Ⅳ・Ⅵ	67
日本文学演習Ⅴ	68
(地域文学・中国文学科目)	
南九州の文学	68
中国文学史Ⅰ	69
中国文学史Ⅱ	69
中国文学講読Ⅰ	70
中国文学講読Ⅱ	70
中国文学演習Ⅰ	71
中国文学演習Ⅱ	71
中国文学演習Ⅲ	72
(卒業研究)	
卒業研究Ⅰ・Ⅱ	72
(関連科目)	
比較文化	73
英文学史	73
米文学史	74
読書と豊かな人間性	74
情報メディアの活用	75
書道Ⅰ	75
書道Ⅱ	76
書道Ⅲ	76
書道Ⅳ	77

【教職に関する科目】

教職入門	240
教育原理	241
教育心理学	242～243
特別支援教育概論	244～245
教育行政学概論	246
教育課程論	247～250
国語科教育法Ⅰ	251～252
国語科教育法Ⅱ	253
道徳教育指導論	260
総合的な学習の時間の指導法	262
特別活動指導論	263
教育方法学概論	265
学校教育におけるICT活用	266
生徒指導論	267～268
進路指導論	269
教育相談	270～271
教育実習	272
教職実践演習(中)	274

【司書教諭に関する科目】

学校経営と学校図書館	276
学習指導と学校図書館	276
読書と豊かな人間性	277
情報メディアの活用	277

文学科 英語英文学専攻

【教養科目】

(人文)

日本の歴史	1
こころの科学	2
芸術論	2

(社会)

日本国憲法	3
法学概論	3
社会学	4
生活と経済	4
キャリアデザイン	5

(自然)

数学の世界	5
物理の世界	6
生物の科学	6
化学の世界	7
食生活と健康	7

(総合)

平和論	8
環境問題	8
かごしまと世界	9
社会活動	9
企業研修	10
かごしま教養プログラム	10
かごしまフィールドスクール	11

(外国語科目)

英語Ⅲ (A)	22
英語Ⅲ (B)	22
英語Ⅲ (C)	23
英語Ⅲ (D)	23
英語Ⅲ (E)	24
英語Ⅲ (F)	24
英語Ⅲ (G)	25
英語Ⅲ (H)	25
英語Ⅳ (A)	26
英語Ⅳ (B)	26
英語Ⅳ (C)	27
英語Ⅳ (D)	27
英語Ⅳ (E)	28
英語Ⅳ (F)	28
英語Ⅳ (G)	29
異文化コミュニケーション (英語)	30
異文化コミュニケーション (中国語)	30
ドイツ語Ⅰ	31
ドイツ語Ⅱ	31
フランス語Ⅰ	32
フランス語Ⅱ	32
中国語Ⅰ (B)	33
中国語Ⅰ (H)	36
中国語Ⅱ (B)	37
中国語Ⅱ (H)	40
中国語Ⅲ	41
中国語Ⅳ	41

(スポーツ・健康科目)

スポーツ・健康論	42
生涯スポーツ実習Ⅰ (B)	42
生涯スポーツ実習Ⅱ (B)	45

(情報科目)

情報リテラシーⅠ (B)	47
情報リテラシーⅡ (B)	50

【専門科目】

(専門基礎科目)

English Skills A	78
English Skills B	78
English Skills C	79

(コミュニケーション科目)

オーラルコミュニケーションⅠ	79～81
オーラルコミュニケーションⅡ	81～83
オーラルコミュニケーションⅢ	83～84
オーラルコミュニケーションⅣ	85

英語表現法Ⅰ	86
英語表現法Ⅱ	87
英語表現法Ⅲ	88
英語コミュニケーション演習Ⅲ	89
コミュニケーション概論	89

(英語学科目)

英語学概論	90
英文法	90
英語史	91
英語音声学	91
英語学演習	92

(英米文学科目)

英文学概論	93
英文学史	93
米文学史	94
比較文学	94
英米文学講読Ⅰ	95
英米文学講読Ⅱ	95
英米文学講読Ⅲ	96
英米文学演習	96～97

(比較文化科目)

比較文化	97
イギリス事情	98
アメリカ事情	98
ヨーロッパ事情	99
比較文化演習	99

(関連科目)

対照言語学	100
言語学概論	100
日本語学概論	101
日本文学史Ⅰ	101
日本文学史Ⅱ	102
日本語教育概論	102
国際経済論	103
国際関係論	103
検定対策講座Ⅰ	104

(演習科目)

演習Ⅰ	104～106
卒業研究	107～109

【教職に関する科目】

教職入門	240
教育原理	241
教育心理学	242～243
特別支援教育概論	244～245
教育行政学概論	246
教育課程論	247～250
英語科教育法Ⅰ	254～255
英語科教育法Ⅱ	256～257
道徳教育指導論	260
総合的な学習の時間の指導法	262
特別活動指導論	263
教育方法学概論	265
学校教育におけるICT活用	266
生徒指導論	267～268
進路指導論	269
教育相談	270～271
教育実習	272
教職実践演習(中)	274

【司書教諭に関する科目】

学校経営と学校図書館	276
学習指導と学校図書館	276
読書と豊かな人間性	277
情報メディアの活用	277

生活科学科 食物栄養専攻

【教養科目】			
(人文)			
文学の世界	1	食品衛生学	114
日本の歴史	1	食品衛生学実験	114
こころの科学	2	調理学	115
芸術論	2	調理学実習Ⅰ	115
(社会)		調理学実習Ⅱ	116
日本国憲法	3	調理学実習Ⅲ	116
法学概論	3	〈消化・吸収・代謝に関する科目〉	
社会学	4	栄養学総論	117
生活と経済	4	栄養学各論	117
キャリアデザイン	5	栄養学実習	118
(自然)		解剖生理学	118
数学の世界	5	解剖生理学実験	119
物理の世界	6	生化学Ⅰ	119
化学の世界	7	生化学Ⅱ	120
食生活と健康	7	生化学実験	120
(総合)		〈健康と運動に関する科目〉	
平和論	8	健康と運動	121
環境問題	8	公衆衛生学	121
かごしまと世界	9	健康管理概論	122
社会活動	9	運動生理学	122
企業研修	10	(応用科目)	
かごしま教養プログラム	10	〈給食の管理に関する科目〉	
かごしまフィールドスクール	11	給食管理	123
(外国語科目)		給食管理実習Ⅰ	123
英語Ⅰ(C)	14	給食管理実習Ⅱ	124
英語Ⅰ(C)	14	給食管理実習Ⅲ	124
英語Ⅱ(C)	19	〈栄養の指導〉	
英語Ⅱ(C)	19	栄養教育論	125
英語Ⅲ(A)	22	栄養指導論Ⅰ	125
英語Ⅲ(B)	22	栄養指導論Ⅱ	126
英語Ⅲ(C)	23	栄養指導論実習Ⅰ	126
英語Ⅳ(A)	26	栄養指導論実習Ⅱ	127
英語Ⅳ(B)	26	公衆栄養学	127
英語Ⅳ(G)	28	栄養情報処理	128
異文化コミュニケーション(英語)	30	〈臨床関連科目〉	
異文化コミュニケーション(中国語)	30	臨床栄養学Ⅰ	128
フランス語Ⅰ	32	臨床栄養学Ⅱ	129
フランス語Ⅱ	32	臨床栄養学実習	129
中国語Ⅰ(F)	35	病理学	130
中国語Ⅰ(H)	36	〈栄養教諭関連科目〉	
中国語Ⅱ(F)	39	学校栄養教育論	130
中国語Ⅱ(H)	40	(その他)	
(スポーツ・健康科目)		化学概論	131
生涯スポーツ実習Ⅰ(C)	43	生物概論	131
生涯スポーツ実習Ⅱ(C)	45	【教職に関する科目】	
(情報科目)		教職入門	240
情報リテラシーⅠ(C)	48	教育原理	241
情報リテラシーⅡ(C)	51	教育心理学	242～243
【専門科目】		特別支援教育概論	244～245
(生活科学科目)		教育行政学概論	246
生活科学概論	110	教育課程論	247～250
生活経営学	110	道徳教育の指導法	261
人間関係論	111	特別活動論	264
社会福祉論	111	教育方法学概論	265
(基礎科目)		生徒指導論	267～268
〈食物に関する科目〉		教育相談	270～271
食品学Ⅰ	112	栄養教育実習	273
食品学Ⅱ	112	栄養教育実習の事前事後の指導	273
食品学実験	113	教職実践演習(栄養教諭)	275
食品加工学	113		

生活科学科 生活科学専攻

【教養科目】

(人文)	
文学の世界	1
日本の歴史	1
こころの科学	2
芸術論	2
(社会)	
日本国憲法	3
法学概論	3
社会学	4
生活と経済	4
キャリアデザイン	5
(自然)	
数学の世界	5
物理の世界	6
生物の科学	6
食生活と健康	7
(総合)	
平和論	8
環境問題	8
かごしまと世界	9
社会活動	9
企業研修	10
かごしま教養プログラム	10
かごしまフィールドスクール	11
(外国語科目)	
英語 I (B)	13
英語 I (B)	13
英語 II (B)	18
英語 II (B)	18
英語 III (A)	22
英語 III (B)	22
英語 III (C)	23
英語 IV (A)	26
英語 IV (B)	26
英語 IV (G)	29
異文化コミュニケーション (英語)	30
異文化コミュニケーション (中国語)	30
フランス語 I	32
フランス語 II	32
中国語 I (G)	36
中国語 I (H)	36
中国語 II (G)	40
中国語 II (H)	40
(スポーツ・健康科目)	
スポーツ・健康論	42
生涯スポーツ実習 I (D)	43
生涯スポーツ実習 II (D)	45
(情報科目)	
情報リテラシー I (D)	48
情報リテラシー II (D)	51
【専門科目】	
(専門基礎系)	
生活科学概論	110
生活化学	132
ビジュアルデザイン論 I	132
住生活学	133
人間関係論	111
色彩学	133
衣生活学	134
ファッション造形基礎	134
消費生活論	135
(ライフデザイン系)	
生活経営学	110
社会福祉論	111
被服材料学	135

生活化学実験	136
食物と栄養	136
調理学	137
調理実習	137
服飾文化史	138
保育学	138
卒業研究 A	139
(ファッションデザイン系)	
ファッションデザイン論	140
ファッション造形 I	140
ファッション造形 II	141
ファッションアイテム演習	141
ファッションビジネス	142
卒業研究 B	142
(ビジュアルデザイン系)	
ビジュアルデザイン基礎 I	143
ビジュアルデザイン基礎 II	143
ビジュアルデザイン論 II	144
ビジュアルデザイン I	144
ビジュアルデザイン II	145
卒業研究 C	145
(建築デザイン系)	
住居史	146
住居・インテリア設計学	146
設計製図 I	147
設計製図 II	147
住居構造学 I	148
住居構造学 II	148
住居環境学	149
住居環境学演習	149
建築材料学	150
建築生産	150
建築法規	151
CAD設計	151
建築史	152
CAD設計特講	152
設計製図 III	153
設計製図 IV	153
空間デザイン論	154
空間デザイン I	154
空間デザイン II	155
卒業研究 D	155

【教職に関する科目】

教職入門	240
教育原理	241
教育心理学	242243
特別支援教育概論	244245
教育行政学概論	246
教育課程論	247250
家庭科教育法 I	258
家庭科教育法 II	259
道徳教育指導論	269
総合的な学習の時間の指導法	262
特別活動指導論	263
教育方法学概論	265
学校教育における ICT 活用	266
生徒指導論	267268
進路指導論	269
教育相談	270271
教育実習	272
教職実践演習 (中)	274

【司書教諭に関する科目】

学校経営と学校図書館	276
学習指導と学校図書館	276
読書と豊かな人間性	277
情報メディアの活用	277

商経学科 経済専攻

【教養科目】

(人文)	
文学の世界	1
日本の歴史	1
こころの科学	2
芸術論	2
(社会)	
日本国憲法	3
法学概論	3
社会学	4
キャリアデザイン	5
(自然)	
数学の世界	5
物理の世界	6
生物の科学	6
化学の世界	7
食生活と健康	7
(総合)	
現代人権論	8
鹿児島学	8
かごしまと世界	9
かごしま教養プログラム	10
かごしまフィールドスクール	11
(外国語科目)	
英語 I (D)	15
英語 I (D)	15
英語 I (D)	16
英語 I (D)	16
英語 II (D)	20
英語 II (D)	20
英語 II (D)	21
英語 II (D)	21
英語 III (D)	23
英語 III (E)	24
英語 III (F)	24
英語 III (G)	25
英語 III (H)	25
英語 IV (C)	27
英語 IV (D)	27
英語 IV (E)	28
英語 IV (F)	28
英語 IV (G)	29
異文化コミュニケーション (英語)	30
異文化コミュニケーション (中国語)	30
中国語 I (C)	34
中国語 I (E)	35
中国語 I (H)	36
中国語 II (C)	38
中国語 II (E)	39
中国語 II (H)	40
中国語 III	41
中国語 IV	41
(スポーツ・健康科目)	
スポーツ・健康論	42
生涯スポーツ実習 I (E)	43~44
生涯スポーツ実習 II (E)	45~46
(情報科目)	
情報リテラシー I (E)	49
情報リテラシー II (E)	52

【専門科目】

(専門基礎科目)	
〈基礎理論〉	
情報社会論	156
現代社会論	156
社会哲学	157
経済学	157
消費者問題	158
行政法	158
経済政策	159
金融論	159
社会政策	160
民法	160
商法	161
産業心理学	161
会計学総論	162
簿記論 I	162
経営学総論	163
〈情報基礎〉	
情報科学概論	163
文書作成実習	164
統計学	165
応用文書処理	165
PCデータ活用	166
PCデータ活用実習	166
PCアプリケーション実習	168
(専攻専門科目)	
〈経済理論〉	
日本経済論	169
財政学	170
農業経済論	171
ファイナンス論	171
経済学史	172
経済学特講 I	172
経済学特講 II	173
法学特講	173
簿記論 II	174
〈国際環境〉	
国際経済論	174
アジア経済論	175
国際関係論	175
比較文化	176
アジア事情	176
ヨーロッパ経済事情	177
国際経済特講 I	177
国際経済特講 II	178
〈地域政策〉	
地域経済論	178
地域産業政策	179
地方自治論	180
高齢者福祉	180
労働法	181
地域研究特講	181
地方自治法	182
〈演習・実習〉	
基礎演習	238
演習 I	238
演習 II	238
卒業研究	238
社会活動	239
企業研修	239

商経学科 経営情報専攻

【教養科目】		【専門科目】	
(人文)		(専門基礎科目)	
文学の世界	1	〈基礎理論〉	
日本の歴史	1	情報社会論	156
こころの科学	2	現代社会論	156
芸術論	2	社会哲学	157
(社会)		経済学	157
日本国憲法	3	消費者問題	158
法学概論	3	行政法	158
社会学	4	経済政策	159
キャリアデザイン	5	金融論	159
(自然)		社会政策	160
数学の世界	5	民法	160
物理の世界	6	商法	161
生物の科学	6	産業心理学	161
化学の世界	7	会計学総論	162
食生活と健康	7	簿記論Ⅰ	162
(総合)		経営学総論	163
現代人権論	8	〈情報基礎〉	
鹿児島学	8	情報科学概論	163
かごしまと世界	9	文書作成実習	164
かごしま教養プログラム	10	統計学	165
かごしまフィールドスクール	11	応用文書処理	165
(外国語科目)		PCデータ活用	167
英語Ⅰ(D)	15	PCデータ活用実習	167
英語Ⅰ(D)	15	PCアプリケーション実習	168
英語Ⅰ(D)	16	(専攻専門科目)	
英語Ⅰ(D)	16	〈経営理論〉	
英語Ⅱ(D)	20	簿記論Ⅱ	183
英語Ⅱ(D)	20	経営管理論	183
英語Ⅱ(D)	21	経営組織論	184
英語Ⅱ(D)	21	労務管理論	184
英語Ⅲ(D)	23	管理会計論	185
英語Ⅲ(E)	24	原価計算	185
英語Ⅲ(F)	24	国際経営論	186
英語Ⅲ(G)	25	経営学特講Ⅰ	186
英語Ⅲ(H)	25	〈情報分析〉	
英語Ⅳ(C)	27	比較経営論	187
英語Ⅳ(D)	27	会計情報論	187
英語Ⅳ(E)	28	企業行動科学	188
英語Ⅳ(F)	28	経営戦略論	188
英語Ⅳ(G)	29	財務会計論	189
異文化コミュニケーション(英語)	30	マーケティング論	189
異文化コミュニケーション(中国語)	30	〈情報活用〉	
中国語Ⅰ(C)	34	経営工学	190
中国語Ⅰ(E)	35	応用データ活用	190
中国語Ⅰ(H)	36	プログラミング	191
中国語Ⅱ(C)	38	簿記論Ⅲ	191
中国語Ⅱ(E)	39	情報論特講	192
中国語Ⅱ(H)	40	〈演習・実習〉	
中国語Ⅲ	41	基礎演習	238
中国語Ⅳ	41	演習Ⅰ	238
(スポーツ・健康科目)		演習Ⅱ	238
スポーツ・健康論	42	卒業研究	238
生涯スポーツ実習Ⅰ(E)	43~44	社会活動	239
生涯スポーツ実習Ⅱ(E)	45~46	企業研修	239
(情報科目)			
情報リテラシーⅠ(F)	49		
情報リテラシーⅡ(F)	52		

第二部商経学科

【教養科目】

(教養一般)

人間と文化	193
日本の歴史	193
日本文学・古典	194
こころの科学	194
比較文化	195
アジア文化論	195
日本国憲法	196
キャリアデザイン	196
ライフプランニング	197
環境問題	197
かごしま教養プログラム	198
かごしまフィールドスクール	198

(外国語科目)

英語 I (A)	199
英語 I (B)	199
英語 II (A)	200
英語 II (B)	200
異文化コミュニケーション (英語)	201
異文化コミュニケーション (中国語)	201
中国語 I (A)	202
中国語 I (B)	202
中国語 II (A)	203
中国語 II (B)	203

(スポーツ・健康科目)

生涯スポーツ実習 I	204
生涯スポーツ実習 II	204

(情報科目)

情報リテラシー I (A)	205
情報リテラシー I (B)	205
情報リテラシー II (A)	205
情報リテラシー II (B)	205

【専門科目】

(専門基礎科目)

〈基礎理論〉

情報社会論	207
社会哲学	207
経済学	208
行政法	208
経済政策	209
金融論	209
社会政策	210
民法	210
商法	211
産業心理学	211
会計学総論	212
簿記論 I	212
経営学総論	213

〈情報基礎〉

情報科学概論	213
文書作成実習	214
統計学	214
応用文書処理	215
PCデータ活用	215
PCデータ活用実習	216
PCアプリケーション実習 (A)	216
PCアプリケーション実習 (B)	217

(専門応用科目)

〈経済理論〉

日本経済論	218
財政学	219
農業経済論	220
経済学史	220
経済学特講	221

〈地域と国際〉

国際経済論	221
アジア経済論	222
国際関係論	222
アジア事情	223
ヨーロッパ事情	223
地域経済論	224
地域産業政策	224
地方財政論	225
高齢者福祉	226
労働法	226
国際経済特講	227
地域研究特講	227
地方自治法	228

〈経営理論〉

簿記論 II	228
経営管理論	229
経営組織論	229
労務管理論	230
管理会計論	230
国際経営論	231

〈情報分析・活用〉

比較経営論	231
会計情報論	232
企業行動科学	232
経営戦略論	233
経営工学	233
応用データ活用	234
プログラミング	234
財務会計論	235
情報論特講	235
マーケティング論	236

〈演習・実習〉

基礎演習	238
演習 I	238
演習 II	238
卒業研究	238
社会活動	239
企業研修	239

1 教養科目（人文，社会，自然，総合）

授業科目	文学の世界		担当者	轟義昭, 小林朋子, 木戸裕子			
	〔履修年次〕	1, 2 年いずれでも履修可	授業外対応	講義終了時			
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕
テーマ及び概要	<p>【テーマ】世界の文学</p> <p>【概要】「文学」といってなんだか難しそうで敬遠していませんか？この授業では、3人の教員がイギリス、アメリカ、日本の3カ国を中心に、時間を超え空間を越えさまざまな文学作品の世界にご案内します。時代や地域による作品の違いを楽しんでみてください。</p> <p>【到達目標】様々な作品を読み解き、文学作品に親しみを持ってもらう。各国の文学作品について考える。</p>						
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし（プリント資料配付）</p> <p>(2) ビギナーズクラシックス『古事記』（角川ソフィア文庫） ビギナーズクラシックス『源氏物語』（角川ソフィア文庫）、その他必要に応じて授業時に指示する</p>						
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション、イギリス文学：C.ディケンズ『クリスマス・キャロル』</p> <p>第2回 イギリス文学：W.シェイクスピア『リア王』</p> <p>第3回 イギリス文学：J.スウィフト『ガリヴァー旅行記』</p> <p>第4回 イギリス文学：E.プロンテ『嵐が丘』（1）</p> <p>第5回 イギリス文学：E.プロンテ『嵐が丘』（2）</p> <p>第6回 17世紀アメリカ文学：アメリカ先住民の文学とブラッドフォード</p> <p>第7回 18世紀アメリカ文学：フランクリン『自叙伝』</p> <p>第8回 19世紀アメリカ文学：アメリカン・ルネッサンス</p> <p>第9回 20世紀アメリカ文学：人種系文学</p> <p>第10回 20世紀アメリカ文学とその後：自己の探求</p> <p>第11回 奈良時代の日本文学：『古事記』神々と英雄</p> <p>第12回 奈良時代の日本文学：『日本書紀』日本の内と外</p> <p>第13回 平安時代の日本文学：『源氏物語』中国文学との関係</p> <p>第14回 平安時代の日本文学：『源氏物語』父と子その1</p> <p>第15回 平安時代の日本文学：『源氏物語』父と子その2</p>						
授業外学習(予習・復習)	授業で紹介された作品を読む。（事前でも事後でも可）						
成績評価の方法	期末レポートの提出（70点）、および講義に関する毎回の意見・感想等（30点）で評価します。レポートは3人の教員が出した課題から2つを選んで書くことになります。						

授業科目	日本の歴史		担当者	厩尾 達哉			
	〔履修年次〕	1年、2年	授業外対応	講義終了時			
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本の歴史。日本史上の重要な学説、発見、思想、資料を学ぶ。</p> <p>【概要】高等学校までの「日本史」では学ばないこと、深く学ぶ機会がなかったことをトピック的に取り上げ、日本の歴史についての関心と呼び起こすための授業。日本の歴史が現代の私たちにどのような影響を与えているかを考える。</p> <p>【到達目標】日本の歴史が現代の私たちにどのような影響を与えているかを考え、私たちが歴史切り離された存在ではなく、歴史的な存在であることを深く理解する。</p>						
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2)</p>						
授業スケジュール	<p>第1回 騎馬民族征服説（1）日本史を学ぶ意義何か</p> <p>第2回 騎馬民族征服説（2）日本の国家はいつ成立したか</p> <p>第3回 稲荷山古墳出土鉄剣銘文（1）銘文発見の経緯</p> <p>第4回 稲荷山古墳出土鉄剣銘文（2）銘文の積読</p> <p>第5回 稲荷山古墳出土鉄剣銘文（3）銘文発見の歴史的意義</p> <p>第6回 古代の罪と罰（1）平城宮跡から出た墨書土器</p> <p>第7回 古代の罪と罰（2）日本律の科刑軽減</p> <p>第8回 古代の罪と罰（3）贈答と賄賂</p> <p>第9回 中世の悪口 罵倒のこぼれに見る中世社会</p> <p>第10回 絵巻を読む（1）絵巻とは何か</p> <p>第11回 絵巻を読む（2）描かれた中世の人びとのしぐさ</p> <p>第12回 絵巻を読む（3）女性の一人旅</p> <p>第13回 古文書を読む（1）正倉院文書の残された休暇願・借用書</p> <p>第14回 古文書を読む（2）戦国時代の古文書</p> <p>第15回 古文書を読む（3）江戸時代の離縁状</p>						
授業外学習(予習・復習)	予習：配布プリントにあらかじめ目を通す。復習：配布プリント・ノートを参照しながら、授業内容を見返す。						
成績評価の方法	筆記試験（100%）						
実務経験について	1983年より鹿児島大学法文学部において日本史担当教員として勤務。						

授業科目	こころの科学	担当者	安部 幸志
	[履修年次] 1年, 2年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	適宜対応
		[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】科学的学問としての心理学について理解し、その方法論や心理学的知見の応用について知識を深める。受講生の多くは青年期に位置するため、思春期・青年期の心理学や親世代に当たる成人期以降の心理にも着目して講義を展開する。</p> <p>【概要】本講義では科学としての心理学を理解するために、単なる受け身による講義だけでなく、統計や実験についても可能な限り体験を通じて理解することを目指している。また、ほぼ毎回グループワークを実施する。</p> <p>【到達目標】①現代社会におけるこころの問題を理解するために、実証科学としての心理学に対する理解を深める。 ②身近な問題としてのこころの健康やその予防・維持に関する知識を身につける。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 毎事プリントによる資料を配布する。</p> <p>(2) ①鹿取 廣人他著『心理学 第5版』東京大学出版会, 2015年 ②サトウ タツヤ・渡邊 芳之著『心理学・入門—心理学はこんなに面白い』有斐閣, 2011年</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 心理学とは：科学としての心理学</p> <p>第3回 こころの進化：動物にもこころはあるか</p> <p>第4回 こころの発達：赤ちゃんの心理</p> <p>第5回 こころの発達：人間の発達、青年期の心理</p> <p>第6回 こころの発達：中年期と女性の心理</p> <p>第7回 こころの発達：老年期の心理</p> <p>第8回 性格：血液型と認知バイアス</p> <p>第9回 知能：頭が良いのは遺伝か環境か 感覚・知覚</p> <p>第10回 感覚・知覚</p> <p>第11回 記憶の不思議</p> <p>第12回 災害と心理</p> <p>第13回 社会と心理</p> <p>第14回 心理療法</p> <p>第15回 ストレス</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業内課題 (20%)、グループワーク (20%)、試験 (60%)		
実務経験について			

授業科目	芸術論	担当者	北一浩
	[履修年次] 1・2年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	適宜対応(要予約)
		[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】芸術を鑑賞する視点を通して、新たな視点を持つきっかけをつくる。</p> <p>【概要】芸術の中でも難解といわれる20世紀以降の現代アート(造形芸術)を中心に、具体的事例を通して芸術作品との向き合い方を学び、新たな視点を持つきっかけをつくる。</p> <p>【到達目標】さまざまなアプローチがある芸術との向き合い方を学び、それを芸術のみならず、さまざまな場面で活用できるようになる。</p> <p>※受講者が100人を超えた場合は人数を制限する場合があります。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 参考文献は適宜紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 現代アートとは？ 西洋美術史、現代アート、ルネサンス</p> <p>第3回 伝統と違うから興味ない？ アンリ・マティス、緑のすじのあるマティス夫人の肖像、</p> <p>第4回 美しいとは思えないのだけれど？ パブロ・ピカソ、アビニヨンの娘たち</p> <p>第5回 何が描いてあるかわからない ワシリー・カンディンスキー、コンポジションIV</p> <p>第6回 上手だとは思えないのだけれど？ エルンスト・ルートヴィヒ・キルヒナー、ストリートシーン ベルリン</p> <p>第7回 これがアートといえるの？ マルセル・デュシャン、泉</p> <p>第8回 そんなに値打ちがあるものなの？ ピエト・モンドリアン、コンポジションIII</p> <p>第9回 わかったような、わからないような ルネ・マグリット、光の帝国</p> <p>第10回 何なのか、意味がわからない マーク・ロスコ、無題</p> <p>第11回 アートとアートでないものの違いって？ アンディー・ウォーホール、プリロボックス</p> <p>第12回 許せる？許せない？ リチャード・セラ、傾いた狐</p> <p>第13回 きれいなのに汚い？ アンドレス・セラノ、ピス・クライスト</p> <p>第14回 名作はあなたが見つかるもの 菅亮平、an actor</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	毎講義ごとのレポート (60%) 講義内で行うワーク (40%)		
実務経験について	広告会社にてグラフィックデザイナーとして勤務の後、フリーランスのグラフィックデザイナーとして活動。		

授業科目	日本国憲法	担当者	山本 敬生
	[履修年次] 1,2年履修可 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義形式	授業外対応	適宜対応 (要予約)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本国憲法の基本原理である国民主権、基本的人権の尊重、平和主義を体系的に理解した上で、日本国憲法の理念とその普遍的妥当性について検証することをテーマにする。</p> <p>【概要】日本国憲法はわが国の最高法規であるとともに、基本的人権および国家の統治機構を定めた基本法である。近年、その価値が問い直されている一方、新世紀における新しい世界秩序の中で新たな意義をもちはじめている。本講義では、国の政治のあり方を究極的に決定する権威が国民にあることをいう国民主権、平和に崇高な価値をおき、その擁護に最大限の努力を払う原則である平和主義、個人の尊厳の原理に基づき、個人が有する人権は最大限尊重されるべきとする基本的人権の尊重の三つの基本原理を中心として、人類の叡智の結晶である日本国憲法の本質を学習する。</p> <p>【到達目標】日本国憲法の基本原理を深く理解し、政治的・社会的諸問題について憲法的視点から考察できる力を習得することを目標にする。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 佐伯仁志他編、『ポケット六法(令和5年度版)』,有斐閣</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 憲法概論 ・国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、権力分立主義の理念について</p> <p>第2回 基本権総論 ・私人間の人権保障、基本権の享有主体性、二重の基準の理論について</p> <p>第3回 幸福追求権 ・幸福追求権、人間の尊厳、プライバシーの権利、法の下での平等について</p> <p>第4回 精神的自由権(1) ・思想・良心の自由、信教の自由、政教分離の原則について</p> <p>第5回 精神的自由権(2) ・表現の自由、検閲の禁止、知る権利、通信の秘密、報道の自由について</p> <p>第6回 精神的自由権(3) ・集会・結社の自由、検閲の禁止、LRAの基準、学問の自由、大学の自治について</p> <p>第7回 経済的自由権 ・職業選択の自由、居住・移転の自由、国籍離脱の自由、財産権について</p> <p>第8回 受益権 ・裁判を受ける権利、請願権、国家賠償請求権、刑事補償請求権について</p> <p>第9回 社会権(1) ・生存権、環境権、教育を受ける権利、教育の自由について</p> <p>第10回 社会権(2) ・勤労権、労働基本権、争議権、参政権、選挙権について</p> <p>第11回 国会(1) ・国権の最高機関の意味、唯一の立法機関の意味、衆議院の優越について</p> <p>第12回 国会(2) ・国会議員の地位、議員の特権、国会の活動、国会と議院の権能について</p> <p>第13回 内閣 ・内閣の地位、内閣総理大臣の権限、国務大臣の権限、内閣の責任について</p> <p>第14回 裁判所 ・最高裁判所の権限、統治行為論、違憲審査制について</p> <p>第15回 財政 ・財政民主主義、租税法律主義、国費支出議決主義、公金支出の禁止について</p>		
授業外学習(予習・復習)	復習を重視する。		
成績評価の方法	筆記試験(90%) + 授業での発言内容(10%)を基準として評価する。		
実務経験について	なし		

授業科目	法学概論	担当者	疋田京子
	[履修年次] 1, 2年履修可 [学期] 前期 [単位] 2 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義	授業外対応	適宜対応 (メールで予約)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生れてから死ぬまでに遭遇する法律問題</p> <p>【概要】「法律家は悪しき隣人」という法諺があるように、中立性や客観性、合理性を追及する宇野世界は、日常の感覚からすると何かよそよそしい冷たい感じがするかもしれません。しかし、法律は私たちの日常生活の中で起こる様々な紛争を解決する基準になると同時に、人権が侵害されているマイノリティの人たちの声を反映させるためのプラットフォームにもなる、優しい側面ももっています。</p> <p>【到達目標】憲法、民事法、刑事法、行政法の違いを理解し、日常生活の中で起こる出来事にどう対処すればよいか、その基本的な判断力をみがくことを目指します。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する</p> <p>(2) 森本直子・織原保尚『法学ダイアリー』ナカニシヤ出版</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：法の世界のプロローグ</p> <p>第2回 人生初期の法(1) 法的な意味での「人」はいつ始まるか</p> <p>第3回 人生初期の法(2) 家族・社会の一員になる</p> <p>第4回 人生初期の法(3) 法的な意味での親子と親権</p> <p>第5回 人生初期の法(4) 保護される対象から権利の主体になる</p> <p>第6回 人生初期の法(5) 子どもの虐待への取り組み</p> <p>第7回 人生初期の法(6) 少年法と刑法の違い</p> <p>第8回 人生中期の法(1) 大学生の法的地位</p> <p>第9回 人生中期の法(2) 職業生活と法</p> <p>第10回 人生中期の法(3) 消費生活と法</p> <p>第11回 人生中期の法(4) パートナースHIPと法</p> <p>第12回 人生中期の法(5) 主権者として「差別」に向き合う</p> <p>第13回 人生終期の法(1) 高齢化社会と法</p> <p>第14回 人生終期の法(2) 法的な意味での「死」とは</p> <p>第15回 人生終期の法(3) 終末期医療と法</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	最終レポート(80点) + 毎講義ごとのミニレポート(20点)		
実務経験について	なし		

授業科目	社会学	担当者	元橋利恵
	〔履修年次〕 1.2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2	授業外対応	
		〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕
テーマ及び概要	<p>【テーマ】社会学入門—ジェンダー、家族、労働問題から考える。</p> <p>【概要】ジェンダー、家族、労働、ケアなど様々なテーマを通して、後期近代社会を生きる私たちが直面している、構造的な諸問題について考えていく。現在「あたりまえ」とされているような社会的規範（働き方、性別分業、コミュニケーション様式など）を相対化し、誰もが生きやすい社会を構想するために社会学の基礎を学んでいく。</p> <p>【到達目標】社会学の基礎的な考え方、概念、タームを学び、自ら複雑な社会問題について自身で情報を収集し、また、データを読み解き、分析的に考える力を身につけること。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業内で指示、配布する。</p> <p>(2) 永田夏来、松木洋人編著 (2017)『入門家族社会学』新泉社、笹川あゆみ編著 (2017)『ジェンダーとわたし』</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクシヨン ジェンダー、セクシュアリティをめぐる「ふつう」</p> <p>第2回 日本における近代家族の成立と発展 (1) 近代家族の登場</p> <p>第3回 日本における近代家族の成立と発展 (2) 大衆化</p> <p>第4回 雇用とジェンダー (1) 女性の雇用の変遷 雇用機会均等法</p> <p>第5回 雇用とジェンダー (2) 非正規化</p> <p>第6回 雇用とジェンダー (3) 家事労働、ケア労働</p> <p>第7回 性差別の歴史と抵抗運動 (1) フェミニズムとは</p> <p>第8回 性差別の歴史と抵抗運動 (2) 第二波フェミニズム、現代のフェミニズム</p> <p>第9回 同性愛差別の歴史と運動史 (1)</p> <p>第10回 同性愛差別の歴史と運動史 (2)</p> <p>第11回 政治とジェンダー</p> <p>第12回 身体の健康、性と社会</p> <p>第13回 性暴力の「神話」</p> <p>第14回 男性学とは—マジョリティと差別問題</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	授業内で指定するテキストを読み、講義のあと復習すること。		
成績評価の方法	毎回のミニ課題 40%、最終レポート 60%		
実務経験について	なし		

授業科目	生活と経済	担当者	山口 祐司
	〔履修年次〕 1、2年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2	授業外対応	メール等で予約の上適宜対応します。
		〔必修/選択〕 選択 (注)	〔授業形態〕 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代の私たちはもはや自給自足だけでは生きていけず、コンビニやスーパー、レストラン、あるいは身の周りのものを作るメーカーといったさまざまな企業やそこで働く人たちに頼って生きています。また私たち自身誰かのために働きます。この意味で経済は人間社会の基礎です。この授業では生活にかかわる身近な経済問題を手がかりに経済の味方の基礎を学んでいきます。</p> <p>【概要】人間社会の歴史的発展の中で経済システムがどのように形作られたのか (第2～3回)。消費者としての視点から、モノやサービスの生産と流通の仕組みや生産と消費の関係を学ぶ (第4～6回)。労働者としての視点から、賃金や働き方をめぐる現状と問題を学ぶ (第7～10回)。市民としての視点から、税や社会保障制度をめぐる現状と問題を学ぶ (第11～14回)。</p> <p>【到達目標】身近なことから経済のニュースへの関心をもつこと。企業の役割や課題を知ること。労働や社会保障にかんして、社会的役割、個人の権利、日本の実態について知識を身につけること。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 講義時に提示</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 人間社会と経済の発展</p> <p>第3回 戦後日本の経済発展と現在</p> <p>第4回 生産と消費 (1) ものづくり</p> <p>第5回 生産と消費 (2) サービス</p> <p>第6回 生産と消費 (3) 社会的存在としての企業</p> <p>第7回 労働と賃金 (1) 働くということ</p> <p>第8回 労働と賃金 (2) 働きすぎの日本社会</p> <p>第9回 労働と賃金 (3) 失業、不安定就労、貧困問題</p> <p>第10回 労働と賃金 (4) 人間らしい労働への取り組み</p> <p>第11回 税と社会保障 (1) 日本における税負担の構造</p> <p>第12回 税と社会保障 (2) 税制度の公平性</p> <p>第13回 税と社会保障 (3) 社会保障制度の役割</p> <p>第14回 税と社会保障 (4) 日本における社会保障の貧困</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	事前に提示する参考文献を予習し、授業後にはプリントをよく見直すようにしてください。新聞の経済記事に日常から目を通すようにしておいてください。		
成績評価の方法	期末レポート (60%)、授業ごとの小論文 (40%)		

(注) 商経学科を除く (注) 受講生が62人を超えた場合は人数を制限する場合があります。

授業科目	キャリアデザイン		担当者	担当教員
		[履修年次] 1年 [単位] 1	[学期] 通年 [必修/選択] 選択	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】1年生が就職活動を始める前に、卒業後のキャリア形成について具体的なイメージを描けるようにする。</p> <p>【概要】就業後の職業や人生設計について適切な考察を行う能力の獲得のため、個々の体験に基づく就活イメージの提供や就活のノウハウの伝授にとどまらず、キャリアパス再設計の機会に対応可能なように、職業についての基本的な考え方、企業社会の理解、企業選択に対して知っておくべきことや、退職や転職、再就職などに際して考えるべきこと等を体系的に学習することを通じて、将来、自らのキャリアパスを再デザインし、マネージするための支援となるような内容についても学習する。</p> <p>【到達目標】8回の授業を通じて自らの進路のイメージを形成する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント (2) 適宜紹介</p>			
授業スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ◆5月17日(水)(特設時間を利用) 第1回 総論 キャリア、キャリアデザインとは ◆6月14日(水)(特設時間を利用) 第2回 自己分析 志望動機 ◆7月12日(水)(特設時間を利用) 第3回 企業研究の必要性とそのやり方 ◆9月20日(木) 3限 第4回 企業が求める人材 ◆9月20日(木) 4限 第5回 先輩の就活体験・職業体験から学ぶ ◆10月18日(水)(特設時間を利用) 第6回 働いて「困った」への対応方法 ◆11月8日(水)(特設時間を利用) 第7回 これから働くあなたへのメッセージ ◆12月20日(水)(特設時間を利用) 第8回 プロフェッショナルになろう(パネルディスカッション) <p>※ 5年度の講師については適宜掲示する。</p>			
成績評価の方法	ワークシート及び授業から学んだこと感想を提出(100%)			

授業科目	数学の世界		担当者	愛甲 正
		[履修年次] 1年, 2年 [学期] 前期 [単位] 2	[必修/選択] 選択	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】基礎的な数学を理解し、さらに数学を楽しむ</p> <p>【概要】中学校や高等学校で学習した数学に関する知識を活用して、数学がいかに活用されているかを知り、数学を楽しむことを目的とする。</p> <p>【到達目標】基礎的な数学を理解し、数学の応用を通して数学の重要性を理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを適宜紹介する。 (2) 講義中に適宜紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 実数・有理数・無理数</p> <p>第3回 白銀比とコピー用紙・黄金比</p> <p>第4回 確率(くじ引きの順番)</p> <p>第5回 指数と対数(利息計算への応用)</p> <p>第6回 指数と対数の計算(電卓の利用)</p> <p>第7回 データの最頻値・中央値・平均値・箱図表</p> <p>第8回 データの分散・標準偏差・偏差値</p> <p>第9回 ピタゴラスの定理・ヒポクラテスの定理</p> <p>第10回 急勾配を表す標識・三角比と三角測量</p> <p>第11回 数列(等差数列・等比数列)</p> <p>第12回 数列の和の極限(曲線の長さ・図形の面積の例)</p> <p>第13回 弧長法と円の面積</p> <p>第14回 非ユークリッド幾何の紹介</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	基本のご復習が中心となる。講義中に課題レポートについて指示する。			
成績評価の方法	レポート(100%)による			
実務経験について	鹿兒島県立高等学校にて教諭として勤務(昭和56年4月～昭和62年3月)			

授業科目	物理の世界		担当者	藤井 伸平
	[履修年次]	1年, 2年	授業外対応	講義終了時
	[学期]	前期	[単位]	2
	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】身近なものや身のまわりでおこる現象に題材を求め、それらを物理という視点から眺めてみようというのがこの講義のテーマです。</p> <p>【概要】ほとんどの方は子供の頃シャボン玉で遊んだことと思います。そのシャボン玉ですが、きれいな色がついていたことを覚えていますか？ 覚えていない方はぜひシャボン玉をつくって眺めてみてください。きれいですよ。どうしてきれいな色がつくのでしょうか？ このように、いくつかの題材について考えていくつもりです。また、簡単な実験も予定しています。</p> <p>【到達目標】物理学を身近に感じる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし (適宜プリントを配布)</p> <p>(2) 適宜授業中に紹介</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 講義の概要、基本的な量について</p> <p>第 2回 身近な現象・・・大気圧を感じる</p> <p>第 3回 身近な現象・・・地球の大きさ・丸さを感じる</p> <p>第 4回 身近な現象・・・まさつを感じる</p> <p>第 5回 身近な現象・・・水の特異な性質について</p> <p>第 6回 身近な現象・・・ろうそくの炎について</p> <p>第 7回 力学・・・釣り合いとてこの原理を感じる</p> <p>第 8回 力学・・・無重量状態を感じる</p> <p>第 9回 力学・・・慣性を感じる</p> <p>第 10回 熱学・・・断熱膨脹を感じる</p> <p>第 11回 熱学・・・気化熱を感じる</p> <p>第 12回 電磁気学・・・分極を感じる</p> <p>第 13回 電磁気学・・・磁場を感じる</p> <p>第 14回 振動・波動・・・光の屈折を感じる</p> <p>第 15回 まとめ</p> <p>(理解の度合いなどにより、講義の内容や順番が変更になることがあります。)</p>			
授業外学習(予習・復習)	授業で学んだ内容を振り返り、必要であれば関連した情報を収集しまとめる。			
成績評価の方法	(A) 授業ごとの小レポート (30%)、(B) 課題レポート (40%)、(C) 期末試験 (30%)。(詳細については第 1 回目の講義で説明します。)			
実務経験について	なし			

授業科目	生物の科学		担当者	塔筋 弘章
	[履修年次]	1年, 2年	授業外対応	講義終了時
	[学期]	前期	[単位]	2
	[必修/選択]	前期	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】細胞・遺伝・進化</p> <p>【概要】生物は細胞からできていて、その特徴として代謝・自己複製 (増殖)・成長などがあげられます。それは、外部から物質を取り込み、他の物質に変換しながらエネルギーを作ったり、体そのものを作ったり、子孫を作ることです。そして、長い歴史の中ではこの遺伝子が少しずつ変化し、進化を引き起こします。</p> <p>本講義では、生物、生命の基礎を理解するために、細胞・遺伝・進化について学びます。</p> <p>【到達目標】生物の成り立ちや生命についての基礎を理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 適宜指示</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 生物の基本構造：化学成分と細胞</p> <p>第 2回 代謝：エネルギー産生のしくみ</p> <p>第 3回 DNA からタンパク質へ：転写と翻訳、遺伝子の調節</p> <p>第 4回 バイオテクノロジー：遺伝子組換えと制限酵素</p> <p>第 5回 細胞分裂 (1)：細胞分裂と細胞周期</p> <p>第 6回 細胞分裂 (2)：減数分裂と受精、発生</p> <p>第 7回 免疫：生体防御システム</p> <p>第 8回 遺伝の基礎：メンデルの法則</p> <p>第 9回 染色体と遺伝子：遺伝と確率、連鎖、遺伝地図</p> <p>第 10回 突然変異：変異原、遺伝子の修復、発がん</p> <p>第 11回 進化論：ラマルクとダーウィン</p> <p>第 12回 生物の進化 (1)：遺伝子の変化、単細胞から多細胞へ</p> <p>第 13回 生物の進化 (2)：動物の進化</p> <p>第 14回 生物の進化 (3)：恐竜から鳥へ</p> <p>第 15回 生物の進化 (4)：猿人からヒトへ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験 (100%)			
実務経験について	鹿児島県総合教育センター短期研修講座講師、鹿児島大学教員免許状更新講習講師			

授業科目	化学の世界		担当者	古川那由太・木下朋美			
	〔履修年次〕	1年・2年いずれでも履修可	授業外対応	講義終了時			
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕
テーマ及び概要	<p>【テーマ】身近なものや現象を通して、私たちの生活の中で、化学がどのようにかかわっているかを学ぶ。</p> <p>【概要】物質の科学である化学は、自然や生物の資源を利用して有用な物質を作ること等により、私たちの暮らしを豊かにしている。一方で、化学は環境や資源の問題等とも密接に関わっており、化学を学ぶことは、身の回りの物質についての知識を得、理解を深めるだけでなく、私たち自身の生活や身のまわりの自然について考える良い機会となる。こうした生活と物質の関わりからの視点から、身の回りの物質や現象、茶の化学について、講義を行う。1～6回：古川、7～15回：木下</p> <p>【到達目標】化学的視点から、課題を探究し、解決していくための基本的な能力を培う。</p>						
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 日本茶インストラクター協会『日本茶のすべてがわかる本』農文協</p>						
授業スケジュール	<p>第1回 気体の化学（元素と原子、大気成分、気体の密度）</p> <p>第2回 生活の化学（酸と塩基、洗剤と漂白剤、プラスチック、容器の素材）</p> <p>第3回 爆発の化学（化学反応、火薬による爆発、火薬以外の爆発）</p> <p>第4回 エネルギーの化学（化石燃料と火力発電、原子力発電と核融合炉、次世代エネルギー）</p> <p>第5回 生物の化学（生体物質の分類、糖質、たんぱく質とアミノ酸、脂質、ビタミン、ミネラル）</p> <p>第6回 話題の化学（ノーベル賞、ノーベル化学賞を受賞した日本人）</p> <p>第7回 様々な茶を生み出した歴史 鹿児島と茶</p> <p>第8回 緑茶の違いを作り出す 製造方法と栽培方法―茶成分（アミノ酸、ポリフェノール、カフェイン等）への影響（1）</p> <p>第9回 緑茶の違いを作り出す 製造方法と栽培方法―茶成分（アミノ酸、ポリフェノール、カフェイン等）への影響（2）</p> <p>第10回 緑茶に付加価値をつける 流通と仕上げ加工（ブレンド・火入れ）・アミノカルボニル反応</p> <p>第11回 味を作り出す 香りの特性と役割・香気成分と受容体</p> <p>第12回 緑茶の味は淹れ方次第 溶出成分の特徴（急須とペットボトル）・茶成分の品質への影響</p> <p>第13回 緑茶の味は淹れ方次第 溶出成分の特徴（実習）</p> <p>第14回 紅茶・烏龍茶の製造方法と品質・ポリフェノール、香気成分等</p> <p>第15回 茶の品質を見極める 官能検査と化学成分（実習）</p>						
授業外学習（予習・復習）	復習を重視する。						
成績評価の方法	古川担当分（40%）：授業ごとのレポート 木下担当分（60%）：レポート						
実務経験について	なし						

授業科目	食生活と健康		担当者	中熊美和・広瀬直人・木下朋美・古川那由太			
	〔履修年次〕	1. 2年	授業外対応	担当ごとに適宜対応			
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕
テーマ及び概要	<p>【テーマ】健康な食生活を送るためにはどうしたらよいか。</p> <p>【概要】バランスの取れた食事、運動、休養、睡眠によって健康な日常生活を送ることは私たちの願いである。今日、健康や栄養についての情報はあふれており、私たちの関心を喚起し、生活に大きな影響を与えている。しかし、それらの中には十分な検証がされないまま提供される有害な情報も少なくない。本科目では、健康で安全・安心な生活を送るためにはどうしたらよいかについて、各種の活動を取り入れて、実践的に学ぶ。</p> <p>【到達目標】健康な食生活を送るための知識とスキルを獲得する。</p>						
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 適宜紹介</p>						
授業スケジュール	<p>第1回 健康な食生活：健康とは何か？（中熊）</p> <p>第2回 健康な食生活：食品の特性（木下）</p> <p>第3回 健康な食生活：食の安全（木下）</p> <p>第4回 口腔と健康：口内環境正常化（古川）</p> <p>第5回 口腔と健康：味覚を変える食品（古川）</p> <p>第6回 食物と生活：食品加工と保藏（広瀬）</p> <p>第7回 食物と生活：食品の機能性（広瀬）</p> <p>第8回 食物と生活：保健機能食品（広瀬）</p> <p>第9回 健康な食生活：食品に含まれる栄養素とその特性（中熊）</p> <p>第10回 健康な食生活：食事バランス・食品選択の方法（中熊）</p> <p>第11回 健康な食生活：ダイエット（中熊）</p> <p>第12回 健康な生活習慣：運動・睡眠・休養（中熊）</p> <p>第13回 健康な生活習慣：生活習慣病（中熊）</p> <p>第14回 健康な食生活：食文化・食中毒について（中熊）</p> <p>第15回 まとめ：健康な食生活とは（中熊）</p>						
授業外学習（予習・復習）	プリントや参考文献にて学習する。						
成績評価の方法	授業ごとのレポート及び小テスト（70%）、授業態度（30%）を基準に総合的に評価する。担当者ごとの成績を集計して、加重平均にて算出、評価する。						
実務経験について	なし						

授業科目	平和論	担当者	福田忠弘
	[履修年次] 1, 2年いずれも履修可 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	適宜対応
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】テーマは、国際社会や日本国内で生じた諸問題について、平和論の視座からどのようにとらえることができるかについて考察することである。		
	【概要】平和論で取り上げるテーマは多岐にわたるが、本講義では「積極的平和」というキーワードをもとに、紛争、安全保障、平和構築、枯葉剤被害などを取りあげる。		
	【到達目標】平和とは単に戦争がない状態を指すのではなく、人間が自由にその能力を発揮できる状態を指すことを理解できることを到達目標とする。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 多賀秀敏編『平和学から世界を見る』(成文堂, 2019年)。 (2) 講義中に適宜紹介する		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス：平和論という学問がどのようなものなのかを概説する 第2回 暴力の多様性：暴力という概念について 第3回 安全保障：21世紀における平和と安全保障 第4回 核兵器：被爆者の視点から 第5回 反核兵器政策：平和首長会議を中心に 第6回 地域紛争：ウクライナから考える 第7回 ベトナム戦争：ベトナムにおける枯葉剤被害 第8回 ベトナム戦争：アメリカにおける枯葉剤被害 第9回 民族紛争：民族浄化という考え方 第10回 沖縄と平和：戦後日米関係における沖縄 第11回 平和構築：紛争後の社会をどのように構築するか 第12回 日米同盟と米韓同盟：同盟の日韓比較 第13回 東アジアの平和：分断体制をいかに乗り越えるか 第14回 国際協力：今後の国際協力について 第15回 まとめ：平和の多様性について		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	学期末に課すレポート(100%)によって評価する。		
実務経験について	なし		

授業科目	環境問題	担当者	井村隆介, 榮村奈緒子, 浅海真弓, 岡村雄輝
	[履修年次] 指定なし [学期] 前期 [単位] 2単位	授業外対応	講義前後に適宜対応
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】環境問題を異なる視角から考える		
	【概要】自然史(井村), 森林科学(榮村), 生活科学(浅海), 経済社会(岡村)の視点から環境問題を考える		
	【到達目標】環境問題に関する複眼的思考を養う		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布 (2) 國部克彦(編集), 神戸CSR研究会(編集)『CSRの基礎』, 中央経済社		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス：履修登録の確認、講義計画の説明等 第2回 鹿児島島の自然史(1) 鹿児島と気候変動 第3回 鹿児島島の自然史(2) 鹿児島島の地震と火山 第4回 鹿児島島の自然史(3) 鹿児島島の植生史 第5回 鹿児島島の自然史(4) 鹿児島島の自然と人 第6回 森林科学(1)：動物と植物の相互作用 第7回 森林科学(2)：獣害 第8回 森林科学(3)：外来種 第9回 生活科学(1)：衣生活と環境問題(衣服廃棄・リサイクルの現状と課題) 第10回 生活科学(2)：食生活と環境問題(食品ロス)の現状と課題 第11回 生活科学(3)：環境に配慮した生活(私たちの生活の中でできる取り組み) 第12回 経済社会(1)：企業と公害(1) 第13回 経済社会(2)：企業と公害(2) 第14回 経済社会(3)：企業と地球環境(1) 第15回 経済社会(4)：企業と地球環境(2)		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	各講師の課題(20~30点満点)×4=100点とする		
実務経験について	なし		

授業科目	かごしまと世界	担当者	未定
	[履修年次] 指定なし [学期] 前期 [単位] 2単位	授業外対応 [必修/選択]	選択 [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回		
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法			
実務経験について			

授業科目	社会活動	担当者	担当教員全員
	[履修年次] 年次指定なし [単位] 2～4	[学期] 通年 [必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 実習
テーマ及び概要	【テーマ】 「社会活動」は、非営利組織を中心とした研修先において、実際の現場での体験を得ることにより、将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。 【概要】 公共機関等が開催するイベントへのボランティア参加や外国の大学生との交流活動などを通じて、社会での実践力・企画力を養うとともに「社会を見る目」を養う。 具体的な研修先、及び研修内容等は多様であり、毎年4月末から6月頃に掲示され、募集が行われる。 【到達目標】 自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる、研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術にふれることができる、自立的に考え行動できるようになる、など。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 未定 (事前指導のなかで指示する) (2) 未定 (事前指導のなかで指示する)		
授業スケジュール	第 1 回 事前指導：主に前期を中心に研修先の決定、各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。 研 修：主に夏期休暇期間に、実際に研修先での研修を行う。 事後指導：研修終了後は、研修日誌の作成・提出、研修レポートの作成、研修報告会の発表の準備などを行う。		
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。(100%)		

(注) 商経学科を除く

授業科目	企業研修	担当者	担当教員全員
	〔履修年次〕 1年 〔単位〕 2	〔学期〕 〔必修/選択〕	通年 選択(注)〔授業形態〕 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】この科目は、一般的には「インターンシップ」と呼ばれている。「企業研修」は、民間企業を中心に県庁、病院などの研修先において、現場で就業体験を行い、将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。</p> <p>【概要】県内外企業や県庁・市役所の現場で働く経験を通じて、社会人としての課題、企業運営、職務遂行に必要な知識・技術を理解し、働くことの自覚や自信を身につける。</p> <p>具体的な研修先、及び研修内容等は多様であり、毎年4月末から6月頃に揭示され、募集が行われる。</p> <p>【到達目標】自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる、研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術にふれることができる、自立的に考え行動できるようになる、など。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 未定(事前指導のなかで指示する) (2)		
授業スケジュール	<p>事前指導：主に前期を中心にインターンシップの意義、研修先の決定、各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。</p> <p>研修：主に夏期休暇期間に、実際に研修先での研修を行う。</p> <p>事後指導：研修終了後は、研修日誌の作成・提出、研修レポートの作成、研修報告会の発表の準備などを行う。</p>		
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。(100%)		

(注) 商経学科を除く

授業科目	かごしま教養プログラム	担当者	県内7大学等の担当教員
	〔履修年次〕 1年 〔単位〕 2	〔学期〕 〔必修/選択〕	通年 選択(注)〔授業形態〕 講義
テーマ及び概要	<p>【概要】この講義では、鹿児島県内のすべての大学等が伝統を活かして開発してきた、鹿児島を素材にした授業を持ち寄り、「グローバルな視点から見たかごしま再発見」というテーマに基づき、リベラルアーツ教育を行います。また、地域の特色ある分野について対象としていることから、特に、地域社会での活躍を目指す学生にとっては、充実した内容となっている。3日間の夏季集中授業で、講義とグループ学習を行います。ディベートなどを取り入れ、学生間でよく話し合い、切磋琢磨しながら学習します。</p> <p>【学習目標】①講義で提示される鹿児島独自の文化、自然、社会、産業、防災、食と観光などのテーマについて、内容をよく理解し、自分の考えに従って問題点を正しく整理できる。</p> <p>②グループ学習により、テーマに関連する問題を独自の視点で討論を行い、グループとしての考えと方策などを具体的にまとめ上げ、それを適切に発表できる。</p> <p>③テーマに関してグループで検討し得られた結論等について、受講生全員がそれぞれレポートにまとめて提出する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 未定 (2) 未定		
授業スケジュール	<p>第1回 令和3年度実施概要(令和4年度については未定) 遠隔授業で実施</p> <p>日程：8月18日(水)～20日(金) 場所：鹿児島大学 定員：県内4大学等の学生 44人</p>		
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 発表とレポートを合わせて評価する。従って、どちらか一方が欠けた場合は、評価対象外とする。 レポート提出期限までにレポートを提出しなかった者は、評価対象外とする。 		

(注)「日本文学概論」(日本語日本文学専攻)、「スタディスキルズ」(英語英文学専攻)、「生活科学概論」(生活科学科)、「基礎演習」(商経学科)の履修が条件となります。

授業科目	かごしまフィールドスクール		担当者	県内7大学等の担当教員	
	[履修年次]	1年	[学期]	通年	
	[単位]	2	[必修/選択]	選択(注)	[授業形態]
テーマ及び概要	<p>【概要】地場産業、農業、商業、文化、観光、環境、暮らし、防災などにかかわる地域・施設などを学習の場とし、そこに内在する特徴や住民・関係者の暮らし、今後の方向性への住民・関係者の意識などを実践的に学習し、今後、地域の課題を解決していくための方策について考察し、若者のグローバルな視点でそれらの方策を実現する可能性について検討します。</p> <p>この活動により、鹿児島の特徴と問題点を理解し、国際社会の中での鹿児島の個性化・活性化を考える「グローバルな素養」を身につけ、あるいは自己開発の能力を身につけます。具体的には、実践的な学びの場において体験的な学習能力を向上し、考察・討論・発表を通じた理解力と問題解決能力の修得を促進するとともに、発表後の意見交換を加味して本授業全体を通じた総合的な成果を文書化することにより、日本語コミュニケーション能力の向上を図ります。</p> <p>【学習目標】①指定地域内の調査地区の実地視察や関係者との交流を通して、同地区の住民生活、商業活動、文化活動、防災等の特徴を把握し、選択したテーマに関する独自の問題を調査する。</p> <p>②同地区等の課題解決のために、今後どのような展望が望ましいか、どのような可能性があるか等の視点でテーマを考え、グループ討論により改善策等を具体的に討論しその成果を発表する。</p> <p>③実地調査、討論、発表を通して得られた成果を総合的にとりまとめたレポートを作成する。テーマ別に編成されたグループにおいて、これら三つの学習目標を達成する。</p>				
(1)テキスト	(1)	未定			
(2)参考文献	(2)	未定			
授業スケジュール	第1回	令和4年度実施概要(令和5年度については未定)中止			
授業外学習(予習・復習)					
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 発表とレポートを合わせて評価する。従って、どちらか一方が欠けた場合は、評価対象外とする。 レポート提出期限までにレポートを提出しなかった者は、評価対象外とする。 				

(注)「かごしま教養プログラム」の履修が条件となります。

2 教養科目（外国語科目）

授業科目	英語 I (A)	担当者	小林朋子
	[履修年次] 1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期] 前期 [単位] 1	[必修/選択] 必修 (注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】リスニング力、発音力、文法力を総合的に鍛えることで、スピーキングの基礎力を養成する。</p> <p>【概要】英語のリスニング、文法、読解を総合的に学習することで、バランスのとれた英語力を養います。使用頻度の高い英語表現のリスニングや音読練習、基本的、発展的な文法事項の確認、「フレーズ・リーディング」(意味のまとまりごとに区切って英語の語順で読む読解法)を意識した速読理解の練習などを通して、総合的コミュニケーション能力の向上を目指します。</p> <p>【到達目標】日常生活の様々な場面において、相手の情報や考えを理解でき、プロソディー面は理解に支障がない発音で情報や考えを正確に表現できる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 角山照彦、Simon Capper 著 『Let's Read Aloud & Learn English 音読で始める基礎英語』 成美堂 刊</p> <p>(2) 授業で随時紹介します。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション</p> <p>第 2 回 Please to meet you. <be 動詞></p> <p>第 3 回 Do you remember me? <一般動詞 (現在) ></p> <p>第 4 回 I spoke to Ms. Hayashi yesterday. <一般動詞 (過去) ></p> <p>第 5 回 When does the meeting start? <疑問詞></p> <p>第 6 回 Can you meet me at the airport? <助動詞 1 ></p> <p>第 7 回 Feel free to ask me anytime. <文の種類、命令文></p> <p>第 8 回 I'm thinking about quitting my job. <進行形></p> <p>第 9 回 I'll give her your message. <未来形></p> <p>第 10 回 I haven't received the latest figures. <現在完了形></p> <p>第 11 回 The cafeteria is closed today. <受動態></p> <p>第 12 回 We expect higher sales in China. <比較></p> <p>第 13 回 I'd like to check in. <助動詞 2 ></p> <p>第 14 回 How about going to the theater? <動名詞></p> <p>第 15 回 I like to travel a lot. <to 不定詞></p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	筆記試験 (70%)、提出物 (10%)、授業への取り組み態度 (20%) で評価する。		
実務経験について	なし		

(注) 教職必修, 日本語日本文学専攻

授業科目	英語 I (A)	担当者	松元 貴子
	[履修年次] 1	授業外対応	授業後、またはメールにて対応します。
	[学期] 1 [単位] 1	[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語を総合的に学び、主にライティングとスピーキングを通して、表現する力を鍛える。</p> <p>【概要】ライティング活動を通して、アイデアの出し方、パラグラフの構成力を習得する。スピーキング活動を通して、英語の音声を正しく理解し、実践する。また、語彙力・表現力を習得する。ペア活動・グループ活動を通して、相手に伝わる、そして、相手を動かす表現を習得する。</p> <p>【到達目標】構成力のあるライティングができる。自分の書いた文をもとに、正しい音でスピーキングができる。ペアワークでの会話を3分以上続けることができる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 適宜紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション</p> <p>第 2 回 How to start a conversation & how to introduce myself.</p> <p>第 3 回 How to organize a paragraph & Brainstorming.</p> <p>第 4 回 Explain about myself & people 1</p> <p>第 5 回 Explain about myself & people 2</p> <p>第 6 回 Explain about myself & people 3</p> <p>第 7 回 Let's talk about myself and people</p> <p>第 8 回 Describing about my experience 1</p> <p>第 9 回 Describing about my experience 2</p> <p>第 10 回 Describing about my experience 3</p> <p>第 11 回 Let's talk about my experience</p> <p>第 12 回 Presentation project preparation 1</p> <p>第 13 回 Presentation project preparation 2</p> <p>第 14 回 Presentation project preparation 3</p> <p>第 15 回 Preparation and review for final</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	授業内での活動への取り組み (25%) + ライティングなどの提出物 (25%) + グループ発表・プレゼンテーション発表 (50%)		
実務経験について	なし		

(注) 教職必修, 日本語日本文学専攻

授業科目	英語 I (B)		担当者	新福 豊実
	〔履修年次〕 1		授業外対応	授業開始前、あるいは終了時、他の時間帯は要予約
	〔学期〕 前期	〔単位〕 1	〔必修/選択〕 必修 (注)	〔授業形態〕 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 英語を「読む」「聞く」「話す」「書く」技能の基礎を確認し、リスニングおよびスピーキング能力の向上を図る。</p> <p>【概要】 日常の様々な場面を想定し、ペアワークやグループワークで基本的な会話の練習を行い、コミュニケーション能力の向上を目指す。あわせて、リスニング、発音、文法を総合的に学習しバランスの取れた英語力を養成する。</p> <p>【到達目標】 日常の様々な場面で、相手の発言を理解し、英語で的確に応答することができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Marc Helgesen et al. 『English Firsthand (5th Edition) Success』 Pearson Longman</p> <p>(2) 授業時に適宜指示する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 Class overview: Learning goals and strategies (Unit zero)</p> <p>第 2 回 Introduce yourself to a partner/Talk about your hobbies and interests (Unit 1)</p> <p>第 3 回 Describe the clothes you are wearing/Talk about fashions you enjoy (Unit 2)</p> <p>第 4 回 Give advice about staying healthy/Ask about your partner's habits (Unit 3)</p> <p>第 5 回 Ask for and give directions to a place/Identify places in your community (Unit 4)</p> <p>第 6 回 Describe different objects/Listen to your partner describe an object (Unit 5)</p> <p>第 7 回 Talk about your goals/Ask about your partner's goals (Unit 6)</p> <p>第 8 回 Review I</p> <p>第 9 回 Talk about your past experiences/Ask your partner about past experiences (Unit 7)</p> <p>第 10 回 Describe animals and nature/Ask questions about animals and nature (Unit 8)</p> <p>第 11 回 Talk about things you can and can't do/Ask your partner about what he or she can and can't do (Unit 9)</p> <p>第 12 回 Ask about likes and dislikes/Invite someone to do something you like with you (Unit 10)</p> <p>第 13 回 Talk about rules and laws in other countries/Describe what people in your life should or shouldn't do (Unit 11)</p> <p>第 14 回 Make up a story and tell it to your partner/Tell a story you know to your partner (Unit 12)</p> <p>第 15 回 Review II</p>			
授業外学習(予習・復習)	毎時、配布される復習課題に取り組むこと。その他の授業外学習については毎時、具体的に指示する。			
成績評価の方法	期末試験 (40%) 復習テスト (30%) 課題 (20%) ポートフォリオ (10%)			
実務経験	なし			

(注) 教職必修, 生活科学専攻

授業科目	英語 I (B)		担当者	新福 豊実
	〔履修年次〕 1		授業外対応	授業開始前、あるいは終了時、他の時間帯は要予約
	〔学期〕 前期	〔単位〕 1	〔必修/選択〕 必修 (注)	〔授業形態〕 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 英語を「読む」「聞く」「話す」「書く」技能の基礎を確認し、リスニングおよびスピーキング能力の向上を図る。</p> <p>【概要】 日常の様々な場面を想定し、ペアワークやグループワークで基本的な会話の練習を行い、コミュニケーション能力の向上を目指す。あわせて、リスニング、発音、文法を総合的に学習しバランスの取れた英語力を養成する。</p> <p>【到達目標】 日常の様々な場面で、相手の発言を理解し、英語で的確に応答することができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Marc Helgesen et al. 『English Firsthand (5th Edition) Success』 Pearson Longman</p> <p>(2) 授業時に適宜指示する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 Class overview: Learning goals and strategies (Unit zero)</p> <p>第 2 回 Introduce yourself to a partner/Talk about your hobbies and interests (Unit 1)</p> <p>第 3 回 Describe the clothes you are wearing/Talk about fashions you enjoy (Unit 2)</p> <p>第 4 回 Give advice about staying healthy/Ask about your partner's habits (Unit 3)</p> <p>第 5 回 Ask for and give directions to a place/Identify places in your community (Unit 4)</p> <p>第 6 回 Describe different objects/Listen to your partner describe an object (Unit 5)</p> <p>第 7 回 Talk about your goals/Ask about your partner's goals (Unit 6)</p> <p>第 8 回 Review I</p> <p>第 9 回 Talk about your past experiences/Ask your partner about past experiences (Unit 7)</p> <p>第 10 回 Describe animals and nature/Ask questions about animals and nature (Unit 8)</p> <p>第 11 回 Talk about things you can and can't do/Ask your partner about what he or she can and can't do (Unit 9)</p> <p>第 12 回 Ask about likes and dislikes/Invite someone to do something you like with you (Unit 10)</p> <p>第 13 回 Talk about rules and laws in other countries/Describe what people in your life should or shouldn't do (Unit 11)</p> <p>第 14 回 Make up a story and tell it to your partner/Tell a story you know to your partner (Unit 12)</p> <p>第 15 回 Review II</p>			
授業外学習(予習・復習)	毎時、配布される復習課題に取り組むこと。その他の授業外学習については毎時、具体的に指示する。			
成績評価の方法	期末試験 (40%) 復習テスト (30%) 課題 (20%) ポートフォリオ (10%)			
実務経験	なし			

(注) 教職必修, 生活科学専攻

授業科目	英語 I (C)		担当者	新福 豊実				
	〔履修年次〕	1	授業外対応	授業開始前、あるいは終了時、他の時間帯は要予約				
	〔学期〕	前期	〔単位〕	1	〔必修/選択〕	必修 (注)	〔授業形態〕	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 英語を「読む」「聞く」「話す」「書く」技能の基礎を確認し、リスニングおよびスピーキング能力の向上を図る。</p> <p>【概要】 日常の様々な場面を想定し、ペアワークやグループワークで基本的な会話の練習を行い、コミュニケーション能力の向上を目指す。あわせて、リスニング、発音、文法を総合的に学習しバランスの取れた英語力を養成する。</p> <p>【到達目標】 日常の様々な場面で、相手の発言を理解し、英語で的確に応答することができる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Marc Helgesen et al. 『English Firsthand (5th Edition) Success』 Pearson Longman</p> <p>(2) 授業時に適宜指示する。</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 Class overview: Learning goals and strategies (Unit zero)</p> <p>第 2 回 Introduce yourself to a partner/Talk about your hobbies and interests (Unit 1)</p> <p>第 3 回 Describe the clothes you are wearing/Talk about fashions you enjoy (Unit 2)</p> <p>第 4 回 Give advice about staying healthy/Ask about your partner's habits (Unit 3)</p> <p>第 5 回 Ask for and give directions to a place/Identify places in your community (Unit 4)</p> <p>第 6 回 Describe different objects/Listen to your partner describe an object (Unit 5)</p> <p>第 7 回 Talk about your goals/Ask about your partner's goals (Unit 6)</p> <p>第 8 回 Review I</p> <p>第 9 回 Talk about your past experiences/Ask your partner about past experiences (Unit 7)</p> <p>第 10 回 Describe animals and nature/Ask questions about animals and nature (Unit 8)</p> <p>第 11 回 Talk about things you can and can't do/Ask your partner about what he or she can and can't do (Unit 9)</p> <p>第 12 回 Ask about likes and dislikes/Invite someone to do something you like with you (Unit 10)</p> <p>第 13 回 Talk about rules and laws in other countries/Describe what people in your life should or shouldn't do (Unit 11)</p> <p>第 14 回 Make up a story and tell it to your partner/Tell a story you know to your partner (Unit 12)</p> <p>第 15 回 Review II</p>							
授業外学習(予習・復習)	毎時、配布される復習課題に取り組むこと。その他の授業外学習については毎時、具体的に指示する。							
成績評価の方法	期末試験 (40%) 復習テスト (30%) 課題 (20%) ポートフォリオ (10%)							
実務経験	なし							

(注) 教職必修, 食物栄養専攻

授業科目	英語 I (C)		担当者	小林 朋子				
	〔履修年次〕	1 年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	〔学期〕	前期	〔単位〕	1	〔必修/選択〕	必修 (注)	〔授業形態〕	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 リスニング力、発音力、文法力を総合的に鍛えることで、スピーキングの基礎力を養成する。</p> <p>【概要】 英語のリスニング、文法、読解を総合的に学習することで、バランスのとれた英語力を養います。使用頻度の高い英語表現のリスニングや音読練習、基本的、発展的な文法事項の確認、「フレーズ・リーディング」(意味のまとまりごとに区切って英語の語順で読む読解法) を意識した速読理解の練習などを通して、総合的コミュニケーション能力の向上を目指します。</p> <p>【到達目標】 日常生活の様々な場面において、相手の情報や考えを理解でき、プロソディー面は理解に支障がない発音で情報や考えを正確に表現できる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 角山照彦、Simon Capper 著 『Let's Read Aloud & Learn English 音読で始める基礎英語』 成美堂 刊</p> <p>(2) 授業で随時紹介します。</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション</p> <p>第 2 回 Please to meet you. <be 動詞></p> <p>第 3 回 Do you remember me? <一般動詞 (現在) ></p> <p>第 4 回 I spoke to Ms. Hayashi yesterday. <一般動詞 (過去) ></p> <p>第 5 回 When does the meeting start? <疑問詞></p> <p>第 6 回 Can you meet me at the airport? <助動詞 1 ></p> <p>第 7 回 Feel free to ask me anytime. <文の種類、命令文></p> <p>第 8 回 I'm thinking about quitting my job. <進行形></p> <p>第 9 回 I'll give her your message. <未来形></p> <p>第 10 回 I haven't received the latest figures. <現在完了形></p> <p>第 11 回 The cafeteria is closed today. <受動態></p> <p>第 12 回 We expect higher sales in China. <比較></p> <p>第 13 回 I'd like to check in. <助動詞 2 ></p> <p>第 14 回 How about going to the theater? <動名詞></p> <p>第 15 回 I like to travel a lot. <to 不定詞></p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。							
成績評価の方法	筆記試験 (70%)、提出物 (10%)、授業への取組み態度 (20%) で評価する。							
実務経験について	なし							

(注) 教職必修, 食物栄養専攻

授業科目	英語 I (D)	担当者	金岡 正夫
	[履修年次] 1年	授業外対応	授業終了後
	[学期] 前期 [単位] 1	[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語を使い、自分について、大学生の視点から幅広く、奥深く説明していく学習体験に取り組む。それと関連して、英語圏や欧米の大学生たちが自分づくり（人間形成）にむけて大切にしている部分（内面性）も参考情報として学習していく。</p> <p>【到達目標】自分の姿をより豊かに表現できる語彙を自分で判断しながら獲得し、構築していく。その英文を正しく発音し、効果的なスピーキング（プレゼンテーション）ができるようにする。英語の技能獲得だけでなく、海外の大学生たちの生き方や価値観、人生観について理解を深める。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 杉田由仁ほか著「パラグラフ・ライティング基礎演習」（成美堂）ISBN 978-4-7919-4629-7</p> <p>(2) 特になし</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション</p> <p>第 2 回 米国の大学入試問題（エッセイ）が重視すること</p> <p>第 3 回 米国の大学教育で伝統的に重視する点とその理由</p> <p>第 4 回 英国の大学入試問題で試されること</p> <p>第 5 回 英国の大学生がもっているこだわり、信念など</p> <p>第 6 回 フランスの大学入学試験の独自性とその背景</p> <p>第 7 回 日本の大学教育と欧米の大学教育との違いとその背景</p> <p>第 8 回 まとめ</p> <p>第 9 回 自分の人生軸を語る（過去）<1> ライティング、音読、発話技法</p> <p>第 10 回 自分の人生軸を語る（過去）<2> 同上</p> <p>第 11 回 自分の人生軸を語る（現在）<1> 同上</p> <p>第 12 回 自分の人生軸を語る（現在）<2> 同上</p> <p>第 13 回 自分の人生軸を語る（近未来）<1> 同上</p> <p>第 14 回 自分の人生軸を語る（近未来）<2> 同上</p> <p>第 15 回 まとめ</p>		
授業外学習（予習・復習）	適宜指示します		
成績評価の方法	提出物（40%）、予習課題を使った授業への貢献（20%）、発表（40%）		
実務経験について	なし		

(注) 経済専攻・経営情報専攻

授業科目	英語 I (D)	担当者	石原 知英
	[履修年次] 1年	授業外対応	原則授業後に行う。必要に応じてメールによる対応も可。
	[学期] 前期 [単位] 1	[必修/選択] 必修 (注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語による自己発信（書くことと話すこと）と相互理解</p> <p>【概要】この授業では、様々な種類の英語によるスピーチ（あるいはプレゼンテーション）を聞いたり読んだりすることで、その構成や表現を理解するとともに、各自でスピーチ原稿を作成したり、そのスピーチを発表することを通して、情報の要点や自分の考えなどを的確に伝え合うための活動を行います。</p> <p>【到達目標】(1) 300 語程度のまとまりのある英語の文章を書くことができる、(2) 事前に準備した上で、英語で3分程度のスピーチを行うことができる、(3) 聞き手の理解に配慮しながら自分の考えを英語で話すことができる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する</p> <p>(2) 適宜紹介する</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 授業ガイダンス（到達目標、スケジュールおよび毎時の課題の説明）</p> <p>第 2 回 Informative Presentation 1: 時系列で述べる</p> <p>第 3 回 Informative Presentation 2: 場所について述べる</p> <p>第 4 回 Informative Presentation 3: 話題ごとに述べる</p> <p>第 5 回 Informative Presentation 4: 分類する</p> <p>第 6 回 Informative Presentation 5: 定義する</p> <p>第 7 回 Informative Presentation 6: 多角的に説明する</p> <p>第 8 回 中間プレゼンテーションと振り返り</p> <p>第 9 回 Persuasive Presentation 1: 賛成する・反対する</p> <p>第 10 回 Persuasive Presentation 2: 事実に基づいて主張する</p> <p>第 11 回 Persuasive Presentation 3: 問題点を指摘する</p> <p>第 12 回 Persuasive Presentation 4: 改善策を提案する</p> <p>第 13 回 Persuasive Presentation 5: 因果関係を論じる</p> <p>第 14 回 Persuasive Presentation 6: 比較して主張する</p> <p>第 15 回 最終プレゼンテーションと振り返り</p>		
授業外学習（予習・復習）	スピーチ原稿の作成と発表に向けた練習（予習）、前時に学習した語句・表現および例文の確認（復習）		
成績評価の方法	毎週の授業内課題（小テスト 20%、振り返りシート 20%） クラスでの発表課題（中間プレゼンテーション 20%、最終プレゼンテーション 40%）		
実務経験について	なし		

(注) 経済専攻・経営情報専攻

授業科目	英語 I (D)		担当者	石原 知英
	[履修年次] 1年		授業外対応	原則授業後に行う。必要に応じてメールによる対応も可。
	[学期] 前期	[単位] 1	[必修/選択] 必修 (注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語による自己発信（書くことと話すこと）と相互理解</p> <p>【概要】この授業では、様々な種類の英語によるスピーチ（あるいはプレゼンテーション）を聞いたり読んだりすることで、その構成や表現を理解するとともに、各自でスピーチ原稿を作成したり、そのスピーチを発表することを通して、情報の要点や自分の考えなどを的確に伝え合うための活動を行います。</p> <p>【到達目標】(1) 300 語程度のまとまりのある英語の文章を書くことができる、(2) 事前に準備した上で、英語で3分程度のスピーチを行うことができる、(3) 聞き手の理解に配慮しながら自分の考えを英語で話すことができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する</p> <p>(2) 適宜紹介する</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 授業ガイダンス（到達目標、スケジュールおよび毎時の課題の説明）</p> <p>第2回 Informative Presentation 1: 時系列で述べる</p> <p>第3回 Informative Presentation 2: 場所について述べる</p> <p>第4回 Informative Presentation 3: 話題ごとに述べる</p> <p>第5回 Informative Presentation 4: 分類する</p> <p>第6回 Informative Presentation 5: 定義する</p> <p>第7回 Informative Presentation 6: 多角的に説明する</p> <p>第8回 中間プレゼンテーションと振り返り</p> <p>第9回 Persuasive Presentation 1: 賛成する・反対する</p> <p>第10回 Persuasive Presentation 2: 事実に基づいて主張する</p> <p>第11回 Persuasive Presentation 3: 問題点を指摘する</p> <p>第12回 Persuasive Presentation 4: 改善策を提案する</p> <p>第13回 Persuasive Presentation 5: 因果関係を論じる</p> <p>第14回 Persuasive Presentation 6: 比較して主張する</p> <p>第15回 最終プレゼンテーションと振り返り</p>			
授業外学習(予習・復習)	スピーチ原稿の作成と発表に向けた練習（予習）、前時に学習した語句および例文の確認（復習）			
成績評価の方法	毎週の授業内課題（小テスト20%、振り返りシート20%） クラスでの発表課題（中間プレゼンテーション20%、最終プレゼンテーション40%）			
実務経験について	なし			

(注)経済専攻・経営情報専攻

授業科目	英語 I (D)		担当者	米村 大輔
	[履修年次] 1年		授業外対応	適宜対応
	[学期] 前期	[単位] 1	[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語の基本4技能を養いつつ、現代の社会事情について考える。</p> <p>【概要】各回、現代の社会事情について特定のトピックを扱い、タスクを通して「読む」「聞く」「話す」「書く」技能をバランスよく身につける。また基礎英文法の定着も図る。</p> <p>【到達目標】大きく変化しつつある現代社会に対応しながら、日常の様々な場面で情報の理解、発信を英語で的確に行えるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Jonathan Lynch 委文光太郎 著 『Trend Scope』</p> <p>(2) 適宜紹介</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 Resellers-Good or Bad? (be 動詞)</p> <p>第2回 About Earphones (一般動詞)</p> <p>第3回 Cash Registers (名詞・代名詞)</p> <p>第4回 Funny Happenings During Online Lessons (過去形)</p> <p>第5回 Loose-Fitting Clothing (進行形)</p> <p>第6回 Shrinkflation (Wh 疑問文)</p> <p>第7回 Living in the Countryside (前置詞)</p> <p>第8回 Hanging Out in Streets and Parks (接続詞)</p> <p>第9回 Plant Burgers Are Popular in America (現在完了形)</p> <p>第10回 South Korean Culture Is popular Worldwide (未来表現)</p> <p>第11回 Doxing (助動詞)</p> <p>第12回 Fast Movies (受動態)</p> <p>第13回 Do We Need a "Dislike" Button on Social Media? (形容詞・副詞)</p> <p>第14回 Ramen Subscription (不定詞・動名詞)</p> <p>第15回 Which Video-Sharing App Is Best? (比較級・最上級)</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	筆記試験(40%)、振り返りシート(30%)、授業での取り組み(30%)			

(注)経済専攻・経営情報専攻

授業科目	英語 II (A)	担当者	Patrick Gorham
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1 [必修/選択] [授業形態]	授業外対応	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 English II A is a four skills course with an emphasis on speaking and listening. Students will complete information gap, fill in the gap and communication exchange activities. Students will be required to work in pairs and groups and assist each other in learning.</p> <p>【概要】 Students will work have regular homework assignments.</p> <p>【到達目標】 The aim of the course is to develop their overall English abilities.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Smart Choice 2A Third Edition, Ken Wilson, Oxford University Press (2)		
授業スケジュール	第 1回 Class orientation 第 2回 Unit 1 How was your vacation? 第 3回 Unit 1 How was your vacation? 第 4回 Unit 1 How was your vacation? 第 5回 Unit 2 I think it's exciting! 第 6回 Unit 2 I think it's exciting! 第 7回 Unit 2 I think it's exciting! 第 8回 Unit 3 Do it before you're 30! 第 9回 Unit 3 Do it before you're 30! 第10回 Unit 4 The best place in the world! 第11回 Unit 4 The best place in the world! 第12回 Unit 5 Where's the party? 第13回 Unit 5 Where's the party? 第14回 Unit 6 You should try it! 第15回 Final Exam		
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法	Final Exam (50%), Speaking test (30%), Quizzes (10%), Attendance (10%)		
実務経験について			

(注) 教職必修, 日本語日本文学専攻

授業科目	英語 II (A)	担当者	Jorge García Arroyo (ガルシア・アロヨ ホルヘ)
	[履修年次] 1年, 2年いずれでも履修可 [学期] 前期 [単位] 1 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習	授業外対応	By coming to my office or by email
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Students will develop their communication, listening and grammar skills in English through discussing about different general topics of everyday life from the textbook.</p> <p>【概要】 Students will work on speaking and listening skills through discussing about a wide range of grammar-based general everyday topics from the text book.</p> <p>【到達目標】 Students will be able to maintain spontaneous conversations on a variety of everyday life topics while improving their listening skills and acquiring new vocabulary and expressions.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown, English Firsthand 1, Fifth Edition, Pearson (2)		
授業スケジュール	第 1回 Introduction to the course. Unit 1. Hobbies and interests . Self-introductions. 第 2回 Unit 1. Pair talk. Using simple present . Unit review. 第 3回 Unit 2. Appearance adjectives. Describing your friends. 第 4回 Unit 2. Pair talk. Differences between have and be in simple present . Unit review. 第 5回 Unit 3. Daily activities and routines. Making a date. 第 6回 Unit 3. Pair talk. Using adverbs of frequency. Unit Review. 第 7回 Unit 4. Locations. Negotiating with a parent. 第 8回 Unit 4. Pair talk. Using prepositions with there is and there are. Unit review. 第 9回 Unit 5. Giving directions. Asking for directions. 第10回 Unit 5. Pair talk. Using imperative form with prepositions. Unit review. 第11回 Unit 6. Important events in life, past experiences. Talk about a trip you took. 第12回 Unit 6. Pair talk. Using the past tense: irregular verbs. Unit review. 第13回 Unit 7. Types of Jobs. What do you do? 第14回 Unit 7. Pair talk. Using the simple present to ask about jobs and skills. Unit review 第15回 Course review.		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	In-class activities (40%); final presentation (60%)		
実務経験について	I have been teaching this class since 2019.		

(注) 教職必修, 日本語日本文学専攻

授業科目	英語Ⅱ (B)	担当者	ルイズ・ケネディ・中村 Louise Kennedy Nakamura
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習	授業外対応	授業終了後
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is an everyday conversation course to help students to develop confidence in speaking and develop their listening, vocabulary and grammar. skills.</p> <p>【概要】</p> <p>【到達目標】</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Materials will be supplied by the teacher</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 Introduction to the class</p> <p>第 2回 Getting to know the classmates</p> <p>第 3回 Daily Routines</p> <p>第 4回 Describing Appearance</p> <p>第 5回 Describing Appearance</p> <p>第 6回 Clothes / Fashion</p> <p>第 7回 Personality Traits</p> <p>第 8回 Review</p> <p>第 9回 Making Requests</p> <p>第 10回 Hobbies / Interests</p> <p>第 11回 Movies</p> <p>第 12回 Movies</p> <p>第 13回 Travel Plans</p> <p>第 14回 Travel Plans</p> <p>第 15回 Review</p>		
授業外学習(予習・復習)	Students should review classroom materials ; utilize online ESL listening websites.		
成績評価の方法	Grade : test×2 = 50% Homework, quizzes and class participation = 50%		

(注) 教職必修, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅱ (B)	担当者	Jorge García Arroyo (ガルシア・アロヨ ホルヘ)
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習	授業外対応	By coming to my office or by email
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Students will develop their communication, listening and grammar skills in English through discussing about different general topics of everyday life from the textbook.</p> <p>【概要】 Students will work on speaking and listening skills through discussing about a wide range of grammar-based general everyday topics from the text book.</p> <p>【到達目標】 Students will be able to maintain spontaneous conversations on a variety of everyday life topics while improving their listening skills and acquiring new vocabulary and expressions.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown, <i>English Firsthand 1</i>, Fifth Edition, Pearson</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 Introduction to the course.</p> <p>Unit 1. Hobbies and interests . Self-introductions.</p> <p>第 2回 Unit 1. Pair talk . Using simple present . Unit review.</p> <p>第 3回 Unit 2. Appearance adjectives. Describing your friends.</p> <p>第 4回 Unit 2. Pair talk. Differences between have and be in simple present . Unit review.</p> <p>第 5回 Unit 3. Daily activities and routines. Making a date.</p> <p>第 6回 Unit 3. Pair talk. Using adverbs of frequency. Unit Review.</p> <p>第 7回 Unit 4. Locations. Negotiating with a parent.</p> <p>第 8回 Unit 4. Pair talk. Using prepositions with there is and there are. Unit review.</p> <p>第 9回 Unit 5. Giving directions. Asking for directions.</p> <p>第 10回 Unit 5. Pair talk. Using imperative form with prepositions. Unit review.</p> <p>第 11回 Unit 6. Important events in life, past experiences. Talk about a trip you took.</p> <p>第 12回 Unit 6. Pair talk. Using the past tense: irregular verbs. Unit review.</p> <p>第 13回 Unit 7. Types of Jobs. What do you do?</p> <p>第 14回 Unit 7. Pair talk. Using the simple present to ask about jobs and skills. Unit review</p> <p>第 15回 Course review.</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	In-class activities (40%) Final presentation (60%)		
実務経験について	I have been teaching this class since 2018.		

(注) 教職必修, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅱ(C)	担当者	ジョン・トレマーコ John Tremarco
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後
		[必修/選択]	必修(注) [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Everyday Conversation.</p> <p>【概要】 This course will build upon the students' previous studies. They will practice everyday conversation and review the basic grammar needed to engage in those conversation.</p> <p>【到達目標】 To improve students' conversational skills.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) English with Hit Songs, Author(s): T. Kadoyama & S. Capper Publisher: Seibido (2)		
授業スケジュール	第 1 回 Introduction and Orientation Explanation of course aims, tests, evaluation methods and teacher expectations. (導入ーコースの目標についての説明) 第 2 回 Unit 1: My heart will go on 第 3 回 Unit 2: Open arms 第 4 回 Unit 3: Life 第 5 回 Unit 4: Don't look back in anger 第 6 回 Unit 5: A whole new world 第 7 回 Unit 6: I don't want to miss a thing 第 8 回 Unit 7: Review Unit 1 第 9 回 Unit 8: The stranger 第 10 回 Unit 9: Hey Now 第 11 回 Unit 10: Every time I close my eyes 第 12 回 Unit 11: Kiss of life 第 13 回 Unit 12: All I want for Christmas is you 第 14 回 Unit 13: Livin'la vida loca 第 15 回 Unit 14: Review of Unit 2 and Course Review; followed by an end of term test in week 16		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Classroom Contribution 20% Groupwork/Homework 40% Final Test 40%		

(注) 教職必修, 食物栄養専攻

授業科目	英語Ⅱ(C)	担当者	内尾ホープ
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	
		[必修/選択]	必修(注) [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 The textbook contains reading, listening and speaking exercises on various topics. The main objective is for students to develop their listening, speaking and writing skills.</p> <p>【概要】 Students will mainly practice listening to and speaking English.</p> <p>【到達目標】 The emphasis will be on improving listening, speaking and writing skills.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) English Firsthand 1 by Marc Helgesen, Steve Brown and John Wiltshier (Longman Pearson) (2)		
授業スケジュール	第 1 回 (Unit 0 / Unit 1): (It's Nice to meet you) Introduction (listening, speaking and writing) 第 2 回 (Unit 1): (listening, speaking and writing) 第 3 回 (Unit 1 and Unit 2): (Who are they talking about?) (Listening, speaking and writing) 第 4 回 (Unit 2 and Unit 3): (When do you start?) (Listening, speaking and writing) 第 5 回 (Unit 3 and Unit 4): (Where does this go?) (Listening, speaking and writing) 第 6 回 (Unit 5): (How do I get there?) (Listening, speaking and writing) 第 7 回 (Unit 5 and Unit 6): (What happened?) (Listening, speaking and writing) 第 8 回 (Unit 6) and Review Unit and test 第 9 回 (Review Unit and Unit 7): (I'd love that job) (Listening, speaking and writing) 第 10 回 (Unit 7 and Unit 8): (What's playing?) (Listening, speaking and writing) 第 11 回 (Unit 8 and Unit 9): (What are you going to do?) (Listening, speaking and writing) 第 12 回 (Unit 9 and Unit 10): (How much is this?) (Listening, speaking and writing) 第 13 回 (Unit 10 and Unit 11): (How do you make it?) (Listening, speaking and writing) 第 14 回 (Unit 11 and Unit 12): (Listen to the music) (Listening, speaking and writing) 第 15 回 (Unit 12 and Review Unit): (Listen to the music) (Listening, speaking and writing)		
授業外学習(予習・復習)	A short homework assignment will be assigned each week.		
成績評価の方法	Homework and short quizzes: 20% Midterm: 30% Final Exam: 50%		

(注) 教職必修, 食物栄養専攻

授業科目	英語Ⅱ(D) 月曜3限	担当者	グレゴリー・ダン Gregory Dunne		
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後		
		[必修/選択]	必修(注)	[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course aims to develop the listening and speaking proficiency of students through the study and use of English in everyday situations. The topics in each unit reflect the kinds of situations students come across both when studying in Japan and abroad.</p> <p>【概要】 Each unit will include a variety of listening and speaking activities designed to improve the students ability to comprehend spoken English and to use English in short conversation and brief presentations.</p> <p>【到達目標】 Emphasis will be placed on developing the students ability, and confidence, to speak smoothly and naturally while engaging in short conversations.</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Listen Up, Talk Back, Book 1. English for Everyday Communication by Gillian Flaherty (Seibido Press) (2)				
授業スケジュール	第1回 Introduction of the course and key topics 第2回 Meeting New People 第3回 Home 第4回 Family 第5回 Transportation in the City 第6回 Shopping 第7回 Celebrations 第8回 Review Quiz 第9回 Volunteering 第10回 Staying Well 第11回 Pets 第12回 Free Time Activities 第13回 Music 第14回 Review of key units in class groups 第15回 Final Oral Review Practice in pairs				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	Short Presentations 30% Homework 20% Short Vocabulary Tests 10% Mid Term Quiz 20% Final Oral Quiz 20%				

(注) 経済専攻、経営情報専攻

授業科目	英語Ⅱ(D)	担当者	ルイーザ・ケネディ・中村 Louise Kennedy Nakamura		
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後		
		[必修/選択]	必修(注)	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is an everyday conversation course to help students to develop confidence in speaking and develop their listening, vocabulary and grammar skills.</p> <p>【概要】</p> <p>【到達目標】</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Materials will be supplied by the teacher (2)				
授業スケジュール	第1回 Introduction to the class 第2回 Getting to know the classmates 第3回 Daily Routines 第4回 Describing Appearance 第5回 Describing Appearance 第6回 Clothes / Fashion 第7回 Personality Traits 第8回 Review 第9回 Making Requests 第10回 Hobbies / Interests 第11回 Movies 第12回 Movies 第13回 Travel Plans 第14回 Travel Plans 第15回 Review				
授業外学習(予習・復習)	Students should review classroom materials ; utilize online ESL listening websites.				
成績評価の方法	Grade : test×2 = 50% Homework, quizzes and class participation = 50%				

(注) 経済専攻、経営情報専攻

授業科目	英語Ⅱ(D) 月曜4限	担当者	グレゴリー・ダン Gregory Dunne		
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後		
		[必修/選択]	必修(注)	[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course aims to develop the listening and speaking proficiency of students through the study and use of English in everyday situations. The topics in each unit reflect the kinds of situations students come across both when studying in Japan and abroad.</p> <p>【概要】 Each unit will include a variety of listening and speaking activities designed to improve the students ability to comprehend spoken English and to use English in short conversation and brief presentations.</p> <p>【到達目標】 Emphasis will be placed on developing the students ability, and confidence, to speak smoothly and naturally while engaging in short conversations.</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Listen Up, Talk Back, Book 1. English for Everyday Communication by Gillian Flaherty (Seibido Press)</p> <p>(2)</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回 Introduction of the course and key topics</p> <p>第 2回 Meeting New People</p> <p>第 3回 Home</p> <p>第 4回 Family</p> <p>第 5回 Transportation in the City</p> <p>第 6回 Shopping</p> <p>第 7回 Celebrations</p> <p>第 8回 Review Quiz</p> <p>第 9回 Volunteering</p> <p>第10回 Staying Well</p> <p>第11回 Pets</p> <p>第12回 Free Time Activities</p> <p>第13回 Music</p> <p>第14回 Review of key units in class groups</p> <p>第15回 Final Oral Review Practice in pairs</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	Short Presentations 30% Homework 20% Short Vocabulary Tests 10% Mid Term Quiz 20% Final Oral Quiz 20%				

(注) 経済専攻、経営情報専攻

授業科目	英語Ⅱ(D)	担当者	トレマーコ・ジョン		
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後		
		[必修/選択]	必修(注)	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Everyday Conversation.</p> <p>【概要】 This course will build upon the students' previous studies. They will practice everyday conversation and review the basic grammar needed to engage in those conversations. If attitudes and abilities allow it, we will endeavour to introduce the business side of music into the classroom activities.</p> <p>【到達目標】 To improve students' English communication skills.</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) English with Hit Songs, Author(s): T. Kadoyama & S. Capper Publisher: Seibido</p> <p>(2)</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回 Introduction and Orientation Explanation of course aims, tests, evaluation methods and teacher expectations. (導入ーコースの目標についての説明)</p> <p>第 2回 Unit 1: My heart will go on</p> <p>第 3回 Unit 2: Open arms</p> <p>第 4回 Unit 3: Life</p> <p>第 5回 Unit 4: Don't look back in anger</p> <p>第 6回 Unit 5: A whole new world</p> <p>第 7回 Unit 6: I don't want to miss a thing</p> <p>第 8回 Unit 7: Review 1</p> <p>第 9回 Unit 8: The stranger</p> <p>第10回 Unit 9: Hey Now</p> <p>第11回 Unit 10: Every time I close my eyes</p> <p>第12回 Unit 11: Kiss of life</p> <p>第13回 Unit 12: All I want for Christmas is you</p> <p>第14回 Unit 13: Livin' la vida loca</p> <p>第15回 Unit 14: Review 2 and Course Review; followed by an end of term test in week 16</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	Classroom Contribution 20% Groupwork/Homework 40% Final Test 40%				

(注) 経済専攻、経営情報専攻

授業科目	英語 III (A)	担当者	James Murray ジェイムズ・マレー
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後・メール
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is a course for practicing all skills in English: Reading, Writing, Listening, Speaking, and Comprehension.</p> <p>【概要】 Lectures will teach vocabulary, phrases, and grammar that is used in everyday English conversation. Students will learn useful English for introductions, expressing emotions, making excuses and explanations, etc. Relaxed group discussions will give students the chance to use what they are learning, and to improve their confidence when communicating.</p> <p>【到達目標】 The aim of this course is to learn the basic skills of English used in everyday life, and to improve confidence in communicating and expressing oneself.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Helgesen, Wiltshier, Brown 「English Firsthand 2」 (Fifth Edition) Pearson, 2018 (ISBN: 9789813130234) (2)		
授業スケジュール	第 1 回 Unit 1: Introductions and Relationships 第 2 回 Unit 1: Using Simple past; Simple present; Present perfect; Present Continuous 第 3 回 Unit 2: Feelings and Emotions 第 4 回 Unit 2: Using Conditionals; Adjectives for emotions 第 5 回 Quiz (1) and Discussion 第 6 回 Unit 3: Making Recommendations 第 7 回 Unit 3: Comparatives and Superlatives to describe places; Amplifiers for comparisons 第 8 回 Unit 4: Sharing opinions; Agreeing and Disagreeing 第 9 回 Unit 4: Using Superlatives to describe events; Tag questions 第 10 回 Quiz (2) and Discussion 第 11 回 Unit 5: Excuses and Requests; Accepting and Refusing 第 12 回 Unit 5: Using Could and Would; Using clauses in complex sentences 第 13 回 Unit 6: Culture differences; Symbols 第 14 回 Unit 6: Using wh~ questions; Relative pronouns 第 15 回 Final Exam		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Class participation 授業での参加の度合 (25%), Tests 試験 (50%), Homework 宿題 (25%)		
実務経験について			

(注)食物栄養専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅲ (B) 木曜 4 限	担当者	グレゴリー・ダン Gregory Dunne, PhD.
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後
		[必修/選択]	必修 (注) [授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course focuses on the use of conversational English while developing the students' ability to express opinions and engage in short discussions. The units covered relate to types of situations and challenges learners encounter in everyday life.</p> <p>【概要】 Students will listen to short conversations, practice short conversations, and develop/create their own conversations. They will learn how to express their opinions and engage in short discussions related to the topics encountered in the text.</p> <p>【到達目標】 This course aims to develop the students overall proficiency in the use of everyday conversational English while enhancing their ability to confidently express their own opinions on a variety of topics.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Discuss the Changing World, Seibido (2)		
授業スケジュール	第 1 回 Introduction to the Course 第 2 回 Artificial Intelligence: How will Humans Live with AI? 第 3 回 Business: The Sharing Economy 第 4 回 Food Waste: Food Waste and Consumers 第 5 回 Environmental Problems: 第 6 回 Space Exploration: Will Space Benefit Our Future? 第 7 回 Immigration: Foreign Residents in Japan 第 8 回 Review 1 第 9 回 Culture: Entertainment 第 10 回 Science: The New Agricultural Revolution 第 11 回 The Aging Society: Elderly Drivers 第 12 回 DNA: Advances in DNA Technology 第 13 回 Relationship with Other Countries: Trade War 第 14 回 Right to be Forgotten: Privacy and Freedom of Expression 第 15 回 Review		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Role plays and Skits: 30% Homework: 15% Quizzes: 25% Final Project (Oral) 30%		
実務経験について	Pair work, small group discussion, role plays, short presentations		

(注)食物栄養専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅲ (C)	担当者	金岡 正夫
	[履修年次] 1年、2年 [学期] 後期 [単位] 1 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習	授業外対応	授業終了後
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語を使い、自分について、大学生の視点から幅広く、奥深く説明していく学習体験に取り組む。それと関連して、英語圏や欧米の大学生たちが自分づくり（人間形成）にむけて大切にしている部分（内面性）も参考情報として学習していく。</p> <p>【到達目標】自分の姿をより豊かに表現できる語彙を自分で判断しながら獲得し、構築していく。その英文を正しく発音し、効果的なスピーキング（プレゼンテーション）ができるようにする。英語の技能獲得だけでなく、海外の大学生たちの生き方や価値観、人生観について理解を深める。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 杉田由仁ほか著「パラグラフ・ライティング基礎演習」（成美堂）ISBN 978-4-7919-4629-7 プリント</p> <p>(2) 特になし</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 米国の大学入試問題（エッセイ）が重視すること</p> <p>第3回 米国の大学教育で伝統的に重視する点とその理由</p> <p>第4回 英国の大学入試問題で試されること</p> <p>第5回 英国の大学生がもっているこだわり、信念など</p> <p>第6回 フランスの大学入学試験の独自性とその背景</p> <p>第7回 日本の大学教育と欧米の大学教育との違いとその背景</p> <p>第8回 まとめ</p> <p>第9回 自分の人生軸を語る（過去）<1> ライティング、音読、発話技法</p> <p>第10回 自分の人生軸を語る（過去）<2> 同上</p> <p>第11回 自分の人生軸を語る（現在）<1> 同上</p> <p>第12回 自分の人生軸を語る（現在）<2> 同上</p> <p>第13回 自分の人生軸を語る（近未来）<1> 同上</p> <p>第14回 自分の人生軸を語る（近未来）<2> 同上</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示します		
成績評価の方法	提出物（40%）、予習課題を使った授業への貢献（20%）、発表（40%）		
実務経験について			

(注)食物栄養専攻，生活科学専攻

授業科目	英語Ⅲ (D) 木曜4限	担当者	グレゴリー・ダン Gregory Dunne, PhD.
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 後期 [単位] 1 [必修/選択] 必修 (注) [授業形態] 演習方式	授業外対応	授業終了後
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course focuses on developing the student's ability to talk about topics related to science and nutrition and to comprehend related listening and written activities</p> <p>【概要】 Students will listen to short talks, read the talks for comprehension and practice short conversations related to them. Students will have opportunities to develop/create their own conversations related to the topics. The topics encountered in the text will be discussed and students will have the opportunity to offer their opinions concerning them.</p> <p>【到達目標】 This course aims to develop the students overall proficiency in the use of English related to science and nutrition while enhancing their ability to confidently express their own opinions related to the various topics encountered in the classroom. This course will improve the student knowledge and use of vocabulary related to science and nutrition.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) AFP World Focus: Environment, Health, and Technology</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 Introductions</p> <p>第2回 Global Warming and Climate Change</p> <p>第3回 Diet and Health for Long Lives</p> <p>第4回 Self-Driving for the Future</p> <p>第5回 Sustaining Biodiversity and Protecting Species</p> <p>第6回 IT and Education</p> <p>第7回 Garbage Problems</p> <p>第8回 Eating Disorders</p> <p>第9回 Ecotourism and Protection of the Natural Habitat</p> <p>第10回 Health Check</p> <p>第11回 Saving Food Waste</p> <p>第12回 Climate Change, Drought, and Water Use</p> <p>第13回 Protection from Natural Disasters</p> <p>第14回 3D Printers for Creating Body Parts</p> <p>第15回 Review</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Role plays and Skits: 30% Homework: 15% Quizzes: 25% Final Project (Oral) 30%		
実務経験について	Pair work, small group discussion, role plays, short presentations		

(注)日本語日本文学専攻，経済専攻，経営情報専攻

授業科目	英語Ⅲ (E) 木曜4限	担当者	グレゴリー・ダン Gregory Dunne, PhD.
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course focuses on the use of conversational English in everyday settings and situations. It provides the students with many opportunities to develop their listening skills, conversational skills, and vocabulary knowledge.</p> <p>【概要】 Students will listen to short conversations, practice short conversations, and develop/create their own conversations. Student will create role plays and perform them before the class.</p> <p>【到達目標】 This course aims to develop the students overall proficiency in the use of conversational English. By giving the students many opportunities to practice their English (in pairs, small groups, and before the class) the course aims to strengthen the students confidence in the use of English.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Listen to this! (Intermediate) by James Bean with Gillian Flaherty; (Seibido Press)</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 Introduction to the course and key topics. "Please leave a message"</p> <p>第2回 You need a break!</p> <p>第3回 I think we're lost</p> <p>第4回 Where did you grow up?</p> <p>第5回 It's a goal!</p> <p>第6回 Sightseeing</p> <p>第7回 TV violence</p> <p>第8回 I'd like to return this</p> <p>第9回 What a great vacation!</p> <p>第10回 Can you help me with my essay?</p> <p>第11回 What happens to our trash?</p> <p>第12回 I feel terrible</p> <p>第13回 Future plans</p> <p>第14回 I disagree!</p> <p>第15回 Review and Conversational Practice</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Role plays and Skits: 30% Homework: 15% Quizzes: 25% Final Project (Oral) 30%		
実務経験について	Pair work, small group discussion, role plays, short presentations		

(注)日本語日本文学専攻, 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅲ (F)	担当者	新福 豊実
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	授業開始前、あるいは終了時、他の時間帯は要予約
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 英語を「読む」「聞く」「話す」「書く」技能の基礎を確認し、リスニングおよびスピーキング能力の向上を図る。</p> <p>【概要】 日常の様々な場面を想定し、ペアワークやグループワークで基本的な会話の練習を行い、コミュニケーション能力の向上を目指す。あわせて、リスニング、発音、文法を総合的に学習しバランスの取れた英語力を養成する。</p> <p>【到達目標】 日常の様々な場面で、相手の発言を理解し、英語で的確に回答することができる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Marc Helgesen et al. 『English Firsthand (5th Edition) Level 1』 Pearson Longman</p> <p>(2) 授業時に適宜指示する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 Class overview: Learning goals and strategies (Unit zero)</p> <p>第2回 Meeting people/introducing yourself. (Unit 1)</p> <p>第3回 Describing people - personality and character (Unit 2)</p> <p>第4回 Schedules and frequency - personal schedule (Unit 3)</p> <p>第5回 Stating locations - describing differences between two places (Unit 4)</p> <p>第6回 Giving directions - following map directions (Unit 5)</p> <p>第7回 Describing personal experiences (Unit 6)</p> <p>第8回 Review I</p> <p>第9回 Abilities and interests - exchanging job skills information (Unit 7)</p> <p>第10回 Invitations and preferences - identifying entertainment information (Unit 8)</p> <p>第11回 Future plans and predictions - identifying vacation plans and activities (Unit 9)</p> <p>第12回 Shopping - understanding prices and inferring shopping decisions (Unit 10)</p> <p>第13回 Describing processes - food and cooking (Unit 11)</p> <p>第14回 Music - Giving opinions about music (Unit 12)</p> <p>第15回 Review II</p>		
授業外学習(予習・復習)	毎時、配布される復習課題に取り組むこと。その他の授業外学習については毎時、具体的に指示する。		
成績評価の方法	期末試験 (40%) 復習テスト (30%) 課題 (20%) ポートフォリオ (10%)		
実務経験	なし		

(注)日本語日本文学専攻, 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅲ (G)	担当者	ルーズ・ケネディ・中村 Louise Kennedy Nakamura
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 後期 [単位] 1 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習	授業外対応	授業終了後
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is an everyday English communications course. It will build help to improve students' English speaking and listening skills, along with their confidence and willingness to speak English.</p> <p>【概要】</p> <p>【到達目標】</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Materials will be supplied by the teacher (2)		
授業スケジュール	第 1回 Introduction to the class 第 2回 Vacations 第 3回 Last Weekend 第 4回 Food 第 5回 Food 第 6回 Jobs 第 7回 Jobs 第 8回 Review 第 9回 Health 第10回 Giving Advice 第11回 Christmas 第12回 Rules / Obligation 第13回 Rules / Obligation 第14回 Future Plans 第15回 Review		
授業外学習(予習・復習)	Students should review classroom materials ; utilize online ESL listening websites		
成績評価の方法	Grade : test×2 = 50% Homework, quizzes and class participation = 50%		

(注) 日本語日本文学専攻, 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅲ (H)	担当者	ルーズ・ケネディ・中村 Louise Kennedy Nakamura
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 後期 [単位] 1 [必修/選択] 選択 (注) [授業形態] 演習	授業外対応	授業終了後
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is an everyday English communications course. It will build help to improve students' English speaking and listening skills, along with their confidence and willingness to speak English.</p> <p>【概要】</p> <p>【到達目標】</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Materials will be supplied by the teacher (2)		
授業スケジュール	第 1回 Introduction to the class 第 2回 Vacations 第 3回 Last Weekend 第 4回 Food 第 5回 Food 第 6回 Jobs 第 7回 Jobs 第 8回 Review 第 9回 Health 第10回 Giving Advice 第11回 Christmas 第12回 Rules / Obligation 第13回 Rules / Obligation 第14回 Future Plans 第15回 Review		
授業外学習(予習・復習)	Students should review classroom materials ; utilize online ESL listening websites		
成績評価の方法	Grade : test×2 = 50% Homework, quizzes and class participation = 50%		

(注) 日本語日本文学専攻, 経済専攻, 経営情報専攻

授業科目	英語Ⅳ (A)	担当者	Nikolay Gyulemetov ギュレメトヴ・ニコライ		
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位]	授業外対応	授業終了後	[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中級レベルの英語をつかひながら自分の意見を伝えること。</p> <p>Expressing your opinion about different topics in English.</p> <p>【概要】様々なトピックについて考えて、話し合っ、発表して、自分のコミュニケーション力を強める。 教科書、映像、プリントなどをつかう。</p> <p>We will use the textbook, handouts and videos in our class and discussions.</p> <p>【到達目標】グループワークや発表による英語コミュニケーションのスキルアップ。文法、語彙、聞き取り・読解の練習をしながら discussion を行います。</p> <p>Our goal is to practice grammar, vocabulary, reading and listening in order to improve our communication skills.</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 未定 (プリントを配布する場合もある) (2)				
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション・説明 Orientation and objectives</p> <p>第 2 回 クラスワーク (文法、語彙) Grammar and vocabulary</p> <p>第 3 回 クラスワーク (発表をする方法) Making a presentation</p> <p>第 4 回 グループワーク 1 Group work, preparation for presentation</p> <p>第 5 回 グループ発表 1 First presentation</p> <p>第 6 回 クラスワーク (コミュニケーション力) Communication skill</p> <p>第 7 回 クラスワーク (ディスカッション力) Discussion skill</p> <p>第 8 回 クラスワーク (スピーチ力) Speech skill</p> <p>第 9 回 グループワーク 2 Group work, preparation for presentation</p> <p>第 10 回 グループ発表 2 Second presentation</p> <p>第 11 回 クラスワーク (classmate のインタビュー) Interview your classmate!</p> <p>第 12 回 クラスワーク (文法、語彙) Grammar and vocabulary 2</p> <p>第 13 回 クラスワーク (聞き取り・読解力) Listening and Reading skills</p> <p>第 14 回 クラスワーク (コース復習) Revision of all topics covered.</p> <p>第 15 回 まとめ (Final worksheet/Revision)</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験 (60%) + グループ発表 30 + 作文 (宿題-10%) を基準に、総合的に評価する。				
実務経験について					

(注)日本文学専攻, 食物栄養専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅳ(B)	担当者	トレマーコ・ジョン		
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Everyday Conversation.</p> <p>【概要】 This course will build upon the students' previous studies. They will practice everyday conversation and review the basic grammar needed to engage in those conversation.</p> <p>【到達目標】 To improve students' conversational skills.</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) English with Pop Hits; Author(s): T. Kadoyama & S. Capper Publisher: Seibido (2)				
授業スケジュール	<p>第 1 回 Introduction and Orientation Explanation of course aims, tests, evaluation methods and teacher expectations. (導入-コースの目標についての説明)</p> <p>第 2 回 Unit 1: Complicated</p> <p>第 3 回 Unit 2: SOS</p> <p>第 4 回 Unit 3: You are not alone</p> <p>第 5 回 Unit 4: Don't want to lose you</p> <p>第 6 回 Unit 5: How crazy are you</p> <p>第 7 回 Unit 6: Sunday Morning</p> <p>第 8 回 Unit 7: Review Unit 1</p> <p>第 9 回 Unit 8: I want ti that way</p> <p>第 10 回 Unit 9: Suddenly I see</p> <p>第 11 回 Unit 10: How am I supposed to live without you</p> <p>第 12 回 Unit 11: Save the best for Last</p> <p>第 13 回 Unit 12: Torn</p> <p>第 14 回 Unit 13: La La means I love you</p> <p>第 15 回 Unit 14: Review of Unit 2 and Course Review; followed by an end of term test in week 16</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	Classroom Contribution 20% Groupwork/Homework 40% Final Test 40%				

(注)日本文学専攻, 食物栄養専攻, 生活科学専攻

授業科目	英語Ⅳ(C)	担当者	グレゴリー・ダン Gregory Dunne		
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後		
		[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course aims to develop the listening and speaking proficiency of students through the study and use of English in everyday situations. The course also aims to encourage the students' creativity in developing conversations of their own. The topics in each unit reflect the kinds of situations students come across both when studying in Japan and abroad.</p> <p>【概要】 Each unit will include a variety of listening and speaking activities designed to improve the students ability to comprehend spoken English and to use English with confidence in conversation and brief presentations. Students will also have the opportunity to create their own conversations, communicating more freely within the language structures being introduced in class.</p> <p>【到達目標】 Emphasis will be placed on developing the students ability and confidence to speak smoothly and naturally while engaging in short conversations.</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Listen Up, Talk Back, Book 2. English for Everyday Communication by Gillian Flaherty (Seibido Press) (2)				
授業スケジュール	第 1回 Introduction of the course and key topics 第 2回 Campus Life 第 3回 Health Care 第 4回 My Favorite Things 第 5回 International Travel 第 6回 Weather 第 7回 Education 第 8回 Review Quiz 第 9回 Exploring a New City 第 10回 Learning English 第 11回 Money 第 12回 The Environment 第 13回 News 第 14回 Review of key units in class groups 第 15回 Final Oral Review Practice in pairs				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	Short Presentations 30% Homework 20% Short Vocabulary Tests 10% Mid Term Quiz 20% Final Oral Quiz 20%				

(注) 経済専攻、経営情報専攻

授業科目	英語Ⅳ(D)	担当者	米村 大輔		
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	適宜対応		
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 英語の基本4技能を養いつつ、現代のビジネスモデルについて考える。</p> <p>【概要】 英語の基本4技能を駆使しながら、現代の世相を反映したビジネスモデルについて概観する。各自オリジナルのビジネスモデルを作成し、英語で発表を行う。</p> <p>【到達目標】 現代社会における様々なシーンにおいて英語の情報を正確に読み(聞き)取ることができる。ビジネスに関わるボキャブラリーを使いながら自分のアイデアを英語で効果的に伝えることができる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Jonathan Lynch 委文光太郎 著 『Global Pathways』 (2) 適宜紹介				
授業スケジュール	第 1回 Gig Work 第 2回 Your Boss is from Overseas 第 3回 Bitcoin 第 4回 Working from Home 第 5回 Kickstarter 第 6回 Esports 第 7回 Unicorns 第 8回 How do Modern Musicians Make Money? 第 9回 Space Business 第 10回 Going Cashless from a Business's Perspective 第 11回 Workations 第 12回 The Future of "Hanko" プレゼンテーションスキル1 第 13回 Subscription Services プレゼンテーションスキル2 第 14回 Japanese High-End Denim Industry プレゼンテーションスキル3 第 15回 プレゼンテーション & 振り返り				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。				
成績評価の方法	筆記試験(30%)、振り返りシート(20%)、授業での取り組み(20%)、プレゼンテーション(30%)				

(注) 経済専攻、経営情報専攻

授業科目	英語 IV (E)		担当者	金岡 正夫
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	授業終了後
	〔学期〕	前期	〔単位〕	1
			〔必修/選択〕	必修
			〔授業形態〕	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語を使い、自分について、大学生の視点から幅広く、奥深く説明していく学習体験に取り組む。それと関連して、英語圏や欧米の大学生たちが自分づくり（人間形成）にむけて大切にしている部分（内面性）も参考情報として学習していく。</p> <p>【到達目標】自分の姿をより豊かに表現できる語彙を自分で判断しながら獲得し、構築していく。その英文を正しく発音し、効果的なスピーキング（プレゼンテーション）ができるようにする。英語の技能獲得だけでなく、海外の大学生たちの生き方や価値観、人生観について理解を深める。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 杉田由仁ほか著「パラグラフ・ライティング基礎演習」（成美堂）ISBN 978-4-7919-4629-7</p> <p>(2) 特になし</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション</p> <p>第 2 回 米国の大学入試問題（エッセイ）が重視すること</p> <p>第 3 回 米国の大学教育で伝統的に重視する点とその理由</p> <p>第 4 回 英国の大学入試問題で試されること</p> <p>第 5 回 英国の大学生がもっているこだわり、信念など</p> <p>第 6 回 フランスの大学入学試験の独自性とその背景</p> <p>第 7 回 日本の大学教育と欧米の大学教育との違いとその背景</p> <p>第 8 回 まとめ</p> <p>第 9 回 自分の人生軸を語る（過去）<1> ライティング、音読、発話技法</p> <p>第 10 回 自分の人生軸を語る（過去）<2> 同上</p> <p>第 11 回 自分の人生軸を語る（現在）<1> 同上</p> <p>第 12 回 自分の人生軸を語る（現在）<2> 同上</p> <p>第 13 回 自分の人生軸を語る（近未来）<1> 同上</p> <p>第 14 回 自分の人生軸を語る（近未来）<2> 同上</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示します			
成績評価の方法	提出物（40%）、予習課題を使った授業への貢献（20%）、発表（40%）			
実務経験について	なし			

(注) 経済専攻、経営情報専攻

授業科目	英語Ⅳ（F）		担当者	轟 義昭
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応
	〔学期〕	前期	〔単位〕	1
			〔必修/選択〕	選択(注)
			〔授業形態〕	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英検2級の取得に向けて、語彙力を増やし、英文法を再確認し、長文読解のコツを身に付けて、英語学習への意欲を高める。</p> <p>【概要】授業では、高校で学習した英文法の基礎知識を再確認させます。テキストは毎回1章ずつ進むので、予習が必要です。担当者はプリントを用いてヒントを与え、受講者自身に間違った箇所をチェックさせます。その上で解説を試みます（学習意欲を高める工夫）。また、LL教室を利用し、リスニング問題にも取り組めるようにします。</p> <p>【到達目標】英検2級を取得できるような英語力を身に付ける。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 坂部俊行、岡島徳昭、W.ノエル『英検2級 合格への道』南雲堂</p> <p>(2) 適宜、プリントによる問題も配布</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション（授業の進め方の説明）、プリント学習（受講生のレベルを確認）</p> <p>第 2 回 Lesson 1（語句空所補充、短文中の語句整序、長文の語句空所補充と内容一致選択、会話の応答文選択）</p> <p>第 3 回 Lesson 2（語句空所補充、短文中の語句整序、長文の内容一致選択、会話の内容一致選択）</p> <p>第 4 回 Lesson 3（語句空所補充、短文中の語句整序、長文の語句空所補充と内容一致選択、会話の応答文選択）</p> <p>第 5 回 Lesson 4（語句空所補充、短文中の語句整序、長文の語句空所補充と内容一致選択、会話の内容一致選択）</p> <p>第 6 回 Lesson 5（語句空所補充、短文中の語句整序、長文の内容一致選択、会話の応答文選択）、<u>小テスト（1回目）</u></p> <p>第 7 回 Lesson 6（語句空所補充、短文中の語句整序、長文の語句空所補充と内容一致選択、会話の内容一致選択）</p> <p>第 8 回 Lesson 7（語句空所補充、短文中の語句整序、長文の語句空所補充と内容一致選択、会話の応答文選択）</p> <p>第 9 回 Lesson 8（語句空所補充、短文中の語句整序、長文の内容一致選択、会話の内容一致選択）</p> <p>第 10 回 Lesson 9（語句空所補充、短文中の語句整序、長文の語句空所補充と内容一致選択、会話の応答文選択）、<u>小テスト（2回目）</u></p> <p>第 11 回 Lesson 10（語句空所補充、短文中の語句整序、長文の語句空所補充と内容一致選択、会話の内容一致選択）</p> <p>第 12 回 Lesson 11（語句空所補充、短文中の語句整序、長文の語句空所補充と内容一致選択、会話の応答文選択）</p> <p>第 13 回 Lesson 12（語句空所補充、短文中の語句整序、長文の語句空所補充と内容一致選択、会話の内容一致選択）</p> <p>第 14 回 実践形式の練習：筆記とリスニング、<u>小テスト（3回目）</u></p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習は各課の問題を解いて授業に臨む準備、復習は小テストの準備			
成績評価の方法	筆記試験（40%）、予習および小テストを含む授業への取り組み（60%）			
実務経験について	なし			

(注) 全専攻の学生が選択可能

授業科目	英語 IV(G)	担当者	遠峯伸一郎
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位	授業外対応	講義前後に適宜対応
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】文法にもとづいた英文解釈の技法を学ぶ。</p> <p>【概要】英文解釈の練習を通して、文法にもとづく英文解釈の技法を学ぶ。</p> <p>【到達目標】構文と論理展開を手がかりにして英文を正確に読めるようになる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 初回の授業で紹介する。</p> <p>(2) 随時紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス</p> <p>第 2回 ピダハンの子育て (1)</p> <p>第 3回 ピダハンの子育て (2)</p> <p>第 4回 ピダハンの子育て (3)</p> <p>第 5回 ピダハンの子育て (4)</p> <p>第 6回 高校生の MeToo (1)</p> <p>第 7回 高校生の MeToo (2)</p> <p>第 8回 高校生の MeToo (3)</p> <p>第 9回 高校生の MeToo (4)</p> <p>第 10回 高校生の MeToo (5)</p> <p>第 11回 ソフィーの世界 (1)</p> <p>第 12回 ソフィーの世界 (2)</p> <p>第 13回 ソフィーの世界 (3)</p> <p>第 14回 ソフィーの世界 (4)</p> <p>第 15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習 2時間以上, 復習 1時間以上必要である。		
成績評価の方法	試験 (60%) + 課題 (30%) + 授業への参加状況 (10%)		
実務経験について	なし		

(注) 全専攻の学生が選択可能

授業科目	異文化コミュニケーション(英語)		担当者	英語担当教員全員	
	[履修年次]	1, 2年いずれでも履修可	[学期]	通年	
	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生きた英語の運用能力を高める。</p> <p>【概要】ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジで研修を行う。授業は英語研修とハワイ文化研修から成り立ち、滞在期間中、基礎的な生活英語とハワイの文化習慣などについて直接体験する。</p> <p>2019年度の実績 日程：9月4日～9月17日 参加者：31名 研修費用：約38万円（授業料、往復航空運賃、宿泊費、平日の朝・昼食費等）</p> <p>【到達目標】英語運用能力を高めるだけでなく、ハワイの文化を学び、多文化が共生するハワイで「国際化」「グローバル化」の意味を自らの実体験を通して考え、理解する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) ハワイ大学附属カピオラニ・コミュニティ・カレッジの担当教員が指示 (2)				
授業スケジュール	<p>事前指導： 特設時間を利用して受講希望者に3～4回行う。ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジでの研修内容の説明、パスポートの取得方法など、海外渡航に伴うさまざまな必要事項の説明、課題（研修中の日記、研修後のレポート作成）の指示など。</p> <p>海外研修： 9月を予定（約2週間）。現地の大学では、午前中に英語の授業、午後にはハワイ文化に関する授業（フラダンス）、KCC学生との異文化交流。その他、学外授業としてプランテーションヴィレッジ、イオラニ宮殿、真珠湾の見学。</p> <p>事後指導：帰国後に総括。</p>				
成績評価の方法	担当教員が課した課題（研修日誌・体験記）（50%）とハワイでの研修状況（50%）で評価する。				

授業科目	異文化コミュニケーション(中国語)		担当者	中国語担当教員全員	
	[履修年次]	1, 2年いずれでも可	授業外対応	メールで事前連絡すること	
	[学期]	通年	[単位]	2	[必修/選択]
				選択	[授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生きた中国語の運用能力を高める。</p> <p>【概要】南京農業大学国際教育学院で研修を行います。南京農業大学国際教育学院は、わたしたち県立短大と交流協定を結んでいる中国の大学です。この科目は、中国語研修と中国文化研修から成り立ちます。中国滞在期間中、基礎的な実用中国語を習得し、さらに、南京農業大学の学生と交流し、中国の文化習慣などについて直接体験します。</p> <p>中国語を用いて活動するため、あらかじめ「中国語Ⅰ」を受講または修得していることが履修条件になります。</p> <p>※2019年度中国研修の実績 ・日程：9月7日（土）～21日（土）[15日間] ・参加者：11名（日本語日本文学専攻3名、英語英文学専攻4名、経済専攻1名、経営情報専攻2名、第二部商経学科1名） ・費用：約16万円（ビザ、往復航空券、授業料、宿泊費、南京市内・市外の見学費用など）</p> <p>【到達目標】「国際化」の意味を自らの実体験を通して考え理解する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 南京農業大学国際教育学院の担当教員が指示します。 (2)				
授業スケジュール	<p>事前指導 受講希望者に3～5回行います。 [1] 南京農業大学国際教育学院での研修内容の説明、 [2] 海外渡航に伴うさまざまな事柄の説明、 [3] 課題（レポート作成）の指示などです。</p> <p>海外研修 休業期間に約2週間実施予定です。現地の大学で中国語の授業を受けます。そのほか、さまざまな活動を通じて中国の生活・文化に関する体験をします。さらに南京農業大学外国語学院日本語専攻の学生と交流します。</p> <p>事後指導 帰国後に総括します。</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	担当教員が課した課題（50%）、および中国での学習成果（50%）を基に成績を算出します。				
実務経験について	なし				

授業科目	ドイツ語Ⅰ		担当者	竹内 宏
	[履修年次]	1年	授業外対応	メールにて対応
	[学期]	前	[単位]	1
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現在ヨーロッパでは、EU（ヨーロッパ連合、つまりヨーロッパの統一）という歴史的な大実験が進行中で、ドイツはフランスとともにこの動きの中核をなす国の一つです。また、ドイツ語は1億2000万弱の母国語人口を擁し、ヨーロッパに限れば最大の言語とすることができます。このように、社会的・文化的に大きな影響力を持つ現代ドイツの事情に関する話を適宜盛り込みながら、ドイツ語を学習します。揺れるEUの行方、殺到する難民問題等のトピックも随時取り上げる予定です。</p> <p>【概要】ほとんどのの人にとっては初めて習う外国語ですが、「習うより慣れろ」をモットーに、授業は元気よく声を出して簡単な練習を何度も繰り返すやり方で進めます。</p> <p>【到達目標】1年間の学習で、自己紹介から日常生活の簡単な会話表現を身に付け、ドイツ語のしくみの概観を得ることが目標です。</p>			
(1)テキスト	(1) 荻野蔵平・Tobias Bauer 『青春はうるわし』 朝日出版社			
(2)参考文献	(2) 在間進 他『アクセス独和辞典』三修社			
授業スケジュール	第1回 ドイツ及びドイツ語圏について、文字、アルファベット 第2回 綴り字と発音の規則、発音練習 第3回 第1課 人称と動詞の現在人称変化、低動詞の位置、動詞 sein 第4回 第1課 第5回 第1課 第6回 第2課 名詞の性、定冠詞と不定冠詞、名詞の格変化、動詞 haben 第7回 第2課 第8回 第2課 第9回 第3課 名詞の複数形と格変化、男性弱変化名詞 第10回 第3課 第11回 第4課 不規則動詞、命令形、人称代名詞、動詞 werden 第12回 第4課 第13回 第4課 第14回 これまでの復習 第15回 復習と試験の説明			
授業外学習(予習・復習)	1回の授業につき、予習1時間、復習1時間が必要			
成績評価の方法	筆記試験80%、授業への参加状況20%			
実務経験について	通訳(法廷通訳を含む)、翻訳経験多数			

英語英文学専攻のみ

授業科目	ドイツ語Ⅱ		担当者	竹内 宏
	[履修年次]	2年	授業外対応	メールにて対応
	[学期]	後期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現在ヨーロッパでは、EU（ヨーロッパ連合、つまりヨーロッパの統一）という歴史的な大実験が進行中で、ドイツはフランスとともにこの動きの中核をなす国の一つです。また、ドイツ語は1億2000万弱の母国語人口を擁し、ヨーロッパに限れば最大の言語とすることができます。このように、社会的・文化的に大きな影響力を持つ現代ドイツの事情に関する話を適宜盛り込みながら、ドイツ語を学習します。揺れるEUの行方、殺到する難民問題等のトピックも随時取り上げる予定です。</p> <p>【概要】ほとんどのの人にとっては初めて習う外国語ですが、「習うより慣れろ」をモットーに、授業は元気よく声を出して簡単な練習を何度も繰り返すやり方で進めます。</p> <p>【到達目標】1年間の学習で、自己紹介から日常生活の簡単な会話表現を身に付け、ドイツ語のしくみの概観を得ることが目標です。</p>			
(1)テキスト	(1) 荻野蔵平・Tobias Bauer 『青春はうるわし』 朝日出版社			
(2)参考文献	(2) 在間進 他『アクセス独和辞典』三修社			
授業スケジュール	第1回 前期の復習 第2回 第5課 前置詞、前置詞と定冠詞の融合形 第3回 第5課 第4回 第5課 第5回 第6課 定冠詞類と不定冠詞類、否定の nicht と否定冠詞 kein 第6回 第6課 第7回 第7課 分離動詞と非分離動詞、副文、従属接続詞 第8回 第7課 第9回 第7課 第10回 第8課 話法の助動詞と未来形 第11回 第8課 第12回 第9課と10課 動詞の三基本形、過去形と現在完了、非人称の es 第13回 第9課と10課 第14回 これまでの復習 第15回 復習と試験の説明			
授業外学習(予習・復習)	1回の授業につき、予習1時間、復習1時間が必要			
成績評価の方法	筆記試験80%、授業への参加状況20%			
実務経験について	通訳(法廷通訳を含む)、翻訳経験多数			

英語英文学専攻のみ

授業科目	フランス語	担当者	梁川 英俊
	〔履修年次〕 英語英文学専攻は1年次、生活科学専攻は2年次	授業外対応	授業終了後
	〔学期〕 前期	〔単位〕 1	〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】フランス語の基礎を学びます。</p> <p>【概要】フランス語はフランスのみならず、ベルギー、スイス、カナダ、中東、アフリカ諸国など広い地域で話される国際語で、フランス語を公用語とする国は28カ国に及びます。フランス語はまた国連などの主要な国際機関でも公用語として使用されています。同じラテン語から派生したスペイン語、イタリア語、ポルトガル語などの共通点も多く、これらの言葉はフランス語を学ぶことにより学習が容易になります。また歴史的に英語に多くの語彙を提供し、英語の語彙の3分の1はフランス語に由来すると言われていています。もちろん、ファッションや料理を勉強する上でも欠かせない言葉です</p> <p>【到達目標】まずフランス語の発音をきちんとできるようになることが大事です。その上で、簡単な日常会話のフレーズも覚えれば楽しいでしょう。外国語はこまめな学習が大切です。こつこつやる習慣を身につけましょう！</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 『私だけのフランス語ノート』(朝日出版社)</p> <p>(2) 適宜指示する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 授業全体の説明、アルファベットの発音など</p> <p>第2回 Leçon 1</p> <p>第3回 Leçon 1</p> <p>第4回 Leçon 2</p> <p>第5回 Leçon 2</p> <p>第6回 Leçon 3</p> <p>第7回 Leçon 3</p> <p>第8回 Leçon 4</p> <p>第9回 Leçon 4</p> <p>第10回 Leçon 5</p> <p>第11回 Leçon 5</p> <p>第12回 Leçon 6</p> <p>第13回 Leçon 6</p> <p>第14回 まとめ 1</p> <p>第15回 まとめ 2</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験(70%)＋小テスト(30%)		

(注) 英語英文学専攻は1年次、生活科学専攻は2年次

授業科目	フランス語Ⅱ	担当者	梁川 英俊
	〔履修年次〕 英語英文学専攻は1年次、生活科学専攻は2年次	授業外対応	授業終了後
	〔学期〕 後期	〔単位〕 1	〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】フランス語の基礎を学びます。</p> <p>【概要】フランス語はフランスのみならず、ベルギー、スイス、カナダ、中東、アフリカ諸国など広い地域で話される国際語で、フランス語を公用語とする国は28カ国に及びます。フランス語はまた国連などの主要な国際機関でも公用語として使用されています。同じラテン語から派生したスペイン語、イタリア語、ポルトガル語などの共通点も多く、これらの言葉はフランス語を学ぶことにより学習が容易になります。また歴史的に英語に多くの語彙を提供し、英語の語彙の3分の1はフランス語に由来すると言われていています。もちろん、ファッションや料理を勉強する上でも欠かせない言葉です</p> <p>【到達目標】まずフランス語の発音をきちんとできるようになることが大事です。その上で、簡単な日常会話のフレーズも覚えれば楽しいでしょう。外国語はこまめな学習が大切です。こつこつやる習慣を身につけましょう！</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 『私だけのフランス語ノート』(朝日出版社)</p> <p>(2) 適宜指示する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 Leçon 7</p> <p>第2回 Leçon 7</p> <p>第3回 Leçon 8</p> <p>第4回 Leçon 8</p> <p>第5回 Leçon 9</p> <p>第6回 Leçon 9</p> <p>第7回 Leçon 10</p> <p>第8回 Leçon 10</p> <p>第9回 Leçon 11</p> <p>第10回 Leçon 11</p> <p>第11回 Leçon 12</p> <p>第12回 Leçon 12</p> <p>第13回 まとめ 1</p> <p>第14回 まとめ 2</p> <p>第15回 まとめ 3</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験(70%)＋小テスト(30%)		

(注) 英語英文学専攻は1年次、生活科学専攻は2年次

授業科目	中国語Ⅰ(A)		担当者	楊 虹
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応(要予約)
	[学期]	前期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択(注)
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 中国語に親しむ。</p> <p>【概要】 この授業では、中国語の発音を身につけ、ロールプレイ、ゲームなど様々な教室活動を通して、中国語の基本構文を楽しく学ぶ。さらに中国の音楽や映画などの映像、留学生との交流活動を通して中国の社会や文化にも触れる。</p> <p>【到達目標】 中国語の発音記号(ピンイン)の読み方と綴り方がわかり、簡単な日常あいさつ、自己紹介ができる。</p>			
(1)テキスト	(1)	阿部慎太郎・紅粉芳恵『4つの場面から学ぶミニマル中国語』朝日出版社		
(2)参考文献	(2)	授業中に紹介する。		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：授業の概要説明，中国語で自分の名前を言う練習</p> <p>第2回 発音(1)：単母音と声調の導入，練習</p> <p>第3回 発音(2)：複母音の導入，練習</p> <p>第4回 発音(3)：子音の導入，練習</p> <p>第5回 発音(4)：子音の練習，発音のまとめ</p> <p>第6回 動詞是の使い方</p> <p>第7回 好きなものの言い方，尋ね方。</p> <p>第8回 天気の話、挨拶</p> <p>第9回 相手をほめよう</p> <p>第10回 スケジュールを言う</p> <p>第11回 二つ以上の動詞からなる連動文</p> <p>第12回 経験の「過」の導入，練習</p> <p>第13回 留学生との交流：中国人留学生と中国語で話してみる</p> <p>第14回 全体の復習</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜小テストを実施するので、毎回復習が必要である。			
成績評価の方法	小テスト(40%)と中国に関する発表またはレポート(10%)、口頭試験(50%)で評価する			
実務経験について				

(注) 日本語日文学専攻，受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅰ(B)		担当者	尾崎 孝宏
	[履修年次]	1年	授業外対応	[履修年次]
	[学期]	前期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択(注)
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国語と中国について学ぶ(1)</p> <p>【概要】中国の経済発展にともない、今後は中国と交流する機会が増加すると思います。鹿児島は中国との距離も近く、旅行や仕事で中国を訪れるチャンスが多くなることでしょう。そこで本授業では、一人で中国に行った場合でも、基本的なことに対応できるようになることを目指します。前期では特に発音を中心として、簡単な文型を学習します。また中国の文化や社会に対する理解を深めるために、毎回10分程度のビデオを視聴します。</p> <p>【到達目標】中国語検定準4級程度(後期終了時の目標)</p>			
(1)テキスト	(1)	岩井伸子・胡興智著『できる・つたわる コミュニケーション中国語』(白水社)		
(2)参考文献	(2)	辞書などについては授業時に指示します。		
授業スケジュール	<p>第1回 発音(1)</p> <p>第2回 発音(2)</p> <p>第3回 発音(3)</p> <p>第4回 名前を中国語で言う、覚えておきたい表現</p> <p>第5回 「あいさつする」第1課</p> <p>第6回 「名前を尋ねる」第2課</p> <p>第7回 「食べたいものを尋ねる」第3課</p> <p>第8回 「近況を尋ねる」第4課</p> <p>第9回 第1課～第4課の復習</p> <p>第10回 「予定を尋ねる」第5課</p> <p>第11回 「場所を尋ねる」第6課</p> <p>第12回 「注文する」第7課</p> <p>第13回 「値段の交渉をする」第8課</p> <p>第14回 試験対策練習</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習として事前にテキストに目を通すことと、復習としてテキスト添付の音源を使った発音練習をすることが望ましい			
成績評価の方法	期末試験(50%)、授業への貢献度(50%)			
実務経験について	なし			

(注) 日本語日文学専攻，英語英文学専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語 I (C)		担当者	尾崎 孝宏
	[履修年次] 1年		授業外対応	[履修年次]
	[学期] 前期	[単位] 1	[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国語と中国について学ぶ (1)</p> <p>【概要】中国の経済発展にともない、今後は中国と交流する機会が増加すると思います。鹿児島は中国との距離も近く、旅行や仕事で中国を訪れるチャンスが多くなることでしょう。そこで本授業では、一人で行った場合でも、基本的なことに対応できるようになることを目指します。前期では特に発音を中心として、簡単な文型を学習します。また中国の文化や社会に対する理解を深めるために、毎回10分程度のビデオを視聴します。</p> <p>【到達目標】中国語検定準4級程度 (後期終了時の目標)</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 岩井伸子・胡興智著『できる・つたわる コミュニケーション中国語』(白水社)</p> <p>(2) 辞書などについては授業時に指示します。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 発音 (1)</p> <p>第2回 発音 (2)</p> <p>第3回 発音 (3)</p> <p>第4回 名前を中国語で言う、覚えておきたい表現</p> <p>第5回 「あいさつする」第1課</p> <p>第6回 「名前を尋ねる」第2課</p> <p>第7回 「食べたいものを尋ねる」第3課</p> <p>第8回 「近況を尋ねる」第4課</p> <p>第9回 第1課～第4課の復習</p> <p>第10回 「予定を尋ねる」第5課</p> <p>第11回 「場所を尋ねる」第6課</p> <p>第12回 「注文する」第7課</p> <p>第13回 「値段の交渉をする」第8課</p> <p>第14回 試験対策練習</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習として事前にテキストに目を通すことと、復習としてテキスト添付の音源を使った発音練習をすることが望ましい			
成績評価の方法	期末試験 (50%)、授業への貢献度 (50%)			
実務経験について	なし			

(注) 経済専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語 I (D)		担当者	三木夏華
	[履修年次] 1年		授業外対応	授業終了時に対応
	[学期] 前期	[単位] 1	[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】テーマ】初めて中国語を学ぶ学生のための入門コース。</p> <p>【概要】中国語で最も難しいとされる発音と声調をしっかりとマスターし、基本的な文法事項を学ぶことを目的とする。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ピンイン、声調記号が読めるようになる。 2 自己紹介など簡単な会話能力を身につける。 			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 「しゃべっていいとも 中国語」朝日出版社 陳淑梅、劉光赤 著</p> <p>(2) 授業で紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 発音、声調</p> <p>第2回 発音、声調</p> <p>第3回 発音、声調</p> <p>第4回 発音、声調</p> <p>第5回 人称代名詞、名前の言い方</p> <p>第6回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第7回 “的”、“是”について</p> <p>第8回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第9回 動詞述語文、連動文</p> <p>第10回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第11回 指示代名詞、“有”構文</p> <p>第12回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第13回 “在”構文、方位詞</p> <p>第14回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	前回学習した課をCDを聞いて必ず復習すること。重要フレーズは暗記すること。			
成績評価の方法	期末試験50%+授業での発言内容、出席態度、復習・課題の状況50%			
実務経験について	なし			

(注) 経営情報専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語 I (E)	担当者	中筋 健吉
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1	授業外対応	メールで対応します。k9553471@kadai.jp
		〔必修/選択〕	選択 (注) 〔授業形態〕 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】初級中国語の学習を行います。</p> <p>【概要】中国語 I ではまず基本的な中国語の発音を学び、その後テキストに従って文法、会話を勉強します。毎回小テストを行いますので、頑張ってください。なお、中国事情や文化の理解のために、適宜中国文化紹介DVDや、期間中1回は中国映画を鑑賞する予定です。</p> <p>【到達目標】中国語の基本的な発音の習得および簡単な中国語の会話・読解・作文能力の習得をめざします。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 寺西光輝『使って学ぶ!中国語コミュニケーション』(朝日出版社) (2)		
授業スケジュール	<p>第 1回 イントロダクション 中国語について 教科書の使い方 第 2回 発音篇 (1) ピンイン、声調、母音、複合母音、子音 第 3回 発音篇 (2) 鼻母音、声調変化、発音まとめ 第 4回 第0課 名前について話す 第 5回 第1課 (1) 身分や出身について話す 第 6回 第1課 (2) 身分や出身について話す 第 7回 第2課 (1) 身の回りの物や人について話す 第 8回 第2課 (2) 身の回りの物や人について話す 第 9回 第3課 (1) 年齢や学年、所有について話す 第10回 第3課 (2) 年齢や学年、所有について話す 第11回 第4課 (1) 時間や一日の行動について話す 第12回 第4課 (2) 時間や一日の行動について話す 第13回 第5課 (1) 性質や状態、天候について話す 第14回 第5課 (2) 性質や状態、天候について話す 第15回 前期のまとめ *スケジュールは授業進度その他の状況によって変更することもあります。</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習、復習ともに、教科書添付のCDの音声資料をよく聞き、テキストの中国語文の音読、日本語訳を確認すること。		
成績評価の方法	筆記試験(50%) + 授業中に実施する小テスト(10%) + 授業での発言内容(40%) 但し状況により変更の可能性もあります。		
実務の経験について			

(注) 経済専攻、経営情報専攻

(注) 受講登録が30名を超えた時は、受講制限をする場合があります。

授業科目	中国語 I (F)	担当者	土肥 克己
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1	授業外対応	メールで事前連絡すること
		〔必修/選択〕	選択 (注) 〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】単語で作文 I</p> <p>【概要】1回に25個ほどの単語を覚えてきてもらい、それを使って作文をします。基本的に単純な文だけにして、書かず口頭で答えてみましょう。短い文がぱっと口から出るようになれば、外国語もそれほど難しくはないものです。</p> <p>【到達目標】中国語検定準4級、漢語水平考試 HSK 筆記1級程度に1年間の語学目標レベルを設定します。前期はその前半部分の学習に当てます。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布します。 (2) 関西大学中国語教材研究会編『中国語検定徹底対策準4級』アルク		
授業スケジュール	<p>第 1回 授業の進め方について 第 2回 声調と母音 第 3回 子音 第 4回 発音のまとめ 第 5回 表記の規則 第 6回 クラス名簿、あいさつ (1) 第 7回 クラス名簿、あいさつ (2) 第 8回 数字、お金、時刻 (1) 第 9回 数字、お金、時刻 (2) 第10回 数字、お金、時刻 (3) 第11回 簡単な動詞の文 (1) 第12回 簡単な動詞の文 (2) 第13回 意思表示、誘いかた (1) 第14回 意思表示、誘いかた (2) 第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	筆記の小テストを毎回実施するので予習してきてください。		
成績評価の方法	作文と小テスト 50%、定期試験 50%		
実務経験について	なし		

(注) 食物栄養専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語 I (G)	担当者	中筋 健吉
	[履修年次] 1年, 2年 (注) [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	メールで対応します。k9553471@kadai.jp
		[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】初級中国語の学習を行います。</p> <p>【概要】中国語 I ではまず基本的な中国語の発音を学び、その後テキストに従って文法、会話を勉強します。毎回小テストを行いますので、頑張ってください。なお、中国事情や文化の理解のために、適宜中国文化紹介DVDや、期間中1回は中国映画を鑑賞する予定です。</p> <p>【到達目標】中国語の基本的な発音の習得および簡単な中国語の会話・読解・作文能力の習得をめざします。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 寺西光輝『使って学ぶ!中国語コミュニケーション』(朝日出版社) (2)		
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクシヨン 中国語について 教科書の使い方 第2回 発音篇(1) ピンイン、声調、母音、複合母音、子音 第3回 発音篇(2) 鼻母音、声調変化、発音まとめ 第4回 第0課 名前について話す 第5回 第1課(1) 身分や出身について話す 第6回 第1課(2) 身分や出身について話す 第7回 第2課(1) 身の回りの物や人について話す 第8回 第2課(2) 身の回りの物や人について話す 第9回 第3課(1) 年齢や学年、所有について話す 第10回 第3課(2) 年齢や学年、所有について話す 第11回 第4課(1) 時間や一日の行動について話す 第12回 第4課(2) 時間や一日の行動について話す 第13回 第5課(1) 性質や状態、天候について話す 第14回 第5課(2) 性質や状態、天候について話す 第15回 前期のまとめ *スケジュールは授業進度その他の状況によって変更することもあります。</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習、復習ともに、教科書に指定する音声ファイルをよく聞き、テキストの中国語文の音読、日本語訳を確認すること。		
成績評価の方法	筆記試験(50%) + 授業中に実施する小テスト(10%) + 授業での発言内容(40%) 但し状況により変更の可能性もあります。		
実務の経験について			

(注) 日本語日本文学専攻は1年次、生活科学専攻は2年次

(注) 受講登録が30名を超えた時は、受講制限をする場合があります。

授業科目	中国語 I (H)	担当者	陳 躍
	[履修年次] 1年, 2年 (注) [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後及びメールによる (アドレスは講義中に告知)
		[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】楽しい中国語会話</p> <p>【概要】中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い、説明を聞くより真似て練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最速な方法だと考える。90分のうち、70分程度練習し、残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい、参考にする。希望に応えるように、授業のあり方を随時修正する。</p> <p>【到達目標】中国語検定準四級。漢語水平考試HSK筆記1級程度。前期はその前半部分の学習に当てる</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) テキスト①『楽しい中国』于国軍著 斯文堂 (2) ①関西大学中国語教材研究会編「中国語検定徹底対策準四級」アルク ②『恋文の翻訳一日中往来』陳躍著 南日本新聞社		
授業スケジュール	<p>第1回 我是上海人 第2回 我叫王平 第3回 这里是南京路 第4回 现在几点了? 第5回 今天是星期几? 第6回 你家有几口人? 第7回 没关系 (映画) 第8回 香港的夏天热吗? (映画) 第9回 四川菜很好吃 (中間テスト) 第10回 我经常散步 第11回 牌价是多少? 第12回 汉语难不难? 第13回 我没吃蒜 第14回 我想去超市 第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	評価割合を定期試験50%にする。残り50%の評価は小テストとレポートにする		

(注) 文学科・商経学科は1年次、生活科学学科は2年次

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ (A)		担当者	楊 虹
	[履修年次] 1年	[学期] 後期	[単位] 1	[授業外対応] 授業外対応 (要予約)
			[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 中国語によるコミュニケーションに慣れる。</p> <p>【概要】 この授業では、中国語Ⅰを履修した受講生を対象としている。前期の内容を復習しつつ、引き続き中国語の基本構文を導入し、中国語を聞いて、話す力を伸ばす。さらに、中国の音楽や映画などの映像、留学生との交流活動を通して中国の社会や文化にも触れる。</p> <p>【到達目標】 学習を進める上での基礎的知識を有し、中国語による家族構成の紹介や、簡単な買い物ができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 阿部慎太郎・紅粉芳恵『4つの場面から学ぶミニマル中国語』朝日出版社</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：授業の概要説明，前期の復習</p> <p>第2回 願望「想」の導入，練習</p> <p>第3回 動詞「有」の導入，練習</p> <p>第4回 「有」と「在」の応用練習</p> <p>第5回 できるの「会」の導入，練習</p> <p>第6回 買い物に関する表現①</p> <p>第7回 買い物に関する表現②</p> <p>第8回 これまでの内容の復習</p> <p>第9回 道案内と前置詞の「在」の導入，練習</p> <p>第10回 時間の量の言い方①</p> <p>第11回 時間の量の言い方②</p> <p>第12回 時間の量の言い方③</p> <p>第13回 起点や終点を表す前置詞の導入と練習</p> <p>第14回 全体の復習</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜小テストを実施するので、毎回復習が必要である。			
成績評価の方法	小テスト (40%) と中国に関するレポート (10%)、口頭試験 (50%) で評価する			
実務経験について	なし			

(注) 日本語日本文学専攻，受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ (B)		担当者	尾崎 孝宏
	[履修年次] 1年	[学期] 後期	[単位] 1	[授業外対応] [履修年次]
			[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国語と中国について学ぶ (2)</p> <p>【概要】中国の経済発展にもない、今後は中国と交流する機会が増加すると思います。鹿児島は中国との距離も近く旅行や仕事で中国を訪れるチャンスが多くなることでしょう。そこで本授業では、一人で中国に行った場合でも基本的なことに対応できるようになることを目指します。後期では、日常的に良く使う文型を中心に、表現の幅を広げます。また前期に引き続き毎回中国の文化や社会に関するビデオを視聴します。</p> <p>【到達目標】中国語検定準4級程度 (後期終了時の目標)</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 岩井伸子・胡興智著『できる・つたわる コミュニケーション中国語』(白水社)</p> <p>(2) 辞書などについては授業時に指示します。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 第5課～第8課の復習</p> <p>第2回 「出来事を尋ねる1」第9課</p> <p>第3回 「出来事を尋ねる2」第10課</p> <p>第4回 「希望を尋ねる」第11課</p> <p>第5回 「行き方を尋ねる」第12課</p> <p>第6回 「経験を尋ねる」第13課</p> <p>第7回 第9課～第13課の復習</p> <p>第8回 「相手の都合を尋ねる」第14課</p> <p>第9回 「比較する」第15課</p> <p>第10回 「条件・情報を尋ねる」第16課</p> <p>第11回 「進行状況を尋ねる」第17課</p> <p>第12回 「別れを告げる」第18課</p> <p>第13回 第14課～第18課の復習</p> <p>第14回 試験対策練習</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習として事前にテキストに目を通すことと、復習としてテキスト添付の音源を使った発音練習をすることが望ましい			
成績評価の方法	期末試験 (50%)、授業への貢献度 (50%)			
実務経験について	なし			

(注) 日本語日本文学専攻，英語英文学専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ (C)		担当者	尾崎 孝宏
	[履修年次] 1年	[学期] 後期	授業外対応	[履修年次]
	[単位] 1	[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国語と中国について学ぶ (2)</p> <p>【概要】中国の経済発展にともない、今後は中国と交流する機会が増加すると思います。鹿児島は中国との距離も近く旅行や仕事で中国を訪れるチャンスが多くなることでしょう。そこで本授業では、一人で中国に行った場合でも基本的なことに対応できるようになることを目指します。後期では、日常的に良く使う文型を中心に、表現の幅を広げます。また前期に引き続き毎回中国の文化や社会に関するビデオを視聴します。</p> <p>【到達目標】中国語検定準4級程度 (後期終了時の目標)</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 岩井伸子・胡興智著『できる・つたわる コミュニケーション中国語』(白水社)</p> <p>(2) 辞書などについては授業時に指示します。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 第5課～第8課の復習</p> <p>第2回 「出来事を尋ねる1」第9課</p> <p>第3回 「出来事を尋ねる2」第10課</p> <p>第4回 「希望を尋ねる」第11課</p> <p>第5回 「行き方を尋ねる」第12課</p> <p>第6回 「経験を尋ねる」第13課</p> <p>第7回 第9課～第13課の復習</p> <p>第8回 「相手の都合を尋ねる」第14課</p> <p>第9回 「比較する」第15課</p> <p>第10回 「条件・情報を尋ねる」第16課</p> <p>第11回 「進行状況を尋ねる」第17課</p> <p>第12回 「別れを告げる」第18課</p> <p>第13回 第14課～第18課の復習</p> <p>第14回 試験対策練習</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習として事前にテキストに目を通すことと、復習としてテキスト添付の音源を使った発音練習をすることが望ましい			
成績評価の方法	期末試験 (50%)、授業への貢献度 (50%)			
実務経験について	なし			

(注) 経済専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ (D)		担当者	三木夏華
	[履修年次] 1年	[学期] 後期	授業外対応	授業終了時に対応
	[単位] 1	[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】前期の中国語Ⅰに続く入門コース。</p> <p>【概要】前期に引き続き、中国語の発音要領と中国語文法の基礎をマスターする。道の尋ね方、買い物仕方など、日常生活で不可欠な表現を身につける。</p> <p>【到達目標】中国語検定準4級、漢語水平考試HSK筆記1級のレベルにまで到達することを目標とする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 「しゃべっていいとも 中国語」朝日出版社 陳淑梅、劉光赤 著</p> <p>(2) 授業で紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 数の言い方、中国のお金の言い方、値段の尋ね方</p> <p>第2回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第3回 値段の尋ね方、年月日、曜日の言い方</p> <p>第4回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第5回 年齢の言い方、量詞、動詞の重ね型</p> <p>第6回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第7回 時刻の言い方、語気助詞の“了”</p> <p>第8回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第9回 時間の長さの言い方、完了の“了”</p> <p>第10回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第11回 前置詞、助動詞1</p> <p>第12回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第13回 動詞の進行を表す表現、助動詞2</p> <p>第14回 会話練習、ヒアリング</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	前回学習した課をCDを聞いて必ず復習すること。重要フレーズは暗記すること。			
成績評価の方法	期末試験50%+授業での発言内容、出席態度、復習・課題の状況50%			
実務経験について	なし			

(注) 経営情報専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ(E)	担当者	中筋 健吉
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	メールで対応します。k9553471@kadai.jp
		[必修/選択]	選択 (注) [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】初級中国語の学習を行います。</p> <p>【概要】中国語Ⅰで培った初級の中国語力をさらにステップアップさせるべく、テキストに従って、さまざまな文法、会話のパターンを習得します。小テストも同様に毎回行います。今期も適宜中国文化紹介DVDや中国映画(1回)を鑑賞します。</p> <p>【到達目標】中国語の基本的な発音の習得および簡単な中国語の会話・読解・作文能力の習得をめざします。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 寺西光輝『使って学ぶ!中国語コミュニケーション』(朝日出版社) (2)		
授業スケジュール	第1回 第6課(1) 趣味や好み、できることについて話す 第2回 第6課(2) 趣味や好み、できることについて話す 第3回 第7課(1) 住んでいる場所や家族について話す 第4回 第7課(2) 住んでいる場所や家族について話す 第5回 第8課(1) 場所や存在について話す 第6回 第8課(2) 場所や存在について話す 第7回 第9課(1) 交通手段や希望について話す 第8回 第9課(2) 交通手段や希望について話す 第9回 第10課(1) 動作の発生や進行について話す 第10回 第10課(2) 動作の発生や進行について話す 第11回 第11課(1) 過去の出来事や値段について話す 第12回 第11課(2) 過去の出来事や値段について話す 第13回 中国映画鑑賞+中国映画の中国語 第14回 中国映画鑑賞+中国映画の中国語 第15回 授業まとめ *スケジュールは授業進度その他の状況によって変更することもあります。		
授業外学習(予習・復習)	予習、復習ともに、教科書添付のCDの音声資料をよく聞き、テキストの中国語文の音読、日本語訳を確認すること。		
成績評価の方法	筆記試験(50%) + 授業中に実施する小テスト(10%) + 授業での発言内容(40%) 但し状況により変更の可能性もあります。		
実務の経験について			

(注) 経済専攻、経営情報専攻

(注) 受講登録が30名を超えた時は、受講制限をする場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ(F)	担当者	土肥 克己
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	メールで事前連絡すること
		[必修/選択]	選択 (注) [授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】単語で作文Ⅱ</p> <p>【概要】1回に25個ほどの単語を覚えてきてもらい、それを使って作文をします。やや複雑な文にして、基本的に書かず口頭で答えてみましょう。長い作文は文法的に間違えやすいですがそれは気にせず、相手に気持ちを伝えることを大切にします。</p> <p>【到達目標】中国語検定準4級、漢語水平考試 HSK 筆記1級程度に1年間の語学目標レベルを設定します。後期はその後半部の学習に当てます。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布します。 (2) 関西大学中国語教材研究会編『中国語検定徹底対策準4級』アルク		
授業スケジュール	第1回 連続動作, 意向確認(1) 第2回 連続動作, 意向確認(2) 第3回 なに? どこ? だれ? (1) 第4回 なに? どこ? だれ? (2) 第5回 モノ(1) 第6回 モノ(2) 第7回 場所(1) 第8回 場所(2) 第9回 状態(1) 第10回 状態(2) 第11回 態度, ある瞬間(1) 第12回 態度, ある瞬間(2) 第13回 1年間の復習(1) 第14回 1年間の復習(2) 第15回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	筆記の小テストを毎回実施するので予習してください。		
成績評価の方法	作文と小テスト50%, 定期試験50%		
実務経験について	なし		

(注) 食物栄養専攻

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ (G)		担当者	中筋 健吉
	[履修年次] 1年, 2年(注)		授業外対応	メールで対応します。k9553471@kadai.jp
	[学期] 後期	[単位] 1	[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】初級中国語の学習を行います。</p> <p>【概要】中国語Ⅰで培った初級の中国語力をさらにステップアップさせるべく、テキストに従って、さまざまな文法、会話のパターンを習得します。小テストも同様に毎回行います。今期も適宜中国文化紹介DVDや中国映画（1回）を鑑賞します。</p> <p>【到達目標】中国語の基本的な発音の習得および簡単な中国語の会話・読解・作文能力の習得をめざします。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 寺西光輝『使って学ぶ！中国語コミュニケーション』（朝日出版社） (2)			
授業スケジュール	<p>第1回 第6課 (1) 趣味や好み、できることについて話す 第2回 第6課 (2) 趣味や好み、できることについて話す 第3回 第7課 (1) 住んでいる場所や家族について話す 第4回 第7課 (2) 住んでいる場所や家族について話す 第5回 第8課 (1) 場所や存在について話す 第6回 第8課 (2) 場所や存在について話す 第7回 第9課 (1) 交通手段や希望について話す 第8回 第9課 (2) 交通手段や希望について話す 第9回 第10課 (1) 動作の発生や進行について話す 第10回 第10課 (2) 動作の発生や進行について話す 第11回 第11課 (1) 過去の出来事や値段について話す 第12回 第11課 (2) 過去の出来事や値段について話す 第13回 中国映画鑑賞＋中国映画の中国語 第14回 中国映画鑑賞＋中国映画の中国語 第15回 授業まとめ *スケジュールは授業進度その他の状況によって変更することもあります。</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習、復習ともに、教科書添付のCDの音声資料をよく聞き、テキストの中国語文の音読、日本語訳を確認すること。			
成績評価の方法	筆記試験 (50%) + 授業中に実施する小テスト (10%) + 授業での発言内容 (40%) 但し状況により変更の可能性もあります。			
実務の経験について				

(注) 日本語日本文学専攻は1年次、生活科学専攻は2年次

(注) 受講登録が30名を超えた時は、受講制限をする場合があります。

授業科目	中国語Ⅱ (H)		担当者	陳 躍
	[履修年次] 1年, 2年 (注)		授業外対応	授業終了後、メールによる (アドレスは講義中に告知)
	[学期] 後期	[単位] 1	[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】楽しい中国語会話</p> <p>【概要】中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い、説明を聞くより真似て練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最速な方法だと考える。90分のうち、70分程度練習し、残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい、参考にする。希望に応えるように、授業のあり方を随時修正する。</p> <p>【到達目標】中国語検定準四級。漢語水平考試HSK筆記1級程度。後期はその後半部分の学習に当てる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) テキスト①『楽しい中国』于国軍著 斯文堂 (2) ①関西大学中国語教材研究会編「中国語検定徹底対策準四級」アルク ②『恋文の翻訳一日中往来』陳躍著 南日本新聞社			
授業スケジュール	<p>第1回 来我家玩吧 第2回 我打算去旅行 第3回 没看过, 听过 第4回 我能参加 第5回 我记一下 第6回 我们边走边谈 第7回 好像借给小李了 (中間テスト) 第8回 我不会打日文 (映画) 第9回 你知道号码吗? (映画) 第10回 什么都可以 第11回 被谁偷走了呢? 第12回 让你久等了 第13回 有没有单间? 第14回 我说得不好 第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	筆記の小テストを毎回実施するので予習してきてください。			
成績評価の方法	評価割合を定期試験50%にする。残り50%の評価は小テストとレポートにする			

(注) 文学科・商経学科は1年次、生活科学専攻は2年次

(注) 受講登録が30人を超えたときは、人数を制限する場合があります。

授業科目	中国語Ⅲ		担当者	楊 虹
	[履修年次] 2年		授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期] 前期	[単位] 1	[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 中国語の体系を把握する。</p> <p>【概要】 この授業は、中国語Ⅰ・Ⅱを履修した受講生を対象とする。中国語検定試験4級程度の語彙、文法の獲得を目指し、中国語の読む・聞く・話す力をさらに伸ばす。また、後半では自立的に中国語を学ぶ力を身につけることを目的に、グループで中国語の寸劇を作って発表する活動を取り入れる。</p> <p>【到達目標】 中国語検定試験4級を取得することを旨とすると同時に今後自立的に中国語を学習していく方法を身につける。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：授業の概要説明および1年次に習った内容の復習</p> <p>第2回 年齢の言い方と尋ね方</p> <p>第3回 前置詞「在」(～で～をする)の導入、練習</p> <p>第4回 完了の「了」の導入、練習</p> <p>第5回 時間量の言い方の導入、練習</p> <p>第6回 文末詞「了」の導入、練習</p> <p>第7回 場所の言い方の導入、練習</p> <p>第8回 必要の「得」：「ねばならない」を表す助動詞「得」の導入、練習</p> <p>第9回 これまでの復習：これまで習った内容の復習を行う。</p> <p>第10回 中国語で寸劇①：シナリオの作成</p> <p>第11回 中国語で寸劇②：シナリオの修正</p> <p>第12回 中国語で寸劇③：シナリオの決定、台本を読む練習</p> <p>第13回 中国語で寸劇④：台本を読む練習、通し稽古</p> <p>第14回 中国語で寸劇⑤：発表</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜小テストを実施するので、毎回復習が必要である。			
成績評価の方法	小テスト (50%)、口頭試験 (50%) で評価する			
実務経験について				

生活科学科を除く

授業科目	中国語Ⅳ		担当者	土肥 克己
	[履修年次] 2年		授業外対応	メールで事前連絡すること
	[学期] 後期	[単位] 1	[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国語で本を読む</p> <p>【概要】中国のラジオドラマの台本を読みます。台本ですので自然な会話文を学べます。発音を特に重視しますので、十分に予習・復習してから受講してください。</p> <p>【到達目標】中国語検定4級レベル、漢語水平考試 HSK 筆記2級程度に半年間の語学目標レベルを設定します。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布します。</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 授業の進め方について</p> <p>第2回 発音の復習 (1)</p> <p>第3回 発音の復習 (2)</p> <p>第4回 発音の復習 (3)</p> <p>第5回 発音の復習 (4)</p> <p>第6回 講読 (1)</p> <p>第7回 講読 (2)</p> <p>第8回 講読 (3)</p> <p>第9回 講読 (4)</p> <p>第10回 講読 (5)</p> <p>第11回 講読 (6)</p> <p>第12回 講読 (7)</p> <p>第13回 講読 (8)</p> <p>第14回 講読 (9)</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	中国語の原文と発音をプリントにして事前に配布するので予習・復習をしてきてください。			
成績評価の方法	予習と発表100%。定期試験は実施しません。			
実務経験について	なし			

(注) 生活科学科を除く

3 教養科目（スポーツ・健康科目）

授業科目	スポーツ健康論	担当者	與儀 幸朝
	[履修年次] 2年次	授業外対応	随時 yogi@k-kentan.ac.jp
	[学期] 前期 [単位] 1	[必修/選択] 必修	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】運動やスポーツを実践することで得られる健康の効果（身体的効果・精神的効果など）について理解を深め、充実した大学生活や社会生活を送っていくための知識や方法を身につける。</p> <p>【概要】運動やスポーツが健康に与える身体的効果や精神的効果などについて考え、健康な生活を送っていくための運動やスポーツの行い方、ライフスタイルの在り方について学習する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 健康の重要性を理解することができる。 2) 生活習慣と健康が密接に関連していることを理解することができる。 3) 運動習慣と健康の関係について理解することができる。 4) 健康の三原則を柱とした望ましいライフスタイルについて考えることができる。 		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 適宜、資料を配布する。</p> <p>(2) 講義にて参考文献を紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション（授業計画や評価の説明など）</p> <p>第 2回 健康の概念と決定要因</p> <p>第 3回 健康施策の変遷と現在の健康課題</p> <p>第 4回 生活習慣病の予防</p> <p>第 5回 健康の側面から捉えた運動やスポーツの必要性</p> <p>第 6回 運動処方の考え方</p> <p>第 7回 運動やスポーツを取り巻く社会環境・生活環境</p> <p>第 8回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	講義内容の振り返り、次時のリサーチをすること。		
成績評価の方法	筆記試験（70%）、レポート（20%）、課題の取り組み状況（10%）等を基準に総合的に評価する。		
実務経験について	中学校及び高等専門学校等にて、保健体育科目の担当経験あり。		

(注) 教職必修

(注) 食物栄養専攻を除く全専攻対象 7.5回

授業科目	生涯スポーツ実習Ⅰ（A）・（B）	担当者	道向 良
	[履修年次] 1年	授業外対応	授業前または終了後
	[学期] 前期 [単位] 1	[必修/選択] 必修(注)	[授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ラケットスポーツと健康づくり（体力づくり、仲間づくり）</p> <p>【概要】ラケットスポーツとしてテニス、卓球、バドミントンをとりあげ、クラスメートと各種ゲーム、活動を楽しめるようになることを目指す。体力づくりや仲間づくりを意識しつつ、ペアまたはグループで段階的に学習することを通して、各</p> <p>自の能力に応じた技術や動き、プレイスタイルなどを模索する。あわせてスポーツの持つ「コミュニケーション促進力」や「健康増進可能性」など、さまざまな可能性を全体的に追求する。</p> <p>【到達目標】各種目でシングルス、ダブルス、団体戦のゲームができるようになる。体力をつけ、仲間をつくる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 必要に応じてプリントを配布する</p> <p>※ シューズや帽子などは各自適切なものを準備すること。</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 テニス グループ分け、ボール遊び、ラケットイング、ミニラリー</p> <p>第 2回 テニス ボール・トスの練習、スキルチェック1、ミニゲーム</p> <p>第 3回 テニス グループ練習（2分間ラリー）、シングルスルールの理解、試しのゲーム</p> <p>第 4回 テニス スキルチェック、シングルス・クラスマッチ</p> <p>第 5回 テニス ダブルス・ルールの理解、試しのゲーム</p> <p>第 6回 テニス ダブルス・クラスマッチ</p> <p>第 7回 卓球 グループ分け、基本練習、シングルスルールの理解、ゲーム</p> <p>第 8回 卓球 グループ練習（2分間ラリー）、シングルス・クラスマッチ</p> <p>第 9回 卓球 グループ練習（ドライブとカット）ダブルスルールの理解、ゲーム</p> <p>第 10回 卓球 クラスマッチ</p> <p>第 11回 バドミントン ハーフコートシングルス</p> <p>第 12回 バドミントン グループ練習1、シングルスルールの理解、ゲーム</p> <p>第 13回 バドミントン グループ練習2、ダブルスルールの理解、ゲーム</p> <p>第 14回 バドミントン クラスマッチ</p> <p>第 15回 ファイナルコンペティション、全体の振り返り・まとめ、期末レポート課題の提示（期限までに提出）</p>		
授業外学習(予習・復習)	各種運動を日頃から実践し、身体感覚を新鮮に保っておくこと		
成績評価の方法	出席・課題への取り組み状況（40%）、運動能力全般（20%）、小レポートおよび期末レポート（40%）		

(注) 教職必修 (注) (A) 日本語日本文学専攻, (B) 英語英文学専攻

授業科目	生涯スポーツ実習 I (C) (D) (E) (F)	担当者	與儀 幸朝
	[履修年次] 1年次	授業外対応	随時 yogi@k-kentan.ac.jp
	[学期] 前期 [単位] 1	[必修/選択] 必修	[授業形態] 実技
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生涯にわたって運動に親しむ力を身につけることを目的とし、スポーツを通じて、その特徴的な身体技法の学習の中で、自分に合った種目や得意な運動を発見する。また、大学生活が始まり、新しい環境に適応する手立てとして所属専攻の仲間と共にスポーツを楽しむことをめざす。</p> <p>【概要】主に球技教材としてバレーボール・バスケットボールのスポーツ種目を採用する。それぞれのスポーツ種目の特徴的な技術認識（わかる）ことと技能習得（できる）を融合させることを目的とする。また常に球技は他者との関係性を意識しながら実施する必要がある、基本的な身体技法を習得する際に自分のからだやうごきの特徴を知る。</p> <p>【到達目標】①バレーボール・バスケットボールの歴史・ルールを理解する。②バレーボール・バスケットボールの基本的な技術を理解し、技能を習得する。③自分やチームの課題を発見し、課題を克服するための練習計画を立てることができる。④他者と協力して、チームを組織し、運営することができる。⑤自分のからだの管理ができ、安全に運動する配慮ができる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 適時資料配付する。また各人の学習ノートを準備する（毎回提出）。なお、雨天時の場合は、同時間担当者との話し合いの上、種目変更の可能性がある（E・Fの場合）。運動にふさわしい服装とシューズを準備すること。実習中のケガや体調不良の場合は必ず申し出ること。		
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション（からだほぐしとからだでコミュニケーションワーク）</p> <p>第 2回 バレーボールの歴史 試しのゲーム アタックからの学習について理解する</p> <p>第 3回 Aアタックのタイミングの理解と習熟 2:2の簡易ゲーム</p> <p>第 4回 2:2の簡易ゲーム（AクイックとAのトスの習熟） 3:3ゲームへの発展について理解する</p> <p>第 5回 3:3の簡易ゲームのルールについて理解する（Aクイックともう一つのアタックの習熟）</p> <p>第 6回 3:3の簡易ゲーム① ローテーションルールの中で、各ポジションの役割について考える。</p> <p>第 7回 3:3の簡易ゲーム② 3名の中で、セッターを固定したゲーム 6:6ゲームへの発展について理解する</p> <p>第 8回 6:6ゲーム 3:3から、6:6のゲームへの発展 ポジションの配置ルールを理解し、試しのゲーム（2人セッター）</p> <p>第 9回 6:6ゲーム バレーボール最終 ゲーム条件（コートの広さと人数）とルールを把握し、チーム作戦を立てる</p> <p>第 10回 原初的なゲームの体験と試しのゲーム（シュート確率調査からバスケットボールの特徴について理解する）</p> <p>第 11回 2:2簡易ゲーム バスケットボールに必要な技術について理解し、習得する（シュート、ドリブル、パスなど）</p> <p>第 12回 2:0の練習 2:1の練習 2:2の練習（制限区域内での攻撃と防御について理解する）から 3:3ゲームへ</p> <p>第 13回 各チームで練習（各チームの触球数調査からチームの課題を発見し、克服する練習内容を導き出す）</p> <p>第 14回 オールコートでのゲームの展開 5:5にむけて</p> <p>第 15回 5:5ゲーム（バスケットゲームの運営について協議し、最終ゲームのルールの確認 審判の役割）</p>		
授業外学習(予習・復習)	体調管理に留意すること。		
成績評価の方法	学習ノート記述内容（自己評価記入も含む）50%＋スキル及び技術認識（種目毎）50%を基準に総合的に評価する。		
実務経験について	中学校及び高等専門学校等にて、保健体育科目の担当経験あり。		

(注) 教職必修 (注) (C) 食物栄養専攻、(D) 生活科学専攻、(E) 経済専攻、(F) 経営情報専攻

授業科目	生涯スポーツ実習 I (E) (F)	担当者	西迫 貴美代
	[履修年次] 1年次	授業外対応	授業後直接または教務課を通じて
	[学期] 前期 [単位] 1	[必修/選択] 必修	[授業形態] 実技
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生涯にわたって運動に親しむ力を身につけることを目的とし、スポーツを通じて、その特徴的な身体技法の学習の中で、自分に合った種目や得意な運動を発見する。また、大学生活が始まり、新しい環境に適応する手立てとして所属専攻の仲間と共にスポーツを楽しむことをめざす。</p> <p>【概要】主に球技教材としてバレーボール・バスケットボールのスポーツ種目を採用する。それぞれのスポーツ種目の特徴的な技術認識（わかる）ことと技能習得（できる）を融合させることを目的とする。また常に球技は他者との関係性を意識しながら実施する必要があり、基本的な身体技法を習得する際に自分のからだやうごきの特徴を知る。（後期はラケット種目を履修する）</p> <p>【到達目標】①バレーボール・バスケットボールの歴史・ルールを理解する ②バレーボール・バスケットボールの基本的な技術を理解し、技能を習得する、③自分やチームの課題を発見し、課題を克服するための練習計画を立てることができる④他者と協力して、チームを組織し、運営することができる、⑤自分のからだの管理ができ、安全に運動する配慮ができる</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 適時資料配付する。また各人の学習ノートを準備する（毎回提出）。なお、雨天時の場合は、同時間担当者との話し合いの上、種目変更の可能性がある（EFの場合）。運動にふさわしい服装とシューズを準備すること。実習中のケガや体調不良の場合は必ず申し出ること。		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション（からだほぐしとからだでコミュニケーションワーク）</p> <p>第2回 バレーボールの歴史 試しのゲーム アタックからの学習について理解する</p> <p>第3回 Aアタックのタイミングの理解と習熟 2対2の簡易ゲーム</p> <p>第4回 2:2の簡易ゲーム（AクイックとAのトスの習熟） 3:3ゲームへの発展について理解する（考える）</p> <p>第5回 3:3(4:4)の簡易ゲームのルールについて理解する（Aクイックともう一つのアタックの習熟）</p> <p>第6回 3:3(4:4)の簡易ゲーム① ローテーションルールの中で、各ポジションの役割について考える。</p> <p>第7回 3:3(4:4)の簡易ゲーム② 3名の中で、セッターを固定したゲーム 6:6ゲームへの発展について理解する</p> <p>第8回 6:6ゲーム 3:3から、6:6のゲームへの発展 ポジションの配置ルールを理解し、試しのゲーム(2人セッター)</p> <p>第9回 6:6ゲーム バレーボール最終 ゲーム条件（コートの広さと人数）とルールを把握し、チーム作戦を立てる</p> <p>第10回 原初的なゲームの体験と試しのゲーム（シュート確率調査からバスケットボールの特徴について理解する）</p> <p>第11回 2:2簡易ゲーム バスケットボールに必要な技術について理解し、習得する（シュート、ドリブル、パスなど）</p> <p>第12回 2:0の練習 2:1の練習 2:2の練習（制限区域内での攻撃と防御について理解する）から 3:3ゲームへ</p> <p>第13回 各チームで練習（各チームの触球数調査からチームの課題を発見し、克服する練習内容を導き出す）</p> <p>第14回 オールコートでのゲームの展開 5:5 にむけて（対戦チーム毎の分析と自チームの作戦を立て、ゲーム毎に修正）</p> <p>第15回 5:5ゲーム（バスケットゲームの運営について協議し、最終ゲームのルールの確認 審判の役割）</p>		
授業外学習(予習・復習)	体調管理に留意すること		
成績評価の方法	毎回の学習ノート記入回数及び内容（自己評価記入も含む）60%＋スキル及び技術認識(種目毎)40%を基準に総合的に評価		
実務経験について	鹿児島県内高等学校及び養護学校 保健体育科目及び養護訓練実習担当経験あり		

(注) (E)経済専攻、(F)経営情報専攻

授業科目	生涯スポーツ実習 II (A) (B) (E) (F)	担当者	與儀 幸朝
	[履修年次] 1年次	授業外対応	随時 yogi@k-kentan.ac.jp
	[学期] 後期 [単位] 1	[必修/選択] 必修	[授業形態] 実技
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生涯にわたって運動に親しむ力を身につけることを目的とし、スポーツを通じて、その特徴的な身体技法の学習の中で、自分に合った種目や得意な運動を発見する。また、大学生活が始まり、新しい環境に適応する手立てとして所属専攻の仲間と共にスポーツを楽しむことをめざす。</p> <p>【概要】主に球技教材としてバレーボール・バスケットボールのスポーツ種目を採用する。それぞれのスポーツ種目の特徴的な技術認識（わかる）ことと技能習得（できる）を融合させることを目的とする。また常に球技は他者との関係性を意識しながら実施する必要があり、基本的な身体技法を習得する際に自分のからだやうごきの特徴を知る。（前期はラケット種目を履修済み）</p> <p>【到達目標】①バレーボール・バスケットボールの歴史・ルールを理解する。②バレーボール・バスケットボールの基本的な技術を理解し、技能を習得する。③自分やチームの課題を発見し、課題を克服するための練習計画を立てることができる。④他者と協力して、チームを組織し、運営することができる。⑤自分のからだの管理ができ、安全に運動する配慮ができる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 適時資料配付する。また各人の学習ノートを準備する（毎回提出）。なお、雨天時の場合は、同時担任者との話し合いの上、種目変更の可能性がある（E・Fの場合）。運動にふさわしい服装とシューズを準備すること。実習中のケガや体調不良の場合は必ず申し出ること。		
授業スケジュール	第 1回 オリエンテーション（からだほぐしとからだでコミュニケーションワーク） 第 2回 バレーボールの歴史 試しのゲーム アタックからの学習について理解する 第 3回 A アタックのタイミングの理解と習熟 2:2の簡易ゲーム 第 4回 2:2の簡易ゲーム（A クイックとAのトスの習熟） 3:3ゲームへの発展について理解する 第 5回 3:3の簡易ゲームのルールについて理解する（A クイックともう一つのアタックの習熟） 第 6回 3:3の簡易ゲーム① ローテーションルールの中で、各ポジションの役割について考える。 第 7回 3:3の簡易ゲーム② 3名の中で、セッターを固定したゲーム 6:6ゲームへの発展について理解する 第 8回 6:6ゲーム 3:3から、6:6のゲームへの発展 ポジションの配置ルールを理解し、試しのゲーム（2名セッター） 第 9回 6:6ゲーム バレーボール最終 ゲーム条件（コート広さと人数）とルールを把握し、チーム作戦を立てる 第 10回 原初的なゲームの体験と試しのゲーム（シュート確率調査からバスケットボールの特徴について理解する） 第 11回 2:2簡易ゲーム バスケットボールに必要な技術について理解し、習得する（シュート、ドリブル、パスなど） 第 12回 2:0の練習 2:1の練習 2:2の練習（制限区域内での攻撃と防御について理解する）から3:3ゲームへ 第 13回 各チームで練習（各チームの触球数調査からチームの課題を発見し、克服する練習内容を導き出す） 第 14回 オールコートでのゲームの展開 5:5にむけて 第 15回 5:5ゲーム（バスケットゲームの運営について協議し、最終ゲームのルールの確認 審判の役割）		
授業外学習(予習・復習)	体調管理に留意すること。		
成績評価の方法	学習ノート記述内容（自己評価記入も含む）50%+スキル及び技術認識（種目毎）50%を基準に総合的に評価する。		
実務経験について	中学校及び高等専門学校等にて、保健体育科目の担当経験あり。		

(注) 教職必修 (注) (A) 日本語日本文学専攻、(B) 英語英文学専攻 (E) 経済専攻、(F) 経営情報専攻

授業科目	生涯スポーツ実習 II (C)・(D)	担当者	道向 良
	[履修年次] 1年	授業外対応	授業前または終了後
	[学期] 後期 [単位] 1	[必修/選択] 必修 (注)	[授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ラケットスポーツと健康づくり（体力づくり、仲間づくり）</p> <p>【概要】ラケットスポーツとしてテニス、卓球、バドミントンを取りあげ、クラスメートと各種ゲーム、活動を楽しめるようになることを目指す。体力づくりや仲間づくりを意識しつつ、ペアまたはグループで段階的に学習することを通して、各自の能力に応じた技術や動き、プレイスタイルなどを模索する。あわせてスポーツの持つ「コミュニケーション促進力」や「健康増進可能性」など、さまざまな可能性を全体的に追求する。</p> <p>【到達目標】各種目でシングルス、ダブルス、団体戦のゲームができるようになる。体力をつけ、仲間をつくる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 必要に応じてプリントを配布する ※ シューズや帽子などは各自適切なものを準備すること。		
授業スケジュール	第 1回 テニス グループ分け、ボール遊び、ラケットイング、ミニラリー 第 2回 テニス ボール・トスの練習、スキルチェック1、ミニゲーム 第 3回 テニス グループ練習（2分間ラリー）、シングルスルールの理解、試しのゲーム 第 4回 テニス スキルチェック、シングルス・クラスマッチ 第 5回 テニス ダブルス・ルールの理解、試しのゲーム 第 6回 テニス ダブルス・クラスマッチ 第 7回 卓球 グループ分け、基本練習、シングルスルールの理解、ゲーム 第 8回 卓球 グループ練習（2分間ラリー）、シングルス・クラスマッチ 第 9回 卓球 グループ練習（ドライブとカット）ダブルスルールの理解、ゲーム 第 10回 卓球 クラスマッチ 第 11回 バドミントン ハーフコートシングルス 第 12回 バドミントン グループ練習1、シングルスルールの理解、ゲーム 第 13回 バドミントン グループ練習2、ダブルスルールの理解、ゲーム 第 14回 バドミントン クラスマッチ 第 15回 ファイナルコンペティション、全体の振り返り・まとめ、期末レポート課題の提示（期限までに提出）		
授業外学習(予習・復習)	各種運動を日頃から実践し、身体感覚を新鮮に保っておくこと		
成績評価の方法	出席・課題への取り組み状況（40%）、運動能力全般（20%）、小レポートおよび期末レポート（40%）		
実務経験について	なし		

(注) 教職必修 (注) (C) 食物栄養専攻、(D) 生活科学専攻

授業科目	生涯スポーツ実習Ⅱ (E)(F)	担当者	西谷 憲明
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1単位	授業外対応 [必修/選択]	與儀先生を通じて 必修(注) [授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>本講義では、野外ネット型スポーツの典型として硬式テニスを中心に確かな認識に裏づけられた技能に習熟することによって、生涯にわたって生活の質を維持・向上することのできる基礎的素養の獲得を旨とする。</p> <p>【概要】</p> <p>教材として硬式テニスを採用する(雨天時は体育館で。卓球に切り替える)。生涯にわたってスポーツを享受するために不可欠な認識(わかる)を深め広げ、さらに生涯にわたって、自らの技能習熟(できる)を見通せる能力を形成する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>1)生涯にわたりテニス・卓球(主としてダブルスゲーム)を楽しめる主体を形成する 2)テニスや卓球の体の動かし方を理解する 3)その理解に基づいて自他の技能における達成度合いや挑戦課題を発見し、課題達成の道筋を探索する 4)この課題達成の過程において他者との協力やリーダーシップ、組織的に運営する諸能力を向上させる</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし (2) 梅林薫・宮地弘太郎他著(2018) 教師をめざす学生のためのテニスの初心者指導. 大修館書店</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ラケットの扱い方・構えの基本姿勢・ボールの種類変更・ハーフコートゲーム 第2回 ラケットとボールで遊ぶ・フォアハンドストロークの基本の学習と習熟練習・ハーフコートゲーム(1対1) 第3回 ラケットとボールで遊ぶ・バックハンドストロークの基本の学習と習熟練習・ハーフコートゲーム(1対1) 第4回 卓球の授業(雨天) 卓球の基本理解・8テーブルでストレート・クロス打ちラリー練習 第5回 ラケットとボールで遊ぶ・上からのサーブ練習・ストレート・クロス打ち約束練習(2対2)① 第6回 ラケットとボールで遊ぶ・上からのサーブ練習・ストレート・クロス打ち約束練習(2対2)② 第7回 ラケットとボールで遊ぶ・上からのサーブ練習・ストレート・クロス打ち約束練習(2対2)③ 第8回 足の運びとラケット振り練習・サーブ+(ストレート・クロス)返球練習+ゲーム(2対2)① 第9回 足の運びとラケット振り練習・サーブ+(ストレート・クロス)返球練習+ゲーム(2対2)② 第10回 卓球の授業(雨天) サーブ+約束返球練習・シングルゲーム・各班対抗リーグ戦 第11回 サーブ+(ストレート・クロス)返球練習・サーブ+ボレー返球練習 第12回 サーブ+(ストレート・クロス)返球練習・サーブ+ボレー返球練習・ペア決めのためのシングルス試合 第13回 サーブ+(ストレート・クロス)返球練習・サーブ+ボレー返球練習・班内のダブルゲーム 第14回 サーブ+(ストレート・クロス)返球練習・クラス全体でのリーグ戦 第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	機会があれば、前時に学習した内容を実践確認しておくことが望ましい		
成績評価の方法	授業に関する毎回の認識内容(80%)、技能の理解・習熟段階(20%)を総合的に評価する		

(E) 経済専攻, (F) 経営情報専攻

4 教養科目（情報科目）

授業科目	情報リテラシー I (A)		担当者	上野 祐子
	[履修年次] 1年	[学期] 前期	授業外対応	講義終了時, 適宜対応 (要予約)
	[単位] 1単位	[必修/選択] 必修 (注)	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会に必要な情報活用技術の修得</p> <p>【概要】学内メールの送受信方法を習得し、メールを扱う際には注意すべき点があることを理解する。学校やビジネスで必要不可欠なアプリケーションソフト Microsoft Word 及び Excel の基本操作を習得し、必要な情報を収集・選択・加工し、受け手の状況を踏まえた情報発信ができる能力を身に付ける。Web による情報検索を習得し、著作権や情報セキュリティ、ネチケットなどに触れていく。パソコンだけでなく、スマートフォン等を活用する演習も実施する。</p> <p>【到達目標】上記アプリケーションソフト及び検索機能を用いて、他の授業の課題やレポートを作成できるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム株式会社『よくわかる Microsoft Word 2019 & Microsoft Excel 2019 & Microsoft PowerPoint 2019』FOM 出版</p> <p>(2) 授業にて紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション, 電子メール</p> <p>第 2 回 電子メール, 第 1 章 Word さあ, はじめよう (概要, 起動と終了, 画面構成), USB メモリの使い方</p> <p>第 3 回 第 2 章 Word 文書を作成しよう (文字の入力, 文章の入力, コピー, 移動, 印刷, 保存)</p> <p>第 4 回 第 3 章 Word グラフィック機能を使ってみよう (ワードアート, 画像, 文字の効果, ページ罫線)</p> <p>第 5 回 第 4 章 Word 表のある文書を作成しよう (表の作成と編集, 段落罫線), 課題 1</p> <p>第 6 回 レポート作成に役立つ Word の機能 (配布プリント使用)</p> <p>第 7 回 Web による情報検索 (配布プリント使用)</p> <p>第 8 回 Web による情報検索(2) (配布プリント使用)</p> <p>第 9 回 ファイルの整理 (ファイルの概念, フォルダの概念) 及びファイルの検索 (プリント), 課題 2</p> <p>第 10 回 第 5 章 Excel さあ, はじめよう (概要, 起動と終了, 画面構成)</p> <p>第 11 回 第 6 章 Excel データを入力しよう (データの入力, オートフィル)</p> <p>第 12 回 第 7 章 Excel 表を作成しよう (表の作成と編集, 関数, 絶対参照と相対参照), ピボットテーブル</p> <p>第 13 回 第 8 章 Excel グラフを作成しよう (グラフ機能の概要, 円グラフ, 縦棒グラフ), 課題 3</p> <p>第 14 回 Excel 練習問題</p> <p>第 15 回 まとめ (Word・Excel・情報検索)</p>			
授業外学習(予習・復習)	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。課題(単元の復習問題)を実施すること。			
成績評価の方法	3回の課題(60%)と期末試験(40%)の総合評価			
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア, 中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座講師。			

(注) 教職必修, 日本語日文学専攻

授業科目	情報リテラシー I (B)		担当者	上野 祐子
	[履修年次] 1年	[学期] 前期	授業外対応	講義終了時, 適宜対応 (要予約)
	[単位] 1単位	[必修/選択] 必修 (注)	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会に必要な情報活用技術の修得</p> <p>【概要】学内メールの送受信方法を習得し、メールを扱う際には注意すべき点があることを理解する。学校やビジネスで必要不可欠なアプリケーションソフト Microsoft Word 及び Excel の基本操作を習得し、必要な情報を収集・選択・加工し、受け手の状況を踏まえた情報発信ができる能力を身に付ける。Web による情報検索を習得し、著作権や情報セキュリティ、ネチケットなどに触れていく。パソコンだけでなく、スマートフォン等を活用する演習も実施する。</p> <p>【到達目標】上記アプリケーションソフト及び検索機能を用いて、他の授業の課題やレポートを作成できるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム株式会社『よくわかる Microsoft Word 2019 & Microsoft Excel 2019 & Microsoft PowerPoint 2019』FOM 出版</p> <p>(2) 授業にて紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション, 電子メール</p> <p>第 2 回 電子メール, 第 1 章 Word さあ, はじめよう (概要, 起動と終了, 画面構成), USB メモリの使い方</p> <p>第 3 回 第 2 章 Word 文書を作成しよう (文字の入力, 文章の入力, コピー, 移動, 印刷, 保存)</p> <p>第 4 回 第 3 章 Word グラフィック機能を使ってみよう (ワードアート, 画像, 文字の効果, ページ罫線)</p> <p>第 5 回 第 4 章 Word 表のある文書を作成しよう (表の作成と編集, 段落罫線), 課題 1</p> <p>第 6 回 レポート作成に役立つ Word の機能 (配布プリント使用)</p> <p>第 7 回 Web による情報検索 (配布プリント使用)</p> <p>第 8 回 Web による情報検索(2) (配布プリント使用)</p> <p>第 9 回 ファイルの整理 (ファイルの概念, フォルダの概念) 及びファイルの検索 (プリント), 課題 2</p> <p>第 10 回 第 5 章 Excel さあ, はじめよう (概要, 起動と終了, 画面構成)</p> <p>第 11 回 第 6 章 Excel データを入力しよう (データの入力, オートフィル)</p> <p>第 12 回 第 7 章 Excel 表を作成しよう (表の作成と編集, 関数, 絶対参照と相対参照), ピボットテーブル</p> <p>第 13 回 第 8 章 Excel グラフを作成しよう (グラフ機能の概要, 円グラフ, 縦棒グラフ), 課題 3</p> <p>第 14 回 Excel 練習問題</p> <p>第 15 回 まとめ (Word・Excel・情報検索)</p>			
授業外学習(予習・復習)	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。課題(単元の復習問題)を実施すること。			
成績評価の方法	3回の課題(60%)と期末試験(40%)の総合評価			
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア, 中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座講師。			

(注) 教職必修, 英語英文学専攻

授業科目	情報リテラシー I (C)		担当者	上野 祐子
	[履修年次] 1年	[学期] 前期	授業外対応	講義終了時, 適宜対応 (要予約)
	[単位] 1単位	[必修/選択] 必修 (注)	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会に必要な情報活用技術の修得</p> <p>【概要】学内メールの送受信方法を習得し、メールを扱う際には注意すべき点があることを理解する。学校やビジネスで必要不可欠なアプリケーションソフト Microsoft Word 及び Excel の基本操作を習得し、必要な情報を収集・選択・加工し、受け手の状況を踏まえた情報発信ができる能力を身に付ける。Web による情報検索を習得し、著作権や情報セキュリティ、ネチケットなどに触れていく。パソコンだけでなく、スマートフォン等を活用する演習も実施する。</p> <p>【到達目標】上記アプリケーションソフト及び検索機能を用いて、他の授業の課題やレポートを作成できるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム株式会社『よくわかる Microsoft Word 2019 & Microsoft Excel 2019 & Microsoft PowerPoint 2019』FOM 出版</p> <p>(2) 授業にて紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション, 電子メール</p> <p>第 2 回 電子メール, 第 1 章 Word さあ、はじめよう (概要, 起動と終了, 画面構成), USB メモリの使い方</p> <p>第 3 回 第 2 章 Word 文書を作成しよう (文字の入力, 文章の入力, コピー, 移動, 印刷, 保存)</p> <p>第 4 回 第 3 章 Word グラフィック機能を使ってみよう (ワードアート, 画像, 文字の効果, ページ罫線)</p> <p>第 5 回 第 4 章 Word 表のある文書を作成しよう (表の作成と編集, 段落罫線), 課題 1</p> <p>第 6 回 レポート作成に役立つ Word の機能 (配布プリント使用)</p> <p>第 7 回 Web による情報検索 (配布プリント使用)</p> <p>第 8 回 Web による情報検索(2) (配布プリント使用)</p> <p>第 9 回 ファイルの整理 (ファイルの概念, フォルダの概念) 及びファイルの検索 (プリント), 課題 2</p> <p>第 10 回 第 5 章 Excel さあ、はじめよう (概要, 起動と終了, 画面構成)</p> <p>第 11 回 第 6 章 Excel データを入力しよう (データの入力, オートフィル)</p> <p>第 12 回 第 7 章 Excel 表を作成しよう (表の作成と編集, 関数, 絶対参照と相対参照), ピボットテーブル</p> <p>第 13 回 第 8 章 Excel グラフを作成しよう (グラフ機能の概要, 円グラフ, 縦棒グラフ), 課題 3</p> <p>第 14 回 Excel 練習問題</p> <p>第 15 回 まとめ (Word・Excel・情報検索)</p>			
授業外学習(予習・復習)	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。課題 (単元の復習問題) を実施すること。			
成績評価の方法	3 回の課題 (60%) と期末試験 (40%) の総合評価			
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア, 中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座講師。			

(注) 食物栄養専攻

授業科目	情報リテラシー I (D)		担当者	上野 祐子
	[履修年次] 1年	[学期] 前期	授業外対応	講義終了時, 適宜対応 (要予約)
	[単位] 1単位	[必修/選択] 必修 (注)	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会に必要な情報活用技術の修得</p> <p>【概要】学内メールの送受信方法を習得し、メールを扱う際には注意すべき点があることを理解する。学校やビジネスで必要不可欠なアプリケーションソフト Microsoft Word 及び Excel の基本操作を習得し、必要な情報を収集・選択・加工し、受け手の状況を踏まえた情報発信ができる能力を身に付ける。Web による情報検索を習得し、著作権や情報セキュリティ、ネチケットなどに触れていく。パソコンだけでなく、スマートフォン等を活用する演習も実施する。</p> <p>【到達目標】上記アプリケーションソフト及び検索機能を用いて、他の授業の課題やレポートを作成できるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム株式会社『よくわかる Microsoft Word 2019 & Microsoft Excel 2019 & Microsoft PowerPoint 2019』FOM 出版</p> <p>(2) 授業にて紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション, 電子メール</p> <p>第 2 回 電子メール, 第 1 章 Word さあ、はじめよう (概要, 起動と終了, 画面構成), USB メモリの使い方</p> <p>第 3 回 第 2 章 Word 文書を作成しよう (文字の入力, 文章の入力, コピー, 移動, 印刷, 保存)</p> <p>第 4 回 第 3 章 Word グラフィック機能を使ってみよう (ワードアート, 画像, 文字の効果, ページ罫線)</p> <p>第 5 回 第 4 章 Word 表のある文書を作成しよう (表の作成と編集, 段落罫線), 課題 1</p> <p>第 6 回 レポート作成に役立つ Word の機能 (配布プリント使用)</p> <p>第 7 回 Web による情報検索 (配布プリント使用)</p> <p>第 8 回 Web による情報検索(2) (配布プリント使用)</p> <p>第 9 回 ファイルの整理 (ファイルの概念, フォルダの概念) 及びファイルの検索 (プリント), 課題 2</p> <p>第 10 回 第 5 章 Excel さあ、はじめよう (概要, 起動と終了, 画面構成)</p> <p>第 11 回 第 6 章 Excel データを入力しよう (データの入力, オートフィル)</p> <p>第 12 回 第 7 章 Excel 表を作成しよう (表の作成と編集, 関数, 絶対参照と相対参照), ピボットテーブル</p> <p>第 13 回 第 8 章 Excel グラフを作成しよう (グラフ機能の概要, 円グラフ, 縦棒グラフ), 課題 3</p> <p>第 14 回 Excel 練習問題</p> <p>第 15 回 まとめ (Word・Excel・情報検索)</p>			
授業外学習(予習・復習)	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。課題 (単元の復習問題) を実施すること。			
成績評価の方法	3 回の課題 (60%) と期末試験 (40%) の総合評価			
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア, 中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座講師。			

(注) 教職必修, 生活科学専攻

授業科目	情報リテラシー I (E)		担当者	永仮ゆかり																																																
	[履修年次]	1年	授業外対応	講義終了時および必要に応じてメール																																																
	[学期]	前期	[単位]	1	[必修/選択]	必修(注)	[授業形態]	演習																																												
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>ワープロソフト「Microsoft Word」を活用した基本的な文書作成能力の習得</p> <p>【概要】</p> <p>ワープロソフト「Microsoft Word」を活用し、文字の入力から文書の作成、編集、保存、印刷などの基本操作をはじめ、表・図形・画像を盛り込んだ文書の作成技法までを習得することを目的とする。また、あわせて基本的なビジネス文書に関する知識やライティング技術についても解説する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>タッチタイピングの習得、「Microsoft Word」の基本操作の習得、基本的なビジネス文書の作成能力の習得</p>																																																			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム(株)『よくわかる Microsoft Word 2019 基礎』FOM 出版、プリント</p> <p>(2) 授業にて紹介する</p>																																																			
授業スケジュール	<table border="0"> <tr><td>第 1 回</td><td>パソコンの基本操作</td><td>: 概要説明、起動と終了、ウインドウ操作、ファイル操作、Word の画面構成</td></tr> <tr><td>第 2 回</td><td>文字の入力</td><td>: キータッチ練習、文字の入力・訂正・削除・変換</td></tr> <tr><td>第 3 回</td><td>文章の入力</td><td>: キータッチ練習、文章の入力 (分節単位の変換、一括変換)、IME パッドの利用</td></tr> <tr><td>第 4 回</td><td>文書の作成 1</td><td>: ページレイアウト設定、あいさつ文の挿入、範囲選択、コピーと移動、保存</td></tr> <tr><td>第 5 回</td><td>文書の作成 2</td><td>: 文字の配置、書式設定 (フォント、サイズ変更など)、印刷</td></tr> <tr><td>第 6 回</td><td>課題文書作成 1</td><td>: お知らせ文書の作成、ビジネス文書の構成について</td></tr> <tr><td>第 7 回</td><td>表の作成</td><td>: 表の作成、表の選択、行の挿入・削除、列幅変更、文書の書き方について</td></tr> <tr><td>第 8 回</td><td>表の編集</td><td>: セルの結合・分割、セル内の配置、塗りつぶし、罫線の変更、表のスタイル</td></tr> <tr><td>第 9 回</td><td>課題文書作成 2</td><td>: 表を含むビジネス文書の作成</td></tr> <tr><td>第 10 回</td><td>文書の編集</td><td>: 均等割り付け、行間、段組み、改ページ</td></tr> <tr><td>第 11 回</td><td>グラフィック機能の利用</td><td>: ワードアートの挿入、画像の挿入、図形の作成、ページ罫線の設定、図解について</td></tr> <tr><td>第 12 回</td><td>課題文書作成 3</td><td>: 案内状の作成、文書管理について</td></tr> <tr><td>第 13 回</td><td>便利な機能</td><td>: 検索・置換、PDF ファイルとして保存</td></tr> <tr><td>第 14 回</td><td>レポートの作成</td><td>: レポート作成に役立つ機能を利用した文書作成</td></tr> <tr><td>第 15 回</td><td>まとめ</td><td></td></tr> </table>							第 1 回	パソコンの基本操作	: 概要説明、起動と終了、ウインドウ操作、ファイル操作、Word の画面構成	第 2 回	文字の入力	: キータッチ練習、文字の入力・訂正・削除・変換	第 3 回	文章の入力	: キータッチ練習、文章の入力 (分節単位の変換、一括変換)、IME パッドの利用	第 4 回	文書の作成 1	: ページレイアウト設定、あいさつ文の挿入、範囲選択、コピーと移動、保存	第 5 回	文書の作成 2	: 文字の配置、書式設定 (フォント、サイズ変更など)、印刷	第 6 回	課題文書作成 1	: お知らせ文書の作成、ビジネス文書の構成について	第 7 回	表の作成	: 表の作成、表の選択、行の挿入・削除、列幅変更、文書の書き方について	第 8 回	表の編集	: セルの結合・分割、セル内の配置、塗りつぶし、罫線の変更、表のスタイル	第 9 回	課題文書作成 2	: 表を含むビジネス文書の作成	第 10 回	文書の編集	: 均等割り付け、行間、段組み、改ページ	第 11 回	グラフィック機能の利用	: ワードアートの挿入、画像の挿入、図形の作成、ページ罫線の設定、図解について	第 12 回	課題文書作成 3	: 案内状の作成、文書管理について	第 13 回	便利な機能	: 検索・置換、PDF ファイルとして保存	第 14 回	レポートの作成	: レポート作成に役立つ機能を利用した文書作成	第 15 回	まとめ	
第 1 回	パソコンの基本操作	: 概要説明、起動と終了、ウインドウ操作、ファイル操作、Word の画面構成																																																		
第 2 回	文字の入力	: キータッチ練習、文字の入力・訂正・削除・変換																																																		
第 3 回	文章の入力	: キータッチ練習、文章の入力 (分節単位の変換、一括変換)、IME パッドの利用																																																		
第 4 回	文書の作成 1	: ページレイアウト設定、あいさつ文の挿入、範囲選択、コピーと移動、保存																																																		
第 5 回	文書の作成 2	: 文字の配置、書式設定 (フォント、サイズ変更など)、印刷																																																		
第 6 回	課題文書作成 1	: お知らせ文書の作成、ビジネス文書の構成について																																																		
第 7 回	表の作成	: 表の作成、表の選択、行の挿入・削除、列幅変更、文書の書き方について																																																		
第 8 回	表の編集	: セルの結合・分割、セル内の配置、塗りつぶし、罫線の変更、表のスタイル																																																		
第 9 回	課題文書作成 2	: 表を含むビジネス文書の作成																																																		
第 10 回	文書の編集	: 均等割り付け、行間、段組み、改ページ																																																		
第 11 回	グラフィック機能の利用	: ワードアートの挿入、画像の挿入、図形の作成、ページ罫線の設定、図解について																																																		
第 12 回	課題文書作成 3	: 案内状の作成、文書管理について																																																		
第 13 回	便利な機能	: 検索・置換、PDF ファイルとして保存																																																		
第 14 回	レポートの作成	: レポート作成に役立つ機能を利用した文書作成																																																		
第 15 回	まとめ																																																			
授業外学習(予習・復習)	文字入力・Word 操作の復習、知識問題の予習など適宜指示																																																			
成績評価の方法	期末試験 (知識科目 20%+実技科目 50%) +授業中に実施する課題 (30%)																																																			
実務経験について	OA インストラクター、職業能力開発校パソコン実習科目の講師、市民講座パソコン講座の講師																																																			

(注) 経済専攻

授業科目	情報リテラシー I (F)		担当者	永仮ゆかり																																																
	[履修年次]	1年	授業外対応	講義終了時および必要に応じてメール																																																
	[学期]	前期	[単位]	1	[必修/選択]	必修(注)	[授業形態]	演習																																												
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>ワープロソフト「Microsoft Word」を活用した基本的な文書作成能力の習得</p> <p>【概要】</p> <p>ワープロソフト「Microsoft Word」を活用し、文字の入力から文書の作成、編集、保存、印刷などの基本操作をはじめ、表・図形・画像を盛り込んだ文書の作成技法までを習得することを目的とする。また、あわせて基本的なビジネス文書に関する知識やライティング技術についても解説する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>タッチタイピングの習得、「Microsoft Word」の基本操作の習得、基本的なビジネス文書の作成能力の習得</p>																																																			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム(株)『よくわかる Microsoft Word 2019 基礎』FOM 出版、プリント</p> <p>(2) 授業にて紹介する</p>																																																			
授業スケジュール	<table border="0"> <tr><td>第 1 回</td><td>パソコンの基本操作</td><td>: 概要説明、起動と終了、ウインドウ操作、ファイル操作、Word の画面構成</td></tr> <tr><td>第 2 回</td><td>文字の入力</td><td>: キータッチ練習、文字の入力・訂正・削除・変換</td></tr> <tr><td>第 3 回</td><td>文章の入力</td><td>: キータッチ練習、文章の入力 (分節単位の変換、一括変換)、IME パッドの利用</td></tr> <tr><td>第 4 回</td><td>文書の作成 1</td><td>: ページレイアウト設定、あいさつ文の挿入、範囲選択、コピーと移動、保存</td></tr> <tr><td>第 5 回</td><td>文書の作成 2</td><td>: 文字の配置、書式設定 (フォント、サイズ変更など)、印刷</td></tr> <tr><td>第 6 回</td><td>課題文書作成 1</td><td>: お知らせ文書の作成、ビジネス文書の構成について</td></tr> <tr><td>第 7 回</td><td>表の作成</td><td>: 表の作成、表の選択、行の挿入・削除、列幅変更、文書の書き方について</td></tr> <tr><td>第 8 回</td><td>表の編集</td><td>: セルの結合・分割、セル内の配置、塗りつぶし、罫線の変更、表のスタイル</td></tr> <tr><td>第 9 回</td><td>課題文書作成 2</td><td>: 表を含むビジネス文書の作成</td></tr> <tr><td>第 10 回</td><td>文書の編集</td><td>: 均等割り付け、行間、段組み、改ページ</td></tr> <tr><td>第 11 回</td><td>グラフィック機能の利用</td><td>: ワードアートの挿入、画像の挿入、図形の作成、ページ罫線の設定、図解について</td></tr> <tr><td>第 12 回</td><td>課題文書作成 3</td><td>: 案内状の作成、文書管理について</td></tr> <tr><td>第 13 回</td><td>便利な機能</td><td>: 検索・置換、PDF ファイルとして保存</td></tr> <tr><td>第 14 回</td><td>レポートの作成</td><td>: レポート作成に役立つ機能を利用した文書作成</td></tr> <tr><td>第 15 回</td><td>まとめ</td><td></td></tr> </table>							第 1 回	パソコンの基本操作	: 概要説明、起動と終了、ウインドウ操作、ファイル操作、Word の画面構成	第 2 回	文字の入力	: キータッチ練習、文字の入力・訂正・削除・変換	第 3 回	文章の入力	: キータッチ練習、文章の入力 (分節単位の変換、一括変換)、IME パッドの利用	第 4 回	文書の作成 1	: ページレイアウト設定、あいさつ文の挿入、範囲選択、コピーと移動、保存	第 5 回	文書の作成 2	: 文字の配置、書式設定 (フォント、サイズ変更など)、印刷	第 6 回	課題文書作成 1	: お知らせ文書の作成、ビジネス文書の構成について	第 7 回	表の作成	: 表の作成、表の選択、行の挿入・削除、列幅変更、文書の書き方について	第 8 回	表の編集	: セルの結合・分割、セル内の配置、塗りつぶし、罫線の変更、表のスタイル	第 9 回	課題文書作成 2	: 表を含むビジネス文書の作成	第 10 回	文書の編集	: 均等割り付け、行間、段組み、改ページ	第 11 回	グラフィック機能の利用	: ワードアートの挿入、画像の挿入、図形の作成、ページ罫線の設定、図解について	第 12 回	課題文書作成 3	: 案内状の作成、文書管理について	第 13 回	便利な機能	: 検索・置換、PDF ファイルとして保存	第 14 回	レポートの作成	: レポート作成に役立つ機能を利用した文書作成	第 15 回	まとめ	
第 1 回	パソコンの基本操作	: 概要説明、起動と終了、ウインドウ操作、ファイル操作、Word の画面構成																																																		
第 2 回	文字の入力	: キータッチ練習、文字の入力・訂正・削除・変換																																																		
第 3 回	文章の入力	: キータッチ練習、文章の入力 (分節単位の変換、一括変換)、IME パッドの利用																																																		
第 4 回	文書の作成 1	: ページレイアウト設定、あいさつ文の挿入、範囲選択、コピーと移動、保存																																																		
第 5 回	文書の作成 2	: 文字の配置、書式設定 (フォント、サイズ変更など)、印刷																																																		
第 6 回	課題文書作成 1	: お知らせ文書の作成、ビジネス文書の構成について																																																		
第 7 回	表の作成	: 表の作成、表の選択、行の挿入・削除、列幅変更、文書の書き方について																																																		
第 8 回	表の編集	: セルの結合・分割、セル内の配置、塗りつぶし、罫線の変更、表のスタイル																																																		
第 9 回	課題文書作成 2	: 表を含むビジネス文書の作成																																																		
第 10 回	文書の編集	: 均等割り付け、行間、段組み、改ページ																																																		
第 11 回	グラフィック機能の利用	: ワードアートの挿入、画像の挿入、図形の作成、ページ罫線の設定、図解について																																																		
第 12 回	課題文書作成 3	: 案内状の作成、文書管理について																																																		
第 13 回	便利な機能	: 検索・置換、PDF ファイルとして保存																																																		
第 14 回	レポートの作成	: レポート作成に役立つ機能を利用した文書作成																																																		
第 15 回	まとめ																																																			
授業外学習(予習・復習)	文字入力・Word 操作の復習、知識問題の予習など適宜指示																																																			
成績評価の方法	期末試験 (知識科目 20%+実技科目 50%) +授業中に実施する課題 (30%)																																																			
実務経験について	OA インストラクター、職業能力開発校パソコン実習科目の講師、市民講座パソコン講座の講師																																																			

(注) 経営情報専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ (A)		担当者	上野 祐子
	[履修年次]	1年	授業外対応	講義終了時、適宜対応 (要予約)
	[学期]	後期	[単位]	1単位
			[必修/選択]	必修 (注)
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会に必要な情報活用技術の修得</p> <p>【概要】学校やビジネスで必要不可欠なアプリケーションソフト Microsoft Word 及び Excel, PowerPoint を習得し、必要な情報を収集・選択・加工し、受け手の状況を踏まえた情報発信ができる能力を身に付ける。3つのアプリケーションソフトの理解を深めるために、日商 PC 検定 3 級問題集を用いて、ビジネス実務を想定した問題演習を行う。</p> <p>デジタル化に伴うメリット・デメリット、情報セキュリティを守る技術等、ICT 利活用に関する基本的な知識を習得する。</p> <p>【到達目標】上記アプリケーションソフトを用いて、簡単なビジネス文書が作成できるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム株式会社『よくわかる Microsoft Word 2019 & Microsoft Excel 2019 & Microsoft PowerPoint 2019』FOM 出版</p> <p>(2) 授業にて紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 Word 及び Excel の基本操作の復習、レポート作成に役立つ Word の機能の復習</p> <p>第 2 回 第 10 章 PowerPoint さあ、はじめよう (概要、起動と終了、画面構成)</p> <p>第 3 回 第 11 章 PowerPoint プレゼンテーションを作成しよう (テーマ、スライドの作成、図形、SmartArt グラフィック)</p> <p>第 4 回 第 12 章 PowerPoint スライドショーを実行しよう (画面切り替え効果、アニメーション、印刷)、課題 1</p> <p>第 5 回 第 13 章 アプリ間でデータを共有しよう (Excel と Word の連携、Word 文書を PowerPoint で利用)</p> <p>第 6 回 Word 練習問題 (主にグラフィック機能) (配布プリント使用)</p> <p>第 7 回 Word 練習問題 (主に表中心) (配布プリント使用)</p> <p>第 8 回 Word 練習問題 (配布プリント使用)、課題 2</p> <p>第 9 回 第 9 章 Excel データを分析しよう (データベース機能)</p> <p>第 10 回 Excel 練習問題 (主に関数中心) (配布プリント使用)</p> <p>第 11 回 Excel 練習問題 (主にグラフ中心) (配布プリント使用)、課題 3</p> <p>第 12 回 Excel 練習問題 (配布プリント使用)</p> <p>第 13 回 ビジネス実務を想定した問題演習 (配布プリント使用)</p> <p>第 14 回 ビジネス実務を想定した問題演習 2 (配布プリント使用)</p> <p>第 15 回 まとめ (PowerPoint・Word・Excel)</p>			
授業外学習(予習・復習)	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。課題 (単元の復習問題) を実施すること。			
成績評価の方法	3 回の課題 (60%) と期末試験 (40%) の総合評価			
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア、中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座講師。			

(注) 教職必修、日本語日本文学専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ (B)		担当者	上野 祐子
	[履修年次]	1年	授業外対応	講義終了時、適宜対応 (要予約)
	[学期]	後期	[単位]	1単位
			[必修/選択]	必修 (注)
			[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会に必要な情報活用技術の修得</p> <p>【概要】学校やビジネスで必要不可欠なアプリケーションソフト Microsoft Word 及び Excel, PowerPoint を習得し、必要な情報を収集・選択・加工し、受け手の状況を踏まえた情報発信ができる能力を身に付ける。3つのアプリケーションソフトの理解を深めるために、日商 PC 検定 3 級問題集を用いて、ビジネス実務を想定した問題演習を行う。</p> <p>デジタル化に伴うメリット・デメリット、情報セキュリティを守る技術等、ICT 利活用に関する基本的な知識を習得する。</p> <p>【到達目標】上記アプリケーションソフトを用いて、簡単なビジネス文書が作成できるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム株式会社『よくわかる Microsoft Word 2019 & Microsoft Excel 2019 & Microsoft PowerPoint 2019』FOM 出版</p> <p>(2) 授業にて紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 Word 及び Excel の基本操作の復習、レポート作成に役立つ Word の機能の復習</p> <p>第 2 回 第 10 章 PowerPoint さあ、はじめよう (概要、起動と終了、画面構成)</p> <p>第 3 回 第 11 章 PowerPoint プレゼンテーションを作成しよう (テーマ、スライドの作成、図形、SmartArt グラフィック)</p> <p>第 4 回 第 12 章 PowerPoint スライドショーを実行しよう (画面切り替え効果、アニメーション、印刷)、課題 1</p> <p>第 5 回 第 13 章 アプリ間でデータを共有しよう (Excel と Word の連携、Word 文書を PowerPoint で利用)</p> <p>第 6 回 Word 練習問題 (主にグラフィック機能) (配布プリント使用)</p> <p>第 7 回 Word 練習問題 (主に表中心) (配布プリント使用)</p> <p>第 8 回 Word 練習問題 (配布プリント使用)、課題 2</p> <p>第 9 回 第 9 章 Excel データを分析しよう (データベース機能)</p> <p>第 10 回 Excel 練習問題 (主に関数中心) (配布プリント使用)</p> <p>第 11 回 Excel 練習問題 (主にグラフ中心) (配布プリント使用)、課題 3</p> <p>第 12 回 Excel 練習問題 (配布プリント使用)</p> <p>第 13 回 ビジネス実務を想定した問題演習 (配布プリント使用)</p> <p>第 14 回 ビジネス実務を想定した問題演習 2 (配布プリント使用)</p> <p>第 15 回 まとめ (PowerPoint・Word・Excel)</p>			
授業外学習(予習・復習)	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。課題 (単元の復習問題) を実施すること。			
成績評価の方法	3 回の課題 (60%) と期末試験 (40%) の総合評価			
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア、中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座講師。			

(注) 教職必修、英語英文学専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ (C)		担当者	上野 祐子
	[履修年次] 1年		授業外対応	講義終了時、適宜対応 (要予約)
	[学期] 前期	[単位] 1単位	[必修/選択] 必修 (注)	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会に必要な情報活用技術の修得</p> <p>【概要】学校やビジネスで必要不可欠なアプリケーションソフト Microsoft Word 及び Excel, PowerPoint を習得し、必要な情報を収集・選択・加工し、受け手の状況を踏まえた情報発信ができる能力を身に付ける。3つのアプリケーションソフトの理解を深めるために、日商 PC 検定 3 級問題集を用いて、ビジネス実務を想定した問題演習を行う。</p> <p>デジタル化に伴うメリット・デメリット、情報セキュリティを守る技術等、ICT 利活用に関する基本的な知識を習得する。</p> <p>【到達目標】上記アプリケーションソフトを用いて、簡単なビジネス文書が作成できるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム株式会社『よくわかる Microsoft Word 2019 & Microsoft Excel 2019 & Microsoft PowerPoint 2019』FOM 出版</p> <p>(2) 授業にて紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 Word 及び Excel の基本操作の復習、レポート作成に役立つ Word の機能の復習</p> <p>第 2 回 第 10 章 PowerPoint さあ、はじめよう (概要、起動と終了、画面構成)</p> <p>第 3 回 第 11 章 PowerPoint プレゼンテーションを作成しよう (テーマ、スライドの作成、図形、SmartArt グラフィック)</p> <p>第 4 回 第 12 章 PowerPoint スライドショーを実行しよう (画面切り替え効果、アニメーション、印刷)、課題 1</p> <p>第 5 回 第 13 章 アプリ間でデータを共有しよう (Excel と Word の連携、Word 文書を PowerPoint で利用)</p> <p>第 6 回 Word 練習問題 (主にグラフィック機能) (配布プリント使用)</p> <p>第 7 回 Word 練習問題 (主に表中心) (配布プリント使用)</p> <p>第 8 回 Word 練習問題 (配布プリント使用)、課題 2</p> <p>第 9 回 第 9 章 Excel データを分析しよう (データベース機能)</p> <p>第 10 回 Excel 練習問題 (主に関数中心) (配布プリント使用)</p> <p>第 11 回 Excel 練習問題 (主にグラフ中心) (配布プリント使用)、課題 3</p> <p>第 12 回 Excel 練習問題 (配布プリント使用)</p> <p>第 13 回 ビジネス実務を想定した問題演習 (配布プリント使用)</p> <p>第 14 回 ビジネス実務を想定した問題演習 2 (配布プリント使用)</p> <p>第 15 回 まとめ (PowerPoint・Word・Excel)</p>			
授業外学習(予習・復習)	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。課題 (単元の復習問題) を実施すること。			
成績評価の方法	3 回の課題 (60%) と期末試験 (40%) の総合評価			
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア、中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座講師。			

(注) 食物栄養専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ (D)		担当者	上野 祐子
	[履修年次] 1年		授業外対応	講義終了時、適宜対応 (要予約)
	[学期] 後期	[単位] 1単位	[必修/選択] 必修 (注)	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】現代社会に必要な情報活用技術の修得</p> <p>【概要】学校やビジネスで必要不可欠なアプリケーションソフト Microsoft Word 及び Excel, PowerPoint を習得し、必要な情報を収集・選択・加工し、受け手の状況を踏まえた情報発信ができる能力を身に付ける。3つのアプリケーションソフトの理解を深めるために、日商 PC 検定 3 級問題集を用いて、ビジネス実務を想定した問題演習を行う。</p> <p>デジタル化に伴うメリット・デメリット、情報セキュリティを守る技術等、ICT 利活用に関する基本的な知識を習得する。</p> <p>【到達目標】上記アプリケーションソフトを用いて、簡単なビジネス文書が作成できるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム株式会社『よくわかる Microsoft Word 2019 & Microsoft Excel 2019 & Microsoft PowerPoint 2019』FOM 出版</p> <p>(2) 授業にて紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 Word 及び Excel の基本操作の復習、レポート作成に役立つ Word の機能の復習</p> <p>第 2 回 第 10 章 PowerPoint さあ、はじめよう (概要、起動と終了、画面構成)</p> <p>第 3 回 第 11 章 PowerPoint プレゼンテーションを作成しよう (テーマ、スライドの作成、図形、SmartArt グラフィック)</p> <p>第 4 回 第 12 章 PowerPoint スライドショーを実行しよう (画面切り替え効果、アニメーション、印刷)、課題 1</p> <p>第 5 回 第 13 章 アプリ間でデータを共有しよう (Excel と Word の連携、Word 文書を PowerPoint で利用)</p> <p>第 6 回 Word 練習問題 (主にグラフィック機能) (配布プリント使用)</p> <p>第 7 回 Word 練習問題 (主に表中心) (配布プリント使用)</p> <p>第 8 回 Word 練習問題 (配布プリント使用)、課題 2</p> <p>第 9 回 第 9 章 Excel データを分析しよう (データベース機能)</p> <p>第 10 回 Excel 練習問題 (主に関数中心) (配布プリント使用)</p> <p>第 11 回 Excel 練習問題 (主にグラフ中心) (配布プリント使用)、課題 3</p> <p>第 12 回 Excel 練習問題 (配布プリント使用)</p> <p>第 13 回 ビジネス実務を想定した問題演習 (配布プリント使用)</p> <p>第 14 回 ビジネス実務を想定した問題演習 2 (配布プリント使用)</p> <p>第 15 回 まとめ (PowerPoint・Word・Excel)</p>			
授業外学習(予習・復習)	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。課題 (単元の復習問題) を実施すること。			
成績評価の方法	3 回の課題 (60%) と期末試験 (40%) の総合評価			
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア、中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座講師。			

(注) 教職必修、生活科学専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ (E)		担当者	刈屋 美枝子
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	授業前後。メールでの質問にも随時対応。
	〔学期〕	前期	〔単位〕	1
			〔必修/選択〕	必修 (注)
			〔授業形態〕	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 学習における Windows パソコンの基本的な使い方をマスターし、各種アプリケーションに習熟する。</p> <p>【概要】 情報リテラシーⅡ (E) と (F) は、授業開始前パソコン使用経験に応じて経済・経営情報の 2 専攻を合わせて中級 (経験者 : E) と初級 (初心者 : F) に分けてクラス編成する。Windows パソコンの基本的な使い方から始まり、電子メール (学校指定メール)、インターネット検索、画像処理、ユーティリティソフト、クラウドの利用等、学習やビジネスの場で活用できる様々なアプリケーション・ソフトウェアの実践的な使い方を習得する。</p> <p>【到達目標】 初心者クラスは、Windows パソコンの基本的な使い方を理解し、日常的にパソコンの使用を身近なものとする。経験者クラスは、基本レベルに習熟し、スマートフォンと連携させながら応用レベルまで使いこなせるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし</p> <p>(2) 随時、資料ファイルを配信。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 Windows パソコンの基本的な使い方 タイピング練習ソフトの紹介</p> <p>第 2 回 電子メールにおける文書処理とスマートフォンとの連携</p> <p>第 3 回 Windows パソコンでのファイルの基本操作</p> <p>第 4 回 電子メールの応用 授業アンケート (パソコン使用歴、授業への希望など)</p> <p>第 5 回 パソコンにおける効率的な検索</p> <p>第 6 回 インターネット検索の基本 第 1 回課題</p> <p>第 7 回 画像ファイルの扱い方…さまざまなアプリの選択</p> <p>第 8 回 画像ファイルの扱い方…画像の加工・編集</p> <p>第 9 回 WORD での画像の活用 (1)</p> <p>第 10 回 WORD での画像の活用 (2) 第 2 回課題</p> <p>第 11 回 ファイルの応用的処理…圧縮・展開</p> <p>第 12 回 ファイルの応用的処理…その他のユーティリティソフト</p> <p>第 13 回 インターネットを利用したデータのやり取り…パソコンとスマートフォンの連携</p> <p>第 14 回 インターネットの活用…クラウドの利用</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	2回の課題は基本的に宿題。自宅にパソコンがない場合は空き時間に学校で取り組むこと。			
成績評価の方法	2 回の課題 (70%) と実技試験 (30%) の総合評価			
実務経験について	本学でのパソコン講師歴 20 年以上、実務翻訳業 20 年以上 (鹿児島商工会議所会員)			

(注)経済専攻

授業科目	情報リテラシーⅡ (F)		担当者	刈屋 美枝子
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	授業前後。メールでの質問にも随時対応。
	〔学期〕	前期	〔単位〕	1
			〔必修/選択〕	必修 (注)
			〔授業形態〕	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 学習におけるパソコンの基本的な使い方をマスターし、各種アプリケーション・ソフトウェアに習熟する。</p> <p>【概要】 情報リテラシーⅡ (E) と (F) は、授業開始前パソコン使用経験に応じて経済・経営情報の 2 専攻を合わせて中級 (経験者 : E) と初級 (初心者 : F) に分けてクラス編成する。Windows パソコンの基本的な使い方から始まり、電子メール (学校指定メール)、インターネット検索、画像処理、ユーティリティソフト、クラウドの利用等、学習やビジネスの場で活用できる様々なアプリケーション・ソフトウェアの実践的な使い方を習得する。</p> <p>【到達目標】 初心者クラスは、Windows パソコンの基本的な使い方を理解し、日常的にパソコンの使用を身近なものとする。経験者クラスは、基本レベルに習熟し、スマートフォンと連携させながら応用レベルまで使いこなせるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし</p> <p>(2) 随時、資料ファイルを配信。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 Windows パソコンの基本的な使い方 タイピング練習ソフトの紹介</p> <p>第 2 回 電子メールにおける文書処理とスマートフォンとの連携</p> <p>第 3 回 Windows PC でのファイルの基本操作</p> <p>第 4 回 電子メールの応用 授業アンケート (パソコン使用歴、授業への希望など)</p> <p>第 5 回 パソコンによる効率的な検索</p> <p>第 6 回 インターネット検索の基本 第 1 回課題</p> <p>第 7 回 画像ファイルの扱い方…さまざまなアプリの選択</p> <p>第 8 回 画像ファイルの扱い方…画像の加工・編集</p> <p>第 9 回 WORD での画像の活用 (1)</p> <p>第 10 回 WORD での画像の活用 (2) 第 2 回課題</p> <p>第 11 回 ファイルの応用的処理…圧縮・展開</p> <p>第 12 回 ファイルの応用的処理…その他のユーティリティソフト</p> <p>第 13 回 インターネットを利用したデータのやり取り…パソコンとスマートフォンの連携</p> <p>第 14 回 インターネットの活用…クラウドの利用</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	2回の課題は基本的に宿題。自宅にパソコンがない場合は空き時間に学校で取り組むこと。			
成績評価の方法	2 回の課題 (70%) と実技試験 (30%) の総合評価			
実務経験について	本学パソコン講師歴 20 年以上、実務翻訳業 20 年以上 (鹿児島商工会議所会員)			

(注)経営情報専攻

5 日本語日本文学専攻専門科目

授業科目	日本文学概論	担当者	木戸 裕子・竹本 寛秋		
	[履修年次] 1	授業外対応	適宜対応 (要予約)		
	[学期] 前期 [単位] 2	[必修/選択]	必修 (注)	[授業形態]	講義形式
	<p>【テーマ】高校から大学の教育カリキュラムにスムーズに新入生が移行できるためのリテラシー教育，ならびに各専門分野への橋渡しとなるような基礎的能力の育成を目的とする。</p> <p>【概要】大学での文学研究は高校の国語の授業の内容とは大きく違います。この授業では，1. 古典文学研究に必要な文献学，書誌学の初歩とくずし字の読み方，2. 主に近代文学研究に必要な文学理論の初歩，3. 大学生にふさわしい「書く力」「話す力」を身につけるためのレポート作成方法の三部構成で，日本文学を学ぶ学生に必要な知識と能力を習得できるようにします。</p> <p>【到達目標】本の古典・近代文学に関する基礎的な知識を修得し，変体仮名（くずし字）の基本的な読み方を身につける。演習や2年次の卒業研究に必要なディスカッションの仕方，論理的なレポートの書き方を身につける。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1)	小島孝之『古筆切で読む くずし字練習帳』『字典かな』新典社 (担当者：木戸)			
	(2)	プリント (担当者：竹本)			
授業スケジュール	第 1 回	オリエンテーション：本学での日本文学関連の授業と高校の国語の授業の違い、ノートの取り方。			
	第 2 回	古典文学を学ぶとは、仮名史について：くずし字の読み方1			
	第 3 回	文献学 (写本と板本)，書誌学について：くずし字の読み方2			
	第 4 回	古典の季節観と暦：くずし字の読み方3			
	第 5 回	古典文学研究の方法1：くずし字小テスト			
	第 6 回	古典文学研究の方法2：くずし字の読み方4			
	第 7 回	古典における比較文学 中国古典文学との関わり：くずし字の読み方5			
	第 8 回	総括1：前半のまとめ			
	第 9 回	近代文学を学ぶとは：文学理論について			
	第10回	「読む」ときに行われていること：解釈モデルについて			
	第11回	「作者」とは何か：作者/作品/テキストについて			
	第12回	「語り」とは何か：ナラトロジーについて			
	第13回	「物語」とは何か：物語の構造について			
	第14回	論文の書き方			
	第15回	総括2：後半のまとめ			
授業外学習(予習・復習)	授業で指示する課題など。				
成績評価の方法	毎時間提出するミニレポート (感想文等) 20% 講義期間中の提出課題又は小テスト30% 試験50% (竹本担当分はレポート50%) の合計で評価する。				
実務経験について	なし				

(注) 教職必修

授業科目	言語学概論		担当者	楊 虹
	[履修年次] 1年		授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期] 前期	[単位] 2	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 言語学に関する基礎知識を学ぶ。</p> <p>【概要】 この授業では、言語学に関する基礎知識を学ぶ。音声学・音韻論、形態論、統語論、意味論および語用論、さらに言語獲得のメカニズムや言語によるコミュニケーションの仕組みから「ことば」を多角的に捉えていく。身近な例をあげてこれらの問題について考えながら授業を進める。</p> <p>【到達目標】 言語学の全体像を体系的に把握すると同時に、身近なことばと私たちの生活、社会の関連について理解を深める。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。 (2) 授業中に紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション：言語学とはどんな学問か、授業の概要説明 第 2回 音声学・音韻論 (1)：調音音声学、子音・母音 第 3回 音声学・音韻論 (2)：モーラ、音節① 第 4回 音声学・音韻論 (3)：モーラ、音節② 第 5回 音声学・音韻論 (4)：連濁、枝分かれ制約 第 6回 形態論 (1)：形態素、派生、複合など単語を生み出す仕組み 第 7回 形態論 (2)：新語、流行語 第 8回 意味論 (1)：単語の意味 第 9回 意味論 (2)：類義語と対義語 第 10回 語用論 (1)：発話行為論① 第 11回 語用論 (2)：発話行為論② 第 12回 語用論 (3)：発話機能と語学教育 第 13回 言語コミュニケーションと社会：対人関係と地域差 第 14回 これまでの復習 第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜小テストを実施するので、毎回復習が必要である。			
成績評価の方法	授業での発言や参加度及び宿題：50%、期末試験：50%			
実務経験について				

授業科目	日本語学概論		担当者	小亀 拓也
	[履修年次] 1年 (注)		授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期] 前期	[単位] 2	[必修/選択] 必修 (注)	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本語を研究する際や日本文学（特に古典文学）を講読する際に必要となる日本語学の基礎知識を学ぶ。</p> <p>【概要】 日本語の各研究分野（音声・音韻、文字・表記、語彙・意味、文法、待遇表現、方言）について概観する。</p> <p>【到達目標】 日本語学の基本的な考え方を身につけ、身の回りの言語現象について、的確に表現できるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 伊坂淳一『新 ここからはじまる日本語学』ひつじ書房 (2) 授業中に紹介します。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション：「日本語」か「国語」か。「日本語学」とは。 第 2回 現代日本語の音声と音韻1：音声と音韻、音声器官、音声記号 第 3回 現代日本語の音声と音韻2：日本語の母音、母音の無声化、促音化 第 4回 現代日本語の音声と音韻3：日本語の子音、調音点・調音法・声帯振動 第 5回 現代日本語の音声と音韻4：音素と異音、拍と音節、特殊音素 第 6回 現代日本語の音声と音韻5：アクセント、イントネーション 第 7回 文字・表記：日本語の表記の特色、漢字の構造・音と訓・送り仮名 第 8回 現代日本語の語彙と意味1：語彙、語彙量、語種 第 9回 現代日本語の語彙と意味2：語構成、語の意味、原義と転義 第 10回 現代日本語の文法1：形態論と統語論、文の分類、主語と述語、主題 第 11回 現代日本語の文法2：学校文法とその限界、動詞の活用、自動詞・他動詞 第 12回 現代日本語の文法3：ヴォイス、テンス、アスペクト 第 13回 現代日本語の文法4：モダリティ、複文、授受表現 第 14回 現代日本語の待遇表現：待遇行動、待遇表現の種類、敬語 第 15回 現代日本語の方言：言語変種、社会方言と地域方言、言語変化</p>			
授業外学習(予習・復習)	各自事前にテキストを読んでくること。また、毎授業冒頭に復習小テストを行うため、復習が必要である。			
成績評価の方法	筆記試験 (テキスト・ノート等持ち込み可) の成績 (60%)、小テストの成績 (40%)			
実務経験について	KEC 日本語学院にて、「音声・音韻」「文字・表記」「語彙・意味」「文法」「言語と社会」の教授経験あり。			

(注) 教職必修 日本語日本文学専攻では、1年次 必修科目かつ教職必修。英語英文学専攻では、2年次 選択科目。
なお、教育職員免許法施行規則の「音声言語及び文章表現に関するもの」のうち、「音声言語」にあたる内容を扱う。

授業科目	日本語教育概論		担当者	楊 虹		
	[履修年次]	日本語日本文学専攻は1年, 英語英文学専攻は2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)		
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択
					[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本語教育学の基礎を学ぶ。</p> <p>【概要】 この授業では、日本語教育に初めて接する人を対象として、日本語教師及び学習者を取り巻く社会情勢、教育政策等日本語教育に関わる基本的な環境、言語（外国語）習得の仕組み、日本語教育の教授法等を解説する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語教育に関する基礎知識を身につけ、日本語教育に興味を持ち、その全体像を把握できること。 グローバル化が進む今日の日本及び世界に対し、より広い視野と多様な見方を持つようになること。 					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>					
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：授業の概要説明および日本語教育の現状の概観</p> <p>第2回 異文化接触と日本語教育：少子高齢化、定住外国人の増加、ボランティア教室</p> <p>第3回 年少者に対する日本語教育：帰国子女・外国人児童生徒に対する教育</p> <p>第4回 教師の役割①コースデザインとニーズ分析</p> <p>第5回 教師の役割②シラバス・デザイン</p> <p>第6回 教材分析</p> <p>第7回 教授法①：直接法 オーディオリンガルメソッド コミュニカティブ・アプローチ</p> <p>第8回 教授法②：授業見学</p> <p>第9回 教授法③：授業見学の振り返り</p> <p>第10回 授業の計画と実施①授業の組み立て方</p> <p>第11回 授業の計画と実施②初級レベルの場合：導入 基本練習 応用練習</p> <p>第12回 授業の計画と実施③中級以上のレベルの場合：ストラテジー教育 プロジェクトワーク</p> <p>第13回 フォリナートークとやさしい日本語</p> <p>第14回 模擬授業の準備</p> <p>第15回 模擬授業の実施、全体のまとめ</p>					
授業外学習(予習・復習)	適宜小テストを実施するので、復習が必要である。					
成績評価の方法	授業での参加度や課題等提出物：50%、期末レポート：50%					
実務経験について						

授業科目	日本語史		担当者	小亀 拓也		
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)		
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	必修 (注)
					[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>日本語の史的変遷について学ぶ。</p> <p>【概要】</p> <p>古代から現代に至る各時代の日本語について、音韻・文字・語彙・文法の観点から、資料を読み解きながら、その史的変遷を概観する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>上代から近代までの各時代における音韻・文字・語彙・文法の特徴を理解した上で、現代日本語の成立に至る過程を説明することができるようになる。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>					
授業スケジュール	<p>第1回 時代区分と資料：日本語の範囲、日本語の資料、日本語史の時代区分</p> <p>第2回 奈良時代までの日本語1：漢字の伝来、万葉仮名、上代特殊仮名遣い、頭音法則</p> <p>第3回 奈良時代までの日本語2：動詞の活用成立、形容詞・代名詞の整備、和語と漢語</p> <p>第4回 平安時代の日本語1：和文と漢文訓読文、平仮名・片仮名の誕生、いろは歌と五十音図</p> <p>第5回 平安時代の日本語2：音韻の混同（ハ行転呼音）、声調の表示、下一段活用の成立、ナリ活用とタリ活用</p> <p>第6回 平安時代の日本語3：音便と表記、代名詞、助動詞と助詞、漢語の日本語化</p> <p>第7回 鎌倉時代の日本語1：和漢混淆文、直音と拗音、開合、連声</p> <p>第8回 鎌倉時代の日本語2：終止形と連体形の合一化、ラ変と形容詞の活用変化、係り結びの崩壊</p> <p>第9回 鎌倉時代の日本語3：二段活用の一役化、コソアド体系の整備、助動詞類の変化、漢語の普及と意味変化</p> <p>第10回 室町時代の日本語1：天草本『伊曾保物語』、アクセントの変化、外来語の発達</p> <p>第11回 室町時代の日本語2：近代語法への変容、尊敬語・丁寧語の発達</p> <p>第12回 江戸時代の日本語1：上方語と江戸語、四つ仮名の区別の消滅、合拗音の直音化、漢語の多用、当て字</p> <p>第13回 江戸時代の日本語2：近代語法の確立、複合辞の増加、敬語表現の細分化</p> <p>第14回 明治以降の日本語：言文一致、現代表記の確立、漢語の急増、外来語の使用</p> <p>第15回 日本語学史</p>					
授業外学習(予習・復習)	予習：各自事前に予習資料に目を通して頂くこと。／復習：授業で配布した文献資料等を再度読んでおくこと。					
成績評価の方法	筆記試験（テキスト・ノート・辞書・配布資料等持ち込み可）の成績（60%）、随時実施する小テストの成績（40%）					
実務経験について	KEC 日本語学院にて、「日本語の歴史」の教授経験あり。					

(注) 日本語日本文学専攻の学生は、1年次 必修科目かつ教職必修。

授業科目	日本文法論		担当者	小亀 拓也
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	前期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
				[授業形態]
				講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】身の回りの日本語の中にひそむ、さまざまな文法現象の「不思議」について考察する。</p> <p>【概要】 「風もないのに、木の葉がはらはらと散る」「風はないのに、木の葉がはらはらと散る」——どちらも同じ事柄を表していると言えそうであるが、一方で、その文が表す意味には微妙な差異も感じられる。これらの助詞は、何が同じで何が違うのか。この講義では、上記のような、普段特に意識されることはないが、改めて考えてみると不思議な文法現象について考察する。</p> <p>【到達目標】受講生自身が、身の回りの日本語の不思議な現象に気づき、記述・分析できるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 1年次に「日本語学概論」で使用した教科書を持参すること。</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：「4色ボールペン、北京でありましたよ」</p> <p>第2回 助詞「か」の多義：「ん、何かあったのか?」「なんだ、非常ベルの誤作動か」</p> <p>第3回 助詞「も」の多義：「私もその怪談話、聞いたことある」「怖くて夜も寝られない」</p> <p>第4回 助詞「は」の多義：「私、お酒は飲めないの」「クジラは哺乳動物である」</p> <p>第5回 助詞「か」「も」「は」のまとめ</p> <p>第6回 助詞「が」の用法：「机の上に本がある」「鳥が飛んでいる」「水が飲みたい」「納豆が食べられない」</p> <p>第7回 「は」と「が」1：「恋人(は/が) サンタクロース」「十円玉(は/が/φ)ある?」</p> <p>第8回 「は」と「が」2：「は」と「が」の位置関係と使い分け</p> <p>第9回 動詞シタ形が多義：「先週、沖縄へ行った」「あ、スマホの画面が割れた」「あ、こんなところにあった!」</p> <p>第10回 動詞シテイル形が多義：「鳥が飛んでいる」「ガラスが割れている」「森の向こうに富士山が見えている」</p> <p>第11回 「た」と「ている」：「織田信長は1582年に(死んだ/死んでいる)」「(濁った/濁っている)水」</p> <p>第12回 動詞スル形が多義：「明日はきっと雪が降る」「僕、一人で帰る!」「さっさと歩く!」</p> <p>第13回 動詞ショウ形が多義：「この中にはその話を聞いた人もあろう」「よし、勉強しよう」「一緒に勉強しよう」</p> <p>第14回 現代日本語の叙法組織：動詞スル形、動詞ショウ形、動詞シタ形、動詞シテイル形</p> <p>第15回 まとめ 以上の予定ですが、進行状況次第で変更の可能性があります。</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習：次回授業までに配布された文献を読んでくること。／復習：毎授業冒頭に復習小テストを行う。			
成績評価の方法	筆記試験(テキスト・ノート等持ち込み可)の成績(70%)、小テストの成績(30%)			
実務経験について	KEC日本語学院にて、「文法」の教授経験あり。			

授業科目	日本語学講義		担当者	小亀 拓也
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
				[授業形態]
				講義
授業科目	<p>【テーマ】1年次に「日本語学概論」で扱った諸問題について、より専門的な見地から分析・考察する。</p> <p>また「日本語学概論」で扱わなかった内容についても検討し、より広範な日本語学的知識を獲得する。</p> <p>【概要】日本語学の諸分野(音声学・音韻論・意味論・統語論・語用論など)の基礎的な概念を踏まえ、具体的な言語現象を分析する。</p> <p>【概要】日本語学の基本的な考え方を習得し、身の回りの言語現象について、自力で分析・考察・表現できるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 世界の言語における「日本語」の位置づけ</p> <p>第2回 音の作り方1：母音と子音、アクセント、リズム、イントネーション</p> <p>第3回 音の作り方2：単音と音素、弁別的素性、音素配列論</p> <p>第4回 単語の仕組み：形態素、語根と接辞、複合と派生、逆成、縮約、異分析</p> <p>第5回 意味の世界1：同音語と多義語、メタファー、メトニミー、シネクドキー</p> <p>第6回 意味の世界2：同義語と類義語、対義語、レトロニム、カテゴリーとプロトタイプ</p> <p>第7回 文の構造：構成素、樹形図、人称・性・数・格、冠詞</p> <p>第8回 文の意味：文法カテゴリー(態、時、相、法)</p> <p>第9回 談話の仕組み：文脈、直示、一貫性、結束性</p> <p>第10回 会話の仕組み：発話行為、協調の原理、格率、会話分析</p> <p>第11回 言語と変異：変異、地域方言、社会方言、多言語使用</p> <p>第12回 言語と変化：言語接触、言語政策、言語計画</p> <p>第13回 文の理解：構文解析、あいまい文、袋小路文、眼球運動</p> <p>第14回 文の産出：言い間違い、語彙化、レンマ、舌先現象、プライミング</p> <p>第15回 まとめ 以上の予定ですが、進行状況次第で変更の可能性があります。</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習：次回授業までに配布された文献を読んでくること。／復習：毎授業冒頭に復習小テストを行う。			
成績評価の方法	筆記試験(テキスト・ノート等持ち込み可)の成績(70%)、小テストの成績及び授業での発言内容(30%)			
実務経験について	KEC日本語学院にて、「音声・音韻」「文字・表記」「語彙・意味」「文法」「言語と社会」「言語と心理」の教授経験あり。			

授業科目	日本語学講読Ⅰ		担当者	小亀 拓也
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	〔学期〕	前期	〔単位〕	1
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本語学の基本的な研究方法について学ぶ。</p> <p>【概要】 「日本語学」という学問分野がどのような問題意識に基づくものであるのか、具体的にはどのような現象を対象とするのか、観察や分析の方法にはどのような観点があり得るのか、といったことについて学ぶ。</p> <p>【到達目標】 普段何気なく使用している「日本語」という言語について、客観的に眺めることができるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 導入：辞書、単語、普通名詞、固有名詞</p> <p>第 2回 意味1：2つのカテゴリー観について</p> <p>第 3回 意味2：意味の拡張、同音異義と多義</p> <p>第 4回 意味3：比喻（直喩・隠喩・換喩・提喩）</p> <p>第 5回 意味4：「意義・言葉・経験」（渡辺実）</p> <p>第 6回 意味5：日本語の助詞・助動詞の多義</p> <p>第 7回 日本語と他言語との比較（言語類型論）</p> <p>第 8回 音声と文字：文字と標記の不一致、長音</p> <p>第 9回 音声と書記：音の変化、語順、繰り返し</p> <p>第10回 あいまい文：意味理解、係り受け、省略</p> <p>第11回 話し言葉と書き言葉1：話し言葉の特徴</p> <p>第12回 話し言葉と書き言葉2：書き言葉の特徴</p> <p>第13回 コミュニケーションの失敗：会話の意図</p> <p>第14回 スタイルの違い：普通体と丁寧体、混淆</p> <p>第15回 まとめ</p> <p style="text-align: right;">以上の予定ですが、進行状況次第で変更の可能性があります。</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習：次回授業までに配布されたプリントを読んでくること。／復習：毎授業冒頭に復習小テストを行う。			
成績評価の方法	筆記試験（テキスト・ノート等持ち込み可）の成績（70%）、小テストの成績（30%）			
実務経験について	KEC 日本語学院にて、「文字・表記」「語彙・意味」「文法」「言語と社会」の教授経験あり。			

授業科目	日本語学講読Ⅱ		担当者	小亀 拓也
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	〔学期〕	後期	〔単位〕	1
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	演習
授業科目	<p>【テーマ】日本語の方言（学）に関する基礎的な知識を学び、そこで得た知見をもとに自身の方言について分析・考察し、発表する。</p> <p>【概要】日本語の方言について、方言研究の各分野を概観する。学生諸氏にも調査・分析を実際に行ってもらい、研究発表という形で報告してもらおう。</p> <p>【到達目標】方言を多角的な視点から捉えることができるようになる。自身の方言を、学問的な観点から分析することができるようになる。</p> <p>方言を多角的な視点から捉えることができるようになる。自身の方言を、学問的な観点から分析することができるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 授業の進め方の説明</p> <p>第 2回 方言の区画と東西差、方言圏論</p> <p>第 3回 発音・アクセント・イントネーションの地域差①</p> <p>第 4回 発音・アクセント・イントネーションの地域差②</p> <p>第 5回 アスペクト・条件表現の地域差</p> <p>第 6回 オノマトペ・あいさつの地域差</p> <p>第 7回 研究発表準備</p> <p>第 8回 研究発表</p> <p>第 9回 話の進め方・コミュニケーション意識の地域差</p> <p>第10回 敬語表現・卑罵表現の地域差</p> <p>第11回 共通語化の進行、方言と共通語の使い分け</p> <p>第12回 方言に対する受け止め方の変化、方言コンプレックス、方言プレステージ</p> <p>第13回 リアル方言とヴァーチャル方言、方言コスプレ</p> <p>第14回 研究発表準備</p> <p>第15回 研究発表</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習：次回授業までに配布されたプリントを読んでくること。／復習：毎授業冒頭に復習小テストを行う。			
成績評価の方法	筆記試験（テキスト・ノート等持ち込み可）と研究発表の成績（70%）、小テストの成績（30%）			
実務経験について	KEC 日本語学院にて、「言語と社会」の教授経験あり。			

授業科目	日本語学演習Ⅰ・Ⅲ		担当者	小亀 拓也			
	[履修年次]	1, 2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)			
	[学期]	後期	[単位]	1	[必修/選択]	選択	[授業形態]
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本語学 (特に音声・音韻・文法) に関する文献を読み、それをもとに議論する。</p> <p>【概要】 授業の前半では、担当者が文献の内容をまとめ、発表する。その際、他の受講生は文献をあらかじめ熟読した上で、疑問点や問題点について質問する。授業の後半では、教員も交えディスカッションする。</p> <p>【到達目標】 演習を行いながら、日本語学 (特に音声・音韻・文法) に対する理解をさらに深める。</p>						
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>						
授業スケジュール	<p>第 1回 導入：授業の概要を説明、担当者を決める。</p> <p>第 2回 導入：教師による発表</p> <p>第 3回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 4回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 5回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 6回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 7回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 8回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 9回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 10回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 11回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 12回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 13回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 14回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 15回 まとめ</p>						
授業外学習(予習・復習)	適宜課題等を出すので授業外学習が必要である。発表担当の際には (追加の補充調査を含め) 15 時間程度充てるものとする。						
成績評価の方法	担当者として作成した発表資料および口頭発表の成績 (70%) + 質疑応答等の授業中の発言 (30%)						
実務経験について	なし						

授業科目	日本語学演習Ⅱ		担当者	小亀 拓也			
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)			
	[学期]	前期	[単位]	1	[必修/選択]	選択	[授業形態]
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本語学 (特に音声・音韻・文法) に関する研究の方法、および論文作成の方法を身につける。</p> <p>【概要】 授業の前半では、担当者が文献の内容をまとめ、発表する。その際、他の受講生は文献をあらかじめ熟読した上で、疑問点や問題点について質問する。授業の後半では、教員も交えディスカッションする。</p> <p>【到達目標】 演習を行いながら、日本語学 (特に音声・音韻・文法) に対する理解をさらに深める。適切にレポートを書くことができる。</p>						
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>						
授業スケジュール	<p>第 1回 導入：授業の概要を確認、担当者を決める。</p> <p>第 2回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 3回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 4回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 5回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 6回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 7回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 8回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 9回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 10回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 11回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 12回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 13回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 14回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p> <p>第 15回 発表：担当者が日本語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。</p>						
授業外学習(予習・復習)	適宜課題等を出すので授業外学習が必要である。発表担当の際には (追加の補充調査を含め) 15 時間程度充てるものとする。						
成績評価の方法	担当者として作成した発表資料および口頭発表の成績 (70%) + 質疑応答等の授業中の発言 (30%)						
実務経験について	なし						

授業科目	日本語学演習Ⅳ、Ⅵ	担当者	楊虹
	[履修年次] 演習Ⅳは1年、演習Ⅵは2年 [学期] 後期 [単位] 1 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習	授業外対応	適宜対応(要予約)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 語用論や社会言語学に関する基礎知識を学ぶ。</p> <p>【概要】 毎回、担当者がテキストの内容をまとめて、発表し、他の受講生は、テキストをあらかじめ熟読し、疑問点や問題点について質問し、担当者を中心にディスカッションを行う、といった形式で授業を進める。1年生は卒業研究に向けて研究テーマを決める、2年生は社会人になるためのさらなる批判的思考力を鍛える場として授業に取り組むよう求める</p> <p>【到達目標】 演習を行いながら、語用論、社会言語学に対する理解を深める。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。 (2) 授業中に紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 授業の概要を説明し、各回の担当者を決める。 第2回 語用論、社会言語学の分野の研究について 第3回 配慮を考えるとときの視点①(2年生担当) 第4回 配慮を考えるとときの視点②(2年生担当) 第5回 配慮を考えるとときの視点③(2年生担当) 第6回 日本語の配慮の多面性①(1年生担当) 第7回 日本語の配慮の多面性②(1年生担当) 第8回 卒論中間報告(2年生) 第9回 役割語①(2年生担当) 第10回 役割語②(2年生担当) 第11回 談話分析(1年生) 第12回 会話分析(1年生) 第13回 卒論計画発表(1年生) 第14回 卒論発表練習(2年生) 第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜課題等を出すので、授業外学習が必要である。		
成績評価の方法	授業への参加度：50%、発表資料および発表のパフォーマンス評価、期末レポート：50%		
実務経験について			

授業科目	日本語学演習Ⅴ	担当者	楊虹
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1 [必修/選択] 選択 [授業形態] 演習	授業外対応	適宜対応(要予約)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 語用論、社会言語学の分野に関する研究の方法及び学術的文章の作成を学ぶ。</p> <p>【概要】 毎回、担当者がテキストの内容をまとめて、発表し、他の受講生は、テキストをあらかじめ熟読し、疑問点や問題点について質問し、担当者を中心にディスカッションを行う、といった形式で授業を進める。卒業研究に向けて研究テーマを決め、論文執筆の基礎を学ぶ場として授業に取り組むよう求める。</p> <p>【到達目標】 演習を行いながら、語用論、社会言語学に対する理解を深める、簡単な学術的レポートが作成できる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。 (2) 授業中に紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 授業の概要を説明し、各回の担当者を決める。 第2回 担当者による発表：担当者が語用論、社会言語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。 第3回 担当者による発表：担当者が語用論、社会言語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。 第4回 担当者による発表：担当者が語用論、社会言語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。 第5回 レポート作成指導① 第6回 担当者による発表：担当者が語用論、社会言語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。 第7回 レポート作成指導② 第8回 担当者による発表：担当者が語用論、社会言語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。 第9回 担当者による発表：担当者が語用論、社会言語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。 第10回 レポート作成指導③ 第11回 担当者による発表：担当者が語用論、社会言語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。 第12回 レポート作成指導④ 第13回 担当者による発表：担当者が語用論、社会言語学の文献を読み、内容をまとめて発表する。 第14回 レポートに基づく口頭発表 第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜課題等を出すので、授業外学習が必要である。		
成績評価の方法	期末レポート：50%、発表資料および発表のパフォーマンス評価：50%		
実務経験について			

授業科目	日本語表現法		担当者	小亀 拓也
	[履修年次] 1年		授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期] 前期	[単位] 2	[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ことば (特に文章表現) によって、事実を正確に示して意見を的確に伝える方法を学ぶ。</p> <p>【概要】 発表、論文、エッセイなどの課題にグループで取り組みながら、ことば (特に文章表現) によって事実を正確に示し、意見を的確に伝える方法を身につける。表現の自由と人権の問題についても取り上げる予定である。この授業は演習方式であるが、実際には後期の日本語表現法演習と一体のものとして進めていくので、演習的な内容も織り込んでいく。その意味で、後期の日本語表現法演習も併せて受講することが望ましい。</p> <p>【到達目標】 簡単な口頭発表ができる。また、原稿用紙を適切に使ってレポートを書くことができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 未定 (2) 授業中に紹介します。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 導入：自己紹介 第 2 回 絵をことばに変える、ことばを絵に変える (図、空間、地図) 第 3 回 情報収集の方法：辞典・事典類の活用法、図書館の利用法 第 4 回 ネット利用：ドメイン、電子メール利用、リンク集作成 第 5 回 調査方法：論文を調べる、新聞を調べる、引用・書誌情報 第 6 回 調査開始：班分け発表、リーダー選出、図書館・ネット調査 第 7 回 調査実施：課題についての調査続行、中間報告 第 8 回 中間発表：口頭発表と質疑応答 第 9 回 図表：統計などの数字の扱い、図表の読み方と説明の仕方 第 10 回 レポート：文章表現の基本 (文体、表記、原稿の使い方) 第 11 回 レポート：文章を書く技法 (パラグラフライティング、推敲) 第 12 回 レポート：電子ツールを用いた文書作成法 (マッピング、アウトラインプロセッサ、編集) 第 13 回 レポート：わかりやすく書く技法 第 14 回 レポート：提出 第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	毎回課題を課す。また、毎授業冒頭に小テストを行う。			
成績評価の方法	レポート (40%) + 小テスト (30%) + 課題 (30%)			
実務経験について	なし			

(注) 教職必修

授業科目	日本語表現法演習		担当者	小亀 拓也
	[履修年次] 1年		授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期] 後期	[単位] 1	[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ことば (音声言語および文章表現) によって、事実を正確に示して意見を的確に伝える方法を、演習を通して学ぶ。</p> <p>【概要】 前期の日本語表現法の講義での学習を生かしながら、課題に対するレポート作成、および口頭発表を行ってもらう。この授業は演習方式であるが、実際には前期の日本語表現法と一体のものとして進めていくので、一部講義も織り込んでいく。その意味で、日本語表現法と併せて受講することが望ましい。</p> <p>【到達目標】資料を調べて、口頭発表やレポート作成が適切にできる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 未定 (2) 授業中に紹介します。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 プレゼンテーションの基本 (目的と態度) 第 2 回 スライドのデザインと制作 1 第 3 回 スライドのデザインと制作 2 第 4 回 プレゼンテーション実践 第 5 回 課題レポート 1：作成 第 6 回 課題レポート 1：発表 第 7 回 課題レポート 1：討論 第 8 回 課題レポート 2：作成 第 9 回 課題レポート 2：発表 第 10 回 課題レポート 2：討論 第 11 回 課題レポート 3：作成 第 12 回 課題レポート 3：発表 第 13 回 課題レポート 3：討論 第 14 回 試験レポート：資料収集 第 15 回 試験レポート：テーマに関する討論</p>			
授業外学習(予習・復習)	ネット調査、図書館調査、レポート作成など、毎回授業の中で指示する。なお、毎授業冒頭に小テストを行う。			
成績評価の方法	成果資料 (レポート、PPT) の出来 (50%) + 小テスト (30%) + グループ討論や発表等の授業中の発言・コメント (20%)			
実務経験について	なし			

授業科目	対照言語学		担当者	楊 虹
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 対照言語学の基礎を学ぶ。</p> <p>【概要】 この授業では、対照言語学とはどのような学問かについて学ぶ。日本語と英語、中国語を中心とした外国語の話しことばの文法の比較対照を通して、それぞれの特徴を明らかにし、日本語の話し言葉の特徴をより深く理解する。また、言語学習または言語教育における対照言語学の役割と応用についても触れる。</p> <p>【到達目標】 日本語と外国語（英語、中国語）の主な共通点と相違点を理解し、実際の言語データを使って分析することができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。 (2) 授業中に紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション：対照言語学とはどんな学問か、授業の概要説明 第 2回 日英中の対照 (1)：主語の立て方 第 3回 日英中の対照 (2)：主語の顕示と暗示 第 4回 日英中の対照 (3)：実際の発話における文の形 第 5回 日英中の対照 (4)：時に関する比較① 第 6回 日英中の対照 (5)：時に関する比較② 第 7回 日英中の対照 (6)：呼びかけ語の比較① 第 8回 日英中の対照 (7)：呼びかけ語の比較② 第 9回 日英中の対照 (8)：待遇表現に関する比較① 第 10回 日英中の対照 (9)：待遇表現に関する比較② 第 11回 日英中の対照 (10)：言語行動に関する比較① 第 12回 日英中の対照 (11)：言語行動に関する比較② 第 13回 発表準備 第 14回 学生による発表 第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜課題等を出すので、授業外学習が必要である。			
成績評価の方法	授業への参加度及び発表：60%、レポート：40%			
実務経験について				

授業科目	日本文学講義 I		担当者	木戸裕子
	[履修年次]	2年	授業外対応	オフィスアワーに準じる
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義形式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】女性と漢文学—一条朝を中心として—</p> <p>【概要】平安時代中期、『源氏物語』作者の紫式部は、『紫式部日記』の中で、清少納言のことを「漢字を書き散らしているけれど、よくみれば足りない点が多い」といい、自分自身は漢字の一字も書けないふりをしたと言いつつ、「中宮の御前で白氏文集を読んだ」と記す。果たして平安朝の女性にとって漢詩文とはどういう存在だったのか、紫式部以外の一条朝の女性について考える。</p> <p>【到達目標】平安時代の女房文学について学ぶ。和歌の解釈について学ぶ。平安時代の日本漢詩文について興味を持つ。平安時代の女性の生き方を考える。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント (2) 服藤早苗『平安朝 女の生き方』小学館 ビギナーズクラシック『枕草子』角川ソフィア文庫</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション：平安時代の漢詩文 第 2回 女性と漢詩文：一条朝以前 第 3回 紫式部の場合：『紫式部日記』清少納言批判と「日本紀の御局」 第 4回 清少納言の場合：『枕草子』1 「香炉峰の雪は」 第 5回 紫式部の場合：『源氏物語』「長恨歌と諷諭詩」 第 6回 赤染衛門の場合：『赤染衛門集』の和歌 1 第 7回 赤染衛門の場合：『赤染衛門集』の和歌 2 「法華経和歌」 第 8回 選子内親王？：『発心和歌集』 1 第 9回 選子内親王？：『発心和歌集』 2 第 10回 一条朝後の物語：『浜松中納言物語』平安人が想像した唐 第 11回 一条朝後の物語：『唐物語』 故事と物語 1 第 12回 一条朝後の物語：『唐物語』 故事と物語 2 第 13回 和歌と漢詩：題を詠むということ 第 14回 女性と漢詩文：一条朝以後 第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	授業中に指示する			
成績評価の方法	授業の感想ミニレポート (毎回) 20% レポート 80%			
実務経験について	なし			

授業科目	日本文学講読Ⅰ		担当者	木戸裕子
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	オフィスアワーに準じる
	[学期]	後期	[単位]	1単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】『萬葉集』巻十三、十四の講読を通して上代文学に親しむ</p> <p>【概要】『萬葉集』の中でも、巻十三は他とは違って長歌を中心に雑歌、相聞、挽歌の三大部立てに添って並べられているのが特徴的な巻である。また、巻十四は東国地方に伝わる歌、すなわち東歌を集めたこれも特異な巻である。この二巻の作品を読むことで、上代人が歌に託した思いを読み取りたい。本講読は基本的に、受講生による輪読形式で読み進めていき、適宜教員が説明を補っていく。受講者数にもよるが、一回の授業で3人から5人が担当することになる。</p> <p>【到達目標】万葉仮名についての基礎的な知識を身につける。『萬葉集』について学び、上代和歌と平安以降の和歌の違いを知る。東歌についてその特徴を理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 伊藤博『萬葉集積注(七)』集英社文庫</p> <p>(2) 渡部泰明編『和歌のルール』笠間書院</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション 『萬葉集』について(編者、諸本、万葉仮名など)</p> <p>第2回 巻十三、巻十四について。教員による模範演習</p> <p>第3回 『萬葉集』巻十三輪読その1:雑歌1</p> <p>第4回 その2:雑歌2</p> <p>第5回 その3:相聞1</p> <p>第6回 その4:相聞2</p> <p>第7回 その5:問答歌</p> <p>第8回 その6:挽歌1</p> <p>第9回 その6:挽歌2</p> <p>第10回 その7:挽歌3</p> <p>第11回 巻十四輪読 その1:雑歌</p> <p>第12回 その2:相聞1</p> <p>第13回 その3:相聞2</p> <p>第14回 その4:防人歌</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	輪読担当の準備。『萬葉集』について全体の内容を把握しておく。その他は授業中に指示する。			
成績評価の方法	輪読担当60%、レポート40%			
実務経験について	なし			

授業科目	日本文学講読Ⅱ		担当者	木戸裕子
	[履修年次]	1年	授業外対応	オフィスアワーに準じる
	[学期]	前期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	演習形式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】『伊勢物語』の講読を通して、平安時代の歌物語に親しむとともに、変体仮名(くずし字)の読み方の基礎を身につける。</p> <p>【概要】高校の古文の授業でもおなじみの『伊勢物語』だが、「昔男」と俗称される主人公は、平安の昔から、ある時は雅な貴公子として、ある時は菩薩の生まれ変わりとして、またある時は好色の神様として多くの人々に愛されてきた。本講読では江戸時代初期の木活字本『嵯峨本伊勢物語』の影印本(写真版)を用いて、昔男の恋と友情の物語を読んでいく。</p> <p>【到達目標】『伊勢物語』についての知識を身につける。『伊勢物語』が後世に残した影響について知る。基本的な変体仮名が読めるようにする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 片桐洋一編『伊勢物語 慶長十三年刊 嵯峨本第一種』和泉書院 『辞典かな』笠間書院</p> <p>(2) 角川ビギナーズクラシック『伊勢物語』角川ソフィア文庫、渡部泰明編『和歌のルール』笠間書院</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 はじめに:『伊勢物語』について(書名、主人公など)</p> <p>第2回 初段1:昔男の登場 変体仮名の読み方1</p> <p>第3回 初段2:和歌と語りの関係 変体仮名の読み方2</p> <p>第4回 三段:二条後の物語その1 変体仮名の読み方3</p> <p>第5回 四段:二条後の物語その2 変体仮名の読み方4</p> <p>第6回 五段:二条後の物語その3 変体仮名の読み方小テスト1</p> <p>第7回 六段1:二条後の物語その4</p> <p>第8回 六段2:二条の後の物語その5</p> <p>第9回 七・八段:東下りその1 浅間の山</p> <p>第10回 九段1:東下りその2 八橋・宇津の山</p> <p>第11回 九段2:東下りその3 富士の山・隅田川</p> <p>第12回 六九段1:伊勢の斎宮その1 歴史との関わり 変体仮名の読み方小テスト2</p> <p>第13回 六九段2:伊勢の斎宮その2 漢文学との関わり</p> <p>第14回 一六段:男の友情</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	各段のくずし字を読めるように復習する。			
成績評価の方法	小テスト20% 筆記試験80%			
実務経験について	なし			

授業科目	日本文学講読 III		担当者	木戸裕子
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	オフィスアワーに準じる
	〔学期〕	前期	〔単位〕	1単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中古文学の代表的作品である『源氏物語』を、近世初期の注釈本『首書 源氏物語』の影印本を使って読む</p> <p>【概要】講読IIIでは毎年『源氏物語』の一巻を受講生の輪読方式で読み進めていく。本年度は「夕顔」を読む。夕顔は帚木巻の「雨夜の品定め」で頭中将が語った「内気な女」である。今は五条の下町に暮らす女君は、偶然のいたずらで光源氏と出会い、数奇な運命をたどることになる。若き日の源氏のエゴイズムと夕顔の葛藤に注目して読み進めていく。テキストは江戸時代の注釈付き本文『首書 源氏物語』を用い、受講生による輪読形式で読み進める。</p> <p>【到達目標】『源氏物語』について基礎的な知識を身につける。中世の主な『源氏物語』注釈について作者と注釈の特徴を知る。『源氏物語』の構成と登場人物について考える。</p>			
(1)テキスト	(1) 増田 繁夫 編『首書 源氏物語 夕顔』和泉書院			
(2)参考文献	(2) ビギナーズクラシック『源氏物語』角川ソフィア文庫 『源氏物語の鑑賞と基礎知識 夕顔』至文堂			
授業スケジュール	第 1回 はじめに：『源氏物語』とは 作者紫式部について 第 2回 『源氏物語』の享受：テキスト『首書源氏物語』について 第 3回 「夕顔」巻を読むために：あらすじと登場人物の紹介。 第 4回 「夕顔」輪読：その1 担当の役割説明 第 5回 「夕顔」輪読：その2 第 6回 「夕顔」輪読：その4 第 7回 「夕顔」輪読：その5 第 8回 補足説明：紫式部と「夕顔」 第 9回 「夕顔」輪読：その1 第10回 「夕顔」輪読：その2 第11回 「夕顔」輪読：その3 第12回 「夕顔」輪読：その4 第13回 「夕顔」輪読：その5 第14回 「夕顔」輪読：その6 第15回 まとめ			
授業外学習(予習・復習)	輪読担当の準備。『源氏物語』について全体の内容を把握しておく。その他は授業中に指示する。			
成績評価の方法	輪読担当50% 筆記試験50%			
実務経験について	なし			

授業科目	日本文学演習 I、III		担当者	木戸裕子
	〔履修年次〕	1, 2年	授業外対応	オフィスアワーに準じる。
	〔学期〕	後期	〔単位〕	1
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	演習形式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】平安時代の私家集のなかでも歌物語的な性格が強いものを輪読し、歌集と物語文学との関わりを考える。</p> <p>あわせて文学研究における資料調査の方法を学ぶ。</p> <p>【概要】本演習は、新たに1年生が加わり、1年生の日本文学演習Iと2年生の日本文学演習IIIを合同で行なうことにより、2年生には1年生に説明することで、いっそう作品に対する理解が深まることを期待する。また、1年生には、2年生の発表を聴くことを通して、調査、発表の仕方を学んでほしい。取り扱う作品は前期日本文学演習IIと同じく『篁物語』である。</p> <p>【到達目標】和歌解釈の方法を身につける。話し合いを通じて作品理解を深める。平安時代の文学状況を理解する</p>			
(1)テキスト	(1) プリント、『字典かな』			
(2)参考文献	(2) 片桐洋一『歌枕歌ことば辞典増訂版』笠間書院			
授業スケジュール	第 1回 2年生によるオリエンテーション：篁物語について 第 2回 グループワーク1：演習の進め方について。辞書索引の引き方、資料の探し方 第 3回 グループワーク2：翻字と解釈の実習 第 4回 グループワーク3：翻字と解釈の実習その2 第 5回 篁物語を読む：2 第 6回 篁物語を読む：3 第 7回 篁物語を読む：4 第 8回 篁物語を読む：5 第 9回 篁物語を読む：6 第10回 篁物語を読む：7 第11回 篁物語を読む：8 第12回 篁物語を読む：9 第13回 篁物語を読む：10 第14回 篁物語を読む：11 第15回 まとめ			
授業外学習(予習・復習)	演習担当の準備			
成績評価の方法	日本文学演習I 担当時外発言 20% レポート 80% 日本文学演習III 担当時外発言 20% 担当発表 80%			
実務経験について	なし			

授業科目	日本文学演習Ⅱ		担当者	木戸裕子			
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	オフィスアワーに準じる			
	〔学期〕	前期	〔単位〕	1	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕
テーマ及び概要	<p>【テーマ】平安時代の私家集のなかでも歌物語的な性格が強いものを輪読し、歌集と物語文学との関わりを考える。あわせて文学研究における資料調査の方法を学ぶ。</p> <p>【概要】昨年度に引き続き、『篁物語（たかむらものがたり）』を読む。篁物語は平安初期に実在した文人・官僚であった小野篁を主人公とした歌物語で、『小野篁集』の題で私家集として扱われることもある。篁と妹をめぐる物語を読み中で、平安時代における、物語と家集の関係を考えるとともに、平安時代の貴族の生活と文化について知見を深めたい。</p> <p>【到達目標】和歌解釈の方法を身につける。平安時代の貴族文化について考える。</p>						
(1)テキスト	(1) プリント、『字源かな』						
(2)参考文献	(2) 片桐洋一『歌枕歌ことば辞典増訂版』笠間書院						
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション：前年度の内容の確認 第2回 篁物語について： 第3回 篁物語を読む：1 第4回 篁物語を読む：2 第5回 篁物語を読む：3 第6回 篁物語を読む：4 第7回 篁物語を読む：5 第8回 篁物語を読む：6 第9回 篁物語を読む：7 第10回 篁物語を読む：8 第11回 篁物語を読む：9 第12回 篁物語を読む：10 第13回 篁物語を読む：11 第14回 篁物語を読む：12 第15回 まとめ						
授業外学習(予習・復習)	演習担当の準備						
成績評価の方法	担当発表 80%、担当時以外の発言(質問、意見など) 20%						
実務経験について	なし						

授業科目	日本文学史・近代Ⅰ		担当者	竹本 寛秋			
	〔履修年次〕	1, 2年共通	授業外対応	適宜対応(要予約)			
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2	〔必修/選択〕	必修(注)	〔授業形態〕
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>日本近代文学史の基礎的な知識を修得するために、代表的な文学作品の本文に触れながら、明治期の歴史の変遷を理解する。</p> <p>【概要】</p> <p>「日本文学史・近代Ⅰ」では、主に明治期の文学を扱う。「文学史」は、単なる文学作品の年代記ではなく、「文学」の範囲とは何か、「文学史」に入れるべき作品とは何かなど、さまざまな問題を含んでいる。講義では、文学作品と文学史について学生自身が考えることを重視し、実際の文学作品に触れながら、日本近代文学史を概観し、各作品の史的意義を多角的な視点から考察する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>日本の近代文学史・文学作品に関して基礎的な知識を持ち、自己の問題意識に従い考えを述べることができる。</p>						
(1)テキスト	(1) 安藤宏『日本近代小説史 新装版』(中公選書)						
(2)参考文献	(2) 適宜、授業中に紹介する。						
授業スケジュール	第1回 ガイダンス：「日本近代文学史」とは何か 第2回 概論：「近代」とは何か 一夏目漱石、森鷗外、北村透谷一 第3回 概論：「小説」概念の成立 一坪内逍遙一 第4回 明治の文学1：近世と近代文学 一戯作、漢文体、翻訳小説、政治小説一 第5回 明治の文学2：「国語」と近代文学 一速記、表記の改革、文体の改革一 第6回 明治の文学3：詩歌の改良 一新体詩の出現一 第7回 明治の文学4：言文一致小説 一二葉亭四迷一 第8回 明治の文学5：写実主義と写生(1) 一尾崎紅葉、硯友社の文学一 第9回 明治の文学6：写実主義と写生(2) 一正岡子規一 第10回 明治の文学7：浪漫主義の小説と詩歌 一森鷗外、島崎藤村一 第11回 明治の文学8：自然主義の小説(1) 一島崎藤村一 第12回 明治の文学9：自然主義の小説(2) 一田山花袋一 第13回 明治の文学10：反自然主義の小説 一夏目漱石一 第14回 明治の文学11：口語自由詩 一川路柳虹、相馬御風一 第15回 まとめ						
成績評価の方法	授業ごとに実施するコメントカード・提出物の内容(30%)、筆記試験(70%)						
実務経験について	なし						

注) 教職必修

	日本文学史・近代Ⅱ	担当者	竹本 寛秋
	〔履修年次〕 1, 2年共通	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	〔学期〕 後期	〔単位〕 2	〔必修/選択〕 必修 (注)
授業科目	<p>【テーマ】日本近代文学史の基礎的な知識を修得するために、代表的な文学作品の本文に触れながら、大正から現代までの変遷を理解する。</p> <p>【概要】「日本文学史・近代」では、主に大正から現代までの文学を扱う。「文学史」は、単なる文学作品の年代記ではなく、「文学」の範囲とは何か、「文学史」に入れるべき作品とは何かなど、さまざまな問題を含んでいる。講義では、文学作品と文学史について学生自身が考えることを重視し、実際の文学作品に触れながら、日本近代文学史を概観し、各作品の史的意義を多角的な視点から考察する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>日本の近代文学史・文学作品に関して基礎的な知識を持ち、自己の問題意識に従い考えを述べることができる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 安藤宏『日本近代小説史 新装版』(中公選書)</p> <p>(2) 適宜、授業中に紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 概論：大正・昭和以降の「文学」の問題 ―メディアの変革と「文学」―</p> <p>第 2回 大正の文学1：大正文壇と私小説 ―白樺派、新思潮派―</p> <p>第 3回 大正の文学2：「純文学」と「大衆文学」の成立</p> <p>第 4回 昭和の文学1：新感覚派・前衛詩</p> <p>第 5回 昭和の文学2：主知主義文学</p> <p>第 6回 昭和の文学3：プロレタリア文学</p> <p>第 7回 昭和の文学4：文芸復興の時代 ―転向文学、日本浪漫派、四季派―</p> <p>第 8回 昭和の文学5：戦争と文学</p> <p>第 9回 昭和の文学6：昭和二十年代の文学 ―戦後文学の出發―</p> <p>第 10回 昭和の文学7：昭和三十年代の文学 ―第三の新人の登場―</p> <p>第 11回 昭和の文学8：昭和四十年代の文学 ―三島由紀夫の死―</p> <p>第 12回 昭和の文学9：昭和五十年代以降の文学 ―村上龍、村上春樹―</p> <p>第 13回 昭和の文学10：詩・短歌・俳句・演劇の動向 ―塚本邦雄、岡井隆、寺山修司―</p> <p>第 14回 現代の文学：現代文学のゆくえ</p> <p>第 15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	授業中に指示する。		
成績評価の方法	授業ごとに実施するコメントカード・提出物の内容 (30%)、筆記試験 (70%)		
実務経験について	なし		

(注) 教職必修

	日本文学講義Ⅱ	担当者	竹本 寛秋
	〔履修年次〕 2	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	〔学期〕 前期	〔単位〕 2	〔必修/選択〕 選択
授業科目	<p>【テーマ】</p> <p>日本近代の詩を読む</p> <p>【概要】</p> <p>今、日本で一般に「詩」と呼ばれるものは、明治以降、日本の西洋化とともに作られた、比較的新しいジャンルです。日本近現代の詩の歴史を、実際の作品を読み解きながら振り返り、多様な日本の「詩」の世界を考えます。</p> <p>【到達目標】</p> <p>「文学」を多様な角度から読む方法を理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 大岡信『蕩児の家系―日本現代詩の歩み』(思潮社)、他授業中に紹介する</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス：日本の詩を読むために</p> <p>第 2回 北村透谷『楚囚之詩』</p> <p>第 3回 島崎藤村『若菜集』</p> <p>第 4回 薄田泣菫『白羊宮』</p> <p>第 5回 高村光太郎『道程』</p> <p>第 6回 高村光太郎『道程』</p> <p>第 7回 萩原朔太郎『月に吠える』</p> <p>第 8回 萩原朔太郎『水島』</p> <p>第 9回 前半のまとめ</p> <p>第 10回 大手拓次『藍色の墓』</p> <p>第 11回 宮澤賢治『春と修羅』</p> <p>第 12回 宮澤賢治『春と修羅』</p> <p>第 13回 中原中也『山羊の歌』</p> <p>第 14回 中原中也『山羊の歌』</p> <p>第 15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	対象テキストの精読。		
成績評価の方法	授業ごとのコメントカード (40%)、レポート (60%)		
実務経験について	なし		

授業科目	日本文学講読Ⅳ		担当者	丹羽謙治
	[履修年次]	1・2年	授業外対応	授業終了後に対応
	[学期]	前期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】近世遊里と文学</p> <p>情報や流行の発信源であった遊里を舞台にした文学について考える。</p> <p>【概要】本授業では江戸時代の遊里を舞台とした複数の文学作品を取り上げながら、近世文学が遊女を通して描いたものについて考察する。取り上げる作品は井原西鶴『好色一代男』『好色一代女』、江島其磧『けいせい色三味線』などである。</p> <p>【到達目標】江戸時代の風俗や制度・習慣、美意識などについて正しい認識をもつ。</p> <p>時代を見ると時相対的な観点に立つことができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 新編日本古典文学全集『井原西鶴集 一』（小学館）その他は授業中に紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 導入 文学史における時代区分</p> <p>第2回 近世文学・近世文学の特質について</p> <p>第3回 古代・中世における遊女と文学</p> <p>第4回 近世における遊郭成立</p> <p>第5回 『好色一代男』の成立 一巻の一―</p> <p>第6回 『好色一代男』一巻六の二―</p> <p>第7回 『好色一代女』一巻の一―</p> <p>第8回 『好色一代女』一巻二の三―</p> <p>第9回 『好色五人女』巻二</p> <p>第10回 『けいせい色三味線』の世界</p> <p>第11回 江戸の遊郭吉原の構造</p> <p>第12回 洒落本『遊子方言』（一）</p> <p>第13回 洒落本『遊子方言』（二）</p> <p>第14回 洒落本『傾城買四十八手』（一）</p> <p>第15回 洒落本『傾城買四十八手』（二）</p>			
授業外学習(予習・復習)	授業前に配布されたテキストを読む。授業後は配布資料とテキストを読み、授業内容について確認をする。			
成績評価の方法	期末試験			
実務経験について	該当なし			

授業科目	日本文学講読Ⅴ		担当者	丹羽謙治
	[履修年次]	1・2年	授業外対応	授業終了後に対応
	[学期]	後期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】浄瑠璃の世界：『仮名手本忠臣蔵』の世界</p> <p>後世に大きな影響を与えた赤穂事件に取材した芝居の集大成を読む</p> <p>【概要】元禄14年～16年（1701～03）の『赤穂事件』に取材した浄瑠璃『仮名手本忠臣蔵』（寛延元年（1748）初演）を読み、進め、一部動画の鑑賞しながら、芝居における趣向、歌舞伎と浄瑠璃との演出の違いなどについて考察する。</p> <p>【到達目標】赤穂事件を取り込んだ文学作品の鑑賞を通して江戸の人々の感性や思考法を把握する。</p> <p>歌舞伎、浄瑠璃に関する知識を得る。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント配布</p> <p>(2) 浄瑠璃集』（新潮古典文学集成、1985年）</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 赤穂事件について</p> <p>第2回 『仮名手本忠臣蔵』の成立</p> <p>第3回 『仮名手本忠臣蔵』大序</p> <p>第4回 『仮名手本忠臣蔵』三段目（進物場）</p> <p>第5回 『仮名手本忠臣蔵』三段目（刃傷場）</p> <p>第6回 『仮名手本忠臣蔵』五段目</p> <p>第7回 『仮名手本忠臣蔵』六段目</p> <p>第8回 浄瑠璃と歌舞伎</p> <p>第9回 『仮名手本忠臣蔵』七段目（1）</p> <p>第10回 『仮名手本忠臣蔵』七段目（2）</p> <p>第11回 『仮名手本忠臣蔵』八～十段目</p> <p>第12回 『仮名手本忠臣蔵』十一段目（討ち入り）</p> <p>第13回 戯作と『忠臣蔵』（1）上方絵本</p> <p>第14回 戯作と『忠臣蔵』（2）江戸戯作</p> <p>第15回 鹿兒島と赤穂事件</p>			
授業外学習(予習・復習)	テキストを読んでおく（予習）、授業後資料やテキストを読んで授業内容を確認する。			
成績評価の方法	期末試験			
実務経験について	該当なし			

授業科目	日本文学講読Ⅵ		担当者	竹本 寛秋
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	〔学期〕	前期	〔単位〕	1
			〔必修/選択〕	選択
				〔授業形態〕
				演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本近代の文学テキストを、様々な角度から検討する</p> <p>【概要】 日本近代の詩、短歌、小説を、様々な観点から読み解く。小説の方法論、言語表現の仕組み、時代毎の価値観などを理解し、テキストについて根拠を持って検討できるようになるとともに、現代を対象化する視点を身につける。 ※対象とする小説作品は変更の可能性ある。</p> <p>【到達目標】「文学」を多様な角度から読む方法を理解する。 テキストを基にした妥当な読みを提示でき、問題意識を持って、報告にまとめることができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 適宜、授業中に紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス</p> <p>第 2回 梶井基次郎「檸檬」</p> <p>第 3回 結核の時代と文学</p> <p>第 4回 芥川龍之介「蜜柑」</p> <p>第 5回 科学技術と文学</p> <p>第 6回 有島武郎「カインの末裔」</p> <p>第 7回 日本の国境と日本文学</p> <p>第 8回 前半のまとめ</p> <p>第 9回 萩原朔太郎「猫町」</p> <p>第10回 心理学と文学</p> <p>第11回 宮澤賢治「猫の事務所」</p> <p>第12回 原稿、草稿と文学</p> <p>第13回 太宰治「道化の華」</p> <p>第14回 「語り」からテキストを読み解く</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	対象テキストの精読と検討。			
成績評価の方法	毎回のミニレポート (40%)、レポート (60%)			
実務経験について	なし			

授業科目	日本文学講読Ⅶ		担当者	竹本 寛秋
	〔履修年次〕	1	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	〔学期〕	後期	〔単位〕	1
			〔必修/選択〕	選択
				〔授業形態〕
				演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 小説を分析するための様々な方法論について学ぶ</p> <p>【概要】 文学研究の基礎的な方法論を身につける。文学研究においても、客観的な妥当性のもとに結論を導き出す方法論が、様々な蓄積されてきた。それらの方法論を学び、様々な文学テキストに応用することで、素朴な感想にとどまらない読みの可能性を見出し、客観的、論理的に考察し、文章として表現する能力を身につける。</p> <p>【到達目標】 文学研究に必要な、テキスト読解の方法を実践できる。 テキストを基にした妥当な読みを提示し、客観的、論理的な考察のもとに、報告にまとめることができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 小平麻衣子『小説は、わかってくればおもしろい』慶應義塾大学出版会</p> <p>(2) 適宜、授業中に紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス：授業の進め方、感想と研究の違い</p> <p>第 2回 志賀直哉「小僧の神様」：語り手・テキスト・焦点化</p> <p>第 3回 夢野久作「瓶詰地獄」：テキストの「空白」</p> <p>第 4回 太宰治「葉桜と魔笛」：一人称の語り</p> <p>第 5回 中島敦「文字禍」：テキストと時代背景</p> <p>第 6回 井伏鱒二「朽助のゐる谷間」：本文校異</p> <p>第 7回 川端康成「水月」：三人称の語り</p> <p>第 8回 有吉佐和子「亀遊の死」：小説と歴史</p> <p>第 9回 川上弘美「蛇を踏む」：固有名詞の問題</p> <p>第10回 久米正雄「不死鳥」：小説と挿絵</p> <p>第11回 堀辰雄「風立ちぬ」：小説の受容の問題</p> <p>第12回 倉田由美子「暗い旅」：論争について</p> <p>第13回 資料調査について</p> <p>第14回 文学史について</p> <p>第15回 全体のまとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	対象テキストの精読と検討。			
成績評価の方法	毎回のミニレポートと授業内での活動 (40%)、レポート (60%)			
実務経験について	なし			

授業科目	日本文学演習Ⅳ, Ⅵ		担当者	竹本 寛秋				
	〔履修年次〕	1, 2	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	〔学期〕	後期	〔単位〕	1	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>近現代文学の代表的な作品を取り上げ、研究的視点からテキストを検討する。</p> <p>【概要】</p> <p>明治から現代までの近現代文学作品を取り上げ、研究的視点から検討する。1年生はテキストの中から対象を選び発表する。2年生は関心のある作家について発表する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>文学研究の方法論を身につけ、根拠を示して発表することができる。様々な資料を使い、テキストを複数の角度から検討できる。自分の考えをまとめ、ディスカッションすることができる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 小林真大『文学のトリセツ [新装版]』五月書房新社</p> <p>(2) 適宜、授業中に紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス：授業の進め方, 担当者の決定</p> <p>第 2 回 文学研究の方法：研究の多様な方法論について</p> <p>第 3 回 資料の扱い方：資料の収集方法, 資料の検討方法について</p> <p>第 4 回 口頭発表 (1)</p> <p>第 5 回 口頭発表 (2)</p> <p>第 6 回 口頭発表 (3)</p> <p>第 7 回 口頭発表 (4)</p> <p>第 8 回 口頭発表 (5)</p> <p>第 9 回 前半のまとめ</p> <p>第 10 回 口頭発表 (6)</p> <p>第 11 回 口頭発表 (7)</p> <p>第 12 回 口頭発表 (8)</p> <p>第 13 回 口頭発表 (9)</p> <p>第 14 回 口頭発表 (10)</p> <p>第 15 回 全体のまとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	論文収集、資料作成、発表準備など。							
成績評価の方法	口頭発表等 (70%), 討議での発言・参加 (30%)							
実務経験について	なし							

授業科目	日本文学演習Ⅴ		担当者	竹本 寛秋				
	〔履修年次〕	2	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	〔学期〕	前期	〔単位〕	1	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>日本近現代における文学作品を対象として、論文作成の方法を身につける</p> <p>【概要】</p> <p>明治以降の日本近代文学作品について、論文として構成できる能力を身につける。対象とする作品を自主的に選択し、論点を発見して論理的な考察を行い、他者と共有できるよう言語化して発表する。自分が研究する手法に自覚的になるために、さまざまな文学理論について解説を行う。</p> <p>【到達目標】</p> <p>日本近代文学の作品について、選択したテキストから論点を発見し、論として発展させることができる。様々な文学理論を理解し、自己の発表に生かすことができる。発表をもとに、ディスカッションすることができる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 斎藤理生他編『卒業論文マニュアル 日本近現代文学編』ひつじ書房</p> <p>(2) 授業中に適宜紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス：授業の進め方, 研究論文を作成する意義</p> <p>第 2 回 対象となる作品の決定, 文学理論について</p> <p>第 3 回 発表資料の作成, 発表の方法, ディスカッションの方法について</p> <p>第 4 回 口頭発表 (1)</p> <p>第 5 回 口頭発表 (2)</p> <p>第 6 回 口頭発表 (3)</p> <p>第 7 回 口頭発表 (4)</p> <p>第 8 回 口頭発表 (5)</p> <p>第 9 回 前半のまとめ</p> <p>第 10 回 口頭発表 (6)</p> <p>第 11 回 口頭発表 (7)</p> <p>第 12 回 口頭発表 (8)</p> <p>第 13 回 口頭発表 (9)</p> <p>第 14 回 論文作成の方法について</p> <p>第 15 回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	論文収集、資料作成、発表準備など。							
成績評価の方法	口頭発表, ディスカッションでの発言 (40%), レポート (60%)							
実務経験について	なし							

授業科目	南九州の文学	担当者	三嶽 公子
	[履修年次] 1, 2年生 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	質問、個人指導、いつでも対応します。
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 南九州（鹿児島県 熊本県 宮崎県）を舞台とした文学作品を読むことで、土地と人間の深いかかわりについて学ぶ。そのうえで、地域や人を大切にすることを学ぶ。</p> <p>【概要】 南九州を舞台とした文学作品を丁寧に読みつつ、自然災害や戦争、廃仏毀釈などの破壊からいかに再生していくかを辿る。</p> <p>【到達目標】 南九州という土地のもつ再生力を知る。エネルギーの高い土地のパワーを感じ、希望をもって生きることにつなげる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業中に関連資料を配布する</p> <p>(2) 「みたけきみこと読むかごしまの文学」(K&Yカンパニー)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 南九州全体を見渡す 「やさしさかごしま」(作詞・岡田哲也)「鹿児島県民の歌」の解説</p> <p>第 2回 与論島 森葉子「アイランド」</p> <p>第 3回 沖永良部島 一色次郎「青幻記」</p> <p>第 4回 奄美 島尾敏雄「島の果て」</p> <p>第 5回 屋久島文学散歩 椋嶋十「片耳の大鹿」 山尾三省「アニミズムという希望」 林芙美子「浮雲」</p> <p>第 6回 桜島文学散歩 なぎさ遊歩道句碑巡り</p> <p>第 7回 坊津 梅崎春生「幻化」</p> <p>第 8回 向田邦子「細長い海」</p> <p>第 9回 紫尾山 梨木香歩「海うそ」</p> <p>第 10回 伊佐 海音寺潮五郎「二本の銀杏」</p> <p>第 11回 鹿屋 川端康成「生命の樹」</p> <p>第 12回 志布志 種田山頭火の俳句</p> <p>第 13回 熊本 水俣 石牟礼道子「苦海浄土」</p> <p>第 14回 宮崎 若山牧水の短歌</p> <p>第 15回 まとめ レポートの書き方についての指導</p>		
授業外学習(予習・復習)	授業中に配るプリント類に基づいて、取り上げた作品、またその関連資料を読むこと。授業で取り上げるのは作品の一部なので、その作品を全部読む。		
成績評価の方法	授業中に行う小テスト＋期末レポート		
実務経験について	NPO法人月の舟自由大学・学長として現在活動中。		

授業科目	中国文学史 I	担当者	土肥 克己
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	メールで事前連絡すること
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 中国文学史</p> <p>【概要】 中国文学を時代順に説明します。当時の文学者の置かれた状況を再現し、そのなかから文学作品が生まれてくる必然性を解説します。</p> <p>【到達目標】 中国文学の存在意義、社会とのかかわりを理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布します。</p> <p>(2) 前野直彬編『中国文学史』東京大学出版会</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 授業の進め方について</p> <p>第 2回 詩経 (1)</p> <p>第 3回 詩経 (2)</p> <p>第 4回 詩経 (3)</p> <p>第 5回 楚辞 (1)</p> <p>第 6回 楚辞 (2)</p> <p>第 7回 楚辞 (3)</p> <p>第 8回 諸子 (1)</p> <p>第 9回 諸子 (2)</p> <p>第 10回 諸子 (3)</p> <p>第 11回 辞賦 (1)</p> <p>第 12回 辞賦 (2)</p> <p>第 13回 辞賦 (3)</p> <p>第 14回 辞賦 (4)</p> <p>第 15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	定期試験 100%		
実務経験について	なし		

授業科目	中国文学史Ⅱ	担当者	土肥 克己
	[履修年次] 2年	授業外対応	メールで事前連絡すること
	[学期] 後期 [単位] 2	[必修/選択] 必修	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国文学史</p> <p>【概要】中国文学を時代順に説明します。当時の文学者の置かれた状況を再現し、そのなかから文学作品が生まれてくる必然性を解説します。</p> <p>【到達目標】中国文学の存在意義、社会とのかかわりを理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布します。</p> <p>(2) 前野直彬編『中国文学史』東京大学出版会</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 楽府(1)</p> <p>第2回 楽府(2)</p> <p>第3回 楽府(3)</p> <p>第4回 五言詩(1)</p> <p>第5回 五言詩(2)</p> <p>第6回 五言詩(3)</p> <p>第7回 志怪小説(1)</p> <p>第8回 志怪小説(2)</p> <p>第9回 志怪小説(3)</p> <p>第10回 近体詩(1)</p> <p>第11回 近体詩(2)</p> <p>第12回 近体詩(3)</p> <p>第13回 伝奇(1)</p> <p>第14回 伝奇(2)</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	定期試験 100%		
実務経験について	なし		

授業科目	中国文学講読Ⅰ	担当者	土肥 克己
	[履修年次] 1年	授業外対応	メールで事前連絡すること
	[学期] 前期 [単位] 1	[必修/選択] 選択(注)	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】漢文の文法</p> <p>【概要】短い漢文を使って、漢文の基本的な構文を学習します。高校までは漢文を返り点や送り仮名に従って受動的に読んできました。この授業では初歩的な漢文(白文)を能動的に読む力を養うために、構文と句法に重点を置いてくり返し訓練します。</p> <p>【到達目標】教職で求められるレベルを目安にして、漢文の基本的な構文・句法を習得する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布します。</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 授業の進め方について</p> <p>第2回 基本文型(1)</p> <p>第3回 基本文型(2)</p> <p>第4回 基本文型(3)</p> <p>第5回 基本文型(4)</p> <p>第6回 基本文型(5)</p> <p>第7回 基本文型(6)</p> <p>第8回 副詞</p> <p>第9回 基本文型の連続</p> <p>第10回 フレーズ(1)</p> <p>第11回 フレーズ(2)</p> <p>第12回 フレーズ(3)</p> <p>第13回 フレーズ(4)</p> <p>第14回 フレーズ(5)</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	小テストを数回実施するので予習してきてください。		
成績評価の方法	小テスト50%、定期試験50%		
実務経験について	なし		

(注) 教職必修

授業科目	中国文学講読Ⅱ		担当者	土肥 克己				
	[履修年次]	1年	授業外対応	メールで事前連絡すること				
	[学期]	後期	[単位]	1	[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】漢文学の基礎</p> <p>【概要】中国における文学と日本における漢文学の基礎的事項を概説します。これは漢文を読むとき、知っているのと役立つ知識です。このなかで漢文学作品をいくつか紹介し、構文・句法についての訓練も同時におこないます。</p> <p>【到達目標】教職で求められるレベルを目安にして、漢文に関連する基礎知識を習得する。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布します。 (2)							
授業スケジュール	第 1回 授業の進め方について 第 2回 漢字 (1) 第 3回 漢字 (2) 第 4回 漢字 (3) 第 5回 漢字 (4) 第 6回 漢字 (5) 第 7回 漢文 (1) 第 8回 漢文 (2) 第 9回 漢文 (3) 第 10回 漢文学 (1) 第 11回 漢文学 (2) 第 12回 中国文学 (1) 第 13回 中国文学 (2) 第 14回 中国文学 (3) 第 15回 まとめ							
授業外学習(予習・復習)	小テストを数回実施するので予習してきてください。							
成績評価の方法	小テスト 50%、定期試験 50%							
実務経験について	なし							

(注) 教職必修

授業科目	中国文学演習Ⅰ		担当者	土肥 克己				
	[履修年次]	1年	授業外対応	メールで事前連絡すること				
	[学期]	後期	[単位]	1	[必修/選択]	選択	[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】白居易の作品を読む</p> <p>【概要】白居易の作品集のなかから、仮想判決文を読みます。これは社会のさまざまな事件に対し自分が裁判官になったつもりで判決を下したもので、そこから中国社会の特徴を読み取っていきます。</p> <p>【到達目標】中国前近代の社会現象を理解する。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布します。 (2)							
授業スケジュール	第 1回 授業の進め方について 第 2回 講読 (1) 第 3回 講読 (2) 第 4回 講読 (3) 第 5回 講読 (4) 第 6回 講読 (5) 第 7回 講読 (6) 第 8回 講読 (7) 第 9回 講読 (8) 第 10回 講読 (9) 第 11回 講読 (10) 第 12回 講読 (11) 第 13回 講読 (12) 第 14回 講読 (13) 第 15回 まとめ							
授業外学習(予習・復習)	作品をプリントにして事前に配布するので予習をしてきてください。							
成績評価の方法	予習と発表 100%。定期試験は実施しません。							
実務経験について	なし							

授業科目	中国文学演習Ⅱ		担当者	土肥 克己
	[履修年次] 2年		授業外対応	メールで事前連絡すること
	[学期] 前期	[単位] 1	[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国文学の研究のしかたと漢作文</p> <p>【概要】みなさんが中国文学を研究するにあたり、素材選択から調査、分析、構想、発表までの一連のステップを訓練します。さらに鹿児島島の漢文石碑を調査し、漢文と実際の社会がどのようにつながっているのかを学びます。</p> <p>【到達目標】中国文学研究のための技術を習得する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布します。</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 授業の進め方について</p> <p>第 2回 文献調査の基礎 (1)</p> <p>第 3回 文献調査の基礎 (2)</p> <p>第 4回 論文の読み方</p> <p>第 5回 石碑調査 (1)</p> <p>第 6回 石碑調査 (2)</p> <p>第 7回 石碑調査 (3)</p> <p>第 8回 石碑調査 (4)</p> <p>第 9回 石碑調査 (5)</p> <p>第10回 プレゼン練習 (1)</p> <p>第11回 プレゼン練習 (2)</p> <p>第12回 プレゼン練習 (3)</p> <p>第13回 プレゼン練習 (4)</p> <p>第14回 プレゼン練習 (5)</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	ステップごとに具体的な指示があるので十分に予習をしてきてください。			
成績評価の方法	予習と発表 100%。定期試験は実施しません。			
実務経験について	なし			

授業科目	中国文学演習Ⅲ		担当者	土肥 克己
	[履修年次] 2年		授業外対応	メールで事前連絡すること
	[学期] 後期	[単位] 1	[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国文学の論文を整理して発表する</p> <p>【概要】発表担当者は中国文学の論文を複数読み、整理・考察したうえで発表してもらいます。質疑応答を通して中国文学全体への関心を高めつつ、発表の技術や論文の形式、構成、発想を身につけていきます。</p> <p>【到達目標】専門性を高め、学問的に探求する姿勢を習得する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1)</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 授業の進め方について</p> <p>第 2回 論文整理と発表 (1)</p> <p>第 3回 論文整理と発表 (2)</p> <p>第 4回 論文整理と発表 (3)</p> <p>第 5回 論文整理と発表 (4)</p> <p>第 6回 論文整理と発表 (5)</p> <p>第 7回 論文整理と発表 (6)</p> <p>第 8回 論文整理と発表 (7)</p> <p>第 9回 論文整理と発表 (8)</p> <p>第10回 論文整理と発表 (9)</p> <p>第11回 論文整理と発表 (10)</p> <p>第12回 論文整理と発表 (11)</p> <p>第13回 論文整理と発表 (12)</p> <p>第14回 論文整理と発表 (13)</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	関係論文を調査し、発表に備えてください。			
成績評価の方法	予習と質疑応答 100%。定期試験は実施しません。			
実務経験について	なし			

授業科目	卒業研究Ⅰ、Ⅱ		担当者	専攻教員全員				
	〔履修年次〕	2年	授業外対応					
	〔学期〕	前期、後期	〔単位〕	各1	〔必修/選択〕	必修	〔授業形態〕	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】卒業論文の作成</p> <p>【概要】卒業論文は2年間の学習の集大成となる授業です。日本語日本文学専攻の学生は、日本語学演習・日本文学演習・中国文学演習のいずれかを選択したあと、それぞれの分野で自主的に課題を設けて研究し、成果を卒業論文として提出します。1年次にどの分野で卒業論文を書くかをまず選択し、2年次後期に卒業論文作成に向けた準備を整えて中間報告にまとめ、冬期には、卒業論文を完成させたうえで専攻全体の卒業研究発表会に備えます。教員は演習と連動させながら卒業研究課題の絞り込みを助け、みなさんの研究の進捗状況に応じて適宜指導します。</p> <p>【到達目標】卒業論文の完成とその口頭発表</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 授業中に紹介します。 (2)							
授業スケジュール	第1回	I	オリエンテーション：卒業論文の進め方	II	論文作成：その1			
	第2回		論文作成：その1		論文作成：その2			
	第3回		論文作成：その2		論文作成：その3			
	第4回		論文作成：その3		論文作成：その4			
	第5回		論文作成：その4		論文作成：その5			
	第6回		論文作成：その5		論文作成：その6			
	第7回		論文作成：その6		論文作成：その7			
	第8回		論文作成：その7		論文作成：その8			
	第9回		論文作成：その8		論文作成：その9			
	第10回		論文作成：その9		論文作成：その10			
	第11回		論文作成：その10		論文作成：その11			
	第12回		論文作成：その11		論文作成：その12			
	第13回		論文作成：その12		論文作成：その13			
	第14回		論文作成：その13		論文作成：その14			
	第15回		論文作成：まとめ		論文作成：まとめ			
授業外学習(予習・復習)								
成績評価の方法	I：中間報告 100% II：卒業論文 75%、口頭発表 25%							

授業科目	比較文化		担当者	小林朋子				
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	適宜対応(要予約)				
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2	〔必修/選択〕	選択(注)	〔授業形態〕	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】異文化理解・異文化コミュニケーション・異文化交流とは何か。</p> <p>【概要】今日のグローバル化社会では、毎日の生活で異なる文化を持つ人々とのコミュニケーションが増加している。また、「異文化」とは国境を越える出会いを背景とした文化であるというステレオタイプを取り払えば、異なる他者との社会も私たちの日常にある。本講義では、そうした他者とのような「関係性＝コミュニケーション」を構築していくべきなのか、様々な観点から学んでいく。講義を通じて外国人との交流の時間を設ける。受講者はこの「異文化交流会」に向けて、主体的に考えながら講義を受ける必要がある。</p> <p>【到達目標】・広い視野から異文化を正しく理解した上で、他言語を話す人々の価値観を知り、適切にコミュニケーションを行うことができる。・異文化交流の意義について体験的に理解する。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 伊佐雅子監修『多文化社会と異文化コミュニケーション』（三修社刊、2007年） (2) 池田理知子編著『よくわかる異文化コミュニケーション』（ミネルヴァ書房、2010年）他。（授業で随時紹介します）							
授業スケジュール	第1回		異文化コミュニケーションを学ぶことの意義：文化・異文化とは何か					
	第2回		グローバル社会と異文化コミュニケーション（1）：グローバル化の意味					
	第3回		グローバル社会と異文化コミュニケーション（2）：異文化交流の歴史と異文化への眼差し					
	第4回		空間、時間、異文化コミュニケーション：さまざまな意味をもつ空間と時間					
	第5回		「地球都市の出現とコミュニケーション」：都市化する世界					
	第6回		女性と異文化適応：異文化適応におけるジェンダー					
	第7回		異文化コミュニケーションと誤解の接点：誤解という身近なできごと					
	第8回		異文化コミュニケーションにおける言語選択：「英語の普及」をどう捉えるか					
	第9回		異文化コミュニケーションとしての通訳者（1）：通訳の種類、通訳の歴史					
	第10回		異文化コミュニケーションとしての通訳者（2）：通訳は言葉の置き換え作業？					
	第11回		異文化交流会準備（1）：異文化接触とは「よそ者」と異文化適応					
	第12回		異文化交流会準備（2）：グローバル化とアイデンティティ—自分のことば、他者のことば					
	第13回		異文化交流会準備（3）：異文化コミュニケーションとは					
	第14回		異文化交流会：異文化コミュニケーションの実践					
	第15回		異文化交流会まとめ：新しい「異文化コミュニケーション」に向けて					
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。							
成績評価の方法	授業への参加態度（40%）、小レポート（異文化交流会前の準備レポートを含む）（20%）、最終レポート（40%）							
実務経験について	なし							

(注) 英語英文学専攻は1年選択（教職必修）、日本語日本文学専攻は2年選択

授業科目	英文学史		担当者	轟 義昭				
	[履修年次]	2年	授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	必修(注)	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】18～20世紀の「小説」の流れを概観する</p> <p>【概要】この授業は受け身の授業ではありません。学生間のディスカッションによって発信する能力と問題解決能力を養います。最初に、テキストを用いてグループ内で情報交換しながら各章で取り上げる作家と作品について共有します。次に、担当者が課した各章の問題に対してグループ内でディスカッションしてもらい、その後、検討内容を発表してもらいます。他の学生の見解や思考を共有しながら、担当者の解説（一つの考え方）を聞いて問題点の理解に努めます。</p> <p>【到達目標】18世紀及び19世紀初頭の小説の特徴、19世紀の小説（ピクトリア朝小説）の特徴、20世紀前半の小説の特徴を理解する。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 川崎寿彦著 『イギリス文学史』 成美堂</p> <p>(2) サブテキストは講義中に指定する。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション（講義方式の説明）、「小説の誕生、そして成長」に関わる作者と作品の共有</p> <p>第2回 18世紀の小説（1）：小説の誕生とその周辺に関する諸問題（J.バニヤン、D.デフォー、J.スウィフト、S.リチャードソン）</p> <p>第3回 18世紀の小説（2）：小説の確立におけるH.フィールディング、L.スターン、T.G.スモレットの役割</p> <p>第4回 18世紀の小説（3）：18世紀後半のゴシック小説（H.ウォルポール、A.ラドクリフ夫人）</p> <p>第5回 19世紀初頭の小説：小説の成熟に貢献したJ.オースティン</p> <p>第6回 「ヴィクトリア朝の小説」に関わる作者と作品の共有、19世紀ヴィクトリア朝の小説（1）：C.ディケンズの役割</p> <p>第7回 19世紀ヴィクトリア朝の小説（2）：C.ディケンズの評価</p> <p>第8回 19世紀ヴィクトリア朝の小説（3）：ブロンテ姉妹（シャーロット、エミリー、アン）の小説</p> <p>第9回 19世紀ヴィクトリア朝の小説（4）：W.M.サッカレーの小説『虚栄の市』、E.ブロンテの小説『嵐が丘』</p> <p>第10回 19世紀後半（ヴィクトリア朝後期）の小説（T.ハーディ）、ダーウィニズムの影響</p> <p>第11回 「第二次世界大戦までの小説」に関わる作者と作品の共有、20世紀の小説（1）：D.H.ロレンスの小説</p> <p>第12回 20世紀の小説（2）：D.H.ロレンスの小説</p> <p>第13回 20世紀の小説（3）：V.ウルフの小説</p> <p>第14回 20世紀の小説（4）：H.G.ウェルズの小説</p> <p>第15回 20世紀の小説（5）：H.ジェイムズの小説、E.M.フォスターの小説、まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適時指示							
成績評価の方法	授業への取り組み+学習単元ごとのまとめ(70%)、筆記試験(30%)							
実務経験について	なし							

(注) 日本語日本文学専攻は選択、英語英文学専攻は必修

授業科目	米文学史		担当者	小林 朋子				
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応(要予約)				
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	選択(注)	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】アメリカ文学史から読み解くアメリカ社会・文化の源流</p> <p>【概要】本講義は、ネイティブ・アメリカンの口承文学から、ポスト・モダニズムの文学までのアメリカ文学史上の名作を、作家の経歴や時代背景に照らして学び、その作品の技量を英語で精読することで、アメリカ社会・文化の源流について理解を深めることを目的としている。文学作品から時代思潮を読み取る方法を知ること、今氾濫しているアメリカの情報、どんな風に発祥し、史的にどんな紆余曲折を経て、私たちの現在に届けられているのか推し量る力を養うことができる。そのような「文化理解力」をこの米文学史の講義で涵養してほしい。授業では作品についてのディスカッションの時間を設け理解を深める。</p> <p>*授業には必ず英和辞典を持参すること。</p> <p>【到達目標】アメリカ社会・文化の源流について理解を深める。アメリカ文学の作品を原書で読むことで英語読解力を向上させる。他言語を話す人々の価値観を知る。情報を的確に調査する能力、またそれを発信する自己表現能力を向上させる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 井上謙治著 『An Outline of American Literature アメリカ文学概観』(南雲堂、2004年)</p> <p>(2) 授業で随時紹介します。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクシヨン—ネイティブ・アメリカンの詩</p> <p>第2回 信仰とアメリカ—ピューリタン文学と理性の文学(1)</p> <p>第3回 信仰とアメリカ—ピューリタン文学と理性の文学(2)</p> <p>第4回 「驚異」の世界—ロマン主義の勃興</p> <p>第5回 アメリカン・ルネッサンス—ロマン主義の隆盛(1)</p> <p>第6回 アメリカン・ルネッサンス—ロマン主義の隆盛(2)</p> <p>第7回 「金めつき時代」—リアリズムの勃興</p> <p>第8回 危機と革新—リアリズムの展開</p> <p>第9回 繁栄と解放の文学—ロスト・ジェネレーション</p> <p>第10回 世界へ向けて—モダニズムの文学</p> <p>第11回 戦後文学の出發—第2次世界大戦と冷戦</p> <p>第12回 自我をつくろう—人種系文学(1)</p> <p>第13回 自我をつくろう—人種系文学(2)</p> <p>第14回 自己の探求—ポスト・モダニズムの文学</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。							
成績評価の方法	授業への参加態度(40%)、小レポート(20%)、最終レポート(40%)							

(注) 日本語日本文学専攻は選択、英語英文学専攻は必修

授業科目	読書と豊かな人間性		担当者	木戸裕子
	[履修年次]	2年	授業外対応	オフィスアワーに準じる
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択 (注)
			[授業形態]	講義形式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】本と図書館に関する現状を学び、読書が子どもの成長にもたらすものについて考える。</p> <p>【概要】子どもにとって読書とは、広い世界への興味や想像力をはぐくむために大切なものである。この授業では、本と図書館に関する話題や、読書活動の方法を通して、読書が私たちにもたらす豊かな世界を考えていく。授業では、実際に図書館や書店を訪問したり、読みきかせ、ブックトークなどの子どもの読書の手助けとなる方法を実際に体験したりする。</p> <p>【到達目標】読書と心の豊かさの関連について考えることができる。児童生徒の読書活動に対する学校図書館の役割を理解する。様々な読書活動（読み聞かせ、ブックトークなど）の方法を知る。自分の読書活動について振り返る。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 立田 慶裕編著『読書教育の方法—学校図書館の活用に向けて—』学文社</p> <p>(2) 「読むチカラ」プロジェクト編「鍛えよう！読むチカラ学校図書館で育てる25の方法」明治書院、小林功「楽しい読み聞かせ 改訂版」全国学校図書館協議会、渡部康夫「読む力を育てる読書のアニメーション」全国学校図書館協議会、</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 読書教育とは何か：発達に応じた読書</p> <p>第2回 読書教育の担い手：学校図書館を支える人々</p> <p>第3回 学校図書館の歴史：制度としての学校図書館</p> <p>第4回 読書教育のための学校環境：学校における読書環境、地域との連携</p> <p>第5回 読書教育の方法1：就学前・学校全体</p> <p>第6回 読書教育の方法2：教科と読書教育</p> <p>第7回 小学校の読書：物語を楽しみ、言葉をはぐくむ</p> <p>第8回 中学校・高校の読書教育：言語教育と科学的探究の融合</p> <p>第9回 公共図書館の児童室と学校図書館：グループワークとディスカッション</p> <p>第10回 発達を支える読書：特別支援教育との関係</p> <p>第11回 読書活動1：読書案内、ブックトーク、ブックリスト</p> <p>第12回 読書活動2：読み聞かせ、読みあい、ストーリーテリング</p> <p>第13回 読書活動3：パネルシアター、紙芝居</p> <p>第14回 実演1：ブックトーク、読み聞かせ、読みあいなど</p> <p>第15回 実演2：ブックトーク、読み聞かせ、読みあいなど</p>			
授業外学習(予習・復習)	積極的に読書活動に取り組み、読書記録を取るようになる。			
成績評価の方法	課題提出 (50%) と、授業第14回、15回での実演 (50%)			
実務経験について	なし			

(注) 司書教諭資格必修

授業科目	情報メディアの活用		担当者	竹本 寛秋
	[履修年次]	2	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>高度情報化社会である現代における多様な情報メディアの特性を学び、学校図書館での活用方法について考える。</p> <p>【概要】</p> <p>テクノロジーの発展により高度情報化した現代において、情報と人々の関係は急速に変化している。新たな情報環境を積極的に活用していくことが学校図書館には常に求められており、その中で、司書教諭は多様なメディアについて理解し、活用する能力を持つことが期待される。授業においては、情報化社会と人間の関係について基礎的な理解に基づき、様々なメディアの特性を知って、効果的に活用する方法を学ぶ。またデジタル社会における著作権について学ぶ。</p> <p>【到達目標】現代社会の多様な情報メディアの特性について理解し、説明できる。学校図書館における情報メディアを活用した教育や応用の手法について理解し、説明できる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) なし</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 高度情報化社会と人間：情報化社会と司書教諭の役割</p> <p>第2回 情報メディアの歴史の変遷</p> <p>第3回 学校教育と情報メディア</p> <p>第4回 情報メディアの種類と特性</p> <p>第5回 情報メディアの選択：状況に応じた選択の必要と留意点</p> <p>第6回 視聴覚メディアの活用</p> <p>第7回 情報メディアの活用1：コンピュータの活用と運用</p> <p>第8回 教育メディアの活用2：教育用ソフトウェアの活用</p> <p>第9回 情報メディアの活用3：データベースと情報検索</p> <p>第10回 情報メディアの活用4：インターネットと情報検索</p> <p>第11回 情報メディアの活用5：インターネットによる情報発信</p> <p>第12回 情報セキュリティ</p> <p>第13回 ネットワーク環境と学校教育</p> <p>第14回 学校図書館メディアと著作権</p> <p>第15回 まとめ：情報メディア活用の課題と将来</p>			
授業外学習(予習・復習)	教科書の精読、授業で課す課題の調査など。			
成績評価の方法	授業での課題 (30%)、期末試験 (70%)			
実務経験について	高等学校、高等専門学校に教員として勤務			

(注) 司書教諭資格必修

授業科目	書道Ⅰ	担当者	松元 徳雄
	〔履修年次〕 1年	授業外対応	授業終了後に対応
	〔学期〕 前期	〔単位〕 1	〔必修/選択〕 選択(注) 〔授業形態〕 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】楷書・行書・かなの特徴と書法</p> <p>【概要】書道は文字を素材とする芸術である。その文字の姿もさまざまな形があり、実に興味深い。しかし、現代において文字はまさに書く時代ではなく打つ時代であるが、筆を執って文字を書くすばらしさと大切さを実感してもらいたい。本講座では、書体の変遷について概要を学び、実技へと移行する。まず、書の重要な書体である楷書の基本点画を学習してから行書、さらにはかなの基本へと進む。</p> <p>【到達目標】楷書・行書・かなの書き方を習得する</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 青山杉雨編『改訂 書道の古典Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ』二玄社刊 (2)		
授業スケジュール	第1回 書について(書体の特徴とその変遷) 第2回 楷書の特徴とその書法(基本点画の書き方) 第3回 " " 第4回 " " 第5回 " (細字の書き方) 第6回 " " 第7回 行書の特徴とその書法(基本点画の書き方) 第8回 " " 第9回 " " 第10回 " (細字の書き方) 第11回 " " 第12回 かなの特徴と書き方(いろは単体) 第13回 " " 第14回 " (連綿とその応用) 第15回 " "		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業における清書作品(100%)		

(注) 教職必修

授業科目	書道Ⅱ	担当者	松元 徳雄
	〔履修年次〕 1年	授業外対応	授業終了後に対応
	〔学期〕 後期	〔単位〕 1	〔必修/選択〕 選択(注) 〔授業形態〕 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中学校における書写教育の把握と楷書・行書の古典学習</p> <p>【概要】中学校の書写教育の現況を通覧するとともに教材と同じ課題を練習し、その執筆法を習得する。さらに、書の基本である楷書の古典を通して、その造型と運筆の要領を学ぶ。また、日常生活において最も多用されている行書の巧みな筆法を学習する。</p> <p>【到達目標】中学校における書写教育の概要を簡単に説明できること。さらに楷書・行書の特徴とその運筆の技法を古典を通して取得する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 青山杉雨編『改訂 書道の古典Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ』二玄社刊 (2)		
授業スケジュール	第1回 中学校における書写教育について 第2回 中学校で学ぶ楷書の基本とその応用 第3回 " " 第4回 楷書の古典(九成宮醜泉銘) 第5回 " " 第6回 " (始平公造像記) 第7回 " (孫秋生造像記) 第8回 中学校で学ぶ行書の基本とその応用 第9回 " " 第10回 中学校で学ぶ漢字と仮名の調和 第11回 行書の古典(蘭亭叙) 第12回 " " 第13回 " (苕溪詩卷) 第14回 " (呉昌碩詩稿) 第15回 " (風信帖)		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業における清書作品(100%)		

(注) 教職必修

授業科目	書道Ⅲ		担当者	松元 徳雄	
	[履修年次] 2年		授業外対応	授業終了後に対応	
	[学期] 前期	[単位] 1	[必修/選択] 選択	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 草書・隸書・篆書の特徴とその運筆の技法</p> <p>【概要】 書道Ⅲでは草書・隸書・篆書の3つの書体について学習する。草書は日常生活においてはほとんど目にする文字ではないが、芸術性が高く、書のすばらしさを理解していくためには不可欠な書体である。隸書は今から1800年位前に生まれた書体であるが、日常よく目にする文字である。隸書は独特な技法と造型のおもしろさを理解してもらう。篆書は中国最古の文字であり、その典型とされる小篆のユニークな字形や運筆の技法を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 草書・隸書・篆書のくつメル特徴とその運筆の技法を古典を通して習得する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 青山杉雨編『改訂 書道の古典Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ』二玄社刊 (2)				
授業スケジュール	第1回 草書の特徴とその書法(基本点画の書き方) 第2回 草書の古典(書譜) 第3回 " " 第4回 " (擬山園帖) 第5回 " " 第6回 隸書の特徴とその書法(基本点画の書き方) 第7回 隸書の古典(曹全碑) 第8回 " " 第9回 " (礼器碑) 第10回 " " 第11回 篆書の特徴とその書法(基本点画の書き方) 第12回 篆書の古典(泰山刻石) 第13回 " " 第14回 " (趙之謙篆書対聯) 第15回 " "				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	授業における清書作品(100%)				

授業科目	書道Ⅳ		担当者	松元 徳雄	
	[履修年次] 2年		授業外対応	授業終了後に対応	
	[学期] 後期	[単位] 1	[必修/選択] 選択	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 自用印並びに創作作品の制作とかなの古典学習</p> <p>【概要】 書道学習の集大成として創作にチャレンジする。まず、自分の名を刻した印を制作し、漢字と調和体の創作作品に押印する。書の楽しさと魅力を味わってもらうことを目的とする。後半は日本の書を代表するかな(古筆)の臨書学習を通して、その芸術性と文学の特徴を学ぶ。かなは漢字がくずされて発生したものであるが、日本人が独自に創出した文字である。その真の姿を追究したい。かながいかに大切な文字であるか、実感してもらうのも目的の一つである。</p> <p>【到達目標】 漢字と調和体の創作作品が書けるようになることとかな古典の学習によりその魅力を習得すること</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 青山杉雨編『改訂 書道の古典Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ』二玄社刊 (2)				
授業スケジュール	第1回 作品制作(篆刻—自用印) 第2回 " " 第3回 " " 第4回 " " 第5回 " (漢字作品—4字熟語) 第6回 " " 第7回 " " 第8回 " (調和体作品) 第9回 " " 第10回 かなの古典(高野切第1種) 第11回 " " 第12回 " (高野切第3種) 第13回 " " 第14回 " (寸松庵色紙) 第15回 " "				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	授業における清書作品(100%)				

6 英語英文学専攻専門科目

授業科目	English Skills A		担当者	遠峯 伸一郎
	[履修年次]	1年	授業外対応	講義前後に適宜対応
	[学期]	前期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	必修
			[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語の学び方, 英語研究の手法</p> <p>【概要】本授業は, 言語学研究の諸分野を概観した後, 英語史に焦点を当てて学習する。</p> <p>【到達目標】正確な英文読解に必要な技能を身につける。英語学的な分析についてその概略が分かる。英語学のレポート作成の方法を学ぶ。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Viney, Brigit (2008) <i>The History of English Language</i>, OUP.</p> <p>(2) 倉林秀男 (2021) 『バッチリ身につく 英語の学び方』 筑摩書房, 東京, 山口裕之 (2013) 『コピペと言われないレポートの書き方教室 3つのステップ』 新曜社。他は随時紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス</p> <p>第 2 回 言語学 (英語学) とは?</p> <p>第 3 回 1 A World Language</p> <p>第 4 回 2 Old English</p> <p>第 5 回 3 The Normans in England</p> <p>第 6 回 4 Middle English</p> <p>第 7 回 5 Modern English Begins</p> <p>第 8 回 6 Bringing Order to English</p> <p>第 9 回 7 Modern English Grows</p> <p>第 10 回 8 The Beginnings of English</p> <p>第 11 回 9 English in the US</p> <p>第 12 回 10 All Kinds of English</p> <p>第 13 回 11 Jargon and Slang</p> <p>第 14 回 12 The future of English</p> <p>第 15 回 まとめと試験</p>			
授業外学習 (予習・復習)	予習 1 時間以上, 復習 1 時間二条必要である。			
成績評価の方法	授業への取り組み (60%) + レポートまたは試験 (40%)			

授業科目	English Skills B		担当者	轟 義昭
	[履修年次]	1年	授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応
	[学期]	前期	[単位]	2
			[必修/選択]	必修
			[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】イギリス文学作品に親しむ。</p> <p>【概要】ペンギンリーダーズのテキストを利用して, J.オースティンの『分別と多感』を読みます (文学作品を読むことになれていないと思われるので, 授業はグループ形式とします)。授業はテキストを読んで日本語に訳す 精読方式 ですすめます。また章ごとの訳だけでなく, 担当者が準備したプリントに基づいて章ごとの内容と問題点も確認します。作品は映画化されているので, プロットと背景が理解できるようにビデオを活用します。</p> <p>【到達目標】文学作品を正確に読む力を養う。作品の内容を考える力を養う。作品全体を通して作者の主張を読み解く力を養う。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Jane Austen, <i>Sense and Sensibility</i> (英朝社フェニックス)</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション (授業の進め方の説明: グループ活動及び章ごとの訳の提出方法), 映像作品『いつか晴れた日に』の鑑賞 (1)</p> <p>第 2 回 映像作品『いつか晴れた日に』の鑑賞 (2)</p> <p>第 3 回 映画のみどころ及び登場人物たちの確認, 映画から感じられる問題点の確認</p> <p>第 4 回 グループ活動 1: 英文テキストの第 1 章と第 2 章の内容の検討と発表</p> <p>第 5 回 第 1 章と第 2 章の訳の訂正</p> <p>第 6 回 グループ活動 2: 第 3 章の内容の検討と発表</p> <p>第 7 回 第 3 章の訳の訂正</p> <p>第 8 回 グループ活動 3: 第 4 章の内容の検討と発表</p> <p>第 9 回 第 4 章の訳の訂正</p> <p>第 10 回 グループ活動 4: 第 5 章の内容の検討と発表</p> <p>第 11 回 第 5 章の訳の訂正</p> <p>第 12 回 グループ活動 5: 第 6 章の内容の検討と発表</p> <p>第 13 回 第 6 章の訳の訂正</p> <p>第 14 回 グループ活動 6: 第 7 章の内容の検討と発表</p> <p>第 15 回 第 7 章の訳の訂正, まとめ</p>			
授業外学習 (予習・復習)	予習は各章の訳および担当者が用意した課題プリント			
成績評価の方法	予習を含む授業への取り組みと授業での発言内容 (60%), 筆記試験 (40%)			

授業科目	English Skills C		担当者	小林 朋子
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	前期	[単位]	2
			[必修/選択]	必修
			[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英文精読を通して、基礎的な英語力を身につける。</p> <p>【概要】基本的、発展的な文法事項の確認、フレーズ・リーディングを意識した訳読法の練習、「文化の翻訳」という手続きを含む、広い意味での英語テキストの読み取りなどを通して、英文が持つ意味を適切に把握する能力を養う。授業前半では、基本的な文法事項や訳読法を確認し、英文を適切な日本語に変換する技術を学ぶ。後半では、文学テキストを「翻訳する」とはどのような作業なのか、またどのような知識が必要なのか実践的に学んでいく。</p> <p>【到達目標】基本的な文法事項に則って英文を読解できる。翻訳の意味を理解して英文解釈ができる。文脈を把握する力を身に付ける。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 柴田元幸著『英文精読教室』研究社、安西徹雄他著『翻訳を学ぶ人のために』世界思想社、他随時紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 インTRODクシヨン</p> <p>第 2回 フレーズ・リーディングとは</p> <p>第 3回 フレーズ・リーディングの実践1</p> <p>第 4回 フレーズ・リーディングの実践2</p> <p>第 5回 学術書の英語1</p> <p>第 6回 学術書の英語2</p> <p>第 7回 学術書の英語3</p> <p>第 8回 学術書の英語4</p> <p>第 9回 文学を翻訳する1</p> <p>第10回 文学を翻訳する2</p> <p>第11回 文学を翻訳する3</p> <p>第12回 文学を翻訳する4</p> <p>第13回 文学を翻訳する5</p> <p>第14回 文学を翻訳する6</p> <p>第15回 まとめとレポート提出における留意点</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	レポート (50%)、提出物 (30%)、授業への取組み態度 (20%) で評価する。			

授業科目	オーラルコミュニケーション I		担当者	ガルシア・アロヨ ホルヘ Jorge García Arroyo
	[履修年次]	1年	授業外対応	By coming to my office or by email.
	[学期]	前期	[単位]	2
			[必修/選択]	必修
			[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course is focused on enhancing the student's basic speaking skills so that they can express themselves in many situations in life and give short, simple presentations.</p> <p>【概要】 Students will express their ideas and discuss about different topics from the text book. Each topic will have its vocabulary and specific expressions and they will learn communication techniques while they are discussing.</p> <p>【到達目標】 In this course students will acquire and use a significant variety of vocabulary and expressions adapted to various situations in life. In addition, they will learn essential points for making a presentation such as intonation, pronunciation, body language, etc.</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Antonia Clare, JJ Wilson. Speakout pre-intermediate. 2nd edition. Pearson Education</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 Introduction to the course. Warm-up activities: Why do you study English?</p> <p>第 2回 Unit 1. Speaking: Talking about relationships (family, friends, classmates, pets, etc.). Grammar review: past simple.</p> <p>第 3回 Unit 1. Communication Skills: Stressed verbs and the pronunciation of past simple endings (-ed). Unit 1 review.</p> <p>第 4回 Unit 1 short presentation. Introduce a family member or a friend and tell a funny story experienced with her/him/.</p> <p>第 5回 Unit 2. Speaking: Talking about work and types of jobs. Grammar review: present simple and continuous.</p> <p>第 6回 Unit 2 Communication skills: intonation: express likes and dislikes. Unit 2 review</p> <p>第 7回 Unit 2 short presentation. Your dreamed job.</p> <p>第 8回 Unit 3. Speaking: Talking about food; food and recipe vocabulary.</p> <p>第 9回 Unit 3. Communication skills: how to present a recipe. Unit 3 review.</p> <p>第10回 Unit 3 short presentation. Recipe. The students will present a recipe.</p> <p>第11回 Unit 4. Speaking: talking about what we do in our free time. Grammar review: present continuous and the be going to future.</p> <p>第12回 Unit 4. Communication skills: stress in compound nouns; how to make a phone call in English. Unit 4 review.</p> <p>第13回 Unit 4. Short presentation. Phone call. The students perform a phone call in English.</p> <p>第14回 Unit 5. Speaking: Our story. Talking about some great, scary, rare or curious situation we experienced. Grammar review: past simple and past continuous.</p> <p>第15回 Unit 5. Communication skills: intonation of questions; stressed syllables. Review of unit 5.</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	In-class presentations (60%); Final presentation (40%)			
実務経験について	I have been teaching this class since 2019.			

(注) 週2回、教職必修

授業科目	オーラルコミュニケーション I	担当者	ジェイムズ マレー James Murray	
	[履修年次] 1年	授業外対応	授業終了後	
	[学期] 前期 [単位] 2	[必修/選択]	必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is a course for students to improve their basic English listening and speaking skills.</p> <p>【概要】 Class time will be centered on the study and practice of language patterns and functional expressions, information exchange activities, discussion, and listening tasks. Pair practice and oral presentations will be an integral part of class work.</p> <p>【到達目標】 The goal of this class is to help students comprehend and communicate in English freely and confidently.</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Miles Craven, <i>Breakthrough Plus 2, 2nd Edition</i>, Macmillan Education (ISBN: 9781380003133)</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 Introduction / Conversation Activities</p> <p>第 2 回 Speaking: Talking about Daily Life and Routines</p> <p>第 3 回 Pronunciation: Linking words</p> <p>第 4 回 Listening: Listen for Details</p> <p>第 5 回 Presentation (1) Preparation</p> <p>第 6 回 Presentation (1)</p> <p>第 7 回 Speaking: Talking about Likes and Dislikes</p> <p>第 8 回 Pronunciation: Sentence Stress</p> <p>第 9 回 Listening: Predicting What Will Be Said</p> <p>第10 回 Conversation Activities</p> <p>第11 回 Presentation (2) Preparation</p> <p>第12 回 Presentation (2)</p> <p>第13 回 Speaking: Making Requests / Responding to Requests</p> <p>第14 回 Pronunciation: Linking Sounds</p> <p>第15 回 Test (1) / Conversation Activities</p> <p>第16 回 Speaking: Talking about Hobbies and Interests</p> <p>第17 回 Pronunciation: Past Forms</p> <p>第18 回 Listening: Listen for Keywords</p> <p>第19 回 Presentation (3) Preparation</p> <p>第20 回 Presentation (3)</p> <p>第21 回 Speaking: Talking about Something That Happened To You</p> <p>第22 回 Pronunciation: "Schwa"</p> <p>第23 回 Listening: Listen for Specific Information</p> <p>第24 回 Conversation Activities</p> <p>第25 回 Presentation (4) Preparation</p> <p>第26 回 Presentation (4)</p> <p>第27 回 Speaking: Talking about Important Celebrations</p> <p>第28 回 Pronunciation: Shortening Words</p> <p>第29 回 Listening: Listen for Context</p> <p>第30 回 Test (2)</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	Class participation 授業での参加の度合 (25%), Presentations 発表 (25%), Tests 試験 (25%), Homework 宿題 (25%)			

(注) 週 2 回, 教職必修

授業科目	オーラルコミュニケーションⅠ	担当者	ニコライ ギュレメトフ Nikolay Gyulemetov	
	[履修年次] 1年	授業外対応	授業終了後	
	[学期] 前期 [単位] 2	[必修/選択]	必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	テーマ：英語を使ってスピーキング力、発音、自信を向上させる Improve your speaking, pronunciation and confidence when using English. 【概要】グループ・ディスカッション、スピーキングの練習、ショートスピーチなどを行います。 【到達目標】The main goal is to help the students use English with more skill and confidence.			
	テーマ：英語を使ってスピーキング力、発音、自信を向上させる			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Impact Issues 2 (3rd Edition), by Richard Day et al.. Published by Pearson Longman (2) プリントを配布する場合があります。			
授業スケジュール	第 1 回	Orientation & class goals, Vocabulary worksheets (2 classes per week schedule)		
	第 2 回	Unit 1 First Impressions, Unit 2 Big or small?		
	第 3 回	Unit 3 The Good Language Learner, Video watching and discussion		
	第 4 回	Vocabulary Worksheets, Unit 4 Getting Ahead		
	第 5 回	Unit 5 Forever Single, Unit 6 What are friends for?		
	第 6 回	Unit 7 What's for lunch?, Video watching and discussion		
	第 7 回	Unit 8 Your Online Past, Unit 9 Taking Care of Father		
	第 8 回	Unit 10 My Student Life, Unit 11 International Relationships		
	第 9 回	Unit 12 Create another future, Introduction to SDGs		
	第 10 回	Unit 13 Ben and Mike, Video watching and discussion		
	第 11 回	Unit 14 Government Control, Unit 15 Ask Annie		
	第 12 回	Unit 16 What makes you happy?, Vocabulary worksheets		
	第 13 回	Unit 17 Who will help them? Unit 18 Finding the Right One		
	第 14 回	Unit 19 Dress for Success, Video watching and discussion		
	第 15 回	Unit 20 A Mother's Story / Final revision		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			

(注) 週 2 回, 教職必修

授業科目	オーラルコミュニケーションⅡ	担当者	ガルシア・アロヨ ホルヘ Jorge García Arroyo	
	[履修年次] 1年	授業外対応	By Coming to my office or by email	
	[学期] 後期 [単位] 2	[必修/選択]	必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	【テーマ】This is a course focused on improving the students' communicative skills in English. 【概要】The students will express their point of view and ideas on different topics from the text book. Through this the students will learn the necessary expressions, vocabulary and other language patterns (such as body language and pronunciation) that will allow them to communicate fluently in English. 【到達目標】The main goal of this course is to provide the students with the necessary communicative tools to make them gain confidence, naturalness and spontaneity when speaking in English.			
	(1)テキスト (2)参考文献	(1) Antonia Clare, JJ Wilson, Speakout. Intermediate. Pearson Education (2)		
授業スケジュール	第 1 回	Introduction to the course. Warm-up activity: why do you think English is important nowadays?		
	第 2 回	Unit 1. Speaking: talking about an important news event (national and international). Review on past simple and present perfect		
	第 3 回	Unit 1. Communication skills: difference between say and tell; pronunciation of have, had, was (weak forms); intonation: sounding interested.		
	第 4 回	Unit 1. Presentation: reporting news.		
	第 5 回	Unit 2. Speaking: Talking about technology. How new technologies are changing our lives. Review on future (will tense).		
	第 6 回	Unit 2. Communication skills: time markers (idioms); fast speech (going to future); linking in connected speech.		
	第 7 回	Unit 2. Presentation: The students will choose a new technology related to communication (social networks, smartphone, etc.) and they will explain why they use it and its good and bad points.		
	第 8 回	Unit 3. Speaking: talking about amazing jobs. Review on modal verbs (obligation) and used to and simple conditional tense		
	第 9 回	Unit 3. Communication skills: intonation (emphasis); fast speech (have to); sentence stress.		
	第 10 回	Unit 3. Presentation: The students will search for an amazing job in the internet, then they talk about that job.		
	第 11 回	Unit 4. Taking about emotions. Review on real and hypothetical conditionals		
	第 12 回	Unit 4. Communication skills: pronouns (weak forms); connected speech (would); intonation: giving bad news.		
	第 13 回	Unit 4. Presentation: The students will choose an important event in their lives and will describe it and explain the emotions they felt about it.		
	第 14 回	Unit 5. Speaking: Talking about success. What is necessary to achieve success? Review on present perfect VS present continuous		
	第 15 回	Unit 5. Communication Skills: present and past ability; clarifying opinions; word stress: contractions.		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	In-class presentations (60%) final presentation (40%).			
実務経験について	I have been teaching this class since 2019			

(注) 週 2 回

授業科目	オーラルコミュニケーションⅡ	担当者	ジェイムズ マレー James Murray		
	[履修年次] 1年	授業外対応	授業終了後		
	[学期] 後期 [単位] 2	[必修/選択]	必修	[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is a course for students to improve their basic English listening and speaking skills.</p> <p>【概要】 Class time will be centered on the study and practice of language patterns and functional expressions, information exchange activities, discussion, and listening tasks. Pair practice and oral presentations will be an integral part of class work.</p> <p>【到達目標】 The goal of this class is to help students comprehend and communicate in English freely and confidently.</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Miles Craven, <i>Breakthrough Plus 2, 2nd Edition</i>, Macmillan Education (ISBN: 9781380003133)</p> <p>(2)</p>				
授業スケジュール	<p>第 1 回 Introduction / Conversation Activities</p> <p>第 2 回 Speaking: Talking about Food & Drink Preferences</p> <p>第 3 回 Pronunciation: Stress to Contrast</p> <p>第 4 回 Listening: Identifying Context</p> <p>第 5 回 Presentation (1) Preparation</p> <p>第 6 回 Presentation (1)</p> <p>第 7 回 Speaking: Talking about Rules in Your Life</p> <p>第 8 回 Pronunciation: Linking /w/ and /j/</p> <p>第 9 回 Listening: Listen for the "Gist"</p> <p>第10 回 Conversation Activities</p> <p>第11 回 Presentation (2) Preparation</p> <p>第12 回 Presentation (2)</p> <p>第13 回 Speaking: Talking about Things You've Done</p> <p>第14 回 Pronunciation: Shortened Words</p> <p>第15 回 Test (1) / Conversation Activities</p> <p>第16 回 Speaking: Talking about Health & Staying Healthy</p> <p>第17 回 Pronunciation: Intonation</p> <p>第18 回 Listening: Listening for Opinion</p> <p>第19 回 Presentation (3) Preparation</p> <p>第20 回 Presentation (3)</p> <p>第21 回 Speaking: Making Comparisons / Expressing Preferences</p> <p>第22 回 Pronunciation: Word Stress</p> <p>第23 回 Listening: Note-Taking</p> <p>第24 回 Conversation Activities</p> <p>第25 回 Presentation (4) Preparation</p> <p>第26 回 Presentation (4)</p> <p>第27 回 Speaking: Talking about Technology</p> <p>第28 回 Pronunciation: /j/ and /h/</p> <p>第29 回 Listening: Listen for Detail</p> <p>第30 回 Test (2)</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	Class participation 授業での参加の度合 (25%), Presentations 発表 (25%), Tests 試験 (25%), Homework 宿題 (25%)				

(注) 週 2 回

授業科目	オーラルコミュニケーションⅡ	担当者	ニコライ ギュレメトフ Nikolay Gyulemetov		
	[履修年次] 1年	授業外対応	授業終了後		
	[学期] 後期 [単位] 2	[必修/選択]	必修	[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>テーマ：英語を使ってスピーキング力、発音、自信を向上させる</p> <p>Improve your speaking, pronunciation and confidence when using English.</p> <p>【概要】グループ・ディスカッション、スピーキングの練習、ショートスピーチなどを行います。</p> <p>【到達目標】The main goal is to help the students use English with more skill and confidence.</p> <p>テーマ：英語を使ってスピーキング力、発音、自信を向上させる</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Impact Issues 2 (3rd Edition), by Richard Day et al.. Published by Pearson Longman</p> <p>(2) プリントを配布する場合があります。</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 Orientation & class goals, Vocabulary worksheets (2 classes per week schedule)</p> <p>第2回 Unit 1 First Impressions, Unit 2 Big or small?</p> <p>第3回 Unit 3 The Good Language Learner, Video watching and discussion</p> <p>第4回 Vocabulary Worksheets, Unit 4 Getting Ahead</p> <p>第5回 Unit 5 Forever Single, Unit 6 What are friends for?</p> <p>第6回 Unit 7 What's for lunch?, Video watching and discussion</p> <p>第7回 Unit 8 Your Online Past, Unit 9 Taking Care of Father</p> <p>第8回 Unit 10 My Student Life, Unit 11 International Relationships</p> <p>第9回 Unit 12 Create another future, Introduction to SDGs</p> <p>第10回 Unit 13 Ben and Mike, Video watching and discussion</p> <p>第11回 Unit 14 Government Control, Unit 15 Ask Annie</p> <p>第12回 Unit 16 What makes you happy?, Vocabulary worksheets</p> <p>第13回 Unit 17 Who will help them? Unit 18 Finding the Right One</p> <p>第14回 Unit 19 Dress for Success, Video watching and discussion</p> <p>第15回 Unit 20 A Mother's Story / Final revision</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	授業中のパフォーマンス (60%) + 発表・スピーチ (期末ショートスピーチを含む) (40%) による評価します。				

(注) 週2回

授業科目	オーラルコミュニケーションⅢ	担当者	ガルシア・アロヨ ホルヘ Jorge García Arroyo		
	[履修年次] 2年	授業外対応	By coming to my office or by email		
	[学期] 前期 [単位] 1	[必修/選択]	必修	[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】This course is focused on enhancing the student's oral communication skills so that they will be able to express themselves in several situations and give short speeches.</p> <p>【概要】Students will express their ideas about different topics from the text book. Each topic will have its vocabulary and specific expressions and they will learn communication techniques while they are discussing.</p> <p>【到達目標】In this course students will acquire and use a wide variety of vocabulary and expressions adapted to various situations in life. In addition, emphasis will also be placed on important factors when giving a speech such as intonation, pronunciation, body language, etc.</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Antonia Clare, JJ Wilson. Speakout intermediate plus. 2nd edition. Pearson Education.</p> <p>(2)</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 Introduction to the course. Warm-up activity: why are you interested in speaking English?</p> <p>第2回 Unit 1. Speaking: talking about fears and phobias. Review on making suggestions.</p> <p>第3回 Unit 1. Communication skills. Stress patterns: responses: Verb + preposition</p> <p>第4回 Unit 1. Presentation: the students talk about scary stories they know</p> <p>第5回 Unit 2. Speaking: talking about lifestyles. Review on passive and causative have.</p> <p>第6回 Unit 2. Communication skills. Everyday objects: stress: causative have.; connected speech: linking</p> <p>第7回 Unit 2. Presentation: the students describe their lifestyles, outlining its good and bad points (if any).</p> <p>第8回 Unit 3. Speaking: talking about health. Review on passive reporting structures.</p> <p>第9回 Unit 3. Communication skills. Vocabulary: health; disagreeing politely: how to debate.</p> <p>第10回 Unit 3. Presentation: the students present some healthy advices to introduce in our life.</p> <p>第11回 Unit 4. Speaking: is the Smartphone that necessary? Review on questions forms (indirect questions) and present perfect simple and continuous.</p> <p>第12回 Unit 4. Communication skills. Intonation (statement, questions); intonation (sound enthusiastic).</p> <p>第13回 Unit 4. Presentation: the students will present an anecdote related to the use of the smartphone and social media networks.</p> <p>第14回 Review of the course.</p> <p>第15回 Preparation for the final presentation.</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	In-class presentations (60%) Final presentation (40%)				
実務経験について	I have been teaching this class since 2018.				

授業科目	オーラルコミュニケーションⅢ	担当者	ジェイムズ マレー James Murray		
	[履修年次] 2年	授業外対応	授業終了後		
	[学期] 前期 [単位] 1	[必修/選択]	必修	[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is a course for students to improve their basic English listening and speaking skills.</p> <p>【概要】 Class time will be centered on the study and practice of language patterns and functional expressions, information exchange activities, discussion, and listening tasks. Pair practice and oral presentations will be an integral part of class work.</p> <p>【到達目標】 The goal of this class is to help students comprehend and communicate in English freely and confidently.</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Miles Craven, <i>Breakthrough Plus 3, 2nd Edition</i>, Macmillan Education (ISBN: 9781380001139)</p> <p>(2)</p>				
授業スケジュール	<p>第 1 回 Introduction / Conversation Practice</p> <p>第 2 回 Speaking: Talking about People, Places, and Things.</p> <p>第 3 回 Pronunciation: Intonation. / Listening: Listen for Details.</p> <p>第 4 回 Presentation (1) Preparation</p> <p>第 5 回 Presentation (1) / Conversation Practice</p> <p>第 6 回 Speaking: Talking about Experiences</p> <p>第 7 回 Pronunciation: Expressing Emotion. / Listening: News Reports.</p> <p>第 8 回 Test (1) / Conversation Practice</p> <p>第 9 回 Presentation (2) Preparation</p> <p>第10 回 Presentation (2) / Conversation Practice</p> <p>第11 回 Speaking: Talking about Opinions.</p> <p>第12 回 Pronunciation: -ed endings. / Listening: Identifying the Topic</p> <p>第13 回 Presentation (3) Preparation</p> <p>第14 回 Presentation (3) / Conversation Practice</p> <p>第15 回 Test (2) / Conversation Practice</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	Class participation 授業での参加の度合 (25%), Presentations 発表 (25%), Tests 試験 (25%), Homework 宿題 (25%)				

授業科目	オーラルコミュニケーションⅢ	担当者	ジョン トレマーコ John Tremarco		
	[履修年次] 2年	授業外対応	授業終了後		
	[学期] 前期 [単位] 1	[必修/選択]	選択	[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Everyday Conversation.</p> <p>【概要】 This course will build upon the students' previous studies. Initially, they will practice everyday conversation and review the basic grammar needed to engage in those conversation. In addition to this, they will be given guidance that will encourage and allow them to take part in debates and presentations.</p> <p>【到達目標】 To improve students' communication skills.</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Learn English with TITANIC: Author(s): T. Kadoyama & S. Capper Publisher: Seibido</p> <p>(2)</p>				
授業スケジュール	<p>第 1 回 Introduction and Orientation Explanation of course aims, tests, evaluation methods and teacher expectations. (導入コースの目標についての説明)</p> <p>第 2 回 Unit 1: The Woman in the Picture</p> <p>第 3 回 Unit 2: Back to Titanic</p> <p>第 4 回 Unit 3: Back to Titanic</p> <p>第 5 回 Unit 4: Leaving Port</p> <p>第 6 回 Unit 5: Leaving Port</p> <p>第 7 回 Unit 6: Don't do it</p> <p>第 8 回 Unit 7: Review</p> <p>第 9 回 Unit 8: Do you love him?</p> <p>第10 回 Unit 9: Do you love him?</p> <p>第11 回 Unit 10: I can't see you</p> <p>第12 回 Unit 11: I can't see you</p> <p>第13 回 Unit 12: I'm Flying!</p> <p>第14 回 Unit 13: Iceberg Right Ahead!</p> <p>第15 回 Unit 14: Iceberg Right Ahead!</p> <p>The pace and range of progress will very much depend on the characteristics of the class.</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	Classroom Contribution 20% Groupwork/Homework 40% Final Test 40%				

授業科目	オーラルコミュニケーションⅣ	担当者	ジェイムズ マレー James Murray
	[履修年次] 2年	授業外対応	授業終了後
	[学期] 後期 [単位] 1	[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is a course for students to improve their basic English listening and speaking skills.</p> <p>【概要】 Class time will be centered on the study and practice of language patterns and functional expressions, information exchange activities, discussion, and listening tasks. Pair practice and oral presentations will be an integral part of class work.</p> <p>【到達目標】 The goal of this class is to help students comprehend and communicate in English freely and confidently.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Miles Craven, <i>Breakthrough Plus 3, 2nd Edition</i>, Macmillan Education (ISBN: 9781380001139)</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 Introduction / Conversation Practice</p> <p>第 2回 Speaking: Talking about Possibilities</p> <p>第 3回 Pronunciation: Linking "Would you" / Listening: Listen for Opinion</p> <p>第 4回 Presentation (1) Preparation</p> <p>第 5回 Presentation (1) / Conversation Practice</p> <p>第 6回 Speaking: Making Deductions</p> <p>第 7回 Pronunciation: Reduced Forms / Listening: Inferring Meaning</p> <p>第 8回 Test (1) / Conversation Practice</p> <p>第 9回 Presentation (2) Preparation</p> <p>第10回 Presentation (2) / Conversation Practice</p> <p>第11回 Speaking: Talking about Key Events from the Past</p> <p>第12回 Pronunciation: Stress and Rhythm / Listening: Listen for Specific Information`</p> <p>第13回 Presentation (3) Preparation</p> <p>第14回 Presentation (3) / Conversation Practice</p> <p>第15回 Test (2) / Conversation Practice</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Class participation 授業での参加の度合 (25%), Presentations 発表 (25%), Tests 試験 (25%), Homework 宿題 (25%)		

授業科目	オーラルコミュニケーションⅣ	担当者	パトリック ゴーラム Patrick Gorham
	[履修年次] 2年	授業外対応	授業終了後
	[学期] 後期 [単位] 1	[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 English II A is a four skills course with an emphasis on speaking and listening. Students will complete information gap, fill in the gap and communication exchange activities. Students will be required to work in pairs and groups and assist each other in learning.</p> <p>【概要】 Students will work have regular homework assignments.</p> <p>【到達目標】 The aim of the course is to develop their overall English abilities.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Smart Choice 2A Third Edition, Ken Wilson, Oxford University Press</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 Class orientation</p> <p>第 2回 Unit 1 How was your vacation?</p> <p>第 3回 Unit 1How was your vacation?</p> <p>第 4回 Unit 1How was your vacation?</p> <p>第 5回 Unit 2 I think it's exciting!</p> <p>第 6回 Unit 2 I think it's exciting!</p> <p>第 7回 Unit 2 I think it's exciting!</p> <p>第 8回 Unit 3 Do it before you're 30!</p> <p>第 9回 Unit 3 Do it before you're 30!</p> <p>第10回 Unit 4 The best place in the world!</p> <p>第11回 Unit 4 The best place in the world!</p> <p>第12回 Unit 5 Where's the party?</p> <p>第13回 Unit 5 Where's the party?</p> <p>第14回 Unit 6 You should try it!</p> <p>第15回 Final Exam</p>		
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法	Final Exam (50%), Speaking test (30%), Quizzes (10%), Attendance (10%)		

授業科目	英語表現法 I	担当者	ジェイムズ マレー James Murray
	[履修年次] 1年	授業外対応	授業終了後
	[学期] 前期 [単位] 1	[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is an English writing course focused on the fundamentals of proper sentence and paragraph structure.</p> <p>【概要】 Lectures will teach students grammar rules and style choices to help develop skills in organizing and expressing their ideas. Students will work in pairs and groups to brainstorm topics and details to write about. They will work individually on writing drafts of compositions. They will receive corrections and editing advice in class to help give them a better sense of natural and effective paragraph construction.</p> <p>【到達目標】 The aim of this course is to organize ideas, and to express them through writing in sentences and paragraphs of natural English.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Curtis Kelly, Arlen Gargagliano 「Writing from Within Level 1」 (2nd Edition) 2011 (ISBN: 9780521188272) (2)		
授業スケジュール	第 1 回 Introduction / Writing Practice 第 2 回 Unit 1: Main Ideas / General and Specific Information 第 3 回 Unit 1: Topic Sentences 第 4 回 Unit 2: Organizing Ideas 第 5 回 Unit 2: Inference Sentences 第 6 回 Unit 3: Facts and Examples in Paragraphs 第 7 回 Unit 3: Supporting Sentences / Direct and Indirect Speech 第 8 回 Unit 4: Descriptive Paragraphs 第 9 回 Unit 4: Getting Reader's Attention / Pronouns to Avoid Repetition 第 10 回 Unit 5: Topic Sentences 第 11 回 Unit 5: Organizing Information 第 12 回 Unit 6: Plans and Instructions 第 13 回 Unit 6: Using "so", "that", and "to" 第 14 回 Unit 1-6 Review / Final Writing Assignment 第 15 回 Final Writing Assignment		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Weekly Homework 宿題 90%, Class Participation 授業での参加の度合 10%		

授業科目	英語表現法 I	担当者	パトリック ゴーラム Patrick Gorham
	[履修年次] 1年	授業外対応	授業終了後
	[学期] 前期 [単位] 1	[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course is an elementary writing course for writing paragraphs. Students will be required to recognize and write topic, supporting and concluding sentences. Students must work through grammatical exercises to enable them to complete the required writing assignments. There will be weekly class assignments in addition to in class compositions.</p> <p>【概要】 Students will examine different paragraph samples and will then write their own paragraphs using the points studied in the textbook.</p> <p>【到達目標】 The aim of the course is to develop writing skills above the sentences level.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Effective Academic Writing 1 (The Paragraph) Second Edition by Savage and Shafei, Publisher Oxford University Express (2)		
授業スケジュール	第 1 回 Class Orientation 第 2 回 Unit 1, The Sentence and the Paragraph 第 3 回 Unit 1, The Sentence and the Paragraph 第 4 回 Unit 1, The Sentence and the Paragraph 第 5 回 Unit 2, Descriptive Paragraph 第 6 回 Unit 2, Descriptive Paragraph 第 7 回 Unit 2, Descriptive Paragraph 第 8 回 Descriptive paragraph in-class writing assignment 1 st draft 第 9 回 Descriptive paragraph in-class writing assignment 2nd draft 第 10 回 Unit 3, Example paragraph 第 11 回 Unit 3, Example paragraph 第 12 回 Unit 3, Example paragraph 第 13 回 Unit 3, Example paragraph 第 14 回 Example paragraph in-class assignment 1 st draft 第 15 回 Example paragraph in-class assignment 2nd draft		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Student essays 80%, freewriting 10%, attendance 10%		

授業科目	英語表現法Ⅱ	担当者	ジェイムズ マレー James Murray
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式	授業外対応	授業終了後
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is an English writing course focused on the fundamentals of proper sentence and paragraph structure.</p> <p>【概要】 Lectures will teach students grammar rules and style choices to help develop skills in organizing and expressing their ideas. Students will work in pairs and groups to brainstorm topics and details to write about. They will work individually on writing drafts of compositions. They will receive corrections and editing advice in class to help give them a better sense of natural and effective paragraph construction.</p> <p>【到達目標】 The aim of this course is to organize ideas, and to express them through writing in sentences and paragraphs of natural English.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Curtis Kelly, Arlen Gargagliano 「Writing from Within Level 1」 (2nd Edition) 2011 (ISBN: 9780521188272)</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 Introduction / Writing Practice 第 2 回 Unit 7: Time Markers: "before", "while" and "after" / Giving Reasons 第 3 回 Unit 7: Thank You Notes / Concluding Paragraphs / Use of Commas 第 4 回 Unit 8: Compare and Contrast Paragraphs 第 5 回 Unit 8: Using Pronouns 第 6 回 Unit 9: Persuasive Paragraphs / Sentence Transitions 第 7 回 Unit 9: Supporting Sentences 第 8 回 Unit 10: Using Examples 第 9 回 Unit 10: Writing About Wishes / "If I could __ , I would __ ." 第 10 回 Unit 11: Attention-Getters 第 11 回 Unit 11: Using Persuasive Language 第 12 回 Unit 12: Writing Explanations / Conclusions 第 13 回 Unit 12: Writing Cards / Word Choice 第 14 回 Unit 7-12 Review / Final Writing Assignment 第 15 回 Final Writing Assignment</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Weekly Homework 宿題 90%, Class Participation 授業での参加の度合 10%		

授業科目	英語表現法Ⅱ	担当者	パトリック ゴーラム Patrick Gorham
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習方式	授業外対応	授業終了後
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This course is a continuation of the first semester course. It will cover paragraph writing in the form of process, opinion and narrative paragraphs. Students will learn the rhetorical modes which accompany each form of writing style. Students will be required to recognize various grammatical points and complete grammatical exercises. There will be weekly writing assignments and three in-class compositions.</p> <p>【概要】 Students will examine different paragraph samples and will then write their own paragraphs using the points studied in the textbook.</p> <p>【到達目標】 The aim of the course is to develop writing skills above the sentences level.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Effective Academic Writing 1 (The Paragraph) Second Edition by Savage and Shafei, Publisher Oxford University Express</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 Unit 4, Process paragraph 第 2 回 Unit 4, Process paragraph 第 3 回 Unit 4, Process paragraph 第 4 回 Process paragraph in-class writing assignment 1st draft 第 5 回 Process paragraph in-class writing assignment 2nd draft 第 6 回 Unit 5, Opinion paragraph 第 7 回 Unit 5, Opinion paragraph 第 8 回 Unit 5, Opinion paragraph 第 9 回 Opinion paragraph in-class writing assignment 1st draft 第 10 回 Opinion paragraph in-class writing assignment 2nd draft 第 11 回 Unit 6, Narrative paragraph 第 12 回 Unit 6, Narrative paragraph 第 13 回 Unit 6, Narrative paragraph 第 14 回 Narrative paragraph in-class writing assignment 1st draft 第 15 回 Narrative paragraph in-class writing assignment 2nd draft</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Student essays 75%, freewriting 10% and attendance 10%		

授業科目	英語表現法Ⅲ	担当者	ジェイムズ マレー James Murray		
	[履修年次] 2年	授業外対応	授業終了後		
	[学期] 前期 [単位] 1	[必修/選択]	必修	[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is an English writing course focused on the fundamentals of proper sentence and paragraph structure.</p> <p>【概要】 Lectures will teach students grammar rules and style choices to help develop skills in organizing and expressing their ideas. Students will work in pairs and groups to brainstorm topics and details to write about. They will work individually on writing drafts of compositions. They will receive corrections and editing advice in class to help give them a better sense of natural and effective paragraph construction.</p> <p>【到達目標】 The aim of this course is to organize ideas, and to express them through writing in sentences and paragraphs of natural English.</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Curtis Kelly, Arlen Gargagliano 「Writing from Within Level 2」 (2nd Edition) 2011 (ISBN: 9780521188340) (2)				
授業スケジュール	第 1回 Introduction / Writing Practice 第 2回 Unit 1: "About Me" Expository Paragraphs 第 3回 Unit 1: Topic Sentences / Paragraph Format 第 4回 Unit 2: "Career Consultant" Supporting Logical Conclusions 第 5回 Unit 2: Conjunctions / Email requesting information 第 6回 Unit 3: "Dream Come True" Supporting Sentences 第 7回 Unit 3: Direct and Indirect Speech / Resumes, CVs 第 8回 Unit 4: "Invent" Definition Paragraphs 第 9回 Unit 4: Avoiding Repetition / Emailing Companies about a Product 第 10回 Unit 5: "Changed My Life" Cause and Effect Paragraphs 第 11回 Unit 5: Introductory Paragraphs / Greeting Cards 第 12回 Unit 6: Process Paragraphs 第 13回 Unit 6: Using Modifiers / Organizing Lists 第 14回 Unit 1-6 Review / Final Writing Assignment 第 15回 Final Writing Assignment				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	Weekly Homework 宿題 90%, Class Participation 授業での参加の度合 10%				

授業科目	英語表現法Ⅲ	担当者	パトリック ゴーラム Patrick Gorham		
	[履修年次] 2年	授業外対応	授業終了後		
	[学期] 前期 [単位] 1	[必修/選択]	必修	[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Eigo Hyogen Ho III is a course designed for students to expand on their writing from Eigo Hyogen Ho II. Students will concentrate on building vocabulary and developing reading and writing skills needed in academic contexts. The reading and writing are similar to what students will encounter on TOEFL or IELTS exams. Sample essays will help students develop their own written essays.</p> <p>【概要】 Students will have regular homework assignments</p> <p>【到達目標】 Students will learn to grasp academic English.</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Academic Reading and Writing 2, Publisher ABAX ELT PUBLISHERS, Authors: Alistair Graham·Marr & Mark Rossiter (2)				
授業スケジュール	第 1回 5 Paragraph Essay 第 2回 Planning Your Writing 第 3回 Planning Your Paragraph 第 4回 Main Ideas and Details 第 5回 Introductory Paragraph 第 6回 Paragraph Styles: Details and Main Ideas 第 7回 Writing Conclusions 第 8回 Introduction, Main Ideas & Conclusions 第 9回 Plan Your Paragraph 第 10回 Tradition 第 11回 Plan Your Paragraph 第 12回 To be determined 第 13回 To be determined 第 14回 To be determined 第 15回 To be determined				
授業外学習(予習・復習)	Students will complete regular exercises at home to discuss in the following lesson.				
成績評価の方法	Class Participation, Attendance, Completion of Assignments				

授業科目	英語コミュニケーション演習Ⅲ	担当者	石井 英里子
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	オフィスアワーおよびGoogle Classroom
		[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 異文化コミュニケーションの理論と実践, CLIL (Content and Language Integrated Learning)</p> <p>【概要】 コミュニケーション概論, 英語コミュニケーション演習Ⅱで学習したことをさらに深めるため, テーマに関連する様々なトピックを扱いながら, 多様な領域統合型の言語活動を実践し英語運用能力を高めます。本授業の使用言語は英語です。</p> <p>【到達目標】(1)トピックに関する英語で書かれた資料から, 必要な情報を読み取ることができる。(2)英語で書かれた資料を読んで, その概要や要点を書いてまとめることができる。(3)トピックに関して簡単な英語を用いて情報や意見を交換することができる。(4)まとまりのある英語の文章で具体的に説明するとともに, 自分の意見やその理由を加えて書いたり, 口頭で説明したりすることができる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント配布, 初回で指示する。</p> <p>(2) Cushner, K. & Brislin, W. R. (1996). <i>Intercultural interactions: A practical guide</i>. Sage Publications.</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 Course Introduction (授業の進め方と課題の取り組み方の説明, 初回アンケート)</p> <p>第 2回 演習 1</p> <p>第 3回 演習 2</p> <p>第 4回 演習 3</p> <p>第 5回 演習 4</p> <p>第 6回 演習 5</p> <p>第 7回 演習 6</p> <p>第 8回 演習 7</p> <p>第 9回 演習 8</p> <p>第 10回 演習 9</p> <p>第 11回 演習 10</p> <p>第 12回 演習 11</p> <p>第 13回 演習 12</p> <p>第 14回 Final Presentation (1)</p> <p>第 15回 Final Presentation (2)</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習(発表準備含む) 2時間以上必要である。		
成績評価の方法	プレゼンテーション 30% Final Presentation 30% 期末レポート 40%で評価する。		

授業科目	コミュニケーション概論	担当者	石井 英里子
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	オフィスアワーおよびGoogle Classroom
		[必修/選択] 必修(注)	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 英語で学ぶ異文化コミュニケーション入門, CLIL (Content and Language Integrated Learning)</p> <p>【概要】 この授業は, 領域統合型の言語活動を実践する授業です。テーマに関連する様々なトピックを扱いながら, 多様な領域統合型の言語活動を実践し英語運用能力を高めます。本授業の使用言語は英語です。</p> <p>【到達目標】(1)英語で書かれた資料から, 必要な情報を読み取ることができる。(2)英語の説明を聞いて, 概要や要点を理解することができる。(3)トピックに関して簡単な英語を用いて情報や意見を交換することができる。(4)まとまりのある英語の文章で具体的に説明するとともに, 自分の意見やその理由を加えて書いたり, 口頭で説明したりすることができる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Vincent, P. (2017). <i>Speaking of intercultural communication</i>. Nan'ur-do.</p> <p>(2) Stringer M. D. & Cassidy, A. P. (2009). <i>52 activities for improving cross-cultural communication</i>. Intercultural Press.</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 Course Introduction (授業の進め方と課題の取り組み方の説明, 初回アンケート)</p> <p>第 2回 Communication</p> <p>第 3回 Culture</p> <p>第 4回 Nonverbal Communication</p> <p>第 5回 Communicating Clearly</p> <p>第 6回 Culture and Values</p> <p>第 7回 Culture and Perception</p> <p>第 8回 Diversity</p> <p>第 9回 Stereotypes</p> <p>第 10回 Culture Shock</p> <p>第 11回 Culture and Change</p> <p>第 12回 Talking about Japan</p> <p>第 13回 Becoming a Global Person</p> <p>第 14回 Final Presentation (1)</p> <p>第 15回 Final Presentation (2)</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習(発表準備含む) 2時間以上必要である。		
成績評価の方法	毎回の授業でのプレゼンテーション 30% Final Presentation 30% レポート課題 40%で評価する。		

(注) 教職必修

授業科目	英語学概論		担当者	遠峯 伸一郎
	[履修年次]	1年	授業外対応	講義前後に適宜対応
	[学期]	後期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	必修
			[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語学諸分野の概説</p> <p>【概要】英語を分析の題材にして、音声学・音韻論、形態論、意味論、統語論の各分野を概観する。</p> <p>【到達目標】音声学・音韻論、形態論、統語論、意味論について基礎的な知識を習得する。習得した知識を応用して、英語の例を分析できるようになる。</p>			
(1)テキスト	(1) なし。			
(2)参考文献	(2) 大名力 (2014) 『英語の文字・綴り・発音のしくみ』 研究社、東京。その他随時紹介する。			
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス、英語学とは何か</p> <p>第 2回 音声学・音韻論(1) 英語の母音・子音</p> <p>第 3回 音声学・音韻論(2) 音素と異音、綴りと発音の対応</p> <p>第 4回 音声学・音韻論(3) 英語のアクセントとイントネーション</p> <p>第 5回 音声学・音韻論(4) 英語の音変化と音脱落</p> <p>第 6回 形態論(1) 派生、屈折</p> <p>第 7回 形態論(2) 複合語</p> <p>第 8回 形態論(3) 転換、その他の語形成過程</p> <p>第 9回 統語論(1) 句や文の組み立てに見る規則性</p> <p>第 10回 統語論(2) 句構造規則</p> <p>第 11回 統語論(3) 動詞を中心とする構文 時制、相、態</p> <p>第 12回 統語論(4) 冠詞・名詞を中心とする構文</p> <p>第 13回 意味論(1) 上位語・下位語、同義・類義・反義</p> <p>第 14回 意味論(2) 比喩</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習 1 時間以上、復習 3 時間以上必要である。			
成績評価の方法	試験 (40%) + 小テスト (40%) + 授業内活動への積極的な参加 (20%)			

(注) 教職必修

授業科目	英文法		担当者	遠峯 伸一郎
	[履修年次]	1年	授業外対応	講義前後に適宜対応
	[学期]	前期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英文法 (文法化されている意味とその形態的・統語的具現)</p> <p>【概要】時制、相、態、助動詞、準動詞、名詞・冠詞、複文、前置詞について基本的な事項を学ぶ。</p> <p>【到達目標】英語の文法の基礎を理解する。具体的には、中・高等学校で学んだ文法事項を再確認し理解を正確にする。その後、中・高等学校で学んだ文法事項の正確な理解を基盤として、発展的な事項を理解する。</p>			
(1)テキスト	(1) Murphy, R. (著) 渡辺雅仁・田島祐規子・ドナルドソン友美 (訳) (2021) 『マーフィーのケンブリッジ英文法初級編 第4版』, ケンブリッジ大学出版局, シンガポール。			
(2)参考文献	(2) 久野暲・高見健一, 『謎解きの英文法』 シリーズ, くろしお出版, 東京。その他の参考文献は随時紹介する。			
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス、時制と相 (1) 現在形と現在進行形</p> <p>第 2回 時制と相 (2) 過去形と現在完了形</p> <p>第 3回 時制と相 (3) 未来の表現</p> <p>第 4回 受動態</p> <p>第 5回 法助動詞 (1)</p> <p>第 6回 法助動詞 (2)</p> <p>第 7回 動名詞と to 不定詞 (1)</p> <p>第 8回 動名詞と to 不定詞 (2)</p> <p>第 9回 名詞と冠詞 (1)</p> <p>第 10回 名詞と冠詞 (2)</p> <p>第 11回 接続詞と節 (1)</p> <p>第 12回 接続詞と節 (2)</p> <p>第 13回 前置詞 (1)</p> <p>第 14回 前置詞 (2)</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習 2 時間以上、復習 2 時間以上必要である。			
成績評価の方法	試験 (40%) + 小テスト (50%) + 授業内活動への積極的な参加 (10%)			

授業科目	英語史	担当者	遠峯 伸一郎
	[履修年次] 2年	授業外対応	講義前後に適宜対応
	[学期] 後期 [単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語の誕生から英語が世界共通語となった現代までの英語の歩んだ歴史を外面史（英語が使われる社会の歴史）と内面史（英語という言語の通時的変化）の観点から学ぶ。</p> <p>【概要】現代英語には英語の歩んで来た歴史が反映している。例えば、英語にはいわゆる不規則動詞が存在するが、なぜ存在するのかを理解するためには英語の歴史を学ぶ必要がある。本講義では、このような英語自体の性質について歴史的側面からアプローチする。加えて、英語がどのような経緯で現代世界の共通語になったのか概略し、世界語としての英語が持つ特徴について触れる。</p> <p>【到達目標】英語の音声、文字、語彙、文法の歴史的変遷について基礎的な知識を持っている。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし。</p> <p>(2) 寺澤盾 (2013) 『聖書でたどる英語の歴史』大修館書店, 東京。堀田隆一 (2014) 『英語史で解きほぐす英語の誤解』中央大学出版部, 東京。井口篤, 寺澤盾 (2013) 『英語の軌跡をたどる旅』放送大学教育振興会, 東京。ブラッグ, メルヴィン (2008) 『英語の冒険』講談社, 東京。その他随時紹介する。Bragg, Melvyn. (2002) The Adventure of English. (DVD)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス</p> <p>第 2回 英語の始まり</p> <p>第 3回 インド・ヨーロッパ祖語</p> <p>第 4回 英語のアルファベット</p> <p>第 5回 古英語の特徴</p> <p>第 6回 ヴァイキングの侵攻と英語</p> <p>第 7回 ノルマン征服と中英語</p> <p>第 8回 初期近代英語 ルネッサンス、シェイクスピアと英語</p> <p>第 9回 中英語・初期近代英語を読む</p> <p>第 10回 海外に広がった英語 アメリカ英語</p> <p>第 11回 アジア諸国における英語</p> <p>第 12回 ピジンとクレオール</p> <p>第 13回 現代イギリス英語に見られる変化</p> <p>第 14回 現代アメリカ英語に見られる変化</p> <p>第 15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習 1時間以上, 復習 3時間以上必要である。		
成績評価の方法	試験 (70%) + 授業内活動への積極的参加 (30%)		

(注) 教職必修

授業科目	英語音声学	担当者	遠峯 伸一郎
	[履修年次] 1年	授業外対応	講義前後に適宜対応
	[学期] 後期 [単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語の音声の仕組み</p> <p>【概要】日本語の音声との相違に注意を向けながら、英語の音声の仕組みを学習する。まず、英語の分節音の調音方法を学習する。その後、超分節音素（ストレス、ピッチ、接続）を概略する。授業では、講義に加えてCALL機器を利用した練習を行い、英語の発音技能を高める。また、日本人学習者に対する効果的な指導方法を討議するためにグループワークも行う。</p> <p>【到達目標】英語の音声の仕組みを理解し、実践できる。加えて、日本語の音の仕組みと英語のそれがどのように異なるのか理解している。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 杉森幹彦ほか (2012) 『英語音声の基礎と聴解トレーニング』金星堂, 東京。</p> <p>(2) キャットフォード, J. C., 竹林滋・設楽優子・内田洋子 (訳) (2006) 『実践音声学入門』大修館書店, 東京。今井, ジュミック (2012) 『<フォニックス>できれいな英語の発音がおもしろいほど身につく本』明日香出版社, 東京。その他随時紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス</p> <p>第 2回 紛らわしい母音 (1) ア, イ, ウと聞こえる音を区別する</p> <p>第 3回 紛らわしい母音 (2) エ, オと聞こえる音を区別する</p> <p>第 4回 紛らわしい子音 (1) 日本語にない子音の発音方法</p> <p>第 5回 紛らわしい子音 (2) 摩擦音, 鼻音, 閉鎖音</p> <p>第 6回 紛らわしい子音 (3) 破擦音, 側音, 半母音</p> <p>第 7回 英語のアクセント 複合語と句のアクセントの違い</p> <p>第 8回 英語のリズム 文強勢</p> <p>第 9回 連結</p> <p>第 10回 同化</p> <p>第 11回 脱落</p> <p>第 12回 英語のイントネーション イントネーションの基本パターン</p> <p>第 13回 World Englishes</p> <p>第 14回 数の読み方</p> <p>第 15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習 1時間以上, 復習 3時間以上必要である。		
成績評価の方法	試験 (40%) + 小テスト (実技課題を含む) (40%) + 授業内活動への積極的な参加 (20%)		

授業科目	英語学演習	担当者	遠峯 伸一郎
	[履修年次] 2年	授業外対応	講義前後に適宜対応
	[学期] 前期 [単位] 1単位	[必修/選択]	選択必修 [授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】推理小説を英語で読みながら、高校までの英語学習では扱われない構文を学ぶ。卒業研究のテーマを絞る。</p> <p>【概要】「基礎演習Ⅰ」に引き続き、アガサ・クリスティの Murder on the Orient Express を読む。並行して、プレゼンテーションと個別指導を通して卒業研究のテーマを決定する。</p> <p>【到達目標】文の単位を越えた情報の新旧、重要性によって決定される語順配置を見せる構文について理解を深める。卒業研究のテーマを決定する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Christie, Agatha (1934, 2017) Murder on the Orient Express, HarperCollins.</p> <p>(2) 随時紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 Part 2, 第1章を読む</p> <p>第3回 Part 2, 第2章を読む</p> <p>第4回 Part 2, 第3章を読む</p> <p>第5回 卒業研究のテーマについてのプレゼンテーション (1)</p> <p>第6回 Part 2, 第4章を読む</p> <p>第7回 Part 2, 第5章を読む</p> <p>第8回 卒業研究のテーマについての個別指導 (1)</p> <p>第9回 卒業研究のテーマについてのプレゼンテーション (2)</p> <p>第10回 卒業研究のテーマについての個別指導 (2)</p> <p>第11回 Part 2, 第6章を読む</p> <p>第12回 Part 2, 第7章を読む</p> <p>第13回 Part 2, 第8章を読む</p> <p>第14回 Part 2, 第9章を読む</p> <p>第15回 卒業研究のテーマについてのプレゼンテーション (3)</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習2時間, 復習3時間以上必要である。		
成績評価の方法	授業への取り組み (70%) + レポートとプレゼンテーション (30%)		

授業科目	英語学演習	担当者	石井 英里子
	[履修年次] 2年	授業外対応	オフィスアワーおよび Google Classroom
	[学期] 後期 [単位] 1	[必修/選択]	選択必修 [授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】異文化コミュニケーション, 英語教育学に関する研究の課題と方法</p> <p>【概要】異文化コミュニケーション, 英語教育学に関するテーマについて研究する。</p> <p>【到達目標】①他のゼミ生と協力して課題を遂行できる。②聞き手にわかりやすく英語で発表することができる。③異文化コミュニケーション, 英語教育学に関する研究の課題と方法について理解する。④先行研究や他者の研究を批判的に理解したり, 建設的な意見を述べたりすることができるようになる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 浦野研・亘陽一・田中武夫・藤田卓郎・高木亜希子・酒井英樹 (2016) 『はじめての英語教育研究 ― 押さえておきたいコツとポイント』 研究社</p> <p>佐野正之 (2000) 『アクション・リサーチのすすめ ― 新しい英語授業研究』 大修館書店</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ゼミの進め方についてのガイダンス, 研究テーマと研究構想についての報告</p> <p>第2回 研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 1</p> <p>第3回 研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 2</p> <p>第4回 研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 3</p> <p>第5回 研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 4</p> <p>第6回 研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 5</p> <p>第7回 研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 6</p> <p>第8回 研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 7</p> <p>第9回 研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 8</p> <p>第10回 研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 9</p> <p>第11回 研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 10</p> <p>第12回 研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 11</p> <p>第13回 研究テーマと研究構想についての報告とアクション・リサーチ 12</p> <p>第14回 中間発表 1</p> <p>第15回 中間発表 2</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習が3時間以上, 復習が3時間以上必要である。		
成績評価の方法	報告とディスカッション 30% 中間発表 30% レポート 40%で評価する。		

授業科目	英文学概論		担当者	轟 義昭				
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応				
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2	〔必修/選択〕	選択(注)	〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「劇」「散文」「小説」の作品を読み、作品に潜む問題点を考える能力(探求能力)を身に付ける</p> <p>【概要】「劇」「散文」「小説」のジャンルから作品を取り上げて鑑賞し、作品の問題点を探求します。問題点の探求においては、グループ活動をおして受講生とのディスカッションを取り入れ、他の学生の見解や思考を共有しながら作品の理解に努めます(受講生は発言が求められるので、前もってテキストをしっかりと読んでおく必要があります)。</p> <p>【到達目標】イギリス文学の「劇」「散文」「小説」に関する作品を鑑賞して5つの作品を理解する。また、作品に潜む問題点を探求しながら、多様な文化的・歴史的・社会的背景を理解する。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) W.シェイクスピア作 小田島雄志訳 『リア王』 白水Uブックス C.ディケンズ作 村岡花子訳 『クリスマス・キャロル』 新潮文庫 エミリー・ブロンテ作 鴻巣友季子訳 『嵐が丘』 新潮文庫</p> <p>(2) 高橋源次『英文学概論』(南雲堂), 高柳俊一・中野記偉『英文学の世界』(大修館書店)</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション、「英語文学の学習とは何か」についての考察</p> <p>第2回 『アーサー王物語』に関する考察(1):アーサー王伝説の映像鑑賞+映像のまとめ</p> <p>第3回 『アーサー王物語』に関する考察(2):大衆文化のなかで生き続けるアーサー王伝説</p> <p>第4回 『アーサー王物語』に関する考察(3):作品研究(物語内容の比較研究)</p> <p>第5回 シェイクスピア『リア王』に関する考察(1):悲劇の原因の探究</p> <p>第6回 シェイクスピア『リア王』に関する考察(2):道化の役割(嵐の場面,途中で退場し出場しなくなる理由)</p> <p>第7回 シェイクスピア『リア王』に関する考察(3):コーディリアの死の役割と意味</p> <p>第8回 スイフト『ガリヴァー旅行記』に関する考察(1):映像鑑賞+映像のまとめ</p> <p>第9回 スイフト『ガリヴァー旅行記』に関する考察(2):作品研究(子供が読む作品と大人が読む作品)</p> <p>第10回 ディケンズ『クリスマス・キャロル』に関する考察(1):アニメ映画と原作(作品の魅力と作者の主張)</p> <p>第11回 ディケンズ『クリスマス・キャロル』に関する考察(2):作品研究(19世紀イギリスの社会的背景)</p> <p>第12回 エミリー・ブロンテ『嵐が丘』に関する考察(1):ワイラー監督の映画『嵐が丘』(1939)と原作</p> <p>第13回 エミリー・ブロンテ『嵐が丘』に関する考察(2):榎太郎演出家による『嵐が丘』(2015)と原作</p> <p>第14回 エミリー・ブロンテ『嵐が丘』に関する考察(3):アダプテーション映画『嵐が丘』の魅力</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	3作品を読んで授業に臨む(予習),授業で学習したことをまとめる(復習)							
成績評価の方法	学習單元ごとの「まとめ」及び予習を含む授業への取り組み(100%)							

(注) 教職必修

授業科目	英文学史		担当者	轟 義昭				
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応				
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2	〔必修/選択〕	必修	〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】18~20世紀の「小説」の流れを概観する</p> <p>【概要】この授業は受け身の授業ではありません。学生間のディスカッションによって発信する能力と問題解決能力を養います。最初に、テキストを用いてグループ内で情報交換しながら各章で取り上げる作家と作品について共有します。次に、担当者が課した各章の問題に対してグループ内でディスカッションしてもらい、その後、検討内容を発表してもらいます。他の学生の見解や思考を共有しながら、担当者の解説(一つの考え方)を聞いて問題点の理解に努めます。</p> <p>【到達目標】18世紀及び19世紀初頭の小説の特徴,19世紀の小説(ビクトリア朝小説)の特徴,20世紀前半の小説の特徴を理解する。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 川崎寿彦著 『イギリス文学史』 成美堂</p> <p>(2) サブテキストは講義中に指定する。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション(講義方式の説明)、「小説の誕生,そして成長」に関わる作者と作品の共有</p> <p>第2回 18世紀の小説(1):小説の誕生とその周辺に関する諸問題(J.バニヤン,D.デフォー,J.スイフト,S.リチャードソン)</p> <p>第3回 18世紀の小説(2):小説の確立におけるH.フィールディング,L.スターン,T.G.スモレットの役割</p> <p>第4回 18世紀の小説(3):18世紀後半のゴシック小説(H.ウォルポール,A.ラドクリフ夫人)</p> <p>第5回 19世紀初頭の小説:小説の成熟に貢献したJ.オースティン</p> <p>第6回 「ヴィクトリア朝の小説」に関わる作者と作品の共有,19世紀ヴィクトリア朝の小説(1):C.ディケンズの役割</p> <p>第7回 19世紀ヴィクトリア朝の小説(2):C.ディケンズの評価</p> <p>第8回 19世紀ヴィクトリア朝の小説(3):ブロンテ姉妹(シャーロット,エミリー,アン)の小説</p> <p>第9回 19世紀ヴィクトリア朝の小説(4):W.M.サッカレーの小説『虚栄の市』,E.ブロンテの小説『嵐が丘』</p> <p>第10回 19世紀後半(ヴィクトリア朝後期)の小説(T.ハーディ),ダーウィニズムの影響</p> <p>第11回 「第二次世界大戦までの小説」に関わる作者と作品の共有,20世紀の小説(1):D.H.ロレンスの小説</p> <p>第12回 20世紀の小説(2):D.H.ロレンスの小説</p> <p>第13回 20世紀の小説(3):V.ウルフの小説</p> <p>第14回 20世紀の小説(4):H.G.ウェルズの小説</p> <p>第15回 20世紀の小説(5):H.ジェームズの小説,E.M.フォスターの小説,まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適時指示							
成績評価の方法	授業への取り組み+学習單元ごとのまとめ(70%),筆記試験(30%)							

授業科目	米文学史		担当者	小林 朋子
	[履修年次] 2年	[学期] 前期	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[単位] 2	[必修/選択]	必修	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】アメリカ文学史から読み解くアメリカ社会・文化の源流</p> <p>【到達目標】アメリカ社会・文化の源流について理解を深める。アメリカ文学の作品を原書で読むことで英語読解力を向上させる。他言語を話す人々の価値観を知る。情報を的確に調査する能力、またそれを発信する自己表現能力を向上させる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 井上謙治著 『An Outline of American Literature アメリカ文学概観』(南雲堂、2004年)</p> <p>(2) 授業で随時紹介します。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクシヨン—ネイティブ・アメリカンの詩</p> <p>第2回 信仰とアメリカ—ピューリタン文学と理性の文学(1)</p> <p>第3回 信仰とアメリカ—ピューリタン文学と理性の文学(2)</p> <p>第4回 「驚異」の世界—ロマン主義の勃興</p> <p>第5回 アメリカン・ルネッサンス—ロマン主義の隆盛(1)</p> <p>第6回 アメリカン・ルネッサンス—ロマン主義の隆盛(2)</p> <p>第7回 「金めつき時代」—リアリズムの勃興</p> <p>第8回 危機と革新—リアリズムの展開</p> <p>第9回 繁栄と解放の文学—ロスト・ジェネレーション</p> <p>第10回 世界へ向けて—モダニズムの文学</p> <p>第11回 戦後文学の出発—第2次世界大戦と冷戦</p> <p>第12回 自我をつくろう—人種系文学(1)</p> <p>第13回 自我をつくろう—人種系文学(2)</p> <p>第14回 自己の探求—ポスト・モダニズムの文学</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	授業への参加態度(40%)、小レポート(20%)、最終レポート(40%)			

授業科目	比較文学		担当者	小林 朋子
	[履修年次] 1年、2年	[学期] 後期	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[単位] 2	[必修/選択]	選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「対話」的文学論で読む世界の文学</p> <p>【概要】現代アメリカを代表する作家トニ・モリスンの『ベラヴド』と、世界各国の様々な時代またジャンルの文学を比較検討することで、人類の文化の全体像にせまる。本講義が基本姿勢としているのは、ロシアの思想家バフチンが述べた「対話」の概念である。あるイデオロギーの存在を認めつつ、それとは対立する別のイデオロギーの存在も容認することを彼は促したが、本講義ではこの「対話」の思想をベースに各国の文学を対等な関係に置いて、その衝突、交流、混合を比較検討する。履修者は授業で紹介するテキストを丁寧に読み、そこから問題点を抽出し、その問題点を別の事象に結びつけることで、大きな視野で物事を理解する比較文学ならではの思考方法を学ぶことになる。</p> <p>【到達目標】比較文学の研究方法を学ぶ。図書の構造的読解力、情報を調査し活用する能力を向上させる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) Toni Morrison <i>Beloved</i> Plume-Penguin Putnam, 1998. 左記以外にも授業で随時紹介します。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 INTRODUCTION: 対話的文学論とは</p> <p>第2回 <i>Beloved</i>と神話批評</p> <p>第3回 <i>Beloved</i>とウィネバゴ・インディアン神話(1)</p> <p>第4回 <i>Beloved</i>とウィネバゴ・インディアン神話(2)</p> <p>第5回 <i>Beloved</i>とヨルバ族神話</p> <p>第6回 大衆文化の中のトリックスター</p> <p>第7回 名称付与とは何か</p> <p>第8回 <i>Beloved</i>と「千と千尋の神隠し」(1)</p> <p>第9回 <i>Beloved</i>と「千と千尋の神隠し」(2)</p> <p>第10回 <i>Beloved</i>と「千と千尋の神隠し」(3)</p> <p>第11回 言語の表象不可能性</p> <p>第12回 <i>Beloved</i>と井上ひさし『父と暮せば』(1)</p> <p>第13回 <i>Beloved</i>と井上ひさし『父と暮せば』(2)</p> <p>第14回 <i>Beloved</i>と井上ひさし『父と暮せば』(3)</p> <p>第15回 レポートのテーマ報告会とまとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	授業への参加態度(10%)、テーマごとに提出する小レポート(30%)、最終レポート(60%)			

授業科目	英米文学講読Ⅰ	担当者	山下 孝子
	〔履修年次〕 1,2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1	授業外対応	質問には講義終了時に対応する。メールでの問い合わせも可。
テーマ及び概要	<p>【テーマ】イギリス名作小説を楽しもう——『フランケンシュタイン』を読む</p> <p>【概要】超自然的小説ジャンルであるゴシック・ロマンスの傑作、メアリ・シェリー作『フランケンシュタイン』を英語で読み解きます。怪物の固定化したイメージが突出して焼きついているのに反して、実際の物語はあまり知られていない作品ですが、原作を丁寧に読み解くことで有名小説をそのまま原文で味わう楽しみを分かちあえればと考えています。</p> <p>授業の展開としては、あらかじめ決めた毎回分のテキスト範囲について、内容の概要を把握する速読と、一部分を細かく読み解く精読を行なっていきます。精読部分についてはあらかじめ次回分の和訳を提出してもらうことで、英文読解スキル向上を図ります。最終的に作品分析を含むレポートを作成し、理解を深めます。</p> <p>【到達目標】英文の内容を正しく理解できる。英語の Paragraph を簡潔に英語で要約できる。英語小説の作品世界を説明できる。物語を支える小説ジャンルを理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2)		
授業スケジュール	第1回 文学におけるゴシック・ロマンスの系譜と作品『フランケンシュタイン』の概説 第2回 『フランケンシュタイン』前書きの書簡、および第1巻第1章の Paragraph 要約、英文和訳 第3回 『フランケンシュタイン』第1巻第2章～4章の Paragraph 要約、英文和訳 第4回 『フランケンシュタイン』第1巻第5章～6章の Paragraph 要約、英文和訳 第5回 『フランケンシュタイン』第1巻第7章～第2巻第1章の Paragraph 要約、英文和訳 第6回 『フランケンシュタイン』第2巻第2章～第3章の Paragraph 要約、英文和訳 第7回 『フランケンシュタイン』第2巻第4章～第5章の Paragraph 要約、英文和訳 第8回 『フランケンシュタイン』第2巻第6章～第7章の Paragraph 要約、英文和訳 第9回 『フランケンシュタイン』第2巻第8章～第9章の Paragraph 要約、英文和訳 第10回 『フランケンシュタイン』第3巻第1章～第2章の Paragraph 要約、英文和訳 第11回 『フランケンシュタイン』第3巻第3章～第4章の Paragraph 要約、英文和訳 第12回 『フランケンシュタイン』第3巻第5章～6章の Paragraph 要約、英文和訳 第13回 『フランケンシュタイン』第3巻第7章、および結びの書簡の Paragraph 要約、英文和訳 第14回 『フランケンシュタイン』におけるゴシック・ロマンス的表現 第15回 理解度チェックとまとめ		
授業外学習(予習・復習)	毎授業前に指示された部分の英語和訳を提出しておくこと。毎授業後に配布される課題で復習しておくこと		
成績評価の方法	レポート (30%)、毎回の和訳課題提出を含む授業への取り組み (40%)、小テスト (30%)		

授業科目	英米文学講読Ⅱ	担当者	山下 孝子
	〔履修年次〕 1,2年 〔学期〕 後期 〔単位〕 1	授業外対応	質問には講義終了時に対応する。メールでの問い合わせも可。
テーマ及び概要	<p>【テーマ】アメリカ名作小説を楽しもう——『グレート・ギャツビー』を読む</p> <p>【概要】1920年代アメリカ文学を代表する作家F. スコット・フィッツジェラルド作『グレート・ギャツビー』は、第一次大戦後のニューヨーク郊外を舞台に、ひたむきな情熱に駆られた青年の夢の羽ばたきと失墜、物質的繁栄に酔った「ジャズ・エイジ」の非情な生態と虚しさを描いた傑作です。その魅力的な文体を原文で味わう楽しみを分かちあえればと考えています。</p> <p>授業の展開としては、あらかじめ決めた毎回分のテキスト範囲について、内容の概要を把握する速読と、一部分を細かく読み解く精読を行なっていきます。精読部分についてはあらかじめ次回分の和訳を提出してもらうことで、英文読解スキル向上を図ります。最終的に作品分析を含むレポートを作成し、理解を深めます。</p> <p>【到達目標】英文の内容を正しく理解できる。英語の Paragraph を簡潔に英語で要約できる。英語小説の作品世界を説明できる。物語を支える小説ジャンルを理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2)		
授業スケジュール	第1回 作品『グレート・ギャツビー』の概説および『グレート・ギャツビー』第1章前半 第2回 『グレート・ギャツビー』第1章後半 第3回 『グレート・ギャツビー』第2章 第4回 『グレート・ギャツビー』第3章 第5回 『グレート・ギャツビー』第4章前半 第6回 『グレート・ギャツビー』第4章後半 第7回 『グレート・ギャツビー』第5章 第8回 『グレート・ギャツビー』第6章 第9回 『グレート・ギャツビー』第7章前半 第10回 『グレート・ギャツビー』第7章後半 第11回 『グレート・ギャツビー』第8章前半 第12回 『グレート・ギャツビー』第8章後半 第13回 『グレート・ギャツビー』第9章前半 第14回 『グレート・ギャツビー』第9章後半 第15回 理解度チェックとまとめ		
授業外学習(予習・復習)	毎授業前に指示された部分の英語和訳を提出しておくこと。毎授業後に配布される課題で復習しておくこと		
成績評価の方法	レポート (30%)、毎回の和訳課題提出を含む授業への取り組み (40%)、小テスト (30%)		

授業科目	英米文学講読Ⅲ		担当者	轟 義昭
	[履修年次]	1, 2年	授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応
	[学期]	前期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】イギリス文学の作品に親しむ</p> <p>【概要】チャールズ・ディケンズの『オリヴァー・トゥイスト』を読みます。授業は速読形式で進めます（テキストを読んで、担当者が用意したプリントに基づいて各章ごとに内容と問題点を確認していきます。少人数であれば、学生中心のゼミ形式で授業を展開します）。作品を読むには記憶力が大事です。物語内容の理解度を確認するために、小テストを実施します。また作品は映画化されているので、プロットと背景が理解できるようにビデオを活用します。</p> <p>【到達目標】文学作品を速読で読む力を養う。作品の内容を考える力を養う。作品全体を通して作者の主張を読み解く力を養う。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Charles Dickens, <i>Oliver Twist</i> (パンギンリーダーズ) 南雲堂フェニックス</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション (授業の進め方の説明), 『オリヴァー・トゥイスト』の映画鑑賞</p> <p>第2回 『オリヴァー・ツイスト』の映画鑑賞 (続き) および作品の確認</p> <p>第3回 テキストを読む: 第1章~第3章。プリント学習: 問題点の確認</p> <p>第4回 第1章~第3章の小テスト。テキストを読む: 第4章。プリント学習: 問題点の確認</p> <p>第5回 テキストを読む: 第5章~第6章。プリント学習: 問題点の確認</p> <p>第6回 第4章~第6章の小テスト。テキストを読む: 第7章。プリント学習: 問題点の確認</p> <p>第7回 テキストを読む: 第8章~第9章。プリント学習: 問題点の確認</p> <p>第8回 第7章~第9章の小テスト。テキストを読む: 第10章~第11章。プリント学習: 問題点の確認</p> <p>第9回 テキストを読む: 第12章~第13章。プリント学習: 問題点の確認</p> <p>第10回 第10章~第13章の小テスト。テキストを読む: 第14章~第15章。プリント学習: 問題点の確認</p> <p>第11回 テキストを読む: 第16章~第17章。プリント学習: 問題点の確認</p> <p>第12回 第14章~第17章の小テスト。テキストを読む: 第18章~第19章。プリント学習: 問題点の確認</p> <p>第13回 テキストを読む: 第20章~第21章。プリント学習: 問題点の確認</p> <p>第14回 第18章~第21章の小テスト</p> <p>第15回 まとめ『オリヴァー・トゥイスト』はどのような作品だったかを考える</p>			
授業外学習(予習・復習)	担当者が用意したプリント (予習), 小テストの準備 (復習)			
成績評価の方法	予習と小テストを含む授業への取り組みと授業での発言内容 (60%), レポート (40%)			

授業科目	英米文学演習		担当者	轟 義昭
	[履修年次]	2年	授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応
	[学期]	前期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択必修
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「アダプテーション理論」の実践と報告および卒論で取り組む土台作り</p> <p>【概要】前半の5回は『クリスマス・キャロル』の小説と映画を用いて学生に「アダプテーション理論」を実践してもらい、結果報告を求めます。次の5回は先輩たちが取り組んだ卒業論文を読んで、「アダプテーション理論」に基づく作成の仕方を学習します。後半の5回は後期の「卒業研究」で取り組みたい題材を見つけて、各自調査を進めてもらいます。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 随時紹介</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション (授業の進め方の説明),</p> <p>第2回 『クリスマス・キャロル』の小説と映画: 「アダプテーション理論」の実践 (1)</p> <p>第3回 『クリスマス・キャロル』の小説と映画: 「アダプテーション理論」の実践 (2)</p> <p>第4回 『クリスマス・キャロル』の小説と映画: 「アダプテーション理論」の実践 (3)</p> <p>第5回 『クリスマス・キャロル』の小説と映画: 「アダプテーション理論」の実践 (4)</p> <p>第6回 取り組みの実践報告</p> <p>第7回 先輩たちの卒業論文を読む: 「アダプテーション理論」の学習 (1)</p> <p>第8回 先輩たちの卒業論文を読む: 「アダプテーション理論」の学習 (2)</p> <p>第9回 先輩たちの卒業論文を読む: 「アダプテーション理論」の学習 (3)</p> <p>第10回 先輩たちの卒業論文を読む: 「アダプテーション理論」の学習 (4)</p> <p>第11回 報告 (先輩たちの卒業論文から学んだこと)</p> <p>第12回 卒論の取り組み: 各自の調査 (1)</p> <p>第13回 卒論の取り組み: 各自の調査 (2)</p> <p>第14回 卒論の取り組み: 各自の調査 (3)</p> <p>第15回 卒論の取り組み: 各自の調査 (4)</p>			
授業外学習(予習・復習)	実践報告のパワーポイント作り			
成績評価の方法	授業への取り組み (60%), 実践報告 (プレゼンテーション) (40%)			

授業科目	英米文学演習	担当者	ガルシア・アロヨ ホルヘ Jorge García Arroyo
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1	授業外対応	By coming to my office or by email
		〔必修/選択〕	選択必須 〔授業形態〕
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Analysis of Herman Melville's and Ernest Hemingway's main works.</p> <p>【概要】 Through texts taken from Melville's and Hemingway's most important works, we will analyze the vision that these authors had on topics such as slavery, imperialism, war, religion and other cultural issues, etc. in relation to the United States. In addition we will also study how these authors related the United States with Europe (especially the case of Spain).</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) All materials will be provided by the teacher (2)		
授業スケジュール	<p>第 1 回 Introduction to the course (discussion and debate hints).</p> <p>第 2 回 Brief introduction to 19th Century American Literature. Who was this guy? Herman Melville's brief biographical notes.</p> <p>第 3 回 TEXT 1 (imperialism). Selection of brief texts from <i>Moby-Dick; or, the Whale</i>, and "Benito Cereno". Reading of the texts.</p> <p>第 4 回 TEXT 1. Discussion: Melville's vision on imperialism (in relation with Europe. The Spanish case).</p> <p>第 5 回 TEXT 2 (slavery). Selection of some texts from "Benito Cereno" and <i>Typee</i>. Reading of the texts.</p> <p>第 6 回 TEXT 2. Discussion: Melville and the slavery problem (in relation to the Spanish slavery system).</p> <p>第 7 回 TEXT 3 (religion). Selection of brief texts from <i>Pierre; or, the Ambiguities; Moby-Dick; or, the Whale</i> ("The Town-Ho's Story") and "Benito Cereno". Reading of the texts.</p> <p>第 8 回 TEXT 3. Discussion: Melville and religion (The Spanish Auto-da-fe).</p> <p>第 9 回 Melville's review and final discussion (conclusion).</p> <p>第10 回 Brief introduction to 20th century American literature. Who is this guy? Ernest Hemingway's brief biographical notes.</p> <p>第11 回 TEXT 4 (The new women). Text from <i>The Sun also Rises</i>. Reading of the text.</p> <p>第12 回 TEXT 4. Discussion: Hemingway, new women and Spanish "Fiesta".</p> <p>第13 回 TEXT 5 (war). Selection of brief texts from <i>Death in the Afternoon</i> and <i>For Whom the Bell Tolls</i>. Reading of the texts.</p> <p>第14 回 TEXT 5. Discussion: Hemingway's vision on war and death (the corridas and The Spanish Civil War, 1936-1939).</p> <p>第15 回 Hemingway final discussion (conclusion). Course review.</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Class participation (40%); Final presentation (60%)		
実務経験について	I am specialized in 19 th and 20 th centuries American literature		

授業科目	比較文化	担当者	小林 朋子
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2	授業外対応	適宜対応 (要予約)
		〔必修/選択〕	選択 〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 異文化理解・異文化コミュニケーション・異文化交流とは何か。</p> <p>【概要】 今日のグローバル化社会では、毎日の生活で異なる文化を持つ人々とのコミュニケーションが増加している。また、「異文化」とは国境を越える出会いを背景とした文化であるというステレオタイプを取り払えば、異質な他者との出会いも私たちの日常にあふれている。本講義では、そうした他者とのような〈関係性=コミュニケーション〉を構築していくべきなのか、様々な観点から学んでいく。講義総盤では外国人との交流の時間を設ける。受講者はこの「異文化交流会」に向けて、主体的に考えながら講義を受ける必要がある。</p> <p>【到達目標】・広い視野から異文化を正しく理解した上で、他言語を話す人々の価値観を知り、適切にコミュニケーションを行うことができる。・異文化交流の意義について体験的に理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 伊佐雅子監修『多文化社会と異文化コミュニケーション』(三修社刊、2007年) (2) 池田理知子編著『よくわかる異文化コミュニケーション』(ミネルヴァ書房、2010年)他。(授業で随時紹介します)		
授業スケジュール	<p>第 1 回 異文化コミュニケーションを学ぶことの意義：文化・異文化とは何か</p> <p>第 2 回 グローバル社会と異文化コミュニケーション (1)：グローバル化の意味</p> <p>第 3 回 グローバル社会と異文化コミュニケーション (2)：異文化交流の歴史と異文化への根差し</p> <p>第 4 回 空間、時間、異文化コミュニケーション：さまざまな意味をもつ空間と時間</p> <p>第 5 回 「地球都市の出現とコミュニケーション」：都市化する世界</p> <p>第 6 回 女性と異文化適応：異文化適応におけるジェンダー</p> <p>第 7 回 異文化コミュニケーションと誤解の接点：誤解という身近なできごと</p> <p>第 8 回 異文化コミュニケーションにおける言語選択：「英語の普及」をどう捉えるか</p> <p>第 9 回 異文化コミュニケーションとしての通訳者 (1)：通訳の種類、通訳の歴史</p> <p>第10 回 異文化コミュニケーションとしての通訳者 (2)：通訳は言葉の置き換え作業？</p> <p>第11 回 異文化交流会準備 (1)：異文化接触とは「よそ者」と異文化適応</p> <p>第12 回 異文化交流会準備 (2)：グローバル化とアイデンティティ-自分のことば、他者のことば</p> <p>第13 回 異文化交流会準備 (3)：異文化コミュニケーションとは</p> <p>第14 回 異文化交流会：異文化コミュニケーションの実践</p> <p>第15 回 異文化交流会まとめ：新しい「異文化コミュニケーション」に向けて</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	授業への参加態度 (40%)、小レポート (異文化交流会前の準備レポートを含む) (20%)、最終レポート (40%)		

(注) 教職必修

授業科目	イギリス事情	担当者	ジョン トレマーコ John Tremarco		
	[履修年次] 2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)		
	[学期] 後期 [単位] 2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 British Culture, Modern and Traditional</p> <p>【概要】 This course will introduce the students to British cultural and social issues. The students will be encouraged to acquire a deep understanding of cross cultural communication that will enable them to understand the nature of cultural diversity. Learning Strategies and Active Learning will be encouraged so that they will be able to use/pass this knowledge on in their chosen professions and/or foreign language classes in Junior and Senior high schools. The aim of the course is to give the students the skills needed to be able to make a presentation at the end of the course that will show that they have acquired an understanding of a particular facet of British society. The course will be project-based. The theme of the project will be decided upon by the students; it will be chosen according to the aptitude, skill-level and number of students on the course. The students will study the social and cultural norms of British society, both present and past. The themes available will include, but are not limited to: Music (classical and modern), Education, Food and Current Issues. Any chosen project will include a comparative cultural component.</p> <p>【到達目標】 The main emphasis will be on speaking and listening with a view to having the students make a presentation at the end of the course.</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) All materials provided by the professor</p> <p>(2) Japanese/English Dictionary, (Use of mobile phones as dictionaries is not permitted.)</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回 Introduction & Orientation: Explanation of course aims, tests, evaluation methods and teacher expectations. コース、授業についての説明</p> <p>第 2回 Choosing the Project theme</p> <p>第 3回 ~ Planning and implementation of Project</p> <p>第 13回</p> <p>第 14回 Final Presentation</p> <p>第 15回 Course Review</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。				
成績評価の方法	グループワークの点数と課題 40%+最終テスト 60%の合計				

授業科目	アメリカ事情	担当者	ガルシア・アロヨ ホルヘ Jorge García Arroyo		
	[履修年次] 2年	授業外対応	By coming to my office or by email.		
	[学期] 後期 [単位] 2	[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 American History: American Cultural History.</p> <p>【概要】 In this course we will see a general view of the major political, social and cultural events of American history. As reinforcement and support to the learning of this subject, the students will discuss about the topics seen in each unit.</p> <p>【到達目標】 The goal of this subject is to provide the students with a general knowledge of American major historical and cultural facts that will help them to understand better the United States of America.</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Materials will be provided by the teacher</p> <p>(2)</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回 Brief explanation about the course. Unit 1. The origin of a nation. The colonial times 1.</p> <p>第 2回 Unit 1. The origin of a nation. The colonial times 2. Unit 1 Discussion.</p> <p>第 3回 Unit 2. Building a new country. The American Revolution 1 (political and social facts). Additional learning. The founders of the US: John Adams (We will watch the HBO miniseries)</p> <p>第 4回 Unit 2. Building a new country. The American Revolution 2 (cultural facts). Unit 2 discussion.</p> <p>第 5回 Unit 3. Expansionism era 1 (political and social facts). Additional learning: Manifest Destiny.</p> <p>第 6回 Unit 3. Expansionism era 2 (cultural facts). Unit 3 discussion.</p> <p>第 7回 Unit 4. Civil war and reconstruction 1 (political facts).</p> <p>第 8回 Unit 4. Civil War and reconstruction 2 (cultural facts). Additional learning: The Civil War literature. Unit 4 discussion.</p> <p>第 9回 Unit 5. Emergence of Modern US 1 (political and social facts). Additional learning: Roosevelt, the great changes in American politics.</p> <p>第 10回 Unit 5. Emergence of Modern US 2 (cultural facts). Unit 5 discussion.</p> <p>第 11回 Unit 6. From the Great Depression to the II World War 1 (political and social facts).</p> <p>第 12回 Unit 6. From the Great Depression to the II World War 2 (cultural facts). Additional learning: Disney and anti-Nazi propaganda (video).Unit 5 discussion.</p> <p>第 13回 Unit 7. Current America (from the Cold War to the Twin Towers attack). Additional learning: 2001, September 11th(video).</p> <p>第 14回 Unit 7 discussion.</p> <p>第 15回 Course review.</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	In-class discussions (40%); Final report (60%).				
実務経験について	I am specialized in world history, specially from 16 th to 18 th centuries.				

(注) 教職必修

授業科目	ヨーロッパ事情		担当者	小林 朋子				
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「大西洋システム」から再考するヨーロッパ</p> <p>【概要】15世紀後半から19世紀前半にあたる「西洋近代」の開始期に、ヨーロッパ人はその主導力によって、大西洋を挟む南北アメリカ、西アフリカをひとつの交換システム、「大西洋システム」に包摂していき、その過程で人種奴隷制プランテーションという近代特有の生産様式をつくり出した。例えば砂糖はその生産様式のもと、ヨーロッパ各国の王侯貴族のステイタスを飾る奢侈品から一般大衆の必需品にまでなり、ヨーロッパ文化に溶け込んでいった。本講義は「国家」間に限定されない異文化交流の歴史をヨーロッパを中心に概観する。そして西洋近代がつくり出した「大西洋システム」をキーワードに、このシステムの「中枢」に存在しダイナミックに分裂・統合を繰り返すヨーロッパとは一体何なのか歴史・文化的側面から解説していく。</p> <p>【到達目標】現在のヨーロッパ事情を歴史的背景を知った上で多角的に理解できる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 明石和康著『ヨーロッパがわかる—起源から統合への道のり』岩波ジュニア新書 (岩波書店、2013年)</p> <p>(2) 池本幸三他著『近代世界と奴隷制』(人文書院、1995年)</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 イン트로ダクション</p> <p>第2回 ヨーロッパの砂糖はどこからきたのか (1)</p> <p>第3回 ヨーロッパの砂糖はどこからきたのか (2)</p> <p>第4回 近代世界と大西洋システム (1)</p> <p>第5回 近代世界と大西洋システム (2)</p> <p>第6回 近代世界と大西洋システム (3)</p> <p>第7回 大西洋奴隷貿易 (1) : ルネサンスと地理上の発見</p> <p>第8回 大西洋奴隷貿易 (2) : 海洋国家オランダ</p> <p>第9回 大西洋奴隷貿易 (3) : 奴隷と砂糖をめぐる政治</p> <p>第10回 コーヒー・ハウスが育んだ近代文化</p> <p>第11回 イギリス資本主義・市民革命・「商業革命」</p> <p>第12回 大西洋システムとしての「イギリス帝国」</p> <p>第13回 資本主義世界と奴隷制 : 地中海から大西洋へ—砂糖の西漸運動</p> <p>第14回 資本主義世界と奴隷制 : ヨーロッパの闘技場—カリブ海領有をめぐる角逐</p> <p>第15回 まとめ : 砂糖と紅茶—ティータム儀礼化に内包された歴史</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。							
成績評価の方法	授業への参加態度 (20%)、発表 (30%)、最終レポート (50%)							

授業科目	比較文化演習		担当者	小林 朋子				
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	選択必修	[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】翻訳で学ぶ異文化接触</p> <p>【概要】二つの言語と文化が真つ向から相まみえる翻訳は、異文化接触の最前線である。本演習はいわゆる「文化の翻訳」という手続きを含む、広い意味での英語テキストの読み取りをテーマにした論文を精読する。また受講者は担当した論文についてプレゼンテーションを行い、それをベースに全員でディスカッションをする。テキストを批判的に読むクリティカル・リーディングの方法も学ぶ。</p> <p>【到達目標】比較文化、比較文学の研究方法を学び、卒業研究に応用できるようにする。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 井上健他編著『翻訳の方法』東京大学出版会 左記以外も授業で随時紹介します。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 イン트로ダクション</p> <p>第2回 英和辞典活用法 : 抽象語を翻訳する</p> <p>第3回 入試英語とは何か</p> <p>第4回 英語の女言葉 : ジェンダーと敬語</p> <p>第5回 英英辞典活用法 : 歴史的テキストを翻訳する</p> <p>第6回 行間の<傾向>を読みとる</p> <p>第7回 正しい翻訳とは</p> <p>第8回 小説の翻訳 : 日本語の得意技</p> <p>第9回 論文の翻訳 : 言葉は論理より愛に近い</p> <p>第10回 漢文訓読と英文解釈</p> <p>第11回 直訳から「超訳」へ</p> <p>第12回 映し合う二つのテキスト : 英訳された『雪国』</p> <p>第13回 哲学の言葉の翻訳</p> <p>第14回 翻訳の記号論 : 虚構としての言語</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。							
成績評価の方法	担当時のプレゼンテーション (50%)、討論への積極的な参加態度 (50%)							

授業科目	対照言語学		担当者	楊 虹				
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 対照言語学の基礎を学ぶ。</p> <p>【概要】 この授業では、対照言語学とはどのような学問かについて学ぶ。日本語と英語、中国語を中心とした外国語の話しことばの文法の比較対照を通して、それぞれの特徴を明らかにし、日本語の話し言葉の特徴をより深く理解する。また、言語学習または言語教育における対照言語学の役割と応用についても触れる。</p> <p>【到達目標】 日本語と外国語（英語、中国語）の主な共通点と相違点を理解し、実際の言語データを使って分析することができる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。 (2) 授業中に紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション：対照言語学とはどんな学問か、授業の概要説明 第 2回 日英中の対照（1）：主語の立て方 第 3回 日英中の対照（2）：主語の顕示と暗示 第 4回 日英中の対照（3）：実際の発話における文の形 第 5回 日英中の対照（4）：時に関する比較① 第 6回 日英中の対照（5）：時に関する比較② 第 7回 日英中の対照（6）：呼びかけ語の比較① 第 8回 日英中の対照（7）：呼びかけ語の比較② 第 9回 日英中の対照（8）：待遇表現に関する比較① 第 10回 日英中の対照（9）：待遇表現に関する比較② 第 11回 日英中の対照（10）：言語行動に関する比較① 第 12回 日英中の対照（11）：言語行動に関する比較② 第 13回 発表準備 第 14回 学生による発表 第 15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜課題等を出すので、授業外学習が必要である。							
成績評価の方法	授業への参加度及び発表：60%、レポート：40%							

授業科目	言語学概論		担当者	楊 虹				
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 言語学に関する基礎知識を学ぶ。</p> <p>【概要】 この授業では、言語学に関する基礎知識を学ぶ。音声学・音韻論、形態論、統語論、意味論および語用論、さらに言語獲得のメカニズムや言語によるコミュニケーションの仕組みから「ことば」を多角的に捉えていく。身近な例をあげてこれらの問題について考えながら授業を進める。</p> <p>【到達目標】 言語学の全体像を体系的に把握すると同時に、身近なことばと私たちの生活、社会の関連について理解を深める。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。 (2) 授業中に紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション：言語学とはどんな学問か、授業の概要説明 第 2回 音声学・音韻論（1）：調音音声学、子音・母音 第 3回 音声学・音韻論（2）：モーラ、音節① 第 4回 音声学・音韻論（3）：モーラ、音節② 第 5回 音声学・音韻論（4）：連濁、枝分かれ制約 第 6回 形態論（1）：形態素、派生、複合など単語を生み出す仕組み 第 7回 形態論（2）：新語、流行語 第 8回 意味論（1）：単語の意味 第 9回 意味論（2）：類義語と対義語 第 10回 語用論（1）：発話行為論① 第 11回 語用論（2）：発話行為論② 第 12回 語用論（3）：発話機能と語学教育 第 13回 言語コミュニケーションと社会：対人関係と地域差 第 14回 これまでの復習 第 15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜小テストを実施するので、毎回復習が必要である。							
成績評価の方法	授業での発言や参加度及び宿題：50%、期末試験：50%							

授業科目	日本語学概論		担当者	小亀 拓也	
	[履修年次]	1年(注)	授業外対応	適宜対応(要予約)	
	[学期]	前期	[単位]	2	
			[必修/選択]	必修(注)	
				[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>日本語を研究する際や日本文学(特に古典文学)を講読する際に必要となる日本語学の基礎知識を学ぶ。</p> <p>【概要】</p> <p>日本語の各研究分野(音声・音韻、文字・表記、語彙・意味、文法、待遇表現、方言)について概観する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>日本語学の基本的な考え方を身につけ、身の回りの言語現象について、的確に表現できるようになる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 伊坂淳一『新 ここからはじまる日本語学』ひつじ書房</p> <p>(2) 授業中に紹介します。</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション:「日本語」か「国語」か、「日本語学」とは。</p> <p>第2回 現代日本語の音声と音韻1:音声と音韻, 音声器官, 音声記号</p> <p>第3回 現代日本語の音声と音韻2:日本語の母音, 母音の無声化, 促音化</p> <p>第4回 現代日本語の音声と音韻3:日本語の子音, 調音点・調音法・声帯振動</p> <p>第5回 現代日本語の音声と音韻4:音素と異音, 拍と音節, 特殊音素</p> <p>第6回 現代日本語の音声と音韻5:アクセント, イントネーション</p> <p>第7回 文字・表記:日本語の表記の特色, 漢字の構造・音と訓・送り仮名</p> <p>第8回 現代日本語の語彙と意味1:語彙, 語彙量, 語種</p> <p>第9回 現代日本語の語彙と意味2:語構成, 語の意味, 原義と転義</p> <p>第10回 現代日本語の文法1:形態論と統語論, 文の分類, 主語と述語, 主題</p> <p>第11回 現代日本語の文法2:学校文法とその限界, 動詞の活用, 自動詞・他動詞</p> <p>第12回 現代日本語の文法3:ヴォイス, テンス, アスペクト</p> <p>第13回 現代日本語の文法4:モダリティ, 複文, 授受表現</p> <p>第14回 現代日本語の待遇表現:待遇行動, 待遇表現の種類, 敬語</p> <p>第15回 現代日本語の方言:言語変種, 社会方言と地域方言, 言語変化</p>				
授業外学習(予習・復習)	各自事前にテキストを読んでくること。また、毎授業冒頭に復習小テストを行うため、復習が必要である。				
成績評価の方法	筆記試験(テキスト・ノート等持ち込み可)の成績(60%),小テストの成績(40%)				
実務経験について	KEC 日本語学院にて、「音声・音韻」「文字・表記」「語彙・意味」「文法」「言語と社会」の教授経験あり。				

(注) 日本語日本文学専攻では、1年次 必修科目かつ教職必修。英語英文学専攻では、2年次 選択科目。

なお、教育職員免許法施行規則の「音声言語及び文章表現に関するもの」のうち、「音声言語」にあたる内容を扱う。

授業科目	日本文学史Ⅰ		担当者	竹本 寛秋	
	[履修年次]	1, 2年共通	授業外対応	適宜対応(要予約)	
	[学期]	前期	[単位]	2	
			[必修/選択]	選択	
				[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>日本近代文学史の基礎的な知識を修得するために、代表的な文学作品の本文に触れながら、明治期の歴史的変遷を理解する。</p> <p>【概要】</p> <p>「日本文学史・Ⅰ」では、主に明治期の文学を扱う。「文学史」は、単なる文学作品の年代記ではなく、「文学」の範囲とは何か、「文学史」に入れるべき作品とは何かなど、さまざまな問題を含んでいる。講義では、文学作品と文学史について学生自身が考えることを重視し、実際の文学作品に触れながら、日本近代文学史を概観し、各作品の史的意義を多角的な視点から考察する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>日本の近代文学史・文学作品に関して基礎的な知識を持ち、自己の問題意識に従い考えを述べることができる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 安藤宏『日本近代小説史 新装版』(中公選書)</p> <p>(2) 適宜、授業中に紹介する。</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス:「日本近代文学史」とは何か</p> <p>第2回 概論:「近代」とは何か 一夏目漱石, 森鴎外, 北村透谷一</p> <p>第3回 概論:「小説」概念の成立 一坪内逍遙一</p> <p>第4回 明治の文学1:近世と近代文学 一戯作, 漢文体, 翻訳小説, 政治小説一</p> <p>第5回 明治の文学2:「国語」と近代文学 一速記, 表記の改革, 文体の改革一</p> <p>第6回 明治の文学3:詩歌の改良 一新体詩の出現一</p> <p>第7回 明治の文学4:言文一致小説 一二葉亭四迷一</p> <p>第8回 明治の文学5:写実主義と写生(1) 一尾崎紅葉, 硯友社の文学一</p> <p>第9回 明治の文学6:写実主義と写生(2) 一正岡子規一</p> <p>第10回 明治の文学7:浪漫主義の小説と詩歌 一森鴎外, 島崎藤村一</p> <p>第11回 明治の文学8:自然主義の小説(1) 一島崎藤村一</p> <p>第12回 明治の文学9:自然主義の小説(2) 一田山花袋一</p> <p>第13回 明治の文学10:反自然主義の小説 一夏目漱石一</p> <p>第14回 明治の文学11:口語自由詩 一川路柳虹, 相馬御風一</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	授業中に指示する。				
成績評価の方法	授業ごとに実施するコメントカード・提出物の内容(30%),筆記試験(70%)				

授業科目	日本文学史Ⅱ		担当者	竹本 寛秋				
	[履修年次]	1, 2年共通	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本近代文学史の基礎的な知識を修得するために、代表的な文学作品の本文に触れながら、大正から現代までの変遷を理解する。</p> <p>【概要】 「日本文学史・近代Ⅱ」では、主に大正から現代までの文学を扱う。「文学史」は、単なる文学作品の年代記ではなく、「文学」の範囲とは何か、「文学史」に入れるべき作品とは何かなど、さまざまな問題を含んでいる。講義では、文学作品と文学史について学生自身が考えることを重視し、実際の文学作品に触れながら、日本近代文学史を概観し、各作品の史的意義を多角的な視点から考察する。</p> <p>【到達目標】 日本の近代文学史・文学作品に関して基礎的な知識を持ち、自己の問題意識に従い考えを述べることができる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 安藤宏『日本近代小説史 新装版』(中公選書) (2) 適宜、授業中に紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第 1回 概論：大正・昭和以降の「文学」の問題 —メディアの変革と「文学」— 第 2回 大正の文学1：大正文壇と私小説 —白樺派、新思潮派— 第 3回 大正の文学2：「純文学」と「大衆文学」の成立 第 4回 昭和の文学1：新感覚派・前衛詩 第 5回 昭和の文学2：主知主義文学 第 6回 昭和の文学3：プロレタリア文学 第 7回 昭和の文学4：文芸復興の時代 —転向文学、日本浪漫派、四季派— 第 8回 昭和の文学5：戦争と文学 第 9回 昭和の文学6：昭和二十年代の文学 —戦後文学の出発— 第 10回 昭和の文学7：昭和三十年代の文学 —第三の新人の登場— 第 11回 昭和の文学8：昭和四十年代の文学 —三島由紀夫の死— 第 12回 昭和の文学9：昭和五十年代以降の文学 —村上龍、村上春樹— 第 13回 昭和の文学10：詩・短歌・俳句・演劇の動向 —塚本邦雄、岡井隆、寺山修司— 第 14回 現代の文学：現代文学のゆくえ 第 15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	授業中に指示する。							
成績評価の方法	授業ごとに実施するコメントカード・提出物の内容 (30%)、筆記試験 (70%)							

授業科目	日本語教育概論		担当者	楊 虹				
	[履修年次]	日本語日本文学専攻は1年, 英語英文学専攻は2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 日本語教育学の基礎を学ぶ。</p> <p>【概要】 この授業では、日本語教育に初めて接する人を対象として、日本語教師及び学習者を取り巻く社会情勢、教育政策等日本語教育に関わる基本的な環境、言語(外国語)習得の仕組み、日本語教育の教授法等を解説する。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本語教育に関する基礎知識を身につけ、日本語教育に興味を持ち、その全体像を把握できること。 グローバル化が進む今日の日本及び世界に対し、より広い視野と多様な見方を持つようになること。 							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。 (2) 授業中に紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション：授業の概要説明および日本語教育の現状の概観 第 2回 異文化接触と日本語教育：少子高齢化、定住外国人の増加、ボランティア教室 第 3回 年少者に対する日本語教育：帰国子女・外国人児童生徒に対する教育 第 4回 教師の役割①コースデザインとニーズ分析 第 5回 教師の役割②シラバス・デザイン 第 6回 教材分析 第 7回 教授法①：直接法 オーディオリンガルメソッド コミュニカティブ・アプローチ 第 8回 教授法②：授業見学 第 9回 教授法③：授業見学の振り返り 第 10回 授業の計画と実施①授業の組み立て方 第 11回 授業の計画と実施②初級レベルの場合：導入 基本練習 応用練習 第 12回 授業の計画と実施③中級以上のレベルの場合：ストラテジー教育 プロジェクトワーク 第 13回 フォリナートークとやさしい日本語 第 14回 模擬授業の準備 第 15回 模擬授業の実施、全体のまとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜小テストを実施するので、復習が必要である。							
成績評価の方法	授業での参加度や課題等提出物：50%、期末レポート：50%							

(注) 日本語日本文学専攻は1年、英語英文学専攻は2年

授業科目	国際経済論	担当者	野村 俊郎
	[履修年次] 1, 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式	授業外対応	講義前後に適宜対応
テーマ及び概要	<p>【テーマ】WTOについて学び、国境のない世界、自由で平和な世界を目指すとはどういうことか考える</p> <p>【概要】現在の世界は国境によって193の国に分かれている。しかし、WTOによって経済的な国境の壁は低くなり、企業は国境を超えて全世界で活動するようになった。WTOは第2次世界大戦の反省に基づいて生まれたGATTを前身としている。経済的な国境の壁を低くすることが、どのように国境のない世界、自由で平和な世界に繋がっていくかを順次説明していく。</p> <p>【到達目標】第2次大戦前のブロック経済がどのように戦争に進んだのか、それをどう反省してGATTが創設されたのか、自由で平和な世界に向かうWTOの意義と限界を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリントを配布</p> <p>(2) 野村俊郎『トヨタの新興国車IMV』および『トヨタの新興国適応』文真堂</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 テーマ説明：「国境のない世界、自由で平和な世界を目指す」とはどういうことか</p> <p>第2回 戦争と冷戦を超えて～WTOは何故生まれたのか～</p> <p>第3回 WTOの概要</p> <p>第4回 一般的最恵国待遇</p> <p>第5回 内国民待遇</p> <p>第6回 数量制限禁止</p> <p>第7回 経済制裁をWTOは禁止しているのに、実際には行われているのは何故なのか</p> <p>第8回 交渉に時間のかかるWTOを補完する地域統合</p> <p>第9回 EU①</p> <p>第10回 EU②</p> <p>第11回 EU③</p> <p>第12回 AFTAとAEC</p> <p>第13回 メルコスール</p> <p>第14回 TPP</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験 (100%)		

授業科目	国際関係論	担当者	福田 忠弘
	[履修年次] 1年, 2年いずれでも履修可 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式	[学期] 前期	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】国際社会に生起するさまざまな諸問題について理解する。同時に、国家以外の行為体についての理解を深める。</p> <p>【概要】本講義では、国際関係の史的展開を概説したうえで、現代国際関係における諸問題について分析する。国際関係の史的展開では、第二次世界大戦後の冷戦史（特にアジアにおける冷戦）を対象とし、国際システムの歴史の変遷をたどる。その後、特に貧困問題、環境問題、人権、テロ、グローバルガバナンスについての説明と、問題解決に向けた国際社会の取り組みを紹介する。</p> <p>【到達目標】国際社会の現在の諸問題を把握し、その背景についての理解を深める。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 使用しない。</p> <p>(2) 原林久編『国際関係学講義』（有斐閣、2006年）</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目的、方法</p> <p>第2回 国際関係論の基礎1：国内社会と国際社会は何が違うのか</p> <p>第3回 国際関係論の基礎2：行為体と争点の多様化</p> <p>第4回 国際関係のなりたち1：第二次世界大戦後の秩序形成と冷戦</p> <p>第5回 国際関係のなりたち2：アジアにおける冷戦の拡大1</p> <p>第6回 国際関係のなりたち3：アジアにおける冷戦の拡大2</p> <p>第7回 国際関係のなりたち4：核兵器について</p> <p>第8回 国際関係のなりたち5：大国の支配とナショナリズム</p> <p>第9回 国際関係のなりたち6：冷戦後の世界秩序</p> <p>第10回 国際社会における諸問題1：グローバリゼーションと貧困問題</p> <p>第11回 国際社会における諸問題2：貧困と開発</p> <p>第12回 国際社会における諸問題3：国境を越える諸問題</p> <p>第13回 国際社会における諸問題4：保守化する世界</p> <p>第14回 国際社会における諸問題5：グローバルガバナンス</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	試験 (80%)、授業への参加態度 (20%) によって評価する。		

授業科目	検定対策講座 I		担当者	轟 義昭
	〔履修年次〕	1 年	授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応
	〔学期〕	後期	〔単位〕	1
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 実用英語技能検定試験 2 級レベルの語彙力強化と長文読解力の養成および英文法の再確認</p> <p>【概要】 この授業は英検対策ですが、リスニング問題はこの授業で扱いません。検定対策のなかでは、長文読解問題および文法・語彙問題に的を絞ります。つまり、授業の目的は語彙力とリーディング力の強化です。ただし、長文読解問題を読んで、英間に正解を出すことだけを最終目的としません。長文読解問題を読んで、ある程度正確に訳して内容を理解してもらうことを求めます。受講生が多い場合、彼らの英語読解力レベルもバラバラです。訳の予習をおとして間違い等を指摘し、正しい読解へと導く授業で対応します（従って、受講者は十分な予習が求められます）。また、授業中に文法・語彙問題を解いてもらい、英検 2 級合格に必要な実力を養います。</p> <p>【到達目標】 実用英語技能検定試験 2 級レベルの長文読解問題のある程度正確に理解する力および文法・語彙力を養う。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント配布</p> <p>(2) 随時紹介</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション（授業の進め方の説明）、受講生のレベルの確認</p> <p>第 2 回 プリント学習：英検 2 級レベルの長文問題および文法・語彙問題（1）</p> <p>第 3 回 プリント学習：英検 2 級レベルの長文問題および文法・語彙問題（2）</p> <p>第 4 回 プリント学習：英検 2 級レベルの長文問題および文法・語彙問題（3）</p> <p>第 5 回 プリント学習：英検 2 級レベルの長文問題および文法・語彙問題（4）</p> <p>第 6 回 プリント学習：英検 2 級レベルの長文問題および文法・語彙問題（5）</p> <p>第 7 回 プリント学習：英検 2 級レベルの長文問題および文法・語彙問題（6）</p> <p>第 8 回 確認のための小テスト</p> <p>第 9 回 プリント学習：英検 2 級レベルの長文問題および文法・語彙問題（7）</p> <p>第 10 回 プリント学習：英検 2 級レベルの長文問題および文法・語彙問題（8）</p> <p>第 11 回 プリント学習：英検 2 級レベルの長文問題および文法・語彙問題（9）</p> <p>第 12 回 プリント学習：英検 2 級レベルの長文問題および文法・語彙問題（10）</p> <p>第 13 回 プリント学習：英検 2 級レベルの長文問題および文法・語彙問題（11）</p> <p>第 14 回 プリント学習：英検 2 級レベルの長文問題および文法・語彙問題（12）</p> <p>第 15 回 確認のための小テスト+まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	プリント問題を訳して授業に臨む準備（予習）、確認のための小テストの準備（復習）			
成績評価の方法	予習および小テストを含む授業への取り組み（100%）			

授業科目	演習 I		担当者	轟 義昭
	〔履修年次〕	1 年	授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2
			〔必修/選択〕	選択必修
			〔授業形態〕	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 文学と映画（大衆文化のなかのイギリス文学）</p> <p>【概要】 アダプテーション映画の魅力を理解する授業です。取り上げるものは、小泉堯史監督『博士の愛した数式』、黒澤明監督『乱』、アン・リー監督『いつか晴れた日に』、ジョン・マッデン監督『恋におちたシェイクスピア』の 4 作品です。授業は作品に関するディスカッションおよびプレゼンテーションが中心です。まず、学生の視点で映画の「見どころ」や「監督の主張」等についてディスカッションし、映画の魅力を共有します。その上で、文学的視点からそれぞれの映画の鑑賞の仕方を学習します。最初の 2 本は映画作品の基となった小説（同名作品）および劇（『リア王』）と比較して類似点を確認し相違点を探り、「アダプテーション映画」の魅力を考察します。あとの 2 本は映画に用いられた英詩に着目して文学的な視点から映画を考察します。もちろん、ディスカッションした作品については、自らの考えをまとめてプレゼン（5 分程度）してもらいます。</p> <p>【到達目標】 アダプテーション映画の魅力を理解する。文学的視点から映画を鑑賞する力を身に付ける。プレゼンをおとして自らの考えを発信できる力を身に付け、同時に他の学生のプレゼンを聴いて質問できる力を養う（発信力とディスカッション力）。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 小川洋子『博士の愛した数式』 新潮文庫</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション</p> <p>第 2 回 『博士の愛した数式』に関するディスカッション（1）</p> <p>第 3 回 『博士の愛した数式』に関するディスカッション（2）</p> <p>第 4 回 プレゼンテーション</p> <p>第 5 回 『乱』に関するディスカッション（1）</p> <p>第 6 回 『乱』に関するディスカッション（2）</p> <p>第 7 回 プレゼンテーション</p> <p>第 8 回 研究と発表：小川洋子の小説『博士の愛した数式』の考察（1）</p> <p>第 9 回 研究と発表：小川洋子の小説『博士の愛した数式』の考察（2）</p> <p>第 10 回 研究と発表：小川洋子の小説『博士の愛した数式』の考察（3）+3 回の総括</p> <p>第 11 回 映画『いつか晴れた日に』とソネット 116 番に関するディスカッション（1）</p> <p>第 12 回 映画『いつか晴れた日に』とソネット 116 番に関するディスカッション（2）</p> <p>第 13 回 映画『恋におちたシェイクスピア』とソネット 18 番に関するディスカッション（1）</p> <p>第 14 回 映画『恋におちたシェイクスピア』とソネット 18 番に関するディスカッション（2）</p> <p>第 15 回 プレゼンテーション（映画『いつか晴れた日に』もしくは映画『恋におちたシェイクスピア』）</p>			
授業外学習(予習・復習)	ディスカッションの準備としてスクリプトを読む、小川洋子の小説を読む、プレゼンのためのパワーポイント作り			
成績評価の方法	授業への取り組み（70%）、プレゼンテーション（30%）			

授業科目	演習 I	担当者	遠峯 伸一郎
	〔履修年次〕 1年	授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔学期〕 後期	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択必修
			〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 認知と言語の関係、日本語と英語の対照。</p> <p>【概要】 認知言語学の立場から、主に意味に関する言語事象について理解を深める。</p> <p>【到達目標】 人間の認知と言語の接点について理解を深める。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 野村益寛 (2014) 『ファンダメンタル認知言語学』 ひつじ書房、東京。</p> <p>(2) 随時紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス</p> <p>第 2 回 第 1 章 世界の立ち現われ方 1</p> <p>第 3 回 第 2 章 世界の立ち現われ方 2</p> <p>第 4 回 第 3 章 意味とは何か?</p> <p>第 5 回 第 4 章 比喩 1</p> <p>第 6 回 第 5 章 比喩 2</p> <p>第 7 回 第 6 章 意味変化</p> <p>第 8 回 第 7 章 多義語</p> <p>第 9 回 第 8 章 語から文へ</p> <p>第 10 回 第 9 章 文法とは何か?</p> <p>第 11 回 第 10 章 文法マーカー・品詞・文法関係</p> <p>第 12 回 第 11 章 他動性</p> <p>第 13 回 第 12 章 文法化</p> <p>第 14 回 第 14 章 日英対照研究</p> <p>第 15 回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習 2 時間以上、復習 2 時間以上必要である。		
成績評価の方法	授業への取り組み (60%) + レポートとプレゼンテーション (40%)		

授業科目	演習 I	担当者	石井 英里子
	〔履修年次〕 1年	授業外対応	オフィスアワーおよび Google Classroom
	〔学期〕 後期	〔単位〕 1	〔必修/選択〕 選択必修
			〔授業形態〕 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>異文化コミュニケーション、英語教育学、ワークショップのデザインと実践</p> <p>【概要】</p> <p>グループごとに異文化コミュニケーション、英語教育学に関する文献を読み、内容に関するワークショップをデザインする。ワークショップは英語で行う。</p> <p>【到達目標】</p> <p>①他のゼミ生と協力して課題を遂行できる。②聞き手にわかりやすく英語で発表することができる。③異文化コミュニケーション、英語教育学に関する研究の課題と方法について理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 ゼミの進め方についてのガイダンス</p> <p>第 2 回 グループ発表 1 の準備 1</p> <p>第 3 回 グループ発表 1 の準備 2</p> <p>第 4 回 グループ発表 1</p> <p>第 5 回 グループ発表 2 の準備 1</p> <p>第 6 回 グループ発表 2 の準備 2</p> <p>第 7 回 グループ発表 2</p> <p>第 8 回 グループ発表 3 の準備 1</p> <p>第 9 回 グループ発表 3 の準備 2</p> <p>第 10 回 グループ発表 3</p> <p>第 11 回 グループ発表 4 の準備 1</p> <p>第 12 回 グループ発表 4 の準備 2</p> <p>第 13 回 グループ発表 4</p> <p>第 14 回 研究テーマと研究構想についての報告 1</p> <p>第 15 回 研究テーマと研究構想についての報告 2</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習が 3 時間以上、復習が 3 時間以上必要である。		
成績評価の方法	グループ発表 30% グループ調査報告 30% レポート 40% で評価する。		

授業科目	演習 I		担当者	小林 朋子				
	[履修年次]	1 年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択必修	[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】比較文学・比較文化</p> <p>【概要】本演習では、比較文学・比較文化に関連する論文を読み、この学問の方法論を学ぶことで次年度の学習につなげていく。担当箇所について発表し、全員で討論するかたちを取ることで、担当者以外も毎回あらかじめ論文を読み、疑問点を考えていくことが求められる。</p> <p>【到達目標】比較文学・文化の研究方法を学び、卒業研究に応用できるようになる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 木下卓他編著『多文化主義で読む英米文学』、工藤庸子著『異文化の交流と共存』、渡邊守章他著『文化と芸術表象』</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 インTRODクシヨン</p> <p>第 2 回 発表と討論：多文化主義的家族像 (1)</p> <p>第 3 回 発表と討論：多文化主義的家族像 (2)</p> <p>第 4 回 発表と討論：歴史の再構築と再記憶 (1)</p> <p>第 5 回 発表と討論：歴史の再構築と再記憶 (2)</p> <p>第 6 回 発表と討論：混血インディアン女性の自己表象 (1)</p> <p>第 7 回 発表と討論：混血インディアン女性の自己表象 (2)</p> <p>第 8 回 発表と討論：エキゾティシズム—他者憧憬と他者恐怖 (1)</p> <p>第 9 回 発表と討論：エキゾティシズム—他者憧憬と他者恐怖 (2)</p> <p>第 10 回 発表と討論：語りとは革新的創造行為である (1)</p> <p>第 11 回 発表と討論：語りとは革新的創造行為である (2)</p> <p>第 12 回 発表と討論：奴隷貿易・奴隷制というトラウマ (1)</p> <p>第 13 回 発表と討論：奴隷貿易・奴隷制というトラウマ (2)</p> <p>第 14 回 発表と討論：表象とその臨界 (1)</p> <p>第 15 回 発表と討論：表象とその臨界 (2) とまとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。							
成績評価の方法	担当時のプレゼンテーション (60%)、演習全体への積極的な参加態度 (40%)							

授業科目	演習 I		担当者	ガルシア・アロヨ ホルヘ Jorge García Arroyo				
	[履修年次]	1 年	授業外対応	By coming to my office or by email				
	[学期]	後期	[単位]	1	[必修/選択]	選択必修	[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Analysis of American pop culture in relation to that of Japan.</p> <p>【概要】 In this class we will discuss different topics related to American popular culture and we will compare it with that of Japan. We will do it using as reference videos, music, pictures featuring both countries popular cultures.</p> <p>【到達目標】 The students will understand the main points of American popular culture and its differences with that of Japan.</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Materials will be provided by the teacher.</p> <p>(2)</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 Introduction to the course (discussion and debate hints).</p> <p>第 2 回 Brief introduction to American cultural values.</p> <p>第 3 回 American music and its message.</p> <p>第 4 回 Discussion: J-pop and American Pop. A comparison.</p> <p>第 5 回 American characters. Are they bearers of the American cultural values?</p> <p>第 6 回 Discussion: From Mickey Mouse to Doraemon. The popular characters and their differences.</p> <p>第 7 回 Hollywood: a factory of “dreams”.</p> <p>第 8 回 Discussion: Hayao Miyazaki and Walt Disney: two master ways of constructing popular legends.</p> <p>第 9 回 The Hamburger Country.</p> <p>第 10 回 Discussion: The influence of American “fast food” in Japan and other Asian countries.</p> <p>第 11 回 We live in a video game world.</p> <p>第 12 回 Discussion: Japanese games or American games?</p> <p>第 13 回 US: The King of Sports.</p> <p>第 14 回 Discussion: A Globalized spectacle beyond sports. From the NBA to the Super Bowl.</p> <p>第 15 回 Course review.</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	Participation in class (40%); Final reports (60%)							
実務経験について	I have been teaching this class since 2019.							

授業科目	卒業研究		担当者	轟 義昭				
	[履修年次]	2年	授業外対応	質問等はメールもしくはオフィスアワーで対応				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択必修	[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「課題探求・解決能力」の育成（各自が設定したテーマに基づいて研究を進める）</p> <p>【概要】各自が設定した研究を進めることとします。担当者はアドバイスして論文の完成を補助します。 *卒業研究論文は日本語で作成しても構いません。この場合、350語程度の英語の要約（summary）を添付してもらいます。もちろん、英語での作成が望ましいと思っています。</p> <p>【到達目標】卒業研究論文（「課題探求・解決能力」の集大成）を完成する。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 随時プリント</p> <p>(2) 随時紹介</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション、卒業論文作成のスケジュール等の確認、テーマの選定と絞り込みの指導（過去の事例の紹介）、文献収集の指導、卒業論文（論の展開の仕方、「はじめに」の書き方）の指導</p> <p>第2回 個別指導（1）：論文の添削とアドバイス</p> <p>第3回 個別指導（2）：論文の添削とアドバイス</p> <p>第4回 個別指導（3）：論文の添削とアドバイス</p> <p>第5回 個別指導（4）：論文の添削とアドバイス</p> <p>第6回 個別指導（5）：論文の添削とアドバイス</p> <p>第7回 中間発表：進行状況の確認（一部分の発表）</p> <p>第8回 中間発表：進行状況の確認（一部分の発表）</p> <p>第9回 個別指導（6）：論文の添削とアドバイス</p> <p>第10回 個別指導（7）：論文の添削とアドバイス</p> <p>第11回 個別指導（8）：論文の添削とアドバイス</p> <p>第12回 個別指導（9）：論文の添削とアドバイス</p> <p>第13回 英文サマリーの作成指導</p> <p>第14回 提出前の最終指導（レイアウト、目次、参考文献などの確認、英文サマリーの確認）</p> <p>第15回 プレゼンテーションのためのパワーポイント作り</p>							
授業外学習(予習・復習)	担当者が指導・助言ができるように、1日前に原稿を送る。アドバイスを受けて修正し、次回分に取り組む							
成績評価の方法	卒業研究論文の提出物（60%）、授業への取り組み（30%）、プレゼンテーション（10%）							

授業科目	卒業研究		担当者	遠峯 伸一郎				
	[履修年次]	2年	授業外対応	講義前後に適宜対応				
	[学期]	後期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択必修	[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】基礎演習Ⅰ、英語学演習での学習成果を卒業研究にまとめる。</p> <p>【概要】基礎演習Ⅰと英語学演習Ⅰを通して研究した成果にもとづいて卒業研究を執筆する。</p> <p>【到達目標】卒業研究を完成させる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし。</p> <p>(2) 随時紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 個別指導(1)</p> <p>第3回 個別指導(2)</p> <p>第4回 卒業研究テーマについての中間発表</p> <p>第5回 個別指導(3)</p> <p>第6回 個別指導(4)</p> <p>第7回 先行研究と資料についての中間発表(1)</p> <p>第8回 先行研究と資料についての中間発表(2)</p> <p>第9回 個別指導(5)</p> <p>第10回 個別指導(6)</p> <p>第11回 考察についての中間発表</p> <p>第12回 個別指導(7)</p> <p>第13回 個別指導(8)</p> <p>第14回 英文サマリーの作成</p> <p>第15回 プレゼンテーション資料の作成</p>							
授業外学習(予習・復習)	予習1時間以上、復習3時間以上必要である。							
成績評価の方法	授業への取り組み（10%）+ 卒業研究（90%）							

授業科目	卒業研究		担当者	石井 英里子	
	[履修年次]	2年	授業外対応	オフィスアワーおよびGoogle Classroom	
	[学期]	後期	[単位]	2	
		[必修/選択]	選択必修	[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 異文化コミュニケーション、英語教育学に関する研究の課題と方法</p> <p>【概要】 異文化コミュニケーション、英語教育学に関するテーマについて研究し、卒業研究を完成させる。</p> <p>【到達目標】 ①他のゼミ生と協力して課題を遂行できる。②聞き手にわかりやすく英語で発表することができる。③先行研究や他者の研究を批判的に理解したり、建設的な意見を述べたりすることができるようになる。④卒業研究を完成させる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) 適宜紹介する。</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回 ゼミの進め方についてのガイダンス、夏休みの報告、卒業研究 first draft 提出</p> <p>第 2回 研究報告 1</p> <p>第 3回 研究報告 2</p> <p>第 4回 研究報告 3</p> <p>第 5回 研究報告 4</p> <p>第 6回 研究報告 5</p> <p>第 7回 研究報告 6</p> <p>第 8回 研究報告 7</p> <p>第 9回 研究報告 8、卒業研究発表原稿 first draft 提出</p> <p>第 10回 卒業研究発表会の資料作成 1、</p> <p>第 11回 卒業研究発表会の資料作成 2</p> <p>第 12回 卒業研究発表の練習 1</p> <p>第 13回 卒業研究発表の練習 2</p> <p>第 14回 卒業研究発表の練習 3</p> <p>第 15回 まとめと全体討論</p>				
授業外学習(予習・復習)	予習が3時間以上、復習が3時間以上必要である。				
成績評価の方法	卒業研究 40% 卒業研究発表 60%で評価する。				

授業科目	卒業研究		担当者	小林 朋子	
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)	
	[学期]	後期	[単位]	2	
		[必修/選択]	選択必修	[授業形態]	演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 比較文学・比較文化</p> <p>【概要】 自らテーマを選び比較文化演習で学んできた手法を活用して、卒業研究を行う。演習では受講者各々の卒業研究に関する資料を割り当てて発表してもらい、受講者全員で講評、討論をする。</p> <p>【到達目標】 卒業研究につながる比較文学・比較文化の様々な研究方法を学び、卒業論文を完成する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 崎村耕二著『英語論文によく使う表現』創元社、左記のほか各自の研究テーマに合わせて随時紹介します。</p>				
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション</p> <p>第 2回 テーマの確認と指導</p> <p>第 3回 研究論文執筆の指導：文献収集など</p> <p>第 4回 研究論文執筆の指導：論文の構成 1</p> <p>第 5回 研究論文執筆の指導：論文の構成 2</p> <p>第 6回 研究論文執筆の指導：論文の構成 3</p> <p>第 7回 中間発表 1</p> <p>第 8回 研究論文執筆の指導：論文の書き方 1</p> <p>第 9回 研究論文執筆の指導：論文の書き方 2</p> <p>第 10回 研究論文執筆の指導：論文の書き方 3</p> <p>第 11回 中間発表 2</p> <p>第 12回 中間発表 3</p> <p>第 13回 中間発表 4</p> <p>第 14回 卒業研究発表について</p> <p>第 15回 まとめ及び卒業研究発表の練習</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。				
成績評価の方法	授業への取組み態度 (30%)、卒業研究論文 (70%)				

授業科目	卒業研究	担当者	ガルシア・アロヨ ホルヘ Jorge García Arroyo
	[履修年次] 2年	授業外対応	By coming to my office or by email.
	[学期] 後期 [単位] 2	[必修/選択] 選択必修	[授業形態] 演習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 In this class students will acquire the necessary knowledge to conduct an academic research aimed at preparing their graduation paper. At the same time they will learn various techniques to present their paper.</p> <p>【概要】 Firstly, students will be guided to find a research topic related to popular American literature or culture (we will also review those studied in the two previous seminars). Once they have chosen the topic, students will study (through examples and explanations in class) how an academic research related to the chosen topic is conducted. Finally they will practice the final presentation.</p> <p>【到達目標】 To make the students able to write and present their graduation thesis.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) All materials will be provided by the teacher (2)		
授業スケジュール	第 1 回 Introduction to the course. 第 2 回 What is an academic research? 第 3 回 Research topic guidance (1) 第 4 回 Research topic guidance (2) 第 5 回 How a research is conducted? (1) 第 6 回 How a research is conducted? (2) 第 7 回 Student research guidance (1) 第 8 回 Student research guidance (2) 第 9 回 Student research guidance (3) 第 10 回 Student presentation guidance (1) 第 11 回 Student presentation guidance (2) 第 12 回 Student presentation guidance (3) 第 13 回 Some hints on academic English. Preparation of presentation materials. 第 14 回 Presentation (1) 第 15 回 Presentation (2)		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	In-class discussion(30%); Final presentation (70%)		
実務経験について	I have already taught this class once.		

7 生活科学科共通科目

授業科目	生活科学概論		担当者	多田 司・浅海 真弓			
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応			
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	必修	[授業形態]
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生活を科学的視点で把握し、生活の諸課題を解決するための知識や力を身につける。</p> <p>【概要】 衣服・食・住まいの機能や将来の生活費、消費者問題など、毎回提示された課題について各自考えながら、生活全般についての理解を深める。また、現代の食生活や衣生活の現状と課題を把握し、その課題解決のために生活者としてできることは何か?についても考えていく。</p> <p>【到達目標】生活者の視点から、様々な生活課題について科学的に考える力を養う。そして、解決に向けて主体的に行動し、豊かな生活を創造していくことを目標とする。</p>						
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 山本直成, 浦上智子, 中根芳一共著『生活科学 (第6版)』オーム社 「生活する力を育てる」ための研究会編『人と生活』建帛社</p>						
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス — 生活を科学する? (第1回～第8回: 多田担当)</p> <p>第2回 食生活の科学1 — 自分の食生活を見直してみよう</p> <p>第3回 食生活の科学2 — 栄養の面から健康的な食生活を考える</p> <p>第4回 食生活の科学3 — 安全な食生活のあり方について</p> <p>第5回 食生活の科学4 — 食品添加物について考える</p> <p>第6回 生活環境の科学1 — 生活における科学技術の役割と弊害について</p> <p>第7回 生活環境の科学2 — 生活に及ぼす化学物質の影響について・その1</p> <p>第8回 生活環境の科学3 — 生活に及ぼす化学物質の影響について・その2</p> <p>第9回 衣生活の現状1 — 戦後の衣生活の変化を知り、現在の自分の衣生活について考える (第9回～第15回: 浅海担当)</p> <p>第10回 衣生活の現状2 — 衣服生産の背景を知り、衣服を作る人々の労働環境について考える</p> <p>第11回 住まいの機能 — 住む家がなくなったら困ることについて考える</p> <p>第12回 将来の生活を設計する1 — 25歳一人暮らしの生活費について考える (理想の生活パターンと改善)</p> <p>第13回 将来の生活を設計する2 — 25歳一人暮らしの生活費について考える (生活を維持するための手段や工夫)</p> <p>第14回 自立した消費者になるために — 消費者の権利と責任について考える</p> <p>第15回 持続可能な社会に向けて — SDGs やエシカル消費について考える</p>						
授業外学習(予習・復習)	適宜指示 (予習・復習用のプリント配布)						
成績評価の方法	多田担当分 (50%) : レポート (40%) + 講義への取り組み状況 (10%) 浅海担当分 (50%) : ワークシート (25%) + レポート (25%)						
実務経験について	なし						

授業科目	生活経営学		担当者	坂上 ちえ子			
	[履修年次]	生活1年, 食栄2年	授業外対応	適宜対応			
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 生活経営とは何かを含め、生活を営む上での諸問題を理解し、自立のための生活経営力の獲得を目指す。</p> <p>【概要】 自分と他者の関わりを捉えなおし、個人と家庭、社会をとりまく環境や問題を抽出し理解する。まず生活経営の基礎事項や最新情報を正確に把握する。それらを援用してライフステージごとの課題を各自整理しその解決方法を考える。</p> <p>【到達目標】 真の自立と共生のために必要なスキルやマネジメント力が身につくことを目指す。</p>						
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 随時紹介</p>						
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション: 講義概要と進め方</p> <p>第2回 基礎事項1: 生活経営学と生活を考える</p> <p>第3回 基礎事項2: 家族と家庭を考える</p> <p>第4回 基礎事項3: 男女の役割を考える</p> <p>第5回 基礎事項4: 労働を考える</p> <p>第6回 基礎事項5: 経済と消費を考える①</p> <p>第7回 基礎事項6: 経済と消費を考える②</p> <p>第8回 基礎事項7: 家計を考える</p> <p>第9回 基礎事項8: 子どもと教育を考える</p> <p>第10回 基礎事項9: 高齢社会を考える</p> <p>第11回 応用事項1: 地域を考える</p> <p>第12回 応用事項2: 環境を考える</p> <p>第13回 応用事項3: 政治と社会を考える</p> <p>第14回 応用事項4: 自立を考える</p> <p>第15回 まとめ</p>						
授業外学習(予習・復習)	適宜指示						
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + 授業での活動内容 (30%)						
実務経験について	なし						

(注) 生活科学専攻は教職必修

授業科目	人間関係論	担当者	未定
	[履修年次] 生活1年, 食栄2年 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応 [必修/選択]	適宜対応 必修(生活)(注) [授業形態] 講義 選択(食栄)
テーマ及び概要			
(1)テキスト (2)参考文献			
授業スケジュール			
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法			
実務経験について			

(注) 生活科学専攻は教職必修

授業科目	社会福祉論	担当者	石踊紳一郎
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択(注) [授業形態] 講義	授業外対応	授業終了時
テーマ及び概要	<p>【テーマ】社会福祉とは何か?について、社会福祉の歴史的展開、法と行財政、ソーシャルワーク、地域ケアシステムなど、実践の中から総合的に理解する。</p> <p>【概要】1. 日本及びヨーロッパの社会福祉の歴史的変遷を概観する。 2. 社会福祉を形成する領域・体系の全体像を理解する。 3. 社会福祉のそれぞれの領域での実践活動を学ぶ。</p> <p>【到達目標】社会福祉の歴史、制度、政策を理解し、これからの社会福祉の方向性を探ることができる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 「新社会福祉とはなにか 第4版」 大久保秀子著 中央法規出版 (2)		
授業スケジュール	第1回 社会福祉は何かについて学ぶ。 第2回 日本・ヨーロッパにおける社会福祉の歴史的展開について学ぶ。 第3回 社会福祉基礎構造改革について学ぶ。 第4回 契約制度における福祉サービス提供の現状と課題について学ぶ。 第5回 ソーシャルワークについて理解する。 第6回 生活保護制度について学ぶ。 第7回 児童福祉と次世代育成の展開について学ぶ。 第8回 障がい者の自立と福祉について学ぶ。 第9回 高齢者福祉の歴史について学ぶ。 第10回 介護保険制度について学ぶ。 第11回 ケアマネジメントの実際について学ぶ。 第12回 身体拘束適正化・虐待防止について学ぶ。 第13回 高齢者の認知症について理解する。 第14回 地域福祉の展開と地域包括ケアシステムを理解する。 第15回 これからの社会福祉を探る。		
授業外学習(予習・復習)	予習では該当する箇所をテキストで確認する。復習は学んだ内容を資料等で読み直す。		
成績評価の方法	授業ごとに期間中に3回程度の小論文30% 学期末テスト(記述)70%		
実務経験について	社会福祉法人理事長、高齢者福祉施設の施設長、非常勤講師(大学)		

(注) 食物栄養専攻は教職必修 栄養士選択必修

8 食物栄養専攻専門科目

授業科目	食品学Ⅰ		担当者	広瀬 直人				
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業終了後				
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	必修	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品に含まれる成分の概要と、その働きについて学習する。</p> <p>【概要】食品の三つの機能「栄養面での一次機能（栄養機能）」「嗜好面での二次機能（感覚機能）」「病気予防面での三次機能（生体調節機能）」を中心に、食品の構成成分や役割について解説する。</p> <p>【到達目標】食品に含まれる成分とその機能について理解する。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 太田英明・北畠直文・白土英樹編『食べ物と健康 食品の科学 改訂第3版』南江堂</p> <p>(2) 適宜紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 人間と食品</p> <p>第2回 食品の一次機能：水分</p> <p>第3回 食品の一次機能：たんぱく質</p> <p>第4回 食品の一次機能：アミノ酸</p> <p>第5回 食品の一次機能：酵素</p> <p>第6回 食品の一次機能：炭水化物</p> <p>第7回 食品の一次機能：脂質</p> <p>第8回 食品の一次機能：ビタミン</p> <p>第9回 食品の一次機能：ミネラル</p> <p>第10回 食品の二次機能：色素成分</p> <p>第11回 食品の二次機能：呈味成分</p> <p>第12回 食品の二次機能：におい成分</p> <p>第13回 食品の三次機能：食品の機能性</p> <p>第14回 食品の三次機能：保健機能食品</p> <p>第15回 食品の表示</p>							
授業外学習(予習・復習)	教科書による予習とともに、授業後のノート整理など復習を確実にすること。							
成績評価の方法	筆記試験 70%，授業への取り組みや授業中の課題 30%							
実務経験について	食品会社および公設試験研究機関において研究職に従事							

(注) 栄養士必修，教職必修

授業科目	食品学Ⅱ		担当者	広瀬 直人				
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業終了後				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	必修	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品の種類と成分について学ぶとともに、食品の加工利用に対する考え方を理解する。</p> <p>【概要】植物性食品，動物性食品，調味料，油脂，香辛料，嗜好性飲料について、その成分や特性および機能性について解説する。</p> <p>【到達目標】食品の分類と特徴，および含有する主要な成分について理解する。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 太田英明・北畠直文・白土英樹編『食べ物と健康 食品の科学 改訂第3版』南江堂</p> <p>(2) 適宜紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 植物性食品：穀類</p> <p>第2回 植物性食品：穀類の利用</p> <p>第3回 植物性食品：いも類</p> <p>第4回 植物性食品：豆類</p> <p>第5回 植物性食品：種実類</p> <p>第6回 植物性食品：野菜類</p> <p>第7回 植物性食品：野菜類の利用</p> <p>第8回 植物性食品：果実類</p> <p>第9回 植物性食品：果実類の利用</p> <p>第10回 動物性食品：きのこ類，藻類</p> <p>第11回 動物性食品：食肉類</p> <p>第12回 動物性食品：魚介類</p> <p>第13回 動物性食品：乳類</p> <p>第14回 動物性食品：卵類</p> <p>第15回 油脂，調味料，香辛料，嗜好性飲料</p>							
授業外学習(予習・復習)	教科書による予習とともに、授業後のノート整理など復習を確実にすること。							
成績評価の方法	筆記試験 70%，授業への取り組みや授業中の課題 30%							
実務経験について	食品会社および公設試験研究機関において研究職に従事							

(注) 栄養士必修，教職必修

授業科目	食品学実験		担当者	広瀬 直人
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業終了後
	[学期]	前期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択 (注)
			[授業形態]	実験
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品に含まれる成分などを分析するための各種実験器具の取り扱いや基礎的な分析方法について学ぶ。</p> <p>【概要】実験器具の取り扱い方や基礎的な化学実験の方法と食品学的実験への応用法について解説する。</p> <p>【到達目標】各種実験器具の取り扱いや食品成分の基礎的な分析方法について理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 青柳康夫・有田政信編『食品学実験』建帛社のほか、適宜紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 食品学実験の基礎 (実験器具や試薬類の取り扱い方法)</p> <p>第 2 回 溶液の濃度計算 1 (溶液の調製法)</p> <p>第 3 回 溶液の濃度計算 2 (溶液の希釈法)</p> <p>第 4 回 溶液の濃度計算 3 (微濃度溶液の調製法)</p> <p>第 5 回 酸性水溶液の調整 (酸の濃度と pH の関連)</p> <p>第 6 回 アルカリ性水溶液の調製 (アルカリの濃度と pH の関連)</p> <p>第 7 回 タンパク質の定量 1 (検量線の作成)</p> <p>第 8 回 タンパク質の定量 2 (試料中のたんぱく質定量)</p> <p>第 9 回 アミノ酸の検出 (ニンヒドリン法による検出)</p> <p>第 10 回 アミノ酸の同定 (薄層クロマトグラフィーによる同定)</p> <p>第 11 回 食品に含まれる糖類の分析 (還元糖)</p> <p>第 12 回 食品に含まれる色素の分析 (カロテノイド)</p> <p>第 13 回 食品の酵素的褐変 (りんごの酵素的褐変とその防止法)</p> <p>第 14 回 糖酸度の測定 (ポケット糖酸度計による測定法)</p> <p>第 15 回 食品学実験の総括 (実験器具類の整理と保管)</p>			
授業外学習(予習・復習)	レポート課題を中心に、復習を確実にすること。			
成績評価の方法	実験レポート 70%、実験への取り組み 30%			
実務経験について	食品会社および公設試験研究機関において研究職に従事			

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	食品加工学		担当者	広瀬 直人
	[履修年次]	2年	授業外対応	授業終了後
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品加工の目的や原理を理解すると共に、食品素材毎の加工技術の多様性について学ぶ。</p> <p>【概要】食品の貯蔵法や加工法の基礎的な技術、それらの技術を利用して生産される農畜産ならびに水産加工製品、発酵食品、調味料、嗜好食品、インスタント食品、油脂食品について解説する。</p> <p>【到達目標】食品加工の目的と意義について理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1)</p> <p>(2) 太田英明ら著『イラスト 食品加工・食品機能実験 第2版』東京教学社のほか、適宜紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 食品保蔵技術 (水分と水分活性 他)</p> <p>第 2 回 食品保蔵技術 (低温保存 殺菌 他)</p> <p>第 3 回 食品保蔵技術 (CA 貯蔵 他)</p> <p>第 4 回 食品加工技術 (物理的操作, 化学的操作, 生物的操作)</p> <p>第 5 回 食品加工技術 (バイオテクノロジー)</p> <p>第 6 回 食品加工と成分変化 (成分間反応, 褐変, 酸化 他)</p> <p>第 7 回 食品添加物と加工食品の安全性確保 (食品添加物の目的と種類)</p> <p>第 8 回 保健機能食品と特用用途食品 (保健機能食品の種類)</p> <p>第 9 回 食品の表示と規格 (品質表示, 栄養成分表示, 遺伝子組換え表示, アレルギー表示, 食品の規格)</p> <p>第 10 回 加工食品の実習 (ケチャップの試作)</p> <p>第 11 回 加工食品の実習 (ケチャップの分析評価)</p> <p>第 12 回 加工食品の実習 (ヨーグルトの試作)</p> <p>第 13 回 加工食品の実習 (ヨーグルトの分析評価)</p> <p>第 14 回 加工食品の実習 (パンの試作)</p> <p>第 15 回 加工食品の実習 (パンの分析評価)</p>			
授業外学習(予習・復習)	授業後のノート整理やレポート課題など、復習を確実にすること。			
成績評価の方法	筆記試験 50%、実習レポート 30%、授業および実習への取り組みや授業中の課題 20%			
実務経験について	食品会社および公設試験研究機関において研究職に従事			

授業科目	食品衛生学		担当者	広瀬 直人
	[履修年次] 1年		授業外対応	授業終了後
	[学期] 前期	[単位] 2	[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品の安全性を確保するために不可欠な食品衛生に関する知識を習得する。</p> <p>【概要】食中毒や食品汚染と流通の発達に伴う加工食品や多種多様な食品添加物の実態に目を向け、安心・安全な食生活を送るための方策を考える。</p> <p>【到達目標】食品の安全性と衛生管理、食品の安全確保の手段と手法について理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 西瀬弘・桧垣俊介・和島孝浩著『食品衛生学』化学同人</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 食品衛生と法規</p> <p>第 2 回 食品の変質 (発酵と腐敗)</p> <p>第 3 回 食品の変質 (微生物による成分変化)</p> <p>第 4 回 食品の変質 (変質の防止)</p> <p>第 5 回 食中毒 1 (細菌性食中毒 サルモネラ菌 他)</p> <p>第 6 回 食中毒 2 (細菌性食中毒 ボツリヌス菌 他)</p> <p>第 7 回 食中毒 3 (ウイルス性食中毒 他)</p> <p>第 8 回 食中毒 (自然毒 食中毒の予防 他)</p> <p>第 9 回 経口感染症・寄生虫症</p> <p>第 10 回 食品中の汚染・有害物質 (カビ毒 他)</p> <p>第 11 回 食品中の汚染・有害物質 (化学物質 内分泌かく乱物質 他)</p> <p>第 12 回 食品中の汚染・有害物質 (食物アレルギー 他)</p> <p>第 13 回 食品添加物</p> <p>第 14 回 食品の衛生管理 (HACCP 他)</p> <p>第 15 回 食品の安全性 (遺伝子組み換え 放射線 農薬 他)</p>			
授業外学習(予習・復習)	教科書による予習とともに、授業後のノート整理など復習を確実にすること。			
成績評価の方法	筆記試験 70%、授業への取り組みや授業中の課題 30%			
実務経験について	食品会社および公設試験研究機関において研究職に従事			

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	食品衛生学実験		担当者	広瀬 直人
	[履修年次] 1年		授業外対応	授業終了後
	[学期] 後期	[単位] 1	[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 実験
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品衛生化学実験や食品衛生微生物実験に関する実験器具の取り扱いや基礎的な方法について学ぶ。</p> <p>【概要】食品衛生検査の技術的な手法として、検査器具類の適切な使用方法、化学試験および微生物試験について実習する。</p> <p>【到達目標】食品衛生化学および食品生成微生物学実験の実施に必要な知識と技術を身に付ける。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 一戸正勝ら編著『図解 食品衛生学実験 第3版』講談社のほか、適宜紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 食品衛生学実験の基礎 (実験器具や試薬類の取り扱い方法)</p> <p>第 2 回 食品衛生化学実験 (食品添加物: 着色料の検査)</p> <p>第 3 回 食品衛生化学実験 (食器洗浄: 残留たんぱく質の検査)</p> <p>第 4 回 食品衛生化学実験 (食器洗浄: 残留でんぷんの検査)</p> <p>第 5 回 食品衛生化学実験 (食器洗浄: 残留脂質の検査)</p> <p>第 6 回 食品衛生化学実験 (中性洗剤の検出)</p> <p>第 7 回 食品衛生化学実験 (容器のホルムアルデヒドの溶出試験)</p> <p>第 8 回 食品衛生微生物学実験 (微生物観察: 細菌のグラム染色)</p> <p>第 9 回 食品衛生微生物学実験 (微生物観察: 培地の調製)</p> <p>第 10 回 食品衛生微生物学実験 (微生物観察: 画線培養)</p> <p>第 11 回 食品衛生微生物学実験 (手指の衛生検査)</p> <p>第 12 回 食品衛生微生物学実験 (食品の細菌検査)</p> <p>第 13 回 食品衛生微生物学実験 (環境のふき取り検査)</p> <p>第 14 回 食品衛生微生物学実験 (環境の落下菌検査)</p> <p>第 15 回 食品衛生微生物学実験 (微生物の簡易検査方法, 実験器具の整理と保管)</p>			
授業外学習(予習・復習)	レポート課題を中心に、復習を確実にすること。			
成績評価の方法	実験レポート 70%、実験への取り組み 30%			
実務経験について	食品会社および公設試験研究機関において研究職に従事			

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	調理学		担当者	山下三香子																																													
	[履修年次] 1年		授業外対応	適宜対応 (要予約)																																													
	[学期] 前期	[単位] 2単位	[必修/選択] 必修 (注)	[授業形態] 講義方式																																													
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品の調理過程における科学的現象</p> <p>【概要】調理の基礎から応用までの調理を具体的に調理操作や調理条件が及ぼす食品の特性を科学的に学ぶ。</p> <p>【到達目標】嗜好を満足させながらも、健康を維持することができ、おいしく調理でき、また、調理により適した食物選択ができる。</p>																																																
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) はじめて学ぶ『調理学』化学同人</p> <p>(2) 香川芳子監修『八訂日本食品成分表』・『調理のためのベーシックデータ』女子栄養大学出版部、山崎清子ら共著『NEW 調理と理論』 同文書院</p>																																																
授業スケジュール	<table border="1"> <tr><td>第 1 回</td><td>調理学の意義と目的</td><td>調理実習 I に準じながら</td></tr> <tr><td>第 2 回</td><td>食べ物のおいしさ</td><td>〃</td></tr> <tr><td>第 3 回</td><td>調理操作と調理機器</td><td>〃</td></tr> <tr><td>第 4 回</td><td>植物性食品 1 の調理科学</td><td>〃</td></tr> <tr><td>第 5 回</td><td>植物性食品 2 の調理科学</td><td>〃</td></tr> <tr><td>第 6 回</td><td>調味料・香辛料の調理科学</td><td>〃</td></tr> <tr><td>第 7 回</td><td>ゲル化剤・とろみ剤の調理科学</td><td>〃</td></tr> <tr><td>第 8 回</td><td>植物性食品 3～5 の調理科学</td><td>〃</td></tr> <tr><td>第 9 回</td><td>植物性食品 6～8 の調理科学</td><td>〃</td></tr> <tr><td>第 10 回</td><td>油脂類の調理科学</td><td>〃</td></tr> <tr><td>第 11 回</td><td>動物性食品 1 の調理科学</td><td>〃</td></tr> <tr><td>第 12 回</td><td>〃 2 の調理科学</td><td>〃</td></tr> <tr><td>第 13 回</td><td>〃 3 の調理科学</td><td>〃</td></tr> <tr><td>第 14 回</td><td>〃 4 の調理科学</td><td>〃</td></tr> <tr><td>第 15 回</td><td>まとめ</td><td></td></tr> </table>				第 1 回	調理学の意義と目的	調理実習 I に準じながら	第 2 回	食べ物のおいしさ	〃	第 3 回	調理操作と調理機器	〃	第 4 回	植物性食品 1 の調理科学	〃	第 5 回	植物性食品 2 の調理科学	〃	第 6 回	調味料・香辛料の調理科学	〃	第 7 回	ゲル化剤・とろみ剤の調理科学	〃	第 8 回	植物性食品 3～5 の調理科学	〃	第 9 回	植物性食品 6～8 の調理科学	〃	第 10 回	油脂類の調理科学	〃	第 11 回	動物性食品 1 の調理科学	〃	第 12 回	〃 2 の調理科学	〃	第 13 回	〃 3 の調理科学	〃	第 14 回	〃 4 の調理科学	〃	第 15 回	まとめ	
第 1 回	調理学の意義と目的	調理実習 I に準じながら																																															
第 2 回	食べ物のおいしさ	〃																																															
第 3 回	調理操作と調理機器	〃																																															
第 4 回	植物性食品 1 の調理科学	〃																																															
第 5 回	植物性食品 2 の調理科学	〃																																															
第 6 回	調味料・香辛料の調理科学	〃																																															
第 7 回	ゲル化剤・とろみ剤の調理科学	〃																																															
第 8 回	植物性食品 3～5 の調理科学	〃																																															
第 9 回	植物性食品 6～8 の調理科学	〃																																															
第 10 回	油脂類の調理科学	〃																																															
第 11 回	動物性食品 1 の調理科学	〃																																															
第 12 回	〃 2 の調理科学	〃																																															
第 13 回	〃 3 の調理科学	〃																																															
第 14 回	〃 4 の調理科学	〃																																															
第 15 回	まとめ																																																
授業外学習(予習・復習)	授業のノートを作成しまとめる。																																																
成績評価の方法	筆記試験 (60%)・授業態度及び小テスト・ノート (40%)																																																
実務経験について	病院、高齢者施設等で施設側の管理栄養士として勤務																																																

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	調理学実習 I		担当者	山下三香子																														
	[履修年次] 1年		授業外対応	適宜対応 (要予約)																														
	[学期] 前期	[単位] 1単位	[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 実習形式																														
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品の特徴を生かす調理法と基礎的調理技術</p> <p>【概要】一食の献立として学習できるよう、様々な食品の利用法、料理の歴史・文化的特徴を、食事のマナーや常識を踏まえ、和洋中その他諸外国の基礎的な料理を網羅しながら基本的な調理技術を習得できるようなカリキュラム</p> <p>【到達目標】調理の仕方、考え方を確立させ、器具や食品の扱いを含め、栄養学的に望ましい食事作りができる力を養う。</p>																																	
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 『調理実習ノート』女子栄養大学出版部</p> <p>(2) 香川芳子監修『八訂日本食品成分表』女子栄養大学出版部</p>																																	
授業スケジュール	<table border="1"> <tr><td>第 1 回</td><td>調理機器の使い方、調味の割合、</td></tr> <tr><td>第 2 回</td><td>和食喫食法：炊飯、鰹と昆布のだしの取り方と利用法、魚の焼き物、即席漬物</td></tr> <tr><td>第 3 回</td><td>日本料理：煮干だし、魚の煮付け、お浸し(下洗い)、上新粉の扱い</td></tr> <tr><td>第 4 回</td><td>西洋風朝食：卵の扱い、トマトの湯剥き、洋風スープ(鶏がらの扱い)、パンケーキ</td></tr> <tr><td>第 5 回</td><td>中華喫食法：中華の鶏がらスープ、中華素材と器具の扱い、寒天の扱い、(大量調理)</td></tr> <tr><td>第 6 回</td><td>日本料理：炊きおこわ、炒め煮、乱切り、あく抜き、わらひ粉</td></tr> <tr><td>第 7 回</td><td>冷凍食品</td></tr> <tr><td>第 8 回</td><td>洋食喫食法：洋風炊き込み、たまねぎの扱い、冷製魚の扱い、ラビゴット(ヴィネグレット)ソース、ゼラチンの扱い</td></tr> <tr><td>第 9 回</td><td>中華料理：コーンスープ、春巻き、えびの扱い、油通し、タピオカ・ココナッツの扱い</td></tr> <tr><td>第 10 回</td><td>日本料理：ソーメン、焼魚(器具と化粧塩、鮎の食べ方)、いり豆腐、和え物、水ようかん</td></tr> <tr><td>第 11 回</td><td>西洋料理：冷製スープ、果物のサラダ、ひき肉の扱い、カスタードプリン</td></tr> <tr><td>第 12 回</td><td>中華料理：中華麺の扱い、焼売、香辛料、中華風の漬物、白玉粉の扱い</td></tr> <tr><td>第 13 回</td><td>西洋料理：コンソメスープ、ドライカレー、ポテトサラダ(マヨネーズ作り)、レア・チーズケーキ</td></tr> <tr><td>第 14 回</td><td>お盆料理：かものこ汁、落花生豆腐、にがごりの扱い 白和え ふくれ菓子</td></tr> <tr><td>第 15 回</td><td>和食の朝食 レシピを作る(朝食定番おかず) 調理技術復習</td></tr> </table>				第 1 回	調理機器の使い方、調味の割合、	第 2 回	和食喫食法：炊飯、鰹と昆布のだしの取り方と利用法、魚の焼き物、即席漬物	第 3 回	日本料理：煮干だし、魚の煮付け、お浸し(下洗い)、上新粉の扱い	第 4 回	西洋風朝食：卵の扱い、トマトの湯剥き、洋風スープ(鶏がらの扱い)、パンケーキ	第 5 回	中華喫食法：中華の鶏がらスープ、中華素材と器具の扱い、寒天の扱い、(大量調理)	第 6 回	日本料理：炊きおこわ、炒め煮、乱切り、あく抜き、わらひ粉	第 7 回	冷凍食品	第 8 回	洋食喫食法：洋風炊き込み、たまねぎの扱い、冷製魚の扱い、ラビゴット(ヴィネグレット)ソース、ゼラチンの扱い	第 9 回	中華料理：コーンスープ、春巻き、えびの扱い、油通し、タピオカ・ココナッツの扱い	第 10 回	日本料理：ソーメン、焼魚(器具と化粧塩、鮎の食べ方)、いり豆腐、和え物、水ようかん	第 11 回	西洋料理：冷製スープ、果物のサラダ、ひき肉の扱い、カスタードプリン	第 12 回	中華料理：中華麺の扱い、焼売、香辛料、中華風の漬物、白玉粉の扱い	第 13 回	西洋料理：コンソメスープ、ドライカレー、ポテトサラダ(マヨネーズ作り)、レア・チーズケーキ	第 14 回	お盆料理：かものこ汁、落花生豆腐、にがごりの扱い 白和え ふくれ菓子	第 15 回	和食の朝食 レシピを作る(朝食定番おかず) 調理技術復習
第 1 回	調理機器の使い方、調味の割合、																																	
第 2 回	和食喫食法：炊飯、鰹と昆布のだしの取り方と利用法、魚の焼き物、即席漬物																																	
第 3 回	日本料理：煮干だし、魚の煮付け、お浸し(下洗い)、上新粉の扱い																																	
第 4 回	西洋風朝食：卵の扱い、トマトの湯剥き、洋風スープ(鶏がらの扱い)、パンケーキ																																	
第 5 回	中華喫食法：中華の鶏がらスープ、中華素材と器具の扱い、寒天の扱い、(大量調理)																																	
第 6 回	日本料理：炊きおこわ、炒め煮、乱切り、あく抜き、わらひ粉																																	
第 7 回	冷凍食品																																	
第 8 回	洋食喫食法：洋風炊き込み、たまねぎの扱い、冷製魚の扱い、ラビゴット(ヴィネグレット)ソース、ゼラチンの扱い																																	
第 9 回	中華料理：コーンスープ、春巻き、えびの扱い、油通し、タピオカ・ココナッツの扱い																																	
第 10 回	日本料理：ソーメン、焼魚(器具と化粧塩、鮎の食べ方)、いり豆腐、和え物、水ようかん																																	
第 11 回	西洋料理：冷製スープ、果物のサラダ、ひき肉の扱い、カスタードプリン																																	
第 12 回	中華料理：中華麺の扱い、焼売、香辛料、中華風の漬物、白玉粉の扱い																																	
第 13 回	西洋料理：コンソメスープ、ドライカレー、ポテトサラダ(マヨネーズ作り)、レア・チーズケーキ																																	
第 14 回	お盆料理：かものこ汁、落花生豆腐、にがごりの扱い 白和え ふくれ菓子																																	
第 15 回	和食の朝食 レシピを作る(朝食定番おかず) 調理技術復習																																	
授業外学習(予習・復習)	実習予習のためプリント配布、実習内容を実習ノートにまとめ、実習に関する事項を調べる。																																	
成績評価の方法	調理技術試験 40%、調理実習ノート 30%、実習態度 30%																																	
実務経験について	病院、高齢者施設等で施設側の管理栄養士として勤務																																	

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	調理学実習Ⅱ		担当者	山下三香子
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応(要予約)
	[学期]	後期	[単位]	1単位
			[必修/選択]	選択(注)
			[授業形態]	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】調理学実習Ⅰの基礎的調理技術の応用</p> <p>【概要】和食、洋食、中華料理を交互に、個人の食事はもちろん給食施設における食事作りへの応用を考慮したカリキュラム</p> <p>【到達目標】献立作成、衛生観念を身につけ、給食への応用ができる力を養う。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 『調理実習ノート』女子栄養大学出版部</p> <p>(2) 香川芳子監修『八訂日本食品成分表』女子栄養大学出版部</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 夏のお盆料理の報告</p> <p>第2回 日本料理：栗の扱い、さんまの扱い、茶碗蒸し、なます、十五夜団子</p> <p>第3回 中華料理：八宝菜、いかの扱い(花いか)、くらげの扱い、中国粥、さつま芋のあめがらめ、点心について</p> <p>第4回 日本料理：行楽弁当(いなり、出し巻き卵、きじ焼き、酢蓮根、高野豆腐の含め煮)、土瓶蒸し、小倉ケーキ</p> <p>第5回 スチームコンベクション料理：から揚げ(ドライモード)、焼きそば(コンビ)、温野菜・プリン(スチーム)、</p> <p>第6回 献立応用家庭料理かみかみメニュー</p> <p>第7回 日本料理：さつますもじ(ちらし寿司)、青のりの汁、芋のそぼろあんかけ、抹茶饅頭</p> <p>第8回 中国の行事食：春節の意味と代表料理、中華饅頭</p> <p>第9回 日本料理お魚講習：霜降りの方法と役目、刺身、かつら剥き魚の三枚おろし、魚のだし</p> <p>第10回 正月料理：おせち料理の意味と重箱の詰め方、雑煮、飾り切り</p> <p>第11回 クリスマス料理、ビーフストロガノフ(ブラウンソース)、ブッシュドノエル</p> <p>第12回 パンとスープ</p> <p>第13回 給食のための献立作成と調理(大量調理への応用)</p> <p>第14回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	実習予習のためプリント配布、実習内容を実習ノートにまとめ、実習に関する事項を調べる。担当した料理の栄養価計算をする。			
成績評価の方法	調理技術試験 40%、調理実習ノート 30%、実習態度 30%			
実務経験について	病院、高齢者施設等で施設側の管理栄養士として勤務			

(注) 栄養士必修、教職必修

授業科目	調理学実習Ⅲ		担当者	山下三香子
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応(要予約)
	[学期]	後期	[単位]	1単位
			[必修/選択]	選択(注)
			[授業形態]	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】調理学実習Ⅱの調理技術の応用から上級レベル</p> <p>【概要】和食、洋食、中華料理の給食施設における食事作りへの応用を考慮し、食材の持つ特徴(糊化作用、凝固作用、膨張作用など)を十分活かした調理実習カリキュラム</p> <p>【到達目標】おいしく調理するための科学的根拠を実践的に理解できる力を養う</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 『調理実習ノート』女子栄養大学出版部</p> <p>(2) 香川芳子監修『八訂日本食品成分表』女子栄養大学出版部</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 郷土料理(芋ご飯、さつま揚げ、さつま汁、なまぶしの酢の物、かるかん)</p> <p>第2回 季節の和食・応用(五目炊き込み、ブリ大根、モズク酢)</p> <p>第3回 手作り餃子と中華メニュー</p> <p>第4回 季節の郷土料理と和食(豚骨、色なます、のっぺい汁)</p> <p>第5回 奄美の郷土料理(豚骨、鶏飯、がね、ぬた)</p> <p>第6回 西洋料理の応用：グラタン(ホワイトソースの活用)、ミネストローネ、シフォンケーキ等諸外国の調理</p> <p>第7回 自作の献立作成から調理技術への完成</p> <p>第8回 自作の献立作成から調理技術への完成</p> <p>第9回 正月料理：鹿児島のおせち料理、茶懐石料理大量調理の応用(真空料理、クックチル) 仕込み</p> <p>第10回 // 本調理</p> <p>第11回 クリスマス(ローストチキン、クラムチャウダー、パン・クッキー)</p> <p>第12回 クリスマスのショートケーキ</p> <p>第13回 災害食、おいしいお茶の入れ方</p> <p>第14回 まとめ</p> <p>第15回 テーブルマナー(洋食)</p>			
授業外学習(予習・復習)	実習予習のためプリント配布、実習内容を実習ノートにまとめ、実習に関する事項を調べる。担当した料理の栄養価計算をする。			
成績評価の方法	調理技術試験 40%、調理実習ノート 30%、実習態度 30%			
実務経験について	病院、高齢者施設等で施設側の管理栄養士として勤務			

(注) 栄養士必修、教職必修

授業科目	栄養学総論		担当者	多田 司
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応
	[学期]	前期	[単位]	2
			[必修/選択]	必修(注)
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】栄養とは何か、その意義について理解する。</p> <p>【概要】栄養の概念についての理解から始まり、日本における食の変遷や食生活の実態を学習する。次に摂食行動や消化・吸収の概念を理解し、その上で栄養素であるタンパク質・糖質・脂質・ビタミン・ミネラルや水・電解質などの栄養学的機能や消化・吸収・代謝について学習し、理解を深める。</p> <p>【到達目標】栄養士養成教育において栄養学は重要な基幹科目であり、栄養学総論は後に学ぶ栄養学各論や臨床栄養学の基礎となる科目とである。これらのことを念頭に、さまざまな栄養素の摂取、消化、吸収、代謝に関する幅広い分野について学習し、理解することで、その成果を個人および集団の健康維持・増進や疾病予防の活用に発展させることができるようにすることを目標とする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 木戸康博・桑波田雅士・中坊幸弘編、『栄養科学シリーズNEXT 基礎栄養学』、講談社</p> <p>(2) 講義の際に適宜紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 栄養の概念：栄養の意義と栄養学の目的</p> <p>第2回 食物の摂取：わが国の栄養と健康状態の推移、食事摂取基準について</p> <p>第3回 消化・吸収と栄養1：消化器系の構造と機能や消化酵素について</p> <p>第4回 消化・吸収と栄養2：栄養素の体内動態について</p> <p>第5回 糖質の栄養1：糖質の概要・分類について</p> <p>第6回 糖質の栄養2：体内代謝や血糖調節について</p> <p>第7回 脂質の栄養1：脂質の種類と働き、臓器間輸送について</p> <p>第8回 脂質の栄養2：貯蔵エネルギーとしての作用やコレステロール代謝、生理活性物質について</p> <p>第9回 タンパク質の栄養1：タンパク質・アミノ酸の構造・機能と体内動態について</p> <p>第10回 タンパク質の栄養2：摂取する量と質の評価や他の栄養素との関係について</p> <p>第11回 エネルギー代謝：エネルギー代謝の概念について</p> <p>第12回 ミネラルの栄養：ミネラルの分類と栄養学的機能について</p> <p>第13回 ビタミンの栄養1：脂溶性ビタミンについて</p> <p>第14回 ビタミンの栄養2：水溶性ビタミンについて</p> <p>第15回 水・電解質の栄養的意義：水の出納や電解質の代謝について</p>			
授業外学習(予習・復習)	復習を重視するが、教科書による予習に取り組んで講義を受けることが望ましい。			
成績評価の方法	期末試験(70%) + 小テスト(30%)により評価する。			
実務経験について	なし			

(注) 栄養士必修，教職必修

授業科目	栄養学各論		担当者	有村 恵美
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応(要予約)
	[学期]	前期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択(注)
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ライフステージ別の特性と栄養管理</p> <p>【概要】妊娠期，授乳期，乳児期，幼児期，学童期，思春期，成人・更年期，高齢期など各ライフステージ別の身体的・精神的特徴や変化について学び，栄養評価法，栄養摂取法，疾患との関連等について学ぶ。</p> <p>【到達目標】妊娠期，授乳期，乳児期，幼児期，学童期，思春期，成人・更年期，高齢期など各ライフステージ別の個人の身体状況や栄養状態に応じた栄養管理の実際について理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 山下絵美ほか『応用栄養学』(化学同人)</p> <p>伊藤貞嘉，佐々木敏監修『日本人の食事摂取基準 2020年版』(第一出版)</p> <p>香川明夫監修『八訂食品成分表』(女子栄養大学出版部)</p> <p>(2) 城田知子ほか『ライフステージ実習栄養学』(医歯薬出版株式会社)</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 食事摂取基準(概要)</p> <p>第2回 食事摂取基準(活用・実践)</p> <p>第3回 乳児期の栄養(特性・疾患)</p> <p>第4回 乳児期の栄養(栄養補給法)</p> <p>第5回 幼児期の栄養(特性・疾患)</p> <p>第6回 幼児期の栄養(食事摂取基準)</p> <p>第7回 学童期の栄養(特性・食事摂取基準)</p> <p>第8回 高齢期の栄養(特性・疾患)</p> <p>第9回 献立作成演習(食事摂取基準と調理方法)</p> <p>第10回 思春期の栄養(特性・疾患)</p> <p>第11回 妊娠期の栄養(特性・栄養と病態)</p> <p>第12回 授乳期の栄養(特性・栄養ケア)</p> <p>第13回 成人・更年期の栄養(特性・疾患)</p> <p>第14回 成人・更年期の栄養(生活習慣病)</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験(60%)，課題・小テスト・授業への取り組み・参加状況(40%)により評価する。			
実務経験について	病院で管理栄養士として勤務，病態栄養専門管理栄養士，糖尿病病態栄養専門管理栄養士			

(注) 栄養士必修，教職必修

授業科目	栄養学実習		担当者	有村 恵美
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	〔学期〕	前期	〔単位〕	1
			〔必修/選択〕	選択 (注)
			〔授業形態〕	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ライフステージ別の健康と疾病予防、臨床を対象とした栄養学の実践から応用</p> <p>【概要】各ライフステージ (妊娠期, 授乳期, 乳児期, 幼児期, 学童期, 思春期, 成人・更年期, 高齢期など) 別の健康保持・疾病予防のための食事, 各治療食 (形態別治療食・エネルギー調整食・食塩制限食・脂質調整食・たんぱく質調整食・カリウム制限食など) を理解し, 調理, 供食までを実際に行う (全実習)。</p> <p>【到達目標】各ライフステージ別の食形態, 疾患別の栄養・食事療法を具体的に食品・献立レベルで把握し, 実践できる力を養う。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 城田知子ほか『ライフステージ実習栄養学』(医歯薬出版株式会社) 玉川和子ほか『臨床栄養学実習書』(医歯薬出版株式会社)</p> <p>(2) 日本病態栄養学会『病態栄養ガイドブック』(南江堂) 香川明夫監修『八訂食品成分表』(女子栄養大学出版部)</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 乳児期 (乳児期栄養の実際)</p> <p>第 2 回 離乳期 (離乳食の進め方の目安・実際)</p> <p>第 3 回 幼児期・学童期 (幼児期・学童期栄養の実際)</p> <p>第 4 回 実施献立 (献立作成, 調理方法)</p> <p>第 5 回 幼児期・学童期 (食物アレルギー食)</p> <p>第 6 回 高齢期 (高齢期栄養の実際)</p> <p>第 7 回 一般食治療食 (形態別治療食)</p> <p>第 8 回 特別治療食 (エネルギー調整食)</p> <p>第 9 回 特別治療食 (脂質調整食)</p> <p>第 10 回 特別治療食 (食塩制限食)</p> <p>第 11 回 特別治療食 (たんぱく質調整食)</p> <p>第 12 回 特別治療食 (糖尿病食)</p> <p>第 13 回 特別治療食 (腎臓病食)</p> <p>第 14 回 実施献立 (献立作成, 調理方法)</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習 (予習・復習)	実習内容を実習ノートにまとめ, 実習に関する事項を調べる。担当した料理の栄養価計算をする。			
成績評価の方法	実技試験 (40%), 実習ノート (30%), 実習への取り組み・参加状況 (30%) により評価する。			
実務経験について	病院で管理栄養士として勤務, 病態栄養専門管理栄養士, 糖尿病病態栄養専門管理栄養士			

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	解剖生理学		担当者	多田 司
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2
			〔必修/選択〕	選択 (注)
			〔授業形態〕	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】人体の構造と機能を理解する。</p> <p>【概要】人体の構造と機能および疾病の成り立ちを理解する上で必要となる、解剖生理学について学ぶ。</p> <p>【到達目標】人体を細胞、組織、器官、基幹系などのレベルでとらえ、それぞれの形状と仕組み、働きについて解説する。これを理解し、人における恒常性の維持の仕組みを、神経・内分泌・免疫などの機構から説明できるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 河田光博・三木健寿編、『栄養科学シリーズ NEXT 解剖生理学』, 講談社 佐藤達夫監修, 『新版 からだの地図帳』, 講談社</p> <p>(2) 山口和克ほか, 『新版 病気の地図帳』, 講談社</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 人体の構造 1: 細胞・組織・器官</p> <p>第 2 回 人体の構造 2: 消化器系 (1)</p> <p>第 3 回 人体の構造 3: 消化器系 (2)</p> <p>第 4 回 人体の構造 4: 心臓・血管系</p> <p>第 5 回 人体の構造 5: 呼吸器系</p> <p>第 6 回 人体の機能 1: 内分泌系 (1)</p> <p>第 7 回 人体の機能 2: 内分泌系 (2)</p> <p>第 8 回 人体の機能 3: 代謝系</p> <p>第 9 回 人体の機能 4: 血液系</p> <p>第 10 回 人体の機能 5: 免疫系 (1)</p> <p>第 11 回 人体の機能 6: 免疫系 (2)</p> <p>第 12 回 人体の機能 7: 脳・神経系</p> <p>第 13 回 人体の機能 8: 骨格・筋肉系</p> <p>第 14 回 人体の機能 9: 感覚器官</p> <p>第 15 回 人体の機能 10: 腎臓系</p>			
授業外学習 (予習・復習)	復習を重視するが、教科書による予習に取り組んで講義を受けることが望ましい。			
成績評価の方法	期末試験 (70%) + レポート (30%) により評価する。			
実務経験について	なし			

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	解剖生理学実験		担当者	多田 司		
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応		
	[学期]	後期	[単位]	1	[必修/選択]	選択 (注)
					[授業形態]	実験
テーマ及び概要	<p>【テーマ】人体の構造と機能を理解する。</p> <p>【概要】講義で学んだ人体を構成している各種臓器、組織、細胞についての理解を観察や実験を通してさらに深める。</p> <p>【到達目標】観察や実験を通して、人体の構造と機能を理解する。</p>					
(1)テキスト	(1) プリント					
(2)参考文献	(2) 青峰正裕、藤田守編著、『N ブックス実験シリーズ解剖生理学実験』、建帛社					
授業スケジュール	第 1 回 実験を始めるにあたって：実験の進め方、レポートの書き方、器具洗浄 第 2 回 骨格観察 1：頭・体躯 第 3 回 骨格観察 2：手・足 第 4 回 人体モデル観察 1：各種臓器 第 5 回 人体モデル観察 2：各種臓器 第 6 回 組織標本観察 1：胃・肝臓 第 7 回 組織標本観察 2：膵臓・腎臓 第 8 回 血液に関する実験 1：血球数の測定（赤血球・白血球） 第 9 回 血液に関する実験 2：ヘモグロビンの定量 第 10 回 血液に関する実験 3：ヘマトクリットの測定 第 11 回 血液に関する実験 4：タンパク質の定量（アルブミン・グロブリン比） 第 12 回 血液に関する実験 5：血糖値の定量 第 13 回 血液に関する実験 6：総コレステロール値の定量 第 14 回 血液に関する実験 7：HDL-コレステロール値の定量 第 15 回 まとめ：器具洗浄、片付け					
授業外学習(予習・復習)	実験の復習としてレポートを重視する。					
成績評価の方法	レポート (70%) + 実験への取り組み状況 (30%)					
実務経験について	なし					

(注) 栄養士必修，教職必修

授業科目	生化学 I		担当者	多田 司		
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応		
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択 (注)
					[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生命現象を分子レベルで理解する。</p> <p>【概要】はじめに人体や細胞の基本構造に関して復習を行う。次にタンパク質・糖質・脂質といった栄養機能を持つ生体成分の構造や性質について学習し、生命現象を発現させる上で重要な核酸についても学習する。さらに、物質の代謝に欠かすことのできない酵素について、その分類や機能の調節について理解を深め、酵素反応に必要な補酵素（ビタミン）や補因子（ミネラル）の働きについても学習する。また生体の代謝調節と密接に関わるホルモンの働きについても理解を深める。</p> <p>【到達目標】生化学は、人体の構造と機能および疾病の成り立ちを学ぶ上で基礎となる科目である。生化学 I では、生体を構成している成分としてのタンパク質・糖質・脂質さらにはビタミン・ミネラル・核酸や酵素などについて構造と機能を学習し、理解することを目標とする。生化学 II で学習するさまざまな生体物質の代謝を理解する上での基礎作りとする。</p>					
(1)テキスト	(1) 菌田勝編、『栄養科学イラストレイテッド 生化学』、羊土社					
(2)参考文献	(2) 講義の際に適宜紹介する。					
授業スケジュール	第 1 回 人体の構成：人体を構成する成分や細胞の構造と仕組みについて 第 2 回 タンパク質・アミノ酸 1：アミノ酸・ペプチドについて 第 3 回 タンパク質・アミノ酸 2：タンパク質の種類と機能について 第 4 回 糖質 1：単糖類・二糖類・多糖類について 第 5 回 糖質 2：糖質の機能について 第 6 回 脂質 1：脂質の種類と分類について 第 7 回 脂質 2：脂質の機能について 第 8 回 ビタミン：各種ビタミン類の体内での役割について 第 9 回 ミネラル：各種ミネラルの体内での役割について 第 10 回 核酸：ヌクレオチドの構造について 第 11 回 酵素 1：酵素の分類と性質について 第 12 回 酵素 2：酵素反応速度について 第 13 回 酵素 3：酵素活性の調節について 第 14 回 ホルモン 1：ホルモンの分類について 第 15 回 ホルモン 2：個体の調節機構とホメオスタシスについて					
授業外学習(予習・復習)	復習を重視するが、教科書による予習に取り組んで講義を受けることが望ましい。					
成績評価の方法	期末試験 (70%) + 小テスト (30%) により評価する。					
実務経験について	なし					

(注) 栄養士必修，教職必修

授業科目	生化学Ⅱ		担当者	多田 司				
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生命現象を分子レベルで理解する。</p> <p>【概要】はじめに生体内でのタンパク質の代謝、糖質の代謝、脂質の代謝について学習する。次に遺伝子発現に関わるヌクレオチドの代謝や遺伝子の発現調節機構について学び、最後に個体の生体防御機構について非特異的・特異的生体防御機構について、特に特異的生体防御機構については免疫系やアレルギーに関する内容を中心に学習する。</p> <p>【到達目標】生化学は人体の構造と機能および疾病の成り立ちを学ぶ上で基礎となる科目である。生化学Ⅱでは、生化学Ⅰで学んだ内容を基に、生体内での物質代謝について理解することを目標とする。また、生体調節と密接に関わる遺伝子発現の調節機構について理解することと、個体の生体防御機構について理解を深めることも目標とする。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 菌田勝編、『栄養科学イラストレイテッド 生化学』, 羊土社</p> <p>(2) 講義の際に適宜紹介する。</p>							
授業スケジュール	<p>第 1回 代謝とは? : 生体エネルギーと代謝について</p> <p>第 2回 タンパク質・アミノ酸の代謝 1 : タンパク質の分解とアミノ酸プール、窒素出納について</p> <p>第 3回 タンパク質・アミノ酸の代謝 2 : アミノ酸の代謝とその代謝異常について</p> <p>第 4回 糖質の代謝 1 : 解糖系・クエン酸回路・電子伝達系について</p> <p>第 5回 糖質の代謝 2 : グリコーゲンの合成と分解について</p> <p>第 6回 糖質の代謝 3 : 糖新生、ペントース-リン酸経路、グルクロン酸経路について</p> <p>第 7回 脂質の代謝 1 : 脂質の体内輸送と貯蔵、脂肪酸の代謝について</p> <p>第 8回 脂質の代謝 2 : トリグリセリドとリン脂質の代謝について</p> <p>第 9回 脂質の代謝 3 : コレステロールの代謝、ケトン体の生成、脂質の代謝異常について</p> <p>第 10回 ヌクレオチドの代謝 : 塩基の合成と分解について</p> <p>第 11回 遺伝子発現とその制御 1 : 遺伝情報の複製、転写、翻訳について</p> <p>第 12回 遺伝子発現とその制御 2 : RNA の合成 (転写) について</p> <p>第 13回 遺伝子発現とその制御 3 : タンパク質合成 (翻訳) について</p> <p>第 14回 生体防御機構 1 : 非特異的生体防御機構と特異的生体防御機構について</p> <p>第 15回 生体防御機構 2 : 免疫系の成り立ちについて</p>							
授業外学習(予習・復習)	復習を重視するが、教科書による予習に取り組んで講義を受けることが望ましい。							
成績評価の方法	期末試験 (70%) + 小テスト (30%) により評価する。							
実務経験について	なし							

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	生化学実験		担当者	多田 司				
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	後期	[単位]	1	[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	実験
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生体成分, 栄養成分の定性・定量的分析</p> <p>【概要】生化学は、食物栄養の専門知識に必須の基礎的分野で、人体の機能の化学と代謝に関して幅広く学ぶ分野である。講義で学んだ事項と生化学的基礎の重要性について、栄養成分の分析や尿、ホルモンなどの分析を通してさらに理解を深める。</p> <p>【到達目標】実験を通して、生体成分や栄養成分の生化学を理解する。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 林淳三、『新訂生化学実験』, 建帛社</p>							
授業スケジュール	<p>第 1回 実験を始めるにあたって : 実験の進め方、レポートの書き方、器具洗浄</p> <p>第 2回 尿に関する実験 (1) : 尿タンパク質の定量</p> <p>第 3回 尿に関する実験 (2) : 尿糖の検出</p> <p>第 4回 尿に関する実験 (3) : ケトン体の検出</p> <p>第 5回 尿に関する実験 (4) : クレアチニンの定量</p> <p>第 6回 酵素に関する実験 : 唾液アミラーゼ活性</p> <p>第 7回 ホルモンに関する実験 : ステロイドホルモンの分離定性</p> <p>第 8回 ビタミンに関する実験 (1) : ビタミン B₁ の定量</p> <p>第 9回 ビタミンに関する実験 (2) : ビタミン B₂ の定性</p> <p>第 10回 栄養成分に関する実験 (1) : タンパク質の定量 (1)</p> <p>第 11回 栄養成分に関する実験 (2) : タンパク質の定量 (2)</p> <p>第 12回 ミネラルに関する実験 (1) : カルシウムの定量 (1)</p> <p>第 13回 ミネラルに関する実験 (2) : カルシウムの定量 (2)</p> <p>第 14回 ミネラルに関する実験 (3) : カルシウムの定量 (3)</p> <p>第 15回 まとめ : 器具洗浄、器具整理、片付け</p>							
授業外学習(予習・復習)	実験の復習としてレポートを重視する。							
成績評価の方法	レポート (70%) + 実験への取り組み状況 (30%)							
実務経験について	なし							

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	健康と運動	担当者	未定
テーマ及び概要			
(1)テキスト (2)参考文献			
授業スケジュール			
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法			
実務経験について			

授業科目	公衆衛生学	担当者	郡山 千早
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義	授業外対応	授業終了後対応
テーマ及び概要	<p>【テーマ】健康の増進と疾病・障害の発生・予防に関する社会的要因，自然環境，生物学的要因との相互作用，予防医学の理論ならびに実践を理解する。</p> <p>【概要】私たちを取り巻く社会的環境および自然環境は常に変化し，それとともに国際・地域社会における健康課題も変わってくる。その中で，健康増進をいかに図り，集団の健康を守っていくにはどうすべきかを理解することを目標とする。</p> <p>【到達目標】次の項目を理解し，説明できる。I) 社会と健康・疾病との関係，II) 保健統計の意義と現状，III) 疫学とその応用，IV) 生活習慣病とその予防対策，V) 日本の保健、医療、福祉および介護制度。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 配布プリント</p> <p>(2) 国民衛生の動向 (厚生労働統計協会)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 公衆衛生学総論</p> <p>第 2 回 健康と病気の予防</p> <p>第 3 回 健康増進</p> <p>第 4 回 保健統計</p> <p>第 5 回 地域保健 (母子保健)</p> <p>第 6 回 演習 (母子保健)</p> <p>第 7 回 生活習慣と疾病</p> <p>第 8 回 社会保障制度</p> <p>第 9 回 疫学 1</p> <p>第 10 回 疫学 2</p> <p>第 11 回 感染症</p> <p>第 12 回 演習 (感染症)</p> <p>第 13 回 高齢者と健康</p> <p>第 14 回 学校保健</p> <p>第 15 回 職場と健康</p>		
授業外学習(予習・復習)	配布資料に添付する演習を復習として活用すること。		
成績評価の方法	筆記試験 (80%)，レポート (20%)		
実務経験について	なし		

(注) 栄養士選択必修

授業科目	健康管理概論		担当者	與儀 幸朝				
	[履修年次]	2年	授業外対応	随時	yogi@k-kentan.ac.jp			
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】健康問題に関連する様々な事象から、自ら健康を適切に管理し、改善していくための知識や方法を身につける。</p> <p>【概要】我が国の健康の現状を理解し、健康に関わる環境づくりの重要性について、保健・医療などの分野から健康管理の在り方を学習する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 健康の概念や決定要因について説明できる。 2) 人口統計および疾病統計の現状について把握し、その背景的要因について理解できる。 3) 健康管理の具体的な方法について列挙できる。 4) 健康情報の収集・処理について思考・判断することができる。 							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 毎回、講義資料を配布する。</p> <p>(2) 保健・栄養系学生のための健康管理概論 (光生館)</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション (授業計画や評価の説明など)</p> <p>第 2 回 健康の概念</p> <p>第 3 回 健康の決定要因</p> <p>第 4 回 健康の現状 1 (人口減少と高齢化)</p> <p>第 5 回 健康の現状 2 (平均寿命と健康寿命)</p> <p>第 6 回 健康増進対策 1 (健康増進の三原則)</p> <p>第 7 回 健康増進対策 2 (健康に関連する法律)</p> <p>第 8 回 健康の阻害要因</p> <p>第 9 回 生活習慣病の予防</p> <p>第 10 回 感染症対策</p> <p>第 11 回 健康管理の考え方</p> <p>第 12 回 健康管理の方法</p> <p>第 13 回 健康診断の意義</p> <p>第 14 回 情報処理と健康管理</p> <p>第 15 回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	講義内容の振り返り、次時のリサーチをすること。							
成績評価の方法	筆記試験 (70%)、レポート (20%)、課題の取り組み状況 (10%) 等を基準に総合的に評価する。							
実務経験について	中学校及び高等専門学校等にて、保健体育科目の担当経験あり。							

授業科目	運動生理学		担当者	塗木 淳夫				
	[履修年次]	2年	授業外対応	講義終了時				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>身体運動時の身体機能のメカニズムについて理解し、栄養学との関係を学ぶ。</p> <p>【概要】</p> <p>健康の維持・増進に必要な運動と食事との関係など、運動生理学の視点から考察する。さらに、管理栄養士として運動・栄養指導を行う際に必要となる知識を学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 運動に関する体の仕組みについて理解する。 2) 運動遂行時に伴う生理学的な現象について理解する。 3) 運動・健康・スポーツの関係を意識した栄養についての視点を養う。 							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし、必要に応じて資料を配布する。</p> <p>(2) 「運動生理学」羊土社、「運動生理学」化学同人、「運動生理・栄養学」建帛社</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション～運動生理学と栄養学のかかわり～</p> <p>第 2 回 骨格筋の構造と筋収縮</p> <p>第 3 回 神経系の役割</p> <p>第 4 回 運動と循環・呼吸</p> <p>第 5 回 運動とエネルギー源</p> <p>第 6 回 エネルギー消費量</p> <p>第 7 回 身体組成・体格</p> <p>第 8 回 筋肉づくりとタンパク質</p> <p>第 9 回 骨づくりと栄養素・身体活動</p> <p>第 10 回 体温調節と水分補給</p> <p>第 11 回 加齢に伴う身体機能の変化</p> <p>第 12 回 運動と健康</p> <p>第 13 回 身体活動と健康</p> <p>第 14 回 スポーツ選手の食事管理</p> <p>第 15 回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	予習復習は、筆記したノートおよび資料に目を通して今回及び次回授業の内容を確認すること。							
成績評価の方法	筆記試験 (60%) + 授業ごとに実施する小論文 (40%)							
実務経験について	特になし							

(注) 栄養士必修、教職必修

授業科目	給食管理		担当者	山下 三香子																																																												
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)																																																												
	[学期]	後期	[単位]	2単位																																																												
		[必修/選択]	必修	[授業形態]	講義形式																																																											
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 特定多数の人に継続的に食事を供給する給食施設において、対象者の目的に応じた栄養管理と効率的な運用について</p> <p>【概要】 食事計画から栄養計画、献立作成、衛生・安全管理、作業管理、設備管理、労務管理、原価管理など効率のよい経営と満足度の高い給食について、給食の目的、方法、評価を明らかにできる方法を学ぶ</p> <p>【到達目標】 給食の運営管理できる力を養う。</p>																																																															
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 『大量調理』 学建書院、『給食の運営』・『給食のための基礎からの献立作成』 建帛社、『糖尿病食事療法のための食品交換表』 日本糖尿病協会・文光堂、『給食の運営管理実習テキスト』 第一出版、『ライフステージ実習栄養学』 医歯薬出版</p> <p>(2) 『八訂日本食品成分表』 女子栄養大学出版部、</p>																																																															
授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>第 1回</td> <td>給食の概念</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 2回</td> <td>栄養食事管理</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 3回</td> <td>食品構成</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 4回</td> <td>献立の立て方、糖尿病の献立、スチコンとは</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 5回</td> <td>献立計算</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 6回</td> <td>主菜の考え方、給食の調理管理</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 7回</td> <td>大量調理の献立</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 8回</td> <td>大量調理の調理</td> <td></td> <td>主菜の献立作成</td> </tr> <tr> <td>第 9回</td> <td>作業管理、設備管理</td> <td></td> <td>副菜の献立作成</td> </tr> <tr> <td>第 10回</td> <td>衛生・安全管理</td> <td></td> <td>汁の献立の立て方</td> </tr> <tr> <td>第 11回</td> <td>衛生・安全管理</td> <td></td> <td>デザート/の献立の立て方</td> </tr> <tr> <td>第 12回</td> <td>市場調査、経営管理</td> <td></td> <td>行事食</td> </tr> <tr> <td>第 13回</td> <td>施設別の栄養管理・献立</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 14回</td> <td>施設別の給食管理、研究・調査</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第 15回</td> <td>まとめ</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>				第 1回	給食の概念			第 2回	栄養食事管理			第 3回	食品構成			第 4回	献立の立て方、糖尿病の献立、スチコンとは			第 5回	献立計算			第 6回	主菜の考え方、給食の調理管理			第 7回	大量調理の献立			第 8回	大量調理の調理		主菜の献立作成	第 9回	作業管理、設備管理		副菜の献立作成	第 10回	衛生・安全管理		汁の献立の立て方	第 11回	衛生・安全管理		デザート/の献立の立て方	第 12回	市場調査、経営管理		行事食	第 13回	施設別の栄養管理・献立			第 14回	施設別の給食管理、研究・調査			第 15回	まとめ		
第 1回	給食の概念																																																															
第 2回	栄養食事管理																																																															
第 3回	食品構成																																																															
第 4回	献立の立て方、糖尿病の献立、スチコンとは																																																															
第 5回	献立計算																																																															
第 6回	主菜の考え方、給食の調理管理																																																															
第 7回	大量調理の献立																																																															
第 8回	大量調理の調理		主菜の献立作成																																																													
第 9回	作業管理、設備管理		副菜の献立作成																																																													
第 10回	衛生・安全管理		汁の献立の立て方																																																													
第 11回	衛生・安全管理		デザート/の献立の立て方																																																													
第 12回	市場調査、経営管理		行事食																																																													
第 13回	施設別の栄養管理・献立																																																															
第 14回	施設別の給食管理、研究・調査																																																															
第 15回	まとめ																																																															
授業外学習(予習・復習)	授業の課題プリントを配布、宿題として出す。																																																															
成績評価の方法	出席・レポート・小テスト 40%、試験 60%																																																															
実務経験について	病院、高齢者施設等で施設側の管理栄養士として勤務																																																															

(注) 栄養士必修，教職必修

授業科目	給食管理実習 I		担当者	山下三香子	
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)	
	[学期]	前・後	[単位]	1単位	
		[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 学内実習 本学学生を主要対象とした給食サービス</p> <p>【概要】 給食としての食事計画・献立作成・運営計画・評価の一連の実習を本学学生を対象として実際に大量調理を行う。帳票類の作成・まとめを行い、栄養教育の方法、評価を行う。</p> <p>【到達目標】 給食施設でのすべての業務を理解、計画、実施できる力を養う。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 『大量調理』 学建書院、『給食の運営』・『給食のための基礎からの献立作成』 建帛社、『給食の運営管理実習テキスト』 第一出版、</p> <p>(2) 『八訂日本食品成分表』 女子栄養大学出版部 『糖尿病食事療法のための食品交換表』 日本糖尿病協会・文光堂</p>				
授業スケジュール	<p>オリエンテーション (実習の概要)</p> <p>献立計画・食事計画・栄養計画のもと、期間献立計画および日別献立計画を作成し栄養価計算・原価計算をし、調整する。</p> <p>食材購入計画・市場調査・食材利用計画・発注書作成を行う。</p> <p>運営計画・大量調理機器を考慮した作業工程表を作成し、実施日の運営計画を立案する。</p> <p>試作・試食・献立に忠実に正確な分量による料理を試作し、盛り付け方法・食器の選択・試食を行い、最終的な調整をする</p> <p>衛生管理計画・給食における安全ポイントを確認し、衛生検査計画をたてる。</p> <p>実験調査計画・評価のための調査計画を立案する。</p> <p>栄養教育計画・対象者にとって必要と考えられる給食内容に関連したテーマで栄養教育計画を立案し、栄養教育媒体を作成する。</p> <p>供食サービス・計画に従って、喫食者が満足できるサービスを実施する。</p> <p>評価・実習後のデータ整理・総合評価・まとめ (実習結果報告と反省会)</p>				
授業外学習(予習・復習)	実習準備として各グループで分担して授業時間以外にも取り組み、実習前日、反省会、帳票整理までとする。				
成績評価の方法	実習ノート (20%)、反省・報告発表 (10%)、実習態度 (70%)				
実務経験について	病院、高齢者施設等で施設側の管理栄養士として勤務				

(注) 栄養士必修，教職必修

授業科目	給食管理実習Ⅱ		担当者	山下三香子
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応(要予約)
	[学期]	前期集中	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択(注)
			[授業形態]	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】学外実習 給食施設(事業所、福祉施設など)での栄養士の給食業務</p> <p>【概要】学内実習で学んだことをもとに、喫食対象者のニーズや給食条件、それに伴う献立やサービス、栄養管理のあり方などを県内外の実践の場で学習する。</p> <p>【到達目標】給食運営の実態を体得し、給食施設における栄養士の業務や役割について実践的能力を身につける。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 『給食の運営』・『給食のための基礎からの献立作成』建帛社 実習ノート</p> <p>(2) 『ライフステージ実習栄養学』医歯薬出版、『八訂日本食品成分表』女子栄養大学出版部 『給食経営管理論』東京化学同人</p>			
授業スケジュール	<p>各施設による特徴</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、給食施設の概要 2、給食業務の流れ 3、給食組織と業務分担および栄養士業務 4、栄養教育 5、献立内容 6、大量調理の技術 7、食材管理 8、衛生管理 9、各調査と評価 10、実習終了後、学内で報告発表を行う。 <p>各施設による特徴</p>			
授業外学習(予習・復習)	実習課題の取り組み、報告会の準備、実習ノート作成			
成績評価の方法	実習ノート(20%)、報告発表(10%)、実習態度(70%)			
実務経験について	病院、高齢者施設等で施設側の管理栄養士として勤務			

(注) 栄養士必修 ※栄養教諭二種免許を取得しない者のみ履修できる

授業科目	給食管理実習Ⅲ		担当者	山下三香子
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応(要予約)
	[学期]	前期集中	[単位]	1単位
			[必修/選択]	選択(注)
			[授業形態]	実習方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】学外実習 給食施設(学校給食)での栄養士の給食業務</p> <p>【概要】学内実習で学んだことをもとに、喫食対象者のニーズや給食条件、それに伴う献立やサービス、栄養管理のあり方などを県内外の実践の場で学習する。</p> <p>【到達目標】給食運営の実態を体得し、給食施設における栄養士の業務や役割について実践的能力を身につける。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 『給食の運営』・『給食のための基礎からの献立作成』建帛社、 実習ノート</p> <p>(2) 『ライフステージ実習栄養学』医歯薬出版、『八訂日本食品成分表』女子栄養大学出版部 『給食経営管理論』東京化学同人</p>			
授業スケジュール	<p>各施設による特徴</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、給食施設の概要 2、給食業務の流れ 3、給食組織と業務分担および栄養士業務 4、栄養教育 5、献立内容 6、大量調理の技術 7、食材管理 8、衛生管理 9、各調査と評価 10、実習終了後、学内で報告発表を行う。 <p>各施設による特徴</p>			
授業外学習(予習・復習)	実習課題の取り組み、報告会の準備、実習ノート作成			
成績評価の方法	実習ノート(20%)、報告発表(10%)、実習態度(70%)			
実務経験について	病院、高齢者施設等で施設側の管理栄養士として勤務			

(注) 教職必修、栄養士必修 ※栄養教諭二種免許を取得する者のみ履修できる

授業科目	栄養教育論		担当者	中西 智美		
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)		
	〔学期〕	後期	〔単位〕	1	〔必修/選択〕	選択 (注)
					〔授業形態〕	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食に関する指導を通じて生涯にわたる健康づくりのための教育方法</p> <p>【概要】栄養教育は、対象とする個人や集団が QOL を高めるための適正な食生活を営み、望ましい健康状態を維持・増進できるよう、単なる栄養知識の伝達に終わることなく教育的手段を用いて、好ましい食行動を実践・習慣化させことや、生活習慣病に対応するため、栄養・食生活上問題のある人々を対象として、その栄養状態を改善することなどを目的とした教育的働きかけである。</p>					
	【到達目標】対象のニーズと実態に沿って、健康や QOL の向上につながる健康・栄養教育の理論と方法を習得させる。					
(1)テキスト	(1) 未定					
(2)参考文献	(2) 日本栄養士会編『2022年度版 管理栄養士 栄養士必携』第一出版					
授業スケジュール	第 1 回 栄養教育の概念、行動科学理論と栄養教育 第 2 回 行動科学理論とモデル 第 3 回 行動変容技法と概念 第 4 回 栄養教育におけるカウンセリング 第 5 回 組織づくり・地域づくり、栄養教育の展開 第 6 回 食環境づくり、栄養教育の展開 第 7 回 栄養教育マネジメント、栄養教育の展開 第 8 回 まとめ					
授業外学習(予習・復習)	適宜指示					
成績評価の方法	筆記試験の成績 (70%) + 課題と小テスト (30%) により評価する。					
実務経験について	学校・給食センター・特別支援学校・行政等に学校栄養職員、栄養教諭として勤務。管理栄養士。					

(注) 栄養士必修、教職必修 ※ 7.5 回

授業科目	栄養指導論 I		担当者	中西 智美		
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)		
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2	〔必修/選択〕	必修
					〔授業形態〕	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】栄養学的基礎理論に基づいた栄養指導に必要な知識と実態の把握</p> <p>【概要】栄養指導に必要な基礎知識と、対象となる個人や集団及び地域の栄養指導の基本的役割や、その食習慣を形作った背景の実態把握の方法について学ぶ。</p>					
(1)テキスト	(1) 芦川修貳、田中弘之編集『栄養士のための栄養指導論』学健書院					
(2)参考文献	(2) 菱田明、佐々木敏監修『日本人の食事摂取基準 2020年版』第一出版 日本栄養士会編『2022年度版 管理栄養士 栄養士必携』第一出版					
授業スケジュール	第 1 回 栄養指導の概念、栄養指導の歴史と現状 第 2 回 栄養指導に関連する主な法令、指標、栄養指導関連の諸施策 第 3 回 食事摂取基準 (身体活動指数、エネルギー) 第 4 回 食事摂取基準 (各栄養素) 第 5 回 食品構成 (各栄養素の基準値) 第 6 回 食品構成 (栄養比率の考え方) 第 7 回 食品構成作成 栄養価の算定 (1) 第 8 回 食品構成作成 栄養価の算定 (2) 第 9 回 各種調査による実態把握 (身体状況 生活時間) 第 10 回 各種調査による実態把握 (栄養調査) 第 11 回 各種調査による実態把握 (食生活調査) 第 12 回 栄養指導の基本的な進め方 (個別指導と集団指導) 第 13 回 栄養指導の基本的な進め方 (栄養状態の評価) 第 14 回 栄養指導の基本的な進め方 (運動、休養) 第 15 回 まとめ					
授業外学習(予習・復習)	適宜指示					
成績評価の方法	筆記試験の成績 (70%) + 課題と小テスト (30%) により評価する。					
実務経験について	学校・給食センター・特別支援学校・行政等に学校栄養職員、栄養教諭として勤務。管理栄養士。					

(注) 栄養士必修、教職必修

授業科目	栄養指導論Ⅱ		担当者	中西 智美
	[履修年次] 1年		授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期] 後期	[単位] 2	[必修/選択] 必修	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】栄養学的基本理論に基づいた対象者自らの行動変容に導く栄養指導</p> <p>【概要】対象とする個人や集団の食生活の問題点や環境に対して、その食習慣を形作った背景を正しく理解し、対象者が自らの意思で食生活の改善に取り組み、問題解決を図ることができるように支援するための栄養指導の理論と方法について学ぶ。</p> <p>【到達目標】対象者の食生活の問題点や環境を正しく理解し、栄養指導に必要な基礎的知識や基本的な方法を習得する。対象に応じたプレゼンテーションが出来る。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 芦川修貳, 田中弘之編集『栄養士のための栄養指導論』学健書院</p> <p>(2) 菱田明, 佐々木敏監修『日本人の食事摂取基準 2020年版』第一出版 日本栄養士会編『2022年度版 管理栄養士 栄養士必携』第一出版</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 ライフステージ (妊婦・授乳婦の栄養指導)</p> <p>第 2 回 ライフステージ (乳幼児の栄養指導)</p> <p>第 3 回 ライフステージ (幼児期 3歳未満児の栄養指導)</p> <p>第 4 回 ライフステージ (幼児期 3歳以上児の栄養指導)</p> <p>第 5 回 ライフステージ (保育所給食と栄養指導)</p> <p>第 6 回 ライフステージ (学童期・思春期の栄養指導)</p> <p>第 7 回 ライフステージ (学校給食と栄養指導)</p> <p>第 8 回 ライフステージ (成人期の栄養指導)</p> <p>第 9 回 ライフステージ (生活習慣病 肥満症・高血圧症の栄養指導)</p> <p>第 10 回 ライフステージ (生活習慣病 糖尿病・脂質異常症の栄養指導)</p> <p>第 11 回 ライフステージ (高齢期の栄養指導)</p> <p>第 12 回 健康障害と栄養指導</p> <p>第 13 回 病院などの医療機関における栄養食事指導</p> <p>第 14 回 アスリートと栄養教育 (栄養指導)</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験の成績 (70%) + 課題と小テスト (30%) により評価する。			
実務経験について	学校・給食センター・特別支援学校・行政等に学校栄養職員、栄養教諭として勤務。管理栄養士。			

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	栄養指導論実習Ⅰ		担当者	中西 智美
	[履修年次] 1年		授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期] 後期	[単位] 1	[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】個人・集団を対象とした食に関する指導を通じて、生涯にわたる健康づくりのための基礎を築く教育方法</p> <p>【概要】栄養指導論で得た基本的に必要とする指導内容や方法並びに具体的な技術を統合し、個人や集団を対象として、そのニーズに応じた実用的栄養教育実施のための栄養アセスメント、栄養指導プログラムの立案、教育媒体・資料の作成。</p> <p>【到達目標】栄養指導の実施・評価を想定し、その実際を学び栄養指導が実践できるように技術を習得することを目的として、対象者への的確な栄養アセスメント、指導案の作成、媒体の選択、プレゼンテーションのスキルを習得する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 菱田明, 佐々木敏監修『日本人の食事摂取基準 2020年版』第一出版 日本栄養士会編『2022年度版 管理栄養士 栄養士必携』第一出版</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 栄養指導実習の意義と目的, 栄養指導の基礎知識 (食事摂取基準)</p> <p>第 2 回 栄養指導の基礎知識 (食品構成表の作成)</p> <p>第 3 回 栄養指導の基礎知識 (献立作成)</p> <p>第 4 回 実態把握の方法 食品構成の算定実習</p> <p>第 5 回 実態把握の方法 各種調査方法 (食事摂取状況調査など)</p> <p>第 6 回 実態把握の方法 各種調査方法 (生活習慣調査など)</p> <p>第 7 回 実態把握の方法 各種調査方法 (身体状況調査, 体力測定など)</p> <p>第 8 回 指導案の作成 (基本)</p> <p>第 9 回 指導案の作成 (実践用 グループ)</p> <p>第 10 回 プレゼンテーションの資料・媒体作成 (グループ)</p> <p>第 11 回 プレゼンテーション (グループ)</p> <p>第 12 回 プレゼンテーション (グループ), 指導案の作成 (実践用 個人)</p> <p>第 13 回 プレゼンテーションの資料・媒体作成 (食育指導 個人 その1)</p> <p>第 14 回 プレゼンテーションの資料・媒体作成 (食育指導 個人 その2)</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	発表 (50%) + 課題と小テスト (30%) + 実習への取組状況 (20%) により評価する。			
実務経験について	学校・給食センター・特別支援学校・行政等に学校栄養職員、栄養教諭として勤務。管理栄養士。			

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	栄養指導論実習Ⅱ		担当者	中西 智美
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応(要予約)
	[学期]	前期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択(注)
			[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】個人・集団を対象とした食に関する指導を通じて、生涯にわたる健康づくりのための基礎を築く教育方法</p> <p>【概要】栄養指導論で得た基本的に必要とする指導内容や方法並びに具体的な技術を統合し、集団・個別を対象とし、福祉施設病院での栄養指導のシミュレーションを展開し、体験学習により栄養指導に対する理解を深めるとともに栄養指導・教育技能の向上を図る。</p> <p>【到達目標】(1) 対象者に対する的確な栄養アセスメントが出来る。(2) 対象に応じた指導案の作成、媒体の選択が出来る。(3) 対象に応じたプレゼンテーションが出来る。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 菱田明, 佐々木敏監修『日本人の食事摂取基準 2020年版』第一出版 日本栄養士会編『2022年度版 管理栄養士 栄養士必携』第一出版</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 集団を対象とした栄養指導の方法 栄養指導内容の作成(1)</p> <p>第2回 集団を対象とした栄養指導の方法 栄養指導内容の作成(2)</p> <p>第3回 集団を対象とした栄養指導の方法 プレゼンテーション その1</p> <p>第4回 集団を対象とした栄養指導の方法 プレゼンテーション その2</p> <p>第5回 集団を対象とした栄養指導の方法 プレゼンテーション その3</p> <p>第6回 集団を対象とした栄養指導の方法 プレゼンテーション その4</p> <p>第7回 集団を対象とした栄養指導の方法 プレゼンテーション その5</p> <p>第8回 個別対症の栄養指導の基本的な考え方</p> <p>第9回 個別対症の栄養指導の方法 栄養指導計画の作成</p> <p>第10回 個別対症の栄養指導の方法(病院) プレゼンテーション その1</p> <p>第11回 個別対症の栄養指導の方法(病院) プレゼンテーション その2</p> <p>第12回 個別対症の栄養指導の方法(病院) プレゼンテーション その3</p> <p>第13回 個別対症の栄養指導の方法(病院) プレゼンテーション その4</p> <p>第14回 個別対症の栄養指導の方法(病院) プレゼンテーション その5</p> <p>第15回 個別対症の栄養指導の方法(病院) プレゼンテーション その6, まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	発表(50%) + 課題と小テスト(30%) + 実習への取組状況(20%)により評価する。			
実務経験について	学校・給食センター・特別支援学校・行政等に学校栄養職員, 栄養教諭として勤務。管理栄養士。			

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	公衆栄養学		担当者	児玉敬三
	[履修年次]	2年	授業外対応	授業終了後
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択必修(注)
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>地域で生活している様々な人々のQOL向上のために、集団を対象とした「栄養学」をどのように実践するかを学ぶ</p> <p>【概要】公衆栄養の概念。健康・栄養問題の現状と課題。栄養政策。栄養疫学。公衆栄養マネジメント。公衆栄養プログラムの展開</p> <p>【到達目標】QOLの向上と健康寿命の延伸につながる様々な施策の内容を理解し、栄養士としての具体的な働きが理解できる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) ウェルネス 公衆栄養学 2019年度版 医歯薬出版株式会社</p> <p>(2) 日本人の食事摂取基準に関する図書</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス「公衆栄養学」とは</p> <p>第2回 公衆栄養学の概念(1)</p> <p>第3回 公衆栄養学の概念(2)</p> <p>第4回 健康・栄養問題の現状と課題(1)</p> <p>第5回 健康・栄養問題の現状と課題(2)</p> <p>第6回 栄養政策(1)</p> <p>第7回 栄養政策(2)</p> <p>第8回 栄養疫学(1)</p> <p>第9回 栄養疫学(2)</p> <p>第10回 公衆栄養マネジメント(1)</p> <p>第11回 公衆栄養マネジメント(2)</p> <p>第12回 公衆栄養マネジメント(3)</p> <p>第13回 公衆栄養学プログラムの展開(1)</p> <p>第14回 公衆栄養学プログラムの展開(2)</p> <p>第15回 まとめ、総括</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験(85%)、出席15%			
実務経験について	病院に勤務、災害支援栄養士			

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	栄養情報処理		担当者	中西 智美
	[履修年次] 1年		授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期] 後期	[単位] 1	[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】健康・栄養状態、食行動、食環境等に関する情報の収集・分析、それらを総合的に判断する能力</p> <p>【概要】栄養士には、集めた情報を統計学的に処理し、客観的に評価することが求められている。科学的根拠を創出するため、コンピュータを使用し、実践に沿った具体的な情報収集・分析の方法を学ぶ。</p> <p>【到達目標】栄養士業務に関わる情報処理の基礎並びにアンケート集計の基礎を学び、これからの栄養士に望まれる栄養情報処理の基礎を身に付けることを目的とする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 石村友二郎、廣田直子著『よくわかる統計学』介護福祉・栄養管理データ編 (第3版) 東京図書</p> <p>(2) 菱田明、佐々木敏監修『日本人の食事摂取基準 2020年版』第一出版 日本栄養士会編『2022年度版 管理栄養士 栄養士必携』第一出版</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 コンピュータの役割、機能、実際</p> <p>第 2回 栄養教育と統計学 統計学の基礎 データのまとめ方 (1)</p> <p>第 3回 栄養教育と統計学 統計学の基礎 データのまとめ方 (2)</p> <p>第 4回 栄養教育と統計学 統計学の基礎 データのまとめ方 (3)</p> <p>第 5回 栄養教育と統計学 統計学の基礎 データのまとめ方 (4)</p> <p>第 6回 栄養教育と統計学 統計学の基礎 データのまとめ方 (5)</p> <p>第 7回 データ変換によるデータ集計のまとめ方 (単純集計)</p> <p>第 8回 データ変換によるデータ集計のまとめ方 (クロス集計)</p> <p>第 9回 データ変換によるデータ集計のまとめ方 (クロス集計 オッズ比)</p> <p>第 10回 データ変換によるデータ集計のまとめ方 (区間推定)</p> <p>第 11回 データ変換によるデータ集計のまとめ方 (検定方法)</p> <p>第 12回 コンピュータによる献立作成</p> <p>第 13回 コンピュータによる栄養価計算</p> <p>第 14回 コンピュータによる月報作成</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	発表 (50%) + 課題 (30%) + 実習への取組状況 (20%) により評価する。			
実務経験について	学校・給食センター・特別支援学校・行政等に学校栄養職員、栄養教諭として勤務。管理栄養士。			

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	臨床栄養学 I		担当者	有村 恵美
	[履修年次] 1年		授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期] 後期	[単位] 2	[必修/選択] 選択 (注)	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】病態に基づいた栄養・食事療法</p> <p>【概要】主要な疾患の概要 (疫学・発症機序・病態・臨床症状)、診断基準、治療法を学習することで、各種疾患の栄養学的なアプローチの基本的な考え方を理解する。</p> <p>【到達目標】主要な疾患の概要 (疫学・発症機序・病態・臨床症状)、診断基準、治療法を理解し、栄養の関連を認識し、各疾患別に必要とされている栄養・食事療法について理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 位田忍ほか『臨床栄養学概論』(化学同人) 日本糖尿病学会編『糖尿病食事療法のための食品交換表』(日本糖尿病協会・文光堂) 香川明夫監修『八訂食品成分表』(女子栄養大学出版部)</p> <p>(2) 日本病態栄養学会『病態栄養ガイドブック』(南江堂)</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 臨床栄養学 (概念・意義)</p> <p>第 2回 代謝性疾患 (病態と栄養管理: 糖尿病)</p> <p>第 3回 代謝性疾患 (病態と栄養管理: 糖尿病)</p> <p>第 4回 代謝性疾患 (病態と栄養管理: 脂質異常症)</p> <p>第 5回 代謝性疾患 (病態と栄養管理: 脂質異常症)</p> <p>第 6回 代謝性疾患 (病態と栄養管理: 痛風・高尿酸血症)</p> <p>第 7回 代謝性疾患 (病態と栄養管理: 肥満)</p> <p>第 8回 栄養法 (経腸栄養・経静脈栄養)</p> <p>第 9回 消化器疾患 (病態と栄養管理: 肝臓疾患)</p> <p>第 10回 消化器疾患 (病態と栄養管理: 肝臓疾患)</p> <p>第 11回 消化器疾患 (病態と栄養管理: 胃腸疾患)</p> <p>第 12回 消化器疾患 (病態と栄養管理: 胃腸疾患)</p> <p>第 13回 腎疾患 (病態と栄養管理: 慢性腎臓病)</p> <p>第 14回 腎疾患 (病態と栄養管理: 透析)</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験 (60%)、課題・小テスト・授業への取り組み・参加状況 (40%) により評価する。			
実務経験について	病院で管理栄養士として勤務、病態栄養専門管理栄養士、糖尿病病態栄養専門管理栄養士			

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	臨床栄養学Ⅱ		担当者	有村 恵美				
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2	〔必修/選択〕	選択 (注)	〔授業形態〕	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】病態に基づいた栄養・食事療法 (実践から応用)</p> <p>【概要】 主要な疾患の成因・病態を学習することで、各種疾患の栄養学的なアプローチの基本的な考え方を理解する。各疾患別の病態の知識をもとに、治療のための栄養・食事基準・調理のポイントを理解する。</p> <p>【到達目標】 主要な疾患の病態を理解し、栄養の関連を認識できること。 各疾患別の栄養・食事療法を理解し、具体的な治療食を考えられる力を身につける。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 位田忍ほか『臨床栄養学概論』(化学同人) 玉川和子ほか『臨床栄養学実習書』(医歯薬出版株式会社) 日本糖尿病学会編『糖尿病食事療法のための食品交換表』(日本糖尿病協会・文光堂) 黒川清監修『腎臓病食品交換表』(医歯薬出版株式会社) 香川明夫監修『八訂食品成分表』(女子栄養大学出版部)</p> <p>(2) 日本病態栄養学会『病態栄養ガイドブック』(南江堂)</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 循環器疾患 (病態と栄養管理：動脈硬化症)</p> <p>第 2 回 循環器疾患 (病態と栄養管理：高血圧)</p> <p>第 3 回 循環器疾患 (病態と栄養管理：心疾患)</p> <p>第 4 回 その他の疾患 (病態と栄養管理)</p> <p>第 5 回 その他の疾患 (病態と栄養管理)</p> <p>第 6 回 栄養評価 (栄養アセスメント・スクリーニング)</p> <p>第 7 回 一般治療食 (常食)</p> <p>第 8 回 一般治療食 (形態別治療食)</p> <p>第 9 回 特別治療食 (エネルギーコントロール食)</p> <p>第 10 回 特別治療食 (脂質調整食)</p> <p>第 11 回 特別治療食 (食塩制限食)</p> <p>第 12 回 特別治療食 (腎臓病食品交換表)</p> <p>第 13 回 特別治療食 (たんぱく質調整食)</p> <p>第 14 回 特別治療食 (カリウム制限食・水分制限食)</p> <p>第 15 回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	筆記試験 (60%) , 課題・小テスト・授業への取り組み・参加状況 (40%) により評価する。							
実務経験について	病院で管理栄養士として勤務, 病態栄養専門管理栄養士, 糖尿病病態栄養専門管理栄養士							

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	臨床栄養学実習		担当者	有村 恵美				
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	〔学期〕	前期集中	〔単位〕	2	〔必修/選択〕	選択 (注)	〔授業形態〕	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】学外実習 病院での栄養士全般 (給食管理・栄養管理・栄養食事指導) の業務による実習</p> <p>【概要】 県内外の医療現場における2週間の実習で給食管理業務と以下のような内容を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療に携わる多職種と連携を図ったチーム医療の中で、専門職として栄養士の実情を把握。 2. 対象者の臨床成績を把握し、的確な食事計画や栄養管理、栄養食事指導。 3. 対象者の心理を理解し信頼を得る。 <p>【到達目標】 医療現場で提供されている治療食の実態を把握し、実際に遂行されている栄養士全般 (給食管理・栄養管理・栄養食事指導) 業務の習得。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 位田忍ほか『臨床栄養学概論』(化学同人) 玉川和子ほか『臨床栄養学実習書』(医歯薬出版株式会社) 日本糖尿病学会編『糖尿病食事療法のための食品交換表』(日本糖尿病協会・文光堂) 黒川清監修『腎臓病食品交換表』(医歯薬出版株式会社) 香川明夫監修『八訂食品成分表』(女子栄養大学出版部) 伊藤貞嘉, 佐々木敏監修『日本人の食事摂取基準 2020年版』(第一出版)</p> <p>(2) 日本病態栄養学会『病態栄養ガイドブック』(南江堂)</p>							
授業スケジュール	<p>各施設により異なる</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 指導管理栄養士等からの説明 (院内における栄養部門の位置と役割 等) 2. 病院給食管理業務の実際 (施設概要・給食組織・業務分担および栄養士業務 等) 3. 供食状況の実際 (一般治療食・特別治療食 等) 4. 病態栄養管理業務の実際 (栄養アセスメント・栄養計画・栄養評価 等) 5. 栄養食事指導業務の実際 (個人指導・集団指導・栄養教育用媒体作成および栄養食事指導評価の方法 等) 6. 多職種連携の実際 (チーム医療・各種委員会見学 等) 7. 報告会 (実習内容・反省・課題 等) 							
授業外学習(予習・復習)	実習課題の取り組み, 実習ノート作成, 報告会準備							
成績評価の方法	実習ノート (20%) , 報告発表 (10%) , 実習への取り組み状況 (70%) により評価する。							
実務経験について	病院で管理栄養士として勤務, 病態栄養専門管理栄養士, 糖尿病病態栄養専門管理栄養士							

(注) 栄養士必修, 教職必修

授業科目	病理学		担当者	山田 博久
	[履修年次] 2年		授業外対応	授業終了後
	[学期] 後期	[単位] 1	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】人体等における病気の成り立ち。</p> <p>【概要】1)ヒトの代表的な疾患について基本的な理解を持つこと。2)学生の知識や理解度に応じて授業内容は変化します。学習効果を上げるため、以前授業でとりあげた項目を繰り返し授業することもあります。</p> <p>【到達目標】管理栄養士国家試験に必要な基本知識を得ること。この試験の医学系設問はレベルが高く指定時間内で必要な所すべてを講義することは困難です。試験合格のみに目標をしばった授業も可能ですが、表面的な知識しか持たず、本当の問題解決能力がないこととなる危険性が大です。また大学は試験合格の為の予備校ではありません。そこで幾つかの部分にしばって程度の高い授業（医学部3-5年生相当）を行い、また逆に基本的な科学知識の部分も押さえ、以後の自分で勉強を行う力をつけることを目標にします。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 系統看護学講座 専門基礎4 病理学</p> <p>(2) 特に定めませんが、さまざまな分野の書物を多量に読むことは学生の基本であることを心得ておくこと。管理栄養士国家試験の医学系設問は(1)の教科書のみでは不十分です。これについては講義中にも説明します。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 病理学で学ぶこと</p> <p>第2回 炎症、免疫、感染症 呼吸器系の疾患</p> <p>第3回 循環障害、循環器、の疾患 代謝障害</p> <p>第4回 先天異常、遺伝子異常、神経系の疾患</p> <p>第5回 補足</p> <p>第6回 消化器系、腎泌尿器系、内分泌系の疾患</p> <p>第7回 腫瘍、血液の疾患、老化と死</p> <p>第8回 補足</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験の成績に加え授業中の発言や学生からの質問を併せて評価する。			
実務経験について	内科神経内科医師として30年以上病院勤務。大学非常勤講師として数年間講義を行う。複数の看護学校で講義を行う。			

※7.5回

授業科目	学校栄養教育論		担当者	中西 智美
	[履修年次] 1年		授業外対応	適宜対応
	[学期] 後期	[単位] 2	[必修/選択] 選択(注)	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】学校における食に関する指導を通じて生涯にわたる健康づくりのための教育方法</p> <p>【概要】学校における食に関する指導の全体計画の下、学級担任や関係職員と連携しつつ食に関する指導を行うことが大切である。学校給食を生きた教材として活用し、効果的な指導を行うために、教育的資質と栄養に関する専門性を併せ有す栄養教諭の役割や職務内容、食文化、食に関する指導方法等について学ぶ。</p> <p>【到達目標】学校における食育の基本計画策定に参画し、児童生徒の心理や発達段階に配慮した指導、また学級担任や養護教諭、外部関係者等と連携して教育活動全体を通じた食に関する指導を行うために、実践を兼ねた演習を行い、知識や方法を習得する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 金田雅代 編著『四訂 栄養教諭論—理論と実際—第2版』建帛社</p> <p>(2) 文部科学省 『食に関する指導の手引き—第二次改訂版—』平成31年3月 東山書房</p> <p>文部科学省 『栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育～チームで取り組む食育推進のPDCA～』平29年</p> <p>文部科学省 : 小学生用食育教材『たのしい食事つながる食育』平成28年2月</p> <p>文部科学省 : 中学生用食育教材『食の探究と社会への広がり』令和3年3月</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 栄養教諭の制度と役割、現状と課題、職務内容、関係法令等</p> <p>第2回 学校給食の教育的意義と役割、学校組織と栄養教諭の位置付け</p> <p>第3回 学校給食の歴史と食文化の変遷</p> <p>第4回 子どもの発達と食生活（国民の栄養をめぐる諸事情の理解を含む）</p> <p>第5回 食に関する指導の全体計画（実態把握・計画・実施・評価）</p> <p>第6回 食に関する指導の展開</p> <p>第7回 給食の時間における食に関する指導①</p> <p>第8回 給食の時間における食に関する指導②</p> <p>第9回 学校給食における栄養管理の現状と課題</p> <p>第10回 学校給食における衛生管理の現状と課題</p> <p>第11回 発達段階に応じた食に関する指導</p> <p>第12回 教科等における食に関する指導①</p> <p>第13回 教科等における食に関する指導②</p> <p>第14回 個別栄養相談指導（食物アレルギー・肥満・やせ・貧血等）</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験の成績（70%）、課題・小テスト・授業への取組・参加状況（30%）により評価する。			
実務経験について	学校・給食センター・特別支援学校・行政等に学校栄養職員、栄養教諭として勤務。管理栄養士。			

(注) 教職必修

授業科目	化学概論		担当者	古川那由太・木下朋美	
	[履修年次]	1年	授業外対応	オフィスアワーを参照	
	[学期]	前期	[単位]	2	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】化学の基礎を体系的に学ぶことにより化学への理解を深め、専門科目を履修する上で必要な基礎固めをします。</p> <p>【概要】化学の基礎的知識として、原子・分子の構造、化学結合、物質質量・溶液の濃度の表し方、酸・塩基、酸化・還元、有機化合物の種類について解説します。1～8回：古川、9～15回：木下</p> <p>【到達目標】①物質の構成を知り、化学結合について理解する。②物質質量を使った溶液の濃度表示を理解する。③酸・塩基および酸化・還元化学反応について理解する。④有機化合物の種類と基本的な官能基を理解する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 高校「基礎化学」および「化学」レベルのプリントを配布します。</p> <p>(2)</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション、原子の構造</p> <p>第2回 化学結合（イオンの成り立ちとイオン結合）</p> <p>第3回 化学結合（共有結合、極性、金属結合）</p> <p>第4回 質量と濃度（原子量、物質質量、モル濃度）</p> <p>第5回 化学反応式（化学反応式のつくり方、化学反応の量的関係）</p> <p>第6回 酸と塩基（酸・塩基の性質、水素イオン濃度、中和反応と塩の性質）</p> <p>第7回 酸化と還元（酸化・還元の定義、酸化数、酸化還元反応）</p> <p>第8回 前半のまとめ</p> <p>第9回 有機化合物の特徴と分類（官能基、構造式、異性体）</p> <p>第10回 脂肪族炭化水素—1（アルカン）</p> <p>第11回 脂肪族炭化水素—2（アルケン、アルキン）</p> <p>第12回 酸素を含む脂肪族化合物—1（アルコール、アルデヒド、ケトン）</p> <p>第13回 酸素を含む脂肪族化合物—2（カルボン酸、エステル）</p> <p>第14回 芳香族化合物—1（フェノール類、芳香族カルボン酸）</p> <p>第15回 芳香族化合物—2（ニトロ化合物、芳香族アミン）</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	期末試験（60%）、小テスト（40%）				
実務経験について	なし				

授業科目	生物概論		担当者	古川那由太	
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応	
	[学期]	前期	[単位]	2	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食物栄養専攻で学習する専門科目の基礎となる生物学について系統的に理解する。</p> <p>【概要】そこに存在するものが生命体かどうか直感的に理解することは簡単だが、生命体を正確に定義することは難しい。生命体は地球にありふれた物質で構成されているのにもかかわらず、その本質を理解しにくくしている要因の1つとして、巧妙精緻に組織化された生命現象が挙げられる。本教科では生命体を構成する物質と、生命体の基本的な機能であるエネルギー代謝、自己増殖、恒常性維持に関する学習を通じて生命体について理解を深める。</p> <p>【到達目標】生物を構成する基本的な物質を列挙し、その特徴を説明できる。酵素の特性と細胞内のエネルギー代謝について説明できる。遺伝情報の流れと遺伝の仕組みを説明できる。恒常性維持に関わる情報伝達システムと生体防御機構について説明できる。動物個体の成り立ちを系統的に説明できる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 堀田久子ら著「食と栄養を学ぶための生物学」化学同人 2022</p> <p>(2) 適宜紹介</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション、生物の基本的な性質（生物の定義、物質と栄養）</p> <p>第2回 細胞の構造と機能（細胞膜、細胞の内部構造、細胞骨格とモータータンパク質）</p> <p>第3回 細胞を構成する化学成分（アミノ酸とタンパク質、炭水化物、脂質、核酸）</p> <p>第4回 酵素（酵素の役割、分類、構造、特性、調節）</p> <p>第5回 代謝のしくみ（三大栄養素からのエネルギーの取り出し）</p> <p>第6回 遺伝情報の発現のしくみ1（遺伝情報、DNA複製、転写）</p> <p>第7回 遺伝情報の発現のしくみ2（翻訳、突然変異、遺伝子発現調節）</p> <p>第8回 遺伝（遺伝の基本的なしくみ、性と遺伝、連鎖と独立）</p> <p>第9回 前半のまとめ（発表）</p> <p>第10回 人体の器官1（消化器）</p> <p>第11回 人体の器官2（循環器、呼吸器、泌尿器、骨と筋肉）</p> <p>第12回 人体と器官3（神経、感覚器）</p> <p>第13回 恒常性の維持（血液の働きと構成成分、ホルモンの働き）</p> <p>第14回 個体を守る免疫システム（白血球の働き、自然免疫と獲得免疫、免疫寛容と自己免疫疾患、アレルギー）</p> <p>第15回 後半のまとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	教科書の熟読、関連動画の閲覧				
成績評価の方法	筆記試験（50%）、小テスト（25%）、発表（25%）				
実務経験について	なし				

9 生活科学専攻専門科目

授業科目	生活化学		担当者	浅海 真弓
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応
	[学期]	前期	[単位]	2
			[必修/選択]	必修
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 生活の中にある化学物質や現象について学び、化学の役割について考える。</p> <p>【概要】 私たちの生活には、様々な化学物質や化学的な現象が関わっている。この授業では、衣生活に関わる物質や現象を取り上げ、化学の力やしぐみを学ぶ。主に被服の洗浄（被服整理学分野）と染色のメカニズム（染色加工学分野）について解説する。</p> <p>【到達目標】 化学的な視点から洗浄や染色の現象について理解し、被服の適切な管理に活かすことができる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 片山倫子編著『衣服管理の科学』建帛社 日本衣料管理協会刊行委員会編『改訂 被服整理学』日本衣料管理協会 日本衣料管理協会出版部編『染色加工学』日本衣料管理協会 和歌山県工業技術センター編『現場で役立つプラスチック・繊維材料のきほん』コロナ社</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 生活の中の化学 — 身近な生活用品と化学との関わり</p> <p>第2回 被服整理1 — 被服の汚れ（汚れの分類）</p> <p>第3回 被服整理2 — 被服の洗浄（洗濯用水と洗剤）</p> <p>第4回 被服整理3 — 被服の洗浄（界面活性剤の種類と働き）</p> <p>第5回 被服整理4 — 被服の洗浄（配合剤の種類と働き）</p> <p>第6回 被服整理5 — 被服の洗浄（洗濯条件と洗浄力の関係）</p> <p>第7回 被服整理6 — 被服の洗浄（商業洗濯）</p> <p>第8回 被服整理7 — しみ抜き、漂白と増白、柔軟仕上げ</p> <p>第9回 被服整理8 — 被服の保管（防虫・防カビ）</p> <p>第10回 染色加工1 — 染色の方法（浸染と捺染）</p> <p>第11回 染色加工2 — 染料の種類</p> <p>第12回 染色加工3 — 染料と繊維の結合</p> <p>第13回 染色加工4 — 染色堅ろう度（変退色と汚染）</p> <p>第14回 染色加工5 — 繊維加工（外観・風合いを変える加工と機能加工）</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示（予習・復習用のプリント配布）			
成績評価の方法	レポート（45%）＋ 授業ごとに提出するワークシート（35%）＋ 課題（20%）			
実務経験について	なし			

授業科目	ビジュアルデザイン論 I		担当者	北一浩
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応（要予約）
	[学期]	前期	[単位]	2
			[必修/選択]	必修
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 デザインを学ぶ上で前提となる、アイデアに関する基礎的な知識及び考え方を学ぶ。</p> <p>【概要】 ビジュアルデザインのみならず様々な分野で求められるアイデアに関する基礎的な知識及び考え方を学ぶ。アイデアの生み出し方を段階的に講義していく。</p> <p>【到達目標】 アイデアとは何かを理解し、その生み出し方を習得する。また、それらが日常の多様な場面で活用できることを理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 参考文献は適宜紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 導入 アイデアとは？</p> <p>第3回 発想の準備1 もっと楽しもう</p> <p>第4回 発想の準備2 自分を信じよう</p> <p>第5回 発想の準備3 「その気」になろう</p> <p>第6回 発想の準備4 子供に戻ろう</p> <p>第7回 発想の準備5 「知りたがり」になろう</p> <p>第8回 発想の準備6 笑われることを恐れるな</p> <p>第9回 発想の準備7 「考え方」のヒント</p> <p>第10回 発想の準備8 いろいろなものを組み合わせよう</p> <p>第11回 発想のプロセス1 質問を変えてみよう</p> <p>第12回 発想のプロセス2 情報をかき集めよう</p> <p>第13回 発想のプロセス3 いったん全部忘れてしまおう</p> <p>第14回 発想のプロセス4 ひらめいたら実践しよう</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	プレゼンテーション（60%） 提出課題（40%）			
実務経験について	広告会社にてグラフィックデザイナーとして勤務の後、フリーランスのグラフィックデザイナーとして活動。			

授業科目	住生活学		担当者	川島 茂																																													
	[履修年次] 1年		授業外対応	適宜対応 (要予約)																																													
	[学期] 前期	[単位] 2	[必修/選択] 必修 (注)	[授業形態] 講義																																													
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生活環境をとりまく建築計画理論の学習と計画手法の習得</p> <p>【概要】建築計画における基本的な検討要因や手法を解説しつつ、建築設計立案における要件の多様性を理解しつつ、住環境の将来展望を問う。</p> <p>【到達目標】建築計画の基本的な原理を理解しつつ、現代生活に対応し得る設計、計画手法の知識を習得する。</p>																																																
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 建築計画教材研究所 編「改訂版 建築計画を学ぶ」理工学図書</p> <p>(2) 日本建築学会 編「コンパクト建築設計資料」丸善</p>																																																
授業スケジュール	<table border="0"> <tr><td>第 1 回</td><td>ガイダンス</td><td>建築の学び方、考え方</td></tr> <tr><td>第 2 回</td><td>建築設計の主題</td><td>建築設計理念について</td></tr> <tr><td>第 3 回</td><td>建築技術者の役割</td><td>設計競技による設計者選定</td></tr> <tr><td>第 4 回</td><td>建築計画とは-1</td><td>建築行為 (生産) と建築計画</td></tr> <tr><td>第 5 回</td><td>建築計画とは-2</td><td>建築計画と設計図書</td></tr> <tr><td>第 6 回</td><td>空間と行為-1</td><td>建築の機能 その歴史的背景</td></tr> <tr><td>第 7 回</td><td>空間と行為-2</td><td>建築の機能 合理からコミュニティデザインへ</td></tr> <tr><td>第 8 回</td><td>近現代建築について-1</td><td>ル・コルビュジェの建築</td></tr> <tr><td>第 9 回</td><td>近現代建築について-2</td><td>ミース・ファン・デル・ローエの建築</td></tr> <tr><td>第 10 回</td><td>近現代建築について-3</td><td>建築の公共空間</td></tr> <tr><td>第 11 回</td><td>寸法の計画</td><td>人体寸法と動作寸法</td></tr> <tr><td>第 12 回</td><td>プランニング演習</td><td>室空間のプランニング</td></tr> <tr><td>第 13 回</td><td>風土・文化・建築</td><td>日本の住空間</td></tr> <tr><td>第 14 回</td><td>文化・社会・建築</td><td>日本の現代住宅建築</td></tr> <tr><td>第 15 回</td><td>まとめ・総合レポート出題</td><td></td></tr> </table>				第 1 回	ガイダンス	建築の学び方、考え方	第 2 回	建築設計の主題	建築設計理念について	第 3 回	建築技術者の役割	設計競技による設計者選定	第 4 回	建築計画とは-1	建築行為 (生産) と建築計画	第 5 回	建築計画とは-2	建築計画と設計図書	第 6 回	空間と行為-1	建築の機能 その歴史的背景	第 7 回	空間と行為-2	建築の機能 合理からコミュニティデザインへ	第 8 回	近現代建築について-1	ル・コルビュジェの建築	第 9 回	近現代建築について-2	ミース・ファン・デル・ローエの建築	第 10 回	近現代建築について-3	建築の公共空間	第 11 回	寸法の計画	人体寸法と動作寸法	第 12 回	プランニング演習	室空間のプランニング	第 13 回	風土・文化・建築	日本の住空間	第 14 回	文化・社会・建築	日本の現代住宅建築	第 15 回	まとめ・総合レポート出題	
第 1 回	ガイダンス	建築の学び方、考え方																																															
第 2 回	建築設計の主題	建築設計理念について																																															
第 3 回	建築技術者の役割	設計競技による設計者選定																																															
第 4 回	建築計画とは-1	建築行為 (生産) と建築計画																																															
第 5 回	建築計画とは-2	建築計画と設計図書																																															
第 6 回	空間と行為-1	建築の機能 その歴史的背景																																															
第 7 回	空間と行為-2	建築の機能 合理からコミュニティデザインへ																																															
第 8 回	近現代建築について-1	ル・コルビュジェの建築																																															
第 9 回	近現代建築について-2	ミース・ファン・デル・ローエの建築																																															
第 10 回	近現代建築について-3	建築の公共空間																																															
第 11 回	寸法の計画	人体寸法と動作寸法																																															
第 12 回	プランニング演習	室空間のプランニング																																															
第 13 回	風土・文化・建築	日本の住空間																																															
第 14 回	文化・社会・建築	日本の現代住宅建築																																															
第 15 回	まとめ・総合レポート出題																																																
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示																																																
成績評価の方法	総合レポート (40%)、レポート・課題 (60%)																																																
実務経験について	建築設計監理、コンサルタント業務																																																

(注) 二級建築士 (木造建築士) 資格指定科目、教職必修

授業科目	色彩学		担当者	坂上 ちえ子																														
	[履修年次] 1年		授業外対応	適宜対応																														
	[学期] 前期	[単位] 2	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義																														
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>生活のあらゆる場面で欠かすことのできない重要な要素である「色彩」について学ぶ。</p> <p>【概要】</p> <p>「色」は身近にあるため、好き、嫌いといった感覚で捉えがちである。この講義では、色覚のメカニズムや色彩心理、色彩調和、色彩計画といった色の基礎的な理論や体系的な知識を学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <p>基礎理論を習得し、それらをコーディネートなどに応用できることと、色彩に関する検定に挑戦することを目指す。</p>																																	
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 大井義雄・川崎秀昭『カラーコーディネーター入門 色彩 改訂増補版』財団法人 日本色彩研究所</p> <p>(2) 随時紹介</p>																																	
授業スケジュール	<table border="0"> <tr><td>第 1 回</td><td>オリエンテーション：講義概要と進め方</td></tr> <tr><td>第 2 回</td><td>色の基礎知識 1：色とは：色が見える仕組み</td></tr> <tr><td>第 3 回</td><td>色の基礎知識 2：色の記録・伝達方法① 色名</td></tr> <tr><td>第 4 回</td><td>色の基礎知識 3：色の記録・伝達方法② 表色系</td></tr> <tr><td>第 5 回</td><td>色の基礎知識 4：色の混合：加法混色・減法混色</td></tr> <tr><td>第 6 回</td><td>色の基礎知識 5：照明：演色性</td></tr> <tr><td>第 7 回</td><td>色の基礎知識 6：色彩の心理① 色の見えの効果</td></tr> <tr><td>第 8 回</td><td>色の基礎知識 7：色彩の心理② 色のイメージ</td></tr> <tr><td>第 9 回</td><td>色の基礎知識 8：色彩調和① 色彩調和の基本形式</td></tr> <tr><td>第 10 回</td><td>色の基礎知識 9：色彩調和② 配色技法</td></tr> <tr><td>第 11 回</td><td>色の基礎知識 10：色彩調和論</td></tr> <tr><td>第 12 回</td><td>色の応用 1：色彩計画</td></tr> <tr><td>第 13 回</td><td>色の応用 2：色と文化</td></tr> <tr><td>第 14 回</td><td>色の応用 3：商品と色</td></tr> <tr><td>第 15 回</td><td>まとめ</td></tr> </table>				第 1 回	オリエンテーション：講義概要と進め方	第 2 回	色の基礎知識 1：色とは：色が見える仕組み	第 3 回	色の基礎知識 2：色の記録・伝達方法① 色名	第 4 回	色の基礎知識 3：色の記録・伝達方法② 表色系	第 5 回	色の基礎知識 4：色の混合：加法混色・減法混色	第 6 回	色の基礎知識 5：照明：演色性	第 7 回	色の基礎知識 6：色彩の心理① 色の見えの効果	第 8 回	色の基礎知識 7：色彩の心理② 色のイメージ	第 9 回	色の基礎知識 8：色彩調和① 色彩調和の基本形式	第 10 回	色の基礎知識 9：色彩調和② 配色技法	第 11 回	色の基礎知識 10：色彩調和論	第 12 回	色の応用 1：色彩計画	第 13 回	色の応用 2：色と文化	第 14 回	色の応用 3：商品と色	第 15 回	まとめ
第 1 回	オリエンテーション：講義概要と進め方																																	
第 2 回	色の基礎知識 1：色とは：色が見える仕組み																																	
第 3 回	色の基礎知識 2：色の記録・伝達方法① 色名																																	
第 4 回	色の基礎知識 3：色の記録・伝達方法② 表色系																																	
第 5 回	色の基礎知識 4：色の混合：加法混色・減法混色																																	
第 6 回	色の基礎知識 5：照明：演色性																																	
第 7 回	色の基礎知識 6：色彩の心理① 色の見えの効果																																	
第 8 回	色の基礎知識 7：色彩の心理② 色のイメージ																																	
第 9 回	色の基礎知識 8：色彩調和① 色彩調和の基本形式																																	
第 10 回	色の基礎知識 9：色彩調和② 配色技法																																	
第 11 回	色の基礎知識 10：色彩調和論																																	
第 12 回	色の応用 1：色彩計画																																	
第 13 回	色の応用 2：色と文化																																	
第 14 回	色の応用 3：商品と色																																	
第 15 回	まとめ																																	
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示																																	
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + 授業での活動内容 (30%)																																	
実務経験について	なし																																	

授業科目	衣生活学		担当者	浅海 真弓	
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応	
	[学期]	前期	[単位]	2	
		[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 衣服について様々な側面から多角的に学び、生活における衣服の役割について考える。</p> <p>【概要】 衣服の歴史や着用目的、衣服の機能、衣服素材の特性、衣服の管理方法などの内容を取り上げ、快適、安全で豊かな衣生活を送るために必要な知識を習得する。</p> <p>【到達目標】 衣服の役割を理解するとともに、日常の衣生活に関わる多様な知識を習得する。そして、自らの衣生活の現状と問題点を把握し、解決に向けて実践できるようになることを目標とする。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 岡田宣子編著『ビジュアル衣生活論』建帛社 酒井豊子、藤原康晴編著『ファッションと生活—現代衣生活論』放送大学教育振興会</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 衣服と人間 — あなたはなぜ服を着ますか？</p> <p>第2回 衣服と民族 — 気候風土と民族衣装の形態</p> <p>第3回 衣服の変遷1 — 西洋の服装の変遷</p> <p>第4回 衣服の変遷2 — 日本の服装の変遷</p> <p>第5回 衣服の装いと心理 — 服装から受ける印象と引き起こされる感情</p> <p>第6回 衣服の素材1 — 繊維の種類と特徴</p> <p>第7回 衣服の素材2 — 糸・布の種類と特徴</p> <p>第8回 衣服の管理1 — 洗濯、漂白、柔軟仕上げ、糊付け、アイロン仕上げ、保管</p> <p>第9回 衣服の管理2 — (実習) しみ抜き</p> <p>第10回 衣服の品質と表示 — 繊維の組成と取扱い表示、サイズ表示</p> <p>第11回 衣服の機能と快適性1 — 衣服による体温調節 (衣服内気候)</p> <p>第12回 衣服の機能と快適性2 — 衣服の動きやすさと拘束性 (衣服王)</p> <p>第13回 衣服の設計 — 乳幼児・高齢者の衣服への配慮と工夫、ユニバーサルファッション</p> <p>第14回 衣服の生産と流通 — アパレル産業と既製服</p> <p>第15回 衣服と環境 — 衣服の廃棄とリサイクル</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示 (予習・復習用のプリント配布)				
成績評価の方法	筆記試験 (50%) + 授業ごとに提出するワークシート (35%) + 課題 (15%)				
実務経験について	なし				

(注) 教職必修

授業科目	ファッション造形基礎		担当者	坂上 ちえ子	
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応	
	[学期]	前期	[単位]	1	
		[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 被服製作に関わる基礎理論と基本的な製作技術を学ぶ。</p> <p>【概要】 まず基礎縫いを行い、縫製用具や機器の正確な使用方法を身につける。つぎに、基本的な被服の製作を通して着用するヒトの体型を把握しながら縫製の手順や技術を理解する。さらに、編物、刺繍など手芸の基礎も学ぶ。</p> <p>【到達目標】 裏地なしの上衣や手芸品などが作成できるよう基本的な縫製、手芸技法を身につける。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 適宜紹介</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：講義概要と進め方</p> <p>第2回 基礎縫い1：手縫い① 用具の説明、並縫い</p> <p>第3回 基礎縫い2：手縫い② まつり縫い、他</p> <p>第4回 基礎縫い3：手縫い③ ボタン、スナップつけ</p> <p>第5回 基礎縫い4：ミシン縫製 ミシン、ロックミシン</p> <p>第6回 上衣 (チュニックブラウス) 製作1：人体計測と製図</p> <p>第7回 上衣 (チュニックブラウス) 製作2：裁断、しるしつけ</p> <p>第8回 上衣 (チュニックブラウス) 製作3：仮縫い、試着</p> <p>第9回 上衣 (チュニックブラウス) 製作4：本縫い①</p> <p>第10回 上衣 (チュニックブラウス) 製作5：本縫い②</p> <p>第11回 上衣 (チュニックブラウス) 製作6：仕上げ、着装評価</p> <p>第12回 工芸1：レース編み</p> <p>第13回 工芸2：毛糸棒針編み</p> <p>第14回 工芸3：フランス刺繍</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	提出課題 (70%) + 授業での活動内容 (30%)				
実務経験について	なし				

(注) 教職必修

授業科目	消費生活論		担当者	坂上 ちえ子	
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応	
	[学期]	後期	[単位]	2	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 私たちが「生活すること」は「消費すること」である。消費者問題とその背景を知り、課題と解決、関連する事項を学ぶ。</p> <p>【概要】 2004年に改正消費者保護基本法「消費者基本法」が施行され、消費者の権利が明記された。その中に、「教育の機会の確保」があり、自ら学び、協働して課題を解決することが求められている。主体的に参画できるよう基礎知識を身に付ける。</p> <p>【到達目標】 保護されるべき消費者ではなく、生産企業や社会問題との関わりを見直し、真に自立した消費者となることを目指す。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント (2) 随時紹介</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：講義概要と進め方 第2回 消費者問題1：消費者問題とは 第3回 消費者問題2：消費者教育 第4回 消費者問題3：表示と消費者 第5回 消費者問題4：消費者行政 第6回 消費者問題5：特定商取引と契約トラブル① 第7回 消費者問題6：特定商取引と契約トラブル② 第8回 消費者問題7：消費者の安全 第9回 消費者問題8：地球環境とエネルギー需給 第10回 関連基礎事項1：企業と経営の基礎知識 第11回 関連基礎事項2：経済と金融の基礎知識 第12回 関連基礎事項3：生活経済と家計 第13回 関連基礎事項4：社会保障制度の概要 第14回 関連基礎事項5：衣・食・住生活における消費者問題 第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験(70%) + 授業での活動内容(30%)				
実務経験について	消費生活アドバイザー、消費生活相談員の有資格者				

授業科目	被服材料学		担当者	浅海 真弓	
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応	
	[学期]	前期	[単位]	2	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】衣服を構成している繊維、糸、布それぞれの特徴を知り、これらが総合された被服材料の特性について学ぶ。</p> <p>【概要】繊維や糸、布の種類や構造などについて概説した後、被服材料の諸性質と関連させて解説する。サンプルや映像の紹介、簡単な実験を取り入れながら、身近な衣服の素材に対する理解を深める。</p> <p>【到達目標】いつも自分が着ている衣服の素材や構造、特性を理解し、これらの知識を衣服の製作・購入、着用、洗濯、保管などの場面で活用できるようになる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント (2) 島崎恒蔵編著『衣服材料の科学』建帛社 日下部信幸著『生活のための被服材料学』家政教育社</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 繊維とは？ — 繊維の歴史と分類 第2回 繊維の構造 — 繊維の構造と性質の関係 第3回 天然繊維1 — 植物繊維(綿、麻) 第4回 天然繊維2 — 動物繊維(羊毛) 第5回 天然繊維3 — 動物繊維(絹) 第6回 化学繊維1 — 再生繊維(レーヨン、キュプラ) 第7回 化学繊維2 — 半合成繊維(アセテート、トリアセテート) 第8回 化学繊維3 — 合成繊維(ナイロン、ポリエステル、アクリル)、繊維の性能比較 第9回 新しい繊維 — 繊維化技術の発展と高機能素材 第10回 糸の種類と構造 — 紡績糸・フィラメント糸の性質、糸の太さとより (ミニ実験：糸の観察) 第11回 布の種類と構造1 — 織物の組織と性質 第12回 布の種類と構造2 — 編物の組織と性質、織物と編物の性能比較 第13回 布の種類と構造3 — 不織布・皮革の性質、布の構造特性 (ミニ実験：織物の観察) 第14回 被服材料の性質1 — 耐久性と形態的性質 第15回 被服材料の性質2 — 快適性と外観的性質</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示(予習・復習用のプリント配布)				
成績評価の方法	筆記試験(50%) + 授業ごとに提出するワークシート(35%) + 課題(15%)				
実務経験について	なし				

授業科目	生活化学実験		担当者	浅海 真弓
	[履修年次] 1年		授業外対応	適宜対応
	[学期] 後期	[単位] 1	[必修/選択] 選択	[授業形態] 実験
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 被服の素材や洗濯、染色についての知識を深め、科学的に考察する力を身につける。</p> <p>【概要】 被服材料学（繊維・糸・布の性質）、被服整理学（洗濯処理等の効果）および染色学（染色方法、染色堅ろう度）に関連する実験を行う。</p> <p>【到達目標】 実験を通じて被服素材や洗濯、染色への知識や技術を習得する。また、データ処理やレポートの作成方法を習熟するとともに、感覚的にではなく具体的根拠に基づいて論理的に考える力を身につける。</p> <p>※ 生活化学および被服材料学を履修しておくことが望ましい。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント（実験書配布）</p> <p>(2) 島崎恒蔵編著『衣服材料の科学』建帛社 片山倫子編著『衣服管理の科学』建帛社 日本規格協会編『JISハンドブック 31 繊維』日本規格協会</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 実験の説明 — 実験を行う上での注意点、レポートの作成方法</p> <p>第2回 糸の太さ — 番手の測定</p> <p>第3回 織物の構造 — 厚さ・目付・含気率・織り縮み率の測定</p> <p>第4回 吸水性試験 — バイレック法および吸水率法</p> <p>第5回 繊維の燃焼性 — 繊維の燃え方・におい・灰の観察</p> <p>第6回 繊維の染色性 — 繊維と染料の相性</p> <p>第7回 繊維の溶解性 — 混用率の測定</p> <p>第8回 糊付け・柔軟仕上げの効果 — 剛軟度の測定</p> <p>第9回 漂白・蛍光増白の効果 — 目視観察および機器による測定</p> <p>第10回 洗浄試験 — 洗浄力の評価</p> <p>第11回 合成染料による染色 — 直接染料および反応染料（染色堅ろう度試験用染色布の作成）</p> <p>第12回 染色堅ろう度試験1 — 洗濯堅ろう度</p> <p>第13回 染色堅ろう度試験2 — 摩擦堅ろう度</p> <p>第14回 天然染料による染色 — 媒染した染色布の色彩比較</p> <p>第15回 工芸染色 — 絞り染め</p>			
授業外学習(予習・復習)	事前に実験書を精読し、実験の目的や方法を理解しておくこと。実験後は結果を整理・考察してレポートを作成すること。			
成績評価の方法	実験ごとに提出するレポート・課題（70%）＋実験への取り組み（30%）			
実務経験について	なし			

授業科目	食物と栄養		担当者	広瀬 直人
	[履修年次] 1年		授業外対応	授業終了後
	[学期] 後期	[単位] 2	[必修/選択] 選択(注)	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 食物に含まれている栄養成分と加工利用方法について学ぶ。</p> <p>【概要】 食物に含まれている水分、炭水化物、脂質、タンパク質、ミネラル、ビタミン、その他成分を紹介し、食物の保存や調理中に生じる栄養成分の化学的な変化について解説する。</p> <p>【到達目標】 食物に含まれている種々の栄養成分やその働き、および加工利用方法について理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1)</p> <p>(2) 太田英明・北畠直文・白土英樹編『食べ物と健康 食品の科学 改訂第3版』南江堂</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 人間と食物、食品加工</p> <p>第2回 穀類の栄養</p> <p>第3回 穀類の加工利用</p> <p>第4回 いも類の栄養と加工利用</p> <p>第5回 豆類の栄養と加工利用</p> <p>第6回 野菜類の栄養</p> <p>第7回 野菜類の加工利用</p> <p>第8回 果実類の栄養</p> <p>第9回 果実類の加工利用</p> <p>第10回 きのこと、海藻類の栄養と加工利用</p> <p>第11回 食肉類の栄養と加工利用</p> <p>第12回 魚介類の栄養と加工利用</p> <p>第13回 乳類の栄養と加工利用</p> <p>第14回 卵類の栄養と加工利用</p> <p>第15回 油脂、調味料の栄養と加工利用</p>			
授業外学習(予習・復習)	授業後のノート整理など復習を確実にすること。			
成績評価の方法	筆記試験 70%、授業への取り組みや授業中の課題 30%			
実務経験について	食品会社および公設試験研究機関において研究職に従事			

(注) 教職必修

授業科目	調理学		担当者	立石 百合恵
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	講義終了時
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	講義・調理操作
テーマ及び概要	<p>【テーマ】食品素材を食べやすくするための調理操作を、基礎的、系統的、科学的理論で解明し実際に役立つよう体系化して再現できる法則を見出す。</p> <p>【概要】・自然科学の手法により、調理過程に生じる種々の諸現象を確認する。 ・調理操作、味、食品素材、調理と生活環境について学ぶ</p> <p>【到達目標】調理学の意義を理解し、調理の体系的な理論を実生活に応用し役立てる能力を培う 基本的な調理操作法の習得</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) オールガイド食品成分表 実教出版株式会社</p> <p>(2) 山崎清子 島田キミエ「調理と理論」同文書院 石松成子 銚吉 外西壽鶴子 NEW 基礎調理学</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション 調理学の意義</p> <p>第2回 調理科学：砂糖の温度変化による変化について</p> <p>第3回 調理の基本：調味料の働きと特徴について</p> <p>第4回 調理の基本：食事と栄養素・調理器具について</p> <p>第5回 調理科学：卵の熱変性について</p> <p>第6回 調理の基本：卵類・乳類・豆類の特徴について</p> <p>第7回 調理科学：小麦粉の特性について</p> <p>第8回 調理の基本：穀類の調理的意義・芋類・でん粉類・油の特性について</p> <p>第9回 調理科学：油の乳化について</p> <p>第10回 魚の基本と操作：鹿児島県の食材調理（魚介）</p> <p>第11回 調理科学：ゲル化剤の特徴について</p> <p>第12回 調理の基本：海藻類・魚類・肉類について</p> <p>第13回 調理の基本：野菜類・果実類・きのこ類について</p> <p>第14回 調理の基本：嗜好飲料類・香辛料類・調理加工食品について</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	予習を重視する			
成績評価の方法	筆記試験（90%）＋ 調理操作の授業時に実施する小論文（10%）			
実務経験について	病院・介護施設で管理栄養士として勤務、新聞やテレビ等へのレシピ提供、漢方・薬膳料理研究、育児支援、講演会活動など			

授業科目	調理実習		担当者	立石 百合恵
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	講義終了時
	〔学期〕	前期	〔単位〕	1単位
			〔必修/選択〕	選択(注)
			〔授業形態〕	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】調理理論と調理操作の融合</p> <p>【概要】・具体的な調理操作（和・洋・中）を行い、それぞれの献立について学び、調理技術を向上させる ・清潔な食品の取り扱いの習得 ・食環境整備の有効性を学ぶ ・食事の作法とマナーについて学習する</p> <p>【到達目標】基本的な調理技術の習得と清潔で安全な調理操作の習得 食育による社会適応力の習得</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 石原三妃ら共著 あすの健康と調理 アイ・ケイコーポレーション</p> <p>(2) 山崎清子 島田キミエ「調理と理論」同文書院</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション（調理の意義と目的、実習方法について）</p> <p>第2回 日本料理 米のガス炊飯 若竹汁、煮魚、春野菜のお浸し</p> <p>第3回 西洋料理 ロールパン、ハンバーグステーキ、ミネストローネスープ、フレンチサラダ、コーヒー</p> <p>第4回 日本料理 親子丼、潮汁、なます、サイダー寒</p> <p>第5回 中国料理 白飯、酢豚、棒棒鶏、杏仁豆腐</p> <p>第6回 非常時の料理 インスタント食品、IH調理器を用いた調理</p> <p>第7回 西洋料理 サンドイッチ、マカロニグラタン、トマトのラビゴットソースサラダ、紅茶</p> <p>第8回 日本料理 散らし寿司、むらくも汁、即席漬、水羊羹</p> <p>第9回 中国料理 白飯、カニと野菜のスープ、マーボー豆腐、焼き餃子</p> <p>第10回 日本料理 茶飯、茶碗蒸し、天ぷら、もずく酢、抹茶ゼリー</p> <p>第11回 西洋料理 チキンカレー、バターピラフ、コールスローサラダ、ブラマンジェ</p> <p>第12回 日本料理 きつねうどん、即席付け、ねぎ味噌、黒蜜かけ</p> <p>第13回 行事食 ローストチキン、クリスマスケーキ</p> <p>第14回 郷土料理 鶏飯、糸瓜のみそ炒め、きびなご菊作り、ゴーヤチャンプルー、両棒餅</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	実技試験（40%）、実技試験（40%）、授業ごとの実技内容の評価（20%）			
実務経験について	病院・介護施設で管理栄養士として勤務、新聞やテレビ等へのレシピ提供、漢方・薬膳料理研究、育児支援、講演会活動			

(注) 教職必修

授業科目	服飾文化史		担当者	田邊しずか				
	[履修年次]	2	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】西洋と日本の服飾文化史、現代衣生活の成り立ち</p> <p>【概要】西洋と日本に分けて古い時代からの変遷を辿り、形態的特徴だけでなく、社会的、文化的背景を踏まえて服飾の歴史を学ぶ。授業は大きく分けて三部構成である。</p> <p>【第一部】西洋服飾史、【第二部】日本服飾史、【第三部】服飾文化史を捉える上で重要なテーマに関する西洋と日本の服飾</p> <p>【到達目標】西洋と日本の服飾の歴史、形態的特徴とその背景を理解する。</p> <p>多様な文化、服飾観を学ぶことによって、現代衣生活や今後の可能性について考え、自分なりの見解を持つことができる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布、一部 Web でも公開</p> <p>(2) 深井晃子 (監修) 『増補新装カラー版 世界服飾史』, 美術出版社, 2010. 増田美子 (編) 『日本服飾史』, 東京堂出版, 2013.</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス、服飾文化史の資料 (史料)、衣服の起源と機能</p> <p>第 2 回 西洋服飾文化史 1: 古代ギリシャ、古代ローマの服飾</p> <p>第 3 回 西洋服飾文化史 2: 中世、ルネサンスの服飾</p> <p>第 4 回 西洋服飾文化史 3: 17 世紀オランダ市民、フランス絶対王政の貴族の服飾</p> <p>第 5 回 西洋服飾文化史 4: 18 世紀フランス宮廷の服飾</p> <p>第 6 回 西洋服飾文化史 5: 19 世紀イギリスのテイラー、フランスのモード</p> <p>第 7 回 西洋服飾文化史 6: オートクチュールとプレタポルテ、主要なデザイナー</p> <p>第 8 回 日本服飾文化史 1: 古代の衣服、服制の時代</p> <p>第 9 回 日本服飾文化史 2: きものの基礎知識、きものの変遷</p> <p>第 10 回 日本服飾文化史 3: 染織、文様、明治以降のきもの</p> <p>第 11 回 日本服飾文化史 4: 洋装化 — 明治、大正、昭和</p> <p>第 12 回 服飾文化史のテーマ 1: 西洋から見た東洋 — シノワズリ、ジャポニスム</p> <p>第 13 回 服飾文化史のテーマ 2: 服飾とジェンダー — 西洋の異性装、きものジェンダー</p> <p>第 14 回 服飾文化史のテーマ 3: 伝統的な染織品、歴史や技術</p> <p>第 15 回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜提示 (予習・復習のためのキーワードや参考文献を提示)							
成績評価の方法	授業毎のコメントペーパー (50%)、期末レポート (50%)							
実務経験について	なし							

授業科目	保育学		担当者	奥 章三・池堂 猛彦・未定				
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】保育の概念と保育に必要な基礎知識について学ぶ。</p> <p>【概要】子どもは、出生後さまざまな経験を積みながら発達していく。そして、子どもの発達には、周囲からの働きかけ (発達援助) が不可欠である。保育学講義では、保育 (発達援助) の概念と実際を学ぶとともに、子どもの標準的な発育発達、子どもによくみられる病気と対処法、子どもの安全対策等、保育に必要な知識の習得を目指す。</p> <p>【到達目標】保育の概念と保育に必要な基礎知識について理解し、説明ができるようになること。</p> <p>【テーマ】保育の概念と保育に必要な基礎知識について学ぶ。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) (担当 奥) 『子どもの発達と保育』、実務出版 (担当 奥) 『乳幼児の発達からみる保育“気づきのポイント” 4 4』、診断と治療社</p> <p>(2)</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 (担当 奥) 子どもの発達の特性 ～乳幼児の発達と保育環境</p> <p>第 2 回 子どもの発達の過程 (その 1) ～ 身体発育、運動発達</p> <p>第 3 回 子どもの発達の過程 (その 2) ～ 精神発達、人間関係の発達 ～</p> <p>第 4 回 子どもの生活 (その 1) 栄養と食習慣、生活習慣の形成</p> <p>第 5 回 子どもの生活 (その 2) 健康管理 (子どもの病気への対応)</p> <p>第 6 回 子どもの生活 (その 3) 事故の実態と防止</p> <p>第 7 回 子どもの保育 (その 1) 保育の意義と重要性、保育環境</p> <p>第 8 回 子どもの保育 (その 2) 保育の方法</p> <p>第 9 回 子どもの保育 (その 3) 発達障害児への対応</p> <p>第 10 回 講義の振り返り</p> <p>第 11 回 (担当 未定) 事前事後指導 (その 1): 事前指導</p> <p>第 12 回 (担当 池堂) 保育園における保育実習 (その 1)</p> <p>第 13 回 保育園における保育実習 (その 2)</p> <p>第 14 回 保育園における保育実習 (その 3)</p> <p>第 15 回 (担当 未定) 事前事後指導 (その 2): 事後指導</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。							
成績評価の方法	(担当 奥) 筆記試験 (100%) 各担当者が 100 点 / 3 で点数を算出した後、3 人の合計を総合点として評価する。							
実務経験について	奥 : 病院に小児科医として勤務 池堂 : 保育園の園長として勤務							

(注) 生活科学専攻は教職必修

授業科目	卒業研究A		担当者	浅海 真弓
	[履修年次] 2年		授業外対応	適宜対応
	[学期] 通年	[単位] 4	[必修/選択] 選択必修	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 被服材料学、被服整理学および染色加工学に関する課題について研究し、その成果をまとめる。</p> <p>【概要】 各自で研究テーマを設定し、課題を明らかにするための手法を検討して実験を行う。実験により得られたデータを図表にまとめて整理し、考察する。最終的に研究成果を論文にまとめ、卒業研究発表会で発表する。</p> <p>【到達目標】 自分で計画を立てて実験を遂行することにより、課題を解決していく力や科学的に考察する力を身につける。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 日本規格協会編『JISハンドブック 31 繊維』日本規格協会 福地健太郎、園山隆輔著『図解でわかる！理工系のためのよい文章の書き方』翔泳社</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション（研究の進め方・論文の作成方法について）</p> <p>第2回～第4回 先行研究・参考文献の資料収集</p> <p>第5回 資料収集の報告発表、研究テーマの設定</p> <p>第6回～第10回 予備実験</p> <p>第11回 予備実験の報告発表、研究テーマの確定</p> <p>第12回～第22回 本実験</p> <p>第23回～第26回 論文作成、追加実験</p> <p>第27回～第29回 研究発表の準備（要旨・スライドの作成）</p> <p>第30回 まとめ（要旨・スライド・論文の最終確認）</p>			
授業外学習(予習・復習)	報告発表や課題を適宜指示するため、授業外での予習・復習・発表準備（資料・スライドの作成）が必要である。			
成績評価の方法	卒業論文（50%）＋ 研究発表（20%）＋ 授業および課題への取り組み（30%）			
実務経験について	なし			

授業科目	卒業研究A		担当者	未定
	[履修年次] 2年		授業外対応	適宜対応
	[学期] 通年	[単位] 4	[必修/選択] 選択必修	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>【概要】</p> <p>【到達目標】</p>			
(1)テキスト (2)参考文献				
授業スケジュール				
授業外学習(予習・復習)				
成績評価の方法				
実務経験について				

(注) 教職課程履修者を優先する。

授業科目	ファッションデザイン論		担当者	田邊しずか		
	[履修年次]	1	授業外対応	適宜対応		
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択
					[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ファッションデザインの基礎とその展開</p> <p>【概要】前半はファッションデザインの基礎である、形態、色、素材、それらを組み合わせたコンポジション、ファッションイメージについて学ぶ。後半は、被服設計を行うとき重要である人体やパターンについて学びつつ、デザイン画に必要な8頭身モデルや着装された衣服を描く。最終課題では、ファッションデザイン画を含むミニポートフォリオを作成する。</p> <p>【到達目標】ファッションデザインの考え方を理解し、設定されたコンセプトに沿ったファッションデザインを行い、他者に伝えるためのポートフォリオを作成することができる。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布、一部Webでも公開</p> <p>(2) 文化服装学院編『文化ファッション大系 改訂版 服飾関連専門講座 ② 服飾デザイン』, 文化出版局, 2021. ファッションクリエイション学科編『文化学園大学ファッションデザイン学講座 ファッション画』, 文化出版局, 2021.</p>					
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：授業概要と進め方、デザイン史概説</p> <p>第2回 服飾デザインとは、20世紀ファッション史、最新のコレクションを見る</p> <p>第3回 ファッションデザイン基礎1：形態</p> <p>第4回 ファッションデザイン基礎2：色彩、色彩のイメージ</p> <p>第5回 ファッションデザイン基礎3：素材</p> <p>第6回 ファッションデザイン基礎4：コンポジション、ファッションイメージ</p> <p>第7回 デザイン発想</p> <p>第8回 アパレル企画、流行</p> <p>第9回 最終課題に指定するテーマに関する講義とグループワーク</p> <p>第10回 人体の構造と計測点、ファッションデザイン画の8頭身モデル</p> <p>第11回 デザインとパターン1：衿、袖/着装画の練習（しわ）</p> <p>第12回 デザインとパターン2：スカート、パンツ/着装画の練習（フレア、プリーツ）</p> <p>第13回 ファッションデザイン実践1：デザイン画の表現法/モデルへ着装</p> <p>第14回 ファッションデザイン実践2：デザイン画の着色法/モデルへ着装</p> <p>第15回 アパレル動向、ファッションデザインのポートフォリオ、まとめ</p>					
授業外学習(予習・復習)	適宜指示					
成績評価の方法	期末課題提出(40%) + 授業内実践課題(30%) + 授業毎のコメントペーパー(30%) デザイン画を作成しますが絵が不得手でも構いません。理論の理解、課題への取り組みを評価します。					
実務経験について	なし					

授業科目	ファッション造形I		担当者	坂上 ちえ子		
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応		
	[学期]	後期	[単位]	1	[必修/選択]	選択(注)
					[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】上半身衣と下半身衣の原型展開とスカートの製作方法を学ぶ。</p> <p>【概要】衣服を平面製図法で行う場合、基本となる型紙(原型)の把握が重要である。まず、基本的な衣服である裏布つきスカートの製作実習を行い、それらの手順と方法を学ぶ。さらに、上・下半身衣の原型とその展開について学び、理解する。</p> <p>【到達目標】平面製図の方法を理解し原型展開ができることと、裏布つきスカートの製作技術習得を目指す。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 文化服装学院『文化ファッション大系 服飾造形講座2 スカート・パンツ』文化出版局</p>					
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：講義概要と進め方</p> <p>第2回 下衣(スカート)製作1：スカートの製図</p> <p>第3回 下衣(スカート)製作2：表布の裁断、印つけ</p> <p>第4回 下衣(スカート)製作3：仮縫い</p> <p>第5回 下衣(スカート)製作4：試着、補正</p> <p>第6回 下衣(スカート)製作5：表布の縫製1</p> <p>第7回 下衣(スカート)製作6：表布の縫製2</p> <p>第8回 下衣(スカート)製作7：ファスナーつけ</p> <p>第9回 下衣(スカート)製作8：裏布の裁断、印つけ</p> <p>第10回 下衣(スカート)製作9：裏布の縫製</p> <p>第11回 下衣(スカート)製作10：ベルトつけ</p> <p>第12回 下衣(スカート)製作11：仕上げ、着装評価</p> <p>第13回 上衣(原型)製作1：上半身衣の原型</p> <p>第14回 上衣(原型)製作2：上半身衣のデザイン展開</p> <p>第15回 まとめ</p>					
授業外学習(予習・復習)	適宜指示					
成績評価の方法	提出課題(70%) + 授業での活動内容(30%)					
実務経験について	なし					

(注) 教職必修

授業科目	ファッション造形Ⅱ		担当者	坂上 ちえ子				
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	前期	[単位]	1	[必修/選択]	選択	[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ブラウスとパンツのデザイン展開と製作方法を学ぶ。</p> <p>【概要】 基本的な上半身衣のブラウスと下半身衣のパンツのデザインと製作方法、その過程を学ぶ。デザインについては、着装者の体型や動きを考慮した製図展開が行えるよう、また、製作については、目的や段階に応じた効率的な縫製方法を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 上、下半身衣のデザインと製図展開ができることと、迅速で適切な縫製技術の習得を目指す。</p>							
(1)テキスト	(1) プリント							
(2)参考文献	(2) 文化服装学院『文化ファッション大系 服飾造形講座3 ブラウス・ワンピース』文化出版局							
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション：講義概要と進め方 第2回 上衣（ブラウス）製作1：デザインと製図 第3回 上衣（ブラウス）製作2：裁断と印つけ 第4回 上衣（ブラウス）製作3：仮縫い 第5回 上衣（ブラウス）製作4：試着、補正 第6回 上衣（ブラウス）製作5：見頃の縫製 第7回 上衣（ブラウス）製作6：衿つくりと衿つけ 第8回 上衣（ブラウス）製作7：袖つくりと袖つけ 第9回 上衣（ブラウス）製作8：ボタンホール、ボタンつけ、仕上げ 第10回 下衣（パンツ）製作1：デザインと製図 第11回 下衣（パンツ）製作2：裁断と印つけ 第12回 下衣（パンツ）製作3：仮縫い、試着、補正 第13回 下衣（パンツ）製作4：縫製 第14回 下衣（パンツ）製作5：仕上げ 第15回 着装評価、まとめ							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	提出課題 (70%) + 授業での活動内容 (30%)							
実務経験について	なし							

授業科目	ファッションアイテム演習		担当者	田邊しずか				
	[履修年次]	2	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	後期	[単位]	1	[必修/選択]	選択	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ファッションアイテムの知識と工芸技法の習得</p> <p>【概要】前半は、編物（編む）、刺繍（縫う）、組紐（組む）の工芸製作ならびに各技法に関する服飾品の歴史や造形を学ぶ。後半は手提げバッグを製作し、最終課題として前半に学んだ工芸を一部に取り入れた小物を製作する。加えて、副資材がアパレル小物にもたらす効果について学ぶ。</p> <p>【到達目標】各工芸について理解し、技法を習得し作品を仕上げることができる</p>							
(1)テキスト	(1) プリントを配布、一部Webでも公開							
(2)参考文献	(2) 石井照子（編著）『生活造形—結ぶ・編む・組む・織る・繡う—』、建帛社、1995.							
授業スケジュール	第1回 ガイダンス 第2回 編む1：編みの技法と実践 第3回 編む2：レース編みの実践 第4回 編む3：レースのモチーフ製作 第5回 組む1：組紐の技法と実践 第6回 組む2：組紐、日本の伝統的な結び 第7回 刺繍1：刺繍の技法と実践 第8回 刺繍2：刺繍サンプラー 第9回 刺繍3：刺繍モチーフの製作 第10回 副資材1：ファスナーポーチ 第11回 副資材2：手提げバッグの設計 第12回 副資材3：手提げバッグの製作（裁断等） 第13回 副資材4：手提げバッグの製作（縫製等） 第14回 副資材5：手提げバッグの製作（仕上げ等） 第15回 まとめ							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	提出課題 (70%) + 授業への取り組み (30%)							
実務経験について	なし							

授業科目	ファッションビジネス		担当者	坂上 ちえ子				
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ファッションに対する理解を深めるため、デザインや縫製だけではなくファッション産業やビジネスについて学ぶ。</p> <p>【概要】 衣服を大量生産、大量消費する時代は過ぎ、ファッション産業は生活文化と生活を豊かにするライフスタイルの提案を目的として企業活動を行う時代となった。ファッション産業をビジネスと造形の両面から学び、ファッション全体の背景や仕組みを捉える。</p> <p>【到達目標】 基礎知識を習得し、企画・販売の視点からも衣生活を充実させる。またファッションビジネス検定に挑戦することも目指す。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 日本ファッション教育振興会『ファッションビジネス [I]』財団法人 日本ファッション教育振興会</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション：講義概要と進め方</p> <p>第 2 回 ファッションビジネス知識 1：ファッションビジネスの特性</p> <p>第 3 回 ファッションビジネス知識 2：ファッション生活・消費</p> <p>第 4 回 ファッションビジネス知識 3：ファッション産業構造</p> <p>第 5 回 ファッションビジネス知識 4：ファッションマーケティング</p> <p>第 6 回 ファッションビジネス知識 5：ファッションマーチャンダイジング</p> <p>第 7 回 ファッションビジネス知識 6：ファッション生産と物流、流通</p> <p>第 8 回 ファッションビジネス知識 7：販売管理とプロモーション</p> <p>第 9 回 ファッションビジネス知識 8：ビジネス基礎知識と計数管理</p> <p>第 10 回 ファッション造形知識 1：ファッション文化・デザイン文化</p> <p>第 11 回 ファッション造形知識 2：ファッションコーディネート</p> <p>第 12 回 ファッション造形知識 3：ファッション商品知識—服種・アイテム</p> <p>第 13 回 ファッション造形知識 4：ファッションデザイン</p> <p>第 14 回 ファッション造形知識 5：パターンメイキングとファッションエンジニアリング</p> <p>第 15 回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	筆記試験 (70%) + 授業での活動内容 (30%)							
実務経験について	なし							

授業科目	卒業研究 B		担当者	坂上 ちえ子				
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	通年	[単位]	4	[必修/選択]	選択必修	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 学生自らが設定した衣生活に関わる課題について、分析・研究し、成果をまとめる。</p> <p>【概要】 前期は衣生活に関わる問題やテーマを探索するとともに、それらを解明する調査や実験の手法も学ぶ。後期は自らが設定した課題を各自で調査・考察して文章にまとめる。さらに、卒業研究発表会において、それらの研究成果を発表する。</p> <p>【到達目標】 まず、衣生活に関する研究課題とそれに連なる問題点を明らかにし、問題を解明するのに適切な手法を用いて分析・解決する。さらに、研究成果を文書にまとめることと、効果的な発表方法を身につけることを目指す。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 適宜配布</p> <p>(2) 適宜紹介</p>							
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション</p> <p>第 2～ 10 回 卒業研究のための基礎知識 1：文献購読</p> <p>第 11～ 12 回 卒業研究のための基礎知識 2：研究手法の検討・理解</p> <p>第 13～ 15 回 卒業研究のための基礎知識 3：テーマ設定と文献・情報収集</p> <p>第 16～ 23 回 卒業研究 1：各自の調査・研究・考察</p> <p>第 24～ 27 回 卒業研究 2：論文作成</p> <p>第 28～ 30 回 卒業研究 3：発表準備、練習</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	卒業研究成果 (60%) + 研究発表 (20%) + 授業での取り組み内容 (20%)							
実務経験について	なし							

授業科目	ビジュアルデザイン基礎Ⅰ		担当者	北一浩
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応(要予約)
	[学期]	前期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 コンピューターを使用し、ビジュアルデザインの基礎的な考え方を学ぶ。</p> <p>【概要】 グラフィックデザインの基礎となる、ドローイングソフト「Adobe Illustrator」の基礎的な使用法及び、ビジュアルデザインの基礎的な考え方を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 今後ビジュアルデザインのデザインワークに取り組むにあたり、基本となる考え方やソフトウェアの操作方法を習得する。</p> <p>※本講座の受講生は「ビジュアルデザイン基礎Ⅱ」を必ず受講してください。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 参考文献は適宜紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 Illustrator 基本操作1 オブジェクトの作成、線・塗りの設定</p> <p>第3回 実践課題1 幾何形態色彩構成</p> <p>第4回 //</p> <p>第5回 Illustrator 基本操作3 パスの基本知識、ベジェ曲線</p> <p>第6回 実践課題2 ピクトグラム</p> <p>第7回 //</p> <p>第8回 Illustrator 基本操作4 文字入力、フォント、文字のアウトライン化</p> <p>第9回 実践課題3 タイポグラフィ構成</p> <p>第10回 //</p> <p>第11回 応用課題1 名刺のデザイン</p> <p>第12回 //</p> <p>第13回 応用課題2 ポスターのデザイン</p> <p>第14回 //</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	提出課題 (50%) プレゼンテーション (50%)			
実務経験について	広告会社にてグラフィックデザイナーとして勤務の後、フリーランスのグラフィックデザイナーとして活動。			

授業科目	ビジュアルデザイン基礎Ⅱ		担当者	上笹真 鷹暁
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応(要予約)
	[学期]	前期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 コンピュータを用いたビジュアルデザイン制作の基礎を学ぶ。</p> <p>【概要】 ドローソフト「Adobe Illustrator」の基礎的な操作方法を学び、デザインワークに必要な表現技術と美的感覚を養う。</p> <p>【到達目標】 デザインワークを行う上で必要十分な Adobe Illustrator の操作方法を習得する。</p> <p>※本講義の受講生は必ず「ビジュアルデザイン基礎Ⅰ」と合わせて履修をしてください。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 適宜紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 Illustrator の基本操作1 オブジェクトの作成 (選択ツール/ダイレクト選択ツール/オブジェクトツール)</p> <p>第3回 Illustrator の基本操作2 線と塗りの設定 (カラーパネル/グラデーションツール/透明パネル)</p> <p>第4回 Illustrator の基本操作3 ペンツール (ペンツール/線パネル)</p> <p>第5回 Illustrator の基本操作4 オブジェクトの編集 (整列パネル/パスファインダー/変形/グループ化/重ね順)</p> <p>第6回 Illustrator の基本操作5 文字の編集 (フォント/文字パネル/段落パネル/アウトライン)</p> <p>第7回 Illustrator の基本操作6 画像の配置と編集 (レイヤーパネル/クリッピングマスク)</p> <p>第8回 Illustrator の基本操作7 レイアウトの基本 (ガイドライン/近接・整列・反復・対比)</p> <p>第9回 実践課題1 ピクトグラム</p> <p>第10回 実践課題2 ロゴマーク</p> <p>第11回 実践課題3 名刺</p> <p>第12回 実践課題4 POP</p> <p>第13回 実践課題5 POP</p> <p>第14回 実践課題6 ポスター (塗り足し/トリムマーク)</p> <p>第15回 実践課題7 ポスター</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	授業課題 (100%)			
実務経験について	制作会社にてディレクター・デザイナーとして勤務			

授業科目	ビジュアルデザイン論Ⅱ		担当者	上笹貫 鷹暁
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ビジュアルデザインと現代社会の関わりについて概観を得ることを通じて、地域の課題をデザインを用いて解決するための知識と思考力を身につける。</p> <p>【概要】地域の課題に対しデザインを用いて解決しようとする取り組みが全国各地に多く存在する。前半ではビジュアルデザインの現代社会における役割と意義を学び、後半では実例を通じて地域の多面性とデザインの可能性について理解を深める。</p> <p>【到達目標】現代のビジュアルデザインについて概観できる視野を身に付け、地域の課題を発見する力とデザインを用いて解決する力を養う。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 適宜紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 導入 デザインとは</p> <p>第3回 ビジュアルコミュニケーションの基礎 1 レイアウトの法則</p> <p>第4回 ビジュアルコミュニケーションの基礎 2 文字・カラーの法則</p> <p>第5回 ビジュアルコミュニケーションの基礎 3 パッケージデザイン</p> <p>第6回 ビジュアルコミュニケーションの基礎 4 写真表現</p> <p>第7回 ビジュアルコミュニケーションの基礎 5 映像表現</p> <p>第8回 ビジュアルコミュニケーションの基礎 6 Web 表現</p> <p>第9回 ビジュアルコミュニケーションの基礎 7 ブランディングデザイン</p> <p>第10回 ビジュアルコミュニケーションの基礎 8 広告デザイン</p> <p>第11回 地域とデザイン 1 食とデザイン</p> <p>第12回 地域とデザイン 2 観光とデザイン</p> <p>第13回 地域とデザイン 3 産業とデザイン</p> <p>第14回 地域とデザイン 4 コミュニティとデザイン</p> <p>第15回 地域とデザイン 5 鹿児島とデザイン</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	授業課題 (40%) + 期末課題 (60%)			
実務経験について	制作会社にてディレクター・デザイナーとして勤務			

授業科目	ビジュアルデザインⅠ		担当者	北一浩・上笹貫鷹暁
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】コンピューターを用いたビジュアルデザインの基礎的な制作を学ぶ。</p> <p>【概要】ビジュアルデザイン論Ⅰ・Ⅱ、ビジュアルデザイン基礎Ⅰ・Ⅱからの関連科目として、コンピューターを用いて基礎的な課題制作を行う。</p> <p>【到達目標】これまで学習した技術や概念を、コンピューターを使用して実媒体へと応用する。</p> <p>※本講座は「ビジュアルデザイン基礎Ⅰ・Ⅱ」の受講生のみを対象とします。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 使用しない。適宜、プリントを配布する。</p> <p>(2) 参考文献は適宜紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1-2回 オリエンテーション</p> <p>第3-4回 ポスターデザイン 公共問題をテーマとしたポスター制作</p> <p>第5-6回 //</p> <p>第7-8回 //</p> <p>第9-10回 パッケージデザイン 実際に使用されているパッケージのリデザイン</p> <p>第11-12回 //</p> <p>第13-14回 //</p> <p>第15-16回 ブックカバーデザイン 本学大学案内の表紙のデザイン</p> <p>第17-18回 //</p> <p>第19-20回 //</p> <p>第21-22回 ポートフォリオ制作 各自のこれまでの作品をまとめたポートフォリオの制作</p> <p>第23-24回 //</p> <p>第25-26回 //</p> <p>第27-28回 //</p> <p>第29-30回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	提出課題 (60%) プレゼンテーション (40%)			
実務経験について	広告会社にてグラフィックデザイナーとして勤務の後、フリーランスのグラフィックデザイナーとして活動。			

授業科目	ビジュアルデザインⅡ		担当者	北一浩
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応(要予約)
	[学期]	前期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】プロジェクト形式の課題を通して、ビジュアルデザインの実践的な制作を学ぶ。</p> <p>【概要】ビジュアルデザインⅠからの関連科目として、プロジェクト形式の課題をグループで行い実践的な課題制作を行う。</p> <p>【到達目標】実際のデザインの現場で行われるワークフローを学び、実践的なデザインスキルを身につける。</p> <p>※本講座は「卒業研究C」の受講生のみを対象とします。</p>			
(1)テキスト	(1)	使用しない。適宜、プリントを配布する。		
(2)参考文献	(2)	参考文献は適宜紹介する。		
授業スケジュール	第1回	オリエンテーション		
	第2回	プロジェクト課題 内容は年度ごとに異なるが、主にはブランディングデザインなどを行う。		
	第3回	"		
	第4回	"		
	第5回	"		
	第6回	"		
	第7回	"		
	第8回	"		
	第9回	"		
	第10回	"		
	第11回	自由課題 各自テーマを設定しデザインを行う		
	第12回	"		
	第13回	"		
	第14回	"		
	第15回	まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	提出課題(60%) プレゼンテーション(40%)			
実務経験について	広告会社にてグラフィックデザイナーとして勤務の後、フリーランスのグラフィックデザイナーとして活動。			

授業科目	卒業研究C		担当者	北一浩
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応(要予約)
	[学期]	通年	[単位]	4
			[必修/選択]	選択必修
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ビジュアルデザインに関連した分野の研究。</p> <p>【概要】ビジュアルデザインに関連した分野から各自研究テーマを設定し、制作を通して新たな知見を発表する。</p> <p>【到達目標】研究テーマに関する作品制作を行い、展示及びプレゼンテーションを行う。</p>			
(1)テキスト	(1)	使用しない。適宜、プリントを配布する。		
(2)参考文献	(2)	参考文献は適宜紹介する。		
授業スケジュール	第1-2回	オリエンテーション		
	第3-4回	以下スケジュールに関しても各自が管理し研究を進める。		
	第5-6回	随時進行に合わせて、テーマ審査、中間審査、最終審査を行う。		
	第7-8回			
	第9-10回			
	第11-12回			
	第13-14回			
	第15-16回			
	第17-18回			
	第19-20回			
	第21-22回			
	第23-24回			
	第25-26回			
	第27-28回			
	第29-30回	まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	研究成果(50%) プレゼンテーション(25%) 研究態度(25%)			
実務経験について	広告会社にてグラフィックデザイナーとして勤務の後、フリーランスのグラフィックデザイナーとして活動。			

授業科目	住居史	担当者	川島 茂
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 講義	授業外対応	適宜対応 (要予約)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 社会の要請に呼応する建築の変遷について、西洋様式建築、近代建築を概観し、現代建築の将来展望を考える。 ※本講座の受講生は「設計製図Ⅱ」を必ず受講してください。</p> <p>【概要】 西洋様式建築から近代建築へと展開される時代背景と社会の要請、理念の変遷を開示しつつ、建築に求められ、必要とされるものを考察しつつ、現代建築のあり方を考える。</p> <p>【到達目標】 西洋様式建築、近代建築の理念と空間を理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 高宮眞介・飯田義彦 著「高宮眞介 建築意匠講義 西洋の建築家 100 人とその作品を巡る」アーキシップ叢書 (2) 矢代眞己・田所辰之助・濱崎良実 著「20 世紀の空間デザイン」彰国社</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス 歴史を学ぶことの意味 第 2 回 西洋様式建築の全体像 西洋様式建築について 第 3 回 幾何学の明晰性-1 -ルネサンス- 第 4 回 幾何学の明晰性-2 -ルネサンス- 第 5 回 幾何学の明晰性-3 -ルネサンス- 第 6 回 手法の多義性-1 -マニエリスム- 第 7 回 手法の多義性-2 -マニエリスム- 第 8 回 均整のプロポーション-1 -バラーディオの建築- 第 9 回 均整のプロポーション-2 -バラーディオの建築- 第 10 回 空間のダイナミズム -バロック- 第 11 回 崇高の自律性とピクチャレスクの他律性 -新古典主義- 第 12 回 新素材と新技術 -近代の萌芽- 第 13 回 思想の改革と運動の理念 -近代合理主義- 第 14 回 インターナショナルスタイルとナショナルリズム 第 15 回 表層・深層・透層 -モダニズムの終焉-</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	レポート (100%)		
実務経験について	建築設計監理、コンサルタント業務		

(注) 二級建築士 (木造建築士) 資格指定科目

授業科目	住居・インテリア設計学	担当者	宍戸 克実
	〔履修年次〕 1年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 (注) 〔授業形態〕 講義	授業外対応	適宜対応
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 建築空間を構成する様々な構成要素や表現方法について理解し、身近な生活空間について考える。</p> <p>【概要】 建築空間を表現するための手段、図面の役割について理解するとともに、建築内外を構成する様々な要素についてのスケール感覚を身につける。また、商業施設や街の空間構成について理解し、多様な都市生活環境について学ぶ。</p> <p>【到達目標】 建築とインテリアについての理解が深まるとともに、暮らしを取り巻く住環境について幅広い視点で捉えることができるようになる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント (2) 大塚篤『カタチから考える住宅発想法』彰国社</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 はじめに 建築とインテリアの基礎知識 第 2 回 住居の平面構成 暮らしと間取り 第 3 回 図面表現 平面図、立面図、断面図、透視図① 第 4 回 // 透視図② 第 5 回 住空間の寸法 単位空間の事例研究 第 6 回 // 家具・設備の事例研究 第 7 回 間取りプランニング 所要室の配置と規模 第 8 回 // 集合住宅 第 9 回 // 戸建平屋 第 10 回 // 戸建複層 第 11 回 商業施設のデザイン 事例研究 第 12 回 // 発表・ディスカッション 第 13 回 街と公共空間のデザイン 事例研究 第 14 回 // 発表・ディスカッション 第 15 回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。		
成績評価の方法	授業課題・宿題 (50%)、発表・レポート (50%)		
実務経験について	外食チェーン企業において店舗設計監理業務、都市コンサルタント企業において計画提案業務に携わった。		

(注) 二級建築士 (木造建築士) 資格指定科目、教職必修

授業科目	設計製図Ⅰ		担当者	穴戸 克実	
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	適宜対応	
	〔学期〕	前期	〔単位〕	1単位	
			〔必修/選択〕	選択 (注)	
				〔授業形態〕	
				実習	
テーマ及び概要	【テーマ】 建築設計製図の基本的事項について理解し、図面・模型製作を通じ建築物を平面的・立体的に把握する能力を養う。建築士を目指す学生を主体とした授業構成となっている。				
	【概要】 基礎的な簡易住宅を題材として模型と図面を製作する。徐々に難易度や密度を上げ、住宅を構成する様々な単位空間についての理解を深める。				
	【到達目標】 基本的ルールに則った建築図面の作成ができ、住空間を平面的・立体的に理解し図面や模型を用いて空間を表現することができる。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 小杉学『模型づくりからはじめる建築製図の基礎』彰国社 日本建築学会『コンパクト建築設計資料集成〈住居〉』丸善				
授業スケジュール	第1回	はじめに	設計製図の基礎知識		
	第2回	製図と模型の基礎	模型作成の手順 (立体A)		
	第3回	〃	平行定規の使用法 (立体B・C)		
	第4回	〃	製図道具の使用法 (住宅A)		
	第5回	〃	平面図・立面図・断面図の理解 (住宅A)		
	第6回	〃	縮尺と寸法の理解 (住宅B)		
	第7回	〃	平面図・立面図・断面図の作成 (住宅B)		
	第8回	設計課題：5つの空間住宅		課題説明	
	第9回	〃	エスキス、スタディ模型		
	第10回	〃	エスキス、スタディ模型		
	第11回	〃	模型作成		
	第12回	〃	模型作成・模型写真撮影		
	第13回	〃	図面作成 (平面図)		
	第14回	〃	図面作成 (立面・断面図)		
	第15回	〃	プレゼンテーション		
授業外学習(習・復習)	予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。				
成績評価の方法	授業課題・プレゼンテーション (100%)				
実務経験について	外食チェーン企業において店舗設計監理業務、都市コンサルタント企業において計画提案業務に携わった。				

(注) 二級建築士 (木造建築士) 資格指定科目

授業科目	設計製図Ⅱ		担当者	川島 茂
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	〔学期〕	後期	〔単位〕	1
			〔必修/選択〕	選択 (注)
				〔授業形態〕
				実習
テーマ及び概要	【テーマ】 設計の実践により、空間のテーマと課題を見出し、それに呼応した空間を創出する。			
	【概要】 個人指導とグループ指導、ディスカッション等を組み合わせて、各学生がそれぞれに設計主旨を見出し、アイデアを展開するよう促す。建築空間の諸条件を整理、設計からプレゼンテーションを含む自発的な学習が求められる。			
	【到達目標】 居住空間、公共空間の計画を実践することにより、諸条件の分析と評価、空間構成手法を習得する。			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 日本建築学会編「コンパクト建築設計資料〈住居〉」丸善 (2) 本杉省三他著「建築デザインの基礎 製図方から生活デザインまで」彰国社			
授業スケジュール	第1回	ガイダンス	課題出題	
	第2回	住宅の設計1	条件の整理と敷地及び周辺環境の把握	
	第3回	住宅の設計2	配置計画、諸機能の構成と動線計画	
	第4回	住宅の設計3	平面計画	
	第5回	住宅の設計4	断面、立面計画、外構計画	
	第6回	住宅の設計5	ダイアグラム、模型、プレゼンテーション	
	第7回	住宅の設計6	提出、評価	
	第8回	住宅の設計7	講評、課題出題	
	第9回	ギャラリーの設計1	条件の整理と敷地及び周辺環境の把握	
	第10回	ギャラリーの設計2	配置計画、諸機能の構成と動線計画	
	第11回	ギャラリーの設計3	平面計画	
	第12回	ギャラリーの設計4	断面、立面計画、外構計画	
	第13回	ギャラリーの設計5	ダイアグラム、模型、プレゼンテーション	
	第14回	ギャラリーの設計6	提出、評価	
	第15回	ギャラリーの設計7	講評	
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	課題 (100%)			
実務経験について	建築設計監理、コンサルタント業務			

(注) 二級建築士 (木造建築士) 資格指定科目

授業科目	住居構造学Ⅰ		担当者	田島 康弘
	[履修年次]	2年	授業外対応	講義終了後
	[学期]	前期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択(注)
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】住居を構築するための多様な構造方式および構法について学ぶ。</p> <p>【概要】建物にはたらく力、木質構造、鉄骨構造、鉄筋コンクリート構造、基礎などの概要と特徴を講述し、建物を構成する構造体について学ぶ。</p> <p>【到達目標】さまざまな構造方式の特徴や長所について理解して、構造上安全な建築物を設計又は説明できる基本的な能力が養われること。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 浅野清昭著、『図説 やさしい構造力学』、学芸出版社</p> <p>(2) 浅野清昭著、『図説 やさしい構造設計』、学芸出版社</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 構造設計という仕事</p> <p>第 2回 建物にかかる様々な荷重</p> <p>第 3回 木質構造1 特徴と材料</p> <p>第 4回 木質構造2 軸組構法(在来工法)と枠組壁構法(2×4工法)</p> <p>第 5回 木質構造3 現場見学 他</p> <p>第 6回 鉄骨構造1 特徴と材料</p> <p>第 7回 鉄骨構造2 建物ができるまで</p> <p>第 8回 鉄骨構造3 現場見学 他</p> <p>第 9回 鉄筋コンクリート構造1 特徴と材料</p> <p>第10回 鉄筋コンクリート構造2 建物ができるまで</p> <p>第11回 鉄筋コンクリート構造3 現場見学 他</p> <p>第12回 基礎構造とその他の構造形式(プレストレストコンクリート構造 他)</p> <p>第13回 主要構造部材(屋根、壁、床、天井、階段 他)</p> <p>第14回 耐震設計(地震に強い建物)</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	レポート(80%)および授業での発言質問とその内容(20%)			
実務経験について	一級建築士、構造設計一級建築士として、構造設計業務を行う。			

(注) 二級建築士(木造建築士)資格指定科目

授業科目	住居構造学Ⅱ		担当者	田島 康弘
	[履修年次]	2年	授業外対応	講義終了後
	[学期]	前期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択(注)
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】建造物の安全性と力学的評価方法について学ぶ。</p> <p>【概要】住居構造学Ⅱでは、模型作成などの実習を通して力学の基礎を学び、建造物に作用する力によって部材に生じる力を求め、安全性を確認する。</p> <p>【到達目標】静定の片持ばり、単純ばり、門型ラーメンの応力と変形に関する計算法とそれから得られる結果の評価方法について理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 浅野清昭著、『やさしい建築構造力学 演習問題集』、学芸出版社</p> <p>(2) 浅野清昭著、『図説 建築構造力学』、学芸出版社</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 建物の模型を作ろう1</p> <p>第 2回 建物の模型を作ろう2</p> <p>第 3回 力のモーメント(模型による演習含む)</p> <p>第 4回 力のつりあい(模型による演習含む)</p> <p>第 5回 建造物の支点(ローラー・ピン・固定)</p> <p>第 6回 反力の求め方</p> <p>第 7回 片持ばりに生じる力</p> <p>第 8回 単純ばりに生じる力</p> <p>第 9回 門型ラーメンに生じる力</p> <p>第10回 トラスに生じる力</p> <p>第11回 断面の性質(断面1次モーメント、断面2次モーメント、他)</p> <p>第12回 部材に生じる応力度</p> <p>第13回 片持ばり、単純ばりの変形</p> <p>第14回 建築物の設計への応用</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示(復習)			
成績評価の方法	レポート(80%)および授業での発言質問とその内容(20%)			
実務経験について	一級建築士、構造設計一級建築士として、構造設計業務を行う。			

(注) 二級建築士(木造建築士)資格指定科目

授業科目	住居環境学		担当者	曾我 和弘	
	[履修年次]	2年	授業外対応	講義終了時	
	[学期]	後期	[単位]	2単位	
			[必修/選択]	選択(注)	
				[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】快適で環境に優しい住まいや建築物の計画</p> <p>【概要】居住者が健康で快適に生活できる居住環境を構築するためには、建築環境（光・熱・空気・音環境）をバランスよく適切に調整しなければならない。この講義では、適切な建築環境を実現するために必要な環境計画の考え方と手法、さらに設備計画の考え方と手法について学ぶ。</p> <p>【到達目標】建築の環境計画と設備計画の基本的な考え方を理解する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 最新建築環境工学、田中俊六ほか、井上書院</p> <p>(2)</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 建築と自然環境：建築と自然環境の関わり、自然環境に適応した建築</p> <p>第2回 光環境計画1：日照、日照時間、日影曲線、日影図、日影時間図</p> <p>第3回 光環境計画2：日射、太陽位置、日射量の計算、太陽エネルギー利用設備</p> <p>第4回 光環境計画3：採光、照明、視覚、測光量、昼光率、照明方式、室内照度の計算</p> <p>第5回 光環境計画4：光束法による照明計算、照明設備計画</p> <p>第6回 熱環境計画1：熱力学の第二法則、定常伝熱、熱伝導、熱対流、熱放射</p> <p>第7回 熱環境計画2：熱貫流率の計算、平均熱貫流率の計算</p> <p>第8回 熱環境計画3：住まいと結露、結露判定の計算</p> <p>第9回 熱環境計画4：温熱環境、代謝量、着衣量、PMV、局所不快感、温熱環境の基準、空調設備計画</p> <p>第10回 空気環境計画1：室内空気汚染、自然換気（温度差換気、風力換気）、機械換気</p> <p>第11回 空気環境計画2：室内ガス濃度、ザイデル式、必要換気量の計算</p> <p>第12回 空気環境計画3：機械換気設備、換気設備計画</p> <p>第13回 音環境計画1：音の強さ、音圧レベル、周波数補正、騒音レベル、音圧レベルの計算</p> <p>第14回 音環境計画2：騒音の防止、遮音、音響透過損失、コインシデンス効果、質量測、床衝撃音、吸音材料</p> <p>第15回 音環境計画3：室内音響計画、直接音、反射音、音響障害、残響時間、残響式、最適残響時間</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	筆記試験（80%）とレポート（20%）で評価する。				
実務経験について	なし				

(注) 二級建築士（木造建築士）資格指定科目

授業科目	住居環境学演習		担当者	曾我 和弘	
	[履修年次]	2年	授業外対応	講義終了時	
	[学期]	後期	[単位]	1単位	
			[必修/選択]	選択(注)	
				[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】身近な居住環境の快適性や健康性の計算と測定</p> <p>【概要】居住環境の物理環境（光・熱・空気・音環境）の計算・測定を行い、これらの結果に基づいて、居住環境の快適性や健康性の評価を行う。住居における物理環境の計算・測定・評価法を修得すると同時に、パソコンと表計算ソフトを活用して、データの分析方法を学ぶ。以上より、環境にやさしい住居に対する理解を深める。</p> <p>【到達目標】身近な居住環境の熱・光・音・空気環境の基本的な計算・測定・評価方法を習得する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 最新建築環境工学、田中俊六ほか、井上書院</p> <p>(2)</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 クリモグラフの作成と気候に適した住居形態調査</p> <p>第2回 日影図の作成と日照環境の評価</p> <p>第3回 教室の照度分布測定と評価</p> <p>第4回 教室の昼光率分布測定と評価</p> <p>第5回 室内照明計算</p> <p>第6回 定常伝熱計算（熱貫流率、伝熱量、表面温度）</p> <p>第7回 定常伝熱計算（平均熱貫流率）</p> <p>第8回 壁体の温度測定</p> <p>第9回 壁体の結露判定計算</p> <p>第10回 温熱環境の測定</p> <p>第11回 温熱環境の分析と評価</p> <p>第12回 必要換気量の計算</p> <p>第13回 室内ガス濃度の測定</p> <p>第14回 室内騒音の測定</p> <p>第15回 室内騒音の分析と評価</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	演習や実験への取り組み態度、レポートの内容を総合的に評価する。				
実務経験について	なし				

(注) 二級建築士（木造建築士）資格指定科目

授業科目	建築材料学		担当者	迫田順一				
	[履修年次]	2年	授業外対応	講義終了時				
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	選択(注)	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 住居を中心とした建築物を構成する様々な材料とその特質</p> <p>【概要】 どのような材料がどのような特質を持ち、どのように使われて建築物が構築されているのかについて可能な限り現物を見ながら学ぶ</p> <p>【到達目標】 講義では建築材料の特質と建築の各種構造方式と仕上げ工事の関係について工種毎に理解することを目標とする。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 松本進 「図説 やさしい建築材料」 学芸出版社</p> <p>(2) 建築学会編 「建築材料用教材」 彰国社</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 構法と建築材料</p> <p>第2回 主要構造部材と仕上げ材</p> <p>第3回 木材1 特性</p> <p>第4回 木材2 用法</p> <p>第5回 木材3 種類</p> <p>第6回 コンクリート1 特性</p> <p>第7回 コンクリート2 配合と強度</p> <p>第8回 コンクリート3 製作</p> <p>第9回 鋼材1 鉄筋</p> <p>第10回 鋼材2 鉄骨と接合</p> <p>第11回 その他の主要材料 (石・左官・ガラス・建具)</p> <p>第12回 材料の力学 (曲がりにくさ)</p> <p>第13回 環境にやさしい建築材料</p> <p>第14回 材料の積算</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜対応 (要予約)							
成績評価の方法	筆記試験							
実務経験について	建築設計並びに工事監理							

(注) 二級建築士(木造建築士) 資格指定科目

授業科目	建築生産		担当者	迫田順一				
	[履修年次]	2年	授業外対応	講義終了時				
	[学期]	後期	[単位]	1	[必修/選択]	選択(注)	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 各種建築構造方式の生産過程について学ぶ</p> <p>【概要】 住居を中心とした建築の企画設計から施工そして運営管理にいたる一連のプロセスの中で建築物がどのように生産されているのか総合的に理解する。</p> <p>【到達目標】 講義では建築の各種構造方式の施工手順について、工種と工程に沿って理解することを目標とする。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 今村仁美、田中美都 『図説 やさしい建築一般構造』 学芸出版社</p> <p>(2) 久富洋、古澤忠正 『図説 建築施工入門』 彰国社</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 構法と施工過程</p> <p>第2回 木構造と木工事</p> <p>第3回 鉄筋コンクリート造と鉄筋・型枠・コンクリート工事</p> <p>第4回 鉄骨構造 その他の構造</p> <p>第5回 建具・ガラス・屋根・防水工事・その他の仕上げ工事</p> <p>第6回 施工計画と種々の管理</p> <p>第7回 契約と実行</p> <p>第8回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜対応 (要予約)							
成績評価の方法	筆記試験							
実務経験について	建築設計並びに工事監理							

(注) 二級建築士(木造建築士) 資格指定科目

(注) 7. 5回

授業科目	建築法規		担当者	未定
	[履修年次]	2年	授業外対応	講義終了時
	[学期]	前期	[単位]	1単位
			[必修/選択]	選択
				[授業形態]
				講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 住宅をはじめとする建築物の安全性や快適性等を確保するための基本的なルールを定めた建築基準法等について学ぶ。</p> <p>【概要】 建築物は、人間の生活や社会活動の基盤であり、安全性や快適性等を確保するための最低基準を定めた建築基準法等を守らなければならない。 建築物の安全・衛生を確保するための基準や市街地の安全・環境を確保するための基準を定めた建築基準法を中心に、建築法規について解説する。</p> <p>【到達目標】 住宅や店舗・事務所等の建築物を安全に建てる際に必要な建築法規の基礎を理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 「いちばんやさしい 建築基準法 改訂2版」 発行所：株式会社 新星出版社</p> <p>(2) 適宜関連資料を配付</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 建築基準法は何のために (建築基準法の目的と構成、法規を理解するための用語)</p> <p>第2回 とともに地域で生活していくために (道路、用途制限、容積率、建蔽率、高さ制限、まちづくり制度)</p> <p>第3回 火災や災害から人命や財産を守るために (防火規定)</p> <p>第4回 火災や災害時に安全に避難するために (避難規定)</p> <p>第5回 安全な構造を維持するために (構造安全規定)</p> <p>第6回 よりよい住環境のために (一般構造規定：採光、換気、衛生、階段等)</p> <p>第7回 法が守られるために (制度規定、建築関連法規)</p> <p>第8回 まとめ (建築基準法等の改正動向等)</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験 (70%) ミニテスト (30%)			
実務経験について	行政機関にて建築主事(建築基準適合判定資格者)として、建築確認審査及び完了検査等の業務に従事			

(注) 二級建築士(木造建築士)資格指定科目

(注) 7.5回

授業科目	CAD設計		担当者	穴戸 克実
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応
	[学期]	後期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択(注)
				[授業形態]
				講義(演習含む)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 CADソフトや建築プレゼンテーションに関連する様々なソフトの基本的操作・建築図面作成手順、作品表現方法について学ぶ。</p> <p>【概要】 2次元CAD (Vectorworks)、3次元CAD (SketchUp)、画像編集の他、多様な関連ソフトを体験する。</p> <p>【到達目標】 CADソフトの操作法を習得し、基礎的な建築図面を作成できる。また、関連する多様なソフトの体験を通じ、プレゼンテーションスキルの幅が広がる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業中に指示</p> <p>(2) 鳥谷部真『徹底解説 VECTORWORKS』エクスマレッジ、ObraClub『優しく学ぶSketchUp』エクスマレッジ</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 はじめに CADについて、関連ソフト・周辺機器について</p> <p>第2回 2次元CAD Vectorworks 基本操作</p> <p>第3回 " "</p> <p>第4回 " Vectorworks：図面作成</p> <p>第5回 " "</p> <p>第6回 " Vectorworks：地図・地形図</p> <p>第7回 " Vectorworks：立体図</p> <p>第8回 3次元CAD SketchUp 作図課題</p> <p>第9回 " "</p> <p>第10回 " SketchUp 応用課題</p> <p>第11回 " "</p> <p>第12回 " "</p> <p>第13回 関連ソフトの理解 Vectorworks, SketchUp, iMovie, GoogleEarth, Photoshop 等</p> <p>第14回 " "</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。			
成績評価の方法	授業内課題 (100%)			
実務経験について	外食チェーン企業において店舗設計監理業務、都市コンサルタント企業において計画提案業務に携わった。			

(注) 二級建築士(木造建築士)資格指定科目

授業科目	建築史		担当者	宍戸 克実				
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	後期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	【テーマ】日本及び世界の建築・都市の成り立ちや構成について学び、身近な都市空間に存在する建築物や街並みの構成原理について考える。							
	【概要】ヨーロッパ、アフリカ、中東、アジアの他、日本の都市空間や建築物について学ぶ。							
	【到達目標】世界各地の建築・都市文化の概要について理解するとともに、身近な地域においてもその土地に根ざした建築・都市の成立背景や空間構成について意識することができるようになる。							
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 授業中に指示 (2) 西村幸夫『都市空間の構想力』学芸出版社、西田雅嗣『建築の歴史』学芸出版社							
授業スケジュール	第 1 回		はじめに	鹿児島市の都市と建築				
	第 2 回		西洋建築史	古代建築				
	第 3 回		〃	中世建築				
	第 4 回		〃	近世建築				
	第 5 回		日本建築史	古代建築				
	第 6 回		〃	中世建築				
	第 7 回		〃	近世建築				
	第 8 回		西洋・日本建築史	近代建築				
	第 9 回		世界の都市の歴史	アメリカ、ヨーロッパ				
	第 10 回		〃	日本、アジア				
	第 11 回		〃	中東、アフリカ				
	第 12 回		世界の都市の公共空間	市場、カフェ、商店街				
	第 13 回		〃	広場、浴場、宗教施設				
	第 14 回		イスラーム地域の都市文化	トルコ・イラン・エジプト				
	第 15 回		まとめ					
授業外学習(予習・復習)	予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。							
成績評価の方法	ミニッツペーパー・小テスト (70%)、レポート (30%)							
実務経験について	外食チェーン企業において店舗設計監理業務、都市コンサルタント企業において計画提案業務に携わった。							

(注) 二級建築士(木造建築士)免許登録時の要実務経験年数を1年短縮する場合の資格指定科目

授業科目	CAD設計特講		担当者	宍戸 克実				
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	前期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択 (注)	[授業形態]	講義 (演習含む)
テーマ及び概要	【テーマ】「CAD 設計」で習得した作図スキルを応用的に使用する課題に取り組む。本科目は設計製図Ⅲと連動したカリキュラムとなっている。							
	【概要】前半は CAD 関連ソフトを用いた応用的に使用する課題に取り組む、後期は二級建築士が設計可能な建築図面の作成課題に取り組む。							
	【到達目標】CAD 及び関連ソフトを複合的に使いこなし、建築物や周辺環境、都市空間について図面等多様な手法を用いて表現することができる。							
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 授業中に指示 (2) 総合資格学院『2級建築士試験 設計製図テキスト』総合資格							
授業スケジュール	第 1 回		はじめに	CAD ソフトとプレゼン関連機器について				
	第 2 回		CAD と地図データ	地理院地図、GoogleEarth、ゼンリン地図				
	第 3 回		3DCAD と立体地形	SketchUp				
	第 4 回		3DCAD と街並み再現	SketchUp				
	第 5 回		CAD とプレゼンソフト	Vectorworks, Photoshop, その他				
	第 6 回		CAD とプレゼンソフト	Vectorworks, iMovie				
	第 7 回		課題 1: 平面図	Vectorworks				
	第 8 回		〃	〃				
	第 9 回		課題 2: 立面図・断面図	〃				
	第 10 回		〃	〃				
	第 11 回		課題 3: 矩計図	〃				
	第 12 回		〃	〃				
	第 13 回		課題 4: 地域分析図	〃				
	第 14 回		〃	〃				
	第 15 回		まとめ	〃				
授業外学習(予習・復習)	予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。							
成績評価の方法	演習課題の発表・提出 (100%)							
実務経験について	外食チェーン企業において店舗設計監理業務、都市コンサルタント企業において計画提案業務に携わった。							

(注) 二級建築士(木造建築士)免許登録時の要実務経験年数を1年短縮する場合の資格指定科目

授業科目	設計製図Ⅲ	担当者	宍戸 克実																																														
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 1単位	授業外対応 〔必修/選択〕	適宜対応 選択(注)	〔授業形態〕 実習																																													
テーマ及び概要	<p>【テーマ】二級建築士が設計可能な建築物の建築計画、設計手順、図面作成について理解する。本科目は CAD 設計特講と連動したカリキュラムとなっている。</p> <p>【概要】店舗併用住宅や小規模公共施設等の設計課題に取り組み、課題文の読解、エスキス方法、要求図面について学ぶ。</p> <p>【到達目標】二級建築士製図の構成・手順・図面作成方法について理解できる。</p>																																																
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 総合資格学院『2級建築士試験 設計製図テキスト』総合資格</p> <p>(2) 日建学院教材研究会『2級建築士設計製図試験課題対策集』日建資料研究社</p>																																																
授業スケジュール	<table border="0"> <tr><td>第 1 回</td><td>はじめに</td><td>建築士資格と試験、課題文の理解、例題</td></tr> <tr><td>第 2 回</td><td>エスキス課題 1：木造</td><td>専用住宅</td></tr> <tr><td>第 3 回</td><td>エスキス課題 2：木造</td><td>店舗併用住宅</td></tr> <tr><td>第 4 回</td><td>エスキス課題 3：木造</td><td>〃</td></tr> <tr><td>第 5 回</td><td>エスキス課題 4：鉄骨造</td><td>小規模な公共施設</td></tr> <tr><td>第 6 回</td><td>エスキス課題 5：RC 造</td><td>〃</td></tr> <tr><td>第 7 回</td><td>作図課題 1：木造</td><td>店舗併用住宅：平面図</td></tr> <tr><td>第 8 回</td><td>〃</td><td>〃</td></tr> <tr><td>第 9 回</td><td>作図課題 2：木造</td><td>店舗併用住宅：立面図</td></tr> <tr><td>第 10 回</td><td>〃</td><td>店舗併用住宅：断面図</td></tr> <tr><td>第 11 回</td><td>作図課題 3：木造</td><td>矩計図</td></tr> <tr><td>第 12 回</td><td>〃</td><td>矩計図</td></tr> <tr><td>第 13 回</td><td>課題：軸組在来工法の理解</td><td>軸組模型</td></tr> <tr><td>第 14 回</td><td>〃</td><td>軸組模型</td></tr> <tr><td>第 15 回</td><td>まとめ</td><td></td></tr> </table>				第 1 回	はじめに	建築士資格と試験、課題文の理解、例題	第 2 回	エスキス課題 1：木造	専用住宅	第 3 回	エスキス課題 2：木造	店舗併用住宅	第 4 回	エスキス課題 3：木造	〃	第 5 回	エスキス課題 4：鉄骨造	小規模な公共施設	第 6 回	エスキス課題 5：RC 造	〃	第 7 回	作図課題 1：木造	店舗併用住宅：平面図	第 8 回	〃	〃	第 9 回	作図課題 2：木造	店舗併用住宅：立面図	第 10 回	〃	店舗併用住宅：断面図	第 11 回	作図課題 3：木造	矩計図	第 12 回	〃	矩計図	第 13 回	課題：軸組在来工法の理解	軸組模型	第 14 回	〃	軸組模型	第 15 回	まとめ	
第 1 回	はじめに	建築士資格と試験、課題文の理解、例題																																															
第 2 回	エスキス課題 1：木造	専用住宅																																															
第 3 回	エスキス課題 2：木造	店舗併用住宅																																															
第 4 回	エスキス課題 3：木造	〃																																															
第 5 回	エスキス課題 4：鉄骨造	小規模な公共施設																																															
第 6 回	エスキス課題 5：RC 造	〃																																															
第 7 回	作図課題 1：木造	店舗併用住宅：平面図																																															
第 8 回	〃	〃																																															
第 9 回	作図課題 2：木造	店舗併用住宅：立面図																																															
第 10 回	〃	店舗併用住宅：断面図																																															
第 11 回	作図課題 3：木造	矩計図																																															
第 12 回	〃	矩計図																																															
第 13 回	課題：軸組在来工法の理解	軸組模型																																															
第 14 回	〃	軸組模型																																															
第 15 回	まとめ																																																
授業外学習(予習・復習)	予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。																																																
成績評価の方法	演習課題の提出 (100%)																																																
実務経験について	外食チェーン企業において店舗設計監理業務、都市コンサルタント企業において計画提案業務に携わった。																																																

(注) 二級建築士(木造建築士)免許登録時の要実務経験年数を1年短縮する場合の資格指定科目

授業科目	設計製図Ⅳ	担当者	宍戸 克実																																														
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 通年 〔単位〕 4単位	授業外対応 〔必修/選択〕	適宜対応 選択必修(注)	〔授業形態〕 実習																																													
テーマ及び概要	<p>【テーマ】二級建築士が設計可能な規模の建築物を対象とした研究・設計課題に取り組みとともに、地域に根ざした建築や都市の空間構成・形成過程について考え、地域課題の解決を目指した設計提案を試みる。</p> <p>【概要】本科目は通年科目である。前期は課題として設定した地域・建築の既存情報を整理し、図面等の資料を製作してプレゼンテーションする。後期は、前期の成果をもとに地域の課題と向き合い、建築・都市的アプローチによる提案を試みる。</p> <p>【到達目標】地域における建築・都市的課題や魅力を踏まえた建築設計について理解できる。</p>																																																
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業中に指示</p> <p>(2) 日本建築学会『コンパクト建築設計資料集成』丸善、西村幸夫『まちの見方・調べ方』朝倉書店</p>																																																
授業スケジュール	<table border="0"> <tr><td colspan="2">【前期】</td><td></td></tr> <tr><td>第 1 回～第 3 回</td><td>課題 1：建築及び都市研究・製作</td><td>事例研究、資料調査、現地調査</td></tr> <tr><td>第 4 回～第 6 回</td><td>〃</td><td>地域分析・ディスカッション</td></tr> <tr><td>第 7 回～第 9 回</td><td>〃</td><td>地域模型の作成</td></tr> <tr><td>第 10 回～第 12 回</td><td>〃</td><td>プレゼン図の作成・発表</td></tr> <tr><td>第 13 回～第 15 回</td><td>〃</td><td>各自の研究・制作対象地の調査・研究</td></tr> <tr><td colspan="2">【後期】</td><td></td></tr> <tr><td>第 16 回～第 21 回</td><td>課題 2：建築及び都市研究・製作</td><td>構想検討</td></tr> <tr><td>第 22 回～第 27 回</td><td>〃</td><td>〃</td></tr> <tr><td>第 28 回～第 33 回</td><td>〃</td><td>発表・ディスカッション</td></tr> <tr><td>第 34 回～第 39 回</td><td>〃</td><td>都市構成図、地域構成図作成</td></tr> <tr><td>第 40 回～第 45 回</td><td>〃</td><td>平面図、立面図、断面図、その他図版</td></tr> <tr><td>第 46 回～第 51 回</td><td>〃</td><td>模型・プレゼン資料作成</td></tr> <tr><td>第 52 回～第 57 回</td><td>〃</td><td>発表資料、プレゼンボード</td></tr> <tr><td>第 59 回～第 60 回</td><td>〃</td><td>要旨・発表・論文提出</td></tr> </table>				【前期】			第 1 回～第 3 回	課題 1：建築及び都市研究・製作	事例研究、資料調査、現地調査	第 4 回～第 6 回	〃	地域分析・ディスカッション	第 7 回～第 9 回	〃	地域模型の作成	第 10 回～第 12 回	〃	プレゼン図の作成・発表	第 13 回～第 15 回	〃	各自の研究・制作対象地の調査・研究	【後期】			第 16 回～第 21 回	課題 2：建築及び都市研究・製作	構想検討	第 22 回～第 27 回	〃	〃	第 28 回～第 33 回	〃	発表・ディスカッション	第 34 回～第 39 回	〃	都市構成図、地域構成図作成	第 40 回～第 45 回	〃	平面図、立面図、断面図、その他図版	第 46 回～第 51 回	〃	模型・プレゼン資料作成	第 52 回～第 57 回	〃	発表資料、プレゼンボード	第 59 回～第 60 回	〃	要旨・発表・論文提出
【前期】																																																	
第 1 回～第 3 回	課題 1：建築及び都市研究・製作	事例研究、資料調査、現地調査																																															
第 4 回～第 6 回	〃	地域分析・ディスカッション																																															
第 7 回～第 9 回	〃	地域模型の作成																																															
第 10 回～第 12 回	〃	プレゼン図の作成・発表																																															
第 13 回～第 15 回	〃	各自の研究・制作対象地の調査・研究																																															
【後期】																																																	
第 16 回～第 21 回	課題 2：建築及び都市研究・製作	構想検討																																															
第 22 回～第 27 回	〃	〃																																															
第 28 回～第 33 回	〃	発表・ディスカッション																																															
第 34 回～第 39 回	〃	都市構成図、地域構成図作成																																															
第 40 回～第 45 回	〃	平面図、立面図、断面図、その他図版																																															
第 46 回～第 51 回	〃	模型・プレゼン資料作成																																															
第 52 回～第 57 回	〃	発表資料、プレゼンボード																																															
第 59 回～第 60 回	〃	要旨・発表・論文提出																																															
授業外学習(予習・復習)	予習・復習を兼ねた宿題を課す。課題の一部は授業外での取り組みが必要となる。																																																
成績評価の方法	前期課題の発表・提出 (30%)、後期課題の発表・提出 (70%)																																																
実務経験について	外食チェーン企業において店舗設計監理業務、都市コンサルタント企業において計画提案業務に携わった。																																																

(注) 二級建築士(木造建築士)免許登録時の要実務経験年数を1年短縮する場合の資格指定科目

授業科目	空間デザイン論		担当者	川島 茂																																														
	[履修年次]	1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)																																														
	[学期]	前期	[単位]	2	[授業形態]	講義																																												
		[必修/選択]	選択																																															
テーマ及び概要	<p>【テーマ】空間デザインの事例分析等を通して設計手法とプレゼンテーションを学習する。 ※本講座の受講生は「設計製図Ⅰ」を必ず受講してください。</p> <p>【概要】建築、インテリア等の事例を示し、そこにある設計主旨、理念またプレゼンテーション手法を解説しつつ、学生自身の設計作品への水平展開を目指しつつ、プレゼンテーションを実施する。</p> <p>【到達目標】空間デザインにおける設計主旨、理念を学生自らが発案し、適切な表現でプレゼンテーションができるとともに他者作品についても意見を持てるようにする。</p>																																																	
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 本杉省三他著「建築デザインの基礎 製図方から生活デザインまで」彰国社 (2) 適宜紹介</p>																																																	
授業スケジュール	<table border="1"> <tr><td>第 1回</td><td>ガイダンス</td><td>空間デザインにもとめられるもの</td></tr> <tr><td>第 2回</td><td>空間のテーマ</td><td>コンセプトとは</td></tr> <tr><td>第 3回</td><td>図面と表現</td><td>図面表現について</td></tr> <tr><td>第 4回</td><td>平面図-1</td><td>平面図とは</td></tr> <tr><td>第 5回</td><td>平面図-2</td><td>平面図演習</td></tr> <tr><td>第 6回</td><td>断面図</td><td>平面から立体へ</td></tr> <tr><td>第 7回</td><td>立体図-1</td><td>アクソメ図とアイソメ図</td></tr> <tr><td>第 8回</td><td>立体図-2</td><td>透視図の原理と図法</td></tr> <tr><td>第 9回</td><td>立体図-3</td><td>立体図によるプレゼンテーション</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>表現ツールとしての CAD</td><td>操作演習</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>住空間のコンセプト</td><td>狭小住宅課題</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>住空間の計画</td><td>狭小住宅課題</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>美術空間について-1</td><td>日本の美術館</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>美術空間について-2</td><td>世界の美術館</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>まとめ・講評</td><td></td></tr> </table>					第 1回	ガイダンス	空間デザインにもとめられるもの	第 2回	空間のテーマ	コンセプトとは	第 3回	図面と表現	図面表現について	第 4回	平面図-1	平面図とは	第 5回	平面図-2	平面図演習	第 6回	断面図	平面から立体へ	第 7回	立体図-1	アクソメ図とアイソメ図	第 8回	立体図-2	透視図の原理と図法	第 9回	立体図-3	立体図によるプレゼンテーション	第10回	表現ツールとしての CAD	操作演習	第11回	住空間のコンセプト	狭小住宅課題	第12回	住空間の計画	狭小住宅課題	第13回	美術空間について-1	日本の美術館	第14回	美術空間について-2	世界の美術館	第15回	まとめ・講評	
第 1回	ガイダンス	空間デザインにもとめられるもの																																																
第 2回	空間のテーマ	コンセプトとは																																																
第 3回	図面と表現	図面表現について																																																
第 4回	平面図-1	平面図とは																																																
第 5回	平面図-2	平面図演習																																																
第 6回	断面図	平面から立体へ																																																
第 7回	立体図-1	アクソメ図とアイソメ図																																																
第 8回	立体図-2	透視図の原理と図法																																																
第 9回	立体図-3	立体図によるプレゼンテーション																																																
第10回	表現ツールとしての CAD	操作演習																																																
第11回	住空間のコンセプト	狭小住宅課題																																																
第12回	住空間の計画	狭小住宅課題																																																
第13回	美術空間について-1	日本の美術館																																																
第14回	美術空間について-2	世界の美術館																																																
第15回	まとめ・講評																																																	
授業外学習(予習・復習)	適宜指示																																																	
成績評価の方法	課題 (100%)																																																	
実務経験について	建築設計監理、コンサルタント業務																																																	

授業科目	空間デザインⅠ		担当者	川島 茂																																														
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)																																														
	[学期]	前期	[単位]	1	[授業形態]	実習																																												
		[必修/選択]	選択																																															
テーマ及び概要	<p>【テーマ】空間創出に対する多様な発想と理念の強化。 ※本講座は「卒業研究 D」の受講生のみを対象とします。</p> <p>【概要】公募されている学生コンペ参加を通して、コンセプトの立案から計画、プレゼンテーションまでをグループでまとめ、協業で課題制作に取り組む。</p> <p>【到達目標】課題に対する多様なアイデアを発案しながら、それぞれの空間理念を強化、他者の考えを吸収しひとつの提案へとまとめるための調整力を習得する。</p>																																																	
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 日本建築学会編「コンパクト建築設計資料〈住居〉」丸善 (2) 本杉省三他著「建築デザインの基礎 製図方から生活デザインまで」彰国社</p>																																																	
授業スケジュール	<table border="1"> <tr><td>第 1回</td><td>ガイダンス</td><td>アイデアコンペについて</td></tr> <tr><td>第 2回</td><td>コンペの選定</td><td>アイデアコンペに求められるもの</td></tr> <tr><td>第 3回</td><td>コンセプトの立案-1</td><td>アイデアの発案-1</td></tr> <tr><td>第 4回</td><td>コンセプトの立案-2</td><td>アイデアの発案-2</td></tr> <tr><td>第 5回</td><td>コンセプトの立案-3</td><td>アイデアの発案-3</td></tr> <tr><td>第 6回</td><td>計画案の立案-1</td><td>計画案のゾーニング</td></tr> <tr><td>第 7回</td><td>計画案の立案-2</td><td>計画案のプランニング</td></tr> <tr><td>第 8回</td><td>計画案の立案-3</td><td>計画案の立体</td></tr> <tr><td>第 9回</td><td>中間講評-1</td><td>コンセプトのプレゼンテーションとグループディスカッション-1</td></tr> <tr><td>第10回</td><td>中間講評-2</td><td>コンセプトのプレゼンテーションとグループディスカッション-2</td></tr> <tr><td>第11回</td><td>計画案の再考</td><td>計画案のまとめ・模型作成</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>プレゼンシート作成-1</td><td>プレゼンシートレイアウトと模型作成</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>プレゼンシート作成-2</td><td>プレゼンシートレイアウトと模型写真撮影</td></tr> <tr><td>第14回</td><td>プレゼンシート作成-3</td><td>プレゼンシート仕上げ</td></tr> <tr><td>第15回</td><td>講評</td><td></td></tr> </table>					第 1回	ガイダンス	アイデアコンペについて	第 2回	コンペの選定	アイデアコンペに求められるもの	第 3回	コンセプトの立案-1	アイデアの発案-1	第 4回	コンセプトの立案-2	アイデアの発案-2	第 5回	コンセプトの立案-3	アイデアの発案-3	第 6回	計画案の立案-1	計画案のゾーニング	第 7回	計画案の立案-2	計画案のプランニング	第 8回	計画案の立案-3	計画案の立体	第 9回	中間講評-1	コンセプトのプレゼンテーションとグループディスカッション-1	第10回	中間講評-2	コンセプトのプレゼンテーションとグループディスカッション-2	第11回	計画案の再考	計画案のまとめ・模型作成	第12回	プレゼンシート作成-1	プレゼンシートレイアウトと模型作成	第13回	プレゼンシート作成-2	プレゼンシートレイアウトと模型写真撮影	第14回	プレゼンシート作成-3	プレゼンシート仕上げ	第15回	講評	
第 1回	ガイダンス	アイデアコンペについて																																																
第 2回	コンペの選定	アイデアコンペに求められるもの																																																
第 3回	コンセプトの立案-1	アイデアの発案-1																																																
第 4回	コンセプトの立案-2	アイデアの発案-2																																																
第 5回	コンセプトの立案-3	アイデアの発案-3																																																
第 6回	計画案の立案-1	計画案のゾーニング																																																
第 7回	計画案の立案-2	計画案のプランニング																																																
第 8回	計画案の立案-3	計画案の立体																																																
第 9回	中間講評-1	コンセプトのプレゼンテーションとグループディスカッション-1																																																
第10回	中間講評-2	コンセプトのプレゼンテーションとグループディスカッション-2																																																
第11回	計画案の再考	計画案のまとめ・模型作成																																																
第12回	プレゼンシート作成-1	プレゼンシートレイアウトと模型作成																																																
第13回	プレゼンシート作成-2	プレゼンシートレイアウトと模型写真撮影																																																
第14回	プレゼンシート作成-3	プレゼンシート仕上げ																																																
第15回	講評																																																	
授業外学習(予習・復習)	適宜指示																																																	
成績評価の方法	課題 (100%)																																																	
実務経験について	建築設計監理、コンサルタント業務																																																	

授業科目	空間デザインⅡ		担当者	川島 茂			
	[履修年次]	2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)			
	[学期]	前期	[単位]	1	[必修/選択]	選択	[授業形態]
テーマ及び概要	<p>【テーマ】空間デザインにより発信するメッセージをクリアに伝えるプレゼンテーション力の強化。</p> <p>※本講座は「卒業研究D」の受講生のみを対象とします。</p> <p>【概要】設計製図Ⅰ、Ⅱで制作した課題作品を、それまで習得した表現を駆使し、ポートフォリオにまとめる。</p> <p>【到達目標】プレゼンテーション力の実践的総合化を達成する。</p>						
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 本杉省三他著「建築デザインの基礎 製図方から生活デザインまで」彰国社 (2)						
授業スケジュール	第 1回	ガイダンス	プレゼンテーションとは				
	第 2回	プレゼンテーション準備	フォーマットの作成				
	第 3回	プレゼンテーション-1	狭小住宅課題のコンセプトとダイアグラム-1				
	第 4回	プレゼンテーション-2	狭小住宅課題のコンセプトとダイアグラム-2				
	第 5回	プレゼンテーション-3	狭小住宅課題の図面表現				
	第 6回	プレゼンテーション-4	住宅課題のコンセプトとダイアグラム-1				
	第 7回	プレゼンテーション-5	住宅課題のコンセプトとダイアグラム-2				
	第 8回	プレゼンテーション-6	住宅課題の図面表現				
	第 9回	プレゼンテーション-7	ギャラリー課題のコンセプトとダイアグラム-1				
	第10回	プレゼンテーション-8	ギャラリー課題のコンセプトとダイアグラム-2				
	第11回	プレゼンテーション-9	ギャラリー課題の図面表現				
	第12回	プレゼンテーション-10	模型写真				
	第13回	プレゼンテーション-11	レイアウト-1				
	第14回	プレゼンテーション-12	レイアウト-2				
	第15回	まとめ・レポート出題					
授業外学習(予習・復習)	適宜指示						
成績評価の方法	課題 (100%)						
実務経験について	建築設計監理、コンサルタント業務						

授業科目	卒業研究D		担当者	川島 茂			
	[履修年次]	2年	授業外対応	[履修年次]			
	[学期]	通年	[単位]	4	[必修/選択]	選択必修	[授業形態]
テーマ及び概要	<p>【テーマ】建築、インテリアデザイン分野の研究と設計。指導教員と相談のうえ、各自が自由なテーマを設定する。</p> <p>ただし、テーマは現代社会が直面する計画課題とし、諸問題に対応するものが求められる。</p> <p>え、具体的な設計に展開する。</p> <p>【到達目標】将来的に建築、インテリアデザイン分野に取り組むための基本的な視点を習得する。</p>						
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2) 研究及び設計のテーマに沿った参考文献を適宜指示する。						
授業スケジュール	第 1回		卒業研究・設計課題：研究と作品制作の進め方				
	第 2回	～第 5回	卒業研究・設計課題：研究・設計のテーマの検討と設定				
	第 6回	～第 12回	卒業研究・設計課題：文献、資料収集及び考察、計画条件の設定				
	第 13回	～第 22回	卒業研究・設計課題：エスキス、設計				
	第 23回	～第 29回	卒業研究・設計課題：プレゼンテーションシートの作成				
	第 30回		卒業研究・設計課題：発表				
授業外学習(予習・復習)	ゼミでは適当な指導を受けられるよう、自らの構想や提案を表現する図面、スケッチ、スタディ模型等を用意する等、十分な準備を求める。						
成績評価の方法	研究および設計の取り組み方 (50%)、成果物 (50%) の総合評価とする。						
実務経験について	建築設計監理、コンサルタント業務						

10 第一部商経学科の専攻間で共通する科目
(専門基礎科目)

授業科目	情報社会論	担当者	未定
	[履修年次]	授業外対応	
	[学期] [単位]	[必修/選択]	[授業形態]
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回		
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法			
実務経験について			

授業科目	現代社会論	担当者	山口 祐司
	[履修年次] 1、2年	授業外対応	メール等で予約の上適宜対応します。
	[学期] 後期 [単位] 2	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	【テーマ】 私たちの社会における「分断」の問題を、「グローバリゼーション」と「新自由主義」という視座から考えていきます。 【概要】 この授業は、現代社会を主として 1970 年代以降の資本主義の調整・発展という切り口からとらえていきます。「グローバリゼーション」(第 2～4 回)、「新自由主義」(第 5～7 回) というキーワードでまず理解の枠組みを整理し、現代社会が直面する大きな問題(第 8～12 回) についてそれぞれ検討します。最後に問題の打開の兆し(第 13～14 回) をみていきます。 【到達目標】 現代社会が直面するさまざまな問題について理解を深めること。問題の背景について考え、これからの社会を作る一員として解決策を見出す力をつけること。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 講義時に提示		
授業スケジュール	第 1 回 ガイダンス、現代社会をとらえる視座：グローバリゼーションと新自由主義 第 2 回 グローバリゼーション (1) グローバリゼーションとは何か 第 3 回 グローバリゼーション (2) グローバリゼーションと企業 第 4 回 グローバリゼーション (3) グローバリゼーションと国・地域 第 5 回 新自由主義 (1) 経済学における自由 第 6 回 新自由主義 (2) 新自由主義とは何か 第 7 回 新自由主義 (3) 新自由主義政策と格差問題 第 8 回 現代社会の諸問題 (1) 民族・宗教をめぐる国際紛争 第 9 回 現代社会の諸問題 (2) 人の移動と排外主義 第 10 回 現代社会の諸問題 (3) 疲弊する地域経済 第 11 回 現代社会の諸問題 (4) 行き詰まる社会保障システム 第 12 回 現代社会の諸問題 (5) 悪化する地球環境問題 第 13 回 行き詰まりを打開するために (1) 所得再分配の模索 第 14 回 行き詰まりを打開するために (2) 世界的に活発化する社会運動 第 15 回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	事前に予習用の参考文献を提示することがあります。授業後にはプリントをよく見直すようにしてください。		
成績評価の方法	筆記試験 (60%)、毎回の授業で実施する授業まとめ (40%)		
実務経験について	なし。		

授業科目	社会哲学	担当者	的場 (藤井) 千佳世
	[履修年次] 1年、2年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	講義終了時
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 生命と規範・女性と正義</p> <p>【概要】 生命、女性、正義、これらの概念をめぐって、これまで哲学や倫理学においてどのような議論が展開されてきたか、これらの概念が現代哲学においてどのように位置づけられているかを知ることで、伝統的な哲学や倫理学の限界と新しい社会のあり方を探っていくことが課題となる。</p> <p>【到達目標】 ・伝統的に社会的規範と呼ばれてきたものを理解し、説明できる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 毎回プリントを配布します。 (2) 講義の各回に参考文献を紹介しします。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 はじめに：授業全体に関する説明 第 2回 平等とは何か：不正入試と優先枠 第 3回 アンティゴネーと正義 第 4回 正義と目隠し 第 5回 ノモスとピュシス：透明マントを手に入れたら何をするか 第 6回 ビオスとゾーエー：よく生きることだけがよいことか 第 7回 健康と病気 第 8回 遺伝子診断と優生思想 第 9回 自己決定と責任 第 10回 正義論 1：ホッブズの正義論と囚人のジレンマ 第 11回 正義論 2：ロールズの正義論（無知のヴェール） 第 12回 正義論 3：センのロールズ批判（ケイパビリティの平等） 第 13回 ケアの倫理 1：応答可能性としての責任 第 14回 ケアの倫理 2：ケアの倫理と正義の倫理 第 15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	授業ごとにミニッツペーパーを提出/最終試験に向けての準備		
成績評価の方法	授業ごとのミニッツペーパー 40%		
実務経験について	筆記試験 60%		

授業科目	経済学	担当者	山口 祐司
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	メール等で予約の上適宜対応します。
		[必修/選択]	必修 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ミクロ経済学・マクロ経済学を中心に経済学の基礎的な考え方を学んでいきます。</p> <p>【概要】 経済とは、経済学の考え方（第1～2回）。ミクロ経済学の基礎的理論（第3～7回）。マクロ経済学の基礎理論（第8～14回）。</p> <p>【到達目標】 経済学の基礎的な概念と理論を理解すること。新聞などに登場する時事的な経済問題について、自分なりの観点をもつこと。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント (2) マンキュー、N・グレゴリー（2014）『マンキュー入門経済学 [第2版]』東洋経済新報社</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 授業ガイダンス、経済とは何か 第 2回 経済学の考え方 第 3回 ミクロ経済学の基礎（1）需要と供給 第 4回 ミクロ経済学の基礎（2）価格決定と政府の政策 第 5回 ミクロ経済学の基礎（3）市場の効率性 第 6回 ミクロ経済学の基礎（4）不完全市場 第 7回 ミクロ経済学の基礎（5）ミクロ経済学のまとめ 第 8回 マクロ経済学の基礎（1）GDPの測定 第 9回 マクロ経済学の基礎（2）インフレーションとデフレーション 第 10回 マクロ経済学の基礎（3）経済成長 第 11回 マクロ経済学の基礎（4）貯蓄、投資と金融システム 第 12回 マクロ経済学の基礎（5）マクロ経済政策の役割 第 13回 マクロ経済学の基礎（6）外国貿易 第 14回 マクロ経済学の基礎（7）マクロ経済学のまとめ 第 15回 全体のまとめ、テスト対策</p>		
授業外学習(予習・復習)	毎回の授業範囲の予習（テキスト）・復習のほか、新聞の経済欄を日常から読むようにしてください。		
成績評価の方法	筆記試験（60%）、毎回の授業で実施する授業まとめ（40%）		
実務経験について	なし。		

授業科目	消費者問題		担当者	石窪 奈穂美
	[履修年次]	1年, 2年 履修可	授業外対応	講義終了時及び適宜対応 (要予約)
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「消費者問題を通して考える—自己責任社会における消費者のあり方・役割について」</p> <p>【概要】規制緩和やグローバル化等、私たち消費者を取り巻く状況は様々に変化し、自己責任社会を迎えています。また、消費者問題も多様化・複雑化しています。様々な消費者問題を取り上げながら、消費者の権利と責任について理解し、消費者問題を幅広い視点から捉え、問題点や解決策を考えます。その上で、消費者としてあるべき姿や企業・行政のあり方等についても同時に考えていきます。</p> <p>【到達目標】消費者基本法が制定され、消費者は単なる保護する対象ではなく権利主体であることが明確化され、消費者自らが自立し、「消費者力」を身につけなければならないといわれています。生活者として、消費者として、社会人として、各自の価値システムをどう作り上げていくのか、消費者主権の主体的・合理的な選択、判断能力を養います。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 無し。随時プリント・資料等を配布する。</p> <p>(2) 講義時に必要な際は紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 講義の目的と進め方、消費者の権利と責任</p> <p>第 2回 消費者問題と生活問題、現代の生活問題の全体像</p> <p>第 3回 消費者問題の時代背景とその後への影響</p> <p>第 4回 悪質商法の現状、若者に多い商法</p> <p>第 5回 ネット時代の消費者トラブルとその付き合い方</p> <p>第 6回 消費者と契約、消費者法のしくみ</p> <p>第 7回 消費者契約法、特定商取引法等</p> <p>第 8回 クレジットの基礎知識と消費者トラブルの現状</p> <p>第 9回 食に関する安心・安全の動き、食品表示制度</p> <p>第 10回 食情報との付き合い方、見極め方</p> <p>第 11回 急増する製品事故と法改正</p> <p>第 12回 消費者安全と製造物責任法</p> <p>第 13回 環境・エネルギー問題の捉え方と消費行動</p> <p>第 14回 消費者市民社会の構築、消費者の責任と自覚</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示、復習を重視する。			
成績評価の方法	授業への参加態度 (20%)、提出物 (20%)、定期試験 (60%) による総合評価			
実務経験について	企業勤務ならびに企業のアドバイザーとして活動。			

授業科目	行政法		担当者	山本 敬生
	[履修年次]	1,2年履修可	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	前期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義形式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】行政行為論を中心とした行政法の基礎理論を理解した上で、行政不服審査法、行政事件訴訟法、国家賠償法の基本構造を体系的に把握し、行政的法的コントロールのあり方について学習することをテーマにする。</p> <p>【概要】周知のとおり、行政法は通則的法典が存在しておらず、そのため無数の行政法規を把握するための理論が他の法律学に比べて強く求められる学問である。本講義では、行政法の基本原則である法律による行政の原理 (法律の法規創造力、法律の優位の原則、法律の留保の原則)、行政行為、行政立法、行政計画、行政指導、行政契約等の行政の行為形式論、行政上の義務履行確保制度、行政手続等の行政上の一般制度をわかりやすく解説し行政法の基礎理論を体系的に理解した上で、行政不服審査法、行政事件訴訟法、国家賠償法といった一般法について、国民の権利救済という視点から学習する。</p> <p>【到達目標】行政法の基本原則、行政の行為形式論、行政上の一般制度、行政救済法について説明できるようになり、行政法的視点に立った行政と市民との関係のあり方を考察できる力を習得することを目標とする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 佐伯仁志他編、『ポケット六法 (令和5年度版)』、有斐閣</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 行政法概論 ・ 行政の定義、法律の法規創造力、法律の優位の原則、法律の留保の原則について</p> <p>第 2回 行政立法 ・ 法規命令、委任命令、執行命令、白紙委任の禁止の原則、行政規則について</p> <p>第 3回 行政行為(1) ・ 公定力、不可争力、不可変更力、執行力、拘束力について</p> <p>第 4回 行政行為(2) ・ 無効の行政行為、取消しうべき行政行為、羈束行為、裁量行為について</p> <p>第 5回 行政指導 ・ 規制的行政指導、助成的行政指導、調整的行政指導、要綱行政について</p> <p>第 6回 行政上の強制執行制度 ・ 代執行、執行罰、直接強制、行政上の強制徴収、行政サービスの提供拒否について</p> <p>第 7回 行政手続法 ・ 申請に対する処分、不利益処分、行政指導、命令等を定める行為の手続について</p> <p>第 8回 行政不服申立て ・ 審査請求、異議申し立て、再審査請求、教示について</p> <p>第 9回 行政事件訴訟法(1) ・ 抗告訴訟、民衆訴訟、義務付け訴訟、差止め訴訟、取消訴訟、事情判決について</p> <p>第 10回 行政事件訴訟法(2) ・ 取消判決の効力、執行不停止の原則、内閣総理大臣の異議、処分性について</p> <p>第 11回 行政事件訴訟法(3) ・ 原告適格、保護に値する利益説、狭義の訴えの利益について</p> <p>第 12回 国家賠償法(1) ・ 代位責任説、自己責任説、公権力の行使の範囲、故意・過失、求償権について</p> <p>第 13回 国家賠償法(2) ・ 公の营造物、人工公物、自然公物、高知落石事件、大東水害事件について</p> <p>第 14回 損失補償 ・ 奈良県ため池条例事件、完全補償説、相当補償説、国家補償の谷間について</p> <p>第 15回 公物 ・ 公共用物、公用物、自然公物、人工公物、公物の時効取得について</p>			
授業外学習(予習・復習)	復習を重視する。			
成績評価の方法	筆記試験 (90%) + 授業での発言内容 (10%) を基準として評価する。			
実務経験について	なし			

授業科目	経済政策	担当者	岩上敏秀
	[履修年次] 1年、2年 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	いつでも対応します。メールで連絡してください。
		[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本および地域経済が抱えるさまざまな課題に対して、どのような政策が必要なのかを考えます。</p> <p>【概要】経済成長の鈍化と人口減少・少子高齢化の進展によって、これまで日本の経済社会を支えてきた諸制度にひずみが生じ、再構築が迫られています。日本や地域経済が抱えるさまざまな課題を採り上げ、将来に向けた制度設計について考えていきます。スマホを活用したリアルタイム投稿システムを使い、受講者の意見を聞きながら双方向の講義を行います。</p> <p>【到達目標】日本および地域経済が抱えている課題に関心を持ち、さまざまな見方を踏まえ、自分自身で考える視点を持ち、自分の意見を説明できるようになる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業内で適宜紹介する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目的・進め方 序章：経済政策とは何か</p> <p>第2回 日本経済の構造変化と経済政策：日本はなぜ課題先進国となったのか、どのような経済政策がとられてきたか</p> <p>第3回 経済成長を考える：経済政策の目的は、現在どのような経済政策がとられているか</p> <p>第4回 財政再建を考える(1)：財政の現状は、財政赤字は問題なのか</p> <p>第5回 財政再建を考える(2)：財政再建のための方策は、「社会保障と税の一体改革」とは</p> <p>第6回 社会保障と雇用の将来を考える(1)：社会情勢の変化と社会保障制度、少子高齢化の背景は</p> <p>第7回 社会保障と雇用の将来を考える(2)：所得格差は拡大しているのか、非正規雇用をめぐる課題とは</p> <p>第8回 異次元の金融政策について考える(1)：金融政策とは何か、金融政策の役割と制度は</p> <p>第9回 異次元の金融政策について考える(2)：バブル崩壊以降の金融政策の効果は</p> <p>第10回 環境問題を考える(1)：環境問題とは何か、パリ協定とは、日本の取り組みは</p> <p>第11回 環境問題を考える(2)：環境問題と経済政策</p> <p>第12回 地域経済を考える(1)：地方の現状は(人口減少、産業空洞化、地方の財政)</p> <p>第13回 地域経済を考える(2)：地域経済を支える産業政策とは</p> <p>第14回 地域経済を考える(3)：地域創生のために必要な政策とは</p> <p>第15回 まとめ、講義評価アンケート実施</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示します		
成績評価の方法	中間レポート(40%)＋期末レポート(60%)		
実務経験について	国内外の金融機関で約30年の実務経験があります。		

授業科目	金融論	担当者	岩上敏秀
	[履修年次] 1年、2年 [学期] 前期 [単位] 2	授業外対応	いつでも対応します。メールで連絡してください。
		[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】金融の仕組みや、経済社会の中で金融取引が果たしている役割について理解を深めます。</p> <p>【概要】モノやサービスが取引される裏では必ずお金が動きます。経済活動には、お金がスムーズに動く仕組みが不可欠です。金融とは世の中でお金がスムーズに動く仕組みのこと。本講義では、経済社会における金融の役割を学んだうえで、銀行や証券会社の役割や業務内容、株式等の証券取引や最新のフィンテック動向まで幅広いテーマを採り上げます。金融と経済のかかわりを幅広く学び、社会人として必要な金融知識を身につけます。スマホを活用したリアルタイム投稿システムを使って、受講者の意見を聞きながら双方向の講義を行います。</p> <p>【到達目標】金融の基本的な仕組みや用語を理解し、仕事や生活に関わる金融に関する出来事について説明できるようになる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業内で適宜紹介する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目的・進め方 序論：金融の仕組みと役割を知ろう。なぜ金融を学ぶのか考えよう</p> <p>第2回 資金循環：日本の中でのお金の大きな動きについて知ろう</p> <p>第3回 家計の貯蓄と金融資産選択：家計の消費・貯蓄・投資行動について考えよう</p> <p>第4回 企業の投資と資金調達：企業がお金を必要とする理由やその資金調達の方法について考えよう</p> <p>第5回 金融取引の特徴と課題：金融取引の特徴について考えよう</p> <p>第6回 金融取引と金利：金利について学ぼう</p> <p>第7回 銀行の役割：銀行の役割や業務内容について学ぼう</p> <p>第8回 地域金融機関の役割：鹿銀や南銀、鹿信など地域金融機関の役割や経営環境について考えよう</p> <p>第9回 金融市場：証券取引所など集中して金融取引を行う金融市場の役割について学ぼう</p> <p>第10回 株式会社と証券市場：そもそも株式会社とは何か、株式市場や株式の取引ルールについて学ぼう</p> <p>第11回 株式市場：株価はどのように決定されるのかについて考えよう</p> <p>第12回 債券市場：債券とは何か、債券の役割について考えよう</p> <p>第13回 日本銀行と金融政策：日本銀行の役割や金融政策について学ぼう</p> <p>第14回 金融危機と規制：バブル崩壊やリーマンショックといった金融危機について考えよう</p> <p>第15回 金融の新しい仕組み：フィンテックなど金融の新しい動きについて学ぼう、まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示します。		
成績評価の方法	中間レポート(30%)＋期末試験(70%)		
実務経験について	国内外の金融機関で約30年の実務経験があります。		

授業科目	社会政策	担当者	近間由幸
	[履修年次] 1,2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期] 前期 [単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「日本型雇用システム」の下での労働・生活の全体像と社会政策の関係性について</p> <p>【概要】授業では、大企業男性正社員をモデルとして構築されてきた「日本型雇用システム」とそれに基づく社会政策について解説し、このシステムの周辺部に位置する失業者、女性、若者の格差・貧困の問題に対処するための社会政策を解説する。</p> <p>【到達目標】受講学生には、国の社会政策が自身の生活と密接にかかわっていることを理解してもらい、日本社会における格差や貧困の実態に問題意識を持ち、社会政策の方向性について自分の考えを持てるようになることを目指す。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 石畑良太郎・牧野富夫・佐賀一道編『よくわかる社会政策 (第3版) 雇用と社会保障』ミネルヴァ書房</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクシヨンー日本社会の「しくみ」について</p> <p>第2回 社会政策とはなにか</p> <p>第3回 賃金と社会政策</p> <p>第4回 企業と労働組合の関係</p> <p>第5回 過労死と長時間労働</p> <p>第6回 非正規雇用とは何か</p> <p>第7回 日本社会における入社のしくみと若者支援政策</p> <p>第8回 日本型雇用システムと女性の働き方</p> <p>第9回 子育てと雇用政策</p> <p>第10回 高齢者の福祉と雇用</p> <p>第11回 働けないときにどのような支援があるのか</p> <p>第12回 社会保険と生活保護の溝</p> <p>第13回 労働市場政策の国際比較—スウェーデンモデルを事例として</p> <p>第14回 移民問題と外国人労働者</p> <p>第15回 全体のまとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業ごとのミニレポート (30%)、筆記試験 (70%)		
実務経験について	なし		

授業科目	民法	担当者	足田京子
	[履修年次] 1, 2年	授業外対応	適宜対応 (メールで予約)
	[学期] 前期 [単位] 2	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】消費者問題、労働問題、企業の取引から結婚や離婚、相続問題にいたるまで、個々の紛争解決のための法的基準になる民法を理解する。</p> <p>【概要】民法は契約や不法行為など「財産法」の部分と、夫婦、親子、親族、相続などに関する「家族法」の部分に分かれます。講義では「財産法」が中心になりますが、様々な取引の権利・義務の主体として「人」が登場する時、夫婦や親子関係も無縁ではありません。</p> <p>【到達目標】</p> <p>具体的な紛争の事例を、権利と義務の関係としてとらえ、法的に説得力のある主張ができるようになることを目指します。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する</p> <p>(2) 授業内で適宜指示する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：「民法」が対象とする紛争とは？</p> <p>第2回 民法の基本構造：民法のなかで中心になる権利～物権と債権</p> <p>第3回 権利の主体となる能力 (1)：権利能力・意思能力・行為能力</p> <p>第4回 権利の主体となる能力 (2)：制限行為能力者の保護と取引の安全</p> <p>第5回 契約の成立とその効力 (1)：強行規定と任意規定</p> <p>第6回 契約の成立とその効力 (2)：条件と期限がついた契約</p> <p>第7回 契約の成立とその効力 (3)：民法上の「代理」とは</p> <p>第8回 契約の成立とその効力 (4)：無権代理と有権代理</p> <p>第9回 契約の拘束力から解放される時 (1)：言ったことと本心が違う場合</p> <p>第10回 契約の拘束力から解放される時 (2)：詐欺や強迫によって契約をしてしまったとき</p> <p>第11回 法の世界の「善意と悪意」：信義誠実の原則と善意の第三者</p> <p>第12回 民法の「時効制度」：権利の上に眠る者は保護しないのが民法</p> <p>第13回 物権の変動時期 (1)：動産の取得取得と不動産の対抗要件</p> <p>第14回 物権の変動時期 (2)：公信力って何？</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	復習をしっかりとすること		
成績評価の方法	2回のレポート (中間レポートと最終レポート) の提出 (80%)、毎講義ごとのミニレポート (20%)		
実務経験について			

授業科目	商法		担当者	河野 総史				
	〔履修年次〕	1年、2年	授業外対応	講義終了後またはメールで対応				
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 商法学のうち、会社法の基礎知識</p> <p>【概要】商法は、「市民の法」たる民法の特別法にあたり、いわば「商人の法」である。商法において学ぶ分野は多岐に渡るが本講義においては会社法の基礎知識を身に付け、社会の重要な構成要素である会社についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>【到達目標】 株式制度と機関設計を中心に、株式会社の基礎知識を身に付けることを目標とする。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 指定しない（レジュメを配布する）</p> <p>(2) 適宜指示する</p>							
授業スケジュール	<p>第 1回 講義ガイダンス 民法と商法</p> <p>第 2回 会社法総論</p> <p>第 3回 会社の種類</p> <p>第 4回 株式①（株式の種類等）</p> <p>第 5回 株式②（株式の譲渡と譲渡制限）</p> <p>第 6回 株式③（自己株式・親会社株式取得規制等）</p> <p>第 7回 株式④（株式併合・分割・無償割当等）</p> <p>第 8回 資金調達①（会社設立時）</p> <p>第 9回 資金調達②（募集株式の発行等）</p> <p>第 10回 資金調達③（株式以外の資金調達手段）</p> <p>第 11回 機関①（機関総論）</p> <p>第 12回 機関②（株主総会）</p> <p>第 13回 機関③（取締役・取締役会）</p> <p>第 14回 機関④（監査役・会計参与・会計監査人）</p> <p>第 15回 機関⑤（指名委員会等設置会社・監査当委員会設置会社）</p>							
授業外学習(予習・復習)	復讐を徹底して、小テストに備えること							
成績評価の方法	期末テスト80%小テスト20% 全体で60%以上を合格とする							
実務経験について	なし							

授業科目	産業心理学		担当者	岡村俊彦				
	〔履修年次〕	1,2年	授業外対応	講義前後に適宜対応				
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】産業に関わる心理学を多角的に学ぶ</p> <p>【概要】産業におけるヒューマンファクター（人的要因）を多角的に考える。前半は主に労働者の心理的側面を対象とするが、人間の基本的な特性もとらえることで、コンピュータを始め、システムの評価など多方面への応用も可能となる。後半は消費者の心理を対象とし、購買行動に関する様々な要因を考えていく。簡単な心理実験、心理テストなども織り交ぜていく予定である。</p> <p>【到達目標】商品、システム、労働環境を人間の快適性から評価し、改善を考えることができるようになる。また、購買行動に関わる心理を売り手、買い手の両面から考えることができるようになる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布，Webでも公開</p> <p>(2) なし</p>							
授業スケジュール	<p>第 1回 概要説明</p> <p>第 2回 人間とシステムの関わり合い、精神作業：ヒューマンインターフェイスの概念と精神作業の種類と性質</p> <p>第 3回 記憶と学習：記憶と学習のメカニズムと産業への応用</p> <p>第 4回 ヒューマンインターフェイス1：ヒューマンインターフェイスの基本原則</p> <p>第 5回 ヒューマンインターフェイス2：ヒューマンインターフェイスの事例紹介</p> <p>第 6回 職場のストレス：仕事におけるストレスのメカニズムと対策</p> <p>第 7回 仕事の成功と動機付け：成功、失敗の心理的要因と仕事に対するモチベーションの種類</p> <p>第 8回 人間関係、労働時間：職場における人間関係、労働時間と仕事の関係</p> <p>第 9回 ユニバーサルデザイン：UDの理論と実践例</p> <p>第 10回 広告の心理学：広告が視聴者にあたえる影響とメカニズム</p> <p>第 11回 購買心理：消費者の購買心理</p> <p>第 12回 販売、印象管理：セールステクニックと印章管理</p> <p>第 13回 人間のエラー：人間のエラーのメカニズムと対策</p> <p>第 14回 ころををはかる生理心理学：生理的現象の測定による心理状況の推察</p> <p>第 15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	通常のレポート2回分が80%、授業ごとのリアクションペーパーが20%							
実務経験について	なし							

授業科目	会計学総論		担当者	宗田 健一		
	[履修年次]	1～2年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応		
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	選択
					[授業形態]	講義形式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 会計学の全体像を知る。</p> <p>【概要】 この講義は、これから会計を学習しようと思っている人を対象としています。会計の様々な領域について学習をします。半年間で、会計学の全体的な内容を理解することができます。</p> <p>【到達目標】 会計学の全体像を知る。会計学の様々な領域について学ぶ。会計の社会における役割を知る。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 小野正芳編著『スタートアップ会計学』(第3版) 同文館出版。</p> <p>(2) 桜井久勝『財務会計講義』(第22版) 中央経済社、その他は講義中に指示します。</p>					
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス、会計って何? 簿記・会計はどこからやってきたの? 簿記・会計の歴史概要</p> <p>第2回 会計はどんな資格があるのか? 会計の社会的役割</p> <p>第3回 会計はどう利用するの? 財務分析の概要</p> <p>第4回 企業の成績はどうやってみるの? 財務諸表の概要</p> <p>第5回 会計は経営にどう役立つの? 管理会計の概要</p> <p>第6回 モノがいくらでできたかはどうかによって決まるの? 原価計算の概要</p> <p>第7回 会計情報はどこで作られるの? 簿記の概要</p> <p>第8回 会計制度はどうなっているの? 財務会計の概要</p> <p>第9回 財務諸表は信頼できるの? 財務諸表監査の概要</p> <p>第10回 会社の税金はいくらになるの? 税務会計の概要</p> <p>第11回 グローバル経済における会計ルールってなに? 国際会計の概要</p> <p>第12回 持続可能な社会づくりに会計はどう貢献できるの? 環境会計・CSR会計の概要</p> <p>第13回 ボランティア活動にも儲けが必要な? 非営利会計の概要</p> <p>第14回 自治体の会計はどうなっているの? 公会計の概要</p> <p>第15回 まとめ: 試験範囲の提示、成績評価方法の説明、質疑応答、授業評価アンケートの実施</p>					
授業外学習(予習・復習)	復習が大切です。					
成績評価の方法	期末レポート(100%)					
実務経験について	なし					

第一部業科目	簿記論I		担当者	岡村雄輝		
	[履修年次]	指定なし	授業外対応	講義前後に適宜対応		
	[学期]	前期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択
					[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 複式簿記の基本原則を学ぶ</p> <p>【概要】 日商簿記3級レベルのテキスト、ワークブックを使用して複式簿記による記帳手続を解説し、問題演習に取り組みます。簿記力を着実に養い、より高度な会計を学ぶためには、問題演習の反復を通じた複式簿記の基本原則の理解が肝要です。勤勉な学習姿勢が望まれます。※簿記論IIと連続して講義を展開しますので、併せて受講してください。</p> <p>【到達目標】 簿記上の取引を仕訳・転記する手続から、決算本手続までの概要を理解する。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 渡部裕互、片山寛、北村敬子(編)『新検定 簿記講義3級 商業簿記』『新検定 簿記ワークブック』(令和5年版)、中央経済社。</p> <p>(2) 大藪俊哉編『簿記テキスト』(第6版)、中央経済社。</p>					
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス: 履修登録の確認、講義概要の説明</p> <p>第2回 仕訳と転記: 勘定、取引の意義と種類、取引8要素と結合関係</p> <p>第3回 仕訳帳と元帳: 帳簿の種類、仕訳帳への記入、総勘定元帳への転記</p> <p>第4回 決算: 帳簿の締切りと財務諸表の作成、決算手続と精算表</p> <p>第5回 現金と預金: 現金勘定と現金出納帳、現金過不足、当座預金と当座借越</p> <p>第6回 繰越商品・仕入・売上: 3分法、諸掛と返品</p> <p>第7回 売掛金と買掛金: 売掛金と買掛金の意義、人名勘定、売掛金と元帳と買掛金元帳</p> <p>第8回 その他の債権と債務: 貸付金と借入金、未収入金と未払金、立替金と預り金</p> <p>第9回 受取手形と支払手形: 手形の振出しと受入れ、受取手形記入帳と支払手形記入帳、電子記録債権と債務</p> <p>第10回 貸倒損失と貸倒引当金: 貸倒れとは?、貸倒引当金の設定</p> <p>第11回 収益と費用: 収益・費用の未収・未払いと前受け・前払い</p> <p>第12回 税金: 租税公課、法人税、住民税及び事業税、消費税</p> <p>第13回 財務諸表: 決算手続、試算表作成、棚卸表の作成と決算整理事項</p> <p>第14回 総合問題: 問題演習と解説①</p> <p>第15回 総合問題: 問題演習と解説③</p>					
授業外学習(予習・復習)	毎回復習をすること。継続的な学習なしに簿記はできるようになりません。					
成績評価の方法	期末テスト100%					
実務経験について	なし					

授業科目	経営学総論	担当者	竹中啓之
	[履修年次] 1年	授業外対応	適宜対応 (要予約)、及び講義終了後
	[学期] 前期 [単位] 2単位	[必修/選択] 必修	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】経営学全般について、幅広く理解し、経営学の特徴的な考え方を習得する。</p> <p>【概要】この講義では、これから経営学を学ぶにあたって、必要と思われる知識や考え方について説明する。まず、経営学が取り扱う様々なテーマをできるだけ幅広く取り上げ、企業や組織の仕組みを理解する。また、単なる知識の習得だけではなく、経営学が持っている特徴的な考え方も説明し、それに触れることで、その他の経営学関連の科目の修得の手助けになることを目指す。さらに、経営学が取り扱うテーマは、企業だけではなく、様々な場面で役立つことができる、実践的な学問であることも説明していくことにする。</p> <p>【到達目標】経営学に関する基礎的な知識を習得する。経営学と社会との関わりを理解する。そのほかの経営学関連の科目を履修する際に手助けとなるような力を身につける。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業中に配布するプリント</p> <p>(2) 講義中に指示する</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 講義概要の説明：講義の進め方・内容・評価方法について説明する。</p> <p>第 2回 経営学と経済学の違い：経営学と経済学の最も特徴的な違いについて説明する。</p> <p>第 3回 経営学の発展と必要性：経営学がいかに社会にとって必要とされてきたかを理解する。</p> <p>第 4回 企業の種類について：企業の種類とそれぞれの特徴について考える。</p> <p>第 5回 企業の目的と役割について：企業が持っている目的と、果たすべき役割について理解する。</p> <p>第 6回 企業における4つの経営資源（ヒト）：働く私たちと企業と関係を考える。</p> <p>第 7回 企業における4つの経営資源（カネ）：企業の資金調達の方法などについて説明する。</p> <p>第 8回 これまでのまとめと補足説明、及び中間テスト（予定）</p> <p>第 9回 企業における4つの経営資源（モノ）：主にマーケティングについて説明する。</p> <p>第 10回 企業における4つの経営資源（情報）：企業における情報の種類やその活用方法について説明する。</p> <p>第 11回 日本の経営を考える：年功主義や終身雇用、そして成果主義・能力主義などについて考える。</p> <p>第 12回 組織の基本的な仕組みについて：基本的な組織構造を理解し、その特徴を知る。</p> <p>第 13回 企業統治について：株式会社の意思決定の仕組みについて説明する。</p> <p>第 14回 経営戦略を考える：経営戦略の考え方について説明する。</p> <p>第 15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	期末筆記試験 (70%)、中間レポートもしくは小テスト (30%) (予定) 詳細は1回目の講義で説明します。		
実務経験について	なし		

授業科目	情報科学概論	担当者	岡村俊彦
	[履修年次] 1,2年	授業外対応	講義前後に適宜対応
	[学期] 後期 [単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】コンピュータやネットワークなど情報科学 (ICT) 全般の基礎知識を学ぶ</p> <p>【概要】コンピュータ（ハードウェア、ソフトウェア、周辺機器）やネットワークの仕組みを知り、現代社会においてどのような役割があり、どのような問題点があるかを知る。結果として、効果的かつ適切なIT活用が可能となり、トラブル解決もできるようになる。また、ネットワークを安全に使うためのルール、マナーを学ぶ。また、授業の3分の1程度の時間を使い、ITに関する学生からの質問に対する解説をおこなう。</p> <p>【到達目標】・初心者向け情報関連雑誌を80%以上理解できる・初心者に対して、パソコンやネットワークの安全、便利な運用に関する簡単なアドバイスができる・調子の悪いパソコンを直す</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布、Webでも公開</p> <p>(2) 初心者向け情報関連雑誌</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 概要説明</p> <p>第 2回 ハードウェアとソフトウェア：ハードとソフトの違いと役割</p> <p>第 3回 パソコンの中身：パソコン内部の部品とその役割</p> <p>第 4回 単位と容量と速度：情報処理や通信に関わる単位と容量、速度</p> <p>第 5回 インターネットの仕組み：インターネットとネットワークの仕組み</p> <p>第 6回 電子メールの使い方：電子メールの仕組みと正しい使用方法</p> <p>第 7回 ITセキュリティ：マルウェアとセキュリティ対策</p> <p>第 8回 インターフェイス：インターフェイスの種類と特性</p> <p>第 9回 周辺機器1：モニタ、光学ドライブなど周辺機器の役割、仕組み</p> <p>第 10回 周辺機器2：プリンタ、デジカメなど周辺機器の役割、仕組み</p> <p>第 11回 ソフトの分類：ソフトウェアの分類と正しい使用方法</p> <p>第 12回 Web3、クラウド、ビッグデータ、IoT：新たなインターネットのトレンドと今後の展開</p> <p>第 13回 スペックの見方：パソコン、周辺機器のスペック（仕様）の見方</p> <p>第 14回 AIとDX、インターネットの国際比較：AIとDXの基本知識、とインターネット利用の国際比較</p> <p>第 15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	通常のレポート2回分が80%、授業ごとのリアクションペーパーが20%		
実務経験について	なし		

授業科目	文書作成実習 (経済)		担当者	永仮ゆかり
	[履修年次]	1年	授業外対応	講義終了時および必要に応じてメール
	[学期]	後期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>「Microsoft Word」を活用した、実践的なビジネス文書の作成能力の習得</p> <p>【概要】</p> <p>「Microsoft Word」を活用した実践的なビジネス文書の作成能力、IT・ネットワーク関連知識、文章の読解力、文書作成上の技巧など広く文書処理全般にわたる技能を習得することを目的とする。また、あわせて日商 PC 検定（文書作成 3 級）対策を行い、資格取得を目指す。</p> <p>【到達目標】</p> <p>実践的なビジネス文書の作成能力の習得（日商 PC 検定文書作成 3 級合格レベルの技能の習得）</p> <p>*後期から履修する場合は、前期「情報リテラシー I」授業内容程度の技能を習得していることを前提とする</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム (株) 『改訂版 日商 PC 検定試験 3 級 知識科目 公式問題集』 FOM 出版</p> <p>(2) 富士通エフ・オー・エム (株) 『よくわかる Microsoft Word 2019 基礎』 FOM 出版 ほか授業にて紹介する</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 前期の復習 : 概要説明、前期の復習 (基本的なビジネス文書の作成)</p> <p>第 2 回 検定対策 (3 級) : 社外文書の作成 (案内状)、知識問題 (共通分野)</p> <p>第 3 回 検定対策 (3 級) : 課題文書作成 1 (表を利用した文書の作成)、知識問題 (共通分野)</p> <p>第 4 回 検定対策 (3 級) : 図形を利用した文書の作成、知識問題 (共通分野)</p> <p>第 5 回 検定対策 (3 級) : 報告書の作成 (計算式を含む文書)、図形の補足、知識問題 (共通分野)</p> <p>第 6 回 検定対策 (3 級) : 通知状の作成、知識問題 (共通分野)</p> <p>第 7 回 検定対策 (3 級) : 課題文書作成 2 (文書作成 3 級実技練習問題)、知識問題 (共通分野)</p> <p>第 8 回 検定対策 (3 級) : 文書作成 3 級検定模擬問題演習、知識問題 (共通分野)</p> <p>第 9 回 検定対策 (3 級) : 文書作成 3 級検定模擬問題演習</p> <p>第 10 回 Excel データの利用 : Excel データ (表、グラフ) の文書への取り込み</p> <p>第 11 回 文書の編集 : いろいろな応用機能 (スタイル、セクション区切りの挿入、文書の挿入など)</p> <p>第 12 回 報告書の作成 : 課題文書作成 3 (Excel データ・テキストファイルの利用、書式のコピーなど)</p> <p>第 13 回 稟議書の作成 : 稟議書の作成 (ユーザー定義の段落番号、表の編集など)</p> <p>第 14 回 議事録の作成 : 議事録の作成 (テンプレートの利用、スタイルの設定、セクション区切りなど)</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習 (予習・復習)	知識問題の予習・復習、「Microsoft Word」操作の復習など適宜指示			
成績評価の方法	期末試験 (知識科目 20%+実技科目 50%) + 授業中に実施する課題 (30%)			
実務経験について	OA インストラクター、職業能力開発校パソコン実習科目の講師、市民講座パソコン講座の講師			

授業科目	文書作成実習 (経情)		担当者	永仮ゆかり
	[履修年次]	1年	授業外対応	講義終了時および必要に応じてメール
	[学期]	後期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>「Microsoft Word」を活用した、実践的なビジネス文書の作成能力の習得</p> <p>【概要】</p> <p>「Microsoft Word」を活用した実践的なビジネス文書の作成能力、IT・ネットワーク関連知識、文章の読解力、文書作成上の技巧など広く文書処理全般にわたる技能を習得することを目的とする。また、あわせて日商 PC 検定（文書作成 3 級）対策を行い、資格取得を目指す。</p> <p>【到達目標】</p> <p>実践的なビジネス文書の作成能力の習得（日商 PC 検定文書作成 3 級合格レベルの技能の習得）</p> <p>*後期から履修する場合は、前期「情報リテラシー I」授業内容程度の技能を習得していることを前提とする</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム (株) 『改訂版 日商 PC 検定試験 3 級 知識科目 公式問題集』 FOM 出版</p> <p>(2) 富士通エフ・オー・エム (株) 『よくわかる Microsoft Word 2019 基礎』 FOM 出版 ほか授業にて紹介する</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 前期の復習 : 概要説明、前期の復習 (基本的なビジネス文書の作成)</p> <p>第 2 回 検定対策 (3 級) : 社外文書の作成 (案内状)、知識問題 (共通分野)</p> <p>第 3 回 検定対策 (3 級) : 課題文書作成 1 (表を利用した文書の作成)、知識問題 (共通分野)</p> <p>第 4 回 検定対策 (3 級) : 図形を利用した文書の作成、知識問題 (共通分野)</p> <p>第 5 回 検定対策 (3 級) : 報告書の作成 (計算式を含む文書)、図形の補足、知識問題 (共通分野)</p> <p>第 6 回 検定対策 (3 級) : 通知状の作成、知識問題 (共通分野)</p> <p>第 7 回 検定対策 (3 級) : 課題文書作成 2 (文書作成 3 級実技練習問題)、知識問題 (共通分野)</p> <p>第 8 回 検定対策 (3 級) : 文書作成 3 級検定模擬問題演習、知識問題 (共通分野)</p> <p>第 9 回 検定対策 (3 級) : 文書作成 3 級検定模擬問題演習</p> <p>第 10 回 Excel データの利用 : Excel データ (表、グラフ) の文書への取り込み</p> <p>第 11 回 文書の編集 : いろいろな応用機能 (スタイル、セクション区切りの挿入、文書の挿入など)</p> <p>第 12 回 報告書の作成 : 課題文書作成 3 (Excel データ・テキストファイルの利用、書式のコピーなど)</p> <p>第 13 回 稟議書の作成 : 稟議書の作成 (ユーザー定義の段落番号、表の編集など)</p> <p>第 14 回 議事録の作成 : 議事録の作成 (テンプレートの利用、スタイルの設定、セクション区切りなど)</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習 (予習・復習)	知識問題の予習・復習、「Microsoft Word」操作の復習など適宜指示			
成績評価の方法	期末試験 (知識科目 20%+実技科目 50%) + 授業中に実施する課題 (30%)			
実務経験について	OA インストラクター、職業能力開発校パソコン実習科目の講師、市民講座パソコン講座の講師			

業科目	統計学	担当者	倉重賢治
	[履修年次] 1,2年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	適宜対応
		[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 基本的な統計解析を学ぶ</p> <p>【概要】 現在、情報技術を有効に活用してデータ収集を行い、そのデータの分布や性質を明らかにすることが重要視されている。この講義では、そのためのツールとしての基本的な統計解析を学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的なデータ処理を行う ・相関関係について理解する ・検定について理解する 		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 木下栄蔵、『入門統計解析』、講談社サイエンティフィク		
授業スケジュール	第 1回 序論：統計学とは 第 2回 データの基本処理：平均値、度数分布 第 3回 データの基本処理：標準正規分布 第 4回 データの基本処理：正規分布 第 5回 データの基本処理：正規分布と偏差値 第 6回 データの基本処理：確率分布 第 7回 統計解析：相関係数 第 8回 統計解析：回帰直線 第 9回 統計解析：カイ2乗検定 第 10回 統計解析：平均値の推定 第 11回 統計解析：平均値の検定 第 12回 統計解析：比率の推定と検定 第 13回 統計解析：ベイズ統計学 第 14回 統計解析：分散分析 第 15回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業中の課題 (20%) + 期末試験 (80%)		
実務経験について	なし		

授業科目	応用文書処理	担当者	岡村俊彦
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1単位	授業外対応	講義前後に適宜対応
		[必修/選択] 選択	[授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】複数のアプリケーションを有機的に活用しながら、ネットワークにも対応したドキュメント作成を学ぶ</p> <p>【概要】1) 自己紹介文書作成：ワープロソフトを核に、グラフや写真などを含んだ自己紹介文書を作成する。 2) ホームページ作成：自分なりの大学のホームページを作成し、公開する。 3) 提案書作成：インターネット検索と表計算ソフトを使い、架空の提案書を作成する。</p> <p>【到達目標】初めて扱うソフトでもすぐに使えるようになる・わかりやすいドキュメントを作成する・インターネット上のルールやマナーを身に付ける。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Webで公開 (2) なし		
授業スケジュール	第 1回 概要説明 第 2回 自己紹介文書作成1：ワープロを使ったベース文書の作成 第 3回 自己紹介文書作成2：表計算ソフトを使ったグラフ作成とベース文書の結合 第 4回 自己紹介文書作成3：写真、図の取り扱いとベース文書の結合 第 5回 自己紹介文書作成4：仕上げ。印刷設定のコツ 第 6回 ホームページ作成1：HTML 概念の復習。USB メモリへのソフトの導入 第 7回 ホームページ作成2：課題設定とページ作成 第 8回 ホームページ作成3：資料収集とページ作成 第 9回 ホームページ作成4：ページ公開 第 10回 提案書作成1：インターネットによる費用情報検索 第 11回 提案書作成2：表計算ソフトを使った自動計算書 第 12回 提案書作成3：プレゼン資料の作成 第 13回 提案書作成4：仕上げ、データ送信のコツ 第 14回 提案書作成5：プレゼンと評価 第 15回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	レポート (3つの課題を総合的に評価)		
実務経験について	なし		

授業科目	PCデータ活用・経済		担当者	口脇淳子
	[履修年次] 1年	[学期] 前期	[単位] 2	[必修/選択] 選択
				授業後のまとめプリントで質問対応・習熟度確認
				[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 表計算ソフト「Microsoft Excel」を活用した基本操作の習得と活用</p> <p>【概要】 表計算ソフト「Microsoft Excel」を使用し、まずは表やグラフ化・業務データの分析など実務に必要な機能・操作法を習得する。さらに各機能の特徴と活用法を目的に応じて使い分けができる応用力を身につけられる技術を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 表計算ソフト「Microsoft Excel」の基本操作を確実に習得する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 実教出版編集部 30時間マスター Excel2021 (Windows11 対応) 実教出版株式会社</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 Excelの起動と画面の確認 文字入力の確認</p> <p>第 2回 簡単な表作成とグラフ化：Excelの基本的な流れを確認</p> <p>第 3回 編集機能を活用した見やすい表の作成：行・列の操作・計算式や関数（合計・平均）の活用</p> <p>第 4回 編集機能を活用した見やすい表の作成：体裁の整え方・罫線</p> <p>第 5回 データ処理：関数の利用（カウント・端数処理など）</p> <p>第 6回 データ処理：関数の利用（条件の判定・論理関数など）</p> <p>第 7回 データ処理：関数の利用（順位づけ・VLOOKUPなど）</p> <p>第 8回 各関数を利用した実習問題（小テスト）</p> <p>第 9回 棒グラフ・折れ線グラフの作成とさまざまな設定（軸ラベル・データラベル・目盛りなど）</p> <p>第 10回 円グラフ・3-Dグラフの作成とさまざまな設定（データ範囲の変更・系列の書式など）</p> <p>第 11回 複合グラフ・ドーナツグラフ・絵グラフの作成（系列の設定・テキストボックスの利用・画像の利用など）</p> <p>第 12回 データベース入門：データベース作成上の各機能</p> <p>第 13回 データの集計（並べ替え・抽出 ほか）</p> <p>第 14回 データの集計（ピボットテーブル）</p> <p>第 15回 前期のまとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	各回の授業後、テキスト内の練習問題を復習し、次回授業時に提出もしくは確認を行う。			
成績評価の方法	期末試験 (70%) +小テスト (20%) +授業で課せられる課題の提出状況 (10%)			
実務経験について	企業、個人への講習会講師			

授業科目	PCデータ活用実習・経済		担当者	口脇淳子
	[履修年次] 1年	[学期] 後期	[単位] 1	[必修/選択] 選択
				授業後のまとめプリントで質問対応・習熟度確認
				[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 表計算ソフト「Microsoft Excel」を活用したビジネス現場で活用できる実践的な知識と技術の習得</p> <p>【概要】 前期に習得した機能を活用し、さまざまな実践問題に取り組む。また、実務に必要な業務知識も身につけられるようにする。授業は、検定対策として問題形式で進めていくが業務遂行に必要な内容を学習する。</p> <p>【到達目標】 知識と技術の習得を日商PC検定試験（データ活用）の3級資格取得で確認 ☆ 後期から履修する場合は、前期授業内容程度の技術を習得していることを前提とする</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 実教出版編集部 30時間マスター Excel2021 (Windows11 対応) 実教出版株式会社</p> <p>(2) プリント</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 前期授業の復習</p> <p>第 2回 検定対策問題：構成比を求める問題 知識科目問題</p> <p>第 3回 検定対策問題：データの追加入力がある問題 知識科目問題</p> <p>第 4回 検定対策問題：ABC分析 知識科目問題</p> <p>第 5回 検定対策問題：簿記の要素を含んだ問題 知識科目問題</p> <p>第 6回 検定対策問題：利益率を求める問題 知識科目問題</p> <p>第 7回 検定対策問題：データの集計を取る問題 知識科目問題</p> <p>第 8回 検定対策問題：達成率を求める問題 知識科目問題</p> <p>第 9回 検定対策問題小テスト（実技問題・知識科目問題）</p> <p>第 10回 検定対策問題：伸び率を求める問題 知識科目問題</p> <p>第 11回 検定対策問題：データを参照する問題 知識科目問題</p> <p>第 12回 検定対策問題：集計データから請求書を作成する問題 知識科目問題</p> <p>第 13回 検定対策問題：別シートのデータから計算式を設定する問題 知識科目問題</p> <p>第 14回 検定対策問題：集計データをグループ化する問題 知識科目問題</p> <p>第 15回 後期のまとめ 知識科目問題</p>			
授業外学習(予習・復習)	授業後、同じ問題を時間を計って解いてみる			
成績評価の方法	期末試験 (70%) +小テスト (20%) +授業で課せられる課題の提出状況 (10%)			
実務経験について	企業、個人への講習会講師			

授業科目	PCデータ活用・経営情報		担当者	口脇淳子
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業後のまとめプリントで質問対応・習熟度確認
	[学期]	前期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
				[授業形態]
				演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 表計算ソフト「Microsoft Excel」を活用した基本操作の習得と活用</p> <p>【概要】 表計算ソフト「Microsoft Excel」を使用し、まずは表やグラフ化・業務データの分析など実務に必要な機能・操作法を習得する。さらに各機能の特徴と活用法を目的に応じて使い分けができる応用力を身につけられる技術を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 表計算ソフト「Microsoft Excel」の基本操作を確実に習得する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 実教出版編集部 30時間マスター Excel2021 (Windows11 対応) 実教出版株式会社</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 Excelの起動と画面の確認 文字入力の確認</p> <p>第 2回 簡単な表作成とグラフ化: Excelの基本的な流れを確認</p> <p>第 3回 編集機能を活用した見やすい表の作成: 行・列の操作・計算式や関数(合計・平均)の活用</p> <p>第 4回 編集機能を活用した見やすい表の作成: 体裁の整え方・罫線</p> <p>第 5回 データ処理: 関数の利用(カウント・端数処理など)</p> <p>第 6回 データ処理: 関数の利用(条件の判定・論理関数など)</p> <p>第 7回 データ処理: 関数の利用(順位づけ・VLOOKUPなど)</p> <p>第 8回 各関数を利用した実習問題(小テスト)</p> <p>第 9回 棒グラフ・折れ線グラフの作成とさまざまな設定(軸ラベル・データラベル・目盛りなど)</p> <p>第 10回 円グラフ・3-Dグラフの作成とさまざまな設定(データ範囲の変更・系列の書式など)</p> <p>第 11回 複合グラフ・ドーナツグラフ・絵グラフの作成(系列の設定・テキストボックスの利用・画像の利用など)</p> <p>第 12回 データベース入門: データベース作成上の各機能</p> <p>第 13回 データの集計(並べ替え・抽出 ほか)</p> <p>第 14回 データの集計(ピボットテーブル)</p> <p>第 15回 前期のまとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	各回の授業後、テキスト内の練習問題を復習し、次回授業時に提出もしくは確認を行う。			
成績評価の方法	期末試験(70%) + 小テスト(20%) + 授業で課せられる課題の提出状況(10%)			
実務経験について	企業、個人への講習会講師			

授業科目	PCデータ活用実習・経営情報		担当者	口脇淳子
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業後のまとめプリントで質問対応・習熟度確認
	[学期]	後期	[単位]	1
			[必修/選択]	選択
				[授業形態]
				演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 表計算ソフト「Microsoft Excel」を活用したビジネス現場で活用できる実践的な知識と技術の習得</p> <p>【概要】 前期に習得した機能を活用し、さまざまな実践問題に取り組む。また、実務に必要な業務知識も身につけられるようにする。授業は、検定対策として問題形式で進めていくが業務遂行に必要な内容を学習する。</p> <p>【到達目標】 知識と技術の習得を日商PC検定試験(データ活用)の3級資格取得で確認 ☆ 後期から履修する場合は、前期授業内容程度の技術を習得していることを前提とする</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 実教出版編集部 30時間マスター Excel2021 (Windows11 対応) 実教出版株式会社</p> <p>(2) プリント</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 前期授業の復習</p> <p>第 2回 検定対策問題: 構成比を求める問題 知識科目問題</p> <p>第 3回 検定対策問題: データの追加入力がある問題 知識科目問題</p> <p>第 4回 検定対策問題: ABC分析 知識科目問題</p> <p>第 5回 検定対策問題: 簿記の要素を含んだ問題 知識科目問題</p> <p>第 6回 検定対策問題: 利益率を求める問題 知識科目問題</p> <p>第 7回 検定対策問題: データの集計を取る問題 知識科目問題</p> <p>第 8回 検定対策問題: 達成率を求める問題 知識科目問題</p> <p>第 9回 検定対策問題小テスト(実技問題・知識科目問題)</p> <p>第 10回 検定対策問題: 伸び率を求める問題 知識科目問題</p> <p>第 11回 検定対策問題: データを参照する問題 知識科目問題</p> <p>第 12回 検定対策問題: 集計データから請求書を作成する問題 知識科目問題</p> <p>第 13回 検定対策問題: 別シートのデータから計算式を設定する問題 知識科目問題</p> <p>第 14回 検定対策問題: 集計データをグループ化する問題 知識科目問題</p> <p>第 15回 後期のまとめ 知識科目問題</p>			
授業外学習(予習・復習)	授業後、同じ問題を、時間を計って解いてみる			
成績評価の方法	期末試験(70%) + 小テスト(20%) + 授業で課せられる課題の提出状況(10%)			
実務経験について	企業、個人への講習会講師			

授業科目	PC アプリケーション実習	担当者	刈屋 美枝子
	[履修年次] 1年	授業外対応	授業前後。メールでの質問にも随時対応。
	[学期] 後期 [単位] 1	[必修/選択] 選択	[授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 学習やビジネスの場で使用されている様々なアプリケーション・ソフトウェアを実践的に使いこなす。</p> <p>【概要】 本実習は前期の情報リテラシーII (E) (F) の応用となるので、基本的に前期のPC経験度別クラス編成を継続する。情報リテラシーII で扱えなかった各種アプリケーション (プレゼンテーション、PDF ファイル、OCR、動画編集、HP 作成など) の基本的な使い方を学習する。また、スマートフォンアプリと連携したパソコンの使い方を強化する。</p> <p>【到達目標】 上記アプリケーション・ソフトウェアの基本的使い方に習熟し、自ら実践的に応用できるようになる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし</p> <p>(2) 随時、資料ファイルを配信。</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 前期授業の復習 プレゼンテーションアプリ PowerPoint (1)</p> <p>第 2 回 プレゼンテーションアプリ PowerPoint (2) 第 1 回課題</p> <p>第 3 回 スマートフォンアプリとの連携 授業アンケート (授業の要望及び取り組みたいアプリの希望など)</p> <p>第 4 回 動画編集アプリ…動画作成・編集ソフト</p> <p>第 5 回 動画編集アプリ…動画の撮影、編集</p> <p>第 6 回 動画編集アプリ…動画の編集 第 2 回課題</p> <p>第 7 回 PDF ファイルの扱い方…スキャナーと OCR の利用 : 画像文書からテキストへ</p> <p>第 8 回 PDF ファイル (Adobe Acrobat) の扱い方…文書ファイルの統合</p> <p>第 9 回 PDF ファイル (Adobe Acrobat) の扱い方…セキュリティ設定などの応用</p> <p>第 10 回 Windows パソコンの知っておくと便利な機能</p> <p>第 11 回 ホームページの構造</p> <p>第 12 回 ホームページの作成 (1)</p> <p>第 13 回 ホームページの作成 (2) 第 3 回課題</p> <p>第 14 回 アンケートで学生が希望したアプリへの対応</p> <p>第 15 回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	3 回の課題は基本的に宿題。自宅にパソコンがない場合、空き時間に学校で取り組むこと。		
成績評価の方法	3 回の課題 (70%) と実技試験 (30%) の総合評価		
実務経験について	本学パソコン講師歴 20 年以上、実務翻訳業 20 年以上 (鹿児島商工会議所会員)		

11 經濟專攻專門科目

授業科目	日本経済論	担当者	船津 潤
	〔履修年次〕 1, 2年	授業外対応	講義前後、それ以外も随時(日時を調整することがあるかもしれない)が、遠慮なく声をかけてください)
	〔学期〕 前期 〔単位〕 2	〔必修/選択〕	選択 〔授業形態〕 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本の明治維新以降の経済・経済政策の動きとその背景について理解を深めること</p> <p>【概要】明治維新から現在までの日本の経済と経済政策の動向について、特に産業政策、そして構造改革とアベノミクスに焦点を当てながら講義します。また、過去が現在とどうつながっているかという歴史的推移とともに、石油危機、プラザ合意、日米構造協議、そしてグローバル化といった海外からの影響を強く意識しながら講義を進めます。</p> <p>【到達目標】①明治維新以降の日本の経済と経済政策の歴史的推移について理解し、説明できるようになること ②日本経済の歴史と海外とのつながりを踏まえて、日本経済の現状と課題について自分なりの見解が持てるようになること</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし</p> <p>(2) 三和良一『概説日本経済史 近現代 (第3版)』東京大学出版会 内閣府『年次経済財政報告 各年度版』</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス：講義の目標、評価基準等の説明</p> <p>第 2回 日本の産業政策の歴史 戦前(1)：資本主義社会とはどんな社会か等</p> <p>第 3回 日本の産業政策の歴史 戦前(2)：明治維新の意義、その後の産業構造の変化等</p> <p>第 4回 敗戦直後の日本経済：敗戦直後の状況、傾斜生産方式、1950年代前半の産業政策等</p> <p>第 5回 高度成長の開始：高度成長初期の産業政策と経済状況・産業構造等</p> <p>第 6回 行政指導：勸告操短、企業の反発等</p> <p>第 7回 開放経済体制への移行：IMF8 条国への移行、産業再編等</p> <p>第 8回 1970年代の日本経済：2度のオイル・ショック、構造不況業種への対応、知識集約化・高付加価値化への動き等</p> <p>第 9回 企業集団とその変化：戦後の企業集団の特徴、グループ内の結び付き、現在の状況等</p> <p>第 10回 1980年代以降の日本経済：対米貿易摩擦、日米構造協議等</p> <p>第 11回 現在の産業政策：産業競争力強化法、現在の産業政策の特徴等</p> <p>第 12回 グローバル化と構造改革への動き：プラザ合意と国際協調、バブル崩壊後の動向等</p> <p>第 13回 構造改革：構造改革の特徴・本質等</p> <p>第 14回 構造改革とアベノミクス：構造改革下の福祉改革の内容と特徴、アベノミクスとの比較等</p> <p>第 15回 まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明、試験についての説明等</p>		
授業外学習(予習・復習)	<p>普段から日本経済関連のニュース(できれば外国のメディアを含む複数)に注目すること、特に講義後に関連する事項についてインターネットや文献等を通して調べ、検討することを勧めます(これらは公務員試験を含む就職活動や四大への編入にも有意義です)。そして、講義内容に直接関係しなくても、聞きたいことが出てきたら、遠慮なく質問してください。</p>		
成績評価の方法	<p>筆記試験(80%)、小テスト(20%)を基本とし、アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。</p>		
実務経験について	なし		

授業科目	財政学	担当者	船津 潤
	〔履修年次〕 1, 2年	授業外対応	講義前後, それ以外も随時(日時を調整することがあるかもしれませんが, 遠慮なく声をかけてください)
	〔学期〕 後期 〔単位〕 2	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】財政に関する基本的な概念や理論, 日本の財政の基礎的な制度について, 内容, 実態, 特徴, 課題に関する理解を深めること</p> <p>【概要】まずは財政に関する基本的な概念や理論について講義します。その上で, それらを踏まえて財政の基礎的な制度に関する講義を行います。そこでは, 財政民主主義という財政制度の根幹, 経済における公共部門と民間部門の関係, 歴史的推移, そしてグローバル化の影響を強く意識しながら講義を進めます。この講義を受講することで, 他の科目で学んだマクロ経済学の理論等が実際にどのように政策に活用されているのかも理解できると思います。また, 財政は, 政治と経済の「結節点」(つなぎ目)の役割を担っていますので, 他の科目では触れることが少ない経済に対する政治の影響に関しても見識を高めることができますはずです。</p> <p>【到達目標】①財政の基礎的な制度について理解し, 説明できるようになること ②実際の政府の活動について分析・評価できるようになること ③マクロ経済学の理論等がどのように政策に活用されているのかを理解すること ④財政の影響を踏まえて, 経済・社会の動向を的確に把握できるようになること</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし (2) 金澤史男編著『財政学』有斐閣(2005年) 植田和弘・諸富徹編著『テキストブック現代財政学』有斐閣(2016年) 佐々木伯朗編著『財政学』有斐閣(2019年) 廣光俊昭編著『図説 日本の財政 各年度版』東洋経済新報社</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス: 講義の目標, 評価基準等の説明 第 2 回 財政(1): 財政の定義, 財政学の特徴, 政府に対する評価の揺れ等 第 3 回 財政(2): 市場の失敗, 財政民主主義と制度化に必要な原則等 第 4 回 予算(1): 定義, 役割, 政府と議会の役割, 予算原則等 第 5 回 予算(2): 予算の種類, 特別会計と「埋蔵金」, 改革の方向等 第 6 回 経費(1): 定義, 主要な分類, 経費膨張の法則, 転位効果等 第 7 回 経費(2): 小さな政府論とサプライサイド・エコノミクス等 第 8 回 租税(1): 定義, 租税の根拠, 代表的な租税原則等 第 9 回 租税(2): 公平の基準, 望ましい税制とは等 第 10 回 公債(1): 定義, 民間債務・租税との対比, 公債の種類等 第 11 回 公債(2): 日本の国債発行における原則, 制度, 「ギリシャよりひどい」は本当か等 第 12 回 財政投融资: 定義, 運用対象, 批判, 2001年度の改革, 今後の展望等 第 13 回 財政の国際化: 国際公共財, グローバル化と国際的財政移転等 第 14 回 財政改革を考える: 社会の変化と財政, 財政危機とは, 財政改革で求められる視点等 第 15 回 まとめ: 講義を振り返りつつポイントの説明, 試験についての説明等</p>		
授業外学習(予習・復習)	<p>講義の前後に財務省のサイト等で関連事項について調べて検討すること, 普段から経済・財政関連のニュースに注目すること(できれば外国のメディアを含む複数, 加えて日本関連だけでなく, 諸外国関連のニュースも)を勧めます(公務員試験を含む就職活動や四大への編入にも有意義です)。そして, 講義内容に直接関係しなくても, 聞きたいことが出てきたら, 遠慮なく質問してください。</p>		
成績評価の方法	<p>筆記試験(80%), 小テスト(20%)を基本とし, アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。</p>		
実務経験について	<p>なし</p>		

授業科目	農業経済論	担当者	未定
	[履修年次] [学期] [単位]	授業外対応 [必修/選択]	[授業形態]
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第 1回 第 2回 第 3回 第 4回 第 5回 第 6回 第 7回 第 8回 第 9回 第 10回 第 11回 第 12回 第 13回 第 14回 第 15回		
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法			

授業科目	ファイナンス論	担当者	岩上敏秀
	[履修年次] 1年、2年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応 [必修/選択] 選択	いつでも対応します。メールで連絡してください。 [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 資産運用のための投資商品や投資手法について実践的な知識を学びます。 【概要】 私たちが働いて生涯で得られる所得は限られています。限られた生涯所得を運用し、上手に資産形成しながら将来に備えていく必要があります。本講義は、株式などの投資商品について学んだ上で、リスクを抑えながら一定の効果を生む投資手法について考えていきます。スマホを活用したリアルタイム投稿システムを使って、受講者と双方向コミュニケーションしながら講義を進めます。 【到達目標】 ・証券投資や資産運用に関するニュースを理解できるようになる。 ・各種投資商品の内容とリスクを理解し、自分に最適な投資商品を選べるようになる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 授業内で適宜紹介する		
授業スケジュール	第 1回 ガイダンス：講義の目的・進め方、人生とお金（1）（生涯でかかるお金を確認しよう） 第 2回 人生とお金（2）（生涯で受け取るお金を確認しよう） 第 3回 投資のリスクとリターン（投資収益率、分散、標準偏差） 第 4回 主な投資商品（預金、債券、株式、投資信託、債券と金利） 第 5回 株式投資（1）（株式会社、上場、証券取引所） 第 6回 株式投資（2）（株価、チャートの見方） 第 7回 株式投資（3）（株価の変動要因、会社の価値） 第 8回 株式投資（4）（株価の適正水準） 第 9回 株式投資（5）（事例研究①：企業分析、業績予想） 第 10回 株式投資（6）（事例研究②：企業価値、株価の予想） 第 11回 分散の効果（投資先の分散、時間の分散） 第 12回 長期投資の効果（複利、分散、積立） 第 13回 投資信託（1）（投資信託の基本） 第 14回 投資信託（2）（ファンド情報の見方、ファンドの選び方） 第 15回 まとめ、授業アンケート		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示します。		
成績評価の方法	中間レポート（30%）＋期末試験（70%）		
実務経験について	国内外の金融機関で約30年の実務経験があります。		

授業科目	経済学史	担当者	カムチャイ	ライサミ
	〔履修年次〕 1年、2年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2	授業外対応	講義終了時	
		〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】経済学史入門 経済学説の史的展開をやさしく解説する。</p> <p>【概要】経済学の時代的要請と経済学者の人となり 経済学の黎明期前後（17世紀頃）から現代経済学（20世紀初頭）までの主要学説と経済学者を中心に紹介する。</p> <p>【到達目標】経済学の歴史を知ることによって経済学をより深く理解できること 経済学の歴史を学んでその意義と限界を知ることによって正しい見方を身につける。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) テキストなし。毎回プリントを配布する。</p> <p>(2) 必要に応じて、その都度指示する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 経済学史の範囲と方法：経済学史年表</p> <p>第2回 重商主義の経済思想：マリーンズ、マン、スチュアート</p> <p>第3回 重農主義の経済思想：ケネー、テュルゴー</p> <p>第4回 過渡期の経済思想：ペティ、ロック、マンデヴィル、カンティロン、ヒューム</p> <p>第5回 古典学派の生成：スミス</p> <p>第6回 古典学派の発展：マルサス、リカード</p> <p>第7回 古典学派の完成：セイ、シスモンディ、シーニア、ミル</p> <p>第8回 ドイツ歴史学派：リスト、ロッシュャー、ヒルデブラント、クニース</p> <p>第9回 マルクス学派：マルクス</p> <p>第10回 限界革命の先駆者達：チューネン、ゴッセン、デュビュイ</p> <p>第11回 限界分析の経済学：クールノー、ジェヴォンズ</p> <p>第12回 オーストリア学派：メンガー、ヴィーザー、バウム＝バヴェルク</p> <p>第13回 ローザンヌ学派：ワルラス、パレート</p> <p>第14回 ケンブリッジ学派：マーシャル、ピグー</p> <p>第15回 ケインズ革命：ケインズ</p>			
授業外学習(予習・復習)	授業前後に必ず合計で4時間程度の予習・復習を行うこと。			
成績評価の方法	期末筆記試験（100%）			
実務経験について	なし。			

授業科目	経済学特講 I	担当者	岩上敏秀	
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2	授業外対応	いつでも対応します。メールで連絡してください。	
		〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】証券外務員一種資格試験合格に必要な証券取引の基礎知識および実務知識を学びます。</p> <p>【概要】金融機関の職員として金融商品の営業活動に従事するには、証券外務員の資格が必要です。本講義は、銀行などの金融機関に内定した学生を対象に、証券外務員一種資格試験に合格するために必要な証券取引の基礎知識および実務知識を学びます。商経学科以外の学科から銀行に内定している学生の履修も歓迎します。（本講義は、金融商品を販売する側の金融機関での実務知識を学びます。金融商品を利用する側の証券投資や資産運用を学びたい場合は、「ファイナンス論」の履修を薦めます）</p> <p>【到達目標】証券外務員一種資格試験に合格できる知識を修得する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業内で適宜紹介する</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス、株式業務、信用取引(1)</p> <p>第2回 株式業務、信用取引(2)</p> <p>第3回 債券業務(1)</p> <p>第4回 債券業務(2)</p> <p>第5回 先物取引、オプション取引、店頭デリバティブ取引(1)</p> <p>第6回 先物取引、オプション取引、店頭デリバティブ取引(2)</p> <p>第7回 先物取引、オプション取引、店頭デリバティブ取引(3)</p> <p>第8回 先物取引、オプション取引、店頭デリバティブ取引(4)</p> <p>第9回 証券税制</p> <p>第10回 協会定款・諸規則、金融商品取引法(1)</p> <p>第11回 協会定款・諸規則、金融商品取引法(2)</p> <p>第12回 協会定款・諸規則、金融商品取引法(3)</p> <p>第13回 投資信託および投資法人に関する業務</p> <p>第14回 財務諸表と企業分析</p> <p>第15回 確認テスト、まとめ、講義アンケート (受講者の外務員資格試験受験日程を踏まえ、講義スケジュールを変更する可能性があります)</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示します。			
成績評価の方法	確認テスト（100%）			
実務経験について	国内外の金融機関で約30年の実務経験があります。			

授業科目	経済学特講Ⅱ	担当者	山口 祐司
	〔履修年次〕 1、2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 2	授業外対応	メール等で予約の上適宜対応します。
テーマ及び概要	<p>【テーマ】アメリカ経済とアメリカを中心とした国際経済関係の歴史を通して、経済学上のキーワードを学んでいきます。</p> <p>【概要】アメリカの力の相対的低下にもかかわらずアメリカに学ぶ意義（第1回）。19世紀から20世紀初頭にかけてのアメリカ経済の勃興（第2～3回）。1929年に始まる大恐慌の原因と結果（第4～6回）。1950～70年代にかけて、アメリカが主導する資本主義陣営の高度経済成長とその限界（第7～9回）。1980年代以降の、「新自由主義」と呼ばれる改革をテコにした新たな経済成長の仕組み（第10～12回）。新自由主義がアメリカにもたらした問題と今後のゆくえ（第13～14回）。経済を考える上でも、科学・技術や文化、政治など、同時代の社会の動きを知ることは重要である。映像資料等を利用してそうした知識も補っていく。</p> <p>【到達目標】アメリカ経済の歴史から特質を学ぶこと。良い意味でも悪い意味でも資本主義経済の最先端をいくアメリカに学ぶことで、日本を含む世界が直面する経済・社会の問題に取り組む力をつけること。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント (2) 講義時に提示</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス、なぜいまアメリカ経済を学ぶか 第2回 アメリカ経済の勃興（1）大量生産体制 第3回 アメリカ経済の勃興（2）債務国から世界最大の債権国へ 第4回 大恐慌と第二次世界大戦（1）狂騒の1920年代 第5回 大恐慌と第二次世界大戦（2）保護貿易と世界恐慌 第6回 大恐慌と第二次世界大戦（3）ニューディールと戦争 第7回 ブレトンウッズ体制とケインズ政策（1）ブレトンウッズ体制と戦後国際経済秩序 第8回 ブレトンウッズ体制とケインズ政策（2）ケインズ政策と持続的経済成長 第9回 ブレトンウッズ体制とケインズ政策（3）ドル危機と石油危機 第10回 新自由主義の興隆（1）レーガノミクスと金融化 第11回 新自由主義の興隆（2）グローバルサプライチェーンの形成 第12回 新自由主義の興隆（3）先端技術とイノベーション 第13回 新自由主義の帰結（1）リーマンショック 第14回 新自由主義の帰結（2）格差問題のゆくえ 第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	事前に提示する参考文献を予習し、授業後にはプリントをよく見直すようにしてください。		
成績評価の方法	筆記試験（60%）、毎回の授業で実施する授業まとめ（40%）		
実務経験について	なし。		

授業科目	法学特講	担当者	疋田京子
	〔履修年次〕 1年、2年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2	授業外対応	コミュニケーション・カードを利用する
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ジェンダー法学入門</p> <p>日本の国内法だけでなく国際社会におけるあらゆる法の領域をジェンダーの視点から概観する。</p> <p>【概要】国際社会ではLGBTIに関する国連決議や、過激化するテロ活動のなかで「女性に対する暴力」もし烈になり、国内ではDV防止法や刑法の改正、嫡出子相続差別やマタニティ・ハラスメントなどに関する最高裁判決など、家族法・労働法に関する重要な判決が出ています。こうしたジェンダーに関わる法や判例が、どのような社会の変化によって実現してきたのかを講義します。</p> <p>【到達目標】</p> <p>人格の中核にあるセクシュアリティと社会のジェンダー規範が密接に関係していることを、国連における決議や条約、国内法の改正の議論や判例を概観することによって理解することを目指します。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 三成・笹沼・立石・谷川著『ジェンダー法学入門【第2版】』法律文化社 (2) 江原由美子・金井淑子『フェミニズムの名著50』平凡社</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：ジェンダー法学の基礎知識 第2回 ジェンダー主流化にむけて（1）国際社会の動向とジェンダー主流化の展開 第3回 ジェンダー主流化にむけて（2）人権とジェンダー 第4回 身体と性（1）女性に対する暴力 第5回 身体と性（2）セクシュアル・ハラスメント 第6回 身体と性（3）性的自己決定権の侵害と性差別 第7回 身体と性（4）売買春と人身取引 第8回 身体と性（5）性と生殖の権利 第9回 親密圏（1）家族形態の多様化と法：家族法とその課題 第10回 親密圏（2）グローバル化時代の離婚をめぐる諸問題 第11回 親密圏（3）生殖補助医療と親子関係 第12回 親密圏（4）DV防止法の仕組み／ストーカー規制法／児童虐待防止法 第13回 労働者保護の基本的なしくみ 第14回 雇用における差別と労働者保護から排除される労働者 第15回 まとめ：ワーク・ライフ・バランス</p>		
授業外学習(予習・復習)	講義で紹介した本を、一冊は読んでみてください。		
成績評価の方法	毎回の小レポートと学期末に1回レポートを課します。		
実務経験について	なし		

授業科目	簿記論II		担当者	岡村雄輝
	〔履修年次〕	指定なし	授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位
			〔必修/選択〕	選択
				〔授業形態〕
				講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】複式簿記の基本原理を学ぶ</p> <p>【概要】日商簿記3級レベルのテキスト、ワークブックを使用して複式簿記による記帳手続を解説し、問題演習に取り組みます。簿記力を着実に養い、より高度な会計を学ぶためには、問題演習の反復を通じた複式簿記の基本原理の理解が肝要です。勤勉な学習姿勢が望まれます。※簿記論Iと連続して講義を展開しますので、併せて受講してください。</p> <p>【到達目標】個別の勘定科目に応じた決算手続、補助簿、伝票の記入を学習する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 渡部裕吾, 片山寛, 北村敬子 (編)『新検定 簿記講義3級 商業簿記』『新検定 簿記ワークブック』(令和5年版), 中央経済社。</p> <p>(2) 大藪俊哉編『簿記テキスト』(第6版), 中央経済社。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 簿記とは? : 簿記の意義, 目的, 財務諸表</p> <p>第2回 仕訳と転記: 仕訳の意義, 勘定への転記</p> <p>第3回 決算: 決算の意義と手続, 試算表作成</p> <p>第4回 決算: 帳簿の締切りと財務諸表の作成, 決算手続と精算表</p> <p>第5回 現金と預金: 当座預金と当座借越, その他の預金, 小口現金</p> <p>第6回 繰越商品・仕入・売上: 仕入帳と売上帳, 商品有高帳</p> <p>第7回 売掛金と買掛金: 売掛金明細表と買掛金明細表, クレジット売掛金, 前払金と前受金</p> <p>第8回 その他の債権と債務: 仮払金と仮受金, 受取商品券, 差入保証建</p> <p>第9回 有形固定資産: 有形固定資産の取得と売却, 減価償却, 固定資産台帳, 年次決算と月次決算</p> <p>第10回 資本: 株式会社の設立と株s期の発行, 繰越利益剰余金, 配当</p> <p>第11回 収益と費用: 収益・費用の未収・未払いと前受け・前払い, 消耗品と貯蔵品</p> <p>第12回 伝票: 仕訳帳と伝票, 3伝票制, 伝票から帳簿への記入, 伝票の集計</p> <p>第13回 財務諸表: 精算表の作成, 財務諸表の作成</p> <p>第14回 総合問題: 問題演習と解説②</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	毎回復習をすること。継続的な学習なしに簿記はできるようになりません。			
成績評価の方法	期末テスト100%			
実務経験について	なし			

授業科目	国際経済論		担当者	野村俊郎
	〔履修年次〕	1,2年	授業外対応	講義前後に適宜対応
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位
			〔必修/選択〕	選択
				〔授業形態〕
				講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】WTOについて学び、国境のない世界、自由で平和な世界を目指すとはどういうことか考える</p> <p>【概要】現在の世界は国境によって193の国に分かれている。しかし、WTOによって経済的な国境の壁は低くなり、企業は国境を超えて全世界で活動するようになった。WTOは第2次世界大戦の反省に基づいて生まれたGATTを前身としている。経済的な国境の壁を低くすることが、どのように国境のない世界、自由で平和な世界に繋がっていくかを順次説明していく。</p> <p>【到達目標】第2次大戦前のブロック経済がどのように戦争に進んだのか、それをどう反省してGATTが創設されたのか、自由で平和な世界に向かうWTOの意義と限界を理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布</p> <p>(2) 野村俊郎『トヨタの新興国車IMV』および『トヨタの新興国適応』文真堂</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 テーマ説明: 「国境のない世界、自由で平和な世界を目指す」とはどういうことか</p> <p>第2回 戦争と冷戦を超えて~WTOは何故生まれたのか~</p> <p>第3回 WTOの概要</p> <p>第4回 一般的最恵国待遇</p> <p>第5回 内国民待遇</p> <p>第6回 数量制限禁止</p> <p>第7回 経済制裁をWTOは禁止しているのに、実際には行われているのは何故なのか</p> <p>第8回 交渉に時間のかかるWTOを補完する地域統合</p> <p>第9回 EU①</p> <p>第10回 EU②</p> <p>第11回 EU③</p> <p>第12回 AFTAとAEC</p> <p>第13回 メルコスール</p> <p>第14回 TPP</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験(100%)			
実務経験について	なし			

授業科目	アジア経済論	担当者	野村俊郎
	[履修年次] 1, 2年	授業外対応	講義前後に適宜対応
	[学期] 前期	[単位] 2単位	[必修/選択] 選択
		[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】中国・インド・ASEANの経済とAFTA・AECについて学び、その成長と限界を考える</p> <p>【概要】アジアには経済規模が世界最大の中国、第3位の日本、第5位のインド、今後の成長が期待されるASEANなどがある。それぞれが日本を除いて先進国の植民地だったという共通の過去、そして独立のための戦いを経て政治的に独立し、様々な試みの末に資本主義国として経済成長を遂げたという共通の歴史を持つ。こうした歴史を踏まえてアジア経済がどこに向かうのかを説明していく。</p> <p>【到達目標】アジア各国の経済が植民地経済から低開発経済を経て資本主義国として成長してきたことの意義と限界を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) プリントを配布</p> <p>(2) 野村俊郎『トヨタの新興国車IMV』および『トヨタの新興国適応』文真堂</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 テーマ説明：植民地経済から低開発経済を経て先進国経済へ～資本主義経済の成長力と限界～</p> <p>第2回 日米欧による植民地支配下と植民地経済～日米欧に収奪されたアジア～</p> <p>第3回 植民地支配からの独立を目指すアジア各国の戦い①中国</p> <p>第4回 植民地支配からの独立を目指すアジア各国の戦い②インド</p> <p>第5回 植民地支配からの独立を目指すアジア各国の戦い③インドネシア</p> <p>第6回 植民地支配からの独立を目指すアジア各国の戦い④ベトナム</p> <p>第7回 低開発経済からの脱却への道：社会主義、そして資本主義へ①中国</p> <p>第8回 低開発経済からの脱却への道：社会主義、そして資本主義へ②インド</p> <p>第9回 低開発経済からの脱却への道：社会主義、そして資本主義へ③ベトナム・ラオス・カンボジア</p> <p>第10回 奇跡の成長①中国の改革開放</p> <p>第11回 奇跡の成長②インド</p> <p>第12回 奇跡の成長③インドネシアの外資規制緩和</p> <p>第13回 奇跡の成長④ベトナムのドイモイ</p> <p>第14回 AFTA・AECと成長の限界：アジアに豊かで平等で持続可能な未来はあるか</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験(100%)		
実務経験について	なし		

授業科目	国際関係論	担当者	福田 忠弘
	[履修年次] 1年, 2年いずれでも履修可	[学期] 前期	
	[単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】国際社会に生じるさまざまな諸問題について理解する。同時に、国家以外の行為体についての理解を深める。</p> <p>【概要】本講義では、国際関係の史的展開を概説したうえで、現代国際関係における諸問題について分析する。国際関係の史的展開では、第二次世界大戦後の冷戦史(特にアジアにおける冷戦)を対象とし、国際システムの歴史的変遷をたどる。その後、特に貧困問題、環境問題、人権、テロ、グローバルガバナンスについての説明と、問題解決に向けた国際社会の取り組みを紹介する。</p> <p>【到達目標】国際社会の現在の諸問題を把握し、その背景についての理解を深める。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 使用しない。</p> <p>(2) 原彬久編『国際関係学講義』(有斐閣, 2006年)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目的, 方法</p> <p>第2回 国際関係論の基礎1：国内社会と国際社会は何か違うのか</p> <p>第3回 国際関係論の基礎2：行為体と争点の多様化</p> <p>第4回 国際関係のなりたち1：第二次世界大戦後の秩序形成と冷戦</p> <p>第5回 国際関係のなりたち2：アジアにおける冷戦の拡大1</p> <p>第6回 国際関係のなりたち3：アジアにおける冷戦の拡大2</p> <p>第7回 国際関係のなりたち4：核兵器について</p> <p>第8回 国際関係のなりたち5：大国の支配とナショナリズム</p> <p>第9回 国際関係のなりたち6：冷戦後の世界秩序</p> <p>第10回 国際社会における諸問題1：グローバル化と貧困問題</p> <p>第11回 国際社会における諸問題2：貧困と開発</p> <p>第12回 国際社会における諸問題3：国境を越える諸問題</p> <p>第13回 国際社会における諸問題4：保守化する世界</p> <p>第14回 国際社会における諸問題5：グローバルガバナンス</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	試験(80%)、授業への参加態度(20%)によって評価する。		

授業科目	比較文化		担当者	小林朋子
	〔履修年次〕 1年		授業外対応	適宜対応 (要予約)
	〔学期〕 前期	〔単位〕 2	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】異文化理解・異文化コミュニケーション・異文化交流とは何か。</p> <p>【概要】今日のグローバル社会では、毎日の生活で異なる文化を持つ人々とのコミュニケーションが増加している。また、「異文化」とは国境を越える出会いを背景とした文化であるというステレオタイプを取り払えば、異質な他者との出会いも私たちの日常にあふれている。本講義では、そうした他者とのような関係性＝コミュニケーションを構築していくべきなのか、様々な観点から学んでいく。講義終了後、外国人との交流の時間を設ける。受講者はこの「異文化交流会」に向けて、主体的に考えながら講義を受ける必要がある。</p> <p>【到達目標】・広い視野から異文化を正しく理解した上で、他言語を話す人々の価値観を知り、適切にコミュニケーションを行うことができる。・異文化交流の意義について体験的に理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 伊佐雅子監修『多文化社会と異文化コミュニケーション』（三修社刊、2007年）</p> <p>(2) 池田理知子編著『よくわかる異文化コミュニケーション』（ミネルヴァ書房、2010年）他。（授業で随時紹介します）</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 異文化コミュニケーションを学ぶことの意義：文化・異文化とは何か</p> <p>第2回 グローバル社会と異文化コミュニケーション（1）：グローバル化の意味</p> <p>第3回 グローバル社会と異文化コミュニケーション（2）：異文化交流の歴史と異文化への根差し</p> <p>第4回 空間、時間、異文化コミュニケーション：さまざまな意味をもつ空間と時間</p> <p>第5回 「地球都市の出現とコミュニケーション」：都市化する世界</p> <p>第6回 女性と異文化適応：異文化適応におけるジェンダー</p> <p>第7回 異文化コミュニケーションと誤解の接点：誤解という身近なできごと</p> <p>第8回 異文化コミュニケーションにおける言語選択：「英語の普及」をどう捉えるか</p> <p>第9回 異文化コミュニケーション者としての通訳者（1）：通訳の種類、通訳の歴史</p> <p>第10回 異文化コミュニケーション者としての通訳者（2）：通訳は言葉の置き換え作業？</p> <p>第11回 異文化交流会準備（1）：異文化接触とは「よそ者」と異文化適応</p> <p>第12回 異文化交流会準備（2）：グローバル化とアイデンティティー自分のことば、他者のことば</p> <p>第13回 異文化交流会準備（3）：異文化コミュニケーションとは</p> <p>第14回 異文化交流会：異文化コミュニケーションの実践</p> <p>第15回 異文化交流会まとめ：新しい「異文化コミュニケーション」に向けて</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	授業への参加態度（40%）、小レポート（異文化交流会前の準備レポートを含む）（20%）、最終レポート（40%）			
実務経験について	なし			

授業科目	アジア事情		担当者	福田 忠弘
	〔履修年次〕 1年、2年いずれでも履修可		〔学期〕 後期	
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】東アジア、東南アジアの歴史と現在の状況について把握する。</p> <p>【概要】アジアは、地理、歴史、言語、文化、宗教、民族など、すべての面において多様である。本講義では、「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を得ながらも、「共通性」について焦点をあてる。近代以降においては植民地化、現代においては脱植民地化、国民国家建設、リージョナリズム（地域主義）の形成という共通性がある。また、最近東アジアにおける地域協力が注目を浴びている。これらの共通する事象を抽出し、分析する。</p> <p>【到達目標】「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を深める。</p>			
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 使用しない。</p> <p>(2) プリント</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目的と方法</p> <p>第2回 「アジア」という概念：アジアはどこまでがアジアか</p> <p>第3回 歴史的形成1：植民地以前のアジア</p> <p>第4回 歴史的形成2：植民地のようす</p> <p>第5回 歴史的形成3：植民地からの独立</p> <p>第6回 歴史的形成4：脱植民地化、国民国家建設、開発</p> <p>第7回 歴史的形成5：冷戦下のアジア</p> <p>第8回 東南アジア1：インドシナ三国</p> <p>第9回 東南アジア2：ベトナム戦争の影響</p> <p>第10回 東南アジア3：タイ、ミャンマー、マレーシア</p> <p>第11回 東南アジア4：メコン河流域開発</p> <p>第12回 東南アジアの地域協力体制：ASEANの形成</p> <p>第13回 アジアにおける協力体制1：ASEANを中心とする協力1</p> <p>第14回 アジアにおける協力体制2：ASEANを中心とする協力2</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する			
成績評価の方法	試験（80%）、授業への参加態度（20%）によって評価する。			

授業科目	ヨーロッパ経済事情		担当者	大重 康雄	
	[履修年次]	1年、2年	授業外対応	メール等で適宜対応	
	[学期]	後期	[単位]	2	
			[必修/選択]	選択	
				[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ヨーロッパ(EU)を主に経済の視点でとらえ、ヨーロッパ(EU)がもたらす世界経済への影響や広域経済連携地域が内包する課題を考察する</p> <p>【概要】ヨーロッパ地域統合(EU)から通貨統合およびその後の金融財政危機等の変遷に注目し、今後のヨーロッパ社会の展望について考える。特に今期は直近の新型コロナウイルス・ウクライナ侵攻による地政学的リスクが深刻化しておりそれら問題を米国や日本と対比し考える。</p> <p>【到達目標】ヨーロッパ地域統合(EU)の現状と課題を学ぶことにより、大規模な経済連携やグローバル化が地域や人々にどのような影響を与えるかを理解できる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 田中素香ほか『現代ヨーロッパ経済 第6版』有斐閣アルマ および講師作成プリント</p> <p>(2) 遠藤乾編『ヨーロッパ統合史』名古屋大学出版会ほか</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 現在ヨーロッパで何が起きているか(ロシアのウクライナ侵攻と世界経済)</p> <p>第2回 ヨーロッパ統合前史</p> <p>第3回 ヨーロッパ統合の歴史</p> <p>第4回 統一通貨ユーロとは</p> <p>第5回 環境・エネルギー課題とEU財政諸問題</p> <p>第6回 EU社会が抱える地政学的課題</p> <p>第7回 BREXIT後のイギリスの将来</p> <p>第8回 フランスとEU経済</p> <p>第9回 ドイツとEU経済</p> <p>第10回 その他諸国とEU経済</p> <p>第11回 中・東欧諸国とEU経済</p> <p>第12回 EUと対外通商政策</p> <p>第13回 欧州通貨と国際金融システム</p> <p>第14回 ヨーロッパ社会とEUの将来</p> <p>第15回 講義のまとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	授業中各自に質問をするのでシラバスに従って予習・復習し授業中に質問・意見交換すべきことをまとめておくこと。				
成績評価の方法	筆記試験(80%) + 授業での発言内容(20%)				
実務経験について	地域金融機関での貿易取引等外国為替業務の知識・海外経験を活かし、国際金融市場動向や地域経済を意識した実践的な授業を目指す。				

授業科目	国際経済特講 I		担当者	村田 秀博	
	[履修年次]	1、2年生	授業外対応	授業終了後 Eメールにて	
	[学期]	後期	[単位]	2	
			[必修/選択]	選択	
				[授業形態]	講義形式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】地域経済の国際化と鹿児島県内企業の海外進出事例、それに伴う貿易取引</p> <p>キーワード：鹿児島県内企業も数多く海外業務を行っている。資料 DVD サンプル多用のわかりやすい授業</p> <p>【概要】日本の中小企業は、近年の国内経済環境の変化の中で企業活動を海外へ拡大させ、更なる商機をつかもうという動きが活発化している。県内でも同様であり、海外を目指す中小企業が「挑戦」「失敗」「成功」を繰り返している。その具体的な現状を認識した上で、海外展開方法論を考える。また基礎となる貿易知識も習得する。</p> <p>【到達目標】地域の海外展開の具体的な動きを理解する中で、優位性・課題問題点をふまえた独自の解決方法を見出す。県内企業・行政機関などで、海外業務を担当できるスキルを習得する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) レジューメ・プリント資料</p> <p>(2) 海外映像・サンプル・雑誌新聞投稿資料ほか</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス(日本経済・地域経済のグローバル化・海外知的財産権・外国人人材)</p> <p>第2回 鹿児島県内中小企業の国際化の現状</p> <p>第3回 進出国の情勢比較(中国)</p> <p>第4回 進出国の情勢比較(中国)</p> <p>第5回 海外知的財産権の保護(悪意の商標登録など)</p> <p>第6回 県内大学の海外展開・県内医療機関メディカルツアーの誘致</p> <p>第7回 進出国の情勢比較(台湾・香港・タイ)</p> <p>第8回 進出国の情勢比較(ベトナム・外国人人材受け入れ)</p> <p>第9回 進出国の情勢比較(ミャンマー・シンガポール)</p> <p>第10回 進出国の情勢比較(マレーシア・インドネシア・ロシアほか)</p> <p>第11回 貿易実務(各自由貿易協定、RCEP・TPP・FTA・EPAほか)</p> <p>第12回 貿易実務(外国為替・為替相場・先物予約)</p> <p>第13回 貿易実務(外貨預金・外貨貸付)</p> <p>第14回 貿易実務(輸出・輸入)</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)					
成績評価の方法	筆記試験50%+レポート50%				
実務経験について	金融機関にて国際業務に23年間携わり、世界各地にてフィールドワーク実践。貿易・外国人人材・海外知的財産権専門家。海外ビジネスツアー100回以上企画開催。タイ王国赴任経験あり。				

授業科目	国際経済特講Ⅱ	担当者	野村俊郎、伊原保守、細川薫、山本 肇
	〔履修年次〕 1, 2 年いずれでも履修可 〔学期〕 前期 〔単位〕 2	授業外対応	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】売上 28 兆円、純利益 2 兆円のトヨタは「100 年に一度の大変革期」CASE にどう挑むか～伊原保守元副社長、細川薫トヨタ自動車元チーフエンジニア (CE) に聞く～</p> <p>【概要】伊原保守元副社長、細川薫トヨタ自動車 CE にトヨタが売上 28 兆円、純利益 2 兆円を達成できる秘密、今後 CASE にどう挑んでいくかについて聞く。細川元 CE は新興国専用車 IMV の担当のため、IMV が投入されているタイ、インドネシア、フィリピン、マレーシア、ベトナムの市場動向について山本肇氏に解説して頂く。</p> <p>【到達目標】「売れるモノ」「儲かるモノ」の企画、設計の秘訣、大きな変化に対応できる秘密について理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布する (2)		
授業スケジュール	第 1 回 売上 28 兆円、純利益 2 兆円の企業トヨタ (野村俊郎) : グローバル競争とトヨタ 第 2 回 売上 28 兆円、純利益 2 兆円の秘密① (同上) : グローバル競争を勝ち抜く商品力の創造→企画と設計のルーツ 第 3 回 売上 28 兆円、純利益 2 兆円の秘密② (同上) : グローバル競争を勝ち抜く原価低減→開発・製造・調達のルーツ 第 4 回 トヨタの企画・設計の現場と売れる秘密、儲かる秘密① (細川) 第 5 回 トヨタの企画・設計の現場売れる秘密、儲かる秘密② (同上) 第 6 回 トヨタの企画・設計の現場売れる秘密、儲かる秘密③ (同上) 第 7 回 トヨタの CASE への挑戦① (伊原) 第 8 回 トヨタの CASE への挑戦② (同上) 第 9 回 トヨタの CASE への挑戦③ (同上) 第 10 回 タイの自動車産業～アセアンのハブ (同上) マレーシアの政治・経済 (山本) 第 11 回 インドネシアの自動車産業～アセアン最大市場の行方 (同上) 第 12 回 フィリピンの自動車産業 (同上) 第 13 回 マレーシアの自動車産業～国民車政策の行方 (同上) 第 14 回 ベトナムの自動車産業 (同上) 第 15 回 燃費、排ガス、安全規制と新興国車 (同上)		
授業外学習(予習・復習)	授業では事実よりも見方、考え方に重点をおいて語ります。その見方、考え方を使って、いろいろ自分でも考えてみて下さい。		
成績評価の方法	筆記試験 (100%)		
実務経験について	伊原保守氏: トヨタ自動車元副社長・アイシン精機前社長、細川薫氏: トヨタ自動車製品企画本部 ZB 元チーフエンジニア (CE) 山本肇氏: 三菱総研 (MRI) から IHS Automotive Thailand を経て野村総研 (NRI) タイで ODA (技術協力) のコンサルティング		

授業科目	地域経済論	担当者	未定
	〔履修年次〕 〔学期〕 〔単位〕	授業外対応	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>【概要】</p> <p>【到達目標】</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回		
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法			
実務経験について			

授業科目	地域産業政策	担当者	未定
	[履修年次]	授業外対応	
	[学期] [単位]	[必修/選択]	[授業形態]
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第 1回 第 2回 第 3回 第 4回 第 5回 第 6回 第 7回 第 8回 第 9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回		
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法			
実務経験について			

授業科目	地方自治論	担当者	船津 潤
	〔履修年次〕 1, 2年	授業外対応	講義前後、それ以外も随時(日時を調整することがあるかもしれませんが、遠慮なく声をかけてください)
	〔学期〕 前期 〔単位〕 2	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】地方自治、地方行財政に関する基本的な概念や理論、日本の制度の内容、実態、特徴、課題に関する理解を深めること</p> <p>【概要】地方自治とは何か、日本の国と地方自治体との関係(政府間関係)の特徴を踏まえて、地方自治や地方行財政に関する基本的な概念や理論、制度について講義するとともに、参考になるとと思われる海外の事例も取り上げます。また、グローバル化の地方自治に与える影響等についても講義します。</p> <p>【到達目標】①日本の地方自治・地方行財政制度について理解し、説明できるようになること ②地方自治体の活動について主体的に考察し、判断できるようになること ③自分が暮らす地域の課題を見出し、その解決策を提案できるようになるための基礎力を身につけること</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし</p> <p>(2) 総務省編『地方財政白書 各年版』日経印刷</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目標、評価基準等の説明</p> <p>第2回 地方自治(1)：定義、地方自治が求められる根拠、地方自治の意義等</p> <p>第3回 地方自治(2)：グローバル化の影響等</p> <p>第4回 地方自治体の意思決定(1)：国と地方公共団体の関係、首長・役所・議会の関係等</p> <p>第5回 地方自治体の意思決定(2)：地方の予算制度、長の強い権限等</p> <p>第6回 地方自治体の財源(1)：歳入の自治と三位一体の改革、地方債等</p> <p>第7回 地方財政健全化法(1)：地方財政健全化法、地方債改革との関係等</p> <p>第8回 地方財政健全化法(2)：法律成立の背景、地方自治への影響等</p> <p>第9回 地方自治体の財源(2)：地方交付税、国庫支出金、問題点等</p> <p>第10回 法定外税(1)：法定外税の定義、地方分権一括法での変更点、現在の傾向等</p> <p>第11回 法定外税(2)：受益・原因と負担の関係、利点と問題点等</p> <p>第12回 市町村合併：「平成の大合併」とその背景、望ましい合併とは、現在の状況等</p> <p>第13回 市民参加・参画：歴史、求められている背景、参考事例の紹介等</p> <p>第14回 住民自治：シアトル・メトロの事例(地方政府の創設)について</p> <p>第15回 まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明、試験についての説明等</p>		
授業外学習(予習・復習)	<p>講義の前後に総務省のサイト等で関連事項について調べ、検討すること、普段から地方自治関連のニュースに注目すること(できれば外国のメディア(民間企業との関係では特に興味深い記事を出すことがあります)を含む複数)を勧めます(公務員試験を含む就職活動や四大への編入(地域との連携は殆どの大学にとって重要な課題です)にも有意義です)。そして、講義内容に直接関係しなくても、聞きたいことが出てきたら、遠慮なく質問してください。</p>		
成績評価の方法	<p>筆記試験(80%)、小テスト(20%)を基本とし、アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。</p>		
実務経験について	なし		

授業科目	高齢者福祉	担当者	田口康明
	〔履修年次〕 1年	授業外対応	メールで連絡、随時対応
	〔学期〕 後期 〔単位〕 2	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】社会福祉の構造を明らかにし、その中での高齢者福祉の位置づけについて考える。あわせて、2000年以降変化する社会福祉について、高齢者福祉の分野に導入された「介護保険」の制度を検討し理解する。また学生諸君が親の介護に向き合うようになる前に基礎的な知識を身につけることを目的とする。</p> <p>【概要】本科目は、本科目は、専門科目として開設されている。授業では少人数が想定されるので、受講者はテキストを読み、その要約を発表しながら内容の理解を進めていく。</p> <p>【到達目標】介護保険を中核とする「高齢者福祉」の仕組みの理解につきます。将来、高齢者当事者として、また介護者当事者として向き合うことが、すべての人にとってほぼ確実であるのでその理解を進める。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 小竹雅子『総介護社会——介護保険から問い直す(岩波新書)』</p> <p>(2) 授業内で随時紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス この授業のすすめ方</p> <p>第2回 (講義) 福祉とは何か・必要という考え方・必要に基づく社会政策</p> <p>第3回 (講義) 資源とその供給・資源の再分配・官僚制と専門主義</p> <p>第4回 (発表) テキスト「序章：介護問題の社会化」</p> <p>第5回 (発表) テキスト「第1章：介護保険を利用する人たち」その1</p> <p>第6回 (発表) テキスト「第1章：介護保険を利用する人たち」その2</p> <p>第7回 (発表) テキスト「第2章：介護現場で働く人たち」その1</p> <p>第8回 (発表) テキスト「第2章：介護現場で働く人たち」その2</p> <p>第9回 (発表) テキスト「第3章 介護保険のしくみ」その1</p> <p>第10回 (発表) テキスト「第3章 介護保険のしくみ」その2</p> <p>第11回 (発表) テキスト「第4章 介護保険の使い方」</p> <p>第12回 (発表) テキスト「第5章 介護保険にかかる金」</p> <p>第13回 (発表) テキスト「第6章 なぜ、サービスは使いつらいのか」</p> <p>第14回 (発表) テキスト「第7章 介護保険を問い直すガイダンス」</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	<p>テキストの各回の箇所を十分読むこと/各回のテキストの指定部分を事前に熟読する</p>		
成績評価の方法	<p>授業中の発表 60%、授業中の発言 20% ファイナルレポート 20%</p>		

授業科目	労働法	担当者	疋田京子
	[履修年次] 1、2年 [学期] 後期 [単位] 2 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義	授業外対応	適宜対応 (メールで予約)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ディーセントワーク (人間らしい働き方) を実現するための基礎知識</p> <p>【概要】「過労死」が国際語として通用するほど有名な日本の長時間労働。また正規と非正規の格差の拡大。こうした日本の職場に根強い雇用慣行は、どのような法制度のなかで起こったのか。「働き方改革」のための法整備によって、職場はどのように変わろうとしているのだろうか。</p> <p>【到達目標】</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する</p> <p>(2) 授業中に適宜紹介する</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 オリエンテーション：労働法を知る大切さ</p> <p>第 2回 労働法の全体像：憲法—民法—労働法の関係</p> <p>第 3回 労働契約：自分の労働条件を知らないとうなる？</p> <p>第 4回 内定辞退と内定取り消し：「内定」の法的性格</p> <p>第 5回 賃金に関するルール：研修期間中は最低賃金法の適用がないってホント？</p> <p>第 6回 労働時間に関するルール (1)：所定労働時間と法定労働時間の違い</p> <p>第 7回 労働時間に関するルール (2)：時間外労働・休日労働・深夜労働とは？</p> <p>第 8回 「各種保険完備」とは？：パイトのケガは自己責任？</p> <p>第 9回 有給休暇は権利です：アルバイトにも有給給はある</p> <p>第 10回 労働契約終了のパターン：「辞める」と「辞めさせられる」の違い</p> <p>第 11回 働くことは人権です：産前・産後休業と育児・介護休業</p> <p>第 12回 募集採用に関する法的規制：採用面接で会社は何を質問してもいいの？</p> <p>第 13回 労働時間に関する応用問題：変形労働時間制と裁量労働制</p> <p>第 14回 賃金に関する応用問題：残業代込み、出来高制、休業補償制度</p> <p>第 15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	復習をしっかりとってください。		
成績評価の方法	2回のレポート (中間レポートと最終レポート) の提出 (80%) 授業ごとのミニレポート		
実務経験について			

授業科目	地域研究特講	担当者	福田 忠弘
	[履修年次] 1年, 2年いずれでも履修可 [学期] 後期 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】世界の格差の状況について認識し、貧困の問題について国際社会はどのような対応をとってきたのかを講義する。</p> <p>【概要】本講義では、さまざまな国際協力・開発援助について取り上げる。最初に開発援助についての歴史について言及した後、国際機関、国家、地方自治体、市民が主体となった国際協力について概観する。</p> <p>【到達目標】さまざまな行為体が、さまざまなレベルで、多様な援助が行われていることを理解することが到達目標である。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 使用しない。</p> <p>(2) 新潟国際ボランティアセンター編『地方発の国際NGO：グローバルな市民社会に向けて』(明石書店, 2008年)</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス：講義の目的と方法</p> <p>第 2回 世界の現状 1：数値からみる世界の格差</p> <p>第 3回 世界の現状 2：グローバリゼーションの進展</p> <p>第 4回 第二次世界大戦後の国際経済体制：ブレトンウッズ体制について</p> <p>第 5回 途上国の開発：輸入代替工業化戦略と輸出志向工業化戦略</p> <p>第 6回 国際機関による援助 1：さまざまな国際機関 1</p> <p>第 7回 国際機関による援助 2：さまざまな国際機関 2</p> <p>第 8回 国家を主体とする援助 1：ODA について (1)</p> <p>第 9回 国家を主体とする援助 2：ODA について (2)</p> <p>第 10回 企業による社会活動：CSR を中心に</p> <p>第 11回 市民を主体とする援助 1：NPO の活動 (1)</p> <p>第 12回 市民を主体とする援助 2：NPO の活動 (2)</p> <p>第 13回 市民を主体とする援助 3：NPO の活動 (3)</p> <p>第 14回 人間の安全保障</p> <p>第 15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	試験 (80%) 授業への参加態度 (20%) によって評価する。		

授業科目	地方自治法		担当者	山本 敬生
	[履修年次]	1,2年履修可	授業外対応	適宜対応(要予約)
	[学期]	後期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義形式
テーマ及び概要	【テーマ】住民自治, 団体自治といった地方自治の基礎理論を理解した上で, 地方公共団体の種類及び事務, 住民の権利義務, 条例と規則, 議会, 執行機関を中心に地方自治法を体系的に学習し, 地方の時代における国と地方公共団体との新たな関係について検証することをテーマにする。			
	【概要】地方自治法は, 国と地方自治公共団体の役割分担, 機関委任事務の廃止に伴う法定受託事務の創設, 普通地方公共団体に対する国または都道府県の関与, 国と普通地方公共団体との間の係争処理手続等を規定している。本講義では, 地方自治法をわかりやすく解説することで, 地方自治法が地方分権改革を推進する上でいかなる役割を果たすかを学習する。			
	【到達目標】地方自治法の基本構造を正確に理解し, 国と地方公共団体のあるべき関係を法的視点から考察できる力を習得することを目標にする。			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 佐伯仁志他編, 『ポケット六法(令和5年度版)』, 有斐閣			
授業スケジュール	第1回	地方自治の意義	・住民自治, 団体自治, 伝来説, 固有権説, 地方自治の本旨について	
	第2回	地方公共団体の種類	・地方公共団体の構成要素(住民, 区域, 法人格), 都道府県, 市町村について	
	第3回	地方公共団体の区域・事務	・区域, 機関委任事務, 法手受託事務について	
	第4回	住民の権利義務(1)	・住民, 条例の制定改廃の請求, 事務監査の請求について	
	第5回	住民の権利義務(2)	・議会の解散請求, 議員, 長及び特定職員の解職請求, 住民監査請求について	
	第6回	条例と規則(1)	・条例制定権の範囲と限界, 法令先占論, 条例の効力について	
	第7回	条例と規則(2)	・条例制定手続, 条例と罰則, 行政罰, 規則の制定事項について	
	第8回	議会(1)	・議会の地位, 町村総会, 議会の組織, 議会の権限, 調査権について	
	第9回	議会(2)	・定例会, 臨時会, 議会の運営, 会議公開の原則, 会期不継続の原則について	
	第10回	執行機関(1)	・長の地位, 長の権限, 長の職務の代理, 地方公共団体の事務所について	
	第11回	執行機関(2)	・行政委員会の意義, 長と行政委員会との関係, 監査委員, 教育委員会について	
	第12回	国等の地方公共団体への関与	・国の関与の原則, 法定受託事務の処理基準, 国地方係争処理委員会について	
	第13回	長と議会との関係(1)	・議会の監視, 再議制度, 一般的拒否権, 特別的拒否権について	
	第14回	長と議会との関係(2)	・専決処分, 長に対する不信任議決, 議会の解散, 再度の不信任議決について	
	第15回	予算	・予算事前議決の原則, 予算公開の原則, 会計年度独立の原則について	
授業外学習(予習・復習)	復習を重視する。			
成績評価の方法	筆記試験(90%) + 授業での発言内容(10%)を基準にして評価する。			
実務経験について	なし			

12 経営情報専攻専門科目

授業科目	簿記論II		担当者	岡村雄輝
	[履修年次] 指定なし	[学期] 前期	[単位] 2単位	[授業外対応] 講義前後に適宜対応
	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】複式簿記の基本原理を学ぶ</p> <p>【概要】日商簿記3級レベルのテキスト、ワークブックを使用して複式簿記による記帳手続を解説し、問題演習に取り組みます。簿記力を着実に養い、より高度な会計を学ぶためには、問題演習の反復を通じた複式簿記の基本原理の理解が肝要です。勤勉な学習姿勢が望まれます。※簿記論Iと連続して講義を展開しますので、併せて受講してください。</p> <p>【到達目標】個別の勘定科目に応じた決算手続、補助簿、伝票の記入を学習する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 渡部裕互、片山寛、北村敬子(編)『新検定 簿記講義3級 商業簿記』『新検定 簿記ワークブック』(令和5年版)、中央経済社。</p> <p>(2) 大藪俊哉編『簿記テキスト』(第6版)、中央経済社。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 簿記とは? : 簿記の意義、目的、財務諸表</p> <p>第2回 仕訳と転記: 仕訳の意義、勘定への転記</p> <p>第3回 決算: 決算の意義と手続、試算表作成</p> <p>第4回 決算: 帳簿の締切りと財務諸表の作成、決算手続と精算表</p> <p>第5回 現金と預金: 当座預金と当座借越、その他の預金、小口現金</p> <p>第6回 繰越商品・仕入・売上: 仕入帳と売上帳、商品有高帳</p> <p>第7回 売掛金と買掛金: 売掛金明細表と買掛金明細表、クレジット売掛金、前払金と前受金</p> <p>第8回 その他の債権と債務: 仮払金と仮受金、受取商品券、差入保証建</p> <p>第9回 有形固定資産: 有形固定資産の取得と売却、減価償却、固定資産台帳、年次決算と月次決算</p> <p>第10回 資本: 株式会社の設立と株s期の発行、繰越利益剰余金、配当</p> <p>第11回 収益と費用: 収益・費用の未収・未払いと前受け・前払い、消耗品と貯蔵品</p> <p>第12回 伝票: 仕訳帳と伝票、3伝票制、伝票から帳簿への記入、伝票の集計</p> <p>第13回 財務諸表: 精算表の作成、財務諸表の作成</p> <p>第14回 総合問題: 問題演習と解説②</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	毎回復習をすること。継続的な学習なしに簿記はできるようになりません。			
成績評価の方法	期末テスト100%			
実務経験について	なし			

授業科目	経営管理論		担当者	竹中啓之
	[履修年次] 1, 2年いずれも履修可	[学期] 後期	[単位] 2単位	[授業外対応] 適宜対応(要予約)、及び講義終了後
	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】企業経営や組織運営での「ヒト」及び「組織」の管理方法について講義する。</p> <p>【概要】2人以上の個人が集団として活動する場合、そこには必ずその集団の行動を調整する役割が必要となり、その役割を一般的に「管理」と呼んでいます。すなわち管理はすべての集団・組織において存在する職能であるといえます。また「経営」とは、財またはサービスを生産する経済活動に従事する組織体を統制することだと定義することができます。</p> <p>したがって経営管理とは、経営活動を行う組織体を調整する職能ということになり、このような活動を行うのは経営者や管理者の役割です。この講義では、彼らが、目的を実行するための効率的な組織運営のための工夫や、組織内部にいる関係者および組織外部のさまざまな状況との関わり合いの中、対処している方法について講義していきます。</p> <p>【到達目標】組織管理の難しさを理解する。経営管理に関する諸学説を概観する。経営管理に関連する専門用語を知る。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業中に配布するプリント</p> <p>(2) 講義中に指示する</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 講義概要の説明: 講義の進め方・内容・評価方法について説明する。</p> <p>第2回 経営管理論とは何か: 管理論の特徴と他の経営学関連の科目と連携について説明する。</p> <p>第3回 組織における人間(1): 企業で人を管理する際の基本となる考え方などについて説明する。</p> <p>第4回 組織における人間(2): テイラーの科学的管理法と「経済人モデル」について説明する。</p> <p>第5回 組織における人間(3): メイヨー他の人間関係論と「社会人モデル」について説明する。</p> <p>第6回 組織における人間(4): マズローの欲求階層説と「自己実現人モデル」について説明する。</p> <p>第7回 他の動機づけモデルについて説明し、改めて人が働く意欲とはどのように生み出されるのかを考える。</p> <p>第8回 人的資源管理(1): 企業での人的資源管理全体の流れや考え方について説明する。</p> <p>第9回 人的資源管理(2): 採用管理について説明する。</p> <p>第10回 人的資源管理(3): 人事異動(初任配置・配置転換・昇進など)について説明する。</p> <p>第11回 人的資源管理(4): 人材育成の基礎について説明する。</p> <p>第12回 人的資源管理(5): 人材育成の「熟練」について考えていく。</p> <p>第13回 人的資源管理(6): 人事評価の仕組みと賃金管理について説明する。</p> <p>第14回 リーダーの役割とは何か: リーダー(上司)として適切な行動とは何かを考える。</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	期末筆記試験(70%)、中間レポートもしくは小テスト(30%)(予定) 詳細は1回目の講義で説明します。			
実務経験について	なし			

授業科目	経営組織論		担当者	近間由幸
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	適宜対応(要予約)
	[学期]	後期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
				[授業形態]
				講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】経営組織論における個人と組織の関係性について</p> <p>【概要】経営組織に関わる理論を紹介し、これらの理論がどのような企業組織を念頭に置いて議論されてきたものなのかを解説する。また、現代社会において求められている組織や個人のあり方について、適宜事例を交えながら解説を行う。</p> <p>【到達目標】「組織」、「リーダーシップ」、「モチベーション」という言葉でイメージされる人物像や組織のモデルが、授業で扱うものうちどれに近いのかを、自らの経験に照らし合わせて考えていけることを到達目標としている。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 田尾雅夫編『よくわかる組織論』ミネルヴァ書房</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクシヨン—いろいろな組織の捉え方</p> <p>第2回 組織論における人間モデル</p> <p>第3回 ワーク・モチベーションとその理論</p> <p>第4回 個人と組織のかかわり合い—モチベーション、コミットメント、キャリア</p> <p>第5回 集団の機能と組織</p> <p>第6回 組織におけるリーダーシップ</p> <p>第7回 組織文化</p> <p>第8回 経営組織の設計</p> <p>第9回 官僚制組織とネットワーク組織</p> <p>第10回 変動する環境における組織</p> <p>第11回 戦略と組織学習</p> <p>第12回 イノベーションと組織</p> <p>第13回 ダイバーシティ・マネジメントと組織の課題</p> <p>第14回 経営組織の動態化と組織変革</p> <p>第15回 全体のまとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	授業ごとのミニレポート(30%)、中間レポート(30%)、期末レポート(40%)			
実務経験について	なし			

授業科目	労務管理論		担当者	近間由幸
	[履修年次]	1,2年	授業外対応	適宜対応(要予約)
	[学期]	後期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
				[授業形態]
				講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】労務管理に関わる諸制度と働く人々に及ぼす影響について</p> <p>【概要】授業では、日本型雇用慣行の下での労務管理の諸制度とそれらが成立した背景について解説し、それらが時代に応じて一定の合理性を持っていたことを解説する。また、それらの諸制度がどのような労働問題を生じさせてきたのかを解説する。</p> <p>【到達目標】歴史的・国際的な視点から、企業の働き方には多様な形が存在することを理解し、受講学生が現代の企業に望ましい労働環境とは何かについて考えられることを到達目標とする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理 第6版』有斐閣アルマ</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクシヨン—講義の概要と労務管理を学ぶ意義について</p> <p>第2回 労務管理とはなにか</p> <p>第3回 雇用管理制度のしくみ</p> <p>第4回 組織構造と職務内容</p> <p>第5回 キャリア開発のしくみ</p> <p>第6回 賃金管理制度のしくみ(1) 一年功賃金とはなにか</p> <p>第7回 賃金管理制度のしくみ(2) 一職能給と職務給</p> <p>第8回 人事評価制度のしくみ</p> <p>第9回 福利厚生制度のしくみ</p> <p>第10回 労働時間管理のしくみ</p> <p>第11回 日本企業の女性管理職・役人の現状と労務管理</p> <p>第12回 ダイバーシティ・マネジメント</p> <p>第13回 労務管理と労働組合</p> <p>第14回 労務管理の国際比較</p> <p>第15回 全体のまとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	授業ごとのミニレポート(30%)、筆記試験(70%)			
実務経験について	なし			

授業科目	管理会計論		担当者	福田 正彦		
	[履修年次]	1年,2年いずれも履修可	授業外対応			
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択
	[授業形態]			[講義]	講義	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 経営者、幹部、経理の立場から、企業の利益を増大するための合理的な意思決定や管理方法を学ぶ。</p> <p>【概要】 実務経験に基づく、管理会計のノウハウを講義するとともに、学生が作成した事業計画を発表する。</p> <p>【到達目標】 管理会計の基礎の考え方、ノウハウを理解し、社会で適用できる能力を身に付ける。</p>					
(1)テキスト	(1) 教員が配布する。					
(2)参考文献	(2) 『「管理会計の基本」がすべてわかる本』 金子智朗著 (2009) 秀和システム					
授業スケジュール	第1回 オリエンテーション、原価の性格 第2回 事業計画の作成 (発表課題) 第3回 短期的意思決定 1 (広告宣伝や値引きで利益をあげる) 第4回 短期的意思決定 2 (管理会計の意思決定) 第5回 アウトソーシング、追加受注 第6回 商品別の利益管理 第7回 事業部の利益管理 第8回 中間試験 第9回 長期的意思決定 1 (キャッシュフロー、NPV) 第10回 長期的意思決定 2 (IRR、回収期間) 第11回 予算管理 第12回 予算と実績との差異分析 第13回 コストコントロール 1 (重要性とABC) 第14回 コストコントロール 2 (原価企画) 第15回 まとめ					
授業外学習(予習・復習)	管理会計は積み重ねの科目であり、毎回復習し、次の授業に参加すること。					
成績評価の方法	中間試験、期末試験、発表それぞれ 1/3の比重で評価する。さらに発言点も加える。					
実務経験について	入社から定年退職まで約37年間、日産自動車(株)にて海外営業、開発部門の経理の実務経験を持つ。					

授業科目	原価計算		担当者	劉 美玲		
	[履修年次]	1年、2年	授業外対応	適宜対応(要予約)		
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択
	[授業形態]			[講義]	講義	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 原価計算入門</p> <p>【概要】 原価計算の仕組みを理解することは、原価管理や原価改善のために不可欠である。本講義では、原価計算の基礎について、計算問題に取り組みながら学びます。</p> <p>【到達目標】 原価計算の基礎的知識と技術の習得</p>					
(1)テキスト	(1) 高橋賢『テキスト原価会計』(最新版) 中央経済社					
(2)参考文献	(2) なし					
授業スケジュール	第1回 ガイダンス、原価及び原価計算の基礎知識 第2回 原価の費目別計算 第3回 製造間接費の配賦 第4回 単純個別原価計算 第5回 原価の部門別計算と部門別個別原価計算1 第6回 原価の部門別計算と部門別個別原価計算2 第7回 中間テスト 第8回 単純総合原価計算 第9回 総合原価計算における減損費と仕損費の処理 第10回 工程別総合原価計算と組別総合原価計算 第11回 等級別総合原価計算と連産品の原価計算 第12回 標準原価計算1 第13回 標準原価計算2 第14回 直接原価計算 第15回 まとめ					
授業外学習(予習・復習)	復習が大切です。毎回、計算問題に取り組む予定です。					
成績評価の方法	中間テスト (30%) 期末テスト (70%)					
実務経験について	なし					

授業科目	国際経営論	担当者	野村俊郎
	[履修年次] 1, 2年	授業外対応	講義前後に適宜対応
	[学期] 後期 [単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「日本のものづくり」の海外移転に関わる問題はどう解決されているか考える</p> <p>【概要】海外での企業経営は、①現地の消費者の要望、現地政府が規制で要求する環境・安全要件の両者に対応する商品企画・商品設計、②現地での生産、③現地での部品調達 の3分野で取り組まれる。国際経営論ではこの3分野について説明する。</p> <p>【到達目標】日本のモノづくりの強さの秘密を、この3分野に分けて説明し、その海外移転の課題について理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布</p> <p>(2) 野村俊郎『トヨタの新興国車IMV』および『トヨタの新興国適応』文真堂</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 テーマ説明：自動車産業に代表される日本の経営の強さの秘密はどこにあるのか</p> <p>第2回 政府の規制で待たなしの気候変動対策</p> <p>第3回 電気か、水素 (FCV・水素エンジン) か、内燃機関 (ガソリン・ディーゼル) か</p> <p>第4回 新興国でも強まる衝突安全規制</p> <p>第5回 海外の人々が求める車 (アメリカ・ヨーロッパ・アジア・アフリカ・ラテンアメリカ)</p> <p>第6回 日本のモノづくりの海外移転の方法～トヨタの3本柱活動①</p> <p>第7回 日本のモノづくりの海外移転の方法～トヨタの3本柱活動②</p> <p>第8回 日本のモノづくりの海外移転の方法～トヨタの3本柱活動③</p> <p>第9回 日本のモノづくりの海外移転の方法～トヨタの3本柱活動④</p> <p>第10回 日本のモノづくりの海外移転の方法～トヨタの3本柱活動⑤</p> <p>第11回 自動車メーカーと部品メーカーの取引関係～日本と欧米の比較～曖昧契約の意義</p> <p>第12回 自動車メーカーと部品メーカーの取引関係～日本と欧米の比較～価格決定のタイミング</p> <p>第13回 自動車メーカーと部品メーカーの取引関係の海外移転①</p> <p>第14回 自動車メーカーと部品メーカーの取引関係の海外移転②</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	筆記試験 (100%)		
実務経験について	なし		

授業科目	経営学特講 I	担当者	田原 武志 東 圭太
	[履修年次] 1年、2年	授業外対応	授業終了時、もしくは適宜、メール、電話にて対応
	[学期] 前期 [単位] 2	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【講義の特徴】毎週のレポート作成、発表を通じて、レポート作成力が身につきます。結果、経営情報からの4年制大学編入試験の合格者の多くが当講義の履修者です。編入試験を目指す、他学科からの受講生を積極的に受け入れています。(手続きをすれば受講可能です。)</p> <p>【テーマ】経営を学んで、人生を豊かに幸せにしよう。</p> <p>【概要】マネージメント手法を学びます。本講義の経営は会社はもちろん、大学の文化祭実行委員会、部活動、町内会、PTA、家庭、人生なども含みます。講義を通して、情報収集、論理展開を学び、自分の意見をもつ重要性を伝えます。毎回の講義で達成感、充実感を提供し成長を実感させます。大学で受講した講義の中で一番思い出深い講義の一つになると確信しています。</p> <p>【到達目標】履修後、社会の様々な立場で、講義で学んだマネージメント手法を活用し成果を出せるようになる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 毎回、次回課題をプリントにて配布。メールにて送信。</p> <p>(2) 無し。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーリング</p> <p>第2回 毎回テーマを決めて講義、レポート、感想発表</p> <p>～第14回 (テーマ例)</p> <p>「隠れた経営資源に気づく」</p> <p>「目的、目標の設定の重要性を認識する」</p> <p>「継続的改善の仕組みを取り入れる」</p> <p>「企業の果たす社会的責任について認識する」</p> <p>「トレンドを把握する」</p> <p>「コンプライアンス(法令遵守)が求められている社会的背景と必要性の考察」</p> <p>「企業人、社会人、家庭人としてのリスクマネージメント」</p> <p>「投機と投資の考察」等々</p> <p>第15回 まとめ 試験対策</p>		
授業外学習(予習・復習)	予習 (課題が毎回発表) と復習 (講義のまとめ) のレポート作成があります。		
成績評価の方法	レポート提出 (35%)、授業での発表 (35%) 筆記試験 (30%)		
実務経験について	30年間以上の経営コンサルタント実務有り。経営する会社が平成11年鹿児島商工会議所 産業経済賞大賞受賞。		

授業科目	比較経営論 (隔年開講)		担当者	瀬口 毅士	
	[履修年次]	1, 2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)	
	[学期]	後期	[単位]	2	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 経営システムの多様性を知る</p> <p>【概要】 この講義では、様々な国の経営システムを比較します。まず、日本の経営 (日本的経営) について解説した後、アメリカや欧州諸国、アジア諸国などの経営の特徴を検討します。各国の経営システムを説明する際に、それを生じさせた歴史的背景についても触れますので、歴史の話を苦にしない学生さんの受講を望みます。</p> <p>【到達目標】 歴史、政治、経済、文化、地理などの諸条件の相違が、経営システムの相違を生み出すことを理解する。また、経営システムの多様性や経路依存性について理解する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配付 (2)				
授業スケジュール	<p>第 1回 インTRODクシヨン：授業の進め方や成績の評価方法を確認する。</p> <p>第 2回 株式会社制度とコーポレート・ガバナンス：経営システムを比較するための基本事項を説明する。</p> <p>第 3回 日本の経営 (1)：戦後からバブル経済崩壊までの日本的経営の特徴を説明する。</p> <p>第 4回 日本の経営 (2)：バブル経済崩壊以降の日本的経営の変容を解説する。</p> <p>第 5回 日本の経営 (3)：トヨタ生産システムを中心に、生産システムについて講義する。</p> <p>第 6回 日本の経営 (4)：日本的経営における組織・人的資源管理、および経営戦略の特徴を取り上げる。</p> <p>第 7回 日本の経営 (5)：中小企業、特に中小工業の変遷について講義する。</p> <p>第 8回 日本の経営 (6)：現代における日本企業の経営について考察する。</p> <p>第 9回 アメリカの経営 (1)：アメリカ企業のコーポレート・ガバナンスについて講義する。</p> <p>第 10回 アメリカの経営 (2)：アメリカ企業の組織、人的資源、経営戦略の特徴を解説する。</p> <p>第 11回 欧州の経営 (1)：イギリス企業の経営システムについて講義する。</p> <p>第 12回 欧州の経営 (2)：ドイツ企業の経営システムについて講義する。</p> <p>第 13回 欧州の経営 (3)：フランス企業の経営システムについて講義する。</p> <p>第 14回 アジアの経営：アジア諸国の経営システムを概観する。</p> <p>第 15回 経営システムの多様性：「比較」、「多様性」、「経路依存性」などをキーワードに、これまでの講義内容を振り返る。</p>				
授業外学習(予習・復習)	授業のなかで適宜指示します。				
成績評価の方法	期末筆記試験 (100%)				
実務経験について	なし				

授業科目	会計情報論		担当者	岡村雄輝	
	[履修年次]	2年	授業外対応	講義前後に適宜対応	
	[学期]	後期	[単位]	2単位	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 財務諸表を利用して企業分析ができるようになる</p> <p>【概要】 本講義は、担当者が企業の会計情報を分析し、いくつかの実在する企業のあり様を考察します。それを受けて受講者のみなさんは、企業の会計情報を各自で入手し、読解に取り組むことになります。</p> <p>【到達目標】 財務諸表分析を通して企業研究ができるようになる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 太田康広『ビジネススクールで教える経営分析』, 日経文庫。				
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス：履修登録の確認、講義計画の説明等</p> <p>第 2回 会計情報分析の対象：経営企画・戦略・会計</p> <p>第 3回 事例研究①：アパレル企業数社の収益性</p> <p>第 4回 会計情報の読み方 (1)：収益性の分析</p> <p>第 5回 会計情報の読み方 (2)：成長性の分析</p> <p>第 6回 会計情報の読み方 (3)：安全性の分析①</p> <p>第 7回 会計情報の読み方 (4)：安全性の分析②</p> <p>第 8回 事例研究②：アパレル企業数社の安全性</p> <p>第 9回 ビジネスプランを練る：損益分岐点分析と DCF 法</p> <p>第 10回 有価証券報告書を読む (1)：有報の読むポイントを知る</p> <p>第 11回 有価証券報告書を読む (2)：非会計情報から事業の概況を把握する</p> <p>第 12回 会計情報分析の実践 (1)：比例縮尺財務諸表の作成と収益性分析</p> <p>第 13回 会計情報分析の実践 (2)：成長性分析</p> <p>第 14回 会計情報分析の実践 (3)：安全性分析</p> <p>第 15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	有価証券報告書等の企業情報を積極的に収集し、精読してください。				
成績評価の方法	期末レポート 100%				
実務経験について	なし				

授業科目	企業行動科学		担当者	竹中啓之
	[履修年次]	1, 2年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応 (要予約)、及び講義終了後
	[学期]	後期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 企業経営における意思決定やリーダーシップについて考える。</p> <p>【概要】 行動科学とは、個人や集団の形で人間が行う行動に関して、その動機・過程・効果を実際におこった事実をもとにして記述し、説明し、分析していく記述論的アプローチを行うものである。そのためには経営学だけではなく、心理学・社会学・経済学などの諸学問の境界を超えた学際的な考え方が必要となる。</p> <p>この講義ではこのようなアプローチ方法を前提として、人や企業の意思決定がどのように行われているのかについて考え、実際の意思決定の特徴やその問題点について取り上げる。また、組織（集団）としてより良い意思決定を行うための方法についても考えていく。さらに、これらに関連して、リーダーシップ論や動機づけ理論についても触れる予定である。</p> <p>【到達目標】 個人や組織の意思決定プロセスを理解する。リーダーシップや動機づけに関する主要な理論を理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業中に配布するプリント</p> <p>(2) 講義中に指示する</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 講義概要の説明：講義の概略を説明する</p> <p>第 2回 意思決定プロセスとはどのようなものか：意思決定プロセスについて説明する</p> <p>第 3回 人の認知能力と意思決定：簡単な実験を通して人の認知能力について考える</p> <p>第 4回 組織の意思決定：組織の意思決定について説明する</p> <p>第 5回 集団での意思決定は本当に優れているのか：集団での意思決定の問題点を考える</p> <p>第 6回 組織の意思決定の質を高める方法について</p> <p>第 7回 組織の運営と個人の役割：組織の運営における個人の役割を考える</p> <p>第 8回 映画「12人の怒れる男たち」について：集団的意思決定について映画を通して考える</p> <p>第 9回 意思決定に関連するその他の問題点について</p> <p>第 10回 インセンティブシステム（動機づけ理論）：動機づけ理論とその問題点について説明する</p> <p>第 11回 リーダーシップとは何か：リーダーシップの考え方の変化とその問題点について説明する</p> <p>第 12回 上司と部下の関係を考える：問題のある上司に当たったときの対処法を考える</p> <p>第 13回 物事を理解するレベル：物事を理解するレベルには段階があり、理論から実践へつなげることの大事さを知る</p> <p>第 14回 大学での学びについて考える：「卒業式は自由な人生の終わり」ではないという意味を解説する</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	期末筆記試験 (70%)、中間レポートもしくは小テスト (30%) (予定) 詳細は1回目の講義で説明します。			
実務経験について	なし			

授業科目	経営戦略論		担当者	瀬口 毅士
	[履修年次]	1, 2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 経営戦略論に関する基本的知識を習得する</p> <p>【概要】 経営戦略とは、外部環境の変化に対応しながら、長期的な存続・発展を図るための、企業の意思決定を意味します。経営戦略論のなかでも、企業全体の戦略である「企業戦略」、および事業ごとの戦略である「競争戦略」を中心に講義します。さらに、最近の企業動向を紹介しながら、現代社会における経営戦略のあり方についても解説します。</p> <p>【到達目標】 経営戦略論の基本概念を知るとともに、各概念がどのような関係にあるのかについても考えることができる。また、講義を通じて獲得した知見を基に、企業に関するニュースや新聞などの情報をより理解できるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配付</p> <p>(2)</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 イントロダクション：授業の進め方や成績の評価方法を確認する。</p> <p>第 2回 経営戦略とは何か：経営戦略論の概要を説明する。</p> <p>第 3回 経営理念とドメイン：経営理念およびドメイン（事業領域）について解説する。</p> <p>第 4回 規模の経済と範囲の経済：具体的事例を挙げながら、規模の経済と範囲の経済を説明する。</p> <p>第 5回 垂直統合と垂直分業、水平統合と水平分業：統合と分業について、垂直と水平に区分しながら解説する。</p> <p>第 6回 多角化戦略：関連型多角化と非関連型多角化の違いを中心に、企業の多角化戦略について考える。</p> <p>第 7回 M&A と戦略的提携 (1)：実例を紹介しながら、M&A について解説する。</p> <p>第 8回 M&A と戦略的提携 (2)：実例を紹介しながら、戦略的提携について解説する。</p> <p>第 9回 経験曲線と PLC：PPM の基礎となる、経験曲線と PLC について解説する。</p> <p>第 10回 PPM：全社的視点から、経営資源の配分について考える。</p> <p>第 11回 競争戦略論とは何か：競争戦略論の概要や競争戦略論における2つのアプローチを紹介する。</p> <p>第 12回 ポジショニング・アプローチ：M. ポーターの学説を中心に、ポジショニング・アプローチについて講義する。</p> <p>第 13回 資源ベース・アプローチ：前回の内容と対比しながら、資源ベース・アプローチを説明する。</p> <p>第 14回 企業の社会的責任と経営戦略：CSR 戦略を中心に、企業の社会的責任について考える。</p> <p>第 15回 経営戦略と現代社会：これまでの内容を振り返りながら、現代社会における経営戦略のあり方を考察する。</p>			
授業外学習(予習・復習)	授業のなかで適宜指示します。			
成績評価の方法	期末筆記試験 (100%)			
実務経験について	なし			

授業科目	財務会計論		担当者	岡村雄輝		
	[履修年次]	指定なし	授業外対応	講義前後に適宜対応		
	[学期]	後期	[単位]	2	[授業形態]	講義方式
			[必修/選択]	選択		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】財務会計の全体像を理解する</p> <p>【概要】近年、グローバル化の影響によって会計基準の新設・改定が続き、会計への関心が高まっています。現代の経済社会では、会計の基礎概念や理論への理解が重要になっているといえます。本科目では、会計の機能を説明し、会計基準の考察を通して、現代会計の深淵に迫ってみたいと思います。※会計学総論、簿記論の学修を前提として講義を展開します。</p> <p>【到達目標】現代の経済社会で果たしている会計の役割、会計基準に通底する基礎概念や理論を理解する。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 桜井久勝『財務会計講義』（第24版）、中央経済社。</p> <p>(2) 『新版 会計法規集』（第12版）、中央経済社。</p>					
授業スケジュール	<p>第1回 財務会計の機能と制度：財務会計の機能と法規制</p> <p>第2回 利益計算の仕組み：企業活動と財務諸表、複式簿記の構造</p> <p>第3回 利益計算の仕組み：複式簿記の構造、利益計算と財務諸表</p> <p>第4回 会計理論と会計基準：会計基準設定のアプローチと会計情報の質的特性</p> <p>第5回 利益測定と資産評価の基礎概念：発生主義会計</p> <p>第6回 利益測定と資産評価の基礎概念：資産評価の基準</p> <p>第7回 資金運用活動の資産と収益：現金預金と有価証券、キャッシュ・フロー計算書</p> <p>第8回 売上高と売上債権：収益認識、売上債権</p> <p>第9回 棚卸資産と売上原価：棚卸資産の取得原価、原価配分、払い出し単価の決定、期末評価</p> <p>第10回 有形固定資産：減価償却、減損、リース</p> <p>第11回 無形固定資産と繰延資産：知的財産、研究開発費</p> <p>第12回 負債：負債の範囲と区分、引当金</p> <p>第13回 純資産：払込資本、稼得資本、区分表示</p> <p>第14回 財務諸表の作成と公開：財務諸表の体系、注記と附属明細表</p> <p>第15回 まとめ</p>					
授業外学習(予習・復習)	講義前後にテキストを精読してください。					
成績評価の方法	期末レポート100%					
実務経験について	なし					

授業科目	マーケティング論		担当者	瀬口 毅士		
	[履修年次]	1, 2年	授業外対応	適宜対応 (要予約)		
	[学期]	前期	[単位]	2	[授業形態]	講義
			[必修/選択]	選択		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】マーケティング論を体系的に学ぶ</p> <p>【概要】マーケティングとは、企業がモノやサービスを売るための仕組みづくりです。現代の企業にとってマーケティングはますます重要になっています。本講義では、マーケティング論の基本事項を説明した後、現代社会におけるマーケティングのあり方を解説します。可能であれば、グループ・ワークを適宜取り入れることで、内容の理解を深めていきます。</p> <p>【到達目標】マーケティング論に関する基本的知識を習得し、消費者としてあるいはメーカーとしての視点を養うことを目標とする。すなわち、今日の企業がどのようにマーケティング戦略を遂行しているのかを理解することで、「賢い」消費者になると同時に、顧客ニーズや顧客満足度を満たすためにいかに工夫が必要であるかを考えられることである。</p>					
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配付</p> <p>(2)</p>					
授業スケジュール	<p>第1回 イントロダクション：授業の進め方や成績の評価方法を確認する。</p> <p>第2回 マーケティング論の基本概念：マーケティング論の概要や基本概念を説明する。</p> <p>第3回 グループ・ワーク（1）：身近な商品について考えてみよう。</p> <p>第4回 標的市場の選択：STPについて解説する。</p> <p>第5回 消費者行動分析：消費者行動論の基本を知ること、諸飛車の購買行動について理解を深める。</p> <p>第6回 競争分析：「ポジショニング」の諸理論を中心に、企業間競争の構造分析の方法を知る。</p> <p>第7回 グループ・ワーク（2）：STPを使ってみよう。</p> <p>第8回 製品戦略：製品・サービスの分類や製品ミックスなどを説明する。</p> <p>第9回 価格戦略：価格設定の重要性とその方法について講義する。</p> <p>第10回 流通戦略（1）：流通の仕組みとチャネル選択について説明する。</p> <p>第11回 流通戦略（2）：チャネル管理とサプライチェーン・マネジメントについて解説する。</p> <p>第12回 プロモーション戦略：プロモーション・ミックスとメディア・ミックスを中心に講義する。</p> <p>第13回 ブランド戦略：これまでの内容を基に、ブランド構築やブランド管理について考える。</p> <p>第14回 企業の社会的責任とマーケティング：企業の社会性とマーケティングの関係性について解説する。</p> <p>第15回 グループ・ワーク③：ソーシャル・プロダクツを探してみよう。</p>					
授業外学習(予習・復習)	授業のなかで適宜指示します。					
成績評価の方法	期末筆記試験（80%）＋リアクション・ペーパーやグループ・ワークなど（20%）					
実務経験について	なし					

授業科目	経営工学	担当者	倉重賢治
	[履修年次] 1,2年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	適宜対応
		[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	【テーマ】 企業などにおける運営業務の科学化		
	【概要】 現在の企業活動においては、情報技術を有効に活用した情報収集、さらにそれらの情報を用いた意思決定が頻繁に行われている。今後は社内に限らず、取引先も含めた情報も共有化されることで、より広範囲での最適化を目指した意思決定の必要性が増してきている。この講義では、企業活動において頻繁に行われる意思決定、例えば、生産スケジュールの立案や在庫管理など、その問題の概要や解法アルゴリズムに関して論じる。		
	【到達目標】 企業活動における、ヒト・モノ・カネ・情報の効率的な運用の大切さを理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 圓川隆夫・伊藤謙治、『生産マネジメントの手法』、朝倉書店		
授業スケジュール	第 1 回 序論：経営工学とは 第 2 回 生産スケジューリング 1：どんな順番で製品を作れば良いのか 第 3 回 生産スケジューリング 2：どんな順番で作業を行えば良いのか 第 4 回 工程編成：均等に作業を割り当てるには 第 5 回 プロジェクト管理：プロジェクトをなるべく早く終わらせるには 第 6 回 設備配置：設備のキャパシティはどれくらいにすれば良いのか 第 7 回 生産計画：何をどれくらい作れば一番儲かるのか 第 8 回 作業分析：作業者の動作を分析する 第 9 回 投資計画 1：お金の現在価値と将来価値 第 10 回 投資計画 2：プロジェクトの価値 第 11 回 在庫問題：在庫コストを少なくする 第 12 回 評価と選択：複数の代替案の中から一番良いものを選ぶ 第 13 回 最短経路：一番近い道を探す 第 14 回 配送計画：配達順序を決める 第 15 回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業中の課題 (20%) + 期末試験 (80%)		
実務経験について	なし		

授業科目	応用データ活用	担当者	倉重賢治
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	適宜対応
		[必修/選択] 選択	[授業形態] 実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 リレーショナルデータベースの基本操作と Excel を用いた統計処理		
	【概要】 この演習の前半では、代表的なデータベースソフトであるマイクロソフト社の Access の基本操作を学び、データベース設計に関する問題に取り組んでいく。後半では、Excel を用いた統計処理を学ぶ。		
	【到達目標】 ・データベースソフト Access の使い方を修得する。 ・Excel を用いた統計処理を理解する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 未定 (2) 特になし		
授業スケジュール	第 1 回 序論：リレーショナルデータベースの概念 第 2 回 Access の操作：Access とは 第 3 回 Access の操作：データベースのデータ編集 第 4 回 Access の操作：テーブル操作 第 5 回 Access の操作：クエリの作成 第 6 回 Access の操作：アクションクエリの作成 第 7 回 Access の操作：データベースの設計 第 8 回 Access の操作：リレーションシップの作成 第 9 回 Access の操作：レポートの作成とマクロの利用 第 10 回 Excel による統計処理：正規分布のデータ処理 第 11 回 Excel による統計処理：相関係数と回帰直線 第 12 回 Excel による統計処理：平均値の推定 第 13 回 Excel による統計処理：平均値の検定 第 14 回 Excel による統計処理：比率の推定と検定 第 15 回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業中の課題 (60%) + 期末試験 (40%)		
実務経験について	なし		

授業科目	プログラミング	担当者	倉重賢治
	[履修年次] 2年	授業外対応	適宜対応
	[学期] 後期 [単位] 1	[必修/選択] 選択	[授業形態] 実習方式
テーマ及び概要	【テーマ】 VBA (Visual Basic for Application) を用いたプログラミング		
	【概要】 プログラミングとは、コンピュータで実行したい作業を人間ではなく計算機が理解できるように記述することである。この演習では、プログラミングの基本概念を Excel に含まれている VBA により学習する。プログラムの作成を通じて、論理的な思考を身につけることはもちろんのこと、VBA の利用により、さらに高度な Excel の活用方法が可能となる。		
	【到達目標】 ・基本的なプログラミング技術を身につける。 ・VBA を利用した Excel のより高度な活用方法を修得する。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 未定 (2) 特になし		
授業スケジュール	第 1回 序論：プログラミングの概念 第 2回 VBA の利用：演算子と関数 第 3回 VBA の利用：変数 第 4回 VBA の利用：条件分岐 第 5回 VBA の利用：ループ処理 (1) 第 6回 VBA の利用：ループ処理 (2) 第 7回 VBA の利用：オブジェクト関連の文法 第 8回 VBA の利用：マクロの記録 第 9回 VBA の利用：Range オブジェクト 第 10回 VBA の利用：Worksheet オブジェクト 第 11回 VBA の利用：複数シートをまとめる 第 12回 VBA の利用：Workbook オブジェクト 第 13回 VBA の利用：イベントプロシージャ 第 14回 VBA の利用：ユーザフォーム 第 15回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業中の課題 (50%) + 期末試験 (50%)		
実務経験について	なし		

授業科目	簿記論Ⅲ	担当者	今村明代
	[履修年次] 1, 2年	授業外対応	講義終了時
	[学期] 後期 [単位] 2	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	【テーマ】 経営内容の把握に役立つ商業簿記を学ぶ		
	【概要】 日商簿記 2 級レベルの商業簿記のテキストとワークブックを使用して、種々の取引の会計処理方法や記帳方法、各種計算書類の作成方法を解説し、問題演習に取り組みます。単なるパターン学習ではなく、背後に存在する考え方を理解すること意識して取り組みましょう。		
	【到達目標】 商業経営における種々の取引の会計処理方法や記帳方法を理解し、財務諸表 (損益計算書、貸借対照表、株主資本等変動計算書、精算表) を作成することができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 渡部裕亘・片山覚・北村敬子編著『検定簿記講義 2 級商業簿記 2023 年度版』中央経済社 及び 渡部裕亘・片山覚・北村敬子編著『検定簿記ワークブック 2 級商業簿記』中央経済社 (2)		
授業スケジュール	第 1回 簿記一巡の手続と財務諸表 第 2回 現金預金と債権の譲渡、手形 第 3回 有価証券、その他の債権・債務 第 4回 商品売買 第 5回 固定資産 第 6回 引当金、収益と費用 第 7回 株式会社の純資産 (資本) 第 8回 税金、税効果会計 第 9回 決算：決算整理、帳簿決算手続 第 10回 決算：製造業における決算 第 11回 決算：財務諸表の作成 第 12回 決算：精算表 第 13回 リース会計、外貨建取引 第 14回 本支店会計、連結会計 第 15回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	予習と復習を毎回確実にすること。「予習→授業→復習」のくりかえしにより簿記の学習効果は着実に上がります。		
成績評価の方法	筆記試験 70%+小テスト 30%。詳細は 1 回目の授業で説明します。		
実務経験について	外資系銀行東京支店の人事・会計部門での実務経験を有する (6 年間)。		

授業科目	情報論特講	担当者	岡村俊彦, 倉重賢治	
	[履修年次] 2年	授業外対応	講義前後に適宜対応	
	[学期] 前期 [単位] 2	[必修/選択]	選択	[授業形態] 講義 (一部実習)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ICT (情報通信技術) について実用的, 応用的な学習をおこなう。</p> <p>【概要】 ハードウェア, ソフトウェア, ネットワークといった ICT を学び, 日商 PC 検定 2 級知識科目と同等以上の知識を得る。 表計算ソフト (エクセル) の実用的な使用方法について学習を行う。</p> <p>【到達目標】 実社会において, 自ら ICT 業務に携わり, 効果的, 効率的な活用ができるようにする。</p>			
(1)テキスト	(1)	FOM 出版「よくわかるマスター 改訂版 日商 PC 検定試験 2 級 知識科目 公式問題集」, プリント		
(2)参考文献	(2)	特になし		
授業スケジュール	第 1 回	概要説明: 授業概要と評価方法の説明		
	第 2 回	ハードとソフト: PC 等の ICT 機器のハードウェア, ソフトウェアの解説		
	第 3 回	コンピュータの内部部品 1: CPU とメモリの解説		
	第 4 回	コンピュータの内部部品 2: ストレージと光学ドライブの解説		
	第 5 回	インターネットとネットワーク: TCP/IP の設定, ルータの役割の解説		
	第 6 回	表計算ソフトの活用 1: Web クエリのグラフ作成		
	第 7 回	表計算ソフトの活用 2: フィルターとピボットテーブル		
	第 8 回	コンピュータが扱う数字 1: 2 進数と 16 進数		
	第 9 回	コンピュータが扱う数字 2: 負の数と実数		
	第 10 回	情報セキュリティ: 共通鍵暗号と公開鍵暗号		
	第 11 回	シミュレーション 1: シミュレーションとは		
	第 12 回	シミュレーション 2: エクセルを用いたシミュレーション		
	第 13 回	意思決定: エクセルのソルバー		
	第 14 回	データ分析: エクセルのデータ分析		
	第 15 回	まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	レポート (30%) + 授業中の課題 (40%) + 期末試験 (30%)			
実務経験について	なし			

13 第二部商經学科教養科目
(教養一般)

授業科目	人間と文化	担当者	坂上ちえ子, 中熊美和, 小亀拓也, 近間由幸, 宗田健一, 田口康明, 小林朋子, 木戸裕子
	[履修年次] 1~3年いずれでも履修可	[学期] 前期 (集中講義)	
	[単位] 2 単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義 方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】文化という人間の営みを, 人文・社会諸科学の多岐にわたる分野から考察する。</p> <p>【概要】県立短大3学科の教員7名が, それぞれの分野から, さまざまな地域・時代における「文化」を, 異なる角度から考察します。1週間という集中した期間に, 多角的な知見を学ぶことで, 受講生にとって, 時代と社会の趨勢を理解する幅広い教養を身につけることを期待します。 (9/13,9/14,9/15,9/19,9/20,9/21,9/22の集中講義。県内大学等のコーディネート科目であり, 他大学等の学生も受講する)</p> <p>【到達目標】人間と文化について学際的に学ぶことにより, さまざまな事象を多面的に考察する姿勢を身につける。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 未定 (必要に応じて後日指示します。) (2) 授業中, 必要に応じて指示します。		
授業スケジュール	第1回 薩摩切子 (1) : はじまりと歴史 (坂上) 第2回 薩摩切子 (2) : 色彩とデザイン (坂上) 第3回 食生活と文化 (1) : 日本の食文化 (中熊) 第4回 食生活と文化 (2) : 鹿児島県の食文化 (中熊) 第5回 言語と文化 (1) : 日本語の特徴を概観する (小亀) 第6回 言語と文化 (2) : 平安時代の日本語を読み解く (小亀) 第7回 経営組織と文化 : 組織文化をマネジメントする (近間) 第8回 労務管理と文化 : 日本の企業文化と働き方の関係性 (近間) 第9回 会計と文化 (1) : 簿記・会計の歴史 (宗田) 第10回 会計と文化 (2) : 会計数値から企業の特徴を読み解く (宗田) 第11回 教育と文化 (1) : これまでの教育 (田口) 第12回 教育と文化 (2) : これからの教育 (田口) 第13回 アメリカ文学と文化 (1) : 詩から19世紀アメリカ文化を知る (小林) 第14回 アメリカ文学と文化 (2) : 小説から20世紀アメリカ文化を知る (小林) 第15回 まとめ (順番, 内容を変更することがあります)		
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示します。		
成績評価の方法	レポートの提出 (85%) と毎回の授業の感想・意見等 (15%) で評価します。		

授業科目	日本の歴史	担当者	永山 修一
	[履修年次] 1, 2, 3年	授業外対応	講義
	[学期] 後期	[単位] 2	[必修/選択] 選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】原始~中世前期の「日本の歴史」</p> <p>【概要】日本全体の歴史の流れを視野に入れ, 十分に意識しながら, 南九州から南島に生活した人々の姿, なるべく最新の情報を使用しながら概観していく。</p> <p>【到達目標】身近な歴史に関心を持つことができ, 歴史的思考力の一端を理解する。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 授業時に配布 (プリント) (2) 『鹿児島県の歴史』 (山川出版社, 1999年) 原口泉・永山修一・日隈正守・松尾千歳・皆村武一		
授業スケジュール	第1回 歴史の見方 第2回 資料と史料 (文献) 第3回 資料と史料 (遺物) 第4回 資料と史料 (遺構) 第5回 旧石器時代・縄文時代 第6回 弥生時代 第7回 古墳時代 第8回 神話と伝承 第9回 隼人と律令制度 第10回 薩摩国正税帳を読む 第11回 平安時代の薩摩・大隅 第12回 奄美諸島の歴史 第13回 キカイガシマをめぐる 第14回 イオウガシマをめぐる 第15回 まとめ		
授業外学習 (予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業時毎の小レポート (60%) レポート (40%)		

授業科目	日本文学・古典（隔年開講）	担当者	木戸裕子
	[履修年次] 1,2,3年次いずれでも可 [学期] 前期 [単位] 2 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義	授業外対応	オフィスアワーに準じる
テーマ及び概要	<p>【テーマ】平安人の異文化との遭遇—遣唐使と平安文学—</p> <p>【概要】現代の社会においても異文化理解は大きな課題です。今から1000年以上前の平安時代の人々にとっての異文化といえば、隣国中国（唐）でした。この講義では、奈良時代から平安時代にかけて、外交使節団として唐に渡った遣唐使の異文化交流の様相と、それが平安時代の文学にどのように影響を与えたかを考えていきます。</p> <p>【到達目標】古典文学に親しむ。遣唐使について理解を深め、古代における異文化交流、異文化理解がどのようなものであったか考える。平安時代文学に反映した異文化理解について考え、自分のことばで意見をまとめることができる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 王勇『唐から見た遣唐使 混血児たちの大唐帝国』（講談社選書メチエ 一九九八） 東野治之『遣唐使船 東アジアの中で』（朝日選書 一九九九） 『阿倍仲麻呂』（吉川弘文館 人物叢書 二〇一九）</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：初めに。異文化理解とは。</p> <p>第2回 遣唐使とは：続日本紀の記録</p> <p>第3回 遣唐使の実例：阿倍仲麻呂と吉備真備</p> <p>第4回 遣唐使の実例：航海の苦勞と遭難</p> <p>第5回 平安朝物語の中の遣唐使の記憶1：竹取物語</p> <p>第6回 平安朝物語の中の遣唐使の記憶2：うつほ物語</p> <p>第7回 平安朝物語の中の遣唐使の記憶3：宇治拾遺物語</p> <p>第8回 実在の遣唐使の虚と実1：吉備大臣入唐のこと</p> <p>第9回 実在の遣唐使の虚と実2：鬼となった阿倍仲麻呂</p> <p>第10回 実在の遣唐使の虚と実3：阿倍仲麻呂と唐代詩人</p> <p>第11回 実在の遣唐使の虚と実4：吉備真備の活躍</p> <p>第12回 実在の遣唐使の虚と実5：井真成の墓誌</p> <p>第13回 渤海国との交流：源氏物語</p> <p>第14回 渤海国との交流：菅原道真、大江朝綱</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	授業で取り扱った作品を読む。遣唐使の事跡について調べる		
成績評価の方法	毎回の授業のコメントカード (50%) レポート (50%)		

授業科目	こころの科学	担当者	未定
	[履修年次] 1, 2, 3年 [学期] 後期 [単位] 2 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義	授業外対応	適宜対応
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>【概要】</p> <p>【到達目標】。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1)</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回</p> <p>第2回</p> <p>第3回</p> <p>第4回</p> <p>第5回</p> <p>第6回</p> <p>第7回</p> <p>第8回</p> <p>第9回</p> <p>第10回</p> <p>第11回</p> <p>第12回</p> <p>第13回</p> <p>第14回</p> <p>第15回</p>		
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法			
実務経験について			

授業科目	比較文化		担当者	陳 躍
	[履修年次]	1, 2, 3年	授業外対応	メール対応 (chenyue0205@yahoo.co.jp)
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】異文化理解とは何か：中国人と日本人はここまで違う！（中国人留学生もその他の国の留学生も大歓迎！）</p> <p>【概要】第一回から第七回までは、学生が輪になって座談会形式で、ときには寸劇やディスカッション形式でも授業を行う。会話パターンの日中相違、接し方の日中相違、しぐさの日中相違、名づけの日中相違、そして、恋のしかた、ファッション、娯楽、漫画、金銭感覚、就職、食、歌、幸福感など、日常生活の中から、身近なことで、日中を比較して、その相違を見つける。第九回から第十五回までは、前半の授業経験を踏まえて、ペアを組んで、興味のあるテーマをひとつ選び、それについて、自分達で調べる。さらに、教師と二人三脚で議論をしながら認識を深め、相違の背後にある文化価値観を浮き彫りにし、最終レポートにまとめる。</p> <p>【到達目標】1 中国社会を知る。2 中国人を知る。3 日本人と中国人との相違を知る。4 「日本人」に関して再度認識する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント配布</p> <p>(2) 陳 躍著『恋文の翻訳（日中おうらい）』（南日本新聞社、2006年）</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 空気を読まない中国人と空気を讀む日本人</p> <p>第 2 回 初対面の人にも給料を聞く中国人と夫婦しか給料を聞かない日本人</p> <p>第 3 回 店員が紳様である中国と客が紳様である日本</p> <p>第 4 回 イルカを食べる中国人とクジラを食べる日本人</p> <p>第 5 回 家族にはあまり「ありがとう」を言わない中国人と家族にもよく「ありがとう」を言う日本人</p> <p>第 6 回 向かい合って立ち話をしているとき、距離が近い中国人と距離が遠い日本人</p> <p>第 7 回 なげなげしい中国人とよそよそしい日本人</p> <p>第 8 回 中国映画鑑賞「海の天国」か「言えない秘密」</p> <p>第 9 回 「かまわない」をよく言う中国人と「すまない」をよく言う日本人</p> <p>第 10 回 無責任なことをかかると言う中国人と責任をとりたくないからはっきり言わない日本人</p> <p>第 11 回 その通りのことを言えば罪にならない中国人とその通りのことをいうからこそ罪になる日本人</p> <p>第 12 回 喧嘩しても引きずらない中国人と喧嘩したら必ず引きずる日本人</p> <p>第 13 回 核心にふれる話を好む中国人とあたりさわりのない話を好む日本人</p> <p>第 14 回 傍若無人な中国人と人の目ばかり気にする日本人</p> <p>第 15 回 相手との相違点を見つけて話していく中国人と相手との共通点を見つけて話していく日本人</p>			
授業外学習(予習・復習)	<p>プリントを参考にしながら、日頃から持っている関心や疑問、日中間のトラブルでもよい、中国人観光客への印象でもよい、その中から、気になることを一つ選び、自分の課題にし、その課題について、日中比較をし、その相違を見つけて、背後にある文化の相違を浮き彫りにするように意識し、考える。</p>			
成績評価の方法	<p>授業への参加態度 (60%)、レポート (40%)。</p>			

授業科目	アジア文化論		担当者	カムチャイ ライサミ
	[履修年次]	1年, 2年, 3年	授業外対応	講義終了時
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】アジア文化のダイナミズム</p> <p>アジア文化は多様性に富んでいる。その要因とは何か。アジア文化の本源的要素と現代的状況を明らかにする。</p> <p>【概要】アジア文化は世界文化の一大拠点を成している。アジアの自然・風土・民族・宗教がどのようにアジア文化を育み、どのように経済社会や生活に影響を与えるか、実例を交えながら比較検討する。</p> <p>【到達目標】アジアの自然・民族・宗教を展望し、アジア文化の深層が理解できること。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) テキストなし。毎回プリントを配布する。</p> <p>(2) 必要に応じて、その都度指示する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 アジア文化の多様性</p> <p>第 2 回 文化と風土・民族</p> <p>第 3 回 文化と生活</p> <p>第 4 回 文化と経済</p> <p>第 5 回 文化と宗教Ⅰ：儒教と道教</p> <p>第 6 回 文化と宗教Ⅱ：仏教</p> <p>第 7 回 文化と宗教Ⅲ：インドの宗教</p> <p>第 8 回 文化と宗教Ⅳ：イスラム教</p> <p>第 9 回 アジア比較文化Ⅰ：日本と韓国</p> <p>第 10 回 アジア比較文化Ⅱ：中国と台湾</p> <p>第 11 回 アジア比較文化Ⅲ：香港とシンガポール</p> <p>第 12 回 アジア比較文化Ⅳ：マレーシアとインドネシア</p> <p>第 13 回 アジア比較文化Ⅴ：タイとフィリピン</p> <p>第 14 回 アジア比較文化Ⅵ：ベトナムとミャンマー</p> <p>第 15 回 アジア比較文化Ⅶ：インドとパキスタン</p>			
授業外学習(予習・復習)	<p>授業前後に必ず合計で4時間程度の予習・復習を行うこと。</p>			
成績評価の方法	<p>期末筆記試験 (100%)</p>			

授業科目	日本国憲法		担当者	山本 敬生																																													
	[履修年次]	1,2,3年履修可	授業外対応	適宜対応 (要予約)																																													
	[学期]	後期	[単位]	2単位																																													
			[必修/選択]	選択																																													
				[授業形態]																																													
				講義																																													
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本国憲法の基本原理である国民主権、基本的人権の尊重、平和主義を体系的に理解した上で、日本国憲法の理念とその普遍的妥当性について検証することをテーマにする。</p> <p>【概要】日本国憲法はわが国の最高法規であるとともに、基本的人権および国家の統治機構を定めた基本法である。近年、その価値が問い直されている一方、新世紀における新しい世界秩序の中で新たな意義をもちはじめている。本講義では、国の政治のあり方を究極的に決定する権威が国民にあることをいう国民主権、平和に崇高な価値をおき、その擁護に最大限の努力を払う原則である平和主義、個人の尊厳の原理に基づき、個人が有する人権は最大限尊重されるべきとする基本的人権の尊重の三つの基本原理を中心として、人類の叡智の結晶である日本国憲法の本質を学習する。</p> <p>【到達目標】日本国憲法の基本原理を深く理解し、政治的・社会的諸問題について憲法的視点から考察できる力を習得することを目標にする。</p>																																																
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 佐伯仁志他編、『ポケット六法(令和4年度版)』,有斐閣</p>																																																
授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>憲法概論</td> <td>・国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、権力分立主義の理念について</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>基本権総論</td> <td>・私人間の人権保障、基本権の享有主体性、二重の基準の理論について</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>幸福追求権</td> <td>・幸福追求権、人間の尊厳、プライバシーの権利、法の下での平等について</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>精神的自由権(1)</td> <td>・思想・良心の自由、信教の自由、政教分離の原則について</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>精神的自由権(2)</td> <td>・表現の自由、検閲の禁止、知る権利、通信の秘密、報道の自由について</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>精神的自由権(3)</td> <td>・集会・結社の自由、検閲の禁止、LRAの基準、学問の自由、大学の自治について</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>経済的自由権</td> <td>・職業選択の自由、居住・移転の自由、国籍離脱の自由、財産権について</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>受益権</td> <td>・裁判を受ける権利、請願権、国家賠償請求権、刑事補償請求権について</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>社会権(1)</td> <td>・生存権、環境権、教育を受ける権利、教育の自由について</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>社会権(2)</td> <td>・勤労権、労働基本権、争議権、参政権、選挙権について</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>国会(1)</td> <td>・国権の最高機関の意味、唯一の立法機関の意味、衆議院の優越について</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>国会(2)</td> <td>・国会議員の地位、議員の特権、国会の活動、国会と議院の権能について</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>内閣</td> <td>・内閣の地位、内閣総理大臣の権限、国務大臣の権限、内閣の責任について</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>裁判所</td> <td>・最高裁判所の権限、統治行為論、違憲審査制について</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>財政</td> <td>・財政民主主義、租税法主義、国費支出議決主義、公金支出の禁止について</td> </tr> </table>				第1回	憲法概論	・国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、権力分立主義の理念について	第2回	基本権総論	・私人間の人権保障、基本権の享有主体性、二重の基準の理論について	第3回	幸福追求権	・幸福追求権、人間の尊厳、プライバシーの権利、法の下での平等について	第4回	精神的自由権(1)	・思想・良心の自由、信教の自由、政教分離の原則について	第5回	精神的自由権(2)	・表現の自由、検閲の禁止、知る権利、通信の秘密、報道の自由について	第6回	精神的自由権(3)	・集会・結社の自由、検閲の禁止、LRAの基準、学問の自由、大学の自治について	第7回	経済的自由権	・職業選択の自由、居住・移転の自由、国籍離脱の自由、財産権について	第8回	受益権	・裁判を受ける権利、請願権、国家賠償請求権、刑事補償請求権について	第9回	社会権(1)	・生存権、環境権、教育を受ける権利、教育の自由について	第10回	社会権(2)	・勤労権、労働基本権、争議権、参政権、選挙権について	第11回	国会(1)	・国権の最高機関の意味、唯一の立法機関の意味、衆議院の優越について	第12回	国会(2)	・国会議員の地位、議員の特権、国会の活動、国会と議院の権能について	第13回	内閣	・内閣の地位、内閣総理大臣の権限、国務大臣の権限、内閣の責任について	第14回	裁判所	・最高裁判所の権限、統治行為論、違憲審査制について	第15回	財政	・財政民主主義、租税法主義、国費支出議決主義、公金支出の禁止について
第1回	憲法概論	・国民主権、基本的人権の尊重、平和主義、権力分立主義の理念について																																															
第2回	基本権総論	・私人間の人権保障、基本権の享有主体性、二重の基準の理論について																																															
第3回	幸福追求権	・幸福追求権、人間の尊厳、プライバシーの権利、法の下での平等について																																															
第4回	精神的自由権(1)	・思想・良心の自由、信教の自由、政教分離の原則について																																															
第5回	精神的自由権(2)	・表現の自由、検閲の禁止、知る権利、通信の秘密、報道の自由について																																															
第6回	精神的自由権(3)	・集会・結社の自由、検閲の禁止、LRAの基準、学問の自由、大学の自治について																																															
第7回	経済的自由権	・職業選択の自由、居住・移転の自由、国籍離脱の自由、財産権について																																															
第8回	受益権	・裁判を受ける権利、請願権、国家賠償請求権、刑事補償請求権について																																															
第9回	社会権(1)	・生存権、環境権、教育を受ける権利、教育の自由について																																															
第10回	社会権(2)	・勤労権、労働基本権、争議権、参政権、選挙権について																																															
第11回	国会(1)	・国権の最高機関の意味、唯一の立法機関の意味、衆議院の優越について																																															
第12回	国会(2)	・国会議員の地位、議員の特権、国会の活動、国会と議院の権能について																																															
第13回	内閣	・内閣の地位、内閣総理大臣の権限、国務大臣の権限、内閣の責任について																																															
第14回	裁判所	・最高裁判所の権限、統治行為論、違憲審査制について																																															
第15回	財政	・財政民主主義、租税法主義、国費支出議決主義、公金支出の禁止について																																															
授業外学習(予習・復習)	復習を重視する。																																																
成績評価の方法	筆記試験(90%) + 授業での発言内容(10%)を基準にして評価する。																																																

授業科目	キャリアデザイン		担当者	担当教員
	[履修年次]	1年	[学期]	通年
	[単位]	1	[必修/選択]	選択
				[授業形態]
				講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】1年生が就職活動が始める前に、卒業後のキャリア形成について具体的なイメージを描けるようにする。</p> <p>【概要】就業後の職業や人生設計について適切な考察を行う能力の獲得のため、個々の体験に基づく就活イメージの提供や就活のノウハウの伝授にとどまらず、キャリアパス再設計の機会に対応可能なように、職業についての基本的な考え方、企業社会の理解、企業選択に対して知っておくべきことや、退職や転職、再就職などに際して考えるべきこと等を体系的に学習することを通じて、将来、自らのキャリアパスを再デザインし、マネージするための支援となるような内容についても学習する。</p> <p>【到達目標】8回の授業を通じて自らの進路のイメージを形成する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 適宜紹介</p>			
授業スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> ◆5月17日(水)(特設時間を利用) 第1回 総論 キャリア、キャリアデザインとは ◆6月14日(水)(特設時間を利用) 第2回 自己分析 志望動機 ◆7月12日(水)(特設時間を利用) 第3回 企業研究の必要性とそのやり方 ◆9月20日(木)3限 第4回 企業が求める人材 ◆9月20日(木)4限 第5回 先輩の就活体験・職業体験から学ぶ ◆10月18日(水)(特設時間を利用) 第6回 働いて「困った」への対応方法 ◆11月8日(水)(特設時間を利用) 第7回 これから働くあなたへのメッセージ ◆12月20日(水)(特設時間を利用) 第8回 プロフェッショナルになろう(パネルディスカッション) <p>※ 5年度の講師については適宜掲示する。</p>			
成績評価の方法	ワークシート及び授業から学んだことの感想を提出(100%)			

授業科目	ライフプランニング		担当者	瀬尾 由美子
	[履修年次]	1, 2, 3年	授業外対応	講義終了後
	[学期]	前期 [単位] 2	[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 将来の生活設計に必要な「ライフプランニングの考え方」を身につける</p> <p>【概要】「ライフプランニング」とはこれから先の人生をどのように過すのかを思い描き、実現するための方法を考え、計画を立てることである。「ライフプランニング」の考え方を学ぶことで、経済的に自立し、安心して将来の生活を過ごすことができるようになる。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフプランニングに必要な金融や経済に関する基礎知識を身につける。 ・金融商品や各種サービスの選択をする際に適切な判断ができるようになる。 			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 「大学生のための人生とお金の知恵」 金融広報中央委員会（無償提供）、プリント</p> <p>(2) 「これであなたもひとり立ち」 金融広報中央委員会（無償提供）</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 ライフプランニング（1）：ライフプランニングの必要性と考え方</p> <p>第2回 ライフプランニング（2）：これからの人生のライフデザインを思い描く</p> <p>第3回 ライフプランニング（3）：ライフプランニングとキャリアプランニングの関係性</p> <p>第4回 社会保険制度（1）：社会保険制度の概要と基礎知識</p> <p>第5回 社会保険制度（2）：公的年金制度の概要と基礎知識</p> <p>第6回 社会保険制度（3）：セーフティネットを理解する</p> <p>第7回 所得税：所得税の基礎知識と源泉徴収票の見方</p> <p>第8回 貯蓄と投資（1）：消費と投資の考え方の違い</p> <p>第9回 貯蓄と投資（2）：貯蓄と運用の考え方の違い</p> <p>第10回 貯蓄と投資（3）：運用する際の基礎知識</p> <p>第11回 貯蓄と投資（4）：将来に備えるために役立つ制度</p> <p>第12回 貯蓄と投資（5）：金利と法律の基礎知識</p> <p>第13回 保険（1）：生命保険の基礎知識と考え方</p> <p>第14回 保険（2）：損害保険の基礎知識と考え方</p> <p>第15回 まとめ：第1回から第14回までのまとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	講義中ごとの感想 (50%) 期末試験 (50%)			
実務経験について	2010年からライフプランセミナー講師、2013年からFP3級資格取得講座講師、2016年からFP2級資格取得講座講師			

授業科目	環境問題		担当者	井村隆介, 柴村奈緒子, 浅海真弓, 岡村雄輝
	[履修年次]	指定なし	授業外対応	講義前後に適宜対応
	[学期]	前期 [単位] 2単位	[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】環境問題を異なる視点から考える</p> <p>【概要】自然史(井村), 森林科学(柴村), 生活科学(浅海), 経済社会(岡村)の視点から環境問題を考える</p> <p>【到達目標】環境問題に関する複眼的思考を養う</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布</p> <p>(2) 國部克彦(編集), 神戸CSR研究会(編集)『CSRの基礎』, 中央経済社</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：履修登録の確認, 講義計画の説明等</p> <p>第2回 鹿児島県自然史(1) 鹿児島と気候変動</p> <p>第3回 鹿児島県自然史(2) 鹿児島県の地震と火山</p> <p>第4回 鹿児島県自然史(3) 鹿児島県の植生史</p> <p>第5回 鹿児島県自然史(4) 鹿児島県の自然と人</p> <p>第6回 森林科学(1)：動物と植物の相互作用</p> <p>第7回 森林科学(2)：獣害</p> <p>第8回 森林科学(3)：外来種</p> <p>第9回 生活科学(1)：衣生活と環境問題(衣服廃棄・リサイクルの現状と課題)</p> <p>第10回 生活科学(2)：食生活と環境問題(食品ロスの現状と課題)</p> <p>第11回 生活科学(3)：環境に配慮した生活(私たちの生活の中でできる取り組み)</p> <p>第12回 経済社会(1)：企業と公害(1)</p> <p>第13回 経済社会(2)：企業と公害(2)</p> <p>第14回 経済社会(3)：企業と地球環境(1)</p> <p>第15回 経済社会(4)：企業と地球環境(2)</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	各講師の課題(20~30点満点)×4=100点とする			
実務経験について	なし			

授業科目	かごしま教養プログラム	担当者	県内7大学等の担当教員	
	〔履修年次〕 1年 〔単位〕 2	〔学期〕 通年 〔必修/選択〕 選択(注)	〔授業形態〕 講義	
テーマ及び概要	<p>【概要】この講義では、鹿児島県内のすべての大学等が伝統を活かして開発してきた、鹿児島を素材にした授業を持ち寄り、「グローバルな視点から見たかごしま再発見」というテーマに基づき、リベラルアーツ教育を行います。また、地域の特色ある分野について対象としていることから、特に、地域社会での活躍を目指す学生にとっては、充実した内容となっている。3日間の夏季集中授業で、講義とグループ学習を行います。ディベートなどを取り入れ、学生間でよく話し合い、切磋琢磨しながら学習します。</p> <p>【学習目標】①講義で提示される鹿児島独自の文化、自然、社会、産業、防災、食と観光などのテーマについて、内容をよく理解し、自分の考えに従って問題点を正しく整理できる。</p> <p>②グループ学習により、テーマに関連する問題を独自の視点で討論を行い、グループとしての考えと方策などを具体的にまとめ上げ、それを適切に発表できる。</p> <p>③テーマに関してグループで検討し得られた結論等について、受講生全員がそれぞれレポートにまとめて提出する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 未定 (2) 未定			
授業スケジュール	<p>第1回 令和3年度実施概要(令和4年度については未定) 遠隔授業で実施</p> <p>日程：8月18日(水)～20日(金) 場所：鹿児島大学 定員：県内4大学等の学生 44人</p>			
授業外学習(予習・復習)				
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 発表とレポートを合わせて評価する。従って、どちらか一方が欠けた場合は、評価対象外とする。 レポート提出期限までにレポートを提出しなかった者は、評価対象外とする。 			

(注)「日本文学概論」(日本語日本文学専攻)、「スタディスキルズ」(英語英文学専攻)、「生活科学概論」(生活科学科)、「基礎演習」(商経学科)の履修が条件となります。

授業科目	かごしまフィールドスクール	担当者	県内7大学等の担当教員	
	〔履修年次〕 1年 〔単位〕 2	〔学期〕 通年 〔必修/選択〕 選択(注)	〔授業形態〕 実習	
テーマ及び概要	<p>【概要】地場産業、農業、商業、文化、観光、環境、暮らし、防災などにかかわる地域・施設などを学習の場とし、そこに内在する特徴や住民・関係者の暮らし、今後の方向性への住民・関係者の意識などを実践的に学習し、今後、地域の課題を解決していくための方策について考察し、若者のグローバルな視点でそれらの方策を実現する可能性について検討します。</p> <p>この活動により、鹿児島の特徴と問題点を理解し、国際社会の中での鹿児島の個性化・活性化を考える「グローバルな素養」を身につけ、あるいは自己開発の能力を身につけます。具体的には、実践的な学びの場において体験的な学習能力を向上し、考察・討論・発表を通じた理解力と問題解決能力の修得を促進するとともに、発表後の意見交換を加味して本授業全体を通じた総合的な成果を文書化することにより、日本語コミュニケーション能力の向上を図ります。</p> <p>【学習目標】①指定地域内の調査地区の現地視察や関係者との交流を通して、同地区の住民生活、商業活動、文化活動、防災等の特徴を把握し、選択したテーマに関する独自の問題を調査する。</p> <p>②同地区等の課題解決のために、今後どのような展望が望ましいか、どのような可能性があるか等の視点でテーマを考え、グループ討論により改善策等を具体的に討論しその成果を発表する。</p> <p>③現地調査、討論、発表を通して得られた成果を総合的にとりまとめたレポートを作成する。 テーマ別に編成されたグループにおいて、これら三つの学習目標を達成する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 未定 (2) 未定			
授業スケジュール	第1回 令和4年度実施概要(令和5年度については未定) 中止			
授業外学習(予習・復習)				
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 発表とレポートを合わせて評価する。従って、どちらか一方が欠けた場合は、評価対象外とする。 レポート提出期限までにレポートを提出しなかった者は、評価対象外とする。 			

(注)「かごしま教養プログラム」の履修が条件となります。

14 第二部商経学科教養科目
(外国語科目)

授業科目	英語 I (A)	担当者	米村 大輔
	[履修年次] 1年, 2年, 3年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	適宜対応
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語で自分の考え・文化を表現する</p> <p>【概要】コミュニケーションに不可欠な基礎英文法を身につけながら、自分の考え、気持ち、文化を相手にいかに深く伝えることができるかを学ぶ。英語4技能をバランスよく養う。</p> <p>【到達目標】自分の考えや気持ちを相手に誤解を与えることなく英語で伝えることができる。相手の考えや気持ちを英語で的確に理解することができる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Benedict Rowlett et al. 『Living Grammar』 (2) なし		
授業スケジュール	第 1回 Profile (be 動詞) 第 2回 Sports (自動詞・他動詞) 第 3回 Special Occasions (二重目的語をとる動詞) 第 4回 Families (人称代名詞) 第 5回 Japan Quiz (Wh-疑問文) 第 6回 Love & Marriage (過去形) 第 7回 Life History (現在完了形1) 第 8回 Leisure (現在完了形2) 第 9回 On Vacation (未来表現) 第 10回 Out and About (助動詞1) 第 11回 Rules (助動詞2) 第 12回 Folk Tales (接続詞) 第 13回 News & Events (受動態) 第 14回 Amazing Animals (副詞) 第 15回 Feelings (形容詞)		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	筆記試験(40%)、 振り返りシート(30%)、 授業での取り組み(30%)		

授業科目	英語 I (B)	担当者	James Murray ジェイムズ・マレー
	[履修年次] 1年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is a course for practicing all skills in English: Reading, Writing, Listening, Speaking, and Comprehension.</p> <p>【概要】 Lectures will teach vocabulary, phrases, and grammar that is used in everyday English conversation. Students will learn useful English for meeting people, describing things, giving directions, etc. Relaxed group discussions will give students the chance to use what they are learning, and to improve their confidence when communicating.</p> <p>【到達目標】 The aim of this course is to learn the basic skills of English used in everyday life, and to improve confidence in communicating and expressing oneself.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) Helgesen, Wiltshier, Brown 「English Firsthand 1」 (Fifth Edition) Pearson, 2018 (ISBN: 9789813130227) (2)		
授業スケジュール	第 1回 Introduction / Conversation Activities 第 2回 Unit 1: Meeting People; Personal Information 第 3回 Unit 1: Using Simple Present; Hobbies and Interests 第 4回 Unit 2: Describing People; Talking about Family 第 5回 Unit 2: Using Simple Present (Be vs. Have); Appearance Adjectives 第 6回 Unit 3: Describing Routines and Schedules 第 7回 Unit 3: Using Adverbs of Frequency 第 8回 Test (1) and Conversation Activities 第 9回 Unit 4: Talking about Locations 第 10回 Unit 4: Using Prepositions 第 11回 Unit 5: Giving Directions 第 12回 Unit 5: Using To, At, From, On, In; Using Imperative Verbs 第 13回 Unit 6: Talking about Past Events and Activities 第 14回 Unit 6: Using Past Tense; Using Irregular Verbs 第 15回 Test (2) and Conversation Activities		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Class participation 授業での参加の度合 (25%), Tests 試験 (50%), Homework 宿題 (25%)		
実務経験について			

授業科目	英語Ⅱ (A)	担当者	米村 大輔
	[履修年次] 1年, 2年, 3年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	適宜対応
		[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】英語の基本4技能を養いつつ、現代の社会事情について考える。</p> <p>【概要】各回、現代の社会事情について特定のトピックを扱い、タスクを通して「読む」「聞く」「話す」「書く」技能をバランスよく身につける。また基礎英文法の定着も図る。</p> <p>【到達目標】大きく変化しつつある現代社会に対応しながら、日常の様々な場面で情報の理解、発信を英語で的確に行えるようになる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Jonathan Lynch 委文光太郎 著 『Trend Scope』</p> <p>(2) なし</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 Resellers-Good or Bad? (be 動詞)</p> <p>第2回 About Earphones (一般動詞)</p> <p>第3回 Cash Registers (名詞・代名詞)</p> <p>第4回 Funny Happenings During Online Lessons (過去形)</p> <p>第5回 Loose-Fitting Clothing (進行形)</p> <p>第6回 Shrinkflation (Wh 疑問文)</p> <p>第7回 Living in the Countryside (前置詞)</p> <p>第8回 Hanging Out in Streets and Parks (接続詞)</p> <p>第9回 Plant Burgers Are Popular in America (現在完了形)</p> <p>第10回 South Korean Culture Is popular Worldwide (未来表現)</p> <p>第11回 Doxing (助動詞)</p> <p>第12回 Fast Movies (受動態)</p> <p>第13回 Do We Need a "Dislike" Button on Social Media? (形容詞・副詞)</p> <p>第14回 Ramen Subscription (不定詞・動名詞)</p> <p>第15回 Which Video-Sharing App Is Best? (比較級・最上級)</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	筆記試験(40%)、 振り返りシート(30%)、 授業での取り組み(30%)		

授業科目	英語Ⅱ (B)	担当者	James Murray ジェイムズ・マレー
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後
		[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 This is a course for practicing all skills in English: Reading, Writing, Listening, Speaking, and Comprehension.</p> <p>【概要】 Lectures will teach vocabulary, phrases, and grammar that is used in everyday English conversation. Students will learn useful English for jobs, making plans, shopping, giving instructions, etc. Relaxed group discussions will give students the chance to use what they are learning, and to improve their confidence when communicating.</p> <p>【到達目標】 The aim of this course is to learn the basic skills of English used in everyday life, and to improve confidence in communicating and expressing oneself.</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) Helgesen, Wiltshier, Brown 「English Firsthand 1」 (Fifth Edition) Pearson, 2018 (ISBN: 9789813130227)</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 Unit 7: Talking about Types of jobs, Job qualifications, Job skills</p> <p>第2回 Unit 7: Using Enjoy, Like, Good at, Good with</p> <p>第3回 Unit 8: Talking about Entertainment; Making Invitations and Suggestions</p> <p>第4回 Unit 8: Using different verb patterns</p> <p>第5回 Quiz (1) and Discussion</p> <p>第6回 Unit 9: Talking about Future plans and Activities</p> <p>第7回 Unit 9: Using Future tense; Making predictions</p> <p>第8回 Unit 10: Clothing, Electronics, Personal items</p> <p>第9回 Unit 10: Using Comparatives and Intensifiers</p> <p>第10回 Quiz (2) and Discussion</p> <p>第11回 Unit 11: Giving instructions</p> <p>第12回 Unit 11: Using Sequence markers; Imperatives; Simple past</p> <p>第13回 Unit 12: Expressing opinions; Discussing music</p> <p>第14回 Unit 12: Using Simple past vs Present perfect</p> <p>第15回 Final Exam</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	Class participation 授業での参加の度合 (25%), Tests 試験 (50%), Homework 宿題 (25%)		
実務経験について			

授業科目	異文化コミュニケーション(英語)		担当者	英語担当教員全員	
	[履修年次]	1,2,3年いずれでも履修可	[学期]	通年	
	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生きた英語の運用能力を高める。</p> <p>【概要】ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジで研修を行う。授業は英語研修とハワイ文化研修から成り立ち、滞在期間中、基礎的な生活英語とハワイの文化習慣などについて直接体験する。</p> <p>2019年度の実績 日程：9月4日～9月17日 参加者：31名 研修費用：約38万円（授業料、往復航空運賃、宿泊費、平日の朝・昼食費等）</p> <p>【到達目標】英語運用能力を高めるだけでなく、ハワイの文化を学び、多文化が共生するハワイで「国際化」「グローバル化」の意味を自らの実体験を通して考え、理解する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) ハワイ大学附属カピオラニ・コミュニティ・カレッジの担当教員が指示 (2)				
授業スケジュール	<p>事前指導：特設時間を利用して受講希望者に3～4回行う。ハワイ大学カピオラニ・コミュニティ・カレッジでの研修内容の説明、パスポートの取得方法など、海外渡航に伴うさまざまな必要事項の説明、課題（研修中の日記、研修後のレポート作成）の指示など。</p> <p>海外研修：9月を予定（約2週間）。現地の大学では、午前中に英語の授業、午後にはハワイ文化に関する授業（フラダンス）、KCC学生との異文化交流。その他、学外授業としてプランテーションヴィレッジ、イオラニ宮殿、真珠湾の見学。事後指導：帰国後に総括。</p>				
成績評価の方法	担当教員が課した課題（研修日誌・体験記）（50%）とハワイでの研修状況（50%）で評価する。				

授業科目	異文化コミュニケーション(中国語)		担当者	中国語担当教員全員	
	[履修年次]	1, 2, 3年いずれでも可	授業外対応	メールで事前連絡すること	
	[学期]	通年	[単位]	2	[必修/選択]
				選択	[授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生きた中国語の運用能力を高める。</p> <p>【概要】南京農業大学国際教育学院で研修を行います。南京農業大学国際教育学院は、わたしたち県立短大と交流協定を結んでいる中国の大学です。この科目は、中国語研修と中国文化研修から成り立ちます。中国滞在期間中、基礎的な実用中国語を習得し、さらに、南京農業大学の学生と交流し、中国の文化習慣などについて直接体験します。中国語を用いて活動するため、あらかじめ「中国語Ⅰ」を受講または修得していることが履修条件になります。</p> <p>※2019年度中国研修の実績 ・日程：9月7日（土）～21日（土）[15日間] ・参加者：11名（日本語日本文学専攻3名、英語英文学専攻4名、経済専攻1名、経営情報専攻2名、第二部商経学科1名） ・費用：約16万円（ビザ、往復航空券、授業料、宿泊費、南京市内・市外の見学費用など）</p> <p>【到達目標】「国際化」の意味を自らの実体験を通して考え理解する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 南京農業大学国際教育学院の担当教員が指示します。 (2)				
授業スケジュール	<p>事前指導 受講希望者に3～5回行います。 [1] 南京農業大学国際教育学院での研修内容の説明, [2] 海外渡航に伴うさまざまな事柄の説明, [3] 課題（レポート作成）の指示などです。</p> <p>海外研修 休業期間に約2週間実施予定です。現地の大学で中国語の授業を受けます。そのほか、さまざまな活動を通じて中国の生活・文化に関する体験をします。さらに南京農業大学外国語学院日本語専攻の学生と交流します。</p> <p>事後指導 帰国後に総括します。</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	担当教員が課した課題（50%）、および中国での学習成果（50%）を基に成績を算出します。				
実務経験について	なし				

授業科目	中国語 I (A)	担当者	陳 躍
	[履修年次] 1 年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後及びメールによる (アドレスは授業中に告知)
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 演習
テーマ及び概要	【テーマ】楽しい中国語会話		
	【概要】中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い、説明を聞くより真似て練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最速な方法だと考える。90 分のうち、70 分程度練習し、残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい、参考にする。希望に応えるように、授業のあり方を随時修正する。 【到達目標】中国語検定準四級。漢語水平考試HSK筆記1級程度。前期はその前半部分の学習に当てる		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) テキスト①『楽しい中国』于国軍著 斯文堂 (2) ①関西大学中国語教材研究会編「中国語検定徹底対策準四級」アルク ②『恋文の翻訳一日中往来』陳躍著 南日本新聞社		
授業スケジュール	第 1 回 我是上海人 第 2 回 我叫王平 第 3 回 这里是南京路 第 4 回 现在几点? 第 5 回 今天是星期几? 第 6 回 你家有几口人? 第 7 回 没关系 (映画) 第 8 回 香港的夏天热吗? (映画) 第 9 回 四川菜很好吃 (中間テスト) 第 10 回 我经常散步 第 11 回 牌价是多少? 第 12 回 汉语难不难? 第 13 回 我没吃蒜 第 14 回 我想去超市 第 15 回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	評価割合を定期試験 5 0%にする。残り 5 0%の評価は小テストとレポートにする		

授業科目	中国語 I (B)	担当者	楊 虹
	[履修年次] 1 年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	適宜対応 (要予約)
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 演習
テーマ及び概要	【テーマ】 中国語に親しむ		
	【概要】 この授業では、中国語の発音を身につけ、ロールプレイ、ゲームなど様々な教室活動を通して、中国語の基本構文を楽しく学ぶ。さらに中国の音楽や映画などの映像、留学生との交流活動を通して中国の社会や文化にも触れる。 【到達目標】 中国語の発音記号 (ピンイン) の読み方と綴り方がわかり、簡単な日常あいさつ、自己紹介ができる。		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 阿部慎太郎・紅粉芳恵『4つの場面から学ぶミニマル中国語』朝日出版社 (2) 授業中に紹介する。		
授業スケジュール	第 1 回 オリエンテーション：授業の概要説明、中国語で自分の名前を言う練習 第 2 回 発音 (1)：単母音と声調の導入、練習 第 3 回 発音 (2)：複母音の導入、練習 第 4 回 発音 (3)：子音の導入、練習 第 5 回 発音 (4)：子音の練習、発音のまとめ 第 6 回 動詞是の使い方 第 7 回 好きなものの言い方、尋ね方。 第 8 回 天気の話、挨拶 第 9 回 相手をほめよう 第 10 回 スケジュールを言う 第 11 回 二つ以上の動詞からなる連動文 第 12 回 経験の「過」の導入、練習 第 13 回 留学生との交流：中国人留学生と中国語で話してみる 第 14 回 全体の復習 第 15 回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜小テストを実施するので、毎回復習が必要である。		
成績評価の方法	授業への参加度、小テスト：50%、期末試験：50%		
実務経験について			

授業科目	中国語Ⅱ (A)	担当者	陳 躍
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	授業終了後及びメールによる (アドレスは授業中に告知)
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】楽しい中国語会話</p> <p>【概要】中国語会話の練習はスポーツだと考える。会話は頭より口を使い、説明を聞くより真似て練習する。言葉は形で文化がその中身である。文化を言葉と平行して学んでいくのが最速な方法だと考える。90分のうち、70分程度練習し、残りの時間は文化や事情を語る。中国の映画を数回鑑賞する。授業毎に感想を書いてもらい、参考にする。希望に応えるように、授業のあり方を随時修正する。</p> <p>【到達目標】中国語検定準四級。漢語水平考試HSK筆記1級程度。後期はその後半部分の学習に当てる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) テキスト①『楽しい中国』于国軍著 斯文堂</p> <p>(2) ①関西大学中国語教材研究会編「中国語検定徹底対策準四級」アルク ②『恋文の翻訳一日中往来』陳躍著 南日本新聞社</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 来我家玩吧 第2回 我打算去旅行 第3回 没看过, 听过 第4回 我能参加 第5回 我记一下 第6回 我们边走边谈 第7回 好像借给小李了 (中間テスト) 第8回 我不会打日文 (映画) 第9回 你知道号码吗? (映画) 第10回 什么都可以 第11回 被谁偷走了呢? 第12回 让你久等了 第13回 有没有单间? 第14回 我说得不好 第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	評価割合を定期試験50%にする。残り50%の評価は小テストとレポートにする		

授業科目	中国語Ⅱ (B)	担当者	楊 虹
	[履修年次] 1年 [学期] 後期 [単位] 1	授業外対応	適宜対応 (要予約)
		[必修/選択]	選択 [授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 中国語によるコミュニケーションに慣れる</p> <p>【概要】 この授業では、中国語Ⅰを履修した受講生を対象としている。前期の内容を復習しつつ、引き続き中国語の基本構文を導入し、中国語を聞いて、話す力を伸ばす。さらに、中国の音楽や映画などの映像を通して、中国の社会、文化にも触れる。</p> <p>【到達目標】 学習を進める上での基礎的知識を有し、中国語による家族構成の紹介や、簡単な買い物ができる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 阿部慎太郎・紅粉芳恵『4つの場面から学ぶミニマル中国語』朝日出版社</p> <p>(2) 授業中に紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：授業の概要説明、前期の復習 第2回 願望「想」の導入、練習 第3回 動詞「有」の導入、練習 第4回 「有」と「在」の応用練習 第5回 できるの「会」の導入、練習 第6回 買い物に関する表現① 第7回 買い物に関する表現② 第8回 これまでの内容の復習 第9回 道案内と前置詞の「在」の導入、練習 第10回 時間の量の言い方① 第11回 時間の量の言い方② 第12回 時間の量の言い方③ 第13回 起点や終点を表す前置詞の導入と練習 第14回 全体の復習 第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜小テストを実施するので、毎回復習が必要である。		
成績評価の方法	授業への参加度、小テスト：50%、口頭試験：50%		
実務経験について			

15 第二部商経学科教養科目
(スポーツ・健康科目)

授業科目	生涯スポーツ実習 I・II	担当者	與儀 幸朝 西迫 貴美代
	[履修年次] 1年次	授業外対応	随時 yogi@k-kentan.ac.jp
	[学期] 前期・後期 [単位] 各1	[必修/選択] 必修	[授業形態] 実技
テーマ及び概要	<p>【テーマ】生涯にわたって運動に親しむ力を身につけることを目的とし、スポーツを通じて、その特徴的な身体技法の学習の中で、自分に合った種目や得意な運動を発見する。前期は大学生活が始まり、新しい環境に適応する手立てとして所属専攻の仲間と共にスポーツを楽しむことをめざす(生涯スポーツ実習 I)。また年間を通じて、チームの仲間と共に安全かつ楽しくゲームを運営する方法について理解する。</p> <p>【概要】取り扱う教材(種目) ①野外スポーツ:硬式テニス、サッカー、ソフトボール、フットサル ②屋内スポーツ:バドミントン、バレーボール、ソフトバレーボール、バスケットボール、フットサルなど その他に、ニュースポーツやストレッチの方法、基本的な身体技法(からだほぐし)を取り入れる。</p> <p>【到達目標】①各種目の基礎的な技術を理解するとともに技能を習得する。 ②各種目のゲームの特徴を理解し、合理的な作戦を立てることができるようになる。 ③チームメイトと安全かつ楽しくゲームを運営することができるようになる(ルールの理解 審判の方法 簡易ルールの設定)</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 適時、資料を配付する(ゲーム分析の方法について、日常生活の健康管理について等)。 (2)		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション:主に男女別に履修する(出席状況、天候によって男女合同の場合もある)</p> <p>第2回 1. バドミントン</p> <p>第3回 ハイクリアー、スマッシュ、ドロップ、ヘヤーピン、ドライブの各技術について理解し、できるようになる。</p> <p>第4回 ゲームの方法を理解する(シングルス、ダブルスゲームの方法)。</p> <p>第5回 2. 硬式テニス(ミニテニス)</p> <p>第6回 フォアストローク、バックストローク、サーブなどの技術について理解し、技能習得を目指す。ゲームの方法を理解する(主にダブルスのゲーム 前衛と後衛のポジションの理解)。</p> <p>第7回</p> <p>第8回 3. バレーボール、ミニバレーボール</p> <p>第9回 アタック、パス、レシーブ、ブロックの各技術について理解し、できるようになる。ゲームにおいて三段攻撃につなげるための作戦を立てることができるようになる。</p> <p>第10回</p> <p>第11回 4. バスケットボール</p> <p>第12回 シュート、ドリブル、パスの技術について理解し、できるようになる。ゲームの方法を理解する(意味あるパスについて考える)。</p> <p>第13回</p> <p>第14回 5. サッカー、ミニサッカー、フットサル(主に男子)</p> <p>第15回 シュート、パス、ヘディングなどの技術について理解し、できるようになる。ゲームの方法を理解する(意味あるパスについて考える)。</p> <p>6, 卓球</p> <p>自分に適したラケットの選択、フォアストローク、バックストローク、サーブなどの技術について理解し、技能習得を目指す。ゲームの方法を理解する(主にダブルスのゲーム 前衛と後衛のポジションの理解)。</p>		
授業外学習(予習・復習)	体調管理に留意すること。		
成績評価の方法	授業参加状況(60%) + スキル及び技術認識(40%)を基準に総合的に評価する。		
実務経験について	中学校及び高等専門学校等にて、保健体育科目の担当経験あり。		

16 第二部商経学科教養科目
(情報科目)

授業科目	情報リテラシー I (A)		担当者	永仮ゆかり
	[履修年次] 1年		授業外対応	講義終了時および必要に応じてメール
	[学期] 前期	[単位] 1	[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ワープロソフト「Microsoft Word」を活用した基本的な文書作成能力の習得</p> <p>【概要】 ワープロソフト「Microsoft Word」を活用し、文字の入力から文書の作成、編集、保存、印刷などの基本操作をはじめ、表・図形・画像を盛り込んだ文書の作成技法までを習得することを目的とする。また、あわせて基本的なビジネス文書に関する知識やライティング技術についても解説する。</p> <p>【到達目標】 タッチタイピングの習得、「Microsoft Word」の基本操作の習得、基本的なビジネス文書の作成能力の習得</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム (株)『よくわかる Microsoft Word 2019 基礎』FOM 出版、プリント</p> <p>(2) 授業にて紹介する</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 パソコンの基本操作 : 概要説明、起動と終了、ウインドウ操作、ファイル操作、Word の画面構成</p> <p>第 2 回 文字の入力 : キータッチ練習、文字の入力・訂正・削除・変換</p> <p>第 3 回 文章の入力 : キータッチ練習、文章の入力 (分節単位の変換、一括変換)、IME パッドの利用</p> <p>第 4 回 文書の作成 1 : ページレイアウト設定、あいさつ文の挿入、範囲選択、コピーと移動、保存</p> <p>第 5 回 文書の作成 2 : 文字の配置、書式設定 (フォント、サイズ変更など)、印刷</p> <p>第 6 回 課題文書作成 1 : お知らせ文書の作成、ビジネス文書の構成について</p> <p>第 7 回 表の作成 : 表の作成、表の選択、行の挿入・削除、列幅変更、文書の書き方について</p> <p>第 8 回 表の編集 : セルの結合・分割、セル内の配置、塗りつぶし、罫線の変更、表のスタイル</p> <p>第 9 回 課題文書作成 2 : 表を含むビジネス文書の作成</p> <p>第 10 回 文書の編集 : 均等割り付け、行間、段組み、改ページ</p> <p>第 11 回 グラフィック機能の利用 : ワードアートの挿入、画像の挿入、図形の作成、ページ罫線の設定、図解について</p> <p>第 12 回 課題文書作成 3 : 案内状の作成、文書管理について</p> <p>第 13 回 便利な機能 : 検索・置換、PDF ファイルとして保存</p> <p>第 14 回 レポートの作成 : レポート作成に役立つ機能を利用した文書作成</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	文字入力・Word 操作の復習、知識問題の予習など適宜指示			
成績評価の方法	期末試験 (知識科目 20%+実技科目 50%) + 授業中に実施する課題 (30%)			
実務経験について	OA インストラクター、職業能力開発校パソコン実習科目の講師、市民講座パソコン講座の講師			

授業科目	情報リテラシー I (B)		担当者	永仮ゆかり
	[履修年次] 1年		授業外対応	講義終了時および必要に応じてメール
	[学期] 前期	[単位] 1	[必修/選択] 必修	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ワープロソフト「Microsoft Word」を活用した基本的な文書作成能力の習得</p> <p>【概要】 ワープロソフト「Microsoft Word」を活用し、文字の入力から文書の作成、編集、保存、印刷などの基本操作をはじめ、表・図形・画像を盛り込んだ文書の作成技法までを習得することを目的とする。また、あわせて基本的なビジネス文書に関する知識やライティング技術についても解説する。</p> <p>【到達目標】 タッチタイピングの習得、「Microsoft Word」の基本操作の習得、基本的なビジネス文書の作成能力の習得</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 富士通エフ・オー・エム (株)『よくわかる Microsoft Word 2019 基礎』FOM 出版、プリント</p> <p>(2) 授業にて紹介する</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 パソコンの基本操作 : 概要説明、起動と終了、ウインドウ操作、ファイル操作、Word の画面構成</p> <p>第 2 回 文字の入力 : キータッチ練習、文字の入力・訂正・削除・変換</p> <p>第 3 回 文章の入力 : キータッチ練習、文章の入力 (分節単位の変換、一括変換)、IME パッドの利用</p> <p>第 4 回 文書の作成 1 : ページレイアウト設定、あいさつ文の挿入、範囲選択、コピーと移動、保存</p> <p>第 5 回 文書の作成 2 : 文字の配置、書式設定 (フォント、サイズ変更など)、印刷</p> <p>第 6 回 課題文書作成 1 : お知らせ文書の作成、ビジネス文書の構成について</p> <p>第 7 回 表の作成 : 表の作成、表の選択、行の挿入・削除、列幅変更、文書の書き方について</p> <p>第 8 回 表の編集 : セルの結合・分割、セル内の配置、塗りつぶし、罫線の変更、表のスタイル</p> <p>第 9 回 課題文書作成 2 : 表を含むビジネス文書の作成</p> <p>第 10 回 文書の編集 : 均等割り付け、行間、段組み、改ページ</p> <p>第 11 回 グラフィック機能の利用 : ワードアートの挿入、画像の挿入、図形の作成、ページ罫線の設定、図解について</p> <p>第 12 回 課題文書作成 3 : 案内状の作成、文書管理について</p> <p>第 13 回 便利な機能 : 検索・置換、PDF ファイルとして保存</p> <p>第 14 回 レポートの作成 : レポート作成に役立つ機能を利用した文書作成</p> <p>第 15 回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	文字入力・Word 操作の復習、知識問題の予習など適宜指示			
成績評価の方法	期末試験 (知識科目 20%+実技科目 50%) + 授業中に実施する課題 (30%)			
実務経験について	OA インストラクター、職業能力開発校パソコン実習科目の講師、市民講座パソコン講座の講師			

授業科目	情報リテラシーⅡ (A)		担当者	上野 祐子	
	[履修年次]	1年	授業外対応	講義終了時, 適宜対応 (要予約)	
	[学期]	前期	[単位]	1単位	
		[必修/選択]	必修	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】学校生活に必要な情報活用技術の修得</p> <p>【概要】学校生活で必要不可欠なタイピングスキル、メールの送受信、ファイル操作、Web検索、PowerPoint作成技術を習得する。講義内15分間はタイピング練習を実施する。メールの送受信やファイル操作が円滑に出来るよう、課題の提出はメールで行う。Webによる情報検索では、著作権や情報セキュリティに関する知識も習得する。課題(2回目Webによる情報検索(画像検索)3回目PowerPoint)は自分でテーマを考えて作成し、授業内で公開する。</p> <p>【到達目標】課題やレポートを作成し、メールで提出出来るようになる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 適宜プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業にて紹介する。</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション、電子メール(Webメール、スマホと連携) 確認テスト1</p> <p>第2回 電子メール(Webメール)、USBメモリ、タイピング練習ソフト、ファイル操作の練習 確認テスト2</p> <p>第3回 ファイルの整理(ファイルの概念、フォルダの概念)及びファイルの検索 確認テスト3</p> <p>第4回 ファイルの操作の練習(圧縮と解凍)、電子メール(Thunderbird) 確認テスト4</p> <p>第5回 ファイルの操作の練習、電子メール(Thunderbird) 確認テスト5</p> <p>第6回 USBカメラの操作、動画編集体験 確認テスト6</p> <p>第7回 Webによる情報検索 確認テスト7</p> <p>第8回 Webによる情報検索(2) 確認テスト8</p> <p>第9回 Webによる情報検索 第1回課題</p> <p>第10回 Webによる情報検索(画像検索)、画像の編集 確認テスト9</p> <p>第11回 Webによる情報検索(画像検索) 第2回課題</p> <p>第12回 PowerPoint(概要、起動と終了、画面構成、作成) 確認テスト10</p> <p>第13回 PowerPoint(作成、スライドショーの実行、原稿作り) 第3回課題</p> <p>第14回 PowerPoint(原稿作り、発表、鑑賞)</p> <p>第15回 PowerPoint(発表、鑑賞)</p>				
授業外学習(予習・復習)	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。課題(単元の復習問題)を実施すること。				
成績評価の方法	10回の確認テスト(20%)と3回の課題(40%)、期末レポート(40%)の総合評価				
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア、中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座講師。				

授業科目	情報リテラシーⅡ (B)		担当者	上野 祐子	
	[履修年次]	1年	授業外対応	講義終了時, 適宜対応 (要予約)	
	[学期]	前期	[単位]	1単位	
		[必修/選択]	必修	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】学校生活に必要な情報活用技術の修得</p> <p>【概要】学校生活で必要不可欠なタイピングスキル、メールの送受信、ファイル操作、Web検索、PowerPoint作成技術を習得する。講義内15分間はタイピング練習を実施する。メールの送受信やファイル操作が円滑に出来るよう、課題の提出はメールで行う。Webによる情報検索では、著作権や情報セキュリティに関する知識も習得する。課題(2回目Webによる情報検索(画像検索)3回目PowerPoint)は自分でテーマを考えて作成し、授業内で公開する。</p> <p>【到達目標】課題やレポートを作成し、メールで提出出来るようになる。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 適宜プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業にて紹介する。</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション、電子メール(Webメール、スマホと連携) 確認テスト1</p> <p>第2回 電子メール(Webメール)、USBメモリ、タイピング練習ソフト、ファイル操作の練習 確認テスト2</p> <p>第3回 ファイルの整理(ファイルの概念、フォルダの概念)及びファイルの検索 確認テスト3</p> <p>第4回 ファイルの操作の練習(圧縮と解凍)、電子メール(Thunderbird) 確認テスト4</p> <p>第5回 ファイルの操作の練習、電子メール(Thunderbird) 確認テスト5</p> <p>第6回 USBカメラの操作、動画編集体験 確認テスト6</p> <p>第7回 Webによる情報検索 確認テスト7</p> <p>第8回 Webによる情報検索(2) 確認テスト8</p> <p>第9回 Webによる情報検索 第1回課題</p> <p>第10回 Webによる情報検索(画像検索)、画像の編集 確認テスト9</p> <p>第11回 Webによる情報検索(画像検索) 第2回課題</p> <p>第12回 PowerPoint(概要、起動と終了、画面構成、作成) 確認テスト10</p> <p>第13回 PowerPoint(作成、スライドショーの実行、原稿作り) 第3回課題</p> <p>第14回 PowerPoint(原稿作り、発表、鑑賞)</p> <p>第15回 PowerPoint(発表、鑑賞)</p>				
授業外学習(予習・復習)	タイピング練習を適宜実施すること。授業内容の復習をすること。課題(単元の復習問題)を実施すること。				
成績評価の方法	10回の確認テスト(20%)と3回の課題(40%)、期末レポート(40%)の総合評価				
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア、中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座講師。				

17 第二部商経学科専門科目

授業科目	情報社会論		担当者	未定
	[履修年次]	[学期]	授業外対応	[授業形態]
		[単位]	[必修/選択]	
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)			
授業スケジュール	第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回			
授業外学習(予習・復習)				
成績評価の方法				
実務経験について				

授業科目	社会哲学		担当者	西原 誠司
	[履修年次]	1, 2, 3年	[学期]	前期
	[単位]	2	[必修/選択]	選択 [授業形態] 講義
テーマ及び概要	【テーマ】 人間とは何か/人間社会とは何かを哲学する 【概要】 現代社会に起こる様々な問題を念頭におきながら、人間とは何か、人間社会とはなにかを人類社会の起源にまで遡って解明していく。同時に、生きづらい社会を人間らしく生きていくためには、どのようなものを見方をすればいいのか、その世界観との関係性を探り、生きづらさを克服するための処方箋をともに考えていきたい。 【到達目標】 人間とは何か、人間社会とは何かを人類社会の歴史と日本社会の現実のなかから把握し、現代社会を生き抜く力＝自己の内面を解放する方法を身につける。			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配布 (2) 種村完司『コミュニケーションと関係の倫理』青木書店 鯉坂・有尾・鈴木編『ヘーゲル論理学入門』(有斐閣新書)			
授業スケジュール	第 1 回 はじめに 第 2 回 人類社会の起源——人類700万年の歴史 第 3 回 日本人の起源を遡る 第 4 回 縄文社会にみる人類社会の共通原則——ひとりみんなのために、みんなはひとりのために 第 5 回 奴隷制社会にみる人間性——スパルタクスの蜂起 貴族と奴隷どちらが人間的か 第 6 回 封建社会の恋——近松門左衛門と『曾根崎心中』 第 7 回 王侯貴族の恋——『ベルサイユのバラ』とマリー・アントワネット 第 8 回 日本の近代と明治維新——坂本龍馬にみる近代的人格の誕生 第 9 回 明治維新と日本資本主義①——産業革命の光と影 富岡製糸 第 10 回 明治維新と日本資本主義②——産業革命の光と影 あゝ野麦峠 第 11 回 現代資本主義の光と影 夫はなぜ死んだのか 過労死認定の厚い壁 第 12 回 キューブラー・ロスと終末期医療/最後のレッスン 死のまぎわの真実 第 13 回 脳梗塞からの“再生” 免疫学者・多田富雄の闘い 第 14 回 私たち抜きに私たちのことを決めないで 初期認知症を生きる 第 15 回 おわりに——言葉遊びで短所を笑おう			
成績評価の方法	授業態度 (積極的に授業に参加しているか、感想文の提出) および筆記試験			

授業科目	経済学		担当者	山口 祐司	
	[履修年次]	1, 2, 3年	授業外対応	メール等で予約の上適宜対応します。	
	[学期]	前期	[単位]	2	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 ミクロ経済学・マクロ経済学を中心に経済学の基礎的な考え方を学んでいきます。</p> <p>【概要】 経済とは、経済学の考え方（第1～2回）。ミクロ経済学の基礎理論（第3～7回）。マクロ経済学の基礎理論（第8～14回）。</p> <p>【到達目標】 経済学の基礎的な概念と理論を理解すること。新聞などに登場する時事的な経済問題について、自分なりの観点をもつこと。</p>				
(1)テキスト	(1) プリント				
(2)参考文献	(2) マンキュー, N・グレゴリー (2014)『マンキュー入門経済学 [第2版]』東洋経済新報社				
授業スケジュール	第1回 授業ガイダンス、経済とは何か 第2回 経済学の考え方 第3回 ミクロ経済学の基礎 (1) 需要と供給 第4回 ミクロ経済学の基礎 (2) 価格決定と政府の政策 第5回 ミクロ経済学の基礎 (3) 市場の効率性 第6回 ミクロ経済学の基礎 (4) 不完全市場 第7回 ミクロ経済学の基礎 (5) ミクロ経済学のまとめ 第8回 マクロ経済学の基礎 (1) GDPの測定 第9回 マクロ経済学の基礎 (2) インフレーションとデフレーション 第10回 マクロ経済学の基礎 (3) 経済成長 第11回 マクロ経済学の基礎 (4) 貯蓄、投資と金融システム 第12回 マクロ経済学の基礎 (5) マクロ経済政策の役割 第13回 マクロ経済学の基礎 (6) 外国貿易 第14回 マクロ経済学の基礎 (7) マクロ経済学のまとめ 第15回 全体のまとめ、テスト対策				
授業外学習(予習・復習)	毎回の授業範囲の予習(テキスト)・復習のほか、新聞の経済欄を日常から読むようにしてください。				
成績評価の方法	筆記試験(60%)、毎回の授業で実施する授業まとめ(40%)				
実務経験について	なし。				

授業科目	行政法		担当者	山本 敬生	
	[履修年次]	1,2,3年履修可	授業外対応	適宜対応(要予約)	
	[学期]	前期	[単位]	2単位	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義形式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】行政行為論を中心とした行政法の基礎理論を理解した上で、行政不服審査法、行政事件訴訟法、国家賠償法の基本構造を体系的に把握し、行政的法的コントロールのあり方について学習することをテーマにする。</p> <p>【概要】周知のとおり、行政法は通則的法典が存在しておらず、そのため無数の行政法規を把握するための理論が他の法律学に比べて強く求められる学問である。本講義では、行政法の基本原則である法律による行政の原理(法律の法規創造力、法律の優位の原則、法律の留保の原則)、行政行為、行政立法、行政計画、行政指導、行政契約等の行政の行為形式論、行政上の義務履行確保制度、行政手続等の行政上の一般制度をわかりやすく解説し行政法の基礎理論を体系的に理解した上で、行政不服審査法、行政事件訴訟法、国家賠償法といった一般法について、国民の権利救済という視点から学習する。</p> <p>【到達目標】行政法の基本原則、行政の行為形式論、行政上の一般制度、行政救済法について説明できるようになり、行政法的視点に立った行政と市民との関係のあり方を考察できる力を習得することを目標にする。</p>				
(1)テキスト	(1) プリント				
(2)参考文献	(2) 佐伯仁志他編、『ポケット六法(令和5年度版)』、有斐閣				
授業スケジュール	第1回 行政法概論 ・行政の定義、法律の法規創造力、法律の優位の原則、法律の留保の原則について 第2回 行政立法 ・法規命令、委任命令、執行命令、白紙委任の禁止の原則、行政規則について 第3回 行政行為(1) ・公定力、不可争力、不可変更力、執行力、拘束力について 第4回 行政行為(2) ・無効の行政行為、取消しすべき行政行為、羁束行為、裁量行為について 第5回 行政指導 ・規制行政指導、助成行政指導、調整行政指導、要綱行政について 第6回 行政上の強制執行制度 ・代執行、執行罰、直接強制、行政上の強制徴収、行政サービスの提供拒否について 第7回 行政手続法 ・申請に対する処分、不利益処分、行政指導、命令等を定める行為の手続について 第8回 行政不服申立て ・審査請求、異議申し立て、再審査請求、教示について 第9回 行政事件訴訟法(1) ・抗告訴訟、民衆訴訟、義務付け訴訟、差止め訴訟、取消訴訟、事情判決について 第10回 行政事件訴訟法(2) ・取消判決の効力、執行不停止の原則、内閣総理大臣の異議、処分性について 第11回 行政事件訴訟法(3) ・原告適格、保護に値する利益説、狭義の訴えの利益について 第12回 国家賠償法(1) ・代位責任説、自己責任説、公権力の行使の範囲、故意・過失、求償権について 第13回 国家賠償法(2) ・公の营造物、人工公物、自然公物、高知落石事件、大東水害事件について 第14回 損失補償 ・奈良県ため池条例事件、完全補償説、相当補償説、国家補償の谷間について 第15回 公物 ・公共用物、公用物、自然公物、人工公物、公物の時効取得について				
授業外学習(予習・復習)	復習を重視する。				
成績評価の方法	筆記試験(90%)＋授業での発言内容(10%)を基準にして評価する。				
実務経験について	なし				

授業科目	経済政策		担当者	岩上敏秀
	〔履修年次〕	1～3年いずれも履修可	授業外対応	いつでも対応します。メールで連絡してください。
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本および地域経済が抱えるさまざまな課題に対して、どのような政策が必要なのかを考えます。</p> <p>【概要】経済成長の鈍化と人口減少・少子高齢化の進展によって、これまで日本の経済社会を支えてきた諸制度にひずみが生じ、再構築が迫られています。日本や地域経済が抱えるさまざまな課題を採り上げ、将来に向けた制度設計について考えていきます。スマホを活用したリアルタイム投稿システムを使い、受講者の意見を聞きながら双方向の講義を行います。</p> <p>【到達目標】日本および地域経済が抱えている課題に関心を持ち、さまざまな見方を踏まえ、自分自身で考える視点を持ち、自分の意見を説明できるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業内で適宜紹介する</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目的・進め方 序章：経済政策とは何か</p> <p>第2回 日本経済の構造変化と経済政策：日本はなぜ課題先進国となったのか、どのような経済政策がとられてきたか</p> <p>第3回 経済成長を考える：経済政策の目的は、現在どのような経済政策がとられているか</p> <p>第4回 財政再建を考える(1)：財政の現状は、財政赤字は問題なのか</p> <p>第5回 財政再建を考える(2)：財政再建のための方策は、「社会保障と税の一体改革」とは</p> <p>第6回 社会保障と雇用の将来を考える(1)：社会情勢の変化と社会保障制度、少子高齢化の背景は</p> <p>第7回 社会保障と雇用の将来を考える(2)：所得格差は拡大しているのか、非正規雇用をめぐる課題とは</p> <p>第8回 異次元の金融政策について考える(1)：金融政策とは何か、金融政策の役割と制度は</p> <p>第9回 異次元の金融政策について考える(2)：バブル崩壊以降の金融政策の効果は</p> <p>第10回 環境問題を考える(1)：環境問題とは何か、パリ協定とは、日本の取り組みは</p> <p>第11回 環境問題を考える(2)：環境問題と経済政策</p> <p>第12回 地域経済を考える(1)：地方の現状は(人口減少、産業空洞化、地方の財政)</p> <p>第13回 地域経済を考える(2)：地域経済を支える産業政策とは</p> <p>第14回 地域経済を考える(3)：地域創生のために必要な政策とは</p> <p>第15回 まとめ、講義評価アンケート実施</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示します			
成績評価の方法	中間レポート(40%)＋期末レポート(60%)			
実務経験について	国内外の金融機関で約30年の実務経験があります。			

授業科目	金融論		担当者	岩上敏秀
	〔履修年次〕	1～3年いずれも履修可	授業外対応	いつでも対応します。メールで連絡してください。
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】金融の仕組みや、経済社会の中で金融取引が果たしている役割について理解を深めます。</p> <p>【概要】モノやサービスが取引される裏では必ずお金が動きます。経済活動には、お金がスムーズに動く仕組みが不可欠です。金融とは世の中でお金がスムーズに動く仕組みのこと。本講義では、経済社会における金融の役割を学んだうえで、銀行や証券会社の役割や業務内容、株式等の証券取引や最新のフィンテック動向まで幅広いテーマを採り上げます。金融と経済のかかわりを幅広く学び、社会人として必要な金融知識を身につけます。スマホを活用したリアルタイム投稿システムを使って、受講者の意見を聞きながら双方向の講義を行います。</p> <p>【到達目標】金融の基本的な仕組みや用語を理解し、仕事や生活で関わる金融に関する出来事について説明できるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 授業内で適宜紹介する</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：講義の目的・進め方 序論：金融の仕組みと役割を知ろう。なぜ金融を学ぶのか考えよう</p> <p>第2回 資金循環：日本の中でお金の大きな動きについて知ろう</p> <p>第3回 家計の貯蓄と金融資産選択：家計の消費・貯蓄・投資行動について考えよう</p> <p>第4回 企業の投資と資金調達：企業がお金を必要とする理由やその資金調達の方法について考えよう</p> <p>第5回 金融取引の特徴と課題：金融取引の特徴について考えよう</p> <p>第6回 金融取引と金利：金利について学ぼう</p> <p>第7回 銀行の役割：銀行の役割や業務内容について学ぼう</p> <p>第8回 地域金融機関の役割：鹿銀や南銀、鹿信など地域金融機関の役割や経営環境について考えよう</p> <p>第9回 金融市場：証券取引所など集中して金融取引を行う金融市場の役割について学ぼう</p> <p>第10回 株式会社と証券市場：そもそも株式会社とは何か、株式市場や株式の取引ルールについて学ぼう</p> <p>第11回 株式市場：株価はどのように決定されるのかについて考えよう</p> <p>第12回 債券市場：債券とは何か、債券の役割について考えよう</p> <p>第13回 日本銀行と金融政策：日本銀行の役割や金融政策について学ぼう</p> <p>第14回 金融危機と規制：バブル崩壊やリーマンショックといった金融危機について考えよう</p> <p>第15回 金融の新しい仕組み：フィンテックなど金融の新しい動きについて学ぼう、まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示します。			
成績評価の方法	中間レポート(30%)＋期末試験(70%)			
実務経験について	国内外の金融機関で約30年の実務経験があります。			

授業科目	社会政策		担当者	近間由幸				
	[履修年次]	1,2,3年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	前期	[単位]	2単位	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「日本型雇用システム」の下での労働・生活の全体像と社会政策の関係性について</p> <p>【概要】授業では、大企業男性正社員をモデルとして構築されてきた「日本型雇用システム」とそれに基づく社会政策について解説し、このシステムの周辺部に位置する失業者、女性、若者の格差・貧困の問題に対処するための社会政策を解説する。</p> <p>【到達目標】受講学生には、国の社会政策が自身の生活と密接にかかわっていることを理解してもらい、日本社会における格差や貧困の実態に問題意識を持ち、社会政策の方向性について自分の考えを持てるようになることを目指す。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 石畑良太郎・牧野富夫・伍賀一道編『よくわかる社会政策 (第3版) 雇用と社会保障』ミネルヴァ書房</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 イントロダクションー日本社会の「しくみ」について</p> <p>第2回 社会政策とはなにか</p> <p>第3回 賃金と社会政策</p> <p>第4回 企業と労働組合の関係</p> <p>第5回 過労死と長時間労働</p> <p>第6回 非正規雇用とは何か</p> <p>第7回 日本社会における入社のしくみと若者支援政策</p> <p>第8回 日本型雇用システムと女性の働き方</p> <p>第9回 子育てと雇用政策</p> <p>第10回 高齢者の福祉と雇用</p> <p>第11回 働けないときにどのような支援があるのか</p> <p>第12回 社会保険と生活保護の溝</p> <p>第13回 労働市場政策の国際比較ースウェーデンモデルを事例として</p> <p>第14回 移民問題と外国人労働者</p> <p>第15回 全体のまとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	授業ごとのミニレポート (30%)、筆記試験 (70%)							
実務経験について	なし							

授業科目	民法		担当者	疋田京子				
	[履修年次]	1, 2, 3年	授業外対応	適宜対応 (メールで予約)				
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】消費者問題、労働問題、企業の取引から結婚や離婚、相続問題にいたるまで、個々の紛争解決のための法的基準になる民法を理解する。</p> <p>【概要】民法は契約や不法行為など「財産法」の部分と、夫婦、親子、親族、相続などに関する「家族法」の部分に分かれます。講義では「財産法」が中心になりますが、様々な取引の権利・義務の主体として「人」が登場する時、夫婦や親子関係も無縁ではありません。</p> <p>【到達目標】具体的な紛争の事例を、権利と義務の関係としてとらえ、法的に説得力のある主張ができるようになることを目指します。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する</p> <p>(2) 授業内で適宜指示する</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：「民法」が対象とする紛争とは？</p> <p>第2回 民法の基本構造：民法のなかで中心になる権利～物権と債権</p> <p>第3回 権利の主体となる能力 (1)：権利能力・意思能力・行為能力</p> <p>第4回 権利の主体となる能力 (2)：制限行為能力者の保護と取引の安全</p> <p>第5回 契約の成立とその効力 (1)：強行規定と任意規定</p> <p>第6回 契約の成立とその効力 (2)：条件と期限がついた契約</p> <p>第7回 契約の成立とその効力 (3)：民法上の「代理」とは</p> <p>第8回 契約の成立とその効力 (4)：無権代理と有権代理</p> <p>第9回 契約の拘束力から解放される時 (1)：言ったことと本心が違う場合</p> <p>第10回 契約の拘束力から解放される時 (2)：詐欺や強迫によって契約をしてしまったとき</p> <p>第11回 法の世界の「善意と悪意」：信義誠実の原則と善意の第三者</p> <p>第12回 民法の「時効制度」：権利の上に眠る者は保護しないのが民法</p> <p>第13回 物権の変動時期 (1)：動産の取得取得と不動産の対抗要件</p> <p>第14回 物権の変動時期 (2)：公信力って何？</p> <p>第15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	復習をしっかりとすること							
成績評価の方法	2回のレポート (中間レポートと最終レポート) の提出 (80%)、毎講義ごとのミニレポート (20%)							
実務経験について								

授業科目	商法		担当者	河野 総史
	[履修年次]	1年、2年、3年	授業外対応	講義終了後またはメールで対応
	[学期]	前期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 商法学のうち、会社法の基礎知識</p> <p>【概要】商法は、「市民の法」たる民法の特別法にあたり、いわば「商人の法」である。商法において学ぶ分野は多岐に渡るが本講義においては会社法の基礎知識を身に付け、社会の重要な構成要素である会社についての理解を深めることを目的とする。</p> <p>【到達目標】 株式制度と機関設計を中心に、株式会社の基礎知識を身に付けることを目標とする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 指定しない（レジュメを配布する）</p> <p>(2) 適宜指示する</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 講義ガイダンス 民法と商法</p> <p>第2回 会社法総論</p> <p>第3回 会社の種類</p> <p>第4回 株式①（株式の種類等）</p> <p>第5回 株式②（株式の譲渡と譲渡制限）</p> <p>第6回 株式③（自己株式・親会社株式取得規制等）</p> <p>第7回 株式④（株式併合・分割・無償割当等）</p> <p>第8回 資金調達①（会社設立時）</p> <p>第9回 資金調達②（募集株式の発行等）</p> <p>第10回 資金調達③（株式以外の資金調達手段）</p> <p>第11回 機関①（機関総論）</p> <p>第12回 機関②（株主総会）</p> <p>第13回 機関③（取締役・取締役会）</p> <p>第14回 機関④（監査役・会計参与・会計監査人）</p> <p>第15回 機関⑤（指名委員会等設置会社・監査当委員会設置会社）</p>			
授業外学習(予習・復習)	復讐を徹底して、小テストに備えること			
成績評価の方法	期末テスト80%小テスト20% 全体で60%以上を合格とする			
実務経験について	なし			

授業科目	産業心理学		担当者	岡村俊彦
	[履修年次]	指定なし	授業外対応	講義前後に適宜対応
	[学期]	前期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】産業に関わる心理学を多角的に学ぶ</p> <p>【概要】産業におけるヒューマンファクター（人的要因）を多角的に考える。前半は主に労働者の心理的側面を対象とするが、人間の基本的な特性もとらえることで、コンピュータを始め、システムの評価など多方面への応用も可能となる。後半は消費者の心理を対象とし、購買行動に関する様々な要因を考えていく。簡単な心理実験、心理テストなども織り交ぜていく予定である。</p> <p>【到達目標】商品、システム、労働環境を人間の快適性から評価し、改善を考えることができるようになる。また、購買行動に関わる心理を売り手、買い手の両面から考えることができるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布、Webでも公開</p> <p>(2) なし</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 概要説明</p> <p>第2回 人間とシステムの関わり合い、精神作業：ヒューマンインターフェイスの概念と精神作業の種類と性質</p> <p>第3回 記憶と学習：記憶と学習のメカニズムと産業への応用</p> <p>第4回 ヒューマンインターフェイス1：ヒューマンインターフェイスの基本原則</p> <p>第5回 ヒューマンインターフェイス2：ヒューマンインターフェイスの事例紹介</p> <p>第6回 職場のストレス：仕事におけるストレスのメカニズムと対策</p> <p>第7回 仕事の成功と動機付け：成功、失敗の心理的要因と仕事に対するモチベーションの種類</p> <p>第8回 人間関係、労働時間：職場における人間関係。労働時間と仕事の関係</p> <p>第9回 ユニバーサルデザイン：UDの理論と実践例</p> <p>第10回 広告の心理学：広告が視聴者にあたえる影響とメカニズム</p> <p>第11回 購買心理：消費者の購買心理</p> <p>第12回 販売、印象管理：セールステクニックと印章管理</p> <p>第13回 人間のエラー：人間のエラーのメカニズムと対策</p> <p>第14回 こころをはかる生理心理学：生理的現象の測定による心理状況の推察</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	通常のレポート2回分が80%、授業ごとのリアクションペーパーが20%			
実務経験について	なし			

授業科目	会計学総論		担当者	宗田 健一				
	〔履修年次〕	1～3年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応				
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	講義形式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 会計学の全体像を知る。</p> <p>【概要】 この講義は、これから会計を学習しようと思っている人を対象としています。会計の様々な領域について学習をします。半年間で、会計学の全体的な内容を理解することができます。</p> <p>【到達目標】 会計学の全体像を知る。会計学の様々な領域について学ぶ。会計の社会における役割を知る。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 小野正芳編著『スタートアップ会計学』(第3版) 同文館出版。</p> <p>(2) 桜井久勝『財務会計講義』(第22版) 中央経済社、その他は講義中に指示します。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス、会計って何? 簿記・会計はどこからやってきたの? 簿記・会計の歴史概要</p> <p>第2回 会計にどんな資格があるのか? 会計の社会的役割</p> <p>第3回 会計はどう利用するの? 財務分析の概要</p> <p>第4回 企業の成績はどうやってみるの? 財務諸表の概要</p> <p>第5回 会計は経営にどう役立つの? 管理会計の概要</p> <p>第6回 モノがいくらでできたかはどうやって決まるの? 原価計算の概要</p> <p>第7回 会計情報はどのように作られるの? 簿記の概要</p> <p>第8回 会計制度はどうなっているの? 財務会計の概要</p> <p>第9回 財務諸表は信頼できるの? 財務諸表監査の概要</p> <p>第10回 会社の税金はいくらになるの? 税務会計の概要</p> <p>第11回 グローバル経済における会計ルールってなに? 国際会計の概要</p> <p>第12回 持続可能な社会づくりに会計はどう貢献できるの? 環境会計・CSR会計の概要</p> <p>第13回 ボランティア活動にも儲けが必要な? 非営利会計の概要</p> <p>第14回 自治体の会計はどうなっているの? 公会計の概要</p> <p>第15回 まとめ: 試験範囲の提示, 成績評価方法の説明, 質疑応答, 授業評価アンケートの実施</p>							
授業外学習(予習・復習)	復習が大切です。							
成績評価の方法	期末レポート(100%)							
実務経験について	なし							

*講義担当者のコロナ対応、出張などで、遠隔授業(オンデマンド形式)などを用いる場合がある。

授業科目	簿記論I		担当者	岡村雄輝				
	〔履修年次〕	指定なし	授業外対応	講義前後に適宜対応				
	〔学期〕	前期	〔単位〕	2単位	〔必修/選択〕	選択	〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 複式簿記の基本原則を学ぶ</p> <p>【概要】 日商簿記3級レベルのテキスト、ワークブックを使用して複式簿記による記帳手続を解説し、問題演習に取り組みます。簿記力を着実に養い、より高度な会計を学ぶためには、問題演習の反復を通じた複式簿記の基本原則の理解が肝要です。勤勉な学習姿勢が望まれます。※簿記論IIと連続して講義を展開しますので、併せて受講してください。</p> <p>【到達目標】 簿記上の取引を仕訳・転記する手続から、決算本手続までの概要を理解する。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 渡部裕巨、片山寛、北村敬子(編)『新検定 簿記講義3級 商業簿記』『新検定 簿記ワークブック』(令和5年版)、中央経済社。</p> <p>(2) 大藪俊哉編『簿記テキスト』(第6版)、中央経済社。</p>							
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス: 履修登録の確認、講義概要の説明</p> <p>第2回 仕訳と転記: 勘定、取引の意義と種類、取引8要素と結合関係</p> <p>第3回 仕訳帳と元帳: 帳簿の種類、仕訳帳への記入、総勘定元帳への転記</p> <p>第4回 決算: 帳簿の締切りと財務諸表の作成、決算手続と精算表</p> <p>第5回 現金と預金: 現金勘定と現金出納帳、現金過不足、当座預金と当座借越</p> <p>第6回 繰越商品・仕入・売上: 3分法、諸掛と返品</p> <p>第7回 売掛金と買掛金: 売掛金と買掛金の意義、人名勘定、売掛金と元帳と買掛金元帳</p> <p>第8回 その他の債権と債務: 貸付金と借入金、未収入金と未払金、立替金と預り金</p> <p>第9回 受取手形と支払手形: 手形の振出しと受入れ、受取手形記入帳と支払手形記入帳、電子記録債権と債務</p> <p>第10回 貸倒損失と貸倒引当金: 貸倒れとは?、貸倒引当金の設定</p> <p>第11回 収益と費用: 収益・費用の未収・未払いと前受け・前払い</p> <p>第12回 税金: 租税公課、法人税、住民税及び事業税、消費税</p> <p>第13回 財務諸表: 決算手続、試算表作成、棚卸表の作成と決算整理事項</p> <p>第14回 総合問題: 問題演習と解説①</p> <p>第15回 総合問題: 問題演習と解説③</p>							
授業外学習(予習・復習)	毎回復習をすること。継続的な学習なしに簿記までできるようになりません。							
成績評価の方法	期末テスト100%							
実務経験について	なし							

授業科目	経営学総論		担当者	竹中啓之
	[履修年次] 1, 2, 3年いずれも可		授業外対応	適宜対応 (要予約)、及び講義終了後
	[学期] 前期	[単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】経営学全般について、幅広く理解し、経営学の特徴的な考え方を習得する。</p> <p>【概要】この講義では、これから経営学を学ぶにあたって、必要と思われる知識や考え方について説明する。まず、経営学が取り扱う様々なテーマをできるだけ幅広く取り上げ、企業や組織の仕組みを理解する。また、単なる知識の習得だけではなく、経営学が持っている特徴的な考え方も説明し、それに触れることで、その他の経営学関連の科目の修得の手助けになることを目指す。さらに、経営学が取り扱うテーマは、企業だけではなく、様々な場面で役立てることができる、実践的な学問であることも説明していくことにする。</p> <p>【到達目標】経営学に関する基礎的な知識を習得する。経営学と社会との関わりを理解する。そのほかの経営学関連の科目を履修する際に手助けとなるような力を身につける。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業中に配布するプリント</p> <p>(2) 講義中に指示する</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 講義概要の説明：講義の進め方・内容・評価方法について説明する。</p> <p>第 2回 経営学と経済学の違い：経営学と経済学の最も特徴的な違いについて説明する。</p> <p>第 3回 経営学の発展と必要性：経営学がいつに社会にとって必要とされてきたかを理解する。</p> <p>第 4回 企業の種類について：企業の種類とそれぞれの特徴について考える。</p> <p>第 5回 企業の目的と役割について：企業が持っている目的と、果たすべき役割について理解する。</p> <p>第 6回 企業における4つの経営資源（ヒト）：働く私たちと企業と関係を考える。</p> <p>第 7回 企業における4つの経営資源（カネ）：企業の資金調達の方法などについて説明する。</p> <p>第 8回 これまでのまとめと補足説明、及び中間テスト（予定）</p> <p>第 9回 企業における4つの経営資源（モノ）：主にマーケティングについて説明する。</p> <p>第 10回 企業における4つの経営資源（情報）：企業における情報の種類やその活用方法について説明する。</p> <p>第 11回 日本の経営を考える：年功主義や終身雇用、そして成果主義・能力主義などについて考える。</p> <p>第 12回 組織の基本的な仕組みについて：基本的な組織構造を理解し、その特徴を知る。</p> <p>第 13回 企業統治について：株式会社の意思決定の仕組みについて説明する。</p> <p>第 14回 経営戦略を考える：経営戦略の考え方について説明する。</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	期末筆記試験（70%）、中間レポートもしくは小テスト（30%）（予定） 詳細は1回目の講義で説明します。			
実務経験について	なし			

授業科目	情報科学概論		担当者	岡村俊彦
	[履修年次] 指定なし		授業外対応	講義前後に適宜対応
	[学期] 後期	[単位] 2単位	[必修/選択] 選択	[授業形態] 演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】コンピュータやネットワークなど情報科学（ICT）全般の基礎知識を学ぶ</p> <p>【概要】コンピュータ（ハードウェア、ソフトウェア、周辺機器）やネットワークの仕組みを知り、現代社会においてどのような役割があり、どのような問題点があるかを知る。結果として、効果的かつ適切なIT活用が可能となり、トラブル解決もできるようになる。また、ネットワークを安全に使うためのルール、マナーを学ぶ。また、授業の3分の1程度の時間を使い、ITに関する学生からの質問に対する解説をおこなう。</p> <p>【到達目標】・初心者向け情報関連雑誌を80%以上理解できる・初心者に対して、パソコンやネットワークの安全、便利な運用に関する簡単なアドバイスができる・調子の悪いパソコンを直す</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布、Webでも公開</p> <p>(2) 初心者向け情報関連雑誌</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 概要説明</p> <p>第 2回 ハードウェアとソフトウェア：ハードとソフトの違いと役割</p> <p>第 3回 パソコンの中身：パソコン内部の部品とその役割</p> <p>第 4回 単位と容量と速度：情報処理や通信に関わる単位と容量、速度</p> <p>第 5回 インターネットの仕組み：インターネットとネットワークの仕組み</p> <p>第 6回 電子メールの使い方：電子メールの仕組みと正しい使用方法</p> <p>第 7回 ITセキュリティ：マルウェアとセキュリティ対策</p> <p>第 8回 インターフェイス：インターフェイスの種類と特性</p> <p>第 9回 周辺機器1：モニタ、光学ドライブなど周辺機器の役割、仕組み</p> <p>第 10回 周辺機器2：プリンタ、デジカメなど周辺機器の役割、仕組み</p> <p>第 11回 ソフトの分類：ソフトウェアの分類と正しい使用方法</p> <p>第 12回 Web3、クラウド、ビッグデータ、IoT：新たなインターネットのトレンドと今後の展開</p> <p>第 13回 スペックの見方：パソコン、周辺機器のスペック（仕様）の見方</p> <p>第 14回 AIとDX、インターネットの国際比較：AIとDXの基本知識、とインターネット利用の国際比較</p> <p>第 15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	通通常レポート2回分が80%、授業ごとのリアクションペーパーが20%			
実務経験について	なし			

授業科目	文書作成実習（第二部）		担当者	永仮ゆかり
	〔履修年次〕	1年	授業外対応	講義終了時および必要に応じてメール
	〔学期〕	後期	〔単位〕	1
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>「Microsoft Word」を活用した、実践的なビジネス文書の作成能力の習得</p> <p>【概要】</p> <p>「Microsoft Word」を活用した実践的なビジネス文書の作成能力、IT・ネットワーク関連知識、文章の読解力、文書作成上の技巧など広く文書処理全般にわたる技能を習得することを目的とする。また、あわせて日商 PC 検定（文書作成 3 級）対策を行い、資格取得を目指す。</p> <p>【到達目標】</p> <p>実践的なビジネス文書の作成能力の習得（日商 PC 検定文書作成 3 級合格レベルの技能の習得）</p> <p>*後期から履修する場合は、前期「情報リテラシー I」授業内容程度の技能を習得していることを前提とする</p>			
(1)テキスト	(1)	富士通エフ・オー・エム（株）『改訂版 日商 PC 検定試験 3 級 知識科目 公式問題集』 FOM 出版		
(2)参考文献	(2)	富士通エフ・オー・エム（株）『よくわかる Microsoft Word 2019 基礎』 FOM 出版 ほか授業にて紹介する		
授業スケジュール	第 1 回	前期の復習	: 概要説明、前期の復習（基本的なビジネス文書の作成）	
	第 2 回	検定対策（3 級）	: 社外文書の作成（案内状）、知識問題（共通分野）	
	第 3 回	検定対策（3 級）	: 課題文書作成 1（表を利用した文書の作成）、知識問題（共通分野）	
	第 4 回	検定対策（3 級）	: 図形を利用した文書の作成、知識問題（共通分野）	
	第 5 回	検定対策（3 級）	: 報告書の作成（計算式を含む文書）、図形の補足、知識問題（共通分野）	
	第 6 回	検定対策（3 級）	: 通知状の作成、知識問題（共通分野）	
	第 7 回	検定対策（3 級）	: 課題文書作成 2（文書作成 3 級実技練習問題）、知識問題（共通分野）	
	第 8 回	検定対策（3 級）	: 文書作成 3 級検定模擬問題演習、知識問題（共通分野）	
	第 9 回	検定対策（3 級）	: 文書作成 3 級検定模擬問題演習	
	第 10 回	Excel データの利用	: Excel データ（表、グラフ）の文書への取り込み	
	第 11 回	文書の編集	: いろいろな応用機能（スタイル、セクション区切りの挿入、文書の挿入など）	
	第 12 回	報告書の作成	: 課題文書作成 3（Excel データ・テキストファイルの利用、書式のコピーなど）	
	第 13 回	稟議書の作成	: 稟議書の作成（ユーザー定義の段落番号、表の編集など）	
	第 14 回	議事録の作成	: 議事録の作成（テンプレートの利用、スタイルの設定、セクション区切りなど）	
	第 15 回	まとめ		
授業外学習(予習・復習)	知識問題の予習・復習、「Microsoft Word」操作の復習など適宜指示			
成績評価の方法	期末試験（知識科目 20%+実技科目 50%）+授業中に実施する課題（30%）			
実務経験について	OA インストラクター、職業能力開発校パソコン実習科目の講師、市民講座パソコン講座の講師			

授業科目	統計学		担当者	倉重賢治
	〔履修年次〕	1,2,3年	授業外対応	適宜対応
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>基本的な統計解析を学ぶ</p> <p>【概要】</p> <p>現在、情報技術を有効に活用してデータ収集を行い、そのデータの分布や性質を明らかにすることが重要視されている。この講義では、そのためのツールとしての基本的な統計解析を学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的なデータ処理を行う ・相関関係について理解する ・検定について理解する 			
(1)テキスト	(1)	プリント		
(2)参考文献	(2)	木下栄蔵、『入門統計解析』、講談社サイエンティフィク		
授業スケジュール	第 1 回	序論：統計学とは		
	第 2 回	データの基本処理：平均値、度数分布		
	第 3 回	データの基本処理：標準正規分布		
	第 4 回	データの基本処理：正規分布		
	第 5 回	データの基本処理：正規分布と偏差値		
	第 6 回	データの基本処理：確率分布		
	第 7 回	統計解析：相関係数		
	第 8 回	統計解析：回帰直線		
	第 9 回	統計解析：カイ 2 乗検定		
	第 10 回	統計解析：平均値の推定		
	第 11 回	統計解析：平均値の検定		
	第 12 回	統計解析：比率の推定と検定		
	第 13 回	統計解析：ベイズ統計学		
	第 14 回	統計解析：分散分析		
	第 15 回	まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	授業中の課題（20%）+期末試験（80%）			
実務経験について	なし			

授業科目	応用文書処理		担当者	岡村俊彦	
	[履修年次]	2,3年	授業外対応	講義前後に適宜対応	
	[学期]	前期	[単位]	1単位	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】複数のアプリケーションを有機的に活用しながら、ネットワークにも対応したドキュメント作成を学ぶ</p> <p>【概要】1) 自己紹介文書作成：ワープロソフトを核に、グラフや写真などを含んだ自己紹介文書を作成する。 2) ホームページ作成：自分なりの大学のホームページを作成し、公開する。 3) 提案書作成：インターネット検索と表計算ソフトを使い、架空の提案書を作成する。</p> <p>【到達目標】初めて扱うソフトでもすぐに使えるようになる ・わかりやすいドキュメントを作成する ・インターネット上のルールやマナーを身に付ける。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1)	Web で公開			
	(2)	なし			
授業スケジュール	<p>第 1回 概要説明</p> <p>第 2回 自己紹介文書作成 1：ワープロを使ったベース文書の作成</p> <p>第 3回 自己紹介文書作成 2：表計算ソフトを使ったグラフ作成とベース文書の結合</p> <p>第 4回 自己紹介文書作成 3：写真、図の取り扱いとベース文書の結合</p> <p>第 5回 自己紹介文書作成 4：仕上げ。印刷設定のコツ</p> <p>第 6回 ホームページ作成 1：HTML 概念の復習。USB メモリへのソフトの導入</p> <p>第 7回 ホームページ作成 2：課題設定とページ作成</p> <p>第 8回 ホームページ作成 3：資料収集とページ作成</p> <p>第 9回 ホームページ作成 4：ページ公開</p> <p>第 10回 提案書作成 1：インターネットによる費用情報検索</p> <p>第 11回 提案書作成 2：表計算ソフトを使った自動計算書</p> <p>第 12回 提案書作成 3：プレゼン資料の作成</p> <p>第 13回 提案書作成 4：仕上げ、データ送信のコツ</p> <p>第 14回 提案書作成 5：プレゼンと評価</p> <p>第 15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	適宜指示				
成績評価の方法	レポート (3つの課題を総合的に評価)				
実務経験について	なし				

授業科目	PCデータ活用		担当者	口脇淳子	
	[履修年次]	1年	授業外対応	授業後のまとめプリントで質問対応・習熟度確認	
	[学期]	前期	[単位]	1	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】表計算ソフト「Microsoft Excel」を活用した基本操作の習得と活用</p> <p>【概要】表計算ソフト「Microsoft Excel」を使用し、まずは作表やグラフ化・業務データの分析など実務に必要な機能・操作法を習得する。さらに各機能の特徴と活用法を目的に応じて使い分けができる応用力を身につけられる技術を学ぶ。</p> <p>【到達目標】表計算ソフト「Microsoft Excel」の基本操作を確実に習得する。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	(1)	実教出版編修部 30時間でマスター Excel2021 (Windows11 対応) 実教出版株式会社			
	(2)	なし			
授業スケジュール	<p>第 1回 Excel の起動と画面の確認 文字入力の確認</p> <p>第 2回 簡単な表作成とグラフ化：Excel の基本的な流れを確認</p> <p>第 3回 編集機能を活用した見やすい表の作成：行・列の操作・計算式や関数 (合計・平均) の活用</p> <p>第 4回 編集機能を活用した見やすい表の作成：体裁の整え方・罫線</p> <p>第 5回 データ処理：関数の利用 (カウント・端数処理など)</p> <p>第 6回 データ処理：関数の利用 (条件の判定・論理関数など)</p> <p>第 7回 データ処理：関数の利用 (順位づけ・VLOOKUP など)</p> <p>第 8回 各関数を利用した実習問題 (小テスト)</p> <p>第 9回 棒グラフ・折れ線グラフの作成とさまざまな設定 (軸ラベル・データラベル・目盛りなど)</p> <p>第 10回 円グラフ・3-D グラフの作成とさまざまな設定 (データ範囲の変更・系列の書式など)</p> <p>第 11回 複合グラフ・ドーナツグラフ・絵グラフの作成 (系列の設定・テキストボックスの利用・画像の利用など)</p> <p>第 12回 データベース入門：データベース作成上の各機能</p> <p>第 13回 データの集計 (並べ替え・抽出 ほか)</p> <p>第 14回 データの集計 (ピボットテーブル)</p> <p>第 15回 前期のまとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	各回の授業後、テキスト内の練習問題を復習し、次回授業時に提出もしくは確認を行う。				
成績評価の方法	期末試験 (70%) + 小テスト (20%) + 授業で課せられる課題の提出状況 (10%)				
実務経験について	企業、個人への講習会講師				

授業科目	PCデータ活用実習		担当者	口脇淳子
	[履修年次] 1年	[学期] 後期	[単位] 1	[必修/選択] 選択
			[授業外対応]	授業後のまとめプリントで質問対応・習熟度確認
			[授業形態]	演習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 表計算ソフト「Microsoft Excel」を活用したビジネス現場で活用できる実践的な知識と技術の習得</p> <p>【概要】 前期に習得した機能を活用し、さまざまな実践問題に取り組む。また、実務に必要な業務知識も身につけられるようにする。授業は、検定対策として問題形式で進めていくが業務遂行に必要な内容を学習する。</p> <p>【到達目標】 知識と技術の習得を日商PC検定試験（データ活用）の3級資格取得で確認 ☆ 後期から履修する場合は、前期授業内容程度の技術を習得していることを前提とする</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 実教出版編修部 30時間でマスター Excel2021 (Windows11 対応) 実教出版株式会社</p> <p>(2) プリント</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 前期授業の復習</p> <p>第2回 検定対策問題：構成比を求める問題 知識科目問題</p> <p>第3回 検定対策問題：データの追加入力がある問題 知識科目問題</p> <p>第4回 検定対策問題：ABC分析 知識科目問題</p> <p>第5回 検定対策問題：簿記の要素を含んだ問題 知識科目問題</p> <p>第6回 検定対策問題：利益率を求める問題 知識科目問題</p> <p>第7回 検定対策問題：データの集計を取る問題 知識科目問題</p> <p>第8回 検定対策問題：達成率を求める問題 知識科目問題</p> <p>第9回 検定対策問題小テスト（実技問題・知識科目問題）</p> <p>第10回 検定対策問題：伸び率を求める問題 知識科目問題</p> <p>第11回 検定対策問題：データを参照する問題 知識科目問題</p> <p>第12回 検定対策問題：集計データから請求書を作成する問題 知識科目問題</p> <p>第13回 検定対策問題：別シートのデータから計算式を設定する問題 知識科目問題</p> <p>第14回 検定対策問題：集計データをグループ化する問題 知識科目問題</p> <p>第15回 後期のまとめ 知識科目問題</p>			
授業外学習(予習・復習)	授業後、同じ問題を、時間を計って解いてみる			
成績評価の方法	期末試験(70%) + 小テスト(20%) + 授業で課せられる課題の提出状況(10%)			
実務経験について	企業、個人への講習会講師			

授業科目	PCアプリケーション実習(A)		担当者	上野 祐子
	[履修年次] 1年	[学期] 後期	[単位] 1単位	[必修/選択] 選択
			[授業外対応]	講義終了時、適宜対応(要予約)
			[授業形態]	実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】様々なアプリケーションソフトを使ってみよう</p> <p>【概要】事務系の職に就いても、プログラミングやPDF編集、データベースの仕事をする機会が増えてきている。また、様々な機能が搭載された使い勝手の良いアプリケーションソフトは多数存在するが、その習得には非常に時間がかかる。そこで、この授業では、学校やビジネスでよく使用されている代表的なアプリケーションソフトの基本的な操作方法を学ぶ。なお、ホームページ作成については、その仕組みを理解して欲しいため、専用のソフトではなくメモ帳を使用する。</p> <p>【到達目標】各アプリケーションで課題を完成させる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 適宜プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業にて紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション、ホームページ作成 (HTML: 見出し, 画像, 箇条書き, ハイパーリンク, 表)</p> <p>第2回 ホームページ作成2 (HTML: 段落, 水平線, 地図, 動画)</p> <p>第3回 ホームページ作成3 (CSS: Webページのデザイン設定, 鑑賞会) 第1回課題</p> <p>第4回 プログラミング (Scratch)</p> <p>第5回 プログラミング2 (Scratch)</p> <p>第6回 プログラミング3 (言語は受講者の希望により決定する) 第2回課題</p> <p>第7回 動画編集 (フォト: 起動, トリミング, テキスト入りビデオの作成, 素材の収集)</p> <p>第8回 動画編集2 (フォト: 描画, クリップの速度, 音楽, 3D効果)</p> <p>第9回 動画編集3 (フォト: タイトル, 鑑賞会) 第3回課題</p> <p>第10回 データベース (Excelのデータベース機能)</p> <p>第11回 データベース2 (Microsoft Access: テーブル, クエリ)</p> <p>第12回 データベース3 (Microsoft Access: テーブル, クエリ, フォーム) 第4回課題</p> <p>第13回 PDF編集 (Adobe Acrobat Reader: PDFの作成と閲覧)</p> <p>第14回 PDF編集2 (Adobe Acrobat Reader: PDF編集)</p> <p>第15回 PDF編集3 (Adobe Acrobat Pro: 画像やファイルでPDF資料作成, 鑑賞会) 第5回課題</p>			
授業外学習(予習・復習)	興味を持って予習し、授業内容の復習をすること。			
成績評価の方法	5回の課題(80%)と期末レポート(20%)の総合評価			
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア, 中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座講師。			

授業科目	PCアプリケーション実習 (B)		担当者	上野 祐子
	[履修年次] 1年	[学期] 後期	[単位] 1単位	[授業外対応] 講義終了時, 適宜対応 (要予約)
			[必修/選択] 選択	[授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 様々なアプリケーションソフトを使ってみよう</p> <p>【概要】 事務系の職に就いても、プログラミングやPDF編集、データベースの仕事をする機会が増えてきている。また、様々な機能が搭載された使い勝手の良いアプリケーションソフトは多数存在するが、その習得には非常に時間がかかる。そこで、この授業では、学校やビジネスでよく使用されている代表的なアプリケーションソフトの基本的な操作方法を学ぶ。なお、ホームページ作成については、その仕組みを理解して欲しいため、専用のソフトではなくメモ帳を使用する。</p> <p>【到達目標】 各アプリケーションで課題を完成させる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 適宜プリントを配布する。</p> <p>(2) 授業にて紹介する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1 回 オリエンテーション、ホームページ作成 (HTML : 見出し, 画像, 箇条書き, ハイパーリンク, 表)</p> <p>第 2 回 ホームページ作成 2 (HTML : 段落, 水平線, 地図, 動画)</p> <p>第 3 回 ホームページ作成 3 (CSS : Web ページのデザイン設定, 鑑賞会) 第 1 回課題</p> <p>第 4 回 プログラミング (Scratch)</p> <p>第 5 回 プログラミング 2 (Scratch)</p> <p>第 6 回 プログラミング 3 (言語は受講者の希望により決定する) 第 2 回課題</p> <p>第 7 回 動画編集 (フォト : 起動, トリミング, テキスト入りビデオの作成, 素材の収集)</p> <p>第 8 回 動画編集 2 (フォト : 描画, クリップの速度, 音楽, 3D 効果)</p> <p>第 9 回 動画編集 3 (フォト : タイトル, 鑑賞会) 第 3 回課題</p> <p>第 10 回 データベース (Excel のデータベース機能)</p> <p>第 11 回 データベース 2 (Microsoft Access : テーブル, クエリ)</p> <p>第 12 回 データベース 3 (Microsoft Access : テーブル, クエリ, フォーム) 第 4 回課題</p> <p>第 13 回 PDF 編集 (Adobe Acrobat Reader : PDF の作成と閲覧)</p> <p>第 14 回 PDF 編集 2 (Adobe Acrobat Reader : PDF 編集)</p> <p>第 15 回 PDF 編集 3 (Adobe Acrobat Pro : 画像やファイルで PDF 資料作成, 鑑賞会) 第 5 回課題</p>			
授業外学習(予習・復習)	興味を持って予習し、授業内容の復習をすること。			
成績評価の方法	5 回の課題 (80%) と期末レポート (20%) の総合評価			
実務経験について	大企業ではシステムエンジニア, 中小企業では会計事務員として勤務した経験有り。日商マスター。市民講座講師。			

授業科目	日本経済論	担当者	船津 潤
	[履修年次] 1, 2, 3年	授業外対応	講義前後, それ以外にも随時(日時を調整することがあるかもしれませんが, 遠慮なく声をかけてください)
	[学期] 前期 [単位] 2	[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】日本の明治維新以降の経済・経済政策の動きとその背景について理解を深めること</p> <p>【概要】明治維新から現在までの日本の経済と経済政策の動向について, 特に産業政策, そして構造改革とアベノミクスに焦点を当てながら講義します。また, 過去が現在とどうつながっているかという歴史的推移とともに, 石油危機, プラザ合意, 日米構造協議, そしてグローバル化といった海外からの影響を強く意識しながら講義を進めます。</p> <p>【到達目標】①明治維新以降の日本の経済と経済政策の歴史的推移について理解し, 説明できるようになること ②日本経済の歴史と海外とのつながりを踏まえて, 日本経済の現状と課題について自分なりの見解が持てるようになること</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし</p> <p>(2) 三和良一『概説日本経済史 近現代 (第3版)』東京大学出版会 内閣府『年次経済財政報告 各年度版』</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 ガイダンス: 講義の目標, 評価基準等の説明</p> <p>第 2 回 日本の産業政策の歴史 戦前(1): 資本主義社会とはどんな社会か等</p> <p>第 3 回 日本の産業政策の歴史 戦前(2): 明治維新の意義, その後の産業構造の変化等</p> <p>第 4 回 敗戦直後の日本経済: 敗戦直後の状況, 傾斜生産方式, 1950年代前半の産業政策等</p> <p>第 5 回 高度成長の開始: 高度成長初期の産業政策と経済状況・産業構造等</p> <p>第 6 回 行政指導: 勧告操短, 企業の反発等</p> <p>第 7 回 開放経済体制への移行: IMF8 条国への移行, 産業再編等</p> <p>第 8 回 1970年代の日本経済: 2度のオイル・ショック, 構造不況業種への対応, 知識集約化・高付加価値化への動き等</p> <p>第 9 回 企業集団とその変化: 戦後の企業集団の特徴, グループ内の結び付き, 現在の状況等</p> <p>第 10 回 1980年代以降の日本経済: 対米貿易摩擦, 日米構造協議等</p> <p>第 11 回 現在の産業政策: 産業競争力強化法, 現在の産業政策の特徴等</p> <p>第 12 回 グローバル化と構造改革への動き: プラザ合意と国際協調, バブル崩壊後の動向等</p> <p>第 13 回 構造改革: 構造改革の特徴・本質等</p> <p>第 14 回 構造改革とアベノミクス: 構造改革下の福祉改革の内容と特徴, アベノミクスとの比較等</p> <p>第 15 回 まとめ: 講義を振り返りつつポイントの説明, 試験についての説明等</p>		
授業外学習(予習・復習)	<p>普段から日本経済関連のニュース(できれば外国のメディアを含む複数)に注目すること, 特に講義後に関連する事項についてインターネットや文献等を通して調べ, 検討することを勧めます(これらは公務員試験を含む就職活動や四大への編入にも有意義です)。そして, 講義内容に直接関係しなくても, 聞きたいことが出てきたら, 遠慮なく質問してください。</p>		
成績評価の方法	<p>筆記試験(80%), 小テスト(20%)を基本とし, アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。</p>		
実務経験について	なし		

授業科目	財政学	担当者	船津 潤
	〔履修年次〕 1, 2, 3年	授業外対応	講義前後, それ以外にも随時(日時を調整することがあるかもしれませんが, 遠慮なく声をかけてください)
	〔学期〕 後期 〔単位〕 2	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 財政に関する基本的な概念や理論, 日本の財政の基礎的な制度について, 内容, 実態, 特徴, 課題に関する理解を深めること</p> <p>【概要】 まずは財政に関する基本的な概念や理論について講義します。その上で, それらを踏まえて財政の基礎的な制度に関する講義を行います。そこでは, 財政民主主義という財政制度の根幹, 経済における公共部門と民間部門の関係, 歴史的推移, そしてグローバル化の影響を強く意識しながら講義を進めます。この講義を受講することで, 他の科目で学んだマクロ経済学の理論等が実際にどのように政策に活用されているのかも理解できると思います。また, 財政は, 政治と経済の「結節点」(つなぎ目)の役割を担っていますので, 他の科目では触れることが少ない経済に対する政治の影響に関しても見識を高めることができます。</p> <p>【到達目標】 ①財政の基礎的な制度について理解し, 説明できるようになること ②実際の政府の活動について分析・評価できるようになること ③マクロ経済学の理論等がどのように政策に活用されているのかを理解すること ④財政の影響を踏まえて, 経済・社会の動向を的確に把握できるようになること</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) なし (2) 金澤史男編著『財政学』有斐閣(2005年) 植田和弘・諸富徹編著『テキストブック現代財政学』有斐閣(2016年) 佐々木伯朗編著『財政学』有斐閣(2019年) 廣光俊昭編著『図説 日本の財政 各年度版』東洋経済新報社		
授業スケジュール	第 1 回 ガイダンス: 講義の目標, 評価基準等の説明 第 2 回 財政(1): 財政の定義, 財政学の特徴, 政府に対する評価の揺れ等 第 3 回 財政(2): 市場の失敗, 財政民主主義と制度化に必要な原則等 第 4 回 予算(1): 定義, 役割, 政府と議会の役割, 予算原則等 第 5 回 予算(2): 予算の種類, 特別会計と「埋蔵金」, 改革の方向等 第 6 回 経費(1): 定義, 主要な分類, 経費膨張の法則, 転位効果等 第 7 回 経費(2): 小さな政府論とサプライサイド・エコノミクス等 第 8 回 租税(1): 定義, 租税の根拠, 代表的な租税原則等 第 9 回 租税(2): 公平の基準, 望ましい税制とは等 第 10 回 公債(1): 定義, 民間債務・租税との対比, 公債の種類等 第 11 回 公債(2): 日本の国債発行における原則, 制度, 「ギリシャよりひどい」は本当か等 第 12 回 財政投融资: 定義, 運用対象, 批判, 2001年度の改革, 今後の展望等 第 13 回 財政の国際化: 国際公共財, グローバル化と国際的財政移転等 第 14 回 財政改革を考える: 社会の変化と財政, 財政危機とは, 財政改革で求められる視点等 第 15 回 まとめ: 講義を振り返りつつポイントの説明, 試験についての説明等		
授業外学習(予習・復習)	講義の前後に財務省のサイト等で関連事項について調べて検討すること, 普段から経済・財政関連のニュースに注目すること(できれば外国のメディアを含む複数, 加えて日本関連だけでなく, 諸外国関連のニュースも)を勧めます(公務員試験を含む就職活動や四大への編入にも有意義です)。そして, 講義内容に直接関係しなくても, 聞きたいことが出てきたら, 遠慮なく質問してください。		
成績評価の方法	筆記試験(80%), 小テスト(20%)を基本とし, アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。		
実務経験について	なし		

授業科目	農業経済論		担当者
	[履修年次]	[学期]	授業外対応
	[単位]	[必修/選択]	[授業形態]
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第 1 回 第 2 回 第 3 回 第 4 回 第 5 回 第 6 回 第 7 回 第 8 回 第 9 回 第 10 回 第 11 回 第 12 回 第 13 回 第 14 回 第 15 回		
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法			
実務経験について			

授業科目	経済学史		担当者	カムチャイ	ライサミ
	[履修年次]	1年、2年、3年	授業外対応	講義終了時	
	[学期]	前期	[単位]	2	[必修/選択]
	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]
					講義
テーマ及び概要	【テーマ】 経済学史入門 経済学説の史的展開をやさしく解説する。 【概要】 経済学の時代的要請と経済学者の人となり 経済学の黎明期前後（17世紀頃）から現代経済学（20世紀初頭）までの主要学説と経済学者を中心に紹介する。 【到達目標】 経済学の歴史を知ることによって経済学をより深く理解できること 経済学の歴史を学んでその意義と限界を知ることによって正しい見方を身につける。				
(1)テキスト (2)参考文献	(1) テキストなし。毎回プリントを配布する。 (2) 必要に応じて、その都度指示する。				
授業スケジュール	第 1 回 経済学史の範囲と方法：経済学史年表 第 2 回 重商主義の経済思想：マリーヌズ、マン、スチュアート 第 3 回 重農主義の経済思想：ケネー、テュルゴー 第 4 回 過渡期の経済思想：ペティ、ロック、マンデヴィル、カンティロン、ヒューム 第 5 回 古典学派の生成：スミス 第 6 回 古典学派の発展：マルサス、リカード 第 7 回 古典学派の完成：セイ、シスモンディ、シーニア、ミル 第 8 回 ドイツ歴史学派：リスト、ロッシュャー、ヒルデブラント、クニース 第 9 回 マルクス学派：マルクス 第 10 回 限界革命の先駆者達：チューネン、ゴッセン、デュピュイ 第 11 回 限界分析の経済学：クールノー、ジェヴォンズ 第 12 回 オーストリア学派：メンガー、ヴィーザー、バウム＝バヴェルク 第 13 回 ローザンヌ学派：ワルラス、パレート 第 14 回 ケンブリッジ学派：マーシャル、ピグー 第 15 回 ケインズ革命：ケインズ				
授業外学習(予習・復習)	授業前後に必ず合計で4時間程度の予習・復習を行うこと。				
成績評価の方法	期末筆記試験(100%)				
実務経験について	なし。				

授業科目	経済学特講		担当者	山口 祐司
	[履修年次]	1、2、3年	授業外対応	メール等で予約の上適宜対応します。
	[学期]	後期	[単位]	2
	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】アメリカ経済とアメリカを中心とした国際経済関係の歴史を通して、経済学上のキーワードを学んでいきます。</p> <p>【概要】 アメリカの力の相対的低下にもかかわらずアメリカに学ぶ意義（第1回）。19世紀から20世紀初頭にかけてのアメリカ経済の勃興（第2～3回）。1929年に始まる大恐慌の原因と結果（第4～6回）。1950～70年代にかけて、アメリカが主導する資本主義陣営の高度経済成長とその限界（第7～9回）。1980年代以降の、「新自由主義」と呼ばれる改革をテコにした新たな経済成長の仕組み（第10～12回）。新自由主義がアメリカにもたらした問題と今後のゆくえ（第13～14回）。経済を考える上でも、科学・技術や文化、政治など、同時代の社会の動きを知ることは重要である。映像資料等を利用してそうした知識も補っていく。</p> <p>【到達目標】 アメリカ経済の歴史から特質を学ぶこと。良い意味でも悪い意味でも資本主義経済の最先端をいくアメリカに学ぶことで、日本を含む世界が直面する経済・社会の問題に取り組む力をつけること。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント (2) 講義時に提示</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス、なぜいまアメリカ経済を学ぶか 第2回 アメリカ経済の勃興（1）大量生産体制 第3回 アメリカ経済の勃興（2）債務国から世界最大の債権国へ 第4回 大恐慌と第二次世界大戦（1）狂騒の1920年代 第5回 大恐慌と第二次世界大戦（2）保護貿易と世界恐慌 第6回 大恐慌と第二次世界大戦（3）ニューディールと戦争 第7回 ブレトンウッズ体制とケインズ政策（1）ブレトンウッズ体制と戦後国際経済秩序 第8回 ブレトンウッズ体制とケインズ政策（2）ケインズ政策と持続的経済成長 第9回 ブレトンウッズ体制とケインズ政策（3）ドル危機と石油危機 第10回 新自由主義の興隆（1）レーガノミクスと金融化 第11回 新自由主義の興隆（2）グローバルサプライチェーンの形成 第12回 新自由主義の興隆（3）先端技術とイノベーション 第13回 新自由主義の帰結（1）リーマンショック 第14回 新自由主義の帰結（2）格差問題のゆくえ 第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	事前に提示する参考文献を予習し、授業後にはプリントをよく見直すようにしてください。			
成績評価の方法	筆記試験（60%）、毎回の授業で実施する授業まとめ（40%）			
実務経験について	なし。			

授業科目	国際経済論		担当者	西原 誠司
	[履修年次]	1、2、3年	授業外対応	メール・Lineで連絡。
	[学期]	後期	[単位]	2
	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 Love & Peace の経済学——国際化する経済と「戦争なき世界」の実現可能性を考える</p> <p>【概要】 ナチスドイツのポーランド侵攻を契機に始まった第二次世界大戦は、500万人のユダヤ人を含む6000万人の死者をだし、終結した。大戦後、様々な紛争・戦争は起こったが、第三次世界大戦は、起こっていない。では、なぜ、世界戦争が起らなかったのか。このことの原因を、グローバル化した経済に求め、9・11以後多発するテロをなくす条件を考える。</p> <p>【到達目標】 グローバル化した経済（国際経済）の現段階を認識することによって、どうすれば世界平和を実現することができるのかを考え、行動する力を身につける。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 西原誠司『グローバルライゼーションと民族・国家を超える共同体』（文理閣、2022年） (2) 朝日吉太郎編著『欧州グローバル化の新ステージ』（文理閣、2015年） 西原誠司『グローバルライゼーションと現代の恐慌』（文理閣、2000年）</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 はじめに——アンネ・フランクの悲劇を繰り返さないために 第2回 資本主義の発展と貧困・恐慌・戦争——19世紀資本主義と20世紀資本主義の違い 第3回 資本主義のグローバル化と戦争を引き起こす政治・経済的条件の変化 第4回 資本主義のグローバル化と国際的地域経済ブロックの登場 第5回 グローバル化する経済とEUの新しい実験 ① 戦争の原因となった資源の共同管理 第6回 グローバル化する経済とEUの新しい実験 ② 関税同盟・市場統合・通貨統合 第7回 グローバル化する経済とEUの新しい実験 ③ 新しい国際通貨ユーロ登場の意味と金融危機 第8回 グローバル化する経済とEUの新しい実験 ④ 人間と環境にやさしい新しい社会をめざして 第9回 グローバル化する経済とEUの新しい実験 ⑤ 多文化主義・多言語主義とEU統合 第10回 最後の帝国主義アメリカ ①——ふたつの大戦による西欧の没落と米国の覇権の確立 第11回 最後の帝国主義アメリカ ②——多国籍企業の対外進出と経済競争・ベトナム戦争の敗北 第12回 最後の帝国主義アメリカ ③——米・ソ冷戦体制の終焉とアメリカの「復活」・「没落」 第13回 動揺する西欧世界とイスラム世界——モダンイスラム・トルコの挑戦と苦悩 第14回 台頭する中国の新シルクロード戦略と「平和国家」・日本の役割 第15回 おわりに——杉原千畝の生き方に学ぶ</p>			
授業外学習(予習・復習)	テキストの該当箇所を事前に読み、講義のあと、復習をし、それを通じて自分の見解を形成することに心がけてください。			
成績評価の方法	授業態度（積極的に授業に参加しているか、感想文の提出）および筆記試験。			

授業科目	アジア経済論		担当者	山本 一哉
	〔履修年次〕 1, 2, 3年いずれでも履修可		授業外対応	講義終了時 (メールでは即時)
	〔学期〕 前期	〔単位〕 2	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 アジア諸国の経済発展と課題を学ぶ</p> <p>【概要】 本講義では、東アジア、東南アジア、南アジア諸国の経済発展と構造変化を学ぶとともに、各国経済が抱える課題やアジア域内における相互依存関係(貿易・投資)の深化、また日本とアジア諸国との経済関係等について解説する。特に、アジアだけでなく世界において政治・経済的なプレゼンスを急激に高めつつある中国経済について詳しく解説する。</p> <p>【到達目標】 アジア諸国の経済発展の現状、要因、プロセスと各国が抱える問題点について理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント (使用しない。講義の際にレジュメ・資料を配付する)。</p> <p>(2) レジュメに記載する。</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンスー本講義の概要と進め方について</p> <p>第 2回 日本の経済発展ー戦後の高度経済成長</p> <p>第 3回 東アジア諸国の経済発展と課題ー韓国と台湾</p> <p>第 4回 東アジア諸国の経済発展と課題ー香港とシンガポール</p> <p>第 5回 東南アジア諸国の成長戦略と構造変化ータイ・マレーシア</p> <p>第 6回 東南アジア諸国の成長戦略と構造変化ーフィリピン・インドネシア</p> <p>第 7回 東南アジア諸国の成長戦略と構造変化ーベトナムの「ドイモイ」政策と経済発展</p> <p>第 8回 国際的な資本移動とアジア通貨危機ー東南アジア・韓国</p> <p>第 9回 中国の「改革開放」戦略と経済発展</p> <p>第10回 中国の経済発展と経済格差の拡大ー地域発展戦略の転換と産業集積</p> <p>第11回 中国人民元改革ー為替レート制度改革・人民元国際化・資本取引の自由化</p> <p>第12回 中国の貿易・直接投資の拡大ー一带一路戦略・米国との通商摩擦</p> <p>第13回 南アジア諸国の経済発展ーインド、パキスタン、バングラデシュ</p> <p>第14回 アジア域内の相互依存の深化ー市場メカニズムと FTA による経済統合</p> <p>第15回 日本とアジア諸国の貿易及び直接投資</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	筆記試験 (100%)			
実務経験について	なし			

授業科目	国際関係論		担当者	福田 忠弘
	〔履修年次〕 1年, 2年いずれでも履修可		〔学期〕 前期	
	〔単位〕 2単位	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義方式	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 国際社会に生じさまざまな諸問題について理解する。同時に、国家以外の行為体についての理解を深める。</p> <p>【概要】 本講義では、国際関係の史的展開を概説したうえで、現代国際関係における諸問題について分析する。国際関係の史的展開では、第二次世界大戦後の冷戦史(特にアジアにおける冷戦)を対象とし、国際システムの歴史的変遷をたどる。その後、特に貧困問題、環境問題、人権、テロ、グローバルガバナンスについての説明と、問題解決に向けた国際社会の取り組みを紹介する。</p> <p>【到達目標】 国際社会の現在の諸問題を把握し、その背景についての理解を深める。</p>			
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 使用しない。</p> <p>(2) 原彬久編『国際関係学講義』(有斐閣, 2006年)</p>			
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス: 講義の目的, 方法</p> <p>第 2回 国際関係論の基礎 1: 国内社会と国際社会は何か違うのか</p> <p>第 3回 国際関係論の基礎 2: 行為体と争点の多様化</p> <p>第 4回 国際関係のなりたち 1: 第二次世界大戦後の秩序形成と冷戦</p> <p>第 5回 国際関係のなりたち 2: アジアにおける冷戦の拡大 1</p> <p>第 6回 国際関係のなりたち 3: アジアにおける冷戦の拡大 2</p> <p>第 7回 国際関係のなりたち 4: 核兵器について</p> <p>第 8回 国際関係のなりたち 5: 大国の支配とナショナリズム</p> <p>第 9回 国際関係のなりたち 6: 冷戦後の世界秩序</p> <p>第10回 国際社会における諸問題 1: グローバリゼーションと貧困問題</p> <p>第11回 国際社会における諸問題 2: 貧困と開発</p> <p>第12回 国際社会における諸問題 3: 国境を越える諸問題</p> <p>第13回 国際社会における諸問題 4: 保守化する世界</p> <p>第14回 国際社会における諸問題 5: グローバルガバナンス</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する			
成績評価の方法	試験 (80%), 授業への参加態度 (20%) によって評価する。			

授業科目	アジア事情	担当者	福田 忠弘
	[履修年次] 1年, 2年いずれでも履修可 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義方式	[学期] 後期	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】東アジア, 東南アジアの歴史と現在の状況について把握する。</p> <p>【概要】アジアは, 地理, 歴史, 言語, 文化, 宗教, 民族など, すべての面において多様である。本講義では, 「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を得ながらも, 「共通性」について焦点をあてる。近代以降においては植民地化, 現代においては脱植民地化, 国民国家建設, リージョナリズム (地域主義) の形成という共通性がある。また, 最近東アジアにおける地域協力が注目を浴びている。これらの共通する事象を抽出し, 分析する。</p> <p>【到達目標】「アジア」という概念のもつ多様性について基本的な理解を深める。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 使用しない。 (2) プリント		
授業スケジュール	第1回 ガイダンス: 講義の目的と方法 第2回 「アジア」という概念: アジアはどこまでがアジアか 第3回 歴史的形成1: 植民地以前のアジア 第4回 歴史的形成2: 植民地のようす 第5回 歴史的形成3: 植民地からの独立 第6回 歴史的形成4: 脱植民地化, 国民国家建設, 開発 第7回 歴史的形成5: 冷戦下のアジア 第8回 東南アジア1: インドシナ三国 第9回 東南アジア2: ベトナム戦争の影響 第10回 東南アジア3: タイ, ミャンマー, マレーシア 第11回 東南アジア4: メコン河流域開発 第12回 東南アジアの地域協力体制: ASEAN の形成 第13回 アジアにおける協力体制1: ASEAN を中心とする協力1 第14回 アジアにおける協力体制2: ASEAN を中心とする協力2 第15回 まとめ		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	試験 (80%), 授業への参加態度 (20%) によって評価する。		

授業科目	ヨーロッパ経済事情	担当者	大重 康雄
	[履修年次] 1年, 2年, 3年 [学期] 後期 [単位] 2 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義	授業外対応	メール等で適宜対応
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ヨーロッパ(EU)を主に経済の視点でとらえ, ヨーロッパ (EU) がもたらす世界経済への影響や広域経済連携地域が内包する課題を考察する</p> <p>【概要】ヨーロッパ地域統合 (EU) から通貨統合およびその後の金融財政危機等の変遷に注目し, 今後のヨーロッパ社会の展望について考える。特に今期は直近の新型コロナウイルス・ウクライナ侵攻による地政学的リスクが深刻化しておりそれら問題を米国や日本と対比し考える。</p> <p>【到達目標】ヨーロッパ地域統合 (EU) の現状と課題を学ぶことにより, 大規模な経済連携やグローバル化が地域や人々にどのような影響を与えるかを理解できる。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) 田中素香ほか『現代ヨーロッパ経済 第6版』有斐閣アルマ および講師作成プリント (2) 遠藤乾編『ヨーロッパ統合史』名古屋大学出版会ほか		
授業スケジュール	第1回 現在ヨーロッパで何が起きているか (ロシアのウクライナ侵攻と世界経済) 第2回 ヨーロッパ統合前史 第3回 ヨーロッパ統合の歴史 第4回 統一通貨ユーロとは 第5回 環境・エネルギー課題とEU財政諸問題 第6回 EU社会が抱える地政学的課題 第7回 BREXIT 後のイギリスの将来 第8回 フランスとEU経済 第9回 ドイツとEU経済 第10回 その他諸国とEU経済 第11回 中・東欧諸国とEU経済 第12回 EUと対外通商政策 第13回 欧州通貨と国際金融システム 第14回 ヨーロッパ社会とEUの将来 第15回 講義のまとめ		
授業外学習(予習・復習)	授業中各自に質問をするのでシラバスに従って予習・復習し授業中に質問・意見交換すべきことをまとめておくこと。		
成績評価の方法	筆記試験 (80%) + 授業での発言内容 (20%)		
実務経験について	地域金融機関での貿易取引等外国為替業務の知識・海外経験を活かし, 国際金融市場動向や地域経済を意識した実践的な授業を目指す。		

授業科目	地域経済論	担当者	
	[履修年次] [学期] [単位]	授業外対応 [必修/選択]	[授業形態]
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第 1回 第 2回 第 3回 第 4回 第 5回 第 6回 第 7回 第 8回 第 9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回		
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法			
実務経験について			

授業科目	地域産業政策	担当者	
	[履修年次] [学期] [単位]	授業外対応 [必修/選択]	[授業形態]
テーマ及び概要	【テーマ】 【概要】 【到達目標】		
(1)テキスト (2)参考文献	(1) (2)		
授業スケジュール	第 1回 第 2回 第 3回 第 4回 第 5回 第 6回 第 7回 第 8回 第 9回 第10回 第11回 第12回 第13回 第14回 第15回		
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法			
実務経験について			

授業科目	地方自治論	担当者	船津 潤
	〔履修年次〕 1, 2, 3年	授業外対応	講義前後, それ以外も随時(日時を調整することがあるかもしれませんが, 遠慮なく声をかけてください)
	〔学期〕 前期 〔単位〕 2	〔必修/選択〕 選択	〔授業形態〕 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】地方自治, 地方行財政に関する基本的な概念や理論, 日本の制度の内容, 実態, 特徴, 課題に関する理解を深めること</p> <p>【概要】地方自治とは何か, 日本の国と地方自治体との関係(政府間関係)の特徴を踏まえて, 地方自治や地方行財政に関する基本的な概念や理論, 制度について講義するとともに, 参考になるとと思われる海外の事例も取り上げます。また, グローバル化の地方自治に与える影響等についても講義します。</p> <p>【到達目標】①日本の地方自治・地方行財政制度について理解し, 説明できるようになること ②地方自治体の活動について主体的に考察し, 判断できるようになること ③自分が暮らす地域の課題を見出し, その解決策を提案できるようになるための基礎力を身につけること</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) なし</p> <p>(2) 総務省編『地方財政白書 各年版』日経印刷</p>		
授業スケジュール	<p>第 1回 ガイダンス：講義の目標, 評価基準等の説明</p> <p>第 2回 地方自治(1)：定義, 地方自治が求められる根拠, 地方自治の意義等</p> <p>第 3回 地方自治(2)：グローバル化の影響等</p> <p>第 4回 地方自治体の意思決定(1)：国と地方公共団体の関係, 首長・役所・議会の関係等</p> <p>第 5回 地方自治体の意思決定(2)：地方の予算制度, 長の強い権限等</p> <p>第 6回 地方自治体の財源(1)：歳入の自治と三位一体の改革, 地方債等</p> <p>第 7回 地方財政健全化法(1)：地方財政健全化法, 地方債改革との関係等</p> <p>第 8回 地方財政健全化法(2)：法律成立の背景, 地方自治への影響等</p> <p>第 9回 地方自治体の財源(2)：地方交付税, 国庫支出金, 問題点等</p> <p>第 10回 法定外税(1)：法定外税の定義, 地方分権一括法での変更点, 現在の傾向等</p> <p>第 11回 法定外税(2)：受益・原因と負担の関係, 利点と問題点等</p> <p>第 12回 市町村合併：「平成の大合併」とその背景, 望ましい合併とは, 現在の状況等</p> <p>第 13回 市民参加・参画：歴史, 求められている背景, 参考事例の紹介等</p> <p>第 14回 住民自治：シアトル・メトロの事例(地方政府の創設)について</p> <p>第 15回 まとめ：講義を振り返りつつポイントの説明, 試験についての説明等</p>		
授業外学習(予習・復習)	<p>講義の前後に総務省のサイト等で関連事項について調べ, 検討すること, 普段から地方自治関連のニュースに注目すること(できれば外国のメディア(民間企業との関係では特に興味深い)記事を出すことがあります)を含む(複数)を勧めます(公務員試験を含む就職活動や四大への編入(地域との連携は殆どの大学にとって重要な課題です)にも有意義です)。そして, 講義内容に直接関係しなくても, 聞きたいことが出てきたら, 遠慮なく質問してください。</p>		
成績評価の方法	<p>筆記試験(80%), 小テスト(20%)を基本とし, アクティブラーニングでの発言内容で加点します。小テストやアクティブラーニング等の詳細については1回目の講義(ガイダンス)で説明します。</p>		
実務経験について	なし		

授業科目	高齢者福祉		担当者	田口康明	
	[履修年次]	1, 2, 3年	授業外対応	メールで連絡、随時対応	
	[学期]	後期	[単位]	2	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】社会福祉の構造を明らかにし、その中での高齢者福祉の位置づけについて考える。あわせて、2000年以降変化する社会福祉について、高齢者福祉の分野に導入された「介護保険」の制度を検討し理解する。また学生諸君が親の介護に向き合うようになる前に基礎的な知識を身につけることを目的とする。</p> <p>【概要】本科目は、本科目は、専門科目として開設されている。授業では少人数が想定されるので、受講者はテキストを読み、その要約を発表しながら内容の理解を進めていく。</p> <p>【到達目標】介護保険を中核とする「高齢者福祉」の仕組みの理解につくる。将来、高齢者当事者として、また介護者当事者として向き合うことが、すべての人にとってほぼ確実であるのでその理解を進める。</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 小竹雅子『総介護社会——介護保険から問い直す(岩波新書)』</p> <p>(2) 授業内で随時紹介する。</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス この授業のすすめ方</p> <p>第2回 (講義) 福祉とは何か・必要という考え方・必要に基づく社会政策</p> <p>第3回 (講義) 資源とその供給・資源の再分配・官僚制と専門主義</p> <p>第4回 (発表) テキスト「序章：介護問題の社会化」</p> <p>第5回 (発表) テキスト「第1章：介護保険を利用する人たち」その1</p> <p>第6回 (発表) テキスト「第1章：介護保険を利用する人たち」その2</p> <p>第7回 (発表) テキスト「第2章：介護現場で働く人たち」その1</p> <p>第8回 (発表) テキスト「第2章：介護現場で働く人たち」その2</p> <p>第9回 (発表) テキスト「第3章 介護保険のしくみ」その1</p> <p>第10回 (発表) テキスト「第3章 介護保険のしくみ」その2</p> <p>第11回 (発表) テキスト「第4章 介護保険の使い方」</p> <p>第12回 (発表) テキスト「第5章 介護保険にかかる金」</p> <p>第13回 (発表) テキスト「第6章 なぜ、サービスは使いつらいのか」</p> <p>第14回 (発表) テキスト「第7章 介護保険を問い直すガイダンス」</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	テキストの各回の箇所を十分読むこと/各回のテキストの指定部分を事前に熟読する				
成績評価の方法	授業中の発表 60%、授業中の発言 20% ファイナルレポート 20%				

授業科目	労働法		担当者	足田京子	
	[履修年次]	1, 2年, 3年	授業外対応	適宜対応(メールで予約)	
	[学期]	後期	[単位]	2	
		[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】ディーセントワーク(人間らしい働き方)を実現するための基礎知識</p> <p>【概要】「過労死」が国際語として通用するほど有名な日本の長時間労働。また正規と非正規の格差の拡大。こうした日本の職場に根強い雇用慣行は、どのような法制度のなかで起こったのか。「働き方改革」のための法整備によって、職場はどのように変わろうとしているのだろうか。</p> <p>【到達目標】</p>				
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する</p> <p>(2) 授業中に適宜紹介する</p>				
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション：労働法を知る大切さ</p> <p>第2回 労働法の全体像：憲法—民法—労働法の関係</p> <p>第3回 労働契約：自分の労働条件を知らないとうなる？</p> <p>第4回 内定辞退と内定取り消し：「内定」の法的性格</p> <p>第5回 賃金に関するルール：研修期間中は最低賃金法の適用がないってホント？</p> <p>第6回 労働時間に関するルール(1)：所定労働時間と法定労働時間の違い</p> <p>第7回 労働時間に関するルール(2)：時間外労働・休日労働・深夜労働とは？</p> <p>第8回 「各種保険完備」とは？：バイトのケガは自己責任？</p> <p>第9回 有給休暇は権利です：アルバイトにも有給級はある</p> <p>第10回 労働契約終了のパターン：「辞める」と「辞めさせられる」の違い</p> <p>第11回 働くことは人権です：産前・産後休業と育児・介護休業</p> <p>第12回 募集採用に関する法的規制：採用面接で会社は何を質問してもいいの？</p> <p>第13回 労働時間に関する応用問題：変形労働時間制と裁量労働制</p> <p>第14回 賃金に関する応用問題：残業代込み、出来高制、休業補償制度</p> <p>第15回 まとめ</p>				
授業外学習(予習・復習)	復習をしっかりとってください。				
成績評価の方法	2回のレポート(中間レポートと最終レポート)の提出(80%) 授業ごとのミニレポート				
実務経験について					

授業科目	国際経済特講	担当者	村田 秀博
	[履修年次] 1, 2, 3年生 [学期] 後期 [単位] 2 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義形式	授業外対応	授業終了後Eメールにて
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 地域経済の国際化と鹿児島県内企業の海外進出事例、それに伴う貿易取引 キーワード：鹿児島県内企業も数多く海外業務を行っている。資料DVD サンプル多用のわかりやすい授業</p> <p>【概要】 日本の中小企業は、近年の国内経済環境の変化の中で企業活動を海外へ拡大させ、更なる商機をつかもうという動きが活発化している。県内でも同様であり、海外を目指す中小企業が「挑戦」「失敗」「成功」を繰り返している。その具体的な現状を認識した上で、海外展開方法論を考える。また基礎となる貿易知識も習得する。</p> <p>【到達目標】 地域の海外展開の具体的な動きを理解する中で、優位性・課題問題点をふまえた独自の解決方法を見出す。県内企業・行政機関などで、海外業務を担当できるスキルを習得する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) レジュメ・プリント資料 (2) 海外映像・サンプル・雑誌新聞投稿資料ほか</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス（日本経済・地域経済のグローバル化・海外知的財産権・外国人人材） 第2回 鹿児島県内中小企業の国際化の現状 第3回 進出国の情勢比較（中国） 第4回 進出国の情勢比較（中国） 第5回 海外知的財産権の保護（悪意の商標登録など） 第6回 県内大学の海外展開・県内医療機関メディカルツアーの誘致 第7回 進出国の情勢比較（台湾・香港・タイ） 第8回 進出国の情勢比較（ベトナム・外国人人材受け入れ） 第9回 進出国の情勢比較（ミャンマー・シンガポール） 第10回 進出国の情勢比較（マレーシア・インドネシア・ロシアほか） 第11回 貿易実務（各自由貿易協定、RCEP・TPP・FTA・EPAほか） 第12回 貿易実務（外国為替・為替相場・先物予約） 第13回 貿易実務（外貨預金・外貨貸付） 第14回 貿易実務（輸出・輸入） 第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)			
成績評価の方法	筆記試験50%+レポート50%		
実務経験について	金融機関にて国際業務に23年間携わり、世界各地にてフィールドワーク実践。貿易・外国人人材・海外知的財産権専門家。海外ビジネスツアー100回以上企画開催。タイ王国赴任経験あり。		

授業科目	地域研究特講	担当者	山本晃正
	[履修年次] 1年, 2年, 3年 [学期] 前期 [単位] 2 [必修/選択] 選択 [授業形態] 講義	授業外対応	講義終了後
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 消費者をめぐる法律問題の諸相</p> <p>【概要】 様々な手口の悪徳商法や詐欺的商法の手口とその規制、危険な製品による被害の賠償、投機的取引の規制、サラ金の規制、公正な競争や表示の規制など、消費者に係わる取引をめぐる様々な法律問題を、消費者に認められている各種の諸権利の理解を中心として、最新の法律改正も交えながら、できるだけ具体的事例を取り上げながら分かりやすく解説し、考えていく。</p> <p>【到達目標】 消費者がどのような状態に置かれており、どのような問題を抱えているのかを具体的かつ多面的に理解し、その上で、消費者に保障されている法律上の制度や諸権利の内容を理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 杉浦市郎編著『新・消費者法これだけは〔第3版〕』法律文化社 (2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 消費者と契約：イントロダクション（最近の消費者被害の動向、悪徳商法のターゲットと手口など） 第2回 消費者と契約：契約の諸原則と近代市民法、契約の拘束力からの離脱、消費者契約法（目的・対象・取消権） 第3回 消費者と契約：消費者契約法（取消権、不当条項の無効、消費者団体訴訟制度）、電子消費者契約法 第4回 消費者と契約：特定商取引法（規制対象の解説、訪問販売・電話勧誘販売等に対する行政的取締りの諸規制） 第5回 消費者と契約：特定商取引法（民事上の諸権利クーリング・オフ、中途解約権など） 第6回 消費者と契約：復習のための模擬演習（第1回/消費者と契約） 第7回 消費者と安全：製造物責任法（目的、製造物の概念・欠陥の概念・責任主体・製造物責任・免責事由） 第8回 消費者と信用取引：貸金業法とグレーゾーン金利など 第9回 消費者と信用取引：割賦販売法（割賦販売・ローン提携販売・信用購入あっせん） 第10回 消費者と金融商品取引：金融商品取引法（投資家＝消費者保護規制）と金融商品販売法 第11回 消費者と公正な競争秩序の維持：独占禁止法（競争政策の意味、カルテル禁止と灯油裁判、共同の取引拒絶など） 第12回 消費者と公正な競争秩序の維持：独占禁止法（差別対価、不当廉売、抱合せ販売、再販売価格の拘束） 第13回 消費者と表示・景品提供規制：景品表示法（不当表示の規制） 第14回 消費者と表示・景品提供規制：景品表示法（過大な景品提供の規制） 第15回 まとめ：消費者基本法と消費者の諸権利、復習のための模擬演習（第2回/製造物責任・消費者信用取引ほか）</p>		
授業外学習(予習・復習)	テキストの該当ページを読み、配付資料も利用して、予習と復習を行って下さい。		
成績評価の方法	筆記試験		
実務経験について	なし		

授業科目	地方自治法		担当者	山本 敬生																																													
	[履修年次]	1,2,3年履修可	授業外対応	適宜対応(要予約)																																													
	[学期]	後期	[単位]	2単位																																													
			[必修/選択]	選択																																													
			[授業形態]	講義形式																																													
テーマ及び概要	<p>【テーマ】住民自治、団体自治といった地方自治の基礎理論を理解した上で、地方公共団体の種類及び事務、住民の権利義務、条例と規則、議会、執行機関を中心に地方自治法を体系的に学習し、地方の時代における国と地方公共団体との新たな関係について検証することをテーマにする。</p> <p>【概要】地方自治法は、国と地方自治公共団体の役割分担、機関委任事務の廃止に伴う法定受託事務の創設、普通地方公共団体に対する国または都道府県の関与、国と普通地方公共団体との間の係争処理手続等を規定している。本講義では、地方自治法をわかりやすく解説することで、地方自治法が地方分権改革を推進する上でいかなる役割を果たすかを学習する。</p> <p>【到達目標】地方自治法の基本構造を正確に理解し、国と地方公共団体のあるべき関係を法的視点から考察できる力を習得することを目標にする。</p>																																																
(1)テキスト	(1) プリント																																																
(2)参考文献	(2) 佐伯仁志他編、『ポケット六法(令和5年度版)』、有斐閣																																																
授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>地方自治の意義</td> <td>・住民自治、団体自治、伝來說、固有権説、地方自治の本旨について</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>地方公共団体の種類</td> <td>・地方公共団体の構成要素(住民、区域、法人格)、都道府県、について</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>地方公共団体の区域・事務</td> <td>・区域、機関委任事務、法手受託事務について</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>住民の権利義務(1)</td> <td>・住民、条例の制定改廃の請求、事務監査の請求について</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>住民の権利義務(2)</td> <td>・議会の解散請求、議員、長の解職請求、住民監査請求について</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>条例と規則(1)</td> <td>・条例制定権の範囲と限界、法令先占論、条例の効力について</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>条例と規則(2)</td> <td>・条例制定手続、条例と罰則、行政罰、規則の制定事項について</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>議会(1)</td> <td>・議会の地位、町村総会、議会の組織、議会の権限、調査権について</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>議会(2)</td> <td>・定例会、臨時会、会議公開の原則、会期不継続の原則について</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>執行機関(1)</td> <td>・長の地位、長の権限、長の職務の代理、地方公共団体の事務所について</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>執行機関(2)</td> <td>・行政委員会の意義、長と行政委員会との関係、監査委員、教育委員会について</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>国等の地方公共団体への関与</td> <td>・国の関与の原則、法定受託事務の処理基準、国地方係争処理委員会について</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>長と議会との関係(1)</td> <td>・議会の監視、再議制度、一般的拒否権、特別的拒否権について</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>長と議会との関係(2)</td> <td>・専決処分、長に対する不信任議決、議会の解散について</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>予算</td> <td>・予算事前議決の原則、予算公開の原則、会計年度独立の原則について</td> </tr> </table>				第1回	地方自治の意義	・住民自治、団体自治、伝來說、固有権説、地方自治の本旨について	第2回	地方公共団体の種類	・地方公共団体の構成要素(住民、区域、法人格)、都道府県、について	第3回	地方公共団体の区域・事務	・区域、機関委任事務、法手受託事務について	第4回	住民の権利義務(1)	・住民、条例の制定改廃の請求、事務監査の請求について	第5回	住民の権利義務(2)	・議会の解散請求、議員、長の解職請求、住民監査請求について	第6回	条例と規則(1)	・条例制定権の範囲と限界、法令先占論、条例の効力について	第7回	条例と規則(2)	・条例制定手続、条例と罰則、行政罰、規則の制定事項について	第8回	議会(1)	・議会の地位、町村総会、議会の組織、議会の権限、調査権について	第9回	議会(2)	・定例会、臨時会、会議公開の原則、会期不継続の原則について	第10回	執行機関(1)	・長の地位、長の権限、長の職務の代理、地方公共団体の事務所について	第11回	執行機関(2)	・行政委員会の意義、長と行政委員会との関係、監査委員、教育委員会について	第12回	国等の地方公共団体への関与	・国の関与の原則、法定受託事務の処理基準、国地方係争処理委員会について	第13回	長と議会との関係(1)	・議会の監視、再議制度、一般的拒否権、特別的拒否権について	第14回	長と議会との関係(2)	・専決処分、長に対する不信任議決、議会の解散について	第15回	予算	・予算事前議決の原則、予算公開の原則、会計年度独立の原則について
第1回	地方自治の意義	・住民自治、団体自治、伝來說、固有権説、地方自治の本旨について																																															
第2回	地方公共団体の種類	・地方公共団体の構成要素(住民、区域、法人格)、都道府県、について																																															
第3回	地方公共団体の区域・事務	・区域、機関委任事務、法手受託事務について																																															
第4回	住民の権利義務(1)	・住民、条例の制定改廃の請求、事務監査の請求について																																															
第5回	住民の権利義務(2)	・議会の解散請求、議員、長の解職請求、住民監査請求について																																															
第6回	条例と規則(1)	・条例制定権の範囲と限界、法令先占論、条例の効力について																																															
第7回	条例と規則(2)	・条例制定手続、条例と罰則、行政罰、規則の制定事項について																																															
第8回	議会(1)	・議会の地位、町村総会、議会の組織、議会の権限、調査権について																																															
第9回	議会(2)	・定例会、臨時会、会議公開の原則、会期不継続の原則について																																															
第10回	執行機関(1)	・長の地位、長の権限、長の職務の代理、地方公共団体の事務所について																																															
第11回	執行機関(2)	・行政委員会の意義、長と行政委員会との関係、監査委員、教育委員会について																																															
第12回	国等の地方公共団体への関与	・国の関与の原則、法定受託事務の処理基準、国地方係争処理委員会について																																															
第13回	長と議会との関係(1)	・議会の監視、再議制度、一般的拒否権、特別的拒否権について																																															
第14回	長と議会との関係(2)	・専決処分、長に対する不信任議決、議会の解散について																																															
第15回	予算	・予算事前議決の原則、予算公開の原則、会計年度独立の原則について																																															
授業外学習(予習・復習)	復習を重視する。																																																
成績評価の方法	筆記試験(90%) + 授業での発言内容(10%)を基準にして評価する。																																																
実務経験について	なし																																																

授業科目	簿記論II		担当者	岡村雄輝																														
	[履修年次]	指定なし	授業外対応	講義前後に適宜対応																														
	[学期]	後期	[単位]	2単位																														
			[必修/選択]	選択																														
			[授業形態]	講義方式																														
テーマ及び概要	<p>【テーマ】複式簿記の基本原則を学ぶ</p> <p>【概要】日商簿記3級レベルのテキスト、ワークブックを使用して複式簿記による記帳手続を解説し、問題演習に取り組みます。簿記力を着実に養い、より高度な会計を学ぶためには、問題演習の反復を通じた複式簿記の基本原則の理解が肝要です。勤勉な学習姿勢が望まれます。※簿記論Iと連続して講義を展開しますので、併せて受講してください。</p> <p>【到達目標】個別の勘定科目に応じた決算手続、補助簿、伝票の記入を学習する。</p>																																	
(1)テキスト	(1) 渡部裕互、片山寛、北村敬子(編)『新検定 簿記講義3級 商業簿記』『新検定 簿記ワークブック』(令和5年版)、中央経済社。																																	
(2)参考文献	(2) 大藪俊哉編『簿記テキスト』(第6版)、中央経済社。																																	
授業スケジュール	<table border="0"> <tr> <td>第1回</td> <td>簿記とは? : 簿記の意義、目的、財務諸表</td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td>仕訳と転記 : 仕訳の意義、勘定への転記</td> </tr> <tr> <td>第3回</td> <td>決算 : 決算の意義と手続、試算表作成</td> </tr> <tr> <td>第4回</td> <td>決算 : 帳簿の締切りと財務諸表の作成、決算手続と精算表</td> </tr> <tr> <td>第5回</td> <td>現金と預金 : 当座預金と当座借越、その他の預金、小口現金</td> </tr> <tr> <td>第6回</td> <td>繰越商品・仕入・売上 : 仕入帳と売上帳、商品有高帳</td> </tr> <tr> <td>第7回</td> <td>売掛金と買掛金 : 売掛金明細表と買掛金明細表、クレジット売掛金、前払金と前受金</td> </tr> <tr> <td>第8回</td> <td>その他の債権と債務 : 仮払金と仮受金、受取商品券、差入保証建</td> </tr> <tr> <td>第9回</td> <td>有形固定資産 : 有形固定資産の取得と売却、減価償却、固定資産台帳、年次決算と月次決算</td> </tr> <tr> <td>第10回</td> <td>資本 : 株式会社の設立と株s期の発行、繰越利益剰余金、配当</td> </tr> <tr> <td>第11回</td> <td>収益と費用 : 収益・費用の未収・未払いと前受け・前払い、消耗品と貯蔵品</td> </tr> <tr> <td>第12回</td> <td>伝票 : 仕訳帳と伝票、3伝票制、伝票から帳簿への記入、伝票の集計</td> </tr> <tr> <td>第13回</td> <td>財務諸表 : 精算表の作成、財務諸表の作成</td> </tr> <tr> <td>第14回</td> <td>総合問題 : 問題演習と解説②</td> </tr> <tr> <td>第15回</td> <td>まとめ</td> </tr> </table>				第1回	簿記とは? : 簿記の意義、目的、財務諸表	第2回	仕訳と転記 : 仕訳の意義、勘定への転記	第3回	決算 : 決算の意義と手続、試算表作成	第4回	決算 : 帳簿の締切りと財務諸表の作成、決算手続と精算表	第5回	現金と預金 : 当座預金と当座借越、その他の預金、小口現金	第6回	繰越商品・仕入・売上 : 仕入帳と売上帳、商品有高帳	第7回	売掛金と買掛金 : 売掛金明細表と買掛金明細表、クレジット売掛金、前払金と前受金	第8回	その他の債権と債務 : 仮払金と仮受金、受取商品券、差入保証建	第9回	有形固定資産 : 有形固定資産の取得と売却、減価償却、固定資産台帳、年次決算と月次決算	第10回	資本 : 株式会社の設立と株s期の発行、繰越利益剰余金、配当	第11回	収益と費用 : 収益・費用の未収・未払いと前受け・前払い、消耗品と貯蔵品	第12回	伝票 : 仕訳帳と伝票、3伝票制、伝票から帳簿への記入、伝票の集計	第13回	財務諸表 : 精算表の作成、財務諸表の作成	第14回	総合問題 : 問題演習と解説②	第15回	まとめ
第1回	簿記とは? : 簿記の意義、目的、財務諸表																																	
第2回	仕訳と転記 : 仕訳の意義、勘定への転記																																	
第3回	決算 : 決算の意義と手続、試算表作成																																	
第4回	決算 : 帳簿の締切りと財務諸表の作成、決算手続と精算表																																	
第5回	現金と預金 : 当座預金と当座借越、その他の預金、小口現金																																	
第6回	繰越商品・仕入・売上 : 仕入帳と売上帳、商品有高帳																																	
第7回	売掛金と買掛金 : 売掛金明細表と買掛金明細表、クレジット売掛金、前払金と前受金																																	
第8回	その他の債権と債務 : 仮払金と仮受金、受取商品券、差入保証建																																	
第9回	有形固定資産 : 有形固定資産の取得と売却、減価償却、固定資産台帳、年次決算と月次決算																																	
第10回	資本 : 株式会社の設立と株s期の発行、繰越利益剰余金、配当																																	
第11回	収益と費用 : 収益・費用の未収・未払いと前受け・前払い、消耗品と貯蔵品																																	
第12回	伝票 : 仕訳帳と伝票、3伝票制、伝票から帳簿への記入、伝票の集計																																	
第13回	財務諸表 : 精算表の作成、財務諸表の作成																																	
第14回	総合問題 : 問題演習と解説②																																	
第15回	まとめ																																	
授業外学習(予習・復習)	毎回復習をすること。継続的な学習なしに簿記はできるようになりません。																																	
成績評価の方法	期末テスト100%																																	
実務経験について	なし																																	

授業科目	経営管理論	担当者	竹中啓之
	〔履修年次〕 1, 2, 3年いずれも履修可 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義	授業外対応	適宜対応 (要予約)、及び講義終了後
テーマ及び概要	<p>【テーマ】企業経営や組織運営での「ヒト」及び「組織」の管理方法について講義する。</p> <p>【概要】2人以上の個人が集団として活動する場合、そこには必ずその集団の行動を調整する役割が必要となり、その役割を一般的に「管理」と呼んでいます。すなわち管理はすべての集団・組織において存在する職能であるといえます。また「経営」とは、財またはサービスを生産する経済活動に従事する組織体を統制することだと定義することができます。したがって経営管理とは、経営活動を行う組織体を調整する職能ということになり、このような活動を行うのは経営者や管理者の役割です。この講義では、彼らが、目的を実行するための効率的な組織運営のための工夫や、組織内部にいる関係者および組織外部のさまざまな状況との関わり合いの中、対処している方法について講義していきます。</p> <p>【到達目標】組織管理の難しさを理解する。経営管理に関する諸学説を概観する。経営管理に関連する専門用語を知る。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業中に配布するプリント</p> <p>(2) 講義中に指示する</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 講義概要の説明：講義の進め方・内容・評価方法について説明する。</p> <p>第2回 経営管理論とは何か：管理論の特徴と他の経営学関連の科目と連携について説明する。</p> <p>第3回 組織における人間（1）：企業で人を管理する際の基本となる考え方などについて説明する。</p> <p>第4回 組織における人間（2）：テイラーの科学的管理法と「経済人モデル」について説明する。</p> <p>第5回 組織における人間（3）：メイヨー他の人間関係論と「社会人モデル」について説明する。</p> <p>第6回 組織における人間（4）：マズローの欲求階層説と「自己実現人モデル」について説明する。</p> <p>第7回 他の動機づけモデルについて説明し、改めて人が働く意欲とはどのように生み出されるのかを考える。</p> <p>第8回 人的資源管理（1）：企業での人的資源管理全体の流れや考え方について説明する。</p> <p>第9回 人的資源管理（2）：採用管理について説明する。</p> <p>第10回 人的資源管理（3）：人事異動（初任配置・配置転換・昇進など）について説明する。</p> <p>第11回 人的資源管理（4）：人材育成の基礎について説明する。</p> <p>第12回 人的資源管理（5）：人材育成の「熟練」について考えていく。</p> <p>第13回 人的資源管理（6）：人事評価の仕組みと賃金管理について説明する。</p> <p>第14回 リーダーの役割とは何か：リーダー（上司）として適切な行動とは何かを考える。</p> <p>第15回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。		
成績評価の方法	期末筆記試験（70%）、中間レポートもしくは小テスト（30%）（予定） 詳細は1回目の講義で説明します。		
実務経験について	なし		

授業科目	経営組織論	担当者	近間由幸
	〔履修年次〕 1,2,3年 〔学期〕 後期 〔単位〕 2単位 〔必修/選択〕 選択 〔授業形態〕 講義方式	授業外対応	適宜対応 (要予約)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】経営組織論における個人と組織の関係性について</p> <p>【概要】経営組織に関わる理論を紹介し、これらの理論がどのような企業組織を念頭に置いて議論されてきたものなのかを解説する。また、現代社会において求められている組織や個人のあり方について、適宜事例を交えながら解説を行う。</p> <p>【到達目標】「組織」、「リーダーシップ」、「モチベーション」という言葉でイメージされる人物像や組織のモデルが、授業で扱うもののうちどれに近いのかを、自らの経験に照らし合わせて考えていけることを到達目標としている。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 田尾雅夫編『よくわかる組織論』ミネルヴァ書房</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 イントロダクション—いろいろな組織の捉え方</p> <p>第2回 組織論における人間モデル</p> <p>第3回 ワーク・モチベーションとその理論</p> <p>第4回 個人と組織のかかわり合い—モチベーション、コミットメント、キャリア</p> <p>第5回 集団の機能と組織</p> <p>第6回 組織におけるリーダーシップ</p> <p>第7回 組織文化</p> <p>第8回 経営組織の設計</p> <p>第9回 官僚制組織とネットワーク組織</p> <p>第10回 変動する環境における組織</p> <p>第11回 戦略と組織学習</p> <p>第12回 イノベーションと組織</p> <p>第13回 ダイバーシティ・マネジメントと組織の課題</p> <p>第14回 経営組織の動態化と組織変革</p> <p>第15回 全体のまとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業ごとのミニレポート（30%）、中間レポート（30%）、期末レポート（40%）		
実務経験について	なし		

授業科目	労務管理論		担当者	近間由幸
	〔履修年次〕	1,2,3年	授業外対応	適宜対応(要予約)
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2単位
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 労務管理に関わる諸制度と働く人々に及ぼす影響について</p> <p>【概要】 授業では、日本型雇用慣行の下での労務管理の諸制度とそれらが成立した背景について解説し、それらが時代に応じて一定の合理性を持っていたことを解説する。また、それらの諸制度がどのような労働問題を生じさせてきたのかを解説する。</p> <p>【到達目標】 歴史的・国際的な視点から、企業の働き方には多様な形が存在することを理解し、受講学生が現代の企業に望ましい労働環境とは何かについて考えられることを到達目標とする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント</p> <p>(2) 佐藤博樹・藤村博之・八代充史『新しい人事労務管理 第6版』有斐閣アルマ</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 インTRODクシヨナー講義の概要と労務管理を学ぶ意義について</p> <p>第2回 労務管理とはなにか</p> <p>第3回 雇用管理制度のしくみ</p> <p>第4回 組織構造と職務内容</p> <p>第5回 キャリア開発のしくみ</p> <p>第6回 賃金管理制度のしくみ (1) 一年功賃金とはなにか</p> <p>第7回 賃金管理制度のしくみ (2) 職能給と職務給</p> <p>第8回 人事評価制度のしくみ</p> <p>第9回 福利厚生制度のしくみ</p> <p>第10回 労働時間管理のしくみ</p> <p>第11回 日本企業の女性管理職・役人の現状と労務管理</p> <p>第12回 ダイバーシティ・マネジメント</p> <p>第13回 労務管理と労働組合</p> <p>第14回 労務管理の国際比較</p> <p>第15回 全体のまとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	授業ごとのミニレポート (30%)、筆記試験 (70%)			
実務経験について	なし			

授業科目	管理会計論		担当者	福田 正彦
	〔履修年次〕	1年2年3年	授業外対応	
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 経営者、幹部、経理の立場から、企業の利益を増大するための合理的な意思決定や管理方法を学ぶ。</p> <p>【概要】 実務経験に基づく、管理会計のノウハウを講義するとともに、学生が作成した事業計画を発表する。</p> <p>【到達目標】 管理会計の基礎の考え方、ノウハウを理解し、社会で適用できる能力を身に付ける。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 教員が配布する。</p> <p>(2) 『管理会計の基本 がすべてわかる本』 金子智朗著 (2009) 秀和システム</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション、原価の性格</p> <p>第2回 事業計画の作成 (発表課題)</p> <p>第3回 短期的意思決定 1 (広告宣伝や値引きで利益をあげる)</p> <p>第4回 短期的意思決定 2 (管理会計の意思決定)</p> <p>第5回 アウトソーシング、追加受注</p> <p>第6回 商品別の利益管理</p> <p>第7回 事業部の利益管理</p> <p>第8回 中間試験</p> <p>第9回 長期的意思決定 1 (キャッシュフロー、NPV)</p> <p>第10回 長期的意思決定 2 (IRR、回収期間)</p> <p>第11回 予算管理</p> <p>第12回 予算と実績との差異分析</p> <p>第13回 コストコントロール 1 (重要性とABC)</p> <p>第14回 コストコントロール 2 (原価企画)</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	管理会計は積み重ねの科目であり、毎回復習し、次の授業に参加すること。			
成績評価の方法	中間試験、期末試験、発表それぞれ 1/3の比重で評価する。さらに発言点も加える。			
実務経験について	入社から定年退職まで約37年間、日産自動車(株)にて海外営業、開発部門の経理の実務経験を持つ。			

授業科目	国際経営論	担当者	松本 俊哉
	[履修年次] 1年2年3年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	授業終了時および随時メールで対応
		[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】多国籍企業のグローバル価値連鎖と社会的責任</p> <p>【概要】国際生産をおこなう主要産業における多国籍企業の「グローバル価値連鎖」（事業の世界的な分散と統合）に注目し国際経営の現状と課題について考察する。また、大企業の社会的責任について私たちの生活との関係も視野に入れて考える。</p> <p>【到達目標】多国籍企業の経営戦略が作り出す競争優位を具体的な事例をもとに理解する。また、そうした国際経営のあり方が国民経済や労働者、環境などに及ぼす影響について理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 未定（資料を配付する予定）</p> <p>(2) 授業のなかで紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 オリエンテーション（講義の目的、進め方、成績評価の方法など）</p> <p>第2回 多国籍企業の経営（1）直接投資とプロダクトライフサイクル</p> <p>第3回 多国籍企業の経営（2）内部化と企業内貿易、外部化とアライアンス</p> <p>第4回 自動車産業のグローバル価値連鎖（1）産業の歴史と構造</p> <p>第5回 自動車産業のグローバル価値連鎖（2）グローバル化</p> <p>第6回 自動車産業のグローバル価値連鎖（3）次世代自動車・CASE</p> <p>第7回 電機・電子産業のグローバル価値連鎖（1）産業の歴史と構造</p> <p>第8回 電機・電子産業のグローバル価値連鎖（2）ファブレス/ファウンドリ</p> <p>第9回 電機・電子産業のグローバル価値連鎖（3）半導体産業、DX・グリーン</p> <p>第10回 アパレル産業のグローバル価値連鎖（1）産業の歴史と構造</p> <p>第11回 アパレル産業のグローバル価値連鎖（2）ファストファッション</p> <p>第12回 アパレル産業のグローバル価値連鎖（3）エシカルファッション</p> <p>第13回 国際経営とSDGs（1）CSR・SDGs・ESG投資</p> <p>第14回 国際経営とSDGs（2）デューデリジェンス</p> <p>第15回 国際経営とSDGs（3）労働・人権・環境</p>		
授業外学習(予習・復習)	配付資料の予習、レポートの作成を適宜指示する。		
成績評価の方法	期末レポート（50%）、その他授業中の提出物（50%）		
実務経験について	なし		

授業科目	比較経営論（隔年開講）	担当者	瀬口 毅士
	[履修年次] 1, 2, 3年 [学期] 後期 [単位] 2	授業外対応	適宜対応（要予約）
		[必修/選択] 選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】経営システムの多様性を知る</p> <p>【概要】この講義では、様々な国の経営システムを比較します。まず、日本の経営（日本的経営）について解説した後、アメリカや欧州諸国、アジア諸国などの経営の特徴を検討します。各国の経営システムを説明する際に、それを生じさせた歴史的背景についても触れますので、歴史の話に苦にしない学生さんの受講を望みます。</p> <p>【到達目標】歴史、政治、経済、文化、地理などの諸条件の相違が、経営システムの相違を生み出すことを理解する。また、経営システムの多様性や経路依存性について理解する。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配付</p> <p>(2)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 イントロダクション：授業の進め方や成績の評価方法を確認する。</p> <p>第2回 株式会社制度とコーポレート・ガバナンス：経営システムを比較するための基本事項を説明する。</p> <p>第3回 日本の経営（1）：戦後からバブル経済崩壊までの日本的経営の特徴を説明する。</p> <p>第4回 日本の経営（2）：バブル経済崩壊以降の日本的経営の変容を解説する。</p> <p>第5回 日本の経営（3）：トヨタ生産システムを中心に、生産システムについて講義する。</p> <p>第6回 日本の経営（4）：日本の経営における組織・人的資源管理、および経営戦略の特徴を取り上げる。</p> <p>第7回 日本の経営（5）：中小企業、特に中小工業の変遷について講義する。</p> <p>第8回 日本の経営（6）：現代における日本企業の経営について考察する。</p> <p>第9回 アメリカの経営（1）：アメリカ企業のコーポレート・ガバナンスについて講義する。</p> <p>第10回 アメリカの経営（2）：アメリカ企業の組織、人的資源、経営戦略の特徴を解説する。</p> <p>第11回 欧州の経営（1）：イギリス企業の経営システムについて講義する。</p> <p>第12回 欧州の経営（2）：ドイツ企業の経営システムについて講義する。</p> <p>第13回 欧州の経営（3）：フランス企業の経営システムについて講義する。</p> <p>第14回 アジアの経営：アジア諸国の経営システムを概観する。</p> <p>第15回 経営システムの多様性：「比較」、「多様性」、「経路依存性」などをキーワードに、これまでの講義内容を振り返る。</p>		
授業外学習(予習・復習)	授業のなかで適宜指示します。		
成績評価の方法	期末筆記試験（100%）		
実務経験について	なし		

授業科目	会計情報論		担当者	宗田健一
	[履修年次]	2, 3年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義形式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 会計情報の作成方法、伝達方法、利用方法を知る</p> <p>【概要】 会計情報の作成方法についての基礎を学ぶ。開示される会計情報について、その仕組みを知る。開示された会計情報の利用方法を知る。</p> <p>各種分析手法（成長性、収益性、安全性）について学習し、個別企業・グループの財務諸表分析を行います。その際、『金融商品取引法に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム』（通称：EDINET（Electronic Disclosure for Investors' NETwork））を用いて実際の財務諸表データを入手して各種分析を行います。</p> <p>【到達目標】 会計情報の作成、伝達、利用の方法を知る。基本的な財務諸表分析が行えるようになる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1)</p> <p>(2) 宇田川庄二『中小企業の財務分析』（第5版）同友館（予定）</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 ガイダンス：履修登録確認、講義計画に関する説明</p> <p>第2回 会計情報の利用者：利害関係者、会計情報の入手方法（EDINETの使い方、アニュアルレポートの入手等）</p> <p>第3回 有価証券報告書：全体像、記載内容の確認、分析対象企業の絞り込み</p> <p>第4回 会計学と財務情報・非財務情報について</p> <p>第5回 財務諸表分析による企業分析①（収益性分析：ROA、ROEなど）</p> <p>第6回 財務諸表分析による企業分析②（収益性分析：損益分岐点分析など）</p> <p>第7回 財務諸表分析による企業分析③（成長性分析：各種増加率など）</p> <p>第8回 財務諸表分析による企業分析④（成長性分析：売上予測など）</p> <p>第9回 財務諸表分析による企業分析⑤（安全性分析：短期的視点、長期的視点など）</p> <p>第10回 財務諸表分析による企業分析⑥（キャッシュ・フロー分析①）</p> <p>第11回 財務諸表分析による企業分析⑦（キャッシュ・フロー分析②）</p> <p>第12回 時系列分析（2社以上）</p> <p>第13回 同業他社比較分析（2社以上）</p> <p>第14回 学生による分析報告とディスカッション</p> <p>第15回 まとめ：レポート試験の提示、成績評価方法の説明、質疑応答、授業評価アンケートの実施</p>			
授業外学習(予習・復習)	復習が大切です。毎回、宿題を課します。			
成績評価の方法	中間レポート（30%）、期末レポート（70%）			
実務経験について	なし			

*受講生の学習進捗状況、従前の会計系履修済み科目の状況に応じて授業スケジュールを変更する場合があります。

*講義担当者のコロナ対応、出張などで、遠隔授業（オンデマンド形式）などを用いる場合がある。

授業科目	企業行動科学		担当者	竹中啓之
	[履修年次]	1, 2, 3年いずれも履修可	授業外対応	適宜対応（要予約）、及び講義終了後
	[学期]	後期	[単位]	2単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 個人や組織の意思決定について考える。</p> <p>【概要】 行動科学とは、個人や集団の形で人間が行う行動に関して、その動機・過程・効果を実際におこった事実をもとにして記述し、説明し、分析していく記述論的アプローチを行うものである。そのためには経営学だけではなく、心理学・社会学・経済学などの諸学問の境界を超えた学際的な考え方が必要となる。</p> <p>この講義ではこのようなアプローチ方法を前提として、人や企業の意思決定がどのように行われているのかについて考え、実際の意思決定の特徴やその問題点について取り上げる。また、組織（集団）としてより良い意思決定を行うための方法についても考えていく。さらに、これらに関連して、リーダーシップ論や動機づけ理論についても触れる予定である。</p> <p>【到達目標】 個人や組織の意思決定プロセスを理解する。リーダーシップや動機づけに関する主要な理論を理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 授業中に配布するプリント</p> <p>(2) 講義中に指示する</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 講義概要の説明：講義の概略を説明する</p> <p>第2回 意思決定プロセスとはどのようなものか：意思決定プロセスについて説明する</p> <p>第3回 人の認知能力と意思決定：簡単な実験を通して人の認知能力について考える</p> <p>第4回 組織の意思決定：組織の意思決定について説明する</p> <p>第5回 集団での意思決定は本当に優れているのか：集団での意思決定の問題点を考える</p> <p>第6回 組織の意思決定の質を高める方法について</p> <p>第7回 組織の運営と個人の役割：組織の運営における個人の役割を考える</p> <p>第8回 映画「12人の怒れる男たち」について：集団的意思決定について映画を通して考える</p> <p>第9回 意思決定に関連するその他の問題点について</p> <p>第10回 インセンティブシステム（動機づけ理論）：動機づけ理論とその問題点について説明する</p> <p>第11回 リーダーシップとは何か：リーダーシップの考え方の変化とその問題点について説明する</p> <p>第12回 上司と部下の関係を考える：問題のある上司に当たったときの対処法を考える</p> <p>第13回 物事を理解するレベル：物事を理解するレベルには段階があり、理論から実践へつなげることの大事さを知る</p> <p>第14回 大学での学びについて考える：「卒業式は自由な人生の終わり」ではないという意味を解説する</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する。			
成績評価の方法	期末筆記試験（70%）、中間レポートもしくは小テスト（30%）（予定） 詳細は1回目の講義で説明します。			
実務経験について	なし			

授業科目	経営戦略論		担当者	瀬口 毅士				
	[履修年次]	1, 2, 3年	授業外対応	適宜対応 (要予約)				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】経営戦略論に関する基本的知識を習得する</p> <p>【概要】経営戦略とは、外部環境の変化に対応しながら、長期的な存続・発展を図るための、企業の意思決定を意味します。経営戦略論のなかでも、企業全体の戦略である「企業戦略」、および事業ごとの戦略である「競争戦略」を中心に講義します。さらに、最近の企業動向を紹介しながら、現代社会における経営戦略のあり方についても解説します。</p> <p>【到達目標】経営戦略論の基本概念を知るとともに、各概念がどのような関係にあるのかについても考えることができる。また、講義を通じて獲得した知見を基に、企業に関するニュースや新聞などの情報をより理解できるようになる。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配付 (2)							
授業スケジュール	<p>第 1回 インTRODクシヨン：授業の進め方や成績の評価方法を確認する。</p> <p>第 2回 経営戦略とは何か：経営戦略論の概要を説明する。</p> <p>第 3回 経営理念とドメイン：経営理念およびドメイン（事業領域）について解説する。</p> <p>第 4回 規模の経済と範囲の経済：具体的事例を挙げながら、規模の経済と範囲の経済を説明する。</p> <p>第 5回 垂直統合と垂直分業、水平統合と水平分業：統合と分業について、垂直と水平に区分しながら解説する。</p> <p>第 6回 多角化戦略：関連型多角化と非関連型多角化の違いを中心に、企業の多角化戦略について考える。</p> <p>第 7回 M&A と戦略的提携（1）：事例を紹介しながら、M&A について解説する。</p> <p>第 8回 M&A と戦略的提携（2）：事例を紹介しながら、戦略的提携について解説する。</p> <p>第 9回 経験曲線と PLC：PPM の基礎となる、経験曲線と PLC について解説する。</p> <p>第 10回 PPM：全社的視点から、経営資源の配分について考える。</p> <p>第 11回 競争戦略論とは何か：競争戦略論の概要や競争戦略論における 2 つのアプローチを紹介する。</p> <p>第 12回 ポジショニング・アプローチ：M. ポーターの学説を中心に、ポジショニング・アプローチについて講義する。</p> <p>第 13回 資源ベース・アプローチ：前回の内容と対比しながら、資源ベース・アプローチを説明する。</p> <p>第 14回 企業の社会的責任と経営戦略：CSR 戦略を中心に、企業の社会的責任について考える。</p> <p>第 15回 経営戦略と現代社会：これまでの内容を振り返りながら、現代社会における経営戦略のあり方を考察する。</p>							
授業外学習(予習・復習)	授業のなかで適宜指示します。							
成績評価の方法	期末筆記試験 (100%)							
実務経験について	なし							

授業科目	経営工学		担当者	倉重賢治				
	[履修年次]	1,2,3年	授業外対応	適宜対応				
	[学期]	後期	[単位]	2	[必修/選択]	選択	[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>企業などにおける運営業務の科学化</p> <p>【概要】</p> <p>現在の企業活動においては、情報技術を有効に活用した情報収集、さらにそれらの情報を用いた意思決定が頻繁に行われている。今後は社内に限らず、取引先も含めた情報も共有化されることで、より広範囲での最適化を目指した意思決定の必要性が増してきている。この講義では、企業活動において頻繁に行われる意思決定、例えば、生産スケジュールの立案や在庫管理など、その問題の概要や解法アルゴリズムに関して論じる。</p> <p>【到達目標】</p> <p>企業活動における、ヒト・モノ・カネ・情報の効率的な運用の大切さを理解する。</p>							
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 圓川隆夫・伊藤謙治、『生産マネジメントの手法』、朝倉書店							
授業スケジュール	<p>第 1回 序論：経営工学とは</p> <p>第 2回 生産スケジューリング 1：どんな順番で製品を作れば良いのか</p> <p>第 3回 生産スケジューリング 2：どんな順番で作業を行えば良いのか</p> <p>第 4回 工程編成：均等に作業を割り当てるには</p> <p>第 5回 プロジェクト管理：プロジェクトをなるべく早く終わらせるには</p> <p>第 6回 設備配置：設備のキャパシティはどれくらいにすれば良いのか</p> <p>第 7回 生産計画：何をどれくらい作れば一番儲かるのか</p> <p>第 8回 作業分析：作業者の動作を分析する</p> <p>第 9回 投資計画 1：お金の現在価値と将来価値</p> <p>第 10回 投資計画 2：プロジェクトの価値</p> <p>第 11回 在庫問題：在庫コストを少なくする</p> <p>第 12回 評価と選択：複数の代替案の中から一番良いものを選ぶ</p> <p>第 13回 最短経路：一番近い道を探す</p> <p>第 14回 配送計画：配達順序を決める</p> <p>第 15回 まとめ</p>							
授業外学習(予習・復習)	適宜指示							
成績評価の方法	授業中の課題 (20%) + 期末試験 (80%)							
実務経験について	なし							

授業科目	応用データ活用	担当者	倉重賢治
	[履修年次] 1,2,3年 [学期] 前期 [単位] 1 [必修/選択] 選択 [授業形態] 実習方式	授業外対応	適宜対応
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 リレーショナルデータベースの基本操作と Excel を用いた統計処理</p> <p>【概要】 この演習の前半では、代表的なデータベースソフトであるマイクロソフト社の Access の基本操作を学び、データベース設計に関する問題に取り組んでいく。後半では、Excel を用いた統計処理を学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データベースソフト Access の使い方を修得する。 ・Excel を用いた統計処理を理解する。 		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 未定 (2) 特になし</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 序論：リレーショナルデータベースの概念 第 2 回 Access の操作：Access とは 第 3 回 Access の操作：データベースのデータ編集 第 4 回 Access の操作：テーブル操作 第 5 回 Access の操作：クエリの作成 第 6 回 Access の操作：アクションクエリの作成 第 7 回 Access の操作：データベースの設計 第 8 回 Access の操作：リレーションシップの作成 第 9 回 Access の操作：レポートの作成とマクロの利用 第 10 回 Excel による統計処理：正規分布のデータ処理 第 11 回 Excel による統計処理：相関係数と回帰直線 第 12 回 Excel による統計処理：平均値の推定 第 13 回 Excel による統計処理：平均値の検定 第 14 回 Excel による統計処理：比率の推定と検定 第 15 回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業中の課題 (60%) + 期末試験 (40%)		
実務経験について	なし		

授業科目	プログラミング	担当者	倉重賢治
	[履修年次] 1,2,3年 [学期] 後期 [単位] 1 [必修/選択] 選択 [授業形態] 実習方式	授業外対応	適宜対応
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 VBA (Visual Basic for Application) を用いたプログラミング</p> <p>【概要】 プログラミングとは、コンピュータで実行したい作業を人間ではなく計算機が理解できるように記述することである。この演習では、プログラミングの基本概念を Excel に含まれている VBA により学習する。プログラムの作成を通じて、論理的な思考を身につけることはもちろんのこと、VBA の利用により、さらに高度な Excel の活用方法が可能となる。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的なプログラミング技術を身につける。 ・VBA を利用した Excel のより高度な活用方法を修得する。 		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 未定 (2) 特になし</p>		
授業スケジュール	<p>第 1 回 序論：プログラミングの概念 第 2 回 VBA の利用：演算子と関数 第 3 回 VBA の利用：変数 第 4 回 VBA の利用：条件分岐 第 5 回 VBA の利用：ループ処理 (1) 第 6 回 VBA の利用：ループ処理 (2) 第 7 回 VBA の利用：オブジェクト関連の文法 第 8 回 VBA の利用：マクロの記録 第 9 回 VBA の利用：Range オブジェクト 第 10 回 VBA の利用：Worksheet オブジェクト 第 11 回 VBA の利用：複数シートをまとめる 第 12 回 VBA の利用：Workbook オブジェクト 第 13 回 VBA の利用：イベントプロシージャ 第 14 回 VBA の利用：ユーザフォーム 第 15 回 まとめ</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	授業中の課題 (50%) + 期末試験 (50%)		
実務経験について	なし		

授業科目	財務会計論		担当者	岡村雄輝
	[履修年次]	指定なし	授業外対応	講義前後に適宜対応
	[学期]	後期	[単位]	2 単位
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】財務会計の全体像を理解する</p> <p>【概要】近年、グローバル化の影響によって会計基準の新設・改定が続き、会計への関心が高まっています。現代の経済社会では、会計の基礎概念や理論への理解が重要になっているといえます。本科目では、会計の機能を説明し、会計基準の考察を通して、現代会計の深淵に迫ってみたいと思います。※会計学総論、簿記論の学修を前提として講義を展開します。</p> <p>【到達目標】現代の経済社会で果たしている会計の役割、会計基準に通底する基礎概念や理論を理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 桜井久勝『財務会計講義』(第24版), 中央経済社。</p> <p>(2) 『新版 会計法規集』(第12版), 中央経済社。</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 財務会計の機能と制度：財務会計の機能と法規制</p> <p>第2回 利益計算の仕組み：企業活動と財務諸表、複式簿記の構造</p> <p>第3回 利益計算の仕組み：複式簿記の構造、利益計算と財務諸表</p> <p>第4回 会計理論と会計基準：会計基準設定のアプローチと会計情報の質的特性</p> <p>第5回 利益測定と資産評価の基礎概念：発生主義会計</p> <p>第6回 利益測定と資産評価の基礎概念：資産評価の基準</p> <p>第7回 資金運用活動の資産と収益：現金預金と有価証券、キャッシュ・フロー計算書</p> <p>第8回 売上高と売上債権：収益認識、売上債権</p> <p>第9回 棚卸資産と売上原価：棚卸資産の取得原価、原価配分、払い出し単価の決定、期末評価</p> <p>第10回 有形固定資産：減価償却、減損、リース</p> <p>第11回 無形固定資産と繰延資産：知的財産、研究開発費</p> <p>第12回 負債：負債の範囲と区分、引当金</p> <p>第13回 純資産：払込資本、稼得資本、区分表示</p> <p>第14回 財務諸表の作成と公開：財務諸表の体系、注記と附属明細表</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	講義前後にテキストを精読してください。			
成績評価の方法	期末レポート100%			
実務経験について	なし			

授業科目	情報論特講		担当者	岡村俊彦, 倉重賢治
	[履修年次]	1,2,3 年	授業外対応	講義前後に適宜対応
	[学期]	前期	[単位]	2
			[必修/選択]	選択
			[授業形態]	講義(一部実習)
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>ICT(情報通信技術)について実用的、応用的な学習をおこなう。</p> <p>【概要】</p> <p>ハードウェア、ソフトウェア、ネットワークといったICTを学び、日商PC検定2級知識科目と同等以上の知識を得る。表計算ソフト(エクセル)の実用的な使用方法について学習を行う。</p> <p>【到達目標】</p> <p>実社会において、自らICT業務に携わり、効果的、効率的な活用ができるようにする。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) FOM出版「よくわかるマスター 改訂版 日商PC検定試験2級知識科目公式問題集」, プリント</p> <p>(2) 特になし</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 概要説明：授業概要と評価方法の説明</p> <p>第2回 ハードとソフト：PC等のICT機器のハードウェア、ソフトウェアの解説</p> <p>第3回 コンピュータの内部部品1：CPUとメモリの解説</p> <p>第4回 コンピュータの内部部品2：ストレージと光学ドライブの解説</p> <p>第5回 インターネットとネットワーク：TCP/IPの設定、ルータの役割の解説</p> <p>第6回 表計算ソフトの活用1：Webクエリのグラフ作成</p> <p>第7回 表計算ソフトの活用2：フィルターとピボットテーブル</p> <p>第8回 コンピュータが扱う数字1：2進数と16進数</p> <p>第9回 コンピュータが扱う数字2：負の数と実数</p> <p>第10回 情報セキュリティ：共通鍵暗号と公開鍵暗号</p> <p>第11回 シミュレーション1：シミュレーションとは</p> <p>第12回 シミュレーション2：エクセルを用いたシミュレーション</p> <p>第13回 意思決定：エクセルのソルバー</p> <p>第14回 データ分析：エクセルのデータ分析</p> <p>第15回 まとめ</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示			
成績評価の方法	レポート(30%) + 授業中の課題(40%) + 期末試験(30%)			
実務経験について	なし			

授業科目	マーケティング論	担当者	瀬口 毅士	
	[履修年次] 1, 2, 3年	授業外対応	適宜対応 (要予約)	
	[学期] 前期 [単位] 2	[必修/選択]	選択	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】マーケティング論を体系的に学ぶ</p> <p>【概要】マーケティングとは、企業がモノやサービスを売るための仕組みづくりです。現代の企業にとってマーケティングはますます重要になっています。本講義では、マーケティング論の基本事項を説明した後、現代社会におけるマーケティングのあり方を解説します。可能であれば、グループ・ワークを適宜取り入れることで、内容の理解を深めていきます。</p> <p>【到達目標】マーケティング論に関する基本的知識を習得し、消費者としてあるいはメーカーとしての視点を養うことを目標とする。すなわち、今日の企業がどのようにマーケティング戦略を遂行しているのかを理解することで、「賢い」消費者になると同時に、顧客ニーズや顧客満足度を満たすためにはいかなる工夫が必要であるかを考えられることである。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリントを配付 (2)			
授業スケジュール	第 1回 インTRODクシヨン：授業の進め方や成績の評価方法を確認する。 第 2回 マーケティング論の基本概念：マーケティング論の概要や基本概念を説明する。 第 3回 グループ・ワーク (1)：身近な商品について考えてみよう。 第 4回 標的市場の選択：STPについて解説する。 第 5回 消費者行動分析：消費者行動論の基本を知ること、諸飛車の購買行動について理解を深める。 第 6回 競争分析：「ポジショニング」の諸理論を中心に、企業間競争の構造分析の方法を知る。 第 7回 グループ・ワーク (2)：STPを使ってみよう。 第 8回 製品戦略：製品・サービスの分類や製品ミックスなどを説明する。 第 9回 価格戦略：価格設定の重要性とその方法について講義する。 第 10回 流通戦略 (1)：流通の仕組みとチャネル選択について説明する。 第 11回 流通戦略 (2)：チャネル管理とサプライチェーン・マネジメントについて解説する。 第 12回 プロモーション戦略：プロモーション・ミックスとメディア・ミックスを中心に講義する。 第 13回 ブランド戦略：これまでの内容を基に、ブランド構築やブランド管理について考える。 第 14回 企業の社会的責任とマーケティング：企業の社会性とマーケティングの関係性について解説する。 第 15回 グループ・ワーク (3)：ソーシャル・プロダクツを探してみよう。			
授業外学習(予習・復習)	授業のなかで適宜指示します。			
成績評価の方法	期末筆記試験 (80%) +リアクシヨン・ペーパーやグループ・ワークなど (20%)			
実務経験について	なし			

18 商経学科の演習・実習科目

第一部商経学科の演習科目

「演習科目」

(経済専攻・経営情報専攻とも)

授業科目	履修年次	学期	単位	必修・選択	備考
基礎演習	1年	前期	2	必修	詳細は学科で指示する。
演習 I	1年	後期	2	必修	詳細は学科で指示する。
演習 II	2年	前期	2	必修	詳細は学科で指示する。
卒業研究	2年	後期	2	必修	詳細は学科で指示する。

第二部商経学科の演習科目

「演習科目」

授業科目	履修年次	学期	単位	必修・選択	備考
基礎演習	1年	前期	2	必修	詳細は学科で指示する。
演習 I	2年	後期	2	必修	詳細は学科で指示する。
演習 II	3年	前期	2	必修	詳細は学科で指示する。
卒業研究	3年	後期	2	必修	詳細は学科で指示する。

授業科目	(第一部・第二部) 基礎演習・演習Ⅰ・演習Ⅱ・卒業研究	担当者	各年度で指定する教員
<p>①社会科学に独特の授業形態としての「演習」系の授業科目</p> <p>社会科学系の学習の要は「演習」という授業形式です。これは(1)司会・報告・問題提起・討論といった対話型の授業で、講義科目と異なり、参加する学生の皆さんによって自発的に運営されます。また、担当教員と所属学生で構成する演習は、工場見学や研究のための合宿、国内外における調査活動などを行う基礎となる集団でもあります。そして、(2)対話型であるために、参加学生各自の自発性が重要で、他の講義科目・実習科目などで身につけた学力を自分自身の力で統合し、応用してゆく場です。そのため、(3)どの担当教員の演習に参加するかということが、その他の講義科目・実習科目をどのように履修してゆくべきかを決定することになりますので、加入が決定した演習Ⅰの専門性を充分考慮して、受講登録に臨むようにして下さい。</p>			
<p>②商経学科の「演習」系の授業科目はどんな特性があるのか?</p> <p>商経学科の「演習」系授業科目は、(1)すべて必修科目で、(2)これを順番に受講することで、社会学的なものの考え方から出発して、自分自身の問題関心に基つて卒業論文を執筆するところまで系統的に学ぶことができるようになっています。</p>			
<p>③「演習」系科目の受講の流れ</p>			
<p>(第一部)</p>			
<p>1年生前期「基礎演習」</p> <p>全員が基礎演習に所属し、ゼミナールの基本的な部分(運営・議論など)について、学びます。</p>			
<p>1年生後期「演習Ⅰ」→2年生前期「演習Ⅱ」→2年生後期「卒業研究」</p> <p>1年生後期から始まる演習は、卒業までの期間、自らが選択した教員と学んでいくことになります。</p> <p>演習ごとの特色のあるテーマについて、教員や演習に所属する人たちと一緒に理解を深めていきます。</p> <p>2年後期に卒業論文を仕上げることによって、物事を深く考察し論理的にまとめる力を養っていきます。</p>			
<p>(第二部)</p>			
<p>1年生前期「基礎演習」</p> <p>全員が基礎演習に所属し、ゼミナールの基本的な部分(運営・議論など)について、学びます。</p>			
<p>2年生後期「演習Ⅰ」→3年生前期「演習Ⅱ」→3年生後期「卒業研究」、</p> <p>2年生後期から始まる演習は、卒業までの期間、自らが選択した教員と学んでいくことになります。</p> <p>演習ごとの特色のあるテーマについて、教員や演習に所属する人たちと一緒に理解を深めていきます。</p> <p>3年生後期に卒業論文を仕上げることによって、物事を深く考察し論理的にまとめる力を養っていきます。</p>			
<p>④演習のテーマ及び概要・スケジュール</p> <p>各演習には、担当教員によって設定されたテーマがあります。それは応募段階での掲示で示されます。皆さんはそれを参考にして、「演習Ⅰ」の所属を考えることになります。ただし、最終的には、演習参加者との討論によって決定されることになります。スケジュールについても同様です。</p>			
<p>⑤成績評価の方法</p> <p>演習ごとに異なりますが、個人の報告や出席状況、グループの中での役割やレポートなどによって総合評価されます。</p>			
<p>⑥受講登録上の注意</p> <p>原則として「演習Ⅰ」から「卒業研究」までは一つの集団として継続されます。従って、「演習Ⅰ」の選択が重要となります。</p>			

授業科目	社会活動	担当者	担当教員全員
		[履修年次] 年次指定なし [学期] 通年 [単位] 2単位 [必修/選択] 選択 [授業形態] 実習	
テーマ及び概要	<p>【テーマ】「社会活動」は、非営利組織を中心とした研修先において、実際の現場での体験を得ることにより、将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。</p> <p>【概要】公共機関等が開催するイベントへのボランティア参加や外国の大学生との交流活動などを通じて、社会での実践力・企画力を養うとともに「社会を見る目」を養う。 具体的な研修先、及び研修内容等は多様であり、毎年4月末から6月頃に掲示され、募集が行われる。</p> <p>【到達目標】自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる、研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術こふれることができる、自立的に考え行動できるようになる、など。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	未定（事前指導のなかで指示する）		
授業スケジュール	<p>事前指導：主に前期を中心に研修先の決定、各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。</p> <p>研修：主に夏期休暇期間に、実際に研修先での研修を行う。</p> <p>事後指導：研修終了後は、研修日誌の作成・提出、研修レポートの作成、研修報告会の発表の準備などを行う。</p>		
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。（100％）		

授業科目	企業研修	担当者	担当教員全員
		[履修年次] 1年（第一部）、2年（第二部） [単位] 2単位 [必修/選択] 選択	[学期] 通年 [授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】この科目は、一般的には「インターンシップ」と呼ばれている。「企業研修」は、民間企業を中心に県庁、病院などの研修先において、現場で就業体験を行い、将来のキャリアの形成に役立てることを狙いとしている。</p> <p>【概要】県内外企業や県庁・市役所の現場で働く経験を通じて、社会人としての課題、企業運営、職務遂行に必要な知識・技術を理解し、働くことの自覚や自信を身につける。 具体的な研修先、及び研修内容等は多様であり、毎年4月末から6月頃に掲示され、募集が行われる。</p> <p>【到達目標】自分の職業適性や将来計画を考える機会を持つことができる、研修先の現場体験で専門分野における高度な知識・技術こふれることができる、自立的に考え行動できるようになる、など。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	未定（事前指導のなかで指示する）		
授業スケジュール	<p>事前指導：主に前期を中心にインターンシップの意義、研修先の決定、各研修先での研修内容の確認および研修先での諸注意や保険の説明などを行う。</p> <p>研修：主に夏期休暇期間に、実際に研修先での研修を行う。</p> <p>事後指導：研修終了後は、研修日誌の作成・提出、研修レポートの作成、研修報告会の発表の準備などを行う。</p>		
成績評価の方法	研修レポートおよび事前事後指導の出席状況・履修態度を中心に評価する。（100％）		

19 教職に関する科目

授業科目名： 教職入門	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：田口 康明 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ： 【テーマ】日本における今日の学校教育や教職の社会的意義。戦前戦後、諸外国の教職観の変遷を踏まえ、専門職としての教員に求められる役割や資質能力。変化の激しい社会において学校に求められる役割を果たすための多様な職員・専門家の連携・分担。 【到達目標】教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等、学校における少数職種について理解する。また、進路選択に資する教職の在り方を理解する。			
授業の概要 今日の教育現場の現実と向きあって教育とは何かを問い、教科指導だけではない具体的な教師の仕事を紹介する。また、「教職」は教員（教諭）だけで担われるわけでないことを理解し、学校にいる「少数職種」といわれる職について理解をすすめる。また、地域にある教職的な諸職業についても理解を深める。			
授業計画 第1回：進路選択の対象としての教員 第2回：教育の理念と思想①大正自由教育期の教員像 第3回： 同上 ②「授業名人」といわれた人たち 第4回：教職観の変遷①古代ギリシャからルネサンス期 第5回： 同上 ②明治期と戦後の教員像 第6回： 同上 ③現代日本の学校と教員 第7回：教員の職務内容と服務①学校内外の職務と研修 第8回： 同上 ②教員の服務上・身分上の義務と身分保障 第9回：チーム学校への対応① 中教審答申「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について」の理解 第10回： 同上 ②校内の多様な専門職（少数職種の意義と役割） 第11回：諸外国の教職員 第12回：教育方法と教員の役割①ITCと教員 第13回： 同上 ②アクティブ・ラーニングへの対応 第14回：中学生と教職員の諸関係 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト： 特に定めない。資料を配付する。			
参考書・参考資料等：中学校学習指導要領解説 総則編 教職員ハンドブック 第3次改訂版 東京都教職員研修センター（監修） 都政新報社			
学生に対する評価：3回程度の小レポート（30％）・定期試験（70％）			

授業科目名： 教育原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：田口 康明 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業の到達目標及びテーマ： 【テーマ】教育の本質、教育の目的、教育の実際の理解 【到達目標】教育学の基本概念、教育の歴史に関する基礎、代表的な教育思想の理解、学校・家庭・地域の協働関係。これらの理解。			
授業の概要 「教育」については、誰もが何らかの形で経験するものである。必ずしも専門家である教職員のみが関与するわけではない。また受講生自らも経験してきている。こうした「固定」概念を相対化し、「教育とは何か」について問い続けていくために必要な原理的知識を、思想や歴史、社会的な諸関係について多角的な観点から講義する。			
授業計画 第1回：教育学の諸概念① 日本の近代以前と近代以降の教育概念 第2回： 同上 ② 諸外国の教育概念 第3回：日本における教育的諸関係①子どもと保護者の関係論 第4回： 同上 ②地域における教育と教育的関係 第5回：教育に関する歴史①近代以前の教育と教育思想（ギリシャ・ローマなど） 第6回： 同上 ②近代の教育と教育思想（近世・啓蒙期） 第7回： 同上 ③コメニウス・ロック・ルソーの教育思想 第8回： 同上 ④日本の明治期以降の教育思想 第9回： 同上 ⑤戦後日本の教育の変遷 第10回：近代公教育の原理 第11回：世界の教育改革 第12回：学力の要素と学力政策 第13回：幼児期の教育 第14回：思春期の教育 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト： 特に定めない。資料を配付する。			
参考書・参考資料等：中学校学習指導要領解説 総則編 思春期の子どもと向き合うために 文部科学省著 ぎょうせい			
学生に対する評価：3回程度の小レポート（30％）・定期試験（70％）			

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：田中 真理 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育対象である幼児児童生徒に関する心身の発達の特徴，学習，個性（パーソナリティ）に関する理論や概念を習得する。 ・各発達段階の特性に応じた教育や指導の基盤となる考え方を理解することができる。 <p>【テーマ】</p> <p>幼児児童生徒の心身の発達，学習過程，個性について理解し，それらをふまえた教育や指導方法について考える。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>教育活動とは，教育対象に対して教育や指導といった働きかけを行うことで，対象がよりよい方向に変化する過程である。学校教育では，教育対象である幼児児童生徒に関わる発達の特徴と個人特性，さらには教育や指導に不可欠な学習の過程に関して理解することが不可欠である。教育心理学は，こうした教育活動をより効果的に行うための心理学の知識や技術を提供する学問領域といえる。</p> <p>授業では，発達（幼児児童生徒の身体，心理，社会性の発達や発達に関する理論），学習（学習過程とそのプロセスに関する基礎的知識），教育実践と評価（学習法・教授法，教育評価，知能やパーソナリティ）について取り上げる。さらには，これらの理解に基づいた教育や指導のあり方についても考えていく。適宜，ワークやディスカッションも交えながら体験的に理解を深めていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：発達① 発達に関する基礎的な概念</p> <p>第2回：発達② 発達の規定要因（内的・外的要因），初期経験の重要性</p> <p>第3回：発達③ 身体発達とそれに伴う心理特性，言語発達，認知発達に関する理論</p> <p>第4回：発達④ 愛着，遊び，友人関係や仲間関係などの社会性の発達</p> <p>第5回：発達⑤ 代表的な発達理論と各発達段階，発達課題</p> <p>第6回：発達⑥ 発達と教育，各発達段階に応じた指導のあり方</p> <p>第7回：学習① 代表的な学習理論，条件づけ，観察学習，問題解決学習</p> <p>第8回：学習② 記憶プロセスやその種類，記憶の方略と忘却，記憶と教育の関係</p>			

第9回：学習③ 動機づけ，欲求，学習意欲

第10回：実践・評価① 教授法，学習方法と教科との関連，ATI

第11回：実践・評価② 教育評価機能と方法，評価情報の収集方法

第12回：実践・評価③ 知能観，代表的な知能理論，知能検査と指導への活用

第13回：実践・評価④ パーソナリティ理論

第14回：実践・評価⑤ パーソナリティ検査と心理検査に関する諸概念

第15回：まとめ

定期試験

テキスト

毎時プリントによる資料を配布する。

参考書・参考資料等

藤原雅彦・竹綱誠一郎他著『やさしい教育心理学第5版（有斐閣アルマ）』有斐閣，2019年

田瓜宏二他著『教育心理学（よくわかる教職エクササイズ）』ミネルヴァ書房，2018年

服部 環・外山 美樹編『スタンダード教育心理学』サイエンス社，2013年

櫻井 茂男・佐藤有耕 編『スタンダード発達心理学』サイエンス社，2013年

学生に対する評価

定期試験（70%）＋小テスト（20%）＋リアクションペーパー（10%）

（注）生活科学専攻のみ卒業要件単位に算入できる。

授業科目名： 特別支援教育概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：田中 真理 担当形態：単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児，児童及び生徒に対する理解		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育の制度と仕組みについて理解する。 ・特別支援教育対象の幼児児童生徒の障害特性と発達の特徴を理解し，組織的な対応や支援の方法について理解する。 ・個別の教育的ニーズを有する幼児児童生徒の把握や支援方法について理解する。 <p>【テーマ】</p> <p>特別な支援あるいは個別の教育的ニーズを有す幼児児童生徒に対して組織的に対応するために必要な基礎知識と支援方法について理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>平成19年の学校教育法の改正により特別支援教育が本格的に開始され，従来の視覚障害や聴覚障害，知的障害といった従来の特殊教育の対象に加え，通常学級に在籍している発達障害や個別の教育的ニーズを有す幼児児童生徒もその支援対象に含まれるようになった。本講義ではこうした特別な支援を必要とする，あるいは個別の教育的ニーズを有す幼児児童生徒を支援するために，特別支援教育の制度や仕組み，各障害の特性と個別の教育的ニーズへの理解，さらには組織的な対応のための支援や関係機関との連携方法について学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：インクルーシブ教育，特別支援の理念，関連する制度</p> <p>第2回：「通級による指導」及び「自立活動」</p> <p>第3回：指導計画及び教育支援計画の作成</p> <p>第4回：障害のある児童生徒（視覚・聴覚・知的・肢体不自由・病弱等）の理解</p> <p>第5回：学習障害，注意欠陥多動性障害，高機能自閉症等の発達障害の特性と理解</p> <p>第6回：発達障害，軽度知的障害児への支援</p> <p>第7回：貧困世帯，被虐待児等の特別な教育的ニーズの理解と組織的支援のあり方</p> <p>第8回：特別支援コーディネーターや専門家，保護者など学内外の関係者・関係機関との連携と支援体制の構築</p> <p>定期試験</p>			

テキスト

全国特別支援学校校長会全国特別支援教育推進連盟編著『介護等体験ガイドブック 新フィリア』
ジアース教育新社, 2020年
毎時プリントによる資料を配布する。

参考書・参考資料等

石橋裕子・林幸範編著『特別支援教育(よくわかる!教職エクササイズ)』ミネルヴァ書房, 2019年
柘植雅義・渡部匡隆『はじめての特別支援教育--教職を目指す大学生のために 改訂版』有斐閣, 2014年

学生に対する評価

定期試験 (100%)

授業科目名： 教育行政学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：田口 康明 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <p>【テーマ】教育行政及び教育行政学の基本的事項について扱い、学校経営のしくみ、「社会に開かれた教育課程」、学校と地域との連携、安全教育及び学校安全への対応について扱う。</p> <p>【到達目標】現代の学校教育に関する制度及び学校経営について基本的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。さらに、「社会に開かれた教育課程」を実現するための学校と地域との連携に関する理解。また安全教育を含めた学校安全への対応に関する基礎的知識も身に付ける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>教育行政は公教育（公権力によって管理運営される教育）を支える重要な執行機関であり、広義には教育法規や教育裁判も含む。他方で、学校内部のマネジメントである学校経営も含まれる。さらには、学校の存立基盤である地域社会との連携も今日急速に進んでいる。またここでは近年の「防災」意識の高まりから「学校安全」についても扱う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：公教育の原理及び理念</p> <p>第2回：現代日本の教育法規と教育行政のしくみ</p> <p>第3回：現代日本の教育制度と教育改革</p> <p>第4回：学校経営①校務分掌と各部署の役割</p> <p>第5回： 同上 ②学級経営のしくみ</p> <p>第6回：学校と地域の連携①学校と地域の関係</p> <p>第7回： 同上 ②社会に開かれた教育課程と開かれた学校づくり</p> <p>第8回：学校安全への対応</p>			
<p>テキスト： 特に定めない。資料を配付する。</p>			
<p>参考書・参考資料等：中学校学習指導要領解説 総則編 教職員ハンドブック 第3次改訂版 東京都教職員研修センター（監修） 都政新報社</p>			
<p>学生に対する評価：3回程度の小レポート（30％）・定期試験（70％）</p>			

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：森田 司郎 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p><授業のテーマ>これからの社会を生き抜く子どもたちに必要な資質・能力を育成するためには、各学校が創意工夫をして魅力ある教育課程を編成することが必須である。この授業では、学習指導要領を基準として編成される教育課程の意義と役割、学習指導要領の変遷と社会的背景、各学校の実情に応じて教育課程を編成するための基本原理、具体的な授業における指導計画の作成に必要な視点、そしてカリキュラム評価とカリキュラム・マネジメントの考え方について学修する。この授業は、教員として魅力的な教育課程を編成するために教員にとって必要となる諸資質を育成することを主なねらいとする。</p> <p><到達目標></p> <p>(1) 社会における学校教育と教育課程の意義と役割について理解する。</p> <p>(2) 学習指導要領の内容および改訂の変遷について、その社会的背景とともに理解する。</p> <p>(3) 各学校の実情に即して教育課程を編成する際の基本原理について理解する。</p> <p>(4) 開かれた教育課程を実現するためにカリキュラム・マネジメントが果たす役割と意義、そしてその方法について理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>授業は、主に講義形式で行われる。前半では主に教育課程に関する基本原理について、日本の学校教育制度と学習指導要領の内容について検討しながら理解していく。後半では実際の教育現場においてどのような手続きで教育課程が編成されているのか、教科・領域を横断した教育課程や教科外活動の教育課程の編成事例等を検討しながら理解していく。最後に、これからの学校教育に必須となるカリキュラム評価とカリキュラム・マネジメントの意義と役割、そしてその実施に必要な視点について学んでいく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>概要：学校とは何を学ぶところか？ 社会における学校教育の意義と役割</p> <p>予習：社会の中で学校が果たしている役割について自分の考えを持ち、それを説明できるようにする。</p> <p>復習：社会における学校教育と教育課程の意義と役割について、具体的な例を挙げて説明できるようにする。</p>			

第2回：日本の学校教育と教育課程

概要：諸外国と比較して日本の学校教育にはどのような特徴があるのか？ 教育制度・教育内容・教育方法・京員養成の比較を通して検討する。

予習：日本以外の国を一つ選び、その国の学校教育制度と日本のそれとを比較する。

復習：日本とそれ以外の二つ以上の国について、教育制度・教育内容・教育方法・教育養成の様子を比較する。

第3回：教育課程の基本原則(1)

概要：学校で教える内容(教育課程)はどのようにして決定されるのか？ カリキュラムと教育課程の概念整理

予習：「カリキュラム」と「教育課程」それぞれの用語がどのような場面で使用されているか調べる。

復習：教育内容の規定要因として、国、地域、家庭、学校、メディア等が与える影響について考察する。

第4回：教育課程の基本原則(2)

概要：教育課程はどのようにして編成され、実施されるのか？ 法令、教科書・教材・学習環境

予習：特定の教材と単元を選び、複数の教科書の内容を比較して同じ点と相違点を挙げる。

復習：授業を構成する際に有益な教科書、教材、学習環境お活用・開発の仕方について考察する。

第5回：教育課程の基本原則(3)

概要：学習指導要領とは何か？ 学習指導要領の意義と役割、改訂の仕組み

予習：学習指導要領の大まかな内容と、学校教育現場に与える影響について説明できるようにする。

復習：学習指導要領の有無に関して、日本以外の複数の国について調べる。

第6回：教育課程の基本原則(4)

概要：戦後の日本の学校ではどのような教育が行われていたのか？ 学習指導要領の変遷(戦後～1968年版の内容と社会的背景)

予習：学習指導要領の変遷の全体像について時系列で理解し、説明できるようにする。

復習：戦後～1968年版の学習指導要領の内容について、当時の社会的背景と関連づけて説明できるようにする

第7回：教育課程の基本原則(5)

概要：高度経済成長期後の日本の学校ではどのような教育が行われていたのか？ 学習指導要領の変遷(1977年～1989年版の内容と社会的背景)

予習：高度経済成長期の日本の学校教育の内容に関して窺える資料を探し、概要を説明できるようにする。

復習：1977年版～1989年版の学習指導要領の内容について、当時の社会的背景と関連づけて説明できるようにする。

第8回：教育課程の基本原則(6)

概要：近年の日本の学校ではどのような教育が行われてきたのか？ 学習指導要領の変遷（1998年～2008年版の内容と社会的背景）

予習：1990～2010年における学校教育の内容に関して知ることができる資料を探し、概要を説明できるようにする。

復習：1998年版～2008年版の学習指導要領の内容について、当時の社会的背景と関連づけて説明できるようにする。

第9回：教育課程の基本原則(7)

概要：今後の日本の学校ではどのような教育が行われていくのか？ 新学習指導要領の内容と今後の改革の方向性

予習：現行（2017年版）の学習指導要領にもとづく学校教育の内容に関して知ることができる資料を探し、概要を説明できるようにする。

復習：現行（2017年版）の学習指導要領の内容について、現在の社会的背景と関連づけて説明できるようにする。

第10回：教育課程編成の基本原則(1)

概要：学校での教育内容はどのようにして決められているのか？ 各学校における教育課程編成の仕組みと方法、カリキュラム・マネジメントの意義と方法

予習：学習指導要領と実際の授業内容との関係について理解し、説明できるようにする。

復習：学校におけるカリキュラム・マネジメントのプロセスを、PDCAサイクルに即して理解し説明できるようにする。

第11回：教育課程編成の基本原則(2)

概要：実際の授業の内容はどのようにして決められているのか？ 各教科における教育課程編成の仕組みと方法、教科・領域を横断した教育課程編成の仕組みと方法

予習：特定の教科と単元を選び、それに関して作成された複数の学習指導案の内容を比較して同じ点と相違点を挙げる。複数の学習指導案はインターネット上の教材共有サイトなどを活用して入手する。

復習：教科・領域を横断した教育課程編成の仕組みと方法、留意点について具体的事例を挙げて説明できるようにする。

第12回：教育課程編成の基本原則(3)

概要：教科外活動の内容はどのようにして決められているのか？ 開かれた教育課程の意義と編成方法

予習：教科外活動の内容について複数の学校の事例を比較して、同じ点と相違点を把握する。

復習：開かれた教育課程を編成する際に教科外活動が果たす役割について、具体的事例を挙げて説明できるようにする。

第13回：カリキュラム評価とカリキュラム・マネジメント

概要：子どもたちが身につけた資質・能力をどのように確認すればよいか？ カリキュラム評価の意義と方法、PDCAサイクルの実際

予習：子どもたちの学習成果を評価する方法を複数挙げ、それぞれが明らかにできる側面と限界について把握する。

復習：PDCAサイクルに即したカリキュラム評価の意義と方法について、具体的事例を挙げて説明できるようにする。

第14回：今後の教育課程の在り方

概要：現代社会の課題に対応して生きる力を育成するためにはどのような教育課程が必要となるのか？ 主体的・対話的で深い学びを実現する教育課程編成の事例、開かれた教育課程を実現するカリキュラム・マネジメントの事例

予習：主体的・対話的で深い学びの具体例を挙げ、その実施要件を説明できるようにする。

復習：開かれた教育課程を実現するカリキュラム・マネジメントの具体例を挙げ、その要点を説明できるようにする。

第15回：まとめ：授業全体の要点整理と理解の確認

予習：授業全体を振り返り、補足が必要な項目の有無について確認する。

復習：まとめを参照して授業に関する自己の理解度を確認し、資料や記録等を振り返ることで不足部分を補う。

*学習指導要領の改訂年は小学校のものを表記している。

テキスト：プリント

『小学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領』*『高等学校学習指導要領』

参考書・参考資料等：適宜指示する

学生に対する評価

授業内テストの結果と小レポート、そして授業への貢献度を総合的に評価して判断する。

(授業内テスト 60%、小レポート 20%。授業への貢献度 20%)

小レポート：それぞれの回における授業内容の理解度を評価する。

授業内テスト：授業全体を通じた授業内容の理解度を評価する。

授業科目名： 国語科教育法 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：竹本 寛秋 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ <p>中学校の国語教員に必要とされる基本的な知識・資質を理解し、授業の実施に必要な技能や方法を修得する。また、模擬授業により、実践的な授業の能力を身につける。</p> <p>中学校国語科教育の意義を説明できる。学習指導案を作成することができる。</p> <p>模擬授業の振り返りを通して、客観的な観点から授業研究ができる。</p>			
授業の概要 <p>中学校学習指導要領を読み解き、現在の中学校国語に求められていることを理解する。その上で、授業を計画し、指導案を作成し、授業を実施する流れを修得する。そのために、指導案を作成し、模擬授業を取り入れた講義を行う。模擬授業、および模擬授業の振り返りを行うことで、授業を客観的にとらえる能力を修得し、授業研究の意義を理解する。</p>			
授業計画 <p>第1回：ガイダンス：中学校国語科の目標と内容</p> <p>第2回：中学校学習指導要領について</p> <p>第3回：「知識及び技能」に関する事項について</p> <p>第4回：「思考力、判断力、表現力」に関する事項について</p> <p>第5回：教材研究の方法（1）：教材研究の観点</p> <p>第6回：教材研究の方法（2）：事例研究</p> <p>第7回：学習指導案の作成（1）：教材観、生徒観、指導観</p> <p>第8回：学習指導案の作成（2）：目標の設定、授業内容の設定、評価の観点</p> <p>第9回：模擬授業の意義</p> <p>第10回：模擬授業（1）：文学的文章</p> <p>第11回：模擬授業（2）：説明的文章</p> <p>第12回：模擬授業（3）：古典</p> <p>第13回：模擬授業の振り返り：方法と実践</p> <p>第14回：教育実習について</p> <p>第15回：まとめ</p>			

テキスト：文部科学省『中学校学習指導要領解説 国語編』，古田尚行『国語の授業の作り方はじめての授業マニュアル』文学通信，プリント。

参考書・参考資料等：授業中，適宜紹介する。

学生に対する評価： 学習指導案の作成（50%），模擬授業についてのレポート（50%）

授業科目名： 国語科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：竹本 寛秋 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ 中学校の国語教員に必要とされる基本的な知識・資質を理解し、授業の実施に必要な技能や方法を修得する。国語科教育を取り巻く現状について理解し、情報機器を活用した授業、様々な指導理論を踏まえた授業を行う能力を身につける。 国語科教育の現状、様々な指導理論・方法を理解し説明できる。多様な機器、方法を利用した授業を計画・実践できる。			
授業の概要 国語教育の現状、様々な学習指導理論・方法について理解する。様々な指導理論を踏まえた指導を踏まえた学習指導計画を立て、実践する能力を身につける。情報機器やネットワーク、学習支援ソフトウェアなどを活用した学習指導計画を立て、実践する能力を身につける。国語科教育の課題と展望を理解し、新たな教育理論・実践を授業に取り入れる方法を理解する。			
第1回：ガイダンス：国語科教育の現状 第2回：様々な学習指導理論と国語科教育の方法 第3回：アクティブラーニングによる国語科の授業（1）：読みの場の創造 第4回：アクティブラーニングによる国語科の授業（2）：対話の場の創造 第5回：ICTを利用した授業（1）：電子黒板，タブレット端末 第6回：ICTを利用した授業（2）：ネットワークの活用，学習支援ソフトウェアの活用 第7回：これからの国語科教育の展望と課題 第8回：まとめ			
テキスト：文部科学省『中学校学習指導要領解説 国語編』，古田尚行『国語の授業の作り方はじめての授業マニュアル』文学通信，プリント。			
参考書・参考資料等 授業中，適宜紹介する。			
学生に対する評価 授業での課題（50%），期末レポート（50%）			

授業科目名： 英語科教育法Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：石井 英里子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
【到達目標】			
(1) 外国語（英語）の学習・指導に関する知識と授業指導、および、学習評価の基礎を身につける。			
(2) 教える指導観から児童生徒の心に寄り添う指導観へとシフトさせることができる。			
(3) 各自の英語教師像や英語の授業イメージを形成することができる。			
【テーマ】			
英語の授業イメージと教師像の形成、英語教育の本質を探る			
授業の概要			
この授業では、様々なワークや体験活動を通して、受講者自身の「授業のイメージ」や「教師像」を育てていきます。			
授業の内容としては、前半は、特に学習指導要領の内容の理解に主眼を置いたワークに取り組みながら、「授業に対するイメージ」や「教師像」を形成していきます。後半は、「生徒の資質・能力を高める指導」と「授業づくり」を中心に、授業観察、授業体験、マイクロ・ティーチングを行いながら実践的に学んでいきます。			
授業方法としては、受講者がグループになり、「授業をつくる」というひとつの目的に向かって学んでいきます。他者と学びを共有することで、視点を広げたり、自分のあたりまえに気づいたり、協働的な学びから、英語を学ぶこと／教えることの本質を探ります。このような他の受講生と協力しながら授業作りに取り組む体験を通して、同僚性についても考えていきます。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション（学びにおける主体的な実践→リフレクション（省察）→概念化の重要性）、言語教師ポートフォリオの作成（①過去の英語学習経験の省察／②この授業への期待／③教育実習に臨む前の期待と不安／④教師の資質・能力）			
第2回：モデル授業体験、ファシリテーター／プロデューサーとしての教師の役割			
第3回：カリキュラム／シラバスのデザイン（学習指導要領、教科用図書、目標設定・指導計画、小中連携）、学習と指導法への第二言語習得理論の応用			
第4回：生徒の資質・能力と高める指導：何が良い学び方・教え方かは、学習者によって異なる（ATIのパラダイムと英語科という教科の特質を考える）			
第5回：授業づくり①（学習到達目標に基づく授業の組み立て、学習指導案の作成）			
第6回：授業づくり②（教材研究、ICT機器等の活用）			

第7回： マイクロ・ティーチング（聞くこと・話すこと（やりとり・発表）、音声の指導）
第8回： マイクロ・ティーチングの省察と改善案作成
第9回： マイクロ・ティーチング（読むこと・書くこと、文字指導）
第10回： マイクロ・ティーチングの省察と改善案作成
第11回： マイクロ・ティーチング（領域統合型の言語活動の指導）
第12回： マイクロ・ティーチングの省察と改善案作成
第13回： マイクロ・ティーチング（文法・語彙・表現の指導）
第14回： マイクロ・ティーチングの省察と改善案作成
第15回： マイクロ・ティーチング（異文化理解）

テキスト

『小学校学習指導要領解説外国語活動・外国語編』 『中学校学習指導要領解説外国語編』
『New Horizon 1』 『New Horizon 2』 『New Horizon 3』 『New Horizon Elementary 5』 『New
Horizon Elementary 6』 『New Horizon Elementary Picture Dictionary』 （東京書籍）

参考書・参考資料等

適宜紹介します。

学生に対する評価

リアクションペーパー（40%） 学習指導案作成課題（60%）を総合的に評価します。

授業科目名： 英語科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：石井 英里子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 英語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
【到達目標】			
(1) 教育実習に備えて、教材研究や学習指導案の作成、授業が行える。			
(2) 外国語教育と外国語学習の原理を自分自身の教育実践に応用できる。			
(3) 外国語の学習タスクと教育実践を批判的に分析できる。			
【テーマ】			
リフレクティブ・ティーチング (reflective teaching)、個に応じた指導力、授業研究 (lesson study)、協働学習			
授業の概要			
この授業では、英語教育法Ⅰでの学修を基盤に、抽象的なアイデアを具体的な教育実践に応用することに焦点を当てます。			
授業内容は、マイクロ・ティーチングの演習を中心に、主に小中学校における英語指導に役立つ実践的な知識と技術を身につけていきます。			
授業方法は、他の受講者との協働をベースにデザインされています。英語授業の 体験 → 計画 → 実践 → 省察 というプロセスを2回繰り返すことで、経験を通じた納得解を導き出していきます。最終的には、学んだ知識と経験を結びつけ、実際に、もう一度やってみることを通して、学びの深まりを体感することができるでしょう。			
このように本授業では、協働を通して、実践・省察・概念化を繰り返し、1回目の経験を2回目に活かしていくことで多角的に知識を捉えていきます。その上で、各受講者は、「自分なりの指導の型」を見つけていきます。			
授業計画（内容は英語科教育法Ⅰより継続している）			
第1回：マイクロ・ティーチングの省察と改善案作成			
第2回：マイクロ・ティーチング（文法事項導入）1回目			
第3回：授業の振り返りと改善案作成			
第4回：マイクロ・ティーチング（文法事項導入）2回目			
第5回：授業の振り返りと改善案作成			
第6回：マイクロ・ティーチング（文法事項定着のための言語活動）1回目			
第7回：授業の振り返りと改善案作成			
第8回：マイクロ・ティーチング（文法事項定着のための言語活動）2回目			

第9回：授業の振り返りと改善案作成

第10回：マイクロ・ティーチング（教科書本文の導入）1回目

第11回：授業の振り返りと改善案作成

第12回：マイクロ・ティーチング（教科書本文の導入）2回目

第13回：授業の振り返りと改善案作成

第14回：日本の英語教育の展望と課題

第15回：言語教師ポートフォリオの作成とまとめ

テキスト

『小学校学習指導要領解説外国語活動・外国語編』 『中学校学習指導要領解説外国語編』

『New Horizon 1』 『New Horizon 2』 『New Horizon 3』 『New Horizon Elementary 5』 『New Horizon Elementary 6』 『New Horizon Elementary Picture Dictionary』（東京書籍）

参考書・参考資料等

適宜紹介します。

学生に対する評価

リアクションペーパー（40%） 言語教師ポートフォリオ（60%）を総合的に評価します。

授業科目名： 家庭科教育法Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：富山 裕子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
<p>【到達目標】・学習指導要領を踏まえた家庭科の指導目標と評価について理解し、授業計画及び学習指導案の作成ができる。・学家庭科教育の意義を理解でき、適切な教材研究に基づいた授業計画及び学習指導案の作成ができる。・立案した学習指導案の考察をとおして、具体的かつ適切な評価の考え方を理解できる。</p> <p>【テーマ】 家庭科教育に携わる教育実践力を備えた教師になるために求められる基本的な資質・能力を身に付ける。</p>			
【授業の概要】・中学校家庭科教育について理解し、学習指導要領を踏まえた教科の目標や内容の理解及び学習指導計画に基づいた指導案を作成する能力の習得を目指す。			
授業計画			
第1回：「家庭科教育法」受講にあたって／ 家庭科教育のあゆみと現行学習指導要領について			
第2回：家庭科教育の意義と期待できる家庭科教育が育む力			
第3回：家庭科教育への理解と今日的課題			
第4回：教科教育としての家庭科教育の理念と特徴			
第5回：家庭科教育を学ぶ子どもの生活実態と課題			
第6回：小・中・高等学校の指導目標と内容1			
第7回：小・中・高等学校の指導目標と内容2			
第8回：家庭科教育の学習指導			
第9回：家庭科教育の学習指導計画			
第10回：中学校の「技術・家庭（家庭分野）」の指導目標と内容			
第11回：中学校の「技術・家庭（家庭分野）」の指導及び目標と評価			
第12回：中学校の「技術・家庭（家庭分野）」の年間指導計画と学習指導案			
第13回：中学校の「技術・家庭（家庭分野）」の教材と教材研究			
第14回：模擬授業実施に向けた中学校の「技術・家庭（家庭分野）」の学習指導案（本時案）の作成			
第15回：まとめ			
テキスト：多々納道子・伊藤圭子 編著「実践的指導力をつける家庭科教育法」大学教育出版			
参考書・参考資料等			
文部科学省「中学校学習指導要領 技術・家庭編」，「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」			
学生に対する評価：筆記試験（80％）と提出物（学習指導案20％）で評価する。			

授業科目名： 家庭科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：富山 裕子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>【到達目標】・「家庭科教育法Ⅰ」で立案した学習指導案の検証をとおし学習指導要領への理解を深める・立案した学習指導案による教材研究の実践と考察をとおし様々な教材研究法授業の実践と相互の授業観察をとおし適の習得をめざす</p> <p>・立案した学習指導案による模擬的な授業設計の考え方を理解する。</p> <p>【テーマ】「家庭科教育法Ⅰ」の内容を踏まえた指導案作成及び模擬授業等の演習をとおし、家庭科教育に携わる教育実践力を確実にし、家庭科教師として求められる望ましい資質・能力を身に付ける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>「家庭科教育法Ⅰ」の内容を踏まえ、情報機器等を利用した効果的な指導法の模索を試みる等、教材研究演習や模擬授業による授業実践力の習得を目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：学習指導案の読み合わせと確認</p> <p>第2回：学習指導案による授業展開の実際について 1（板書計画，提供資料，学習形態等）</p> <p>第3回：学習指導案による授業展開の実際について 2（教材研究の方法）</p> <p>第4回：学習指導案による授業展開の実際について 3（実物提示及び視聴覚教材の種類と活用法） （鹿児島県総合教育センター提供の指導資料（教材研究，実践事例等）の収集と活用）</p> <p>第5回：学習指導案による授業展開の実際について 4（パワーポイント等情報活用教材作成の実際）</p> <p>第6回：模擬授業1（指導案と実際の授業展開の検証）</p> <p>第7回：模擬授業2（目標達成度の確認と評価方法）</p> <p>第8回：まとめ</p>			
<p>テキスト：多々納道子・伊藤圭子 編著「実践的指導力をつける家庭科教育法」大学教育出版</p>			
<p>参考書・参考資料等：文部科学省「中学校学習指導要領 技術・家庭編」 文部科学省「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」</p>			
<p>学生に対する評価：筆記試験（50％）と提出物（学習指導案等50％）で評価する。</p>			

授業科目名： 道徳教育指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：田口 康明 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	道徳の理論及び指導法		
授業の到達目標及びテーマ： 【テーマ】現代社会における道徳の意義、学校教育における道徳の目標。学習指導要領に示された道徳教育及び「特別の教科 道徳」の目標に関する理解。「特別の教科 道徳」の特性を踏まえた授業過程の理解（指導案の作成、学習評価規準の設定を含む）の理解。 【到達目標】道徳の役割の理解。学校教育における道徳教育の目標の理解。実際の授業過程の理解と模擬授業の実施とピア評価の実施。			
授業の概要 道徳教育は、憲法、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。これらを授業実践の場に応用できるように、知識・技術の習得に努める。			
授業計画 第1回：人間存在と道徳（道徳とは何か） 第2回：各学校段階の道徳教育の目標と内容 第3回：中学校における道徳教育の指導計画 第4回：「特別の教科 道徳」の指導法①教科の特質の理解 第5回： 同上 ②授業設計における留意事項 第6回： 同上 ③指導案の作成 第7回：模擬授業とピア評価①第1班 第8回：模擬授業とピア評価②第2班			
テキスト： 特に定めない。資料を配付する。			
参考書・参考資料等：中学校学習指導要領／中学校学習指導要領解説「特別の教科 道徳」編 思考力を育む道徳教育の理論と実践 - コールバーグからハーバーマスへ 浅沼茂著 黎明書房			
学生に対する評価：模擬授業の評価（30％）・定期試験（70％）			

授業科目名： 道徳教育の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：田口 康明 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容		
授業の到達目標及びテーマ： 【テーマ】現代社会における道徳の意義、学校教育における道徳の目標。学習指導要領に示された道徳教育及び「特別の教科 道徳」の目標に関する理解。 【到達目標】道徳の役割の理解。学校教育における道徳教育の目標の理解。			
授業の概要 道徳教育は、憲法、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。これらについての理解を深める。			
授業計画 第1回：人間存在と道徳（道徳とは何か） 第2回：道徳教育の歴史①戦前の修身科 第3回： 同上 ①戦後の道徳教育 第4回：小学校と中学校の道徳教育の特質 第5回：幼稚園と高等学校における道徳教育の特質 第6回：小学校学習指導要領の道徳教育の内容・目標 第7回：中学校学習指導要領の道徳教育の内容・目標 第8回：まとめ			
テキスト： 特に定めない。資料を配付する。			
参考書・参考資料等：幼稚園教育要領／小学校学習指導要領／中学校学習指導要領／高等学校学習指導要領 思考力を育む道徳教育の理論と実践 - コールバーグからハーバーマスへ 浅沼茂著 黎明書房			
学生に対する評価：小レポート（30％）・定期試験（70％）			

授業科目名： 総合的な学習の時間 の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：松崎 康弘 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	総合的な学習の時間の指導法		
授業の到達目標及びテーマ 総合的な学習の時間について、その目標や意義を理解するとともに、指導計画の作成及び具体的な指導並びに学習活動の評価に関する基本的な知識・技能を身に付ける。 小・中学校の「総合的な学習の時間」の目標・内容・方法・評価等について実践事例を踏まえて学び、将来の自分の実践を構想する。			
授業の概要 前半（第1日）はテキストの読み込みや事例の提示を通して、総合的な学習の時間の目標・内容・方法・実践事例について紹介する。後半（第2日）は評価の観点も踏まえて指導計画の作成について学び、将来自分が行う実践を考える。			
授業計画 第1回：総合的な学習の時間の目標と意義～カリキュラム・マネジメントを踏まえ～ 第2回：総合的な学習の時間の目標・内容・実践事例（1）（横断的・総合的な課題） 第3回：総合的な学習の時間の目標・内容・実践事例（2）（地域や学校の特色に応じた課題） 第4回：総合的な学習の時間の授業方法～体験活動や思考ツール・ICT活用を事例に～ 第5回：総合的な学習の時間における評価～探究的な学習の過程を踏まえ～ 第6回：総合的な学習の時間の年間指導計画・単元計画の事例 第7回：今後の総合的な学習の時間に求められるもの～「令和の日本型学校教育」等踏まえ～ 第8回：まとめ・最終試験			
テキスト 文部科学省著『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編』（東山書房2019年） 文部科学省著『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編』（東洋館出版社2018年）			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する。 予習：テキスト（特に第2章・第3章を中心に）を読んでおくこと。 復習：第1～4回（集中講義初日）の内容を復習し、自分ならどのような実践を行いたいかが構想すること。			
学生に対する評価：最終試験（70%）、小レポート（30%）			

授業科目名： 特別活動指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：田口 康明 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	特別活動の指導法		
<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <p>【テーマ】学校における特別活動の目標及び主な内容を理解する。特別活動の指導の意義・役割・在り方について理解する。学級活動の特質を理解し、指導案を作成する。生徒会活動、学校行事の特質を理解する。</p> <p>【到達目標】中学校学習指導要領の特別活動の目標及び主な内容を理解。学校教育全体における特別活動の理解。学級活動・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質を理解。学活の指導案の作成。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>特別活動は、望ましい集団生活の中において実施される教育活動である。課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の目的と内容について理解し</p> <p>「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つ特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：特別活動の意義、目標及び内容の理解①学習指導要領の内容等</p> <p>第2回： 同上 ②学校教育全体における位置づけ</p> <p>第3回： 同上 ③学級とその活動</p> <p>第4回： 同上 ④自治的諸活動の意義</p> <p>第5回： 同上 ⑤学校行事と地域社会</p> <p>第6回：特別活動の指導計画①年間計画と地域の関係</p> <p>第7回： 同上 ②学活の指導案</p> <p>第8回：まとめ</p>			
<p>テキスト： 特に定めない。資料を配付する。</p>			
<p>参考書・参考資料等：中学校学習指導要領／中学校学習指導要領解説「特別活動」編／学級・学校文化を創る特別活動 中学校編 文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター著 東京書籍</p>			
<p>学生に対する評価：指導案の作成（30％）・定期試験（70％）</p>			

授業科目名： 特別活動論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：田口 康明 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容		
授業の到達目標及びテーマ： 【テーマ】学校における特別活動の目標及び主な内容を理解する。特別活動の指導の意義・役割・在り方について理解する。学級活動の特質を理解し、食育の指導に関する指導案を作成する。生徒会活動、学校行事の特質を理解する。 【到達目標】中学校学習指導要領の特別活動の目標及び主な内容を理解。学校教育全体における特別活動の理解。学級活動・生徒会活動、クラブ活動、学校行事の特質を理解。学活の指導案の作成。			
授業の概要 特別活動は、望ましい集団生活の中において実施される教育活動である。課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動の目的と内容について理解し 「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つ特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。			
授業計画 第1回：特別活動の意義、目標及び内容の理解①学習指導要領の内容等 第2回： 同上 ②学校教育全体における位置づけ 第3回： 同上 ③学級とその活動 第4回： 同上 ④自治的諸活動の意義 第5回： 同上 ⑤学校行事と地域社会 第6回：特別活動と食に関する指導①食に関する指導と学級活動 第7回： 同上 ②給食の時間の活用 第8回：まとめ			
テキスト： 特に定めない。資料を配付する。			
参考書・参考資料等：小学校学習指導要領／中学校学習指導要領／小学校学習指導要領解説「特別活動」編／文科省HP「栄養教諭を中核としたこれからの学校の食育（平成29年3月）」			
学生に対する評価：小レポート（30％）・定期試験（70％）			

授業科目名： 教育方法学概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：元井 一郎 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ <p>教授理論の史的な展開を把握できる。現在議論されている新たな教授方法の理論的な基礎を説明できる。</p> <p>教育方法（論）に関する史的な展開をふまえ、現代的な教授方法についての理解を深める。</p>			
授業の概要 <p>教育方法史に関する概括的な整理を行い、現代の学校教育において注目されている教育方法の理論的な視角および特徴を確認し、理解する。</p>			
授業計画 <p>第1回 教育方法の史的構成－1 ヨーロッパ近代と教授論の成立</p> <p>第2回 教育方法の史的構成－2 近代社会の展開と新教育運動の成立</p> <p>第3回 教育方法の史的構成－3 現代教授論の展開－教育の現代化を中心に</p> <p>第4回 教育方法の史的構成－4 日本近代と教授法の導入</p> <p>第5回 教育方法の史的構成－5 教授法の受容と変容</p> <p>第6回 教育方法の史的構成－6 現代日本の教授法とその構成</p> <p>第7回 現代教育方法論の特徴(1) 学習理論の発展と教授法の論理</p> <p>第8回 現代教育方法論の特徴(2) 学習理論とその現在</p> <p>第9回 授業研究とその展開 1（授業研究の歴史）</p> <p>第10回 授業研究とその展開 2（授業研究の理論）</p> <p>第11回 授業研究の課題</p> <p>第12回 教育方法論と教育評価</p> <p>第13回 教育方法論と学校改革</p> <p>第14回 教育方法論の論理と構成</p> <p>第15回 教育方法論の現代的課題 講義のまとめ</p>			
テキスト： 特に指定しない。			
参考書・参考資料等：講義中に基本文献等の紹介を行う。 <p style="text-align: center;">：集中講義であるため、手校するプリントの内容は必ず復習すること。</p>			
学生に対する評価： <p>講義テーマ終了ごとの確認テスト（計4回）および授業終了後の提出を求めるレポート課題。</p>			

授業科目名： 学校教育におけるICTの活用	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校教諭）	単位数： 1単位	担当教員名：田口康明 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>【テーマ】 情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。</p> <p>【到達目標】</p> <p>(1) 教員として必要な情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示する技能を身につける。</p> <p>(2) 情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための指導法を理解する。</p>			
授業の概要			
<p>GIGAスクール構想が実現されつつある中、中学校において生徒1人1台端末の環境において、教員としてICT活用・指導力を身につけることが求められている。そこで、現在の推奨されているICT活用の向上に向けて、教員が持つべきとされるICTの教育利用に関する基本的な考え方と基礎技能を形成することを目標に講義や一部、演習を行う。</p>			
授業計画			
<p>第1回：ガイダンス 日本の政策について確認</p> <p>第2回：ICT教育利用に関する基本的な考え方（1）コンピュータとは何か、ネットワークとは何か</p> <p>第3回：ICT教育利用に関する基本的な考え方（2）ICTがもたらす学校と社会の変化</p> <p>第4回：ICT教育利用の基本技能（1）ICTを利用した学習環境のデザイン</p> <p>第5回：ICT教育利用の基本技能（2）電子黒板とデジタル教科書を活用した授業例の検討</p> <p>第6回：ICT教育利用の基本技能（3）電子黒板とデジタル教科書を活用した授業の作成</p> <p>第7回：ICT教育利用の基本技能（4）グループによる模擬授業</p> <p>第8回：ICT教育に利用に関する総括的なグループ討議と試験</p>			
テキスト			
「教育の情報化に関する手引」（令和元年12月・文部科学省）データと紙で配布			
参考書・参考資料等			
授業中に示す			
学生に対する評価			
模擬授業50%、試験50%			

授業科目名： 生徒指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：田中 真理 担当形態：単独
科 目	道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育における生徒指導の意義と原理について理解できる。 ・児童生徒理解の必要性とその方法について理解できる。 ・児童生徒への全体的な指導方法と個別の課題を抱える児童生徒への指導のあり方について理解できる。 <p>【テーマ】</p> <p>学校教育における生徒指導の意義と原理と児童生徒理解のための理論と知識を習得するとともに，組織的な生徒指導を進めるための基礎知識と指導のあり方について学ぶ。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>生徒指導は，学習指導とならぶ，学校教育のなかで教師が行う重要な教育活動のひとつである。本講義では，生徒指導の意義と原理，児童生徒理解，全体への指導，個別の指導といった観点から，生徒指導を進める上で求められる生徒指導に関する基礎知識や技能，児童生徒の不応等に関する問題といった課題解決的な生徒指導について学ぶ。また各テーマに沿った実際の実践例や事例などについてディスカッションしながら，具体的・実践的な生徒指導・教育支援のあり方についても考える。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：生徒指導の定義，教育課程における位置付け</p> <p>第2回：意義と原理① 教科指導や道徳教育，総合的な学習，特別活動などの教育活動における生徒指導の意義と重要性</p> <p>第3回：意義と原理② 集団指導と個別指導に関する方法原理方法原理と生徒指導体制</p> <p>第4回：児童生徒理解① 児童生徒理解のための児童期から青年期の心理的特徴</p> <p>第5回：児童生徒理解② アセスメントの方法論と資料収集の方法</p> <p>第6回：児童生徒理解③ 教師との関係やリーダーシップ，教師期待効果</p> <p>第7回：全体への指導① 生徒指導の組織的取組と教師の役割</p> <p>第8回：全体への指導② 日常的な生徒指導のあり方</p> <p>第9回：全体への指導③ 自己存在感の育成のための活動や取り組み（集団の人間関係作り）</p>			

第10回：全体への指導④ 構成的グループエンカウンターの実論と実際
第11回：個別の指導① 不登校に関する基礎知識と対応
第12回：個別の指導② いじめ、暴力行為に関する基礎知識と対応
第13回：個別の指導③ 生徒指導に関する法制度と非行に関する基礎知識とその処遇
第14回：個別の指導④ インターネットや虐待等の今日的な生徒指導上の課題と
関係機関との連携
第15回：まとめ
定期試験

テキスト

文部科学省『生徒指導提要』教育図書，（最新版）

参考書・参考資料等

安達未来・森田健宏編著『生徒指導・進路指導（よくわかる!教職エクササイズ）』ミネル
ヴァ書房，2020年

小泉令三編著『よくわかる生徒指導・キャリア教育』ミネルヴァ書房，2010年

一丸藤太郎・菅野信夫編著『学校教育相談』ミネルヴァ書房，2002年

学生に対する評価

定期試験（70%）＋小テスト（20%）＋リアクションペーパー（10%）

授業科目名： 進路指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：田口 康明 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分 又は事項等	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ： 【到達目標】進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の堆進やガイダンスとカウンセリングの充実、それに向けた学校内外の組織的体制に必要な知識や素養を身に付ける。 【テーマ】中学校生徒が自ら、将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長するように、教員が組織的・継続的に指導・援助する過程が進路指導であり、さらそれを包含し、,学校で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤を育むことを目的とする教育活動をキャリア教育とよぶ。本講義ではその内容について扱う。			
授業の概要 進路指導・キャリア教育は、学校の教育活動全体を通じた活動であるので、まず教育課程上の位置づけについて理解する。その際、とりわけ特別活動や道徳、総合的な活動の時間との関連について理解する。また職場体験活動について理解を深め、その意義を理解する。そのために必要なカウンセリングのあり方について理解する。			
授業計画 第1回<イントロダクション> 授業計画と基本概念の理解 第2回<進路指導からキャリア教育> キャリア教育の成立過程の概説 第3回<日本における職業指導と進路指導> 戦前・戦後の日本における職業指導・進路指導の歴史 第4回<進路指導改革としてのキャリア教育>1990年代前半の進路指導改革の動き 第5回<学校におけるキャリア教育①>職場体験・インターンシップなど特別活動との関連 第6回<学校におけるキャリア教育②>各教科・道徳教育・総合的な学習の時間との関連 第7回<学校におけるキャリア教育③>教育行政・学校経営との関連 第8回<まとめ>			
テキスト： 特に定めない。資料を配付する。			
参考書・参考資料等： 古橋和夫編『改訂教職入門』萌文書林／中学校学習指導要領／中学校キャリア教育の手引き（2011） 文部科学省			
学生に対する評価：小レポート（30％）・定期試験（70％）			

授業科目名： 教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：田中 真理 担当形態：単独
科 目	道徳，総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導，教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ			
<p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育相談を实践するうえで必要となる知識を習得する。 ・生徒の問題に応じた援助のあり方を実践的に理解する。 <p>【テーマ】教育相談に関する知識や技術について実践的に学ぶ。</p>			
授業の概要			
<p>学校現場での教育相談とは，児童生徒それぞれの発達に即して好ましい人間関係を育て，生活によく適応させ，自己理解を深めさせ，人格の成長への援助を図る教育実践である。教育相談を進めるには，児童生徒の発達状況や個別的な課題を理解した上で，個々に応じた支援が求められる。本講義では，教育相談の意義と発達臨床心理学的な理論の理解，カウンセリングマインドを基礎とする実践的な教育相談の進め方や取り組みについて学ぶ。さらに事例を通じた学習による実践的な支援のあり方について考える。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション，教育相談と生徒指導との関連性			
第2回：意義と理論① 教育相談の意義と教育相談体制			
第3回：意義と理論② 教育相談とカウンセリングとの関係			
第4回：方法① 児童生徒の「問題」理解とその背景要因			
第5回：方法② 児童生徒からのサインの理解とアセスメントの視点と方法論			
第6回：方法③ 教師に求められるカウンセリングマインドの必要性			
第7回：方法④ カウンセリングの理論と技法			
第8回：方法⑤ ロールプレイによる実習			
第9回：展開① 児童生徒や保護者に対する教育相談の進め方			
第10回：展開② 開発的・予防的教育相談の方法			
第11回：展開③ 不登校への理解と対応			
第12回：展開④ いじめへの理解と対応			
第13回：展開⑤ 非行や虐待等への理解と対応			
第14回：展開⑤ 教育相談での課題に応じた関係機関との連携			

第15回：まとめ

定期試験

テキスト

文部科学省『生徒指導提要』教育図書，2010年

参考書・参考資料等

森田健宏・田瓜宏二他編著『教育相談（よくわかる!教職エクササイズ）』ミネルヴァ書房，2018年

河村茂雄編著『教育相談の理論と実際』図書文化社 2012年

一丸藤太郎・菅野信夫『学校教育相談』ミネルヴァ書房，2002年

学生に対する評価

定期試験（70%）＋レポート課題（20%）＋リアクションペーパー（10%）

授業科目	教育実習（事前・事後指導を含む。）	担当者	田口 康明
		授業外対応	田口へメール
	〔履修年次〕 2年 〔学期〕 前期 〔単位〕 5 〔必修/選択〕 必修 〔授業形態〕 実習・講義		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】 中学校における教育実習</p> <p>【概要】 教育実習は、教員免許状を取得するための必修科目であり、単なる体験ではなく、大学における教職科目や専門科目の知識・理論などの学習を学校現場で適用、実践研究する「実習」である。大学（短大）において積み重ねてきた教職のための学習は、「目の前」に生徒のいない学習であったが、実習期間中は生徒との「応答」関係の中での学習である。とりわけ思春期にある「中学生」や、先達である教職員の先生方との交流が基盤となる。とりあえず教員の資格を持ちたい、という安易な気持ちで教育現場での実習に臨むことは許されない。教員を目指す強い意志と実習生としての立場をわきまえた謙虚さ、教育への愛着、生徒たちとの相互理解があつてこそ、はじめて教育実習生として受け入れられ存在が認知される。この授業では、教育実習のために必要な心構えやスキルを中心に学習し、実習に臨み、実習後は、実習体験から得られた多くの事柄を定着させ、社会人としてのあるべき姿を省察するような活動を行う。</p> <p>【到達目標】 事前において教育実習に必要な知識・技能を習得し、実際に教育実習を行い、事後においては、実習において習得した知識技能を定着させる。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	<p>(1) 視聴覚教材（模擬授業の映像など）やプリントを適宜用いる。</p> <p>(2) 学習指導案資料など適宜紹介する。</p>		
授業スケジュール	<p>事前・事後指導：ワークショップ形式を中心とし、適宜講義を加える。</p> <p>第1回 教育実習ガイダンス。授業を創ることと学習指導案との関連性</p> <p>第2回 教室における教師のふるまい。授業展開の実際例を学ぶ。</p> <p>第3回 模擬授業（1）</p> <p>第4回 模擬授業（2）</p> <p>第5回 模擬授業（3）</p> <p>第6回 教育実習に関わる実務について</p> <p>第7回 教育実習の反省と総括、採用試験に向けて</p> <p>教育実習：中学校という教育現場の協力を得て3週間の実習活動を行う。</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	実習先の評価、実習日誌、事前事後の提出物等のポートフォリオ的な評価を行う。加えて授業への参加態度によって総合的に評価する。科目の性質上、遅刻、欠席は原則として一切認めない。		

授業科目	栄養教育実習	担当者	中西 智美
	[履修年次] 2年 [学期] 前期集中 [単位] 1	授業外対応	適宜対応 (要予約)
		[必修/選択] 必修	[授業形態] 実習
テーマ及び概要	<p>【テーマ】栄養教育実習の目的の達成をより確かなものにする。</p> <p>【概要】栄養に係る教育に関して得た知識を、単なる知識として終わらせるのではなく、指導の場に臨んで生かせる技術を習得する。</p> <p>【到達目標】教育実習に参加する基本的な心構えや技能及び実習後の反省と総括、今後に向けての展望を持つことをねらいとする。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント冊子『栄養教育実習ノート』</p> <p>(2) 文部科学省 : 小学生用食育教材『たのしい食事つながる食育』(平成28年2月) 文部科学省 『食に関する指導の手引き—第二次改訂版—』(平成31年3月)</p>		
授業スケジュール	<p>*各施設により異なる</p> <p>1 指導教諭等からの説明 ・ 学校経営, 校務分掌の理解, 服務等</p> <p>2 児童及び生徒への個別的相談, 指導の実習 ・ 指導, 相談の場の参観, 補助等</p> <p>3 児童及び生徒への教科・特別活動等における指導の実習 ・ 学級活動及び給食の時間における指導の参観, 補助 ・ 教科等における教科担任等と連携した指導の参観, 補助 ・ 給食放送指導, 配膳指導, 後片付け指導の参観, 補助 ・ 児童生徒会, 委員会活動, クラブ活動における指導の参観, 補助 ・ 指導計画案, 指導案の立案作成, 教材研究等</p> <p>食に関する指導の連携・調整の実習 ・ 校内における連携・調整(学級担任, 研究授業の企画立案, 校内研修等)の参観, 補助</p> <p>4 ・ 家庭・地域との連携・調整の参観, 補助等</p> <p>5 食に関する指導と学校給食の管理を一体的に担う方法</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	実習先評価(60%) + 実習ノート・実習への取組態度(40%)により評価する。		
実務経験について	学校・給食センター・特別支援学校・行政等に学校栄養職員, 栄養教諭として勤務。管理栄養士。		

授業科目	栄養教育実習の事前事後の指導	担当者	中西 智美
	[履修年次] 2年 [学期] 前期 [単位] 1	授業外対応	適宜対応 (要予約)
		[必修/選択] 必修	[授業形態] 講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】栄養教育実習の目的の達成をより確かなものにする。</p> <p>【概要】栄養に係る教育に関して得た知識を、単なる知識として終わらせるのではなく、指導の場に臨んで生かせる技術を習得するために、栄養教育実習の教育的効果を高め実践的指導力の充実を図ることを目的とし、実習の事前事後の指導を行う。</p> <p>【到達目標】教育実習に参加する基本的な心構えや技能及び実習後の反省と総括、今後に向けての展望を持つことをねらいとする。</p>		
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリント冊子『栄養教育実習ノート』</p> <p>(2) 文部科学省 : 小学生用食育教材『たのしい食事つながる食育』(平成28年2月) 文部科学省 『食に関する指導の手引き—第二次改訂版—』(平成31年3月)</p>		
授業スケジュール	<p>第1回 栄養教育実習のオリエンテーション(意義, 目的, 心構えなど)</p> <p>第2回 実習の評価の方法, 実習後の提出物(実習ノート, 学習指導案など), 実習中の短大との連絡方法等</p> <p>第3回 指導計画案, 学習指導案の立案作成, 教材研究</p> <p>第4回 模擬授業の実施(1)</p> <p>第5回 模擬授業の実施(2)</p> <p>第6回 栄養教育実習の報告・発表(1) 栄養教育実習の意義の理解と自己の課題の明確化</p> <p>第7回 栄養教育実習の報告・発表(2) 栄養教育実習の意義の理解と自己の課題の明確化</p> <p>第8回 相互評価, 実習の反省, 問題点の整理, 今後の課題</p>		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示		
成績評価の方法	発表・提出物(80%) + 取組態度(20%)により評価する。 事前事後指導の完全参加が基礎条件となる。		
実務経験について	学校・給食センター・特別支援学校・行政等に学校栄養職員, 栄養教諭として勤務。管理栄養士。		

※ 7.5回

授業科目	教職実践演習(中)	担当者	田口康明, 未定, 竹本寛秋, 石井英里子, 坂上ちえ子
		授業外対応	田口へメール
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】：教職課程の授業科目の履修や、介護等体験など教職課程以外の活動を通じて身につけてきた能力を、教師になるために必要な資質能力として、有機的に統合し定着させる。</p> <p>【到達目標】：①教育に対する使命感や職責を果たす強い意志を持ち、常に子どもから学び共に成長しようとする姿勢が身についている。②教員としての職責や義務の自覚に基づいた適切な言動をとり、他の教職員や地域の人々と良好な人間関係を築くことができる。③子どもの発達や心身の状況に応じて、抱える課題を理解し、規律ある学級経営を適切に行うことができる。④学習指導の基本事項を身に付けており、子どもの状況に応じて、授業計画や学習形態等を工夫することができる。</p> <p>【概要】：短大の2年間で学んだ教職に関する知識と、教育実習などで獲得した教科指導や生徒指導などの実践体験を統合する。その際、教師として重要である人格的な基盤に根ざした実践力を有することの大切さを自覚するとともに、社会性や対人関係能力、幼児児童生徒理解や学級経営力、教科内容の指導力をこれまでの学修と統合し、教員として必要な資質能力を保持できるように、知識や技能等を補い、その定着を図る。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1)視聴覚教材(模擬授業の映像など)やプリントを適宜用いる。 (2)学習指導案資料など適宜紹介する。		
授業スケジュール	授業計画 第1回:[ガイダンス]プログラムの説明、資料の配布、課題の提示、各授業の到達目標の提示、学習計画の提示・説明、履修カルテの活用の説明を行う。 第2回:[イントロダクション]2年前期までの学修を振り返り、グループ討論、履修カルテを使った自己評価活動を行う。 第3回:[ロールプレイ(1)] 第4回:[ロールプレイ(2)] 教職の意義や教員の役割についてのグループ討論を行う。第5回:[グループ討論(1)]生活習慣の変化を踏まえた生徒指導、特別支援教育の基本理念について、グループ討論を行う。 第6回:[教育委員会から講師を招いての講演] 教育現場で求められている、子どもの特性や心身の状況を把握した学級経営の基礎などについて学ぶ。ただしこの回の時期は未定。 第7回:[振り返り]講演についてのグループ討論、これまでの学修に関する小レポートの作成、履修カルテを活用した教員との面談を行う。 第8回:[グループ討論(2)]居場所づくりを意識した生徒理解、多様化に応じた学級づくりについて、グループ討論を行う。 第9回:[学校見学](11月中旬を予定。ただし、この回のみ見学対象校の都合により異なる時期の開催となる場合もある。)教科指導の実際・学校経営の実際を学ぶ。 第10回:[グループ討論(3)]学校見学についての省察 第11回:[模擬授業(1)] 教科に関する科目担当教員による指導の下、教科に関する実践的な指導力を身につける(例:文部科学省『中学校学習指導要領』等を活用する)。 第12回:[模擬授業(2)] 教科及び総合的な学習の時間に関する実践的な指導力を身につける(例:文部科学省『中学校学習指導要領』等を活用する)。 第13回:[模擬授業(3)] 道徳及び特別活動に関する実践的な指導力を身につける(例:文部科学省『中学校学習指導要領』等を活用する)。 第14回:[人権学習] 「人権教育」に関する講演会(県人権同和对策課派遣講師) 第15回:[レポートの作成と発表] テーマ「これからの教師に求められること」を発表する		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	授業に関するミニ・レポート、ファイナル・レポートによって評価する。		

授業科目	教職実践演習（栄養教諭）	担当者	田口 康明・未定・中西 智美
		授業外対応	田口へメール
	[履修年次] 2年 [学期] 後期 [単位] 2 [必修/選択] 必修 [授業形態] 演習		
テーマ及び概要	<p>【テーマ】：教職課程の授業科目の履修や、栄養士養成課程の授業科目の履修など教職課程以外の活動を通じて身につけてきた能力を、栄養教諭となるために必要な資質能力として、有機的に統合し定着させる。</p> <p>【到達目標】：①教育に対する使命感や職責を果たす強い意志を持ち、常に子どもから学び共に成長しようとする姿勢が身についている。②教員としての職責や義務の自覚に基づいた適切な言動をとり、他の教職員や地域の人々と良好な人間関係を築くことができる。③子どもの発達や心身の状況に応じて、抱える課題を理解し、学級の状態に応じて給食の管理及び食育の指導を適切に行うことができる。④食育の指導の基本事項を身に付けて、児童生徒の状況に応じて、学習活動、体験活動等を工夫することができる。</p> <p>【概要】 教員として必要な資質能力を保持できるように、知識や技能等を捕い、その定着を図る。すべての回について、教職課程の栄養教育実習担当専任教員と教職課程専任教員が中心になって行う。ただし、第11回と第14回は学校栄養教育論の担当教員が中心となって行う。</p>		
(1) テキスト (2) 参考文献	(1) 文部科学省（2008）『中学校学習指導要領』、文部科学省（2007）『食に関する指導の手引』（いずれも東山書房） (2) 適宜紹介する。		
授業スケジュール	授業計画 第1回：[ガイダンス]プログラムの説明、資料の配布、課題の提示、各授業の到達目標の提示、学習計画の提示・説明。 第2回：[イントロダクション]2年前期までの学修を振り返り、グループ討論、履修カルテを使った自己評価活動を行う。 第3回：[ロールプレイ(1)]教職の意義や教員の役割についてのグループ討論を行う。特に、場面に応じた教師としての話し方を身につける。 第4回：[ロールプレイ(2)] 教職の意義や教員の役割についてのグループ討論を行う。特に、日常的に発生する学級内の問題への対処方法を身につける。 第5回：[グループ討論(1)]生活習慣の変化を踏まえた生徒指導、特別支援教育の基本理念について、グループ討論を行う。 第6回：[教育委員会から講師を招いての講演] 教育現場で求められている子どもの特性や心身の状況を把握した学級経営の基礎、生活習慣の変化を踏まえた生徒理解について学ぶ。ただし、時期は未定。 第7回：[振り返り]講演についてのグループ討論、これまでの学修に関する小レポートの作成、履修カルテを活用した教員との面談を行う。 第8回：[グループ討論(2)]居場所づくりを意識した生徒理解、多様化に応じた学級づくりについて、グループ討論を行う。 第9回：[学校見学]（学校経営・給食の管理・食育の指導の実際を学ぶ。 第10回：[グループ討論(3)]学校見学についての省察を行う。 第11回：[模擬授業(1)]教室の場面を想定した実践的な指導力を身につける。 第12回：[模擬授業(2)] 食育の指導及び総合的な学習の時間の実践的な指導について。 第13回：[模擬授業(3)] 道徳及び特別活動に関する実践的な指導力を身につける。 第14回：[人権学習] 「人権教育」に関する講演会（県人権同和对策課派遣講師） 第15回：[レポートの作成と発表] テーマ「これからの栄養教諭に求められること」		
授業外学習(予習・復習)	適宜指示する		
成績評価の方法	授業に関するミニ・レポート、ファイナル・レポートによって評価する。		

20 司書教諭に関する科目

授業科目	学校経営と学校図書館		担当者	岩下 雅子
	[履修年次]	1年	授業外対応	メールによる
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	必修
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】従来の学校図書館から、さらに変化し続ける“新しい学校図書館”について理解する</p> <p>【概要】学校図書館はいつ頃、どのような歴史を経て現在の学校図書館へと移り変わってきたのだろう。現在の学校図書館が公共図書館、公共施設、地域と積極的に相互協力・連携するようになったのはなぜだろう。多くの学校図書館の運営事例を校種別に学ぶと同時に、今後の学校図書館の可能性についてもさまざまな角度から考察します。</p> <p>【到達目標】学校経営の中の学校図書館の位置づけを理解し、司書教諭の果たす役割を学ぶ</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2)			
授業スケジュール	<p>第 1 回 学校図書館の理念と教育的意義について学ぶ</p> <p>第 2 回 学校図書館法（学校図書館法と読書に関する法律について知識を深める）</p> <p>第 3 回 世界・日本の学校図書館史（ルソー、マン、デューイ、沢柳政太郎と図書館、読書の関わりについて学ぶ）</p> <p>第 4 回 鹿児島県の読書運動（「母と子の20分間運動」と樟島十について学ぶ）</p> <p>第 5 回 学校経営の中の学校図書館（校務分掌及び司書教諭、学校司書、教職員との連携、共通理解について学ぶ）</p> <p>第 6 回 学校経営の中の学校図書館（学校組織における学校図書館、館長としての校長、学校内外の協力体制づくり）</p> <p>第 7 回 学校図書館の運営①小学校の事例を中心に学ぶ</p> <p>第 8 回 学校図書館の運営②中学校の事例を中心に学ぶ</p> <p>第 9 回 学校図書館の運営③高等学校の事例を中心に学ぶ</p> <p>第 10 回 読書感想文の取組みについてグループで考察する</p> <p>第 11 回 読書感想画についてグループで考察する</p> <p>第 12 回 特別支援教育と学校図書館についてグループ学習を通して理解する</p> <p>第 13 回 学校図書館広報活動（広報活動、読書手法等について学ぶ）</p> <p>第 14 回 映画「やさしい本泥棒」を通して読書が人間に果たす役割・意義について学ぶ（1）</p> <p>第 15 回 映画「やさしい本泥棒」を通して読書人間にもたらす役割・意義について学ぶ（2）</p>			
授業外学習(予習・復習)	事前に配布された資料は読んでくること			
成績評価の方法	筆記試験（60%）授業ごとに実施するレポート（30%）発表（10%）			
実務経験について	高等学校及び短期大学図書館司書（専門員）として37年間勤務			

授業科目	学習指導と学校図書館		担当者	岩下 雅子
	[履修年次]	1・2年	授業外対応	メールによる
	[学期]	後期	[単位]	2
			[必修/選択]	必修
			[授業形態]	講義
テーマ及び概要	<p>【テーマ】学校図書館法(この法律の目的)第二条の「授業の展開に寄与する」とはどういうことだろう。学校図書館を担う司書教諭と学校司書が協働しながら支援する学校図書館の授業支援についてグループ討議を通して学びを深める。</p> <p>【概要】常にアクティブラーニングを理解しながら授業を進める。多くの学校図書館が取り組んでいる様々な授業支援のための図書館活用例を参考に、学校図書館と授業（教科指導）にとどまらず「読書センター」「学習センター」「情報センター」の大きな流れの中の学校図書館を理解する。司書教諭としての職責や職務内容についての理解を深めるとともに学校図書館と全教科の授業支援の具体的な事例(全国)を参考に、学校司書との協働についてもグループ等で討議する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>学習指導（授業支援）と学校図書館をうまくコーディネートするために、司書教諭が果たす役割を理解する。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	(1) プリント (2) 林容子『総合的な学習』に司書教諭はどう関わるか』全国SLA 2005年 三上久代『学校図書館における新聞の活用』全国SLA2006年 稲井達也『資質・能力を育てる学校図書館活用デザイン』学事出版 2017年			
授業スケジュール	<p>第 1 回 学校図書館利用指導（学校図書館オリエンテーションについてグループで討議する）</p> <p>第 2 回 小学校の図書館教育①（国語の教科書では図書館利用、読書指導がどのように体系化されているか考察する）</p> <p>第 3 回 小学校の図書館教育②（学習指導要領を踏まえて図書館利用とメディア活用についてグループで討議する）</p> <p>第 4 回 中学校の図書館教育①（国語の教科書では図書館利用、読書指導がどのように体系化されているか考察する）</p> <p>第 5 回 中学校の図書館教育②（学習指導要領を踏まえて図書館利用とメディア活用についてグループで討議する）</p> <p>第 6 回 高校の図書館教育①（図書館の授業支援事例を参考に、読書手法を用いた授業支援について考察する）</p> <p>第 7 回 レファレンス等の情報サービスについてグループで事例研究し発表することでスキルを培う）</p> <p>第 8 回 教科学習に活用する学校図書館①（グループで教科に関連したブックトークを構築する）</p> <p>第 9 回 教科学習に活用する学校図書館②（グループで構築したブックトークを発表する）</p> <p>第 10 回 教科学習に活用する学校図書館③（ブックトークで取り上げた図書を参考にパスファインダーを作成する）</p> <p>第 11 回 教科学習に活用する学校図書館④（パスファインダーの発表を通してスキルアップに繋げる(1)）</p> <p>第 12 回 教科学習に活用する学校図書館⑤（パスファインダーの発表を通してスキルアップに繋げる(2)）</p> <p>第 13 回 教科学習に活用する学校図書館⑥（新聞を活用した授業（NIE）をグループで構築する）</p> <p>第 14 回 教科学習に活用する学校図書館⑦（新聞を活用した授業（NIE）のグループ発表を通して、学びを深める）</p> <p>第 15 回 授業の連携を通してこれからの司書教諭の役割・課題・展望についてグループで討議する。</p>			
授業外学習(予習・復習)	適宜指示、事前に配布された資料は読んでくること			
成績評価の方法	筆記試験（60%）授業ごとに実施するレポート（30%）発表（10%）			
実務経験について	高等学校及び短期大学図書館司書（専門員）として37年間勤務			

授業科目	読書と豊かな人間性		担当者	木戸裕子
	〔履修年次〕	2年	授業外対応	オフィスアワーに準じる
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	講義形式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】本と図書館に関する現状を学び、読書が子どもの成長にもたらすものについて考える。</p> <p>【概要】子どもにとって読書とは、広い世界への興味や想像力をはぐくむために大切なものである。この授業では、本と図書館に関する話題や、読書活動の方法を通して、読書が私たちにもたらす豊かな世界を考えていく。授業では、実際に図書館や書店を訪問したり、読みきかせ、ブックトークなどの子どもの読書の手助けとなる方法を実際に体験したりする。</p> <p>【到達目標】読書と心の豊かさの関連について考えることができる。児童生徒の読書活動に対する学校図書館の役割を理解する。様々な読書活動（読み聞かせ、ブックトークなど）の方法を知る。自分の読書活動について振り返る。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) 立田 慶裕編著『読書教育の方法―学校図書館の活用に向けて―』学文社</p> <p>(2) 「読むチカラ」プロジェクト編「鍛えよう！読むチカラ学校図書館で育てる25の方法」明治書院、小林功「楽しい読み聞かせ 改訂版」全国学校図書館協議会、渡部康夫「読む力を育てる読書のアニメーション」全国学校図書館協議会、</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 読書教育とは何か：発達に応じた読書</p> <p>第2回 読書教育の担い手：学校図書館を支える人々</p> <p>第3回 学校図書館の歴史：制度としての学校図書館</p> <p>第4回 読書教育のための学校環境：学校における読書環境、地域との連携</p> <p>第5回 読書教育の方法1：就学前・学校全体</p> <p>第6回 読書教育の方法2：教科と読書教育</p> <p>第7回 小学校の読書：物語を楽しみ、言葉をはぐくむ</p> <p>第8回 中学校・高校の読書教育：言語教育と科学的探究の融合</p> <p>第9回 公共図書館の児童室と学校図書館：グループワークとディスカッション</p> <p>第10回 発達を支える読書：特別支援教育との関係</p> <p>第11回 読書活動1：読書案内、ブックトーク、ブックリスト</p> <p>第12回 読書活動2：読み聞かせ、読みあい、ストーリーテリング</p> <p>第13回 読書活動3：パネルシアター、紙芝居</p> <p>第14回 実演1：ブックトーク、読み聞かせ、読みあいなど</p> <p>第15回 実演2：ブックトーク、読み聞かせ、読みあいなど</p>			
授業外学習(予習・復習)	積極的に読書活動に取り組み、読書記録を取るようにする。			
成績評価の方法	課題提出(50%)と、授業第14回、15回での実演(50%)			
実務経験について	なし			

授業科目	情報メディアの活用		担当者	竹本 寛秋
	〔履修年次〕	2	授業外対応	適宜対応(要予約)
	〔学期〕	後期	〔単位〕	2
			〔必修/選択〕	選択
			〔授業形態〕	講義方式
テーマ及び概要	<p>【テーマ】</p> <p>高度情報化社会である現代における多様な情報メディアの特性を学び、学校図書館での活用方法について考える。</p> <p>【概要】</p> <p>テクノロジーの発展により高度情報化した現代において、情報と人々の関係は急速に変化している。新たな情報環境を積極的に活用していくことが学校図書館には常に求められており、その中で、司書教諭は多様なメディアについて理解し、活用する能力を持つことが期待される。授業においては、情報化社会と人間の関係について基礎的な理解に基づき、様々なメディアの特性を知って、効果的に活用する方法を学ぶ。またデジタル社会における著作権について学ぶ。</p> <p>【到達目標】</p> <p>現代社会の多様な情報メディアの特性について理解し、説明できる。</p> <p>学校図書館における情報メディアを活用した教育や応用の手法について理解し、説明できる。</p>			
(1)テキスト (2)参考文献	<p>(1) プリントを配布する。</p> <p>(2) なし</p>			
授業スケジュール	<p>第1回 高度情報化社会と人間：情報化社会と司書教諭の役割</p> <p>第2回 情報メディアの歴史の変遷</p> <p>第3回 学校教育と情報メディア</p> <p>第4回 情報メディアの種類と特性</p> <p>第5回 情報メディアの選択：状況に応じた選択の必要と留意点</p> <p>第6回 視聴覚メディアの活用</p> <p>第7回 情報メディアの活用1：コンピュータの活用と運用</p> <p>第8回 教育メディアの活用2：教育用ソフトウェアの活用</p> <p>第9回 情報メディアの活用3：データベースと情報検索</p> <p>第10回 情報メディアの活用4：インターネットと情報検索</p> <p>第11回 情報メディアの活用5：インターネットによる情報発信</p> <p>第12回 情報セキュリティ</p> <p>第13回 ネットワーク環境と学校教育</p> <p>第14回 学校図書館メディアと著作権</p> <p>第15回 まとめ：情報メディア活用の課題と将来</p>			
授業外学習(予習・復習)	教科書の精読、授業で課す課題の調査など。			
成績評価の方法	授業での課題(30%)、期末試験(70%)			
実務経験について	高等学校、高等専門学校に教員として勤務			